

高齢者の暮らしと介護についての アンケート調査報告書

令和2年3月
高松市



目次

第1章 調査概要

1. 調査目的.....	1
2. 調査設計	1
3. 報告書の見方	2
4. 評価項目の判定について.....	2

第2章 調査結果 高齢者(65歳以上)

1. 回答者の属性.....	3
2. 家族や生活状況について.....	6
3. からだを動かすことについて	12
4. 食べることについて.....	23
5. 毎日の生活について	33
6. 地域での活動について	44
7. 「たすけあい」について	52
8. 健康について.....	59
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	64
10. 介護保険サービスについて	65
11. 高齢者に必要な生活支援について	71
12. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて.....	78
13. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて.....	89
14. 自分の健康について	96
15. 一般介護予防事業について	99
16. 高齢者の保健福祉について	108

第3章 調査結果 要介護認定者(65歳以上)

1. 回答者の属性.....	123
2. 家族や生活状況について.....	126
3. 介護保険サービスについて	132
4. からだを動かすことについて	138
5. 食べることについて.....	146
6. 毎日の生活について	153
7. 地域での活動について	165
8. 「たすけあい」について	170
9. 健康について.....	175
10. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて.....	180
11. 高齢者に必要な生活支援について	186

12. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて	187
13. 高齢者の保健福祉について	194
第4章 調査結果 一般市民(40 歳以上 65 歳未満)	
1. 回答者の属性.....	207
2. 家族や生活状況について.....	210
3. 介護保険サービスについて	214
4. 地域での活動について	220
5. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて.....	227
6. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて.....	232
7. 健康づくりについて	239
8. 一般介護予防事業について	242
9. 高齢者の保健福祉について	250
第5章 資料 自由意見集	
1. 自由意見 高齢者 65歳以上	263
2. 自由意見 要介護認定者 65歳以上	267
3. 自由意見 一般市民 40歳以上65歳未満.....	271
第6章 資料 判定結果	
1. 評価項目別の判定結果	275
(1)運動器の機能低下.....	276
(2)転倒リスク.....	278
(3)閉じこもり傾向.....	280
(4)低栄養の傾向	282
(5)口腔機能の低下.....	284
(6)認知機能の低下.....	286
(7)うつ傾向	288
(8)IADL－手段的日常生活動作	291
(9)社会参加－知的能動性.....	293
(10)社会参加－社会的役割.....	295

第1章 調査概要

1. 調査目的

令和3年度から5年度までを計画期間とする「第8期高松市高齢者保健福祉計画」の策定における基礎調査として実施しました。

2. 調査設計

(1) 調査対象

調査種別	調査対象者	標本数
高齢者	65歳以上の高齢者の方 (要介護1～5の認定者を除く)	3,000人
要介護認定者	65歳以上の高齢者のうち、 要介護1～5の認定者の方	2,800人
一般市民	40歳以上65歳未満の方	1,000人
合計		6,800人

(2) 調査方法

すべての調査対象者に、郵送によるアンケートの配付・回収を行いました。

(3) 回収数

調査種別	有効回収数	有効回収率
高齢者	1,933件	64.4%
要介護認定者	1,375件	49.1%
一般市民	449件	44.9%
合計	3,757件	55.3%

(4) 調査の期間

令和元年12月2日～令和元年12月27日

※ ただし、令和2年1月7日までに回収された調査票を有効回収票として扱い、集計・分析を行いました。

3. 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率は、すべてを 100%として百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が 100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は、調査数を上回ることがあります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) 市民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況等を総合的に勘案し、本市では下記のとおり、19の日常生活圏域を設定しています。

日常生活圏域	地 区
① 中央西	日新、二番丁、亀阜、四番丁
② 中央東	新塩屋町、築地、花園、松島、栗林、女木、男木
③ 鶴尾	鶴尾
④ 太田	太田、太田南
⑤ 一宮	一宮
⑥ 香東	川岡、円座、檀紙
⑦ 木太	木太
⑧ 古高松	古高松
⑨ 屋島	屋島
⑩ 協和	前田、川添、林

日常生活圏域	地 区
⑪ 龍雲	三谷、仏生山、多肥
⑫ 山田	川島、十河、西植田、東植田
⑬ 勝賀 下笠居	香西、弦打、鬼無、下笠居
⑭ 塩江	塩江
⑮ 香川	香川
⑯ 香南	香南
⑰ 牟礼	牟礼
⑱ 庵治	庵治
⑲ 国分寺	国分寺

4. 評価項目の判定について

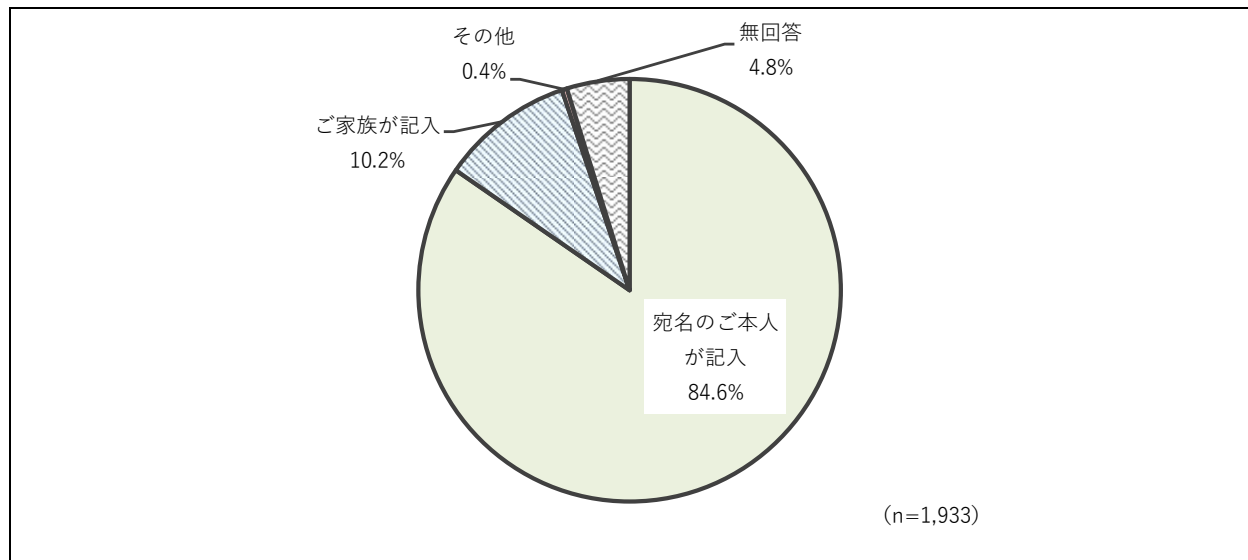
評価項目別の判定結果については、国が作成した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き及び老研式活動能力指標に基づき集計したものであり、特定の項目に回答していることが必須条件となるため、回収数よりも有効回収数が、若干、少なくなっています。

第2章 調査結果 高齢者(65歳以上)

1. 回答者の属性

(1) 調査票を記入した方

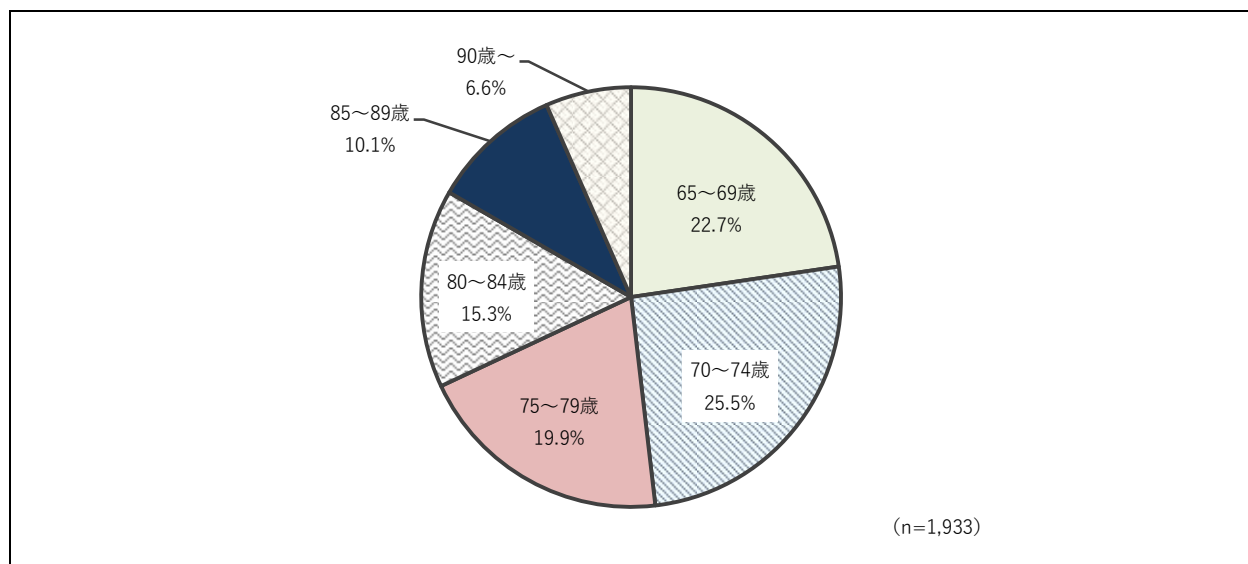
図表 1 調査票記入者(全体)



●調査票の記入者をたずねたところ、「宛名のご本人が記入」と回答した人の割合は 84.6%となっています。一方、「ご家族が記入」と回答した人の割合は 10.2%となっています。

(2) 年齢

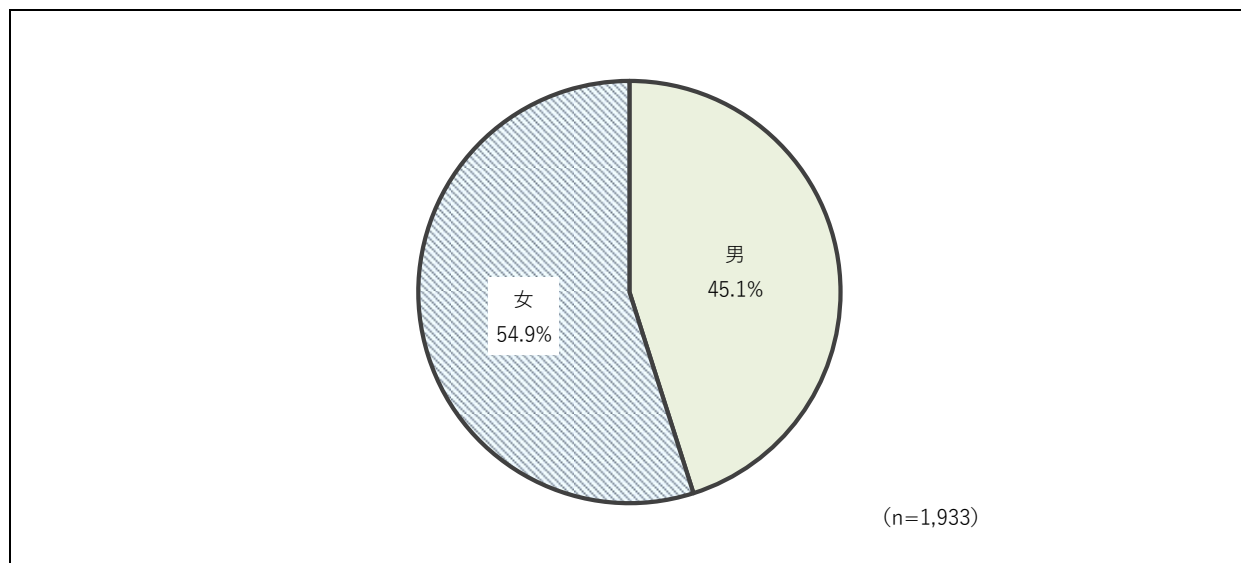
図表 2 年齢(全体)



●年齢をたずねたところ、「70～74 歳」と回答した人の割合が最も高く、25.5%となっています。次いで、「65～69 歳」(22.7%)、「75～79 歳」(19.9%)と続いています。

(3) 性別

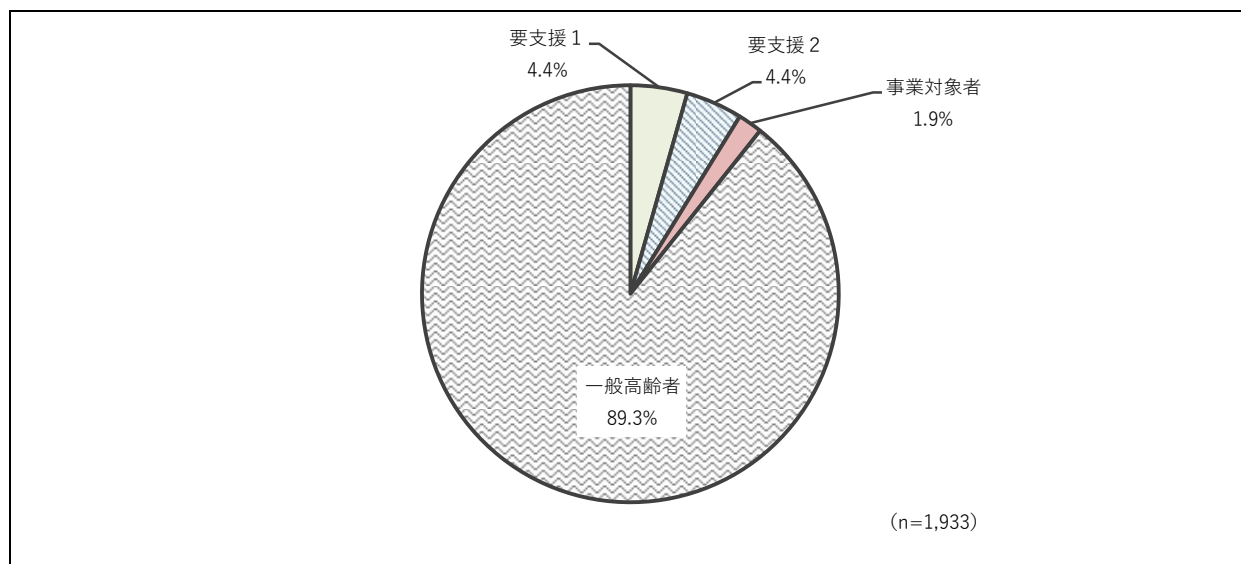
図表 3 性別(全体)



●性別をたずねたところ、「男」と回答した人の割合は 45.1%となっています。一方、「女」と回答した人の割合は 54.9%となり、女性が 9.8 ポイント上回っています。

(4) 認定状況

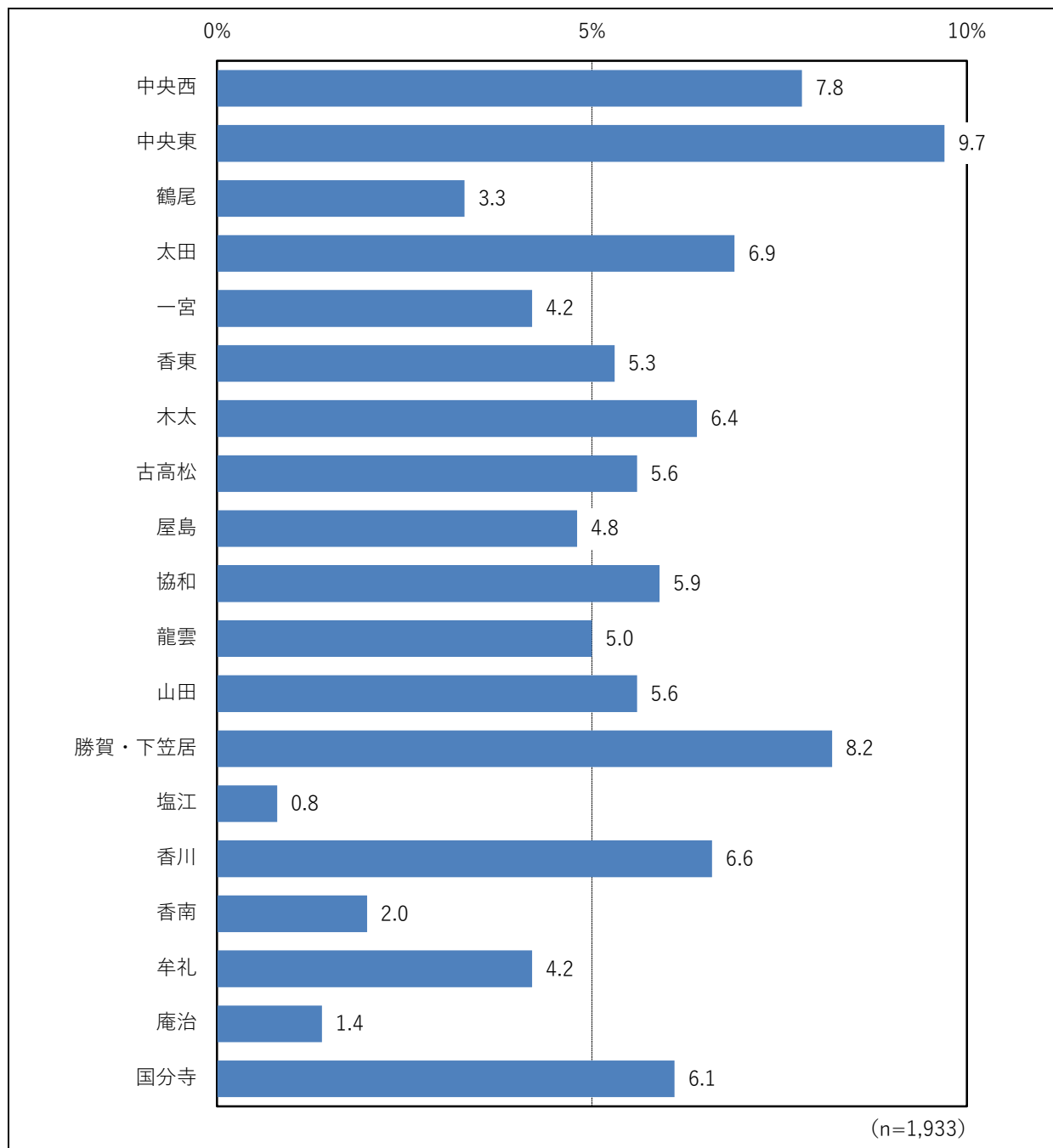
図表 4 認定状況(全体)



●要支援認定状況等をたずねたところ、「要支援 1」、「要支援 2」と回答した人はそれぞれ 4.4%、「事業対象者」と回答した人は 1.9%となっています。

(5)日常生活圏域

図表 5 日常生活圏域(全体)



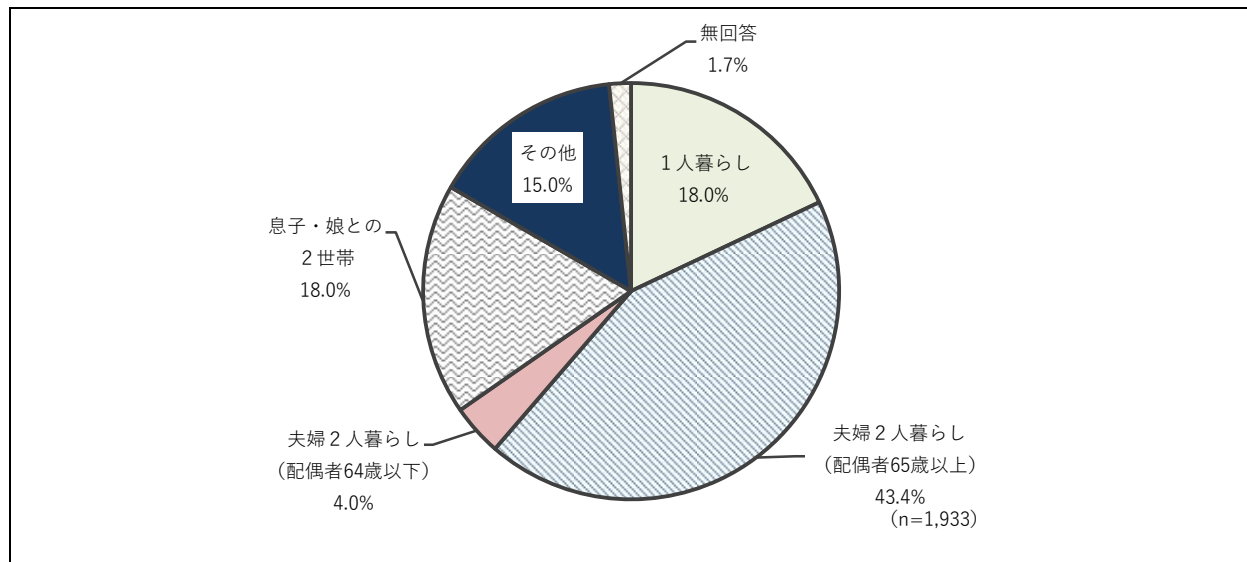
●お住まいの地域(日常生活圏域)をたずねたところ、「中央東」と回答した人の割合が最も高く、9.7%となっています。次いで、「勝賀・下笠居」(8.2%)、「中央西」(7.8%)と続いています。

2. 家族や生活状況について

(1) 家族構成について

問1 家族構成をお教えてください。【○は1つ】

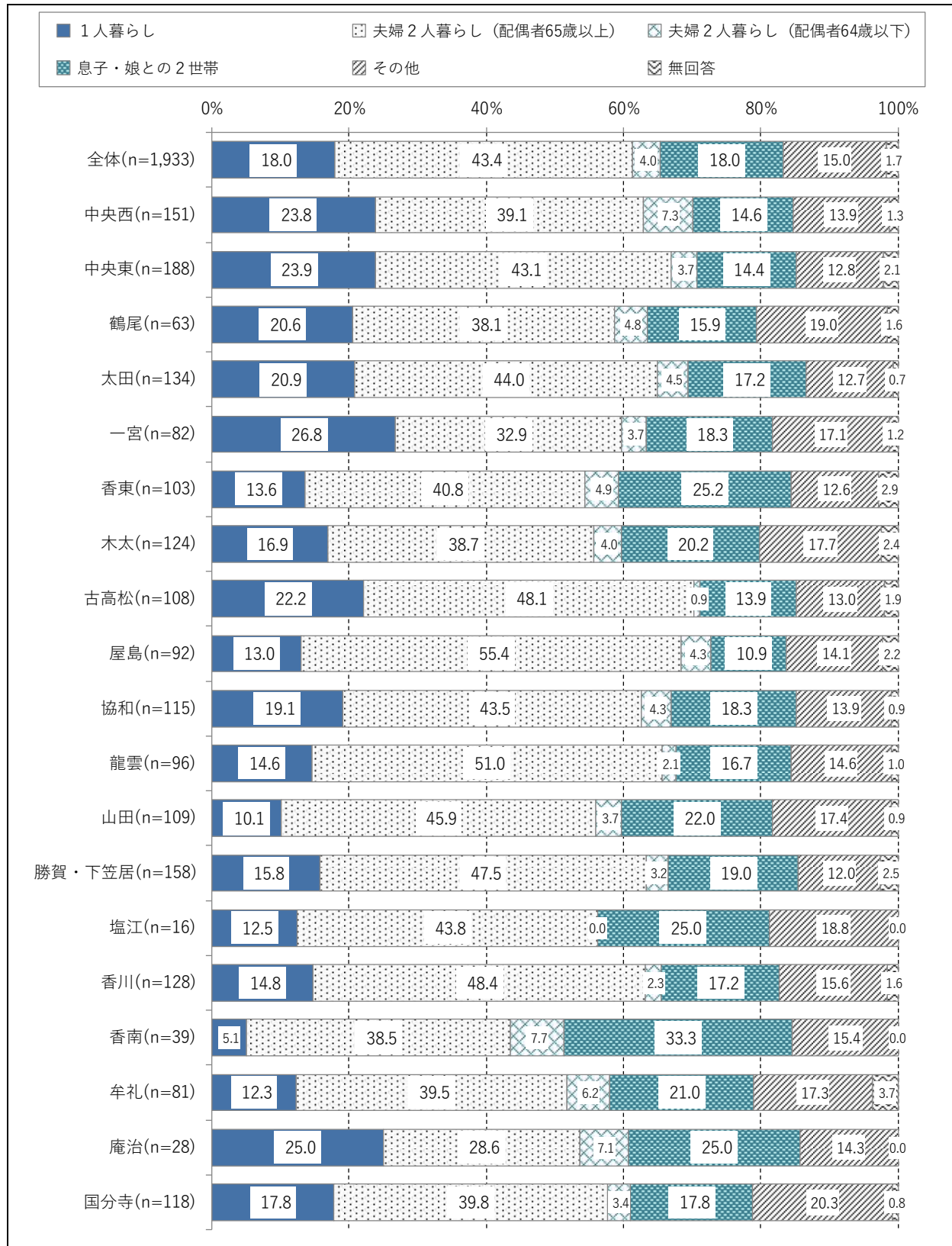
図表 6 家族構成(全体)



●家族構成をたずねたところ、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」と回答した人の割合が最も高く、43.4%となっています。次いで、「1人暮らし」、「息子・娘との2世帯」(共に18.0%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 7 家族構成(日常生活圏域別)



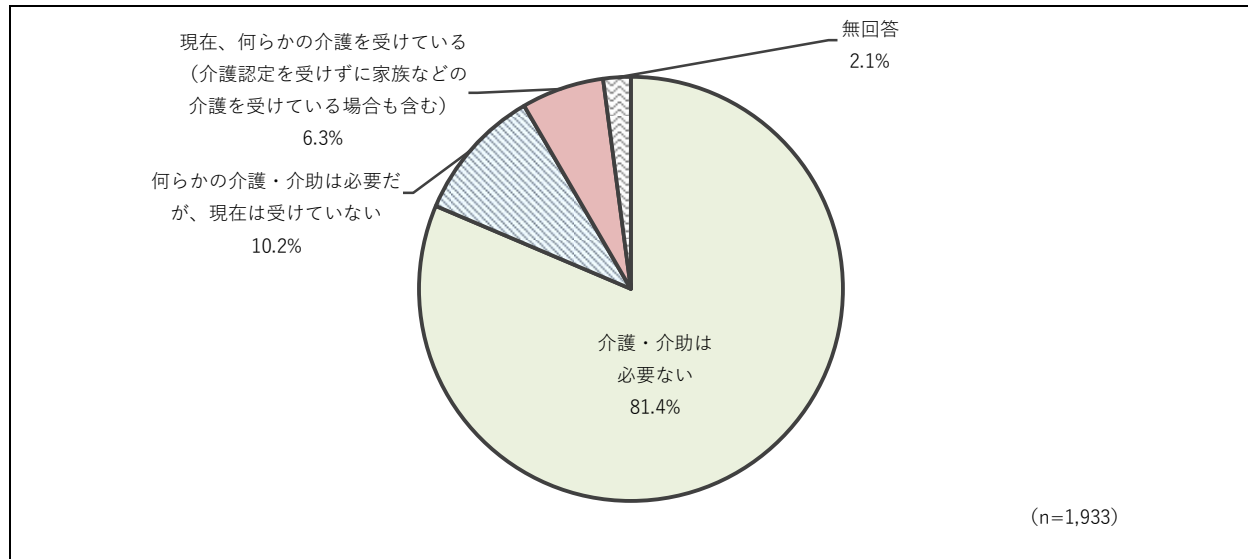
●家族構成を日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」と回答した人の割合が高くなっています。

●「1人暮らし」と回答した人の割合は、「一宮」(26.8%)、「庵治」(25.0%)、「中央東」(23.9%)、「中央西」(23.8%)、「古高松」(22.2%)、「太田」(20.9%)、「鶴尾」(20.6%)と2割を超えており、その他の圏域に比べて高くなっています。

(2)介護・介助の状況について

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。【○は1つ】

図表 8 介護・介助の必要性(全体)



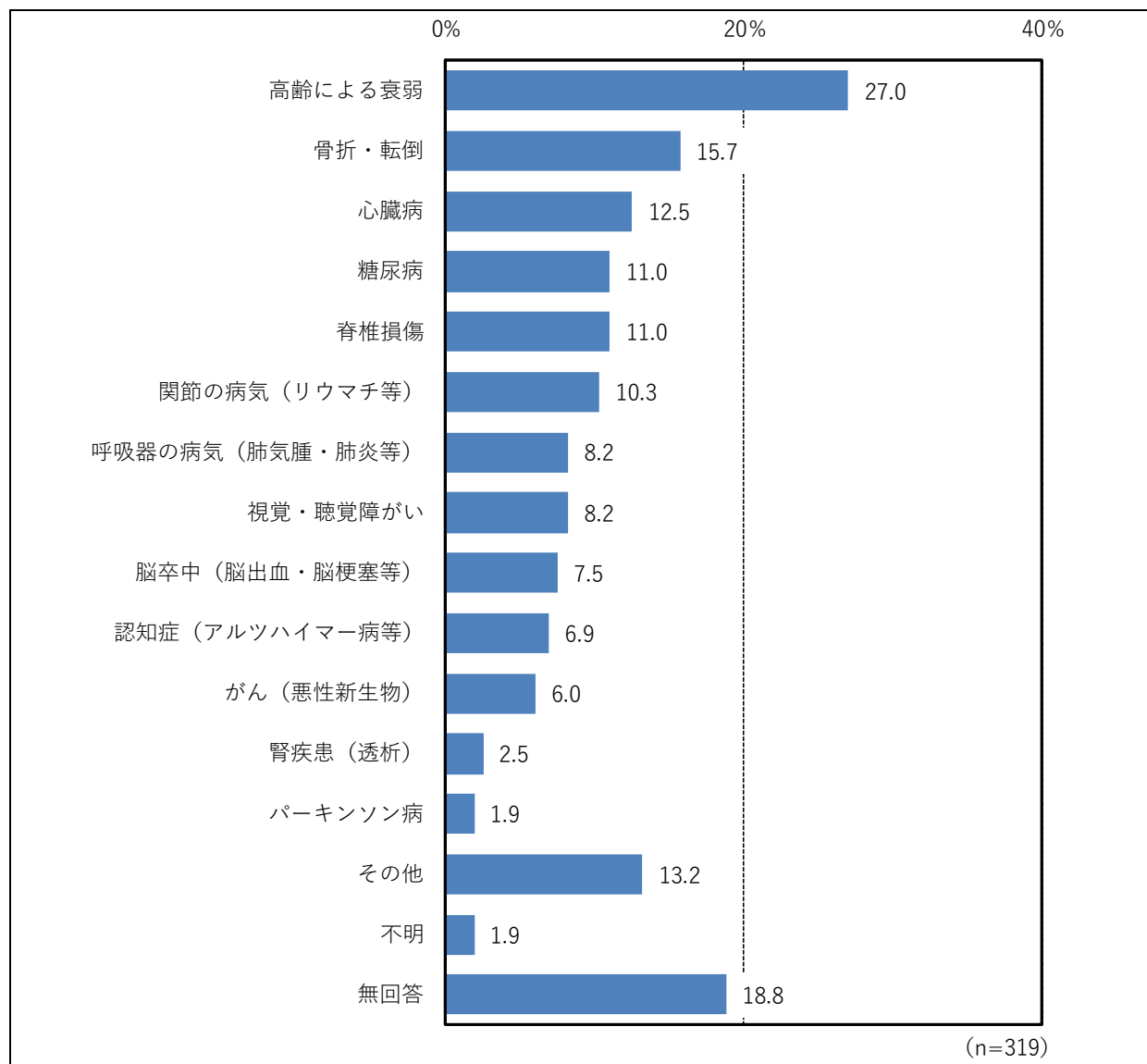
●介護・介助の必要性をたずねたところ、「介護・介助は必要ない」と回答した人の割合が最も高く、81.4%となっています。次いで、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(10.2%)、「現在、何らかの介護を受けている」(6.3%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

問2において「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方

問2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。【〇はいくつでも】

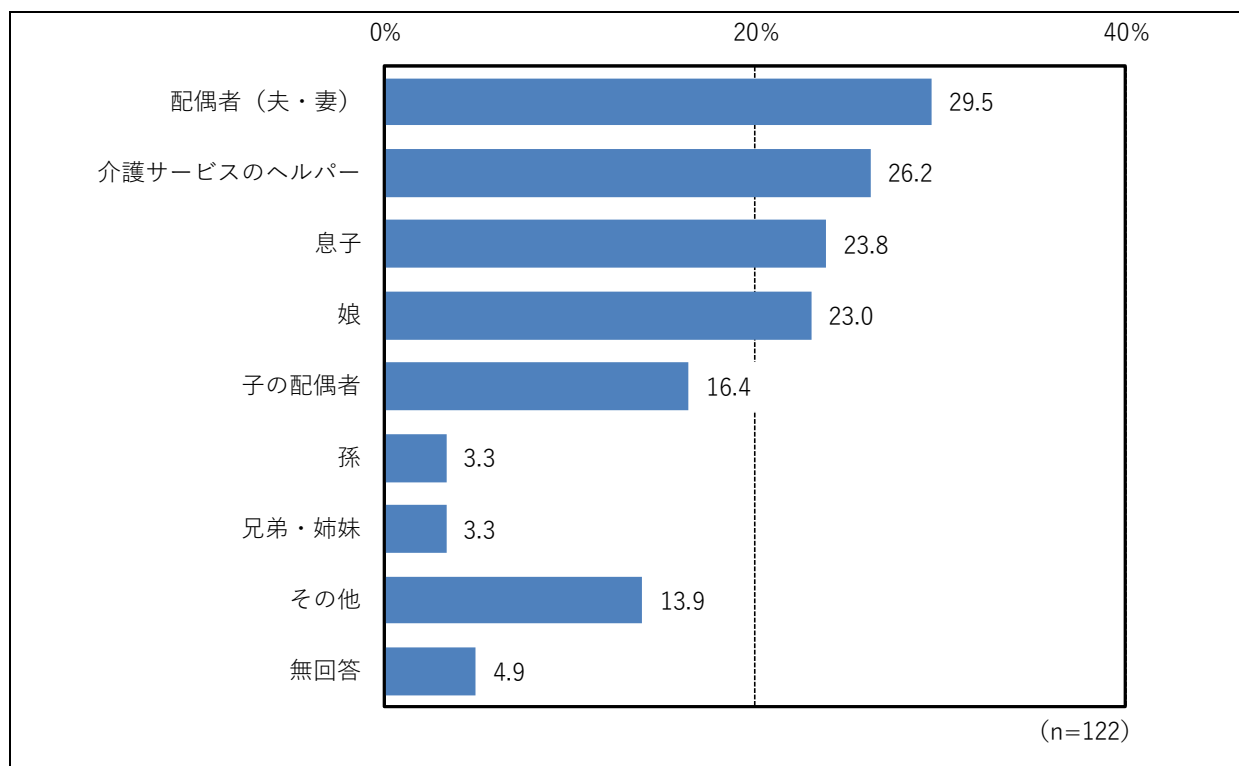
図表 9 介護・介助が必要になった主な原因(全体／複数回答)



●介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」と回答した人の割合が最も高く、27.0%となっています。次いで、「骨折・転倒」(15.7%)、「心臓病」(12.5%)と続いています。

問2において「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方
問2-2 主にどなたの介護・介助を受けていますか。【〇はいくつでも】

図表 10 主な介護・介助者(全体／複数回答)

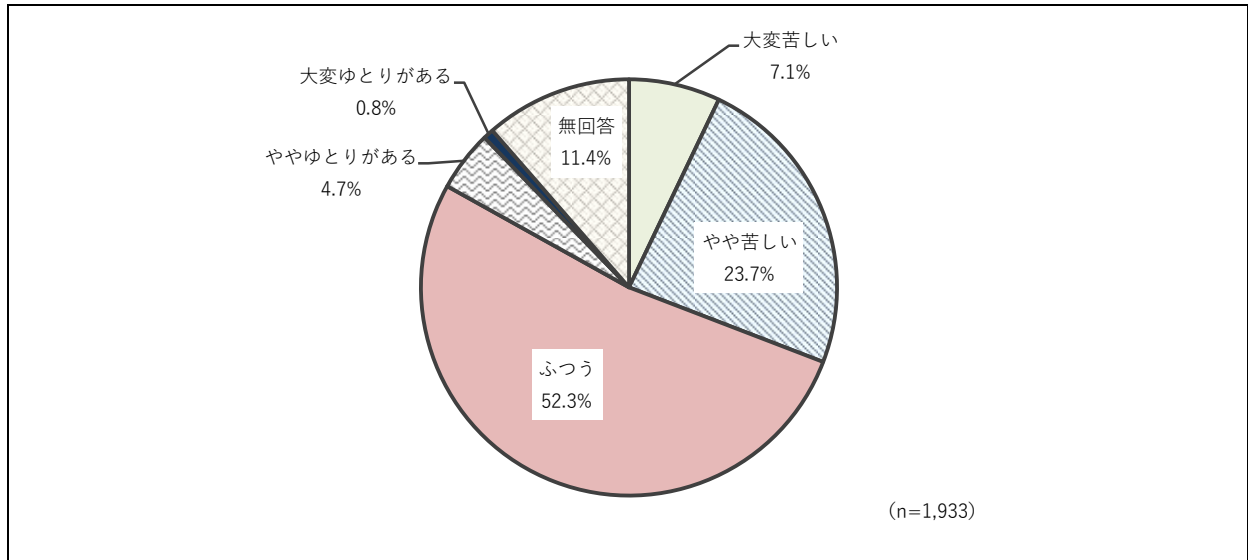


●主な介護・介助者をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、29.5%となっています。次いで、「介護サービスのヘルパー」(26.2%)、「息子」(23.8%)と続いています。

(3)現在の経済状況

問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。【○は1つ】

図表 11 現在の経済状況(全体)

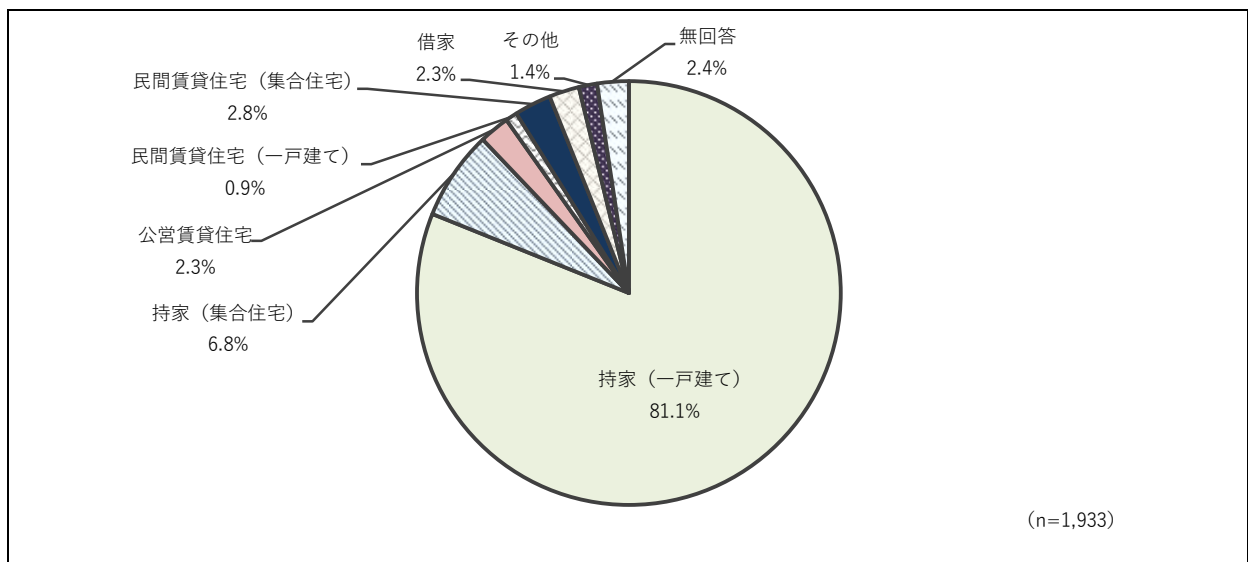


●現在の暮らしの経済的な状況をたずねたところ、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、52.3%となっています。次いで、「やや苦しい」(23.7%)、「大変苦しい」(7.1%)と続いています。

(4)住まいの状況

問4 お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらですか。【○は1つ】

図表 12 住まいの状況について(全体)



●住まいの状況をたずねたところ、「持家（戸建て）」と回答した人の割合が最も高く、81.1%となっています。次いで、「持家（集合住宅）」(6.8%)、「民間賃貸住宅（集合住宅）」(2.8%)と続いています。

3. からだを動かすことについて

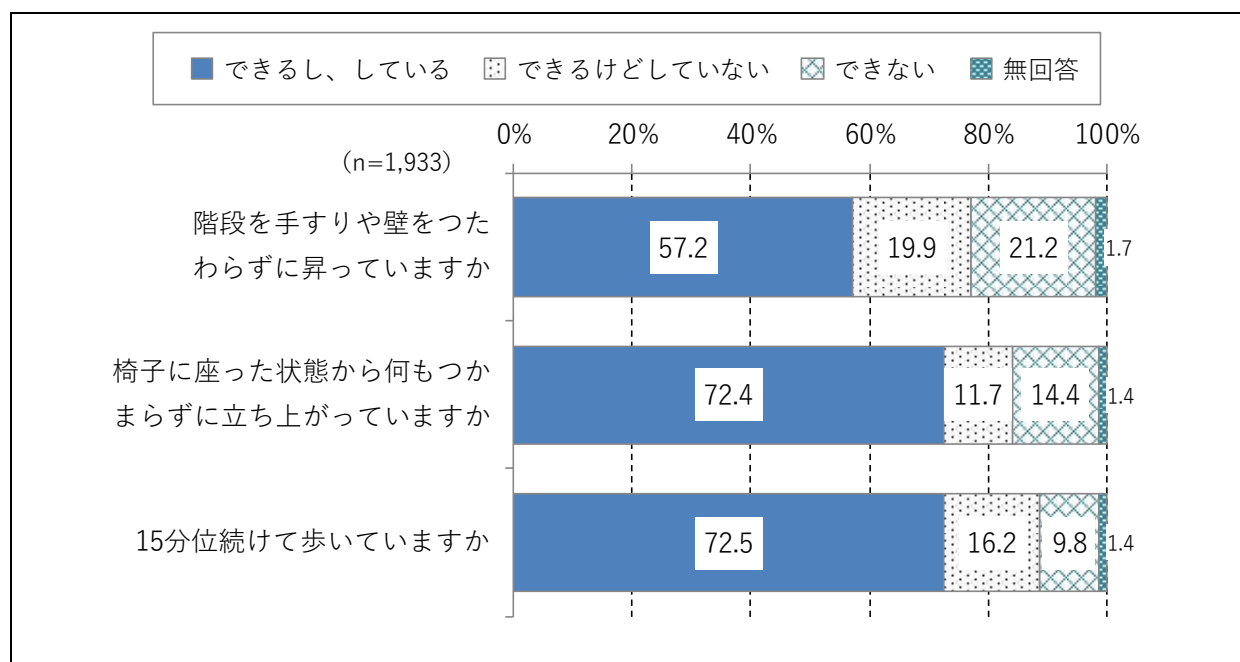
(1) 運動器の機能について

問5 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。【○は1つ】

問6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。【○は1つ】

問7 15分位続けて歩いていますか。【○は1つ】

図表 13 運動器の機能について(全体)

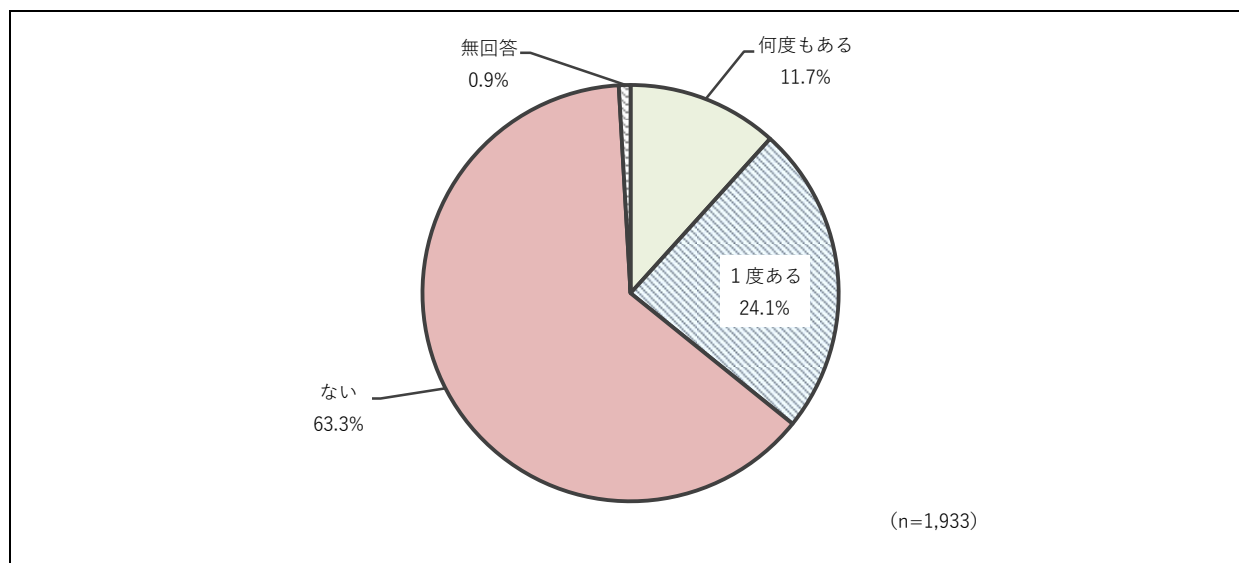


●運動器の機能についてたずねたところ、すべての設問で「できるし、している」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」では、その他の設問に比べて割合が低くなっています。

(2) 転倒について

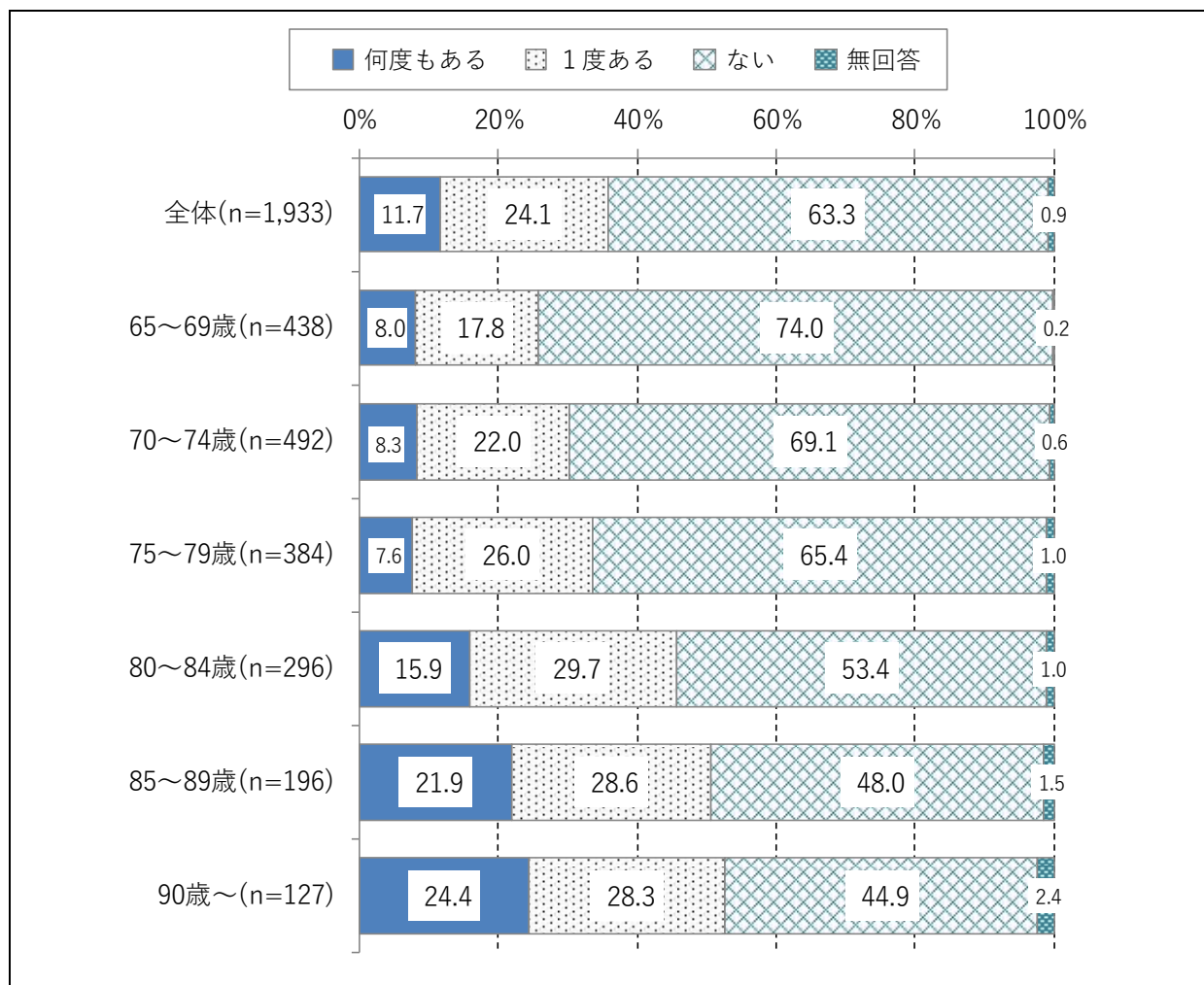
問8 過去1年間に転んだ経験がありますか。【○は1つ】

図表 14 転倒の経験(全体)



●過去1年間の転倒の経験をたずねたところ、「ない」と回答した人の割合が最も高く、63.3%となっています。次いで、「1度ある」(24.1%)、「何度もある」(11.7%)と続いています。

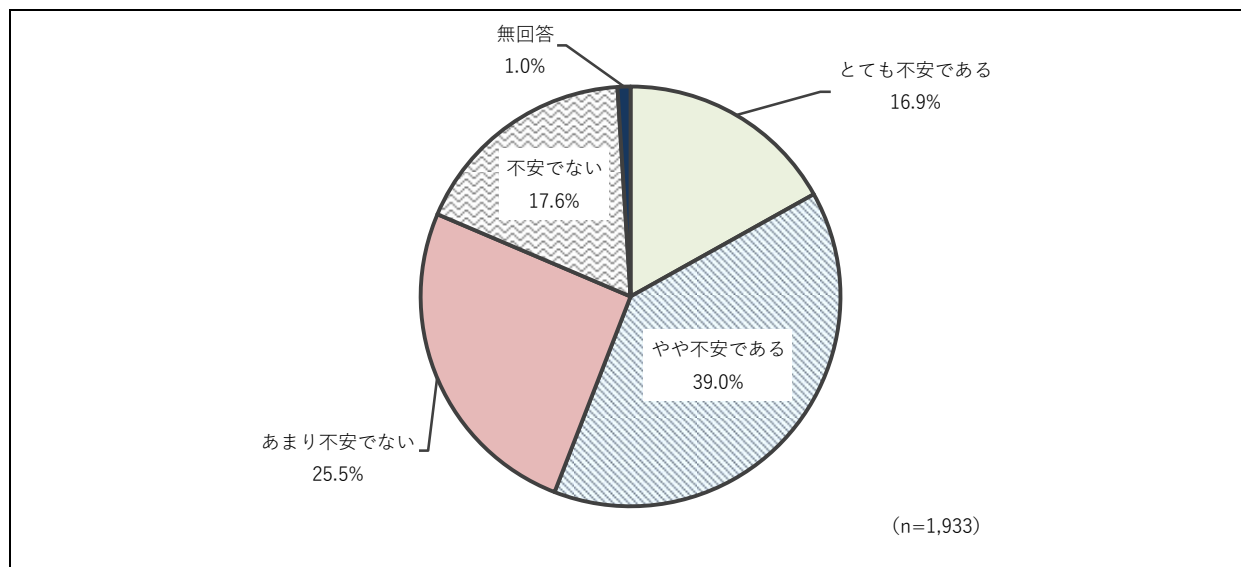
図表 15 転倒の経験(年齢階層別)



●転倒の経験を年齢階層別にみると、「何度もある」、「1度ある」と回答した人を合算した割合は、「65～69歳」では25.8%、「70～74歳」では30.3%、「75～79歳」では33.6%、「80～84歳」では45.6%、「85～89歳」では50.5%、「90歳～」では52.7%となっており、年齢があがるにつれて高くなっていることがわかります。

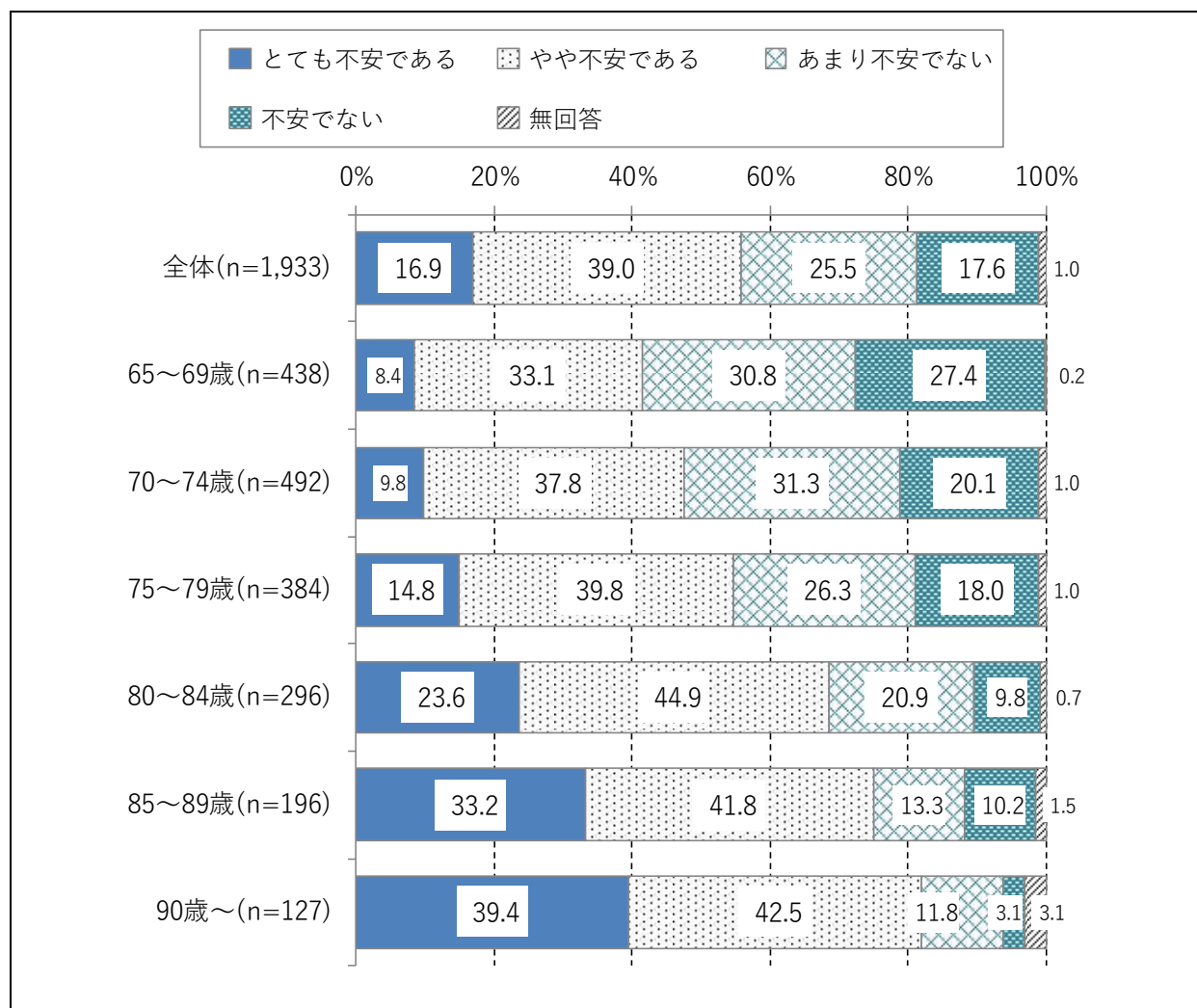
問9 転倒に対する不安は大きいですか。【○は1つ】

図表 16 転倒に対する不安(全体)



- 転倒に対する不安をたずねたところ、「やや不安である」と回答した人の割合が最も高く、39.0%となっています。次いで、「あまり不安でない」(25.5%)、「不安でない」(17.6%)と続いています。

図表 17 転倒に対する不安(年齢階層別)

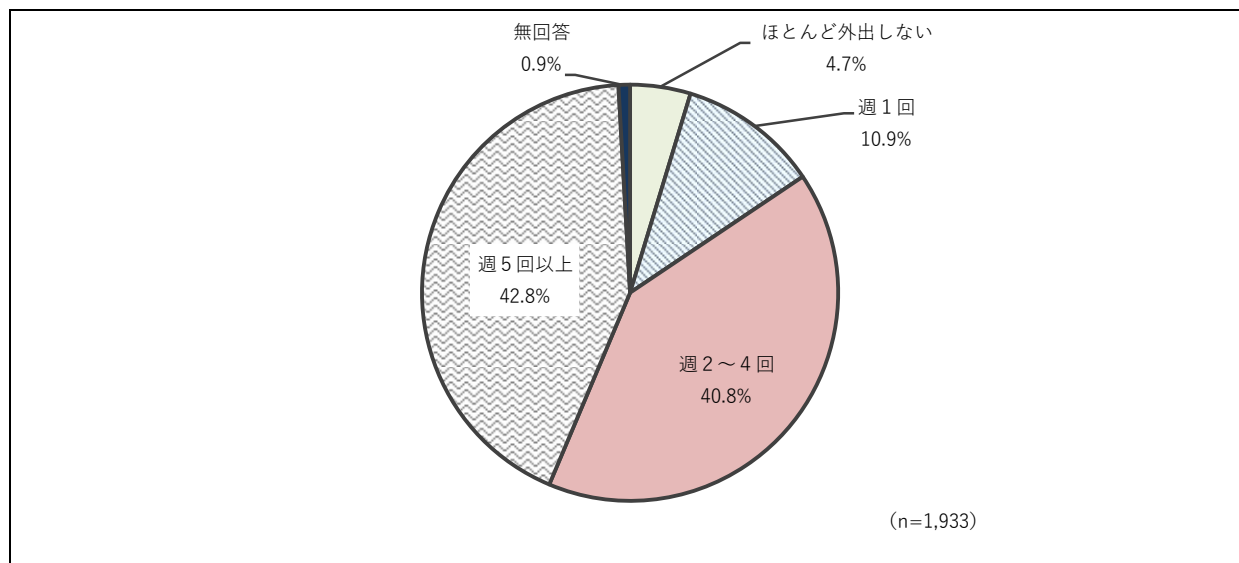


●転倒に対する不安を年齢階層別にみると、「とても不安である」、「やや不安である」と回答した人を合算した割合は、「65～69歳」では41.5%、「70～74歳」では47.6%、「75～79歳」では54.6%、「80～84歳」では68.5%、「85～89歳」では75.0%、「90歳～」では81.9%となっており、「転倒の経験」と同様に、年齢があがるにつれて高くなっていることがわかります。

(3)閉じこもり傾向について

問10 週に1回以上は外出していますか。【○は1つ】

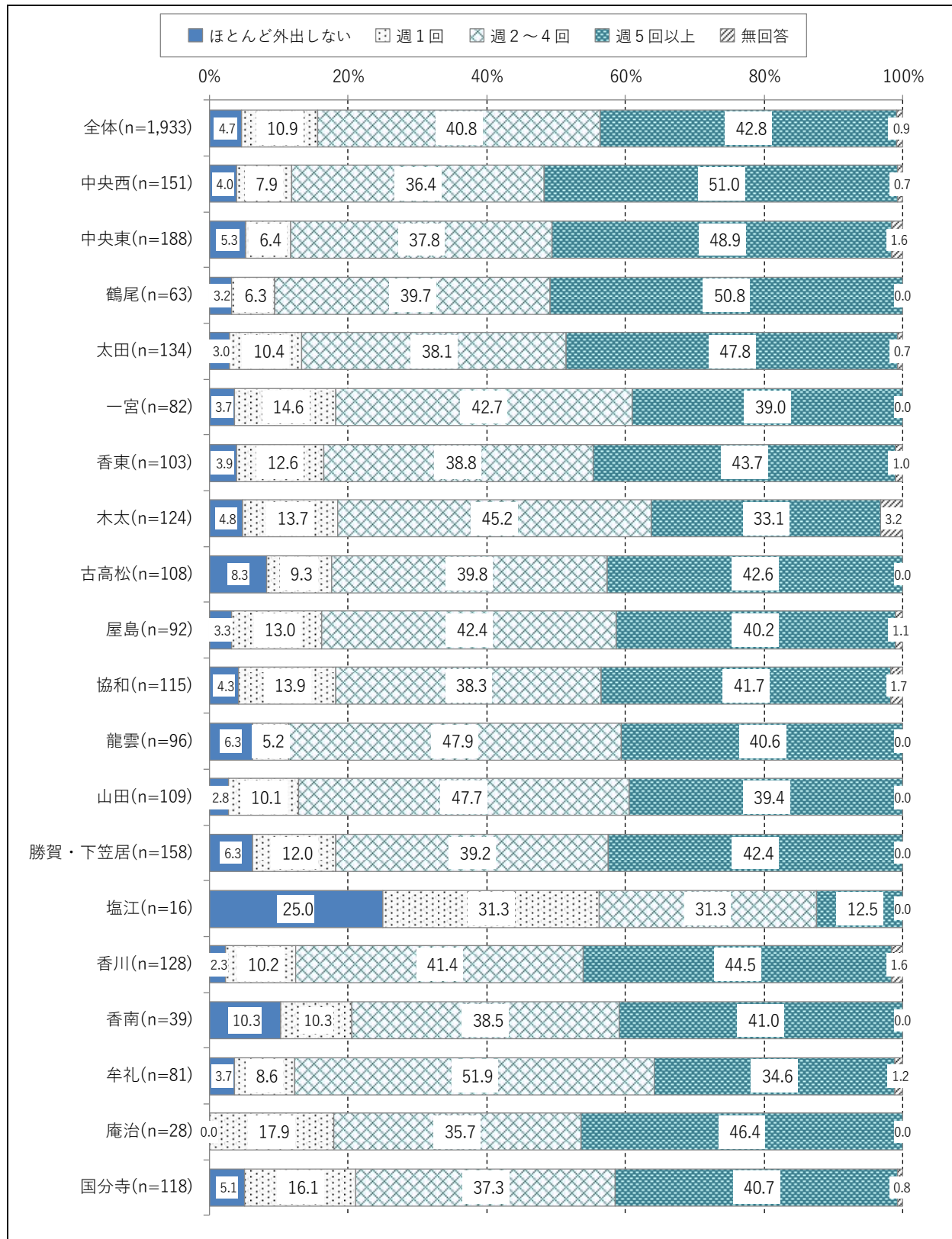
図表 18 1週間当たりの外出回数について(全体)



- 1週間当たりの外出回数をたずねたところ、「週5回以上」と回答した人の割合が最も高く、42.8%となっています。次いで、「週2～4回」(40.8%)、「週1回」(10.9%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

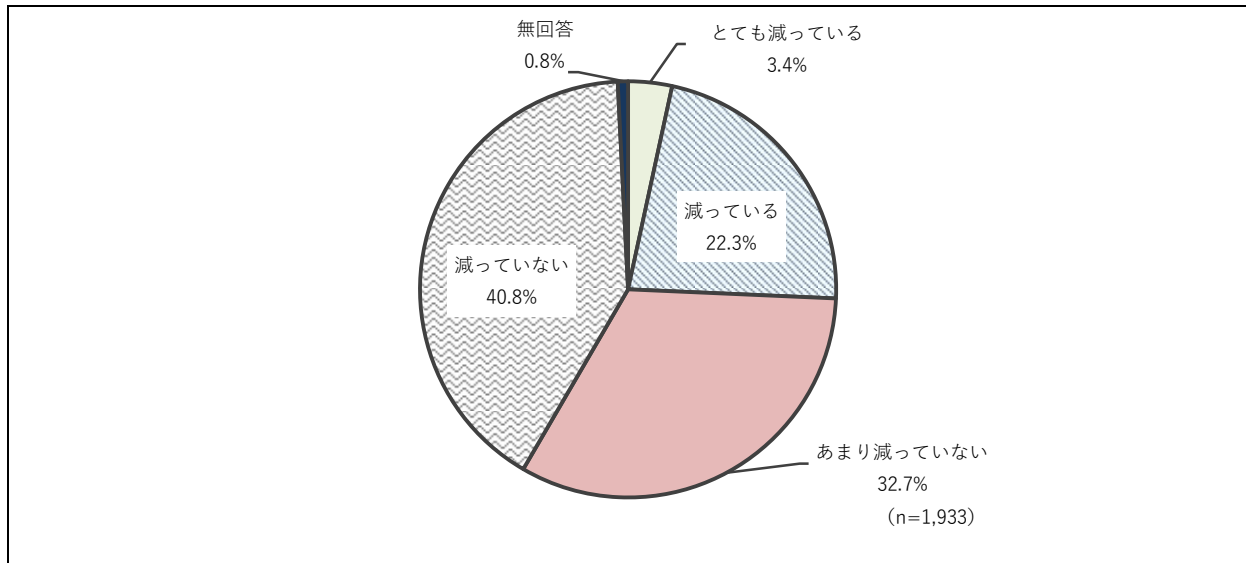
図表 19 1週間当たりの外出回数について(日常生活圏域別)



●1週間当たりの外出回数を日常生活圏域別にみると、多くの圏域で「週5回以上」、「週2～4回」と回答した人を合算した割合は約8割です。「塩江」では43.8%となっています。

問 11 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。【○は1つ】

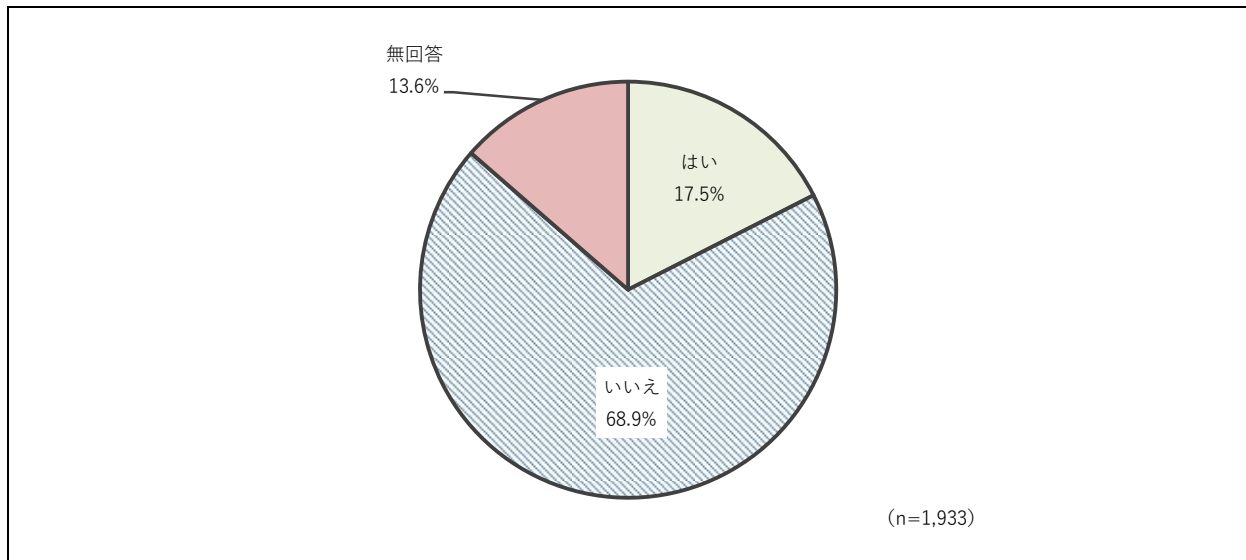
図表 20 外出回数について(全体)



●昨年と比較した外出回数についてたずねたところ、「減っていない」と回答した人の割合が最も高く、40.8%となっています。次いで、「あまり減っていない」(32.7%)、「減っている」(22.3%)と続いています。

問 12 外出を控えていますか。【○は1つ】

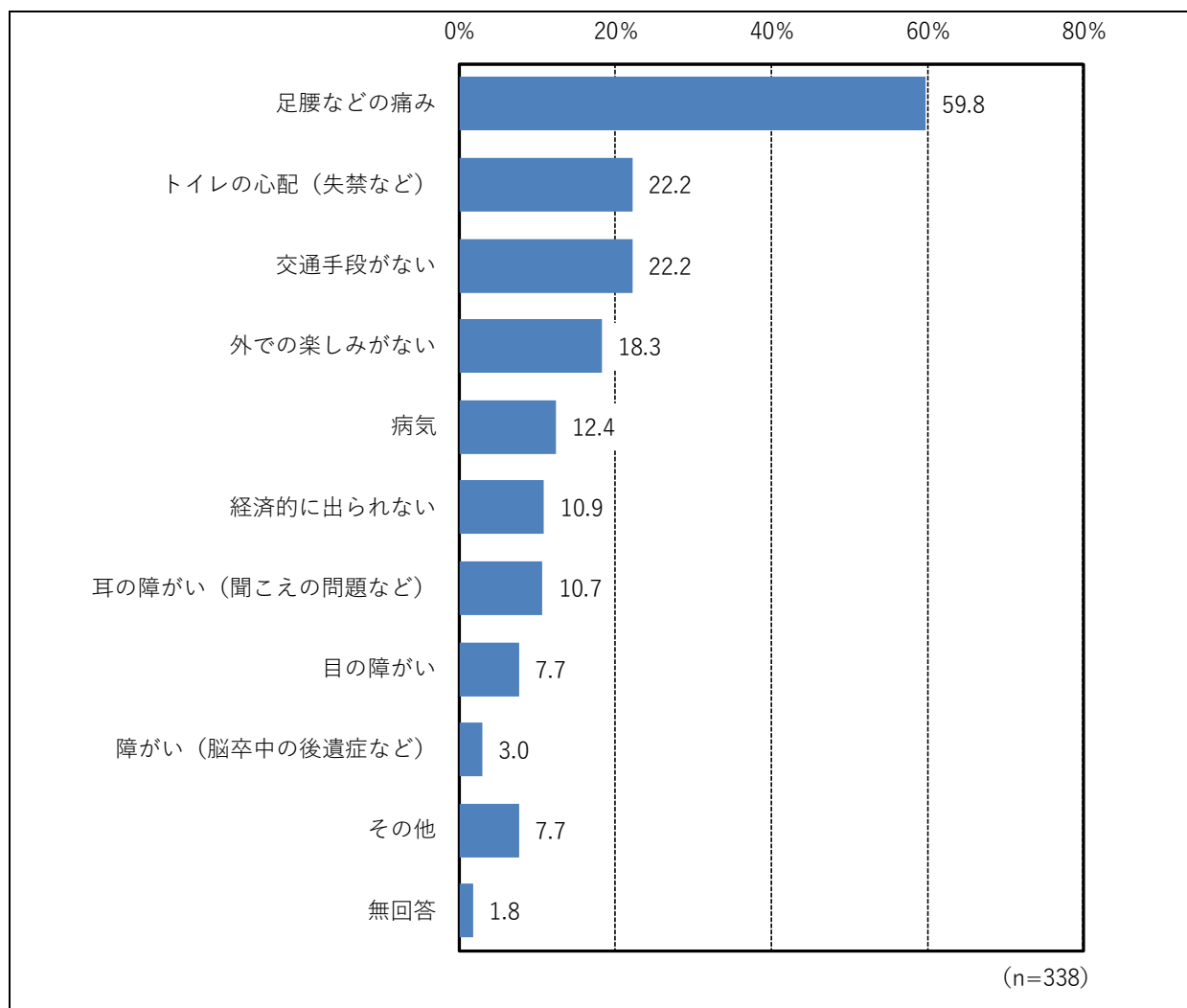
図表 21 外出を控えているかについて(全体)



●外出を控えていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 17.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 68.9%となっています。

問12で「1 はい(外出を控えている)」と回答した方
問12-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

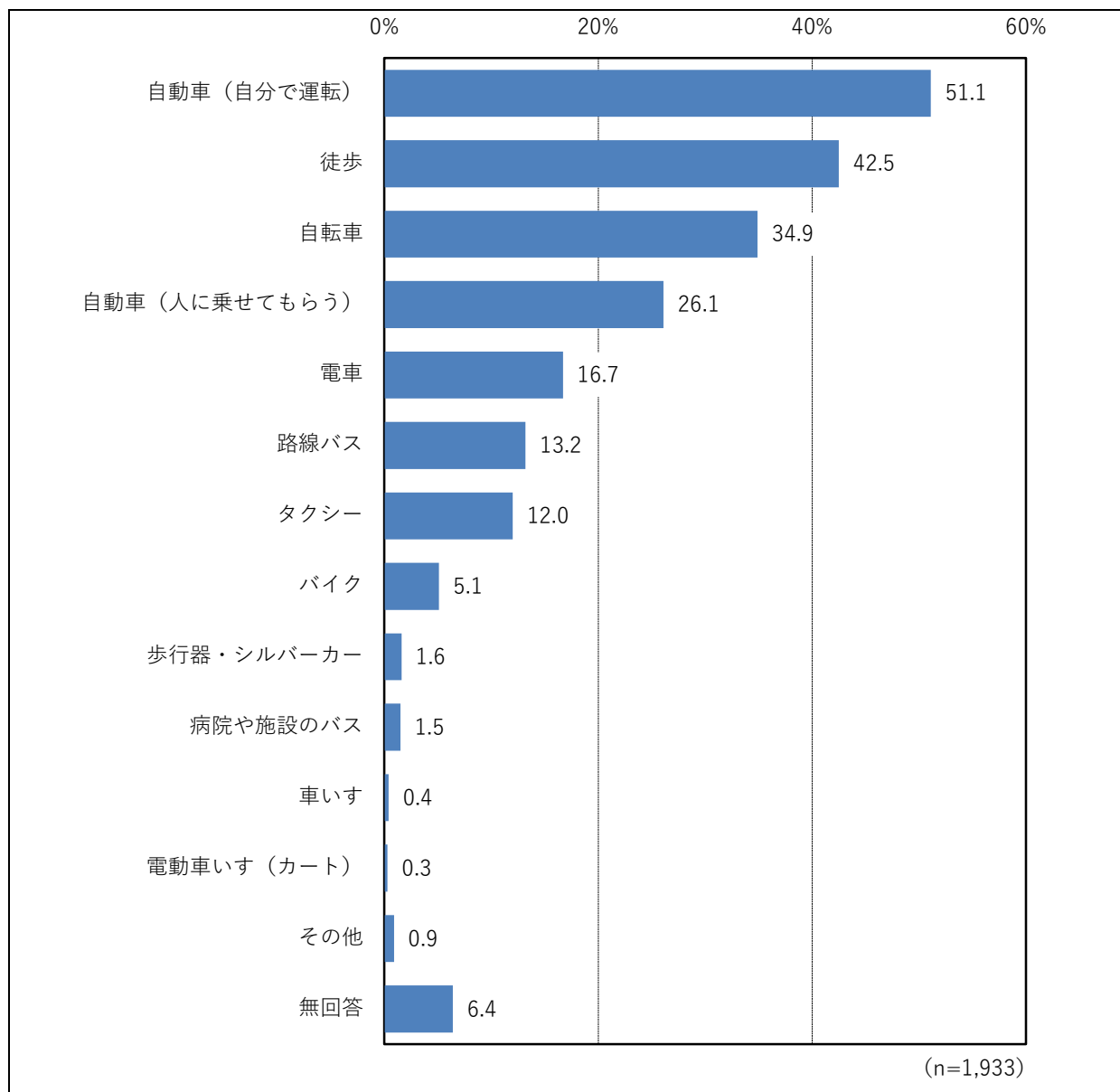
図表 22 外出を控えている理由(全体／複数回答)



●外出を控えている理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」と回答した人の割合が最も高く、59.8%となっています。次いで、「トイレの心配」、「交通手段がない」（共に 22.2%）と続いています。

問13 外出する際の移動手段は何ですか。【〇はいくつでも】

図表 23 外出する際の移動手段(全体／複数回答)



●外出する際の移動手段をたずねたところ、「自動車(自分で運転)」と回答した人の割合が最も高く、51.1%となっています。次いで、「徒歩」(42.5%)、「自転車」(34.9%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 24 外出する際の移動手段(日常生活圏域別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		自動車(自分で運転) 51.1	徒歩 42.5	自転車 34.9
日常生活圏域	中央西 (n=151)	自転車 55.0	徒歩 52.3	自動車(自分で運転) 33.1
	中央東 (n=188)	徒歩 57.4	自転車 55.9	自動車(自分で運転) 37.8
	鶴尾 (n=63)	自動車(自分で運転) 55.6	自転車 50.8	徒歩 42.9
	太田 (n=134)	徒歩／自動車(自分で運転) 52.2		自転車 44.0
	一宮 (n=82)	自動車(自分で運転) 58.5	徒歩 43.9	自転車 36.6
	香東 (n=103)	自動車(自分で運転) 57.3	自転車 35.0	自動車(人に乗せてもらう) 31.1
	木太 (n=124)	自動車(自分で運転) 45.2	徒歩 40.3	自転車 39.5
	古高松 (n=108)	自動車(自分で運転) 51.9	徒歩 36.1	自転車 24.1
	屋島 (n=92)	自動車(自分で運転) 56.5	徒歩 45.7	自転車 31.5
	協和 (n=115)	自動車(自分で運転) 50.4	自転車 39.1	徒歩 38.3
	龍雲 (n=96)	徒歩 51.0	自動車(自分で運転) 49.0	自転車 46.9
	山田 (n=109)	自動車(自分で運転) 62.4	徒歩 31.2	自動車(人に乗せてもらう) 27.5
	勝賀・下笠居 (n=158)	自動車(自分で運転) 51.3	徒歩 39.9	自転車 27.8
	塩江 (n=16)	自動車(人に乗せてもらう) 50.0	自動車(自分で運転) 43.8	路線バス 31.3
	香川 (n=128)	自動車(自分で運転) 57.8	徒歩 39.1	自動車(人に乗せてもらう) 29.7
	香南 (n=39)	自動車(自分で運転) 53.8	徒歩 33.3	自動車(人に乗せてもらう) 20.5
	牟礼 (n=81)	自動車(自分で運転) 51.9	徒歩 39.5	自動車(人に乗せてもらう) 29.6
	庵治 (n=28)	自動車(自分で運転) 60.7	徒歩 25.0	自転車 21.4
	国分寺 (n=118)	自動車(自分で運転) 63.6	徒歩 39.0	自動車(人に乗せてもらう) 26.3

●日常生活圏域別にみると、多くの圏域で「自動車(自分で運転)」が第1位、「徒歩」が第2位となっています。

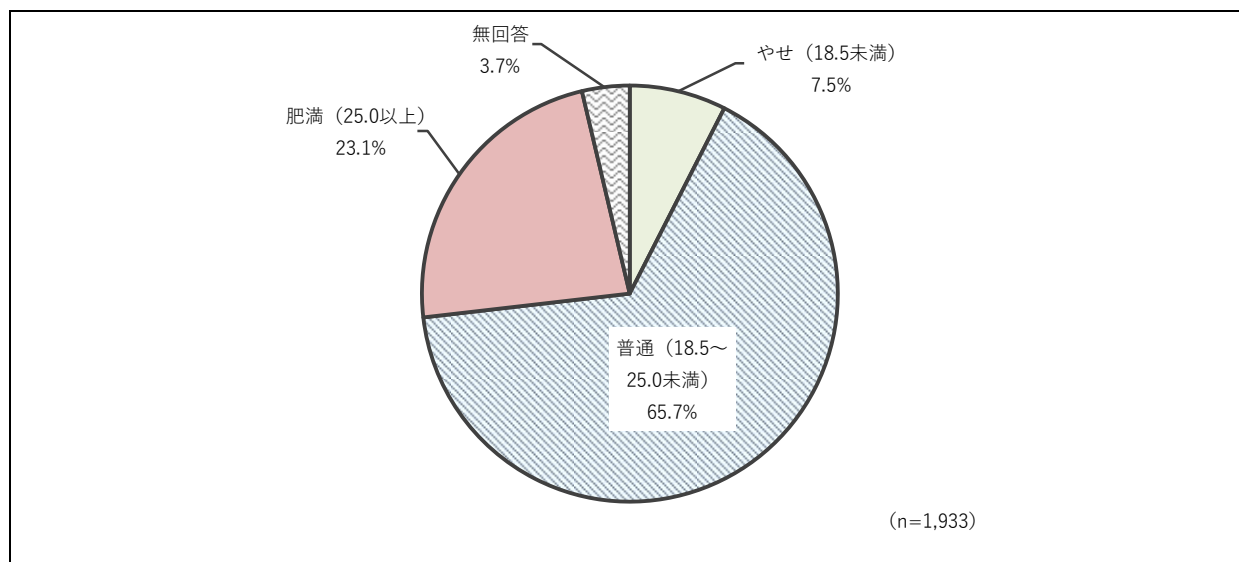
●「塩江」を除くすべての圏域で、「自転車」や「徒歩」といった、自らが動く移動手段が上位3位内に入っています。

4. 食べることについて

(1) BMI算出

問 14 あなたの身長と体重をお書きください。【数字で記入】

図表 25 BMI値(全体)

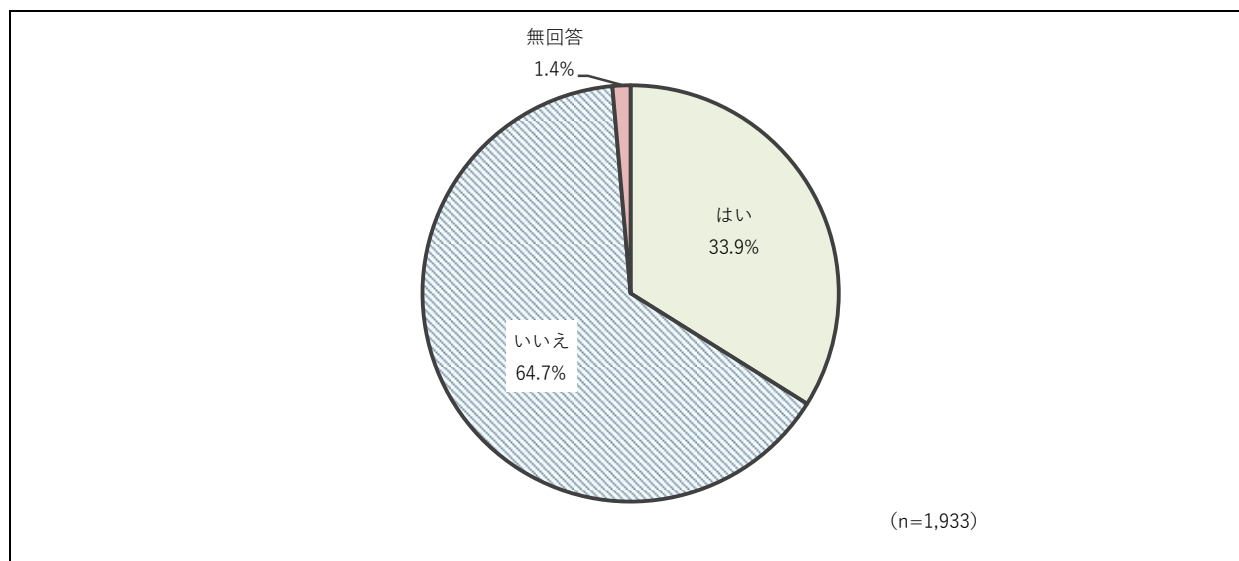


●身長と体重をたずね BMI 値を算出したところ、「普通(18.5～25.0 未満)」の割合が最も高く、65.7%となっています。次いで、「肥満(25.0 以上)」「(23.1%)」、「やせ(18.5 未満)」「(7.5%)」と続いています。

(2)口腔機能について

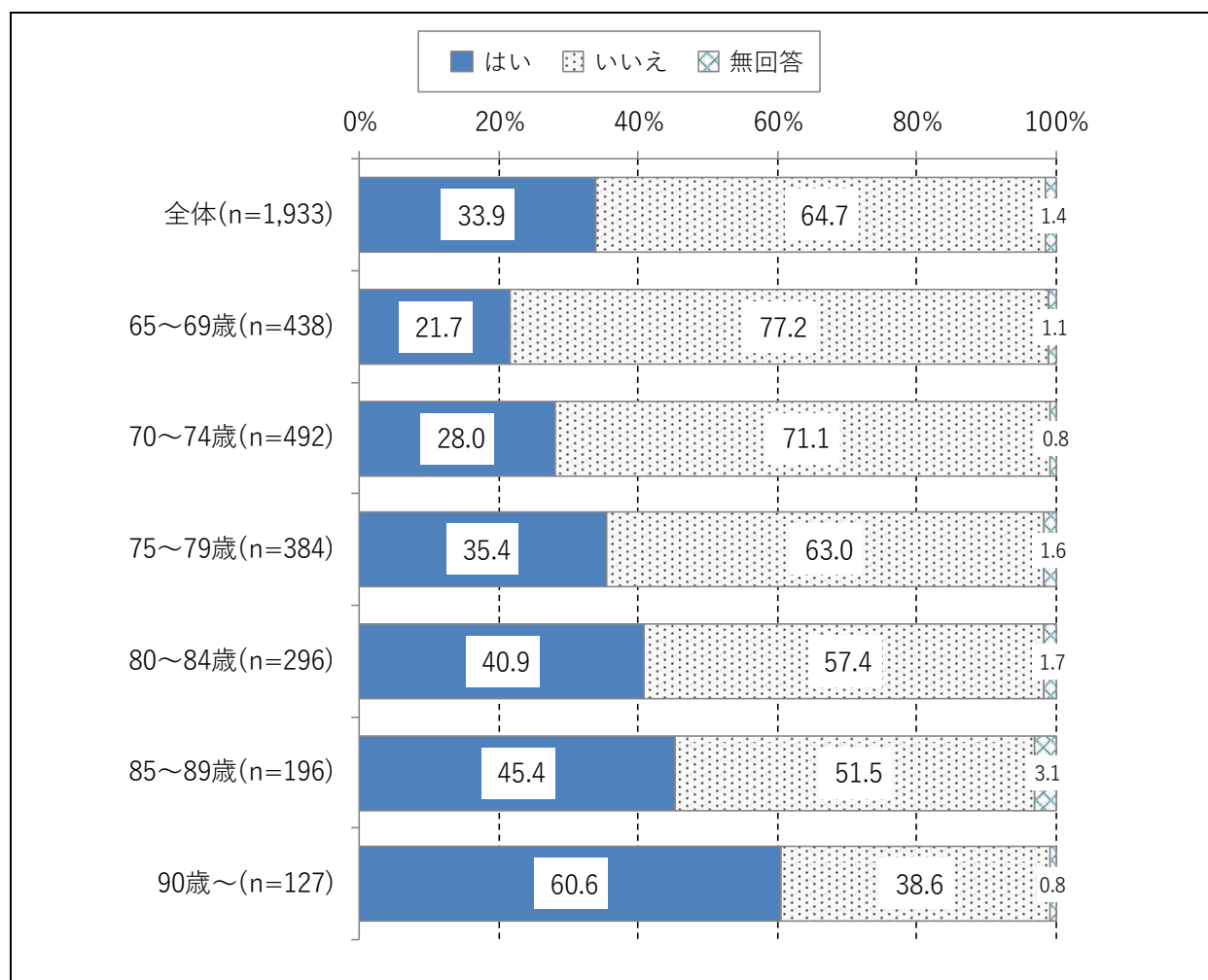
問 15 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。【○は1つ】

図表 26 咀嚼機能について(全体)



●半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 33.9%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 64.7%となっています。

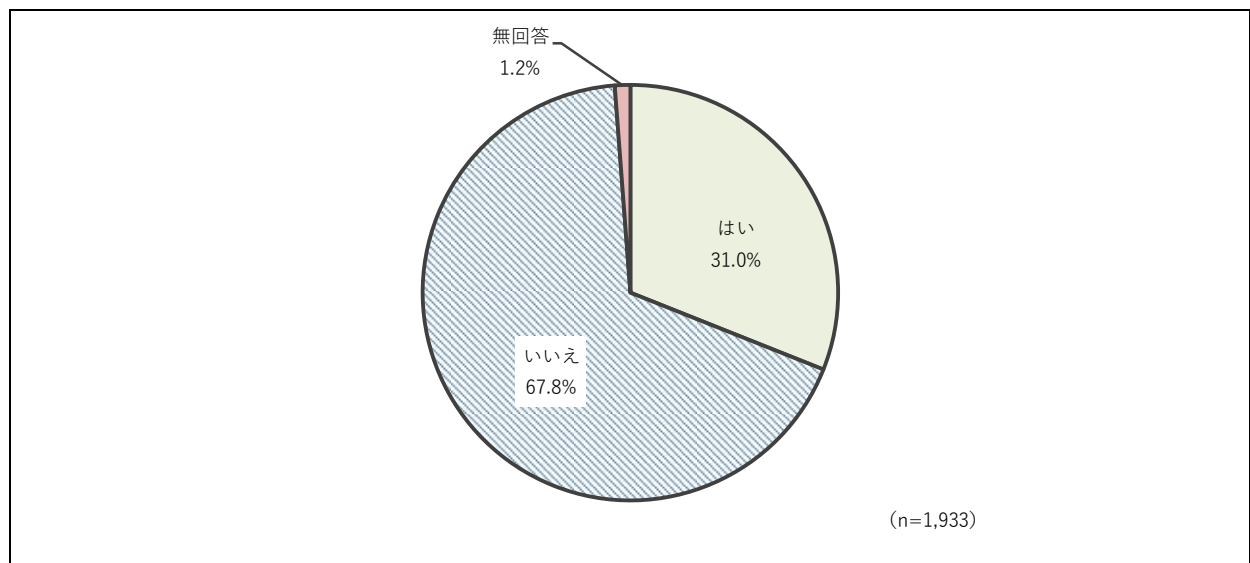
図表 27 咀嚼機能について(年齢階層別)



●咀嚼機能を年齢階層別にみると、「はい」と回答した人の割合は、「65～69歳」で21.7%ですが、年齢があがるにつれて割合は増加し、「90歳～」では60.6%まで上昇しています。

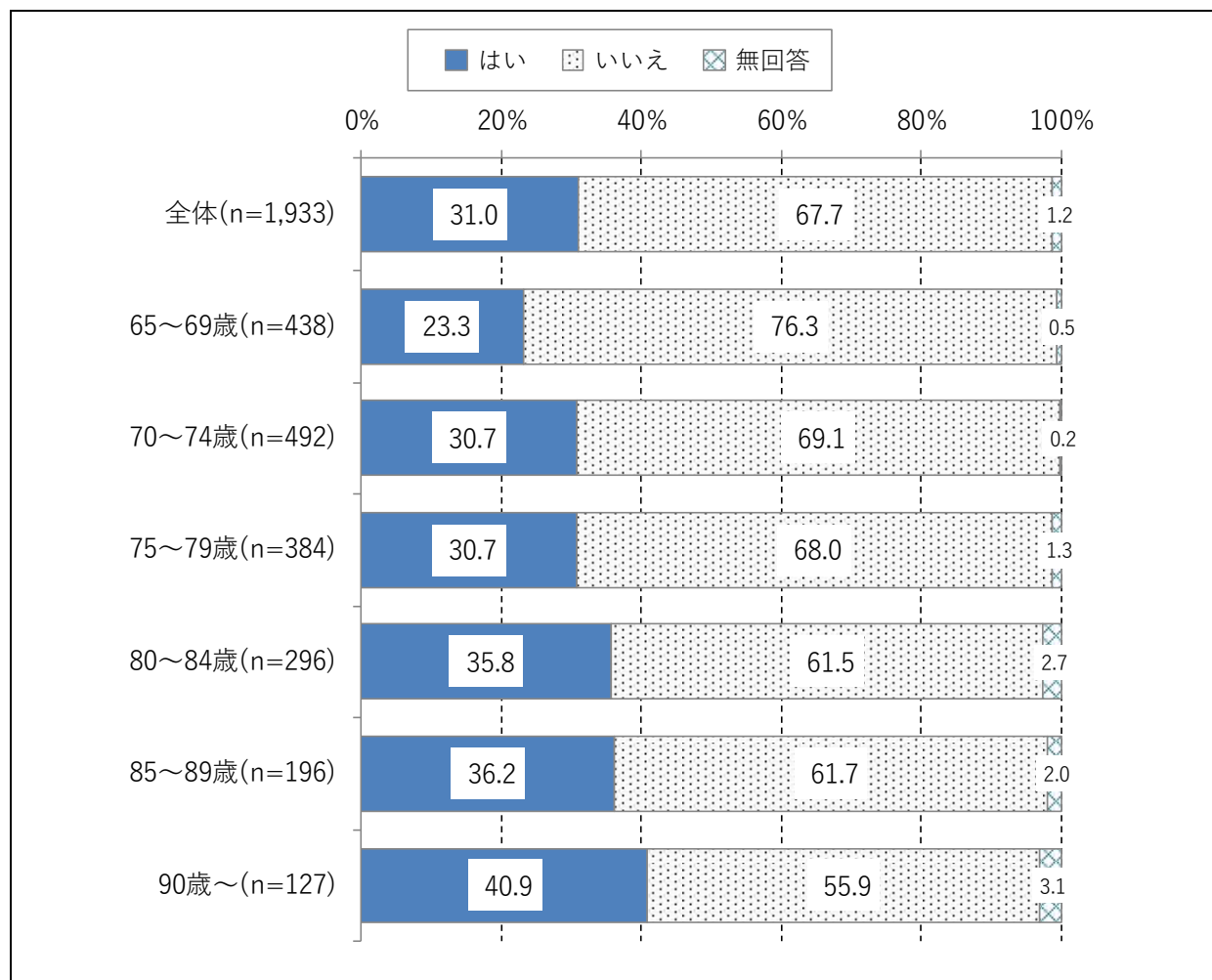
問16 お茶や汁物等でむせることはありますか。【○は1つ】

図表 28 嚥下機能について(全体)



●お茶や汁物等でむせることはありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は31.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は67.8%となっています。

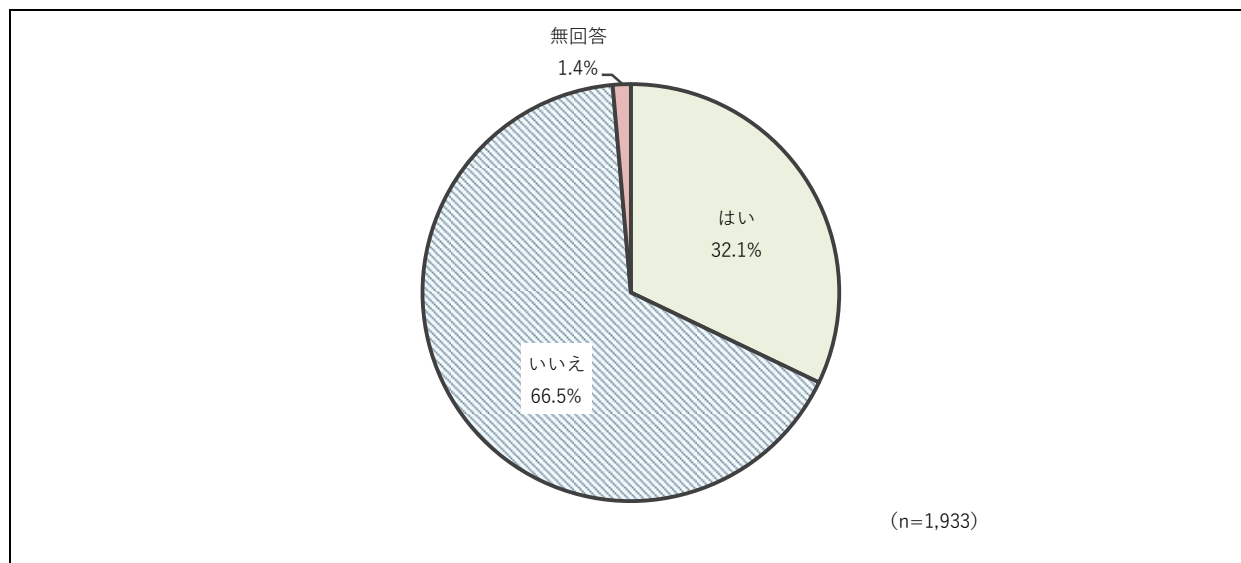
図表 29 嚥下機能について(年齢階層別)



●嚥下機能を年齢階層別にみると、「はい」と回答した人の割合が、「咀嚼機能」と同様に年齢があがるにつれて上昇していることがわかります。

問 17 口の渇きが気になりますか。【○は1つ】

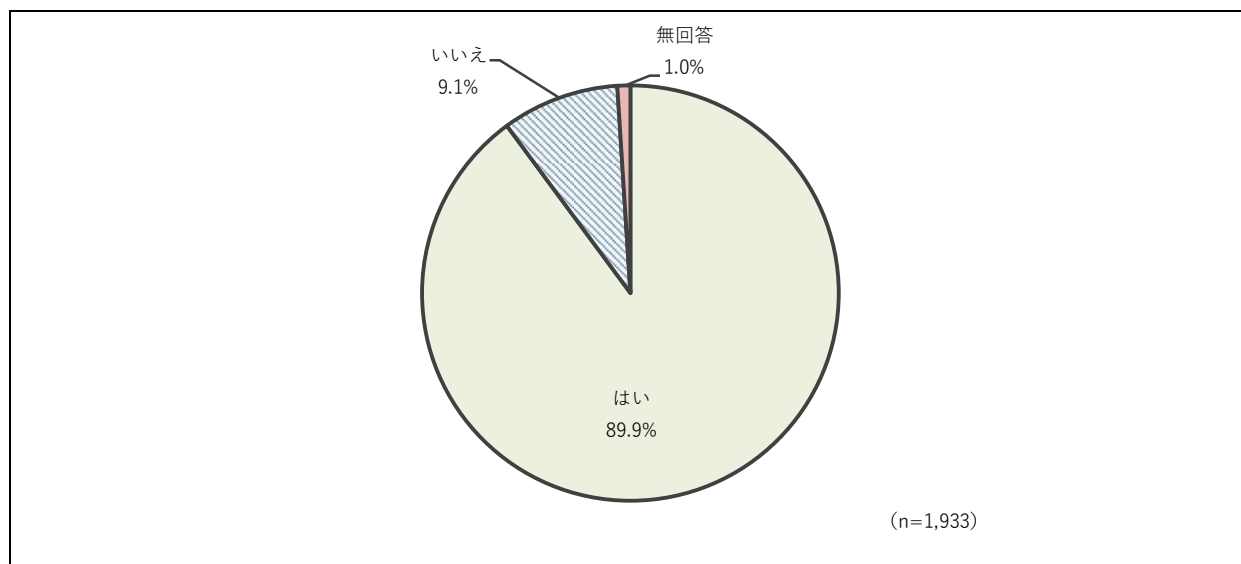
図表 30 口の渇きについて(全体)



●口の渇きが気になりますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 32.1%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 66.5%となっています。

問 18 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。【○は1つ】

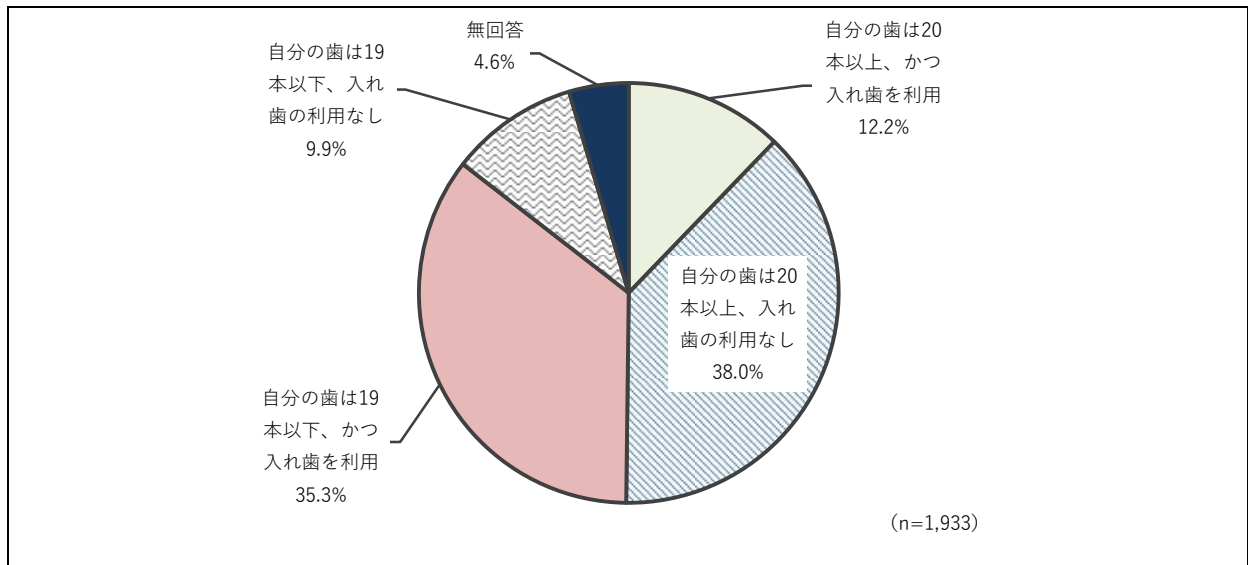
図表 31 歯磨きの習慣について(全体)



●歯磨きを毎日していますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 89.9%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 9.1%となっています。

問 19 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。【○は1つ】
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)

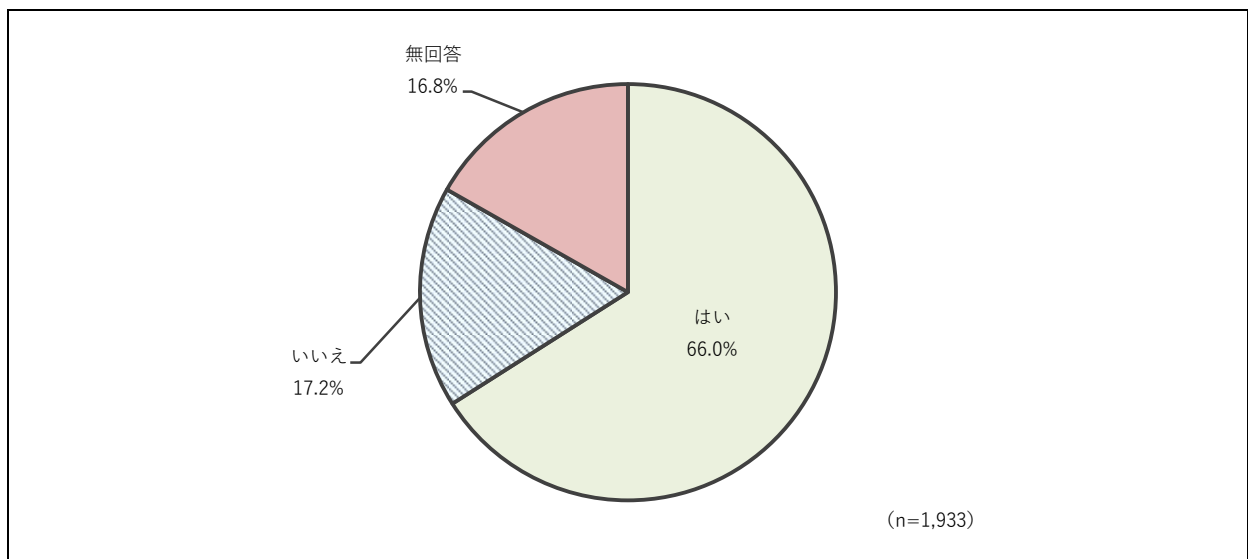
図表 32 歯の数と入れ歯の利用状況(全体)



●歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」と回答した人の割合が最も高く、38.0%となっています。次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(35.3%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(12.2%)と続いています。

問 19-1 噛み合わせは良いですか。【○は1つ】

図表 33 噛み合わせの状態について(全体)

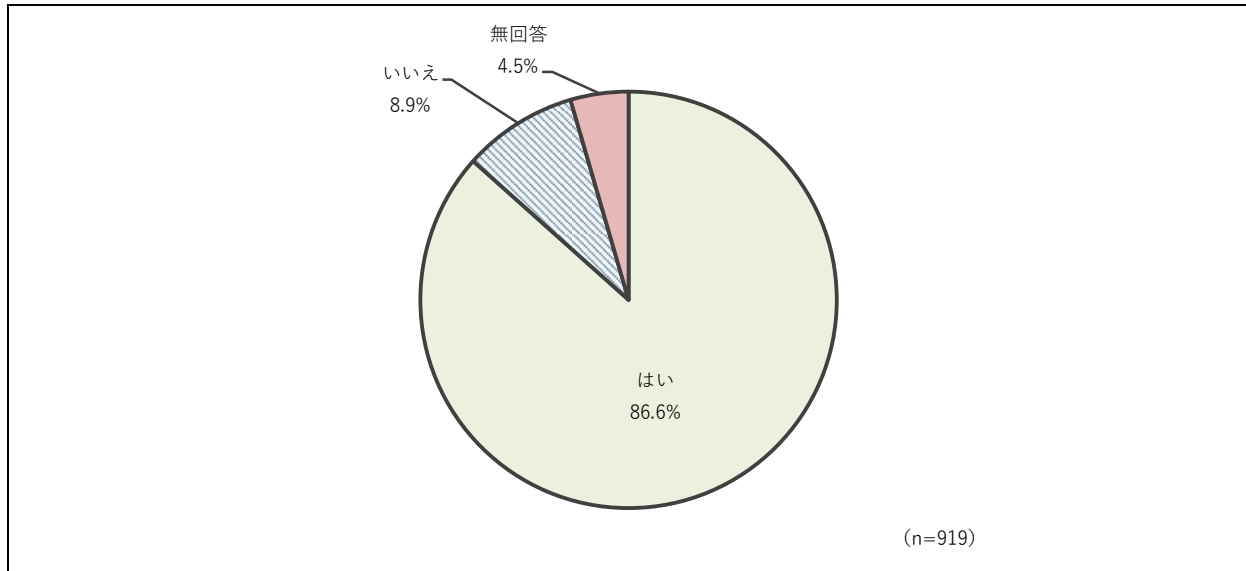


●噛み合わせは良いですかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合が最も高く、66.0%となっています。次いで、「いいえ」(17.2%)、「無回答」(16.8%)と続いています。

問19で「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方

問19-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか。【○は1つ】

図表 34 入れ歯の手入れについて(全体)

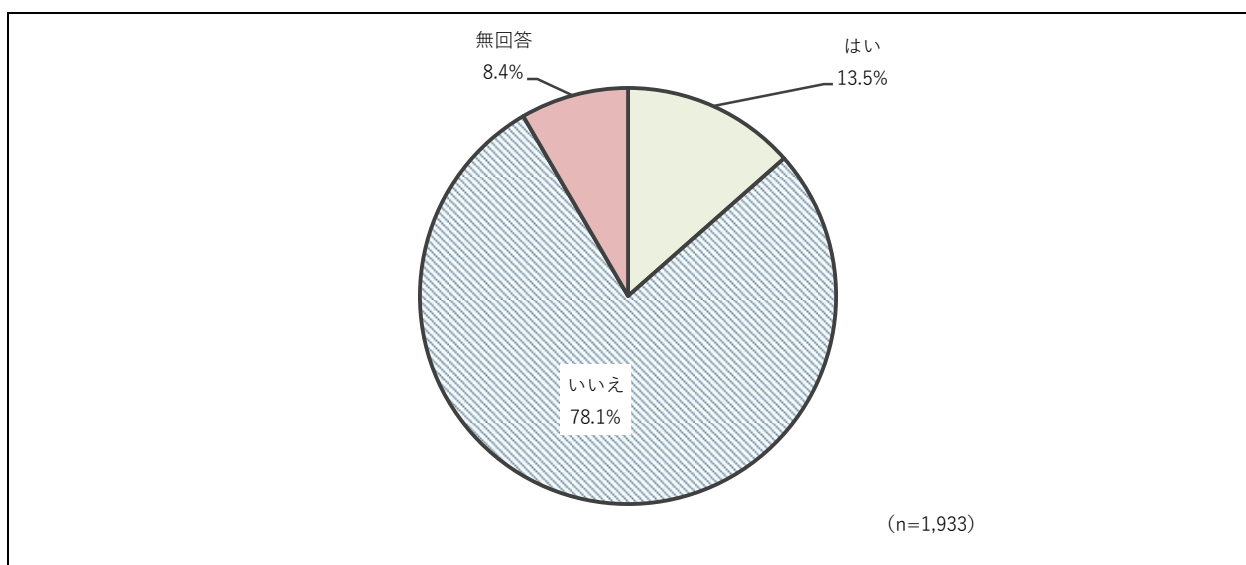


●毎日、入れ歯の手入れをしていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は86.6%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は8.9%となっています。

(3)体重減少の有無について

問20 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。【○は1つ】

図表 35 体重減少の有無について(全体)

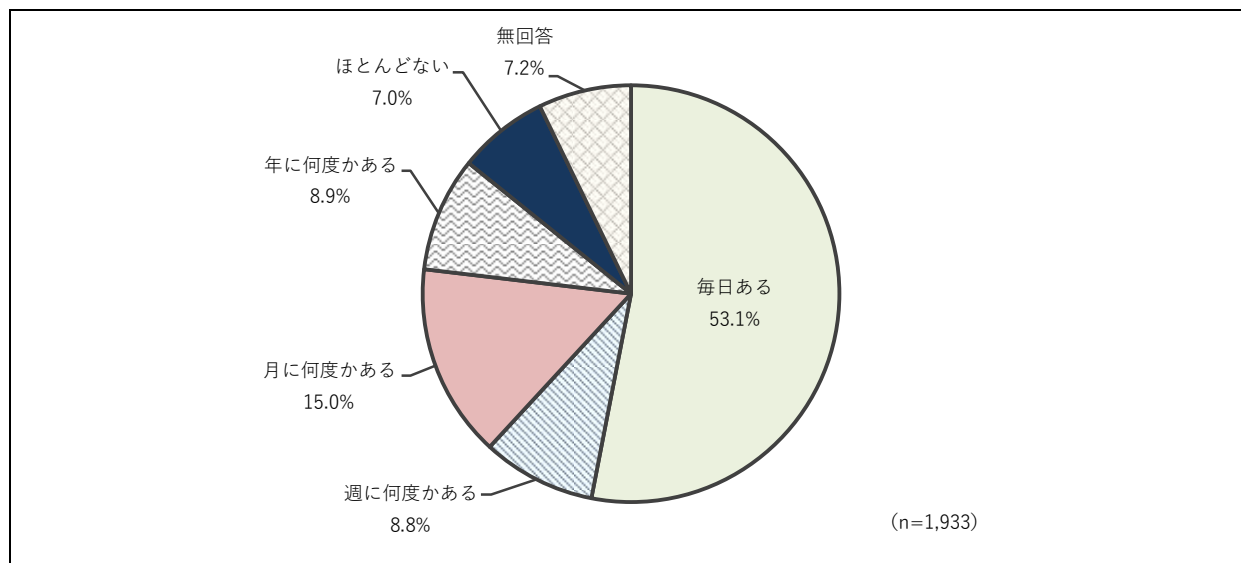


●6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は13.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は78.1%となっています。

(4) 孤食の状況について

問 21 どなたかと食事をとる機会がありますか。【○は1つ】

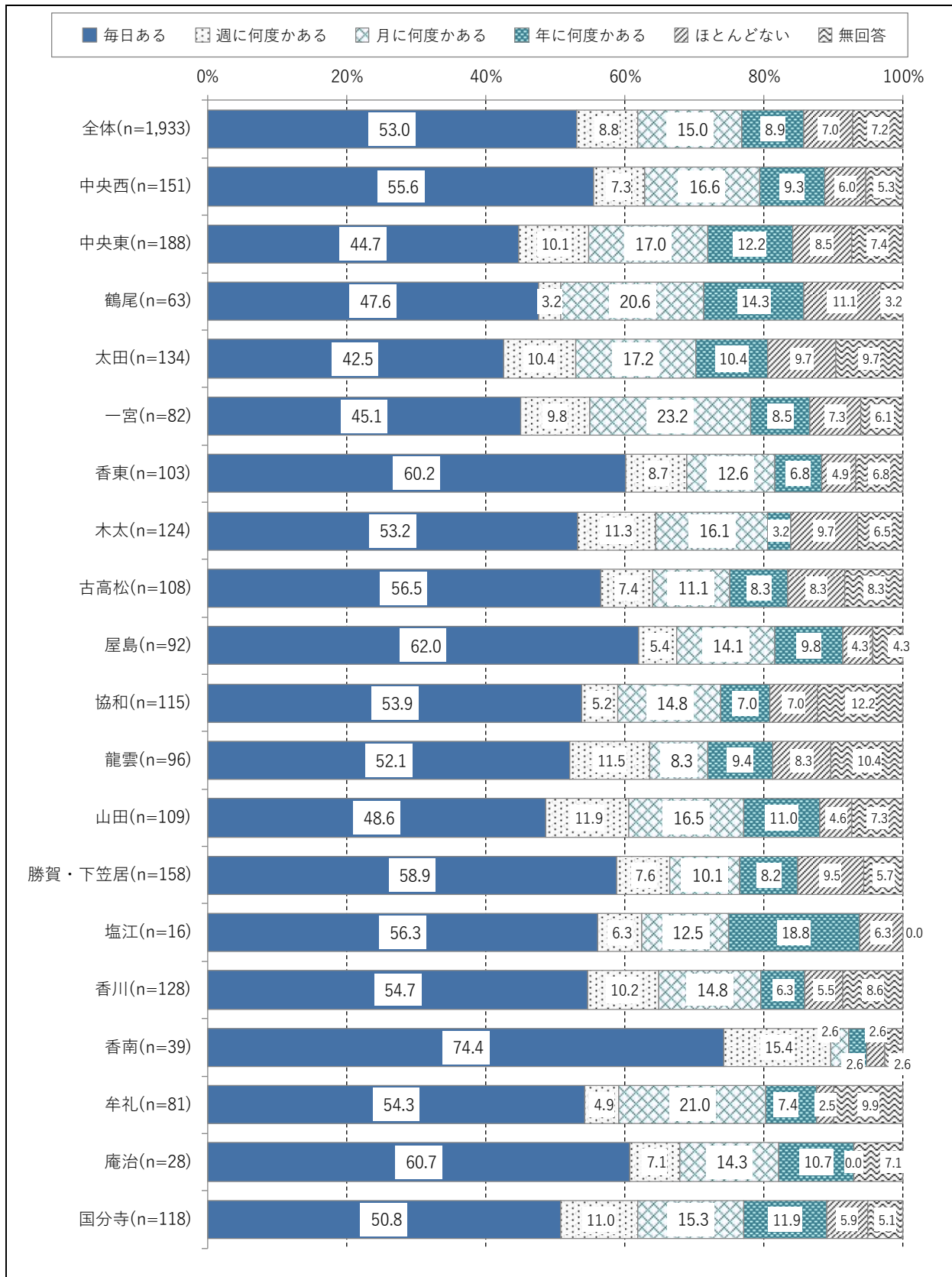
図表 36 誰かと食事をとる機会の有無について(全体)



●誰かと食事をとる機会の有無をたずねたところ、「毎日ある」と回答した人の割合が最も高く、53.1%となっています。次いで、「月に何度かある」(15.0%)、「年に何度かある」(8.9%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 37 誰かと食事をともしめる機会の有無について(日常生活圏域別)



●誰かと食事をともしめる機会の有無を日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「毎日ある」と回答した人の割合が最も高くなっています。特に、「香南」では 74.4%となっており、その他の圏域に比べて割合が高くなっています。

5. 毎日の生活について

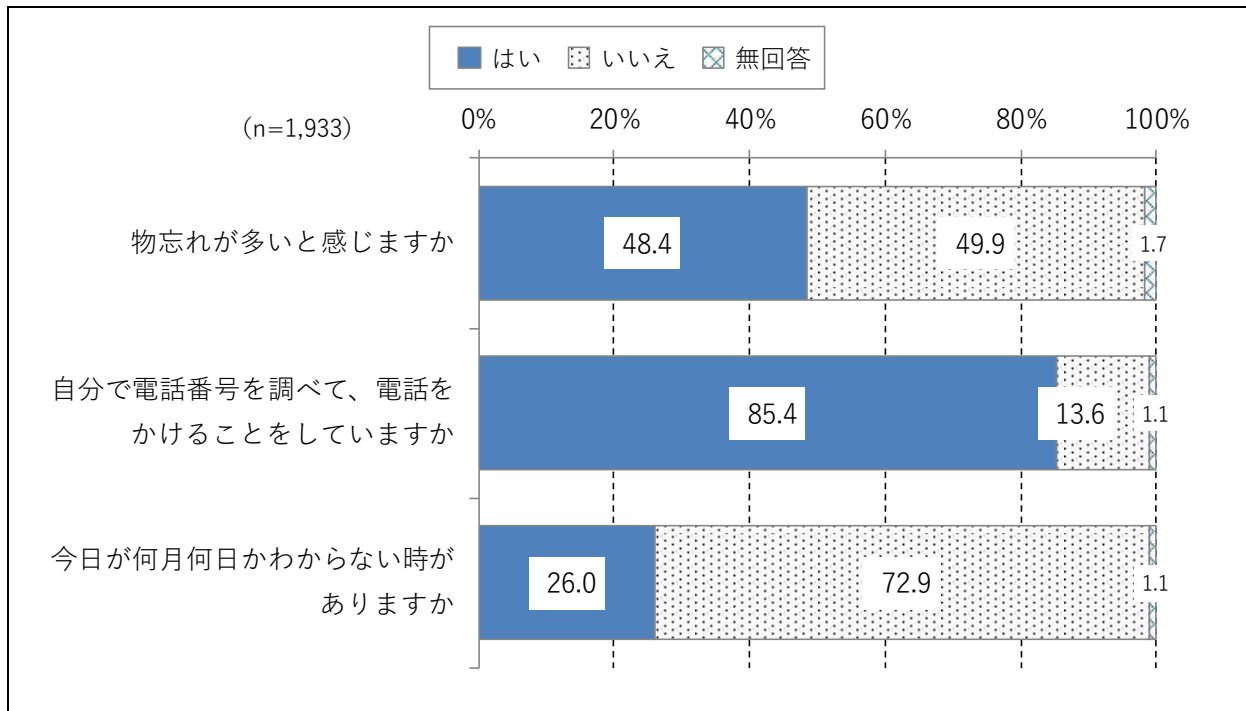
(1) 認知機能について

問 22 物忘れが多いと感じますか。【○は1つ】

問 23 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。【○は1つ】

問 24 今日が何月何日かわからない時がありますか。【○は1つ】

図表 38 認知機能の低下について(全体)

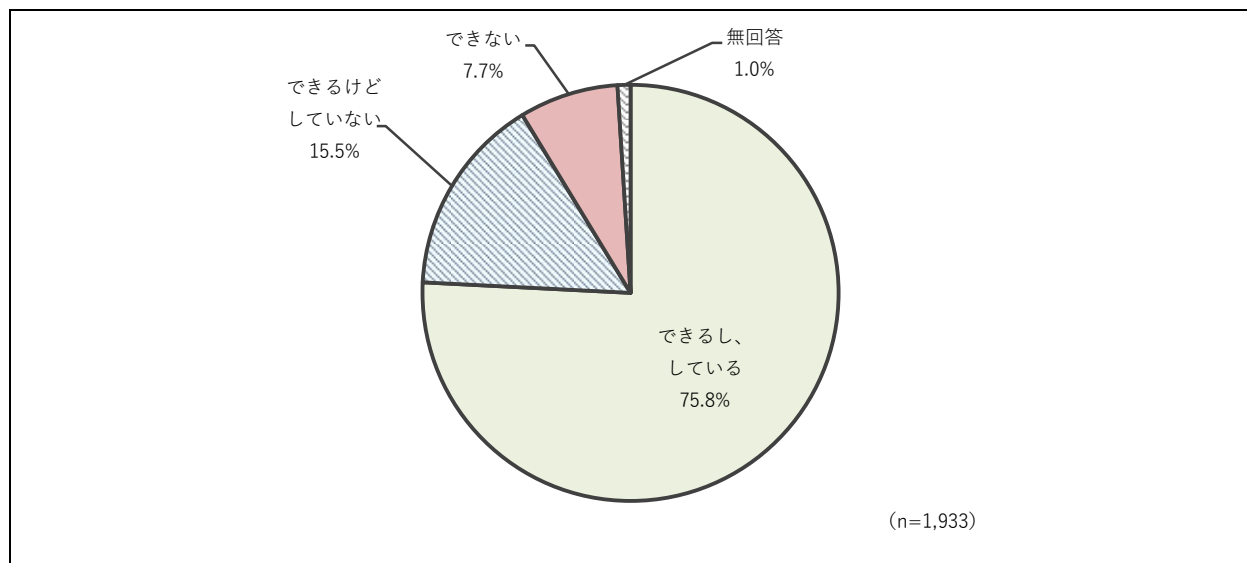


- 認知機能についてたずねたところ、「物忘れが多いと感じますか」については、「はい」(48.4%)と「いいえ」(49.9%)の割合が、ほぼ同数となっています。
- 「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」については、「はい」と回答した人の割合が85.4%、「今日が何月何日かわからない時がありますか」については、「いいえ」と回答した人の割合が72.9%となっています。

(2)IADL<手段的日常生活動作>について(老研式活動能力指標)

問 25 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)【○は1つ】

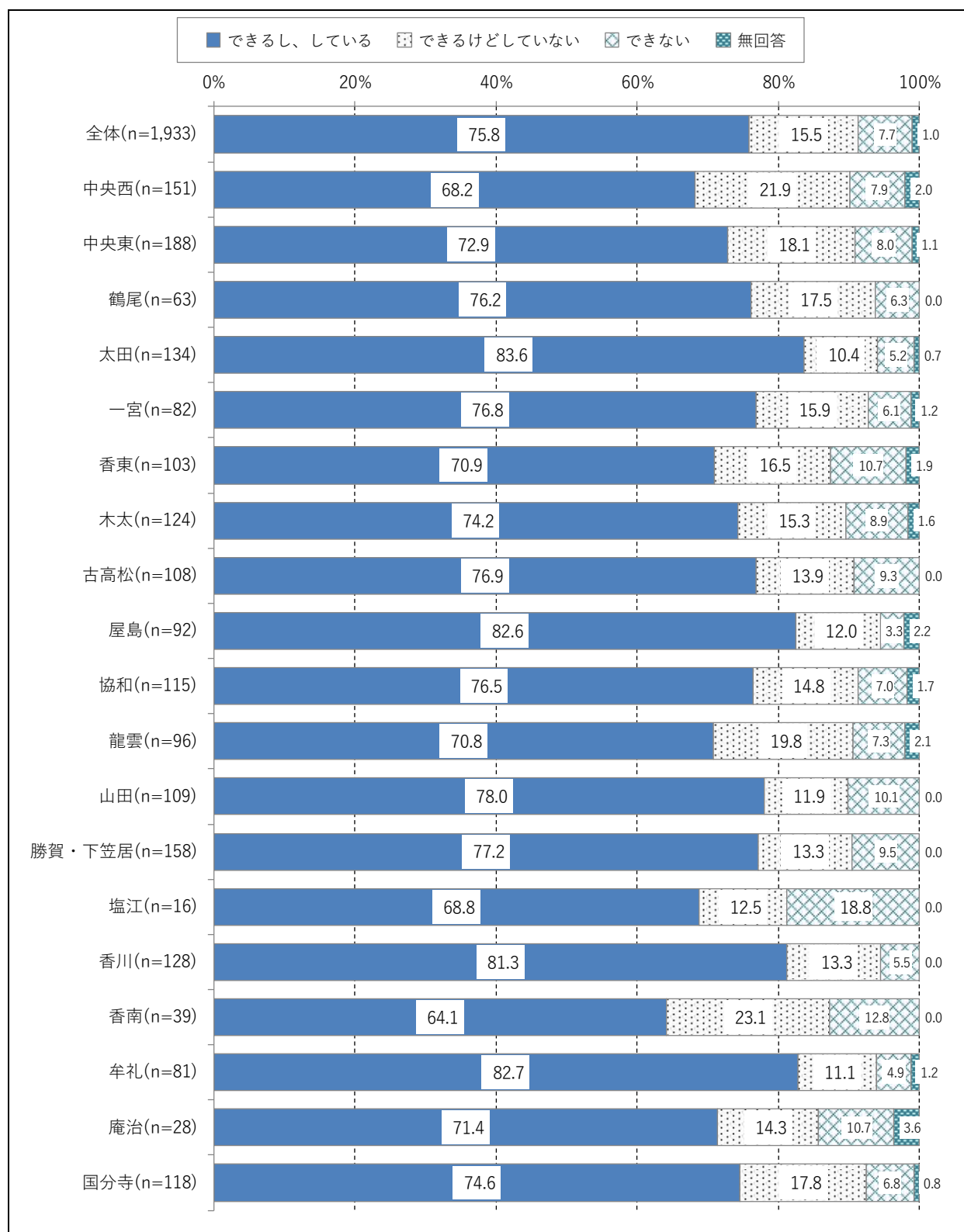
図表 39 公共交通機関を利用した1人での外出(全体)



●公共交通機関を利用した1人での外出をたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、75.8%となっています。次いで、「できるけどしていない」(15.5%)、「できない」(7.7%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

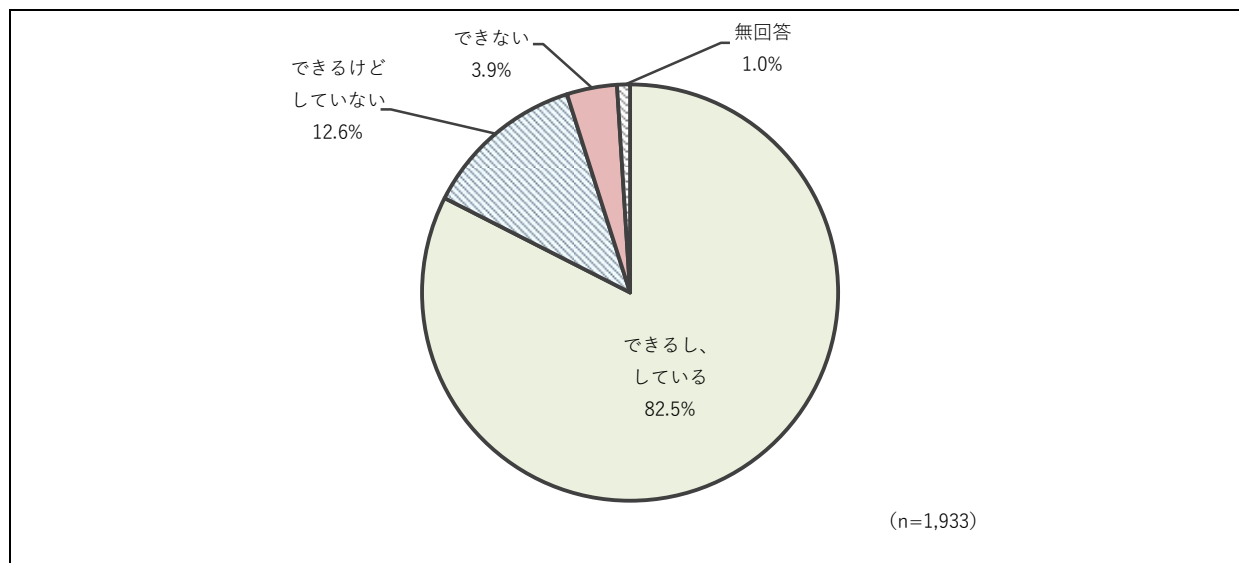
図表 40 公共交通機関を利用した1人での外出(日常生活圏域別)



- 公共交通機関を利用した1人での外出を日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「できるし、している」と回答した人の割合が最も高くなっています。
- 「できない」と回答した人の割合が、「塩江」(18.8%)、「香南」(12.8%)、「香東」、「庵治」(共に10.7%)、「山田」(10.1%)では1割を超えており、その他の圏域に比べて高くなっています。

問 26 自分で食品・日用品の買物をしていますか。【○は1つ】

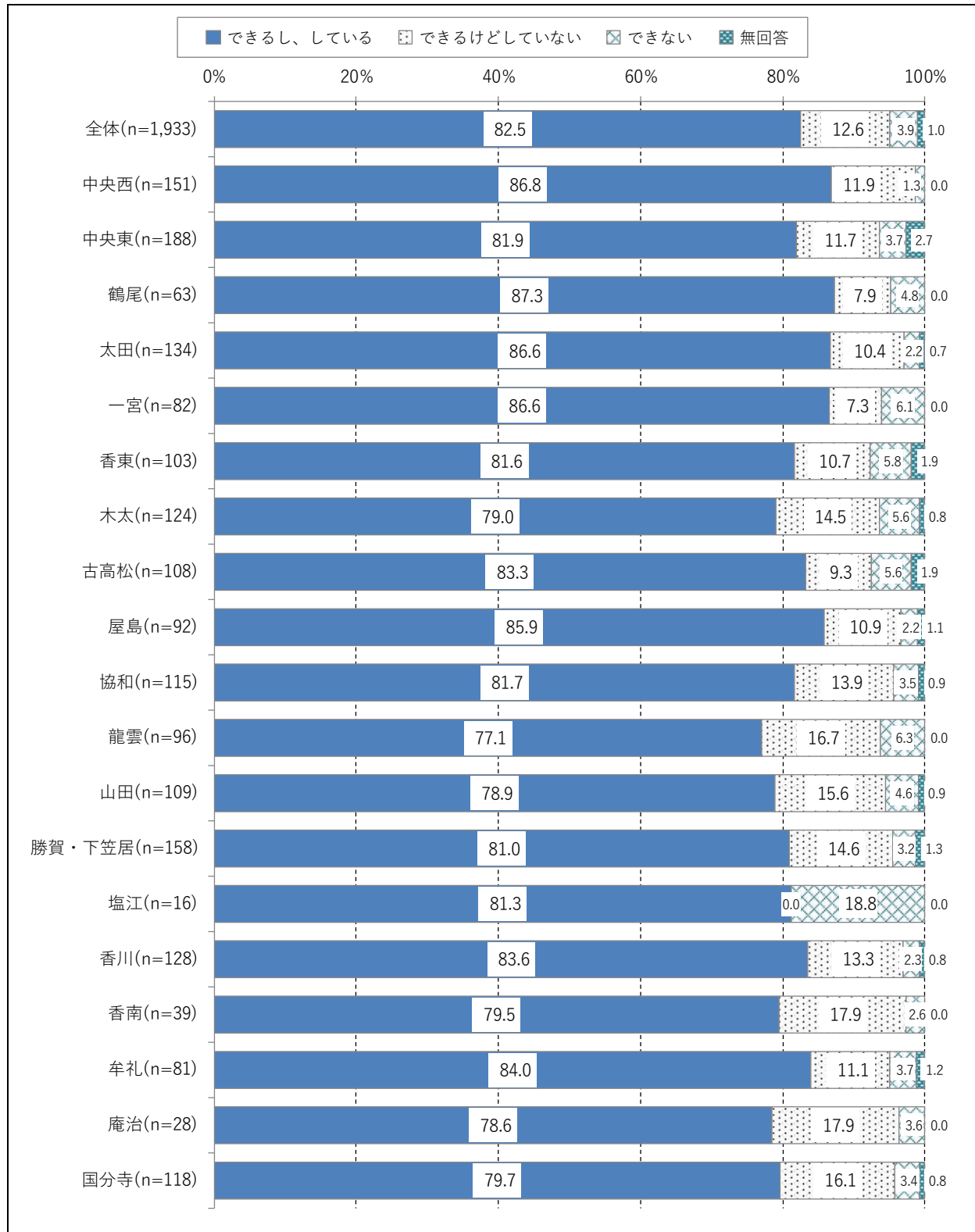
図表 41 自分で日用品等の買物をしているかについて(全体)



- 自分で食品・日用品の買物をしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、82.5%となっています。次いで、「できるけどしていない」(12.6%)、「できない」(3.9%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

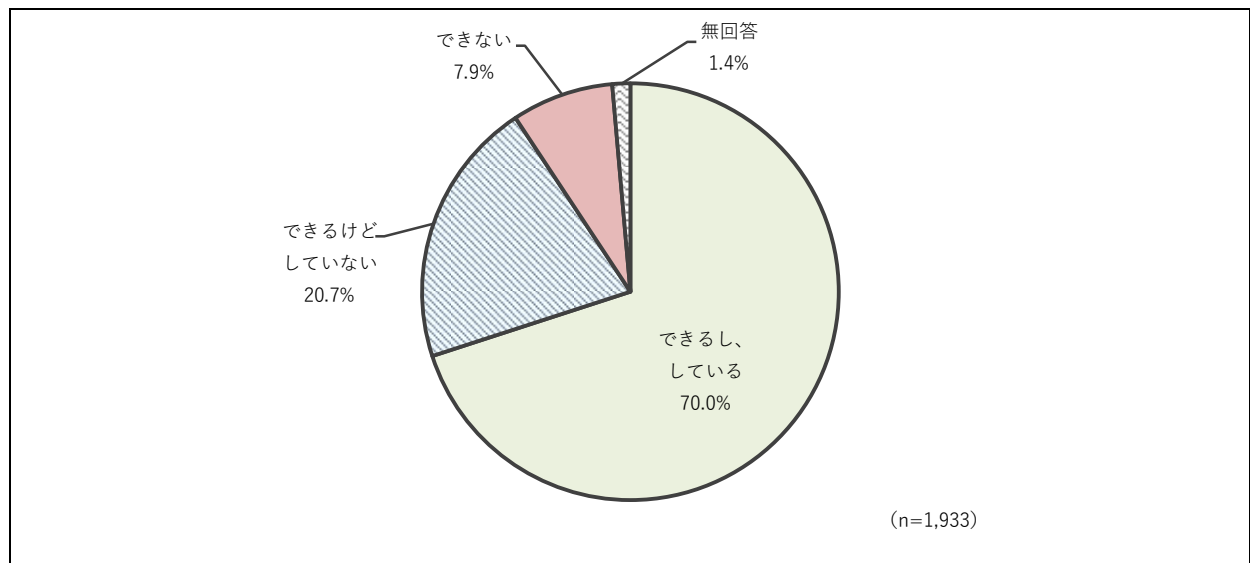
図表 42 自分で日用品等の買物をしているかについて(日常生活圏域別)



- 自分で日用品等の買物をしているかについて、日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「できるし、している」と回答した人の割合が最も高くなっています。
- 「できない」と回答した人の割合が、「塩江」では18.8%となっており、その他の圏域に比べて高くなっています。

問 27 自分で食事の用意をしていますか。【○は1つ】

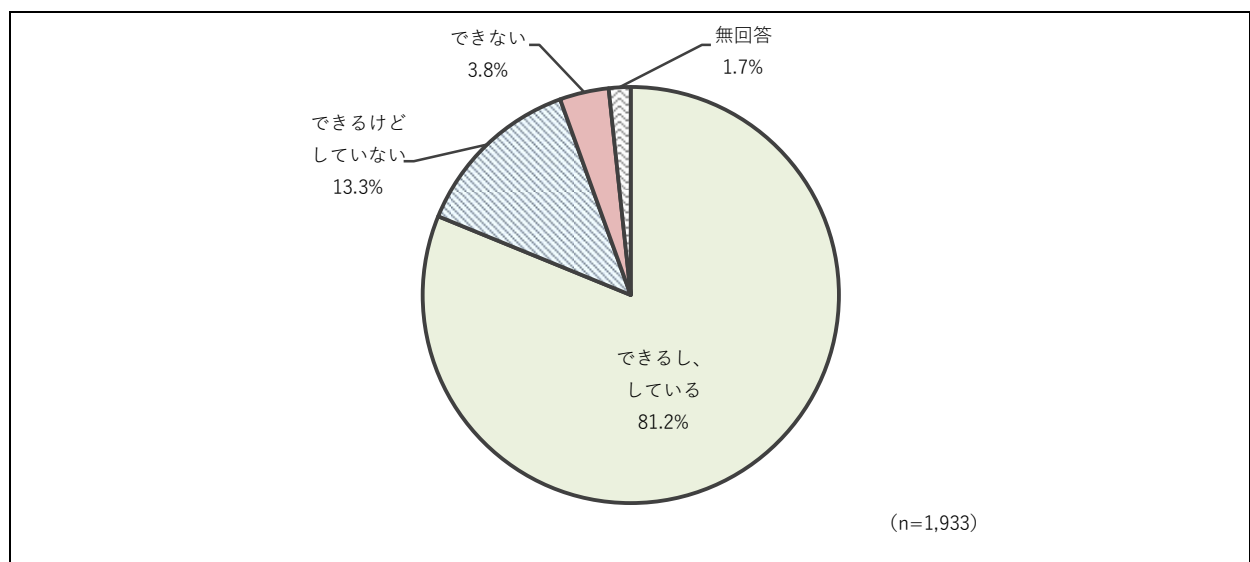
図表 43 自分で食事の用意をしているかについて(全体)



- 自分で食事の用意をしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、70.0%となっています。次いで、「できるけどしていない」(20.7%)、「できない」(7.9%)と続いています。

問 28 自分で請求書の支払いをしていますか。【○は1つ】

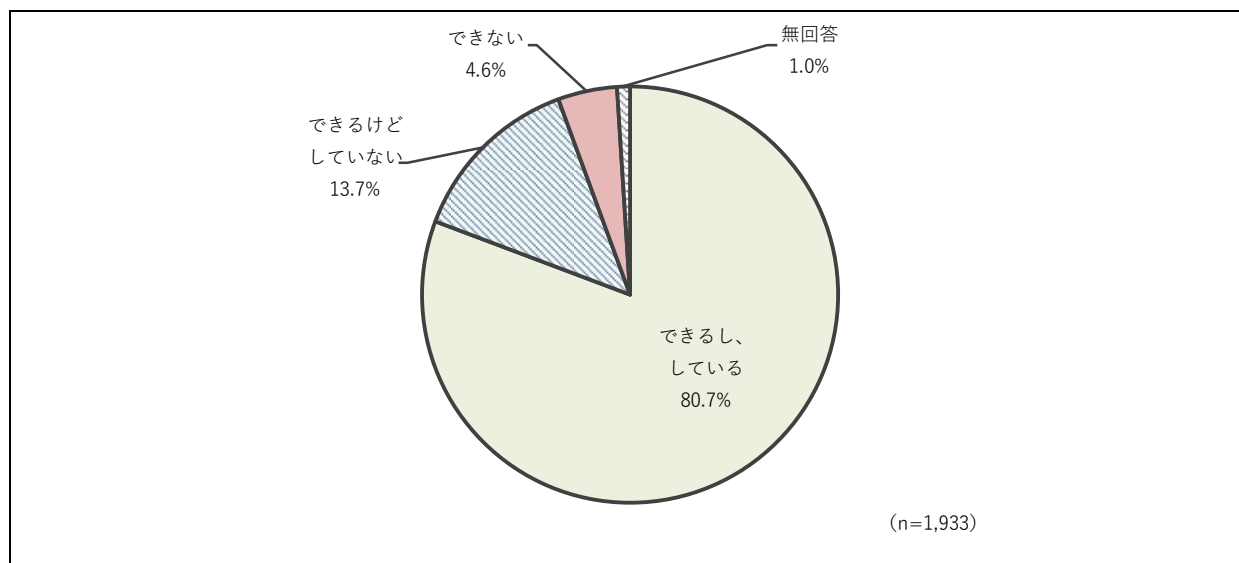
図表 44 自分で請求書の支払いをしているかについて(全体)



- 自分で請求書の支払いをしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、81.2%となっています。次いで、「できるけどしていない」(13.3%)、「できない」(3.8%)と続いています。

問 29 自分で預貯金の出し入れをしていますか。【○は1つ】

図表 45 自分で預貯金の管理をしているかについて(全体)



- 自分で預貯金の出し入れをしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、80.7%となっています。次いで、「できるけどしていない」(13.7%)、「できない」(4.6%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

(3)社会参加－知的能動性(老研式活動能力指標)

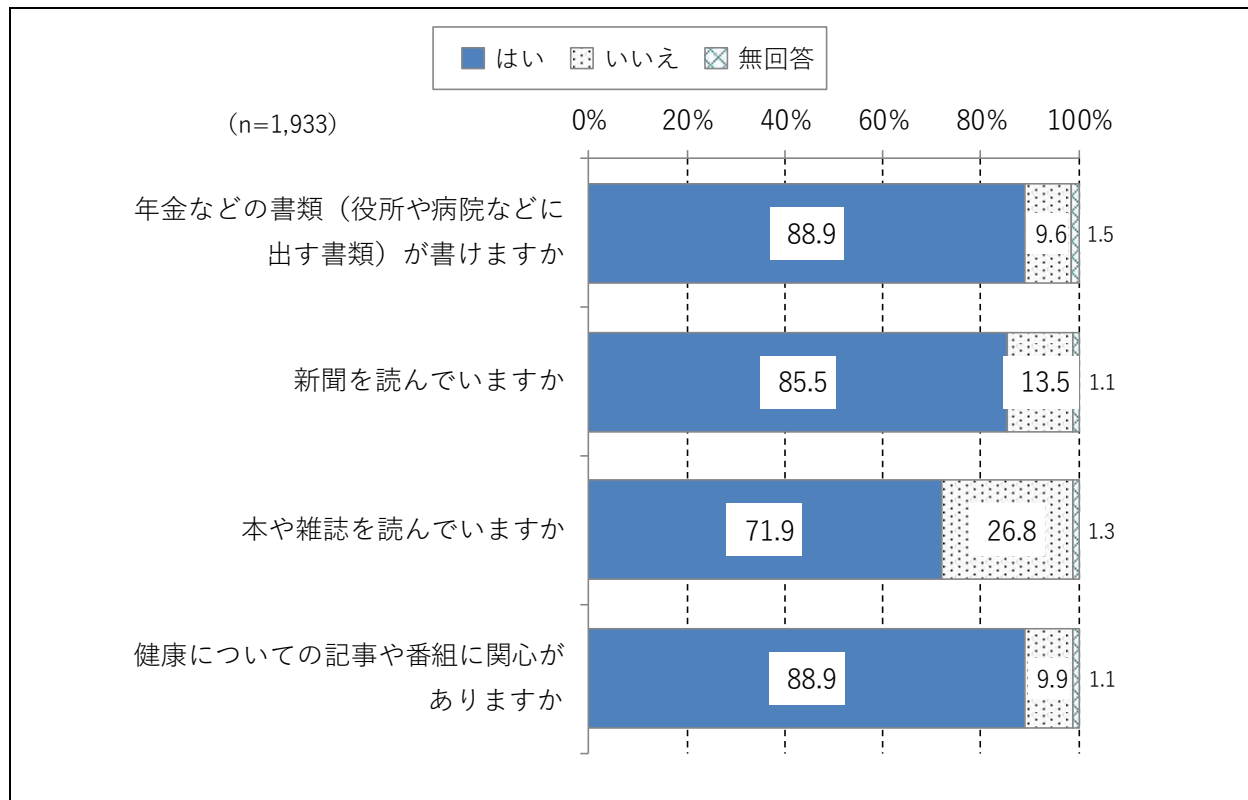
問 30 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。【○は1つ】

問 31 新聞を読んでいますか。【○は1つ】

問 32 本や雑誌を読んでいますか。【○は1つ】

問 33 健康についての記事や番組に関心がありますか。【○は1つ】

図表 46 書類の記入や読書等について(全体)

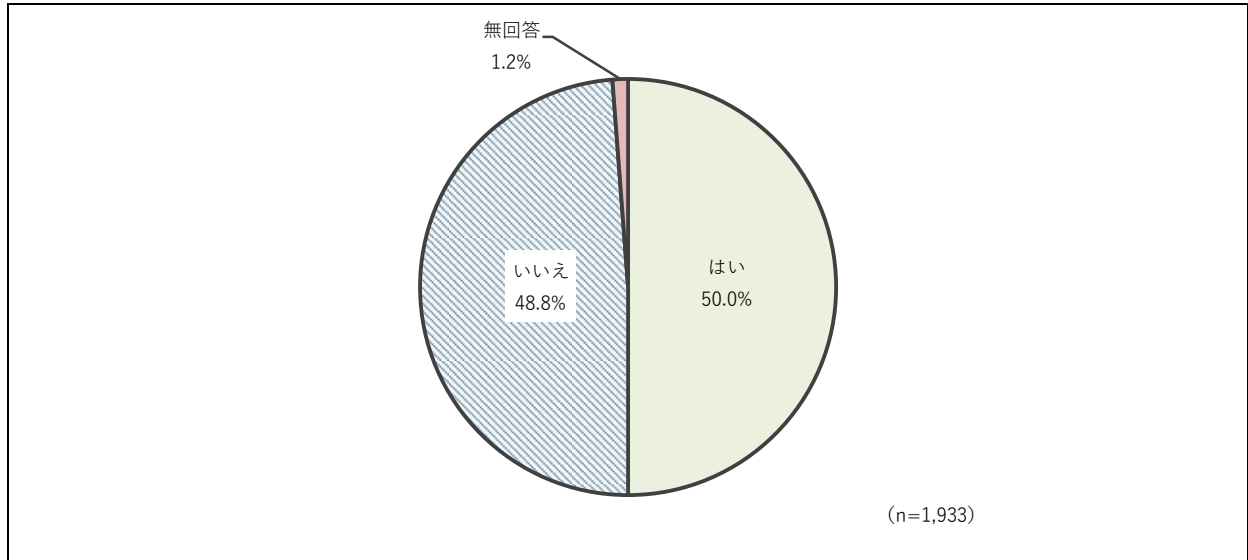


●知的能動性に関する項目についてたずねたところ、すべての設問で「はい」と回答した人の割合が「いいえ」と回答した人の割合を上回っていますが、「本や雑誌をよんでいますか」については、「はい」と回答した人の割合がほかの設問に比べて低くなっています。

(4)社会参加－社会的役割(老研式活動能力指標)

問 34 友人の家を訪ねていますか。【○は1つ】

図表 47 友人宅への訪問の有無について(全体)



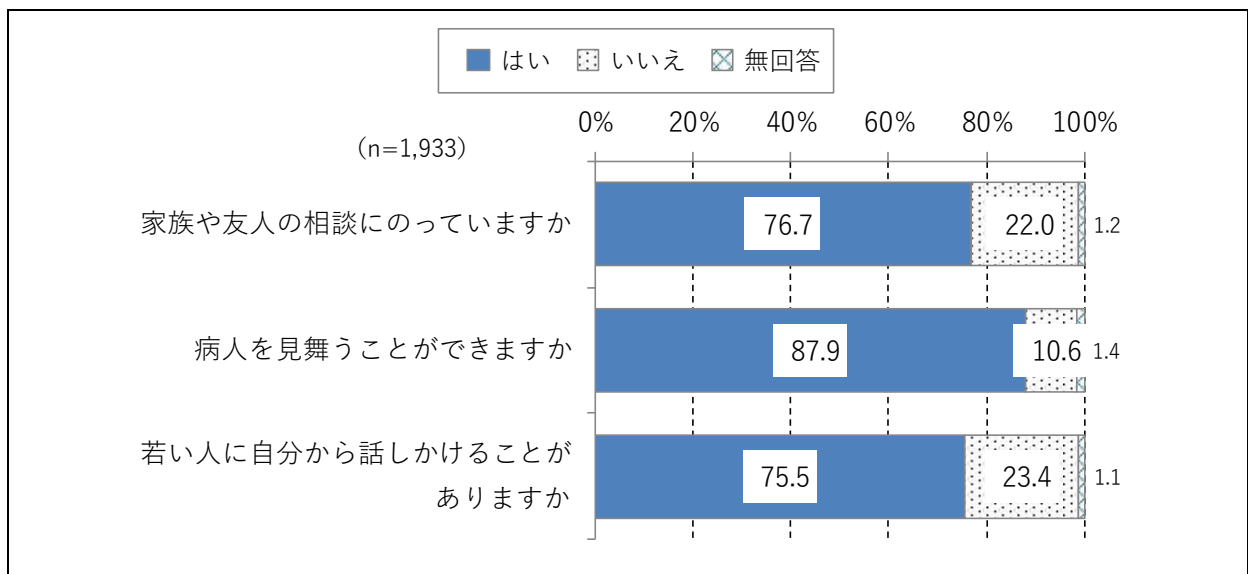
●友人宅への訪問の有無についてたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 50.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 48.8%となっています。

問 35 家族や友人の相談にのっていますか。【○は1つ】

問 36 病人を見舞うことができますか。【○は1つ】

問 37 若い人に自分から話しかけることがありますか。【○は1つ】

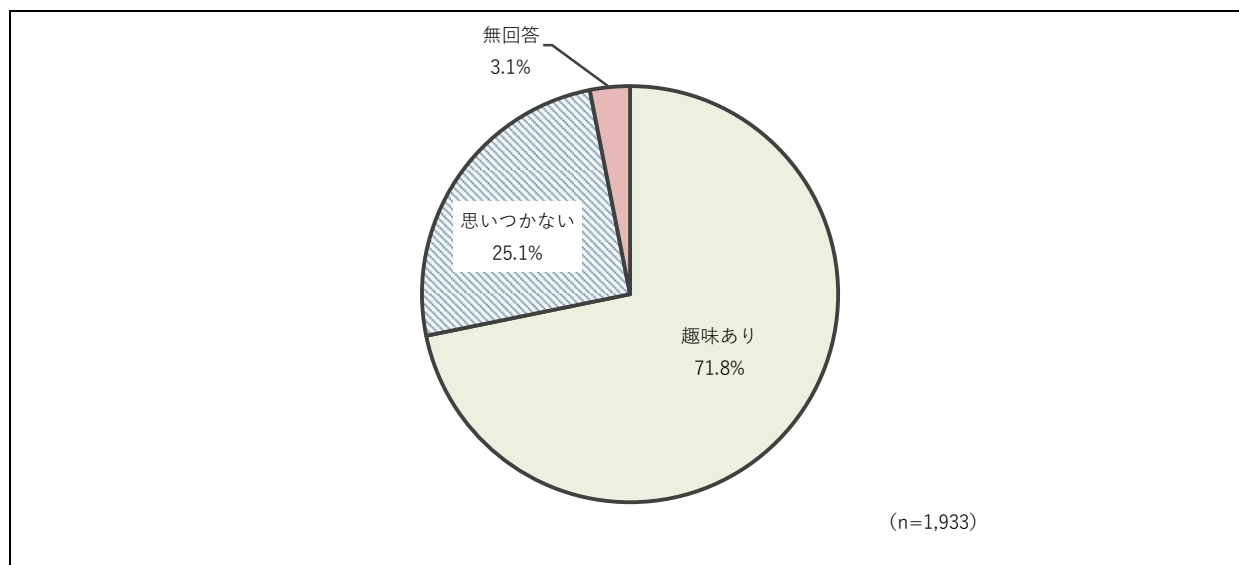
図表 48 社会的役割について(全体)



●社会的役割に関する項目についてたずねたところ、すべての設問で「はい」と回答した人の割合が「いいえ」と回答した人の割合を上回っており、特に「病人を見舞うことができますか」については、「はい」と回答した人の割合がほかの設問に比べて高くなっています。

問 38 趣味はありますか。【○は1つ】

図表 49 趣味の有無と内容(全体)

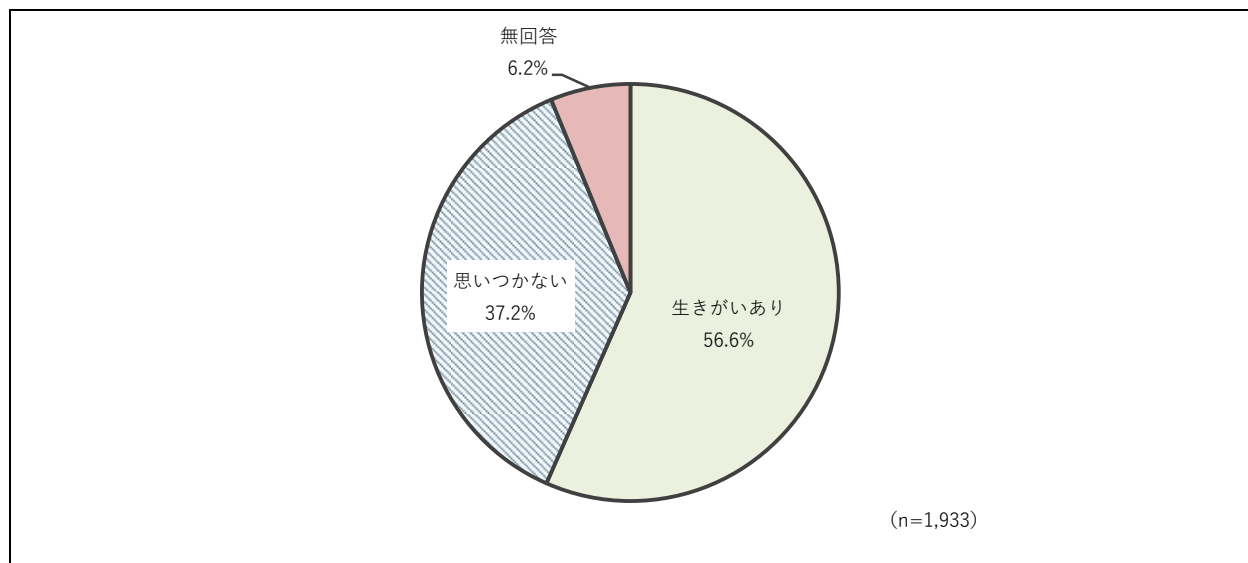


趣味の主な内容	件数
スポーツ(ゲートボール、ゴルフ、釣り、テニス、水泳など)	316
園芸、ガーデニング、草花の世話、家庭菜園	196
音楽鑑賞、楽器演奏、ダンス	120
読書、文字を読む	117
手芸(編み物、裁縫、折り紙、模型作成など)	115
外出、旅行、ドライブ	99
歌、カラオケ	88
絵画、塗り絵、書道	54
テレビ、ビデオ、DVD、映画鑑賞	50
囲碁、将棋	40
インターネット、パソコン、ゲーム	33
カメラ、写真撮影	29
ギャンブル(競馬、パチンコ、マージャンなど)	27
料理、食事	27
短歌、俳句、川柳、詩吟	24
仕事	12
その他(ナンプレ、日曜大工など)	28

- 趣味の有無をたずねたところ、「趣味あり」と回答した人の割合は 71.8%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は 25.1%となっています。
- 趣味の内容は、「スポーツ」、「園芸など」が多くなっています。

問 39 生きがいがありますか。【○は1つ】

図表 50 生きがいの有無と内容(全体)



生きがいの主な内容	件数
子や孫の成長、交流	380
趣味(TV、料理、音楽、読書、手芸など)	112
仕事	67
家族との交流	61
友人や地域の人達との交流	60
健康で自立した生活を送ること	50
園芸、ガーデニング、草花の世話、栽培	48
スポーツ(釣り、ゴルフ、ゲートボールなど)	45
ボランティア活動	20
信仰、宗教	4
その他	18

- 生きがいの有無についてたずねたところ、「生きがいあり」と回答した人の割合は 56.6%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は 37.2%となっています。
- 生きがいの内容は、「子や孫の成長、交流」、「趣味など」が多くなっています。

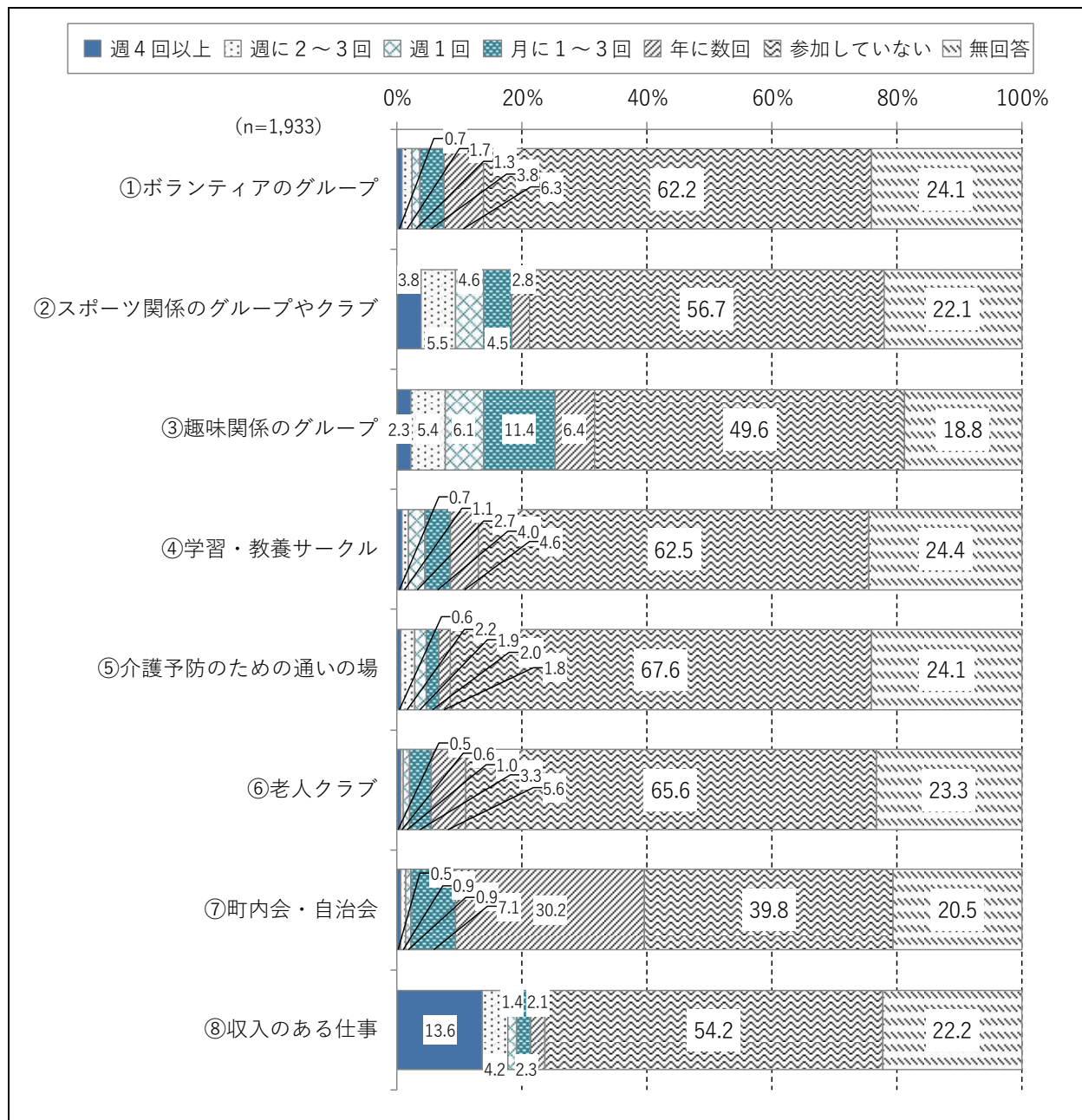
6. 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

問 40 以下のような①～⑧の会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

【①～⑧それぞれに○は1つずつ】

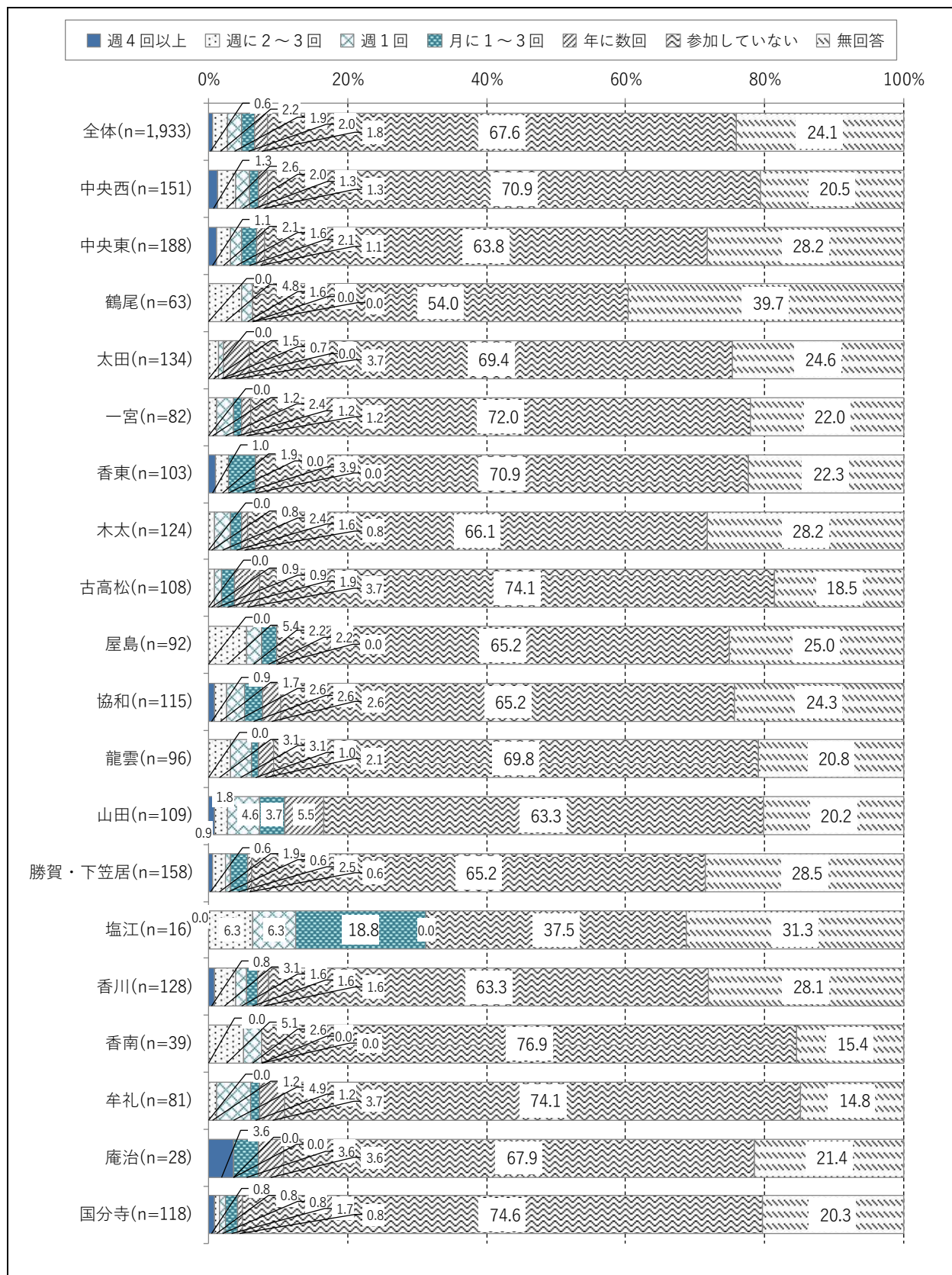
図表 51 社会参加の状況(全体)



●社会参加の頻度についてたずねたところ、③趣味関係のグループや⑦町内会・自治会に参加している人が多くなっています。その頻度については、③趣味関係のグループでは「月1～3回」(11.4%)、⑦町内会・自治会では「年に数回」(30.2%)の頻度で参加している人が多くなっています。一方、「参加していない」の割合については、③趣味関係のグループと⑦町内会・自治会以外の会・グループ等で5割を超える結果となっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 52 介護予防のための通いの場の参加状況(日常生活圏域別)

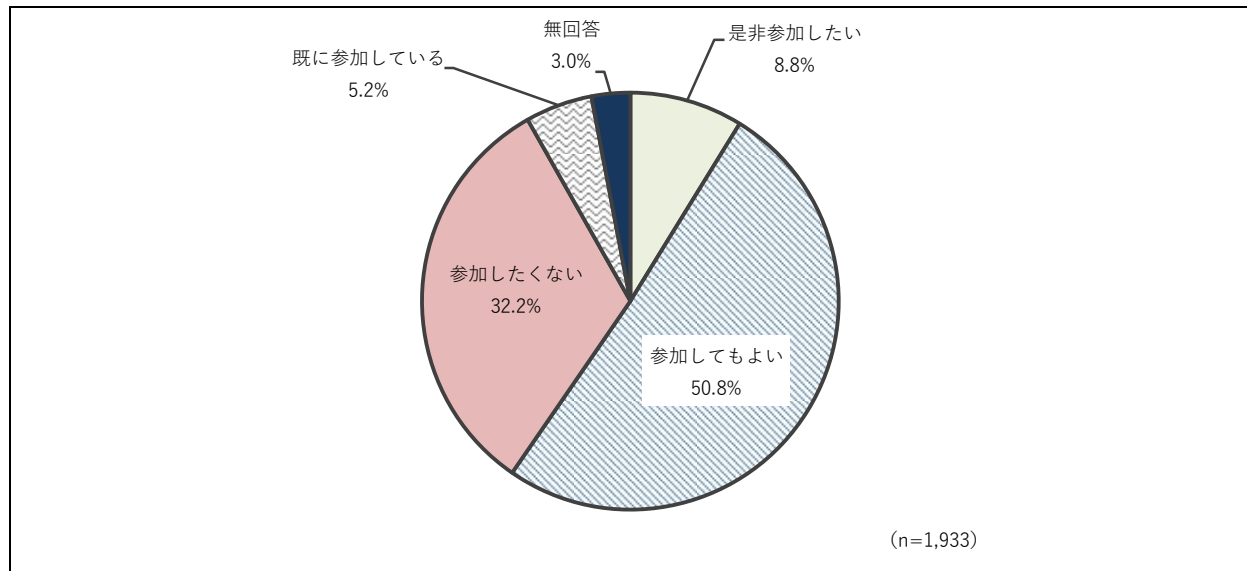


●介護予防のための通いの場の参加状況を日常生活圏域別にみると、「週4回以上」「週2~3回」「週1回」「月1~3回」のいずれかを選択した「月に1回以上参加している」人の割合は、「塩江」(31.4%)が突出して高くなっています。「山田」(16.5%)についても、その他の圏域に比べて割合が高くなっています。

(2)地域づくりへの参加意向(参加者)

問 41 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

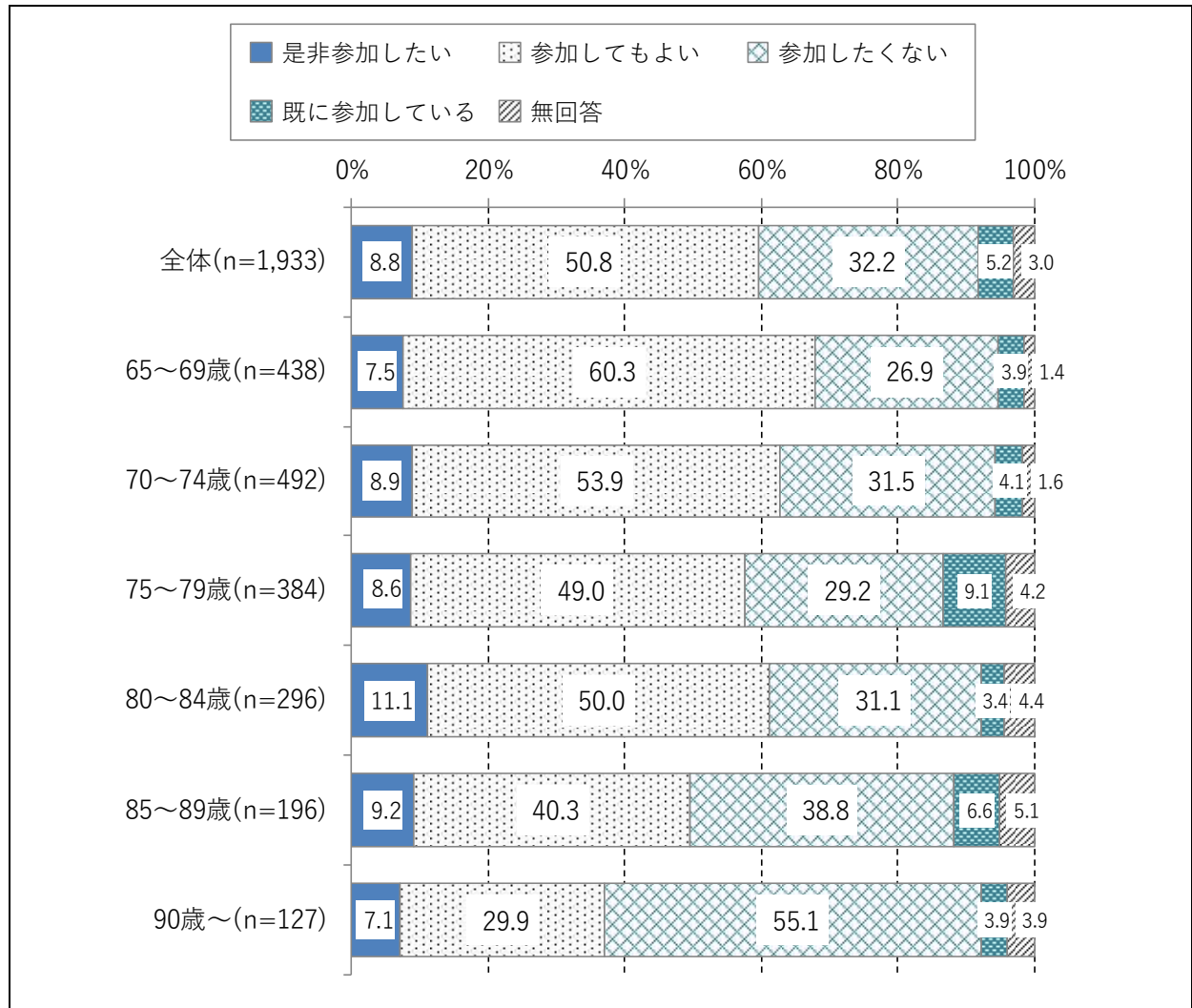
図表 53 地域づくりへの参加意向(参加者)(全体)



●地域づくりへの参加意向をたずねたところ、「参加してもよい」と回答した人の割合が最も高く、50.8%となっています。次いで、「参加したくない」(32.2%)、「是非参加したい」(8.8%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

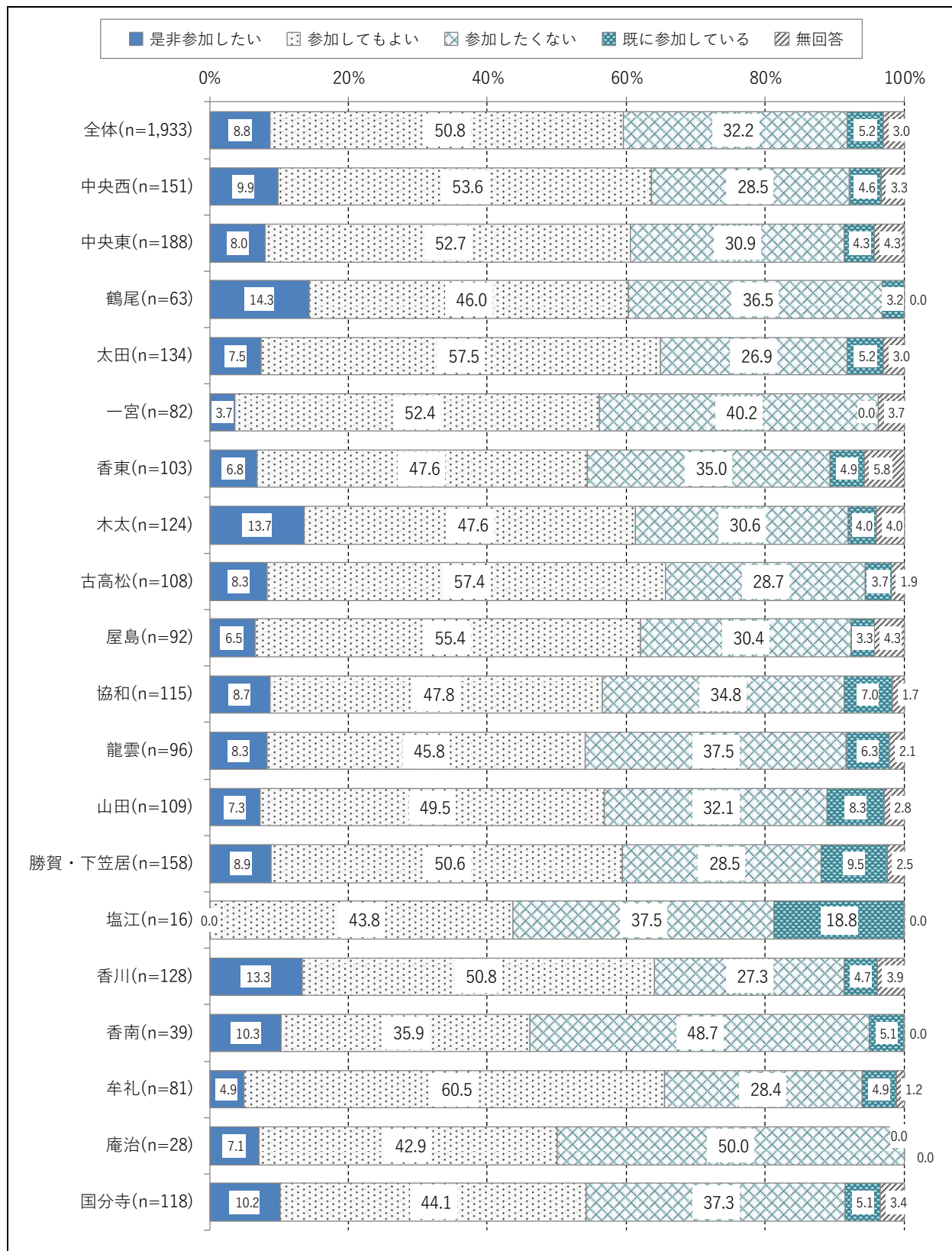
図表 54 地域づくりへの参加意向(参加者)(年齢階層別)



●地域づくりへの参加意向を年齢階層別にみると、「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した人の割合は、「65～84 歳」の 4 つの年齢階層では概ね同様の傾向にあります。が、「80～84 歳」から段階的に割合が低下しています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 55 地域づくりへの参加意向(参加者)(日常生活圏域別)

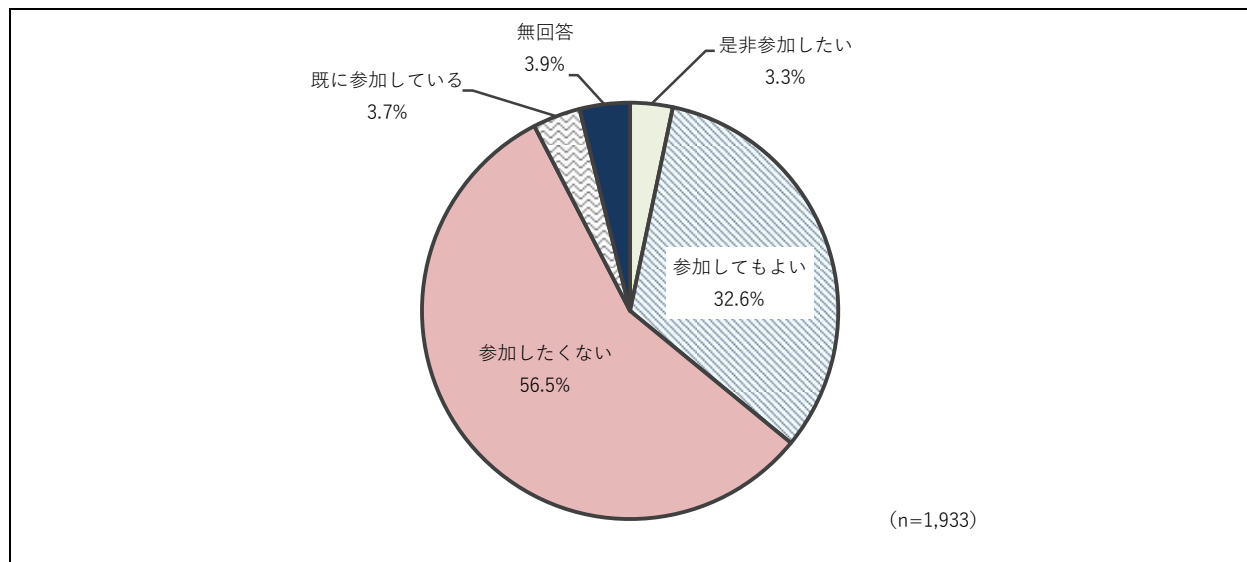


●地域づくりへの参加意向を日常生活圏域別にみると、「是非参加したい」または「参加してもよい」と回答した人の割合は、「古高松」が最も高く 65.7%となっています。次いで、「牟礼」(65.4%)、「太田」(65.0%)と続いています。

(3)地域づくりへの参加意向(企画・運営)

問 42 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

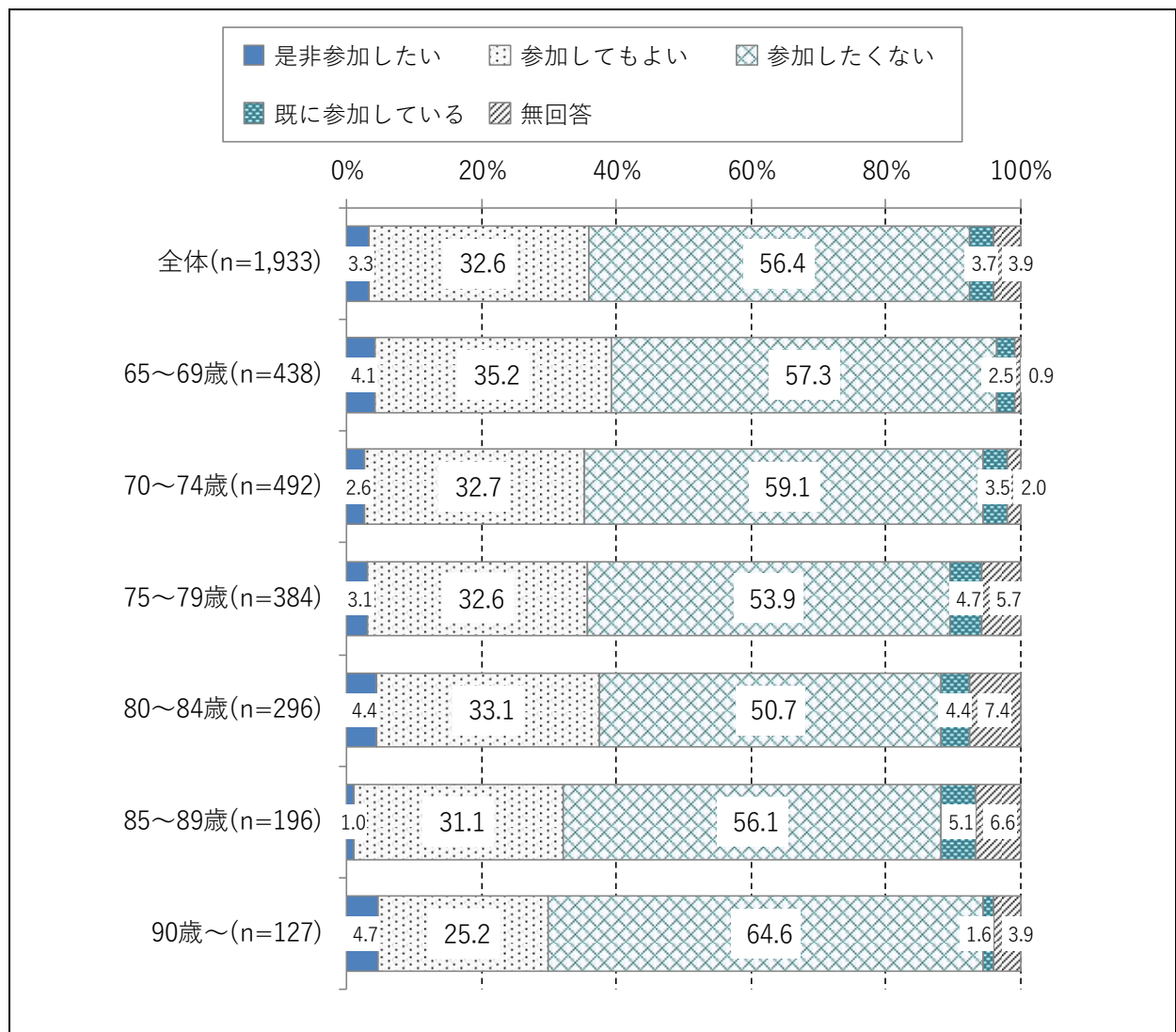
図表 56 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(全体)



●地域づくりへの参加意向(企画・運営)をたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、56.5%となっています。次いで、「参加してもよい」(32.6%)、「既に参加している」(3.7%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 57 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(年齢階層別)

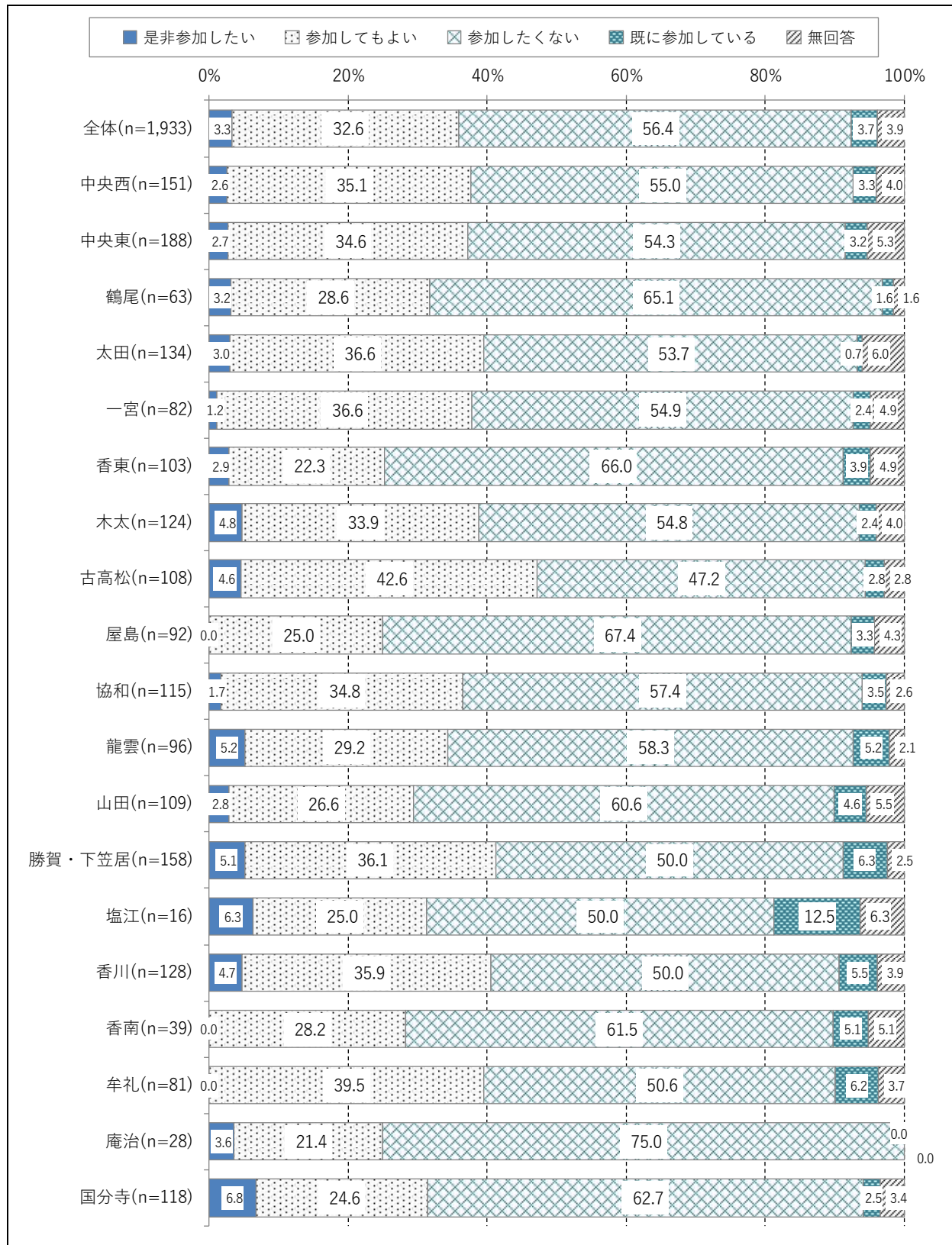


●地域づくりへの参加意向(企画・運営)を年齢階層別にみると、「是非参加したい」または「参加してもよい」と回答した人の割合は、「65～69 歳」が最も高く 39.3%となっています。次いで、「80～84 歳」(37.5%)、「75～79 歳」(35.7%)と続いています。

●年齢階層別に、図表 54「参加者」として「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した人と「企画・運営」として「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した人の割合を比較してみると、「65～69 歳」については 28.5 ポイント低下しているのに対し、「90 歳～」については 7.1 ポイントの低下に留まっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 58 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(日常生活圏域別)



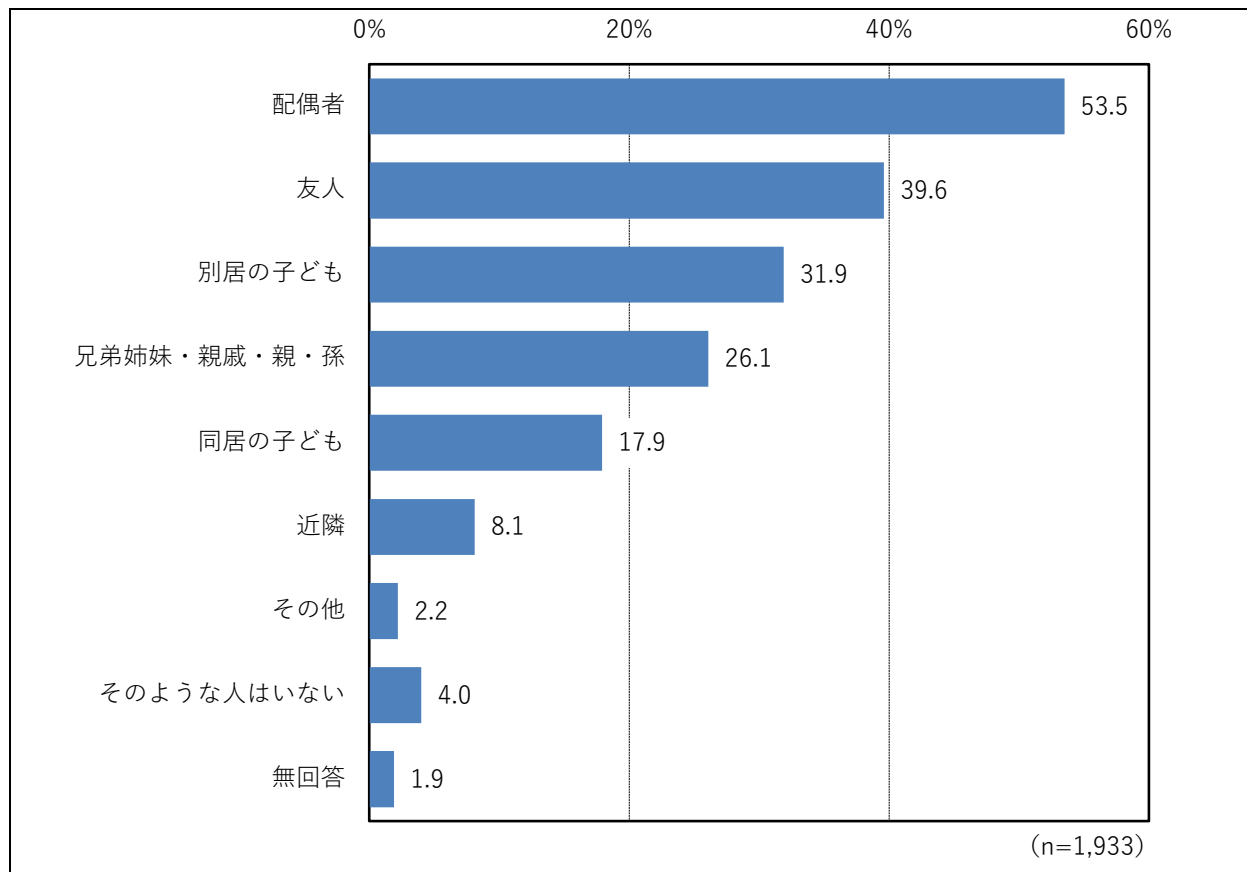
●地域づくりへの参加意向(企画・運営)を、日常生活圏域別にみると、「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した人を合算した割合は、「古高松」が最も高く 47.2%となっています。次いで、「勝賀・下笠居」(41.2%)、「香川」(40.6%)と続いています。

7.「たすけあい」について

(1)たすけあいの状況

問 43 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

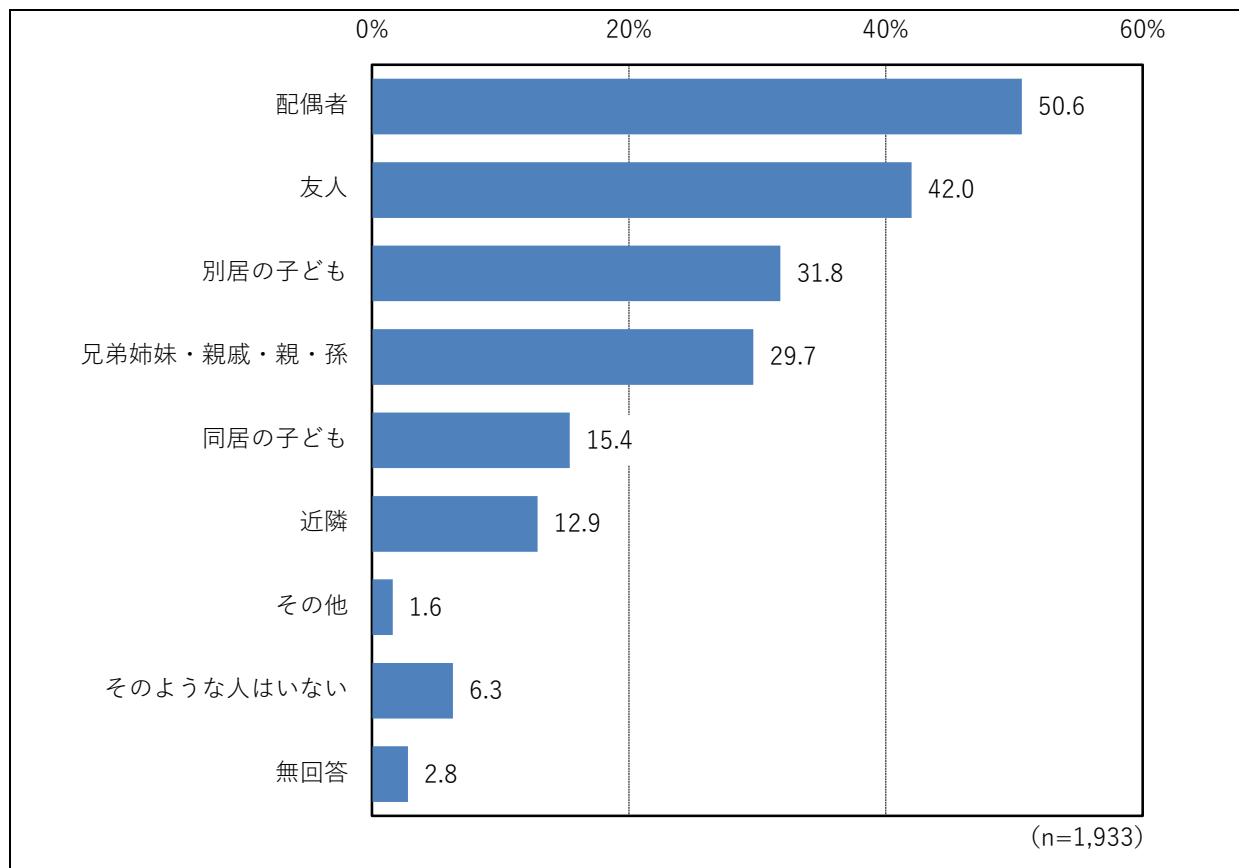
図表 59 心配事や愚痴を聞いてくれる人(全体／複数回答)



●心配事や愚痴を聞いてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、53.5%となっています。次いで、「友人」(39.6%)、「別居の子ども」(31.9%)と続いています。

問 44 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

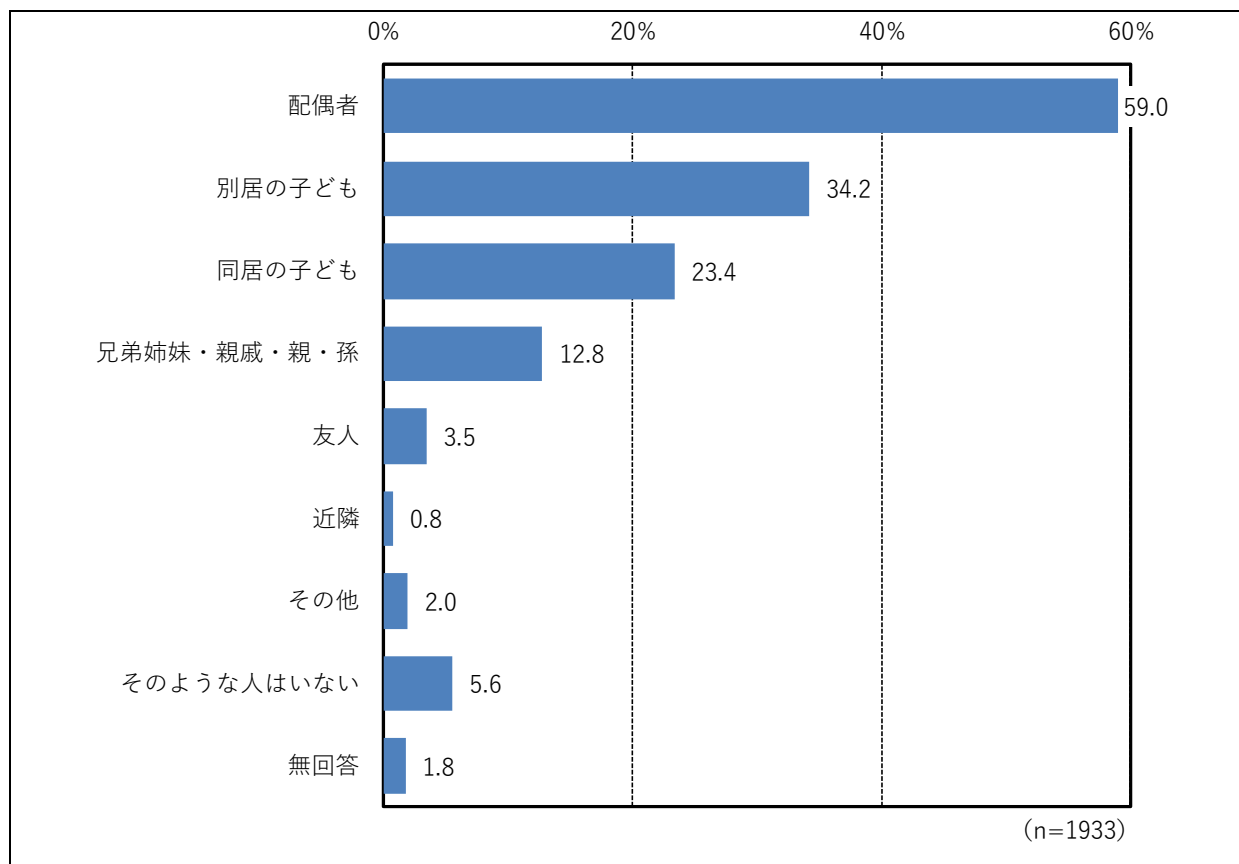
図表 60 心配事や愚痴を聞いてあげる人(全体／複数回答)



●反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、50.6%となっています。次いで、「友人」(42.0%)、「別居の子ども」(31.8%)と続いています。

問 45 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

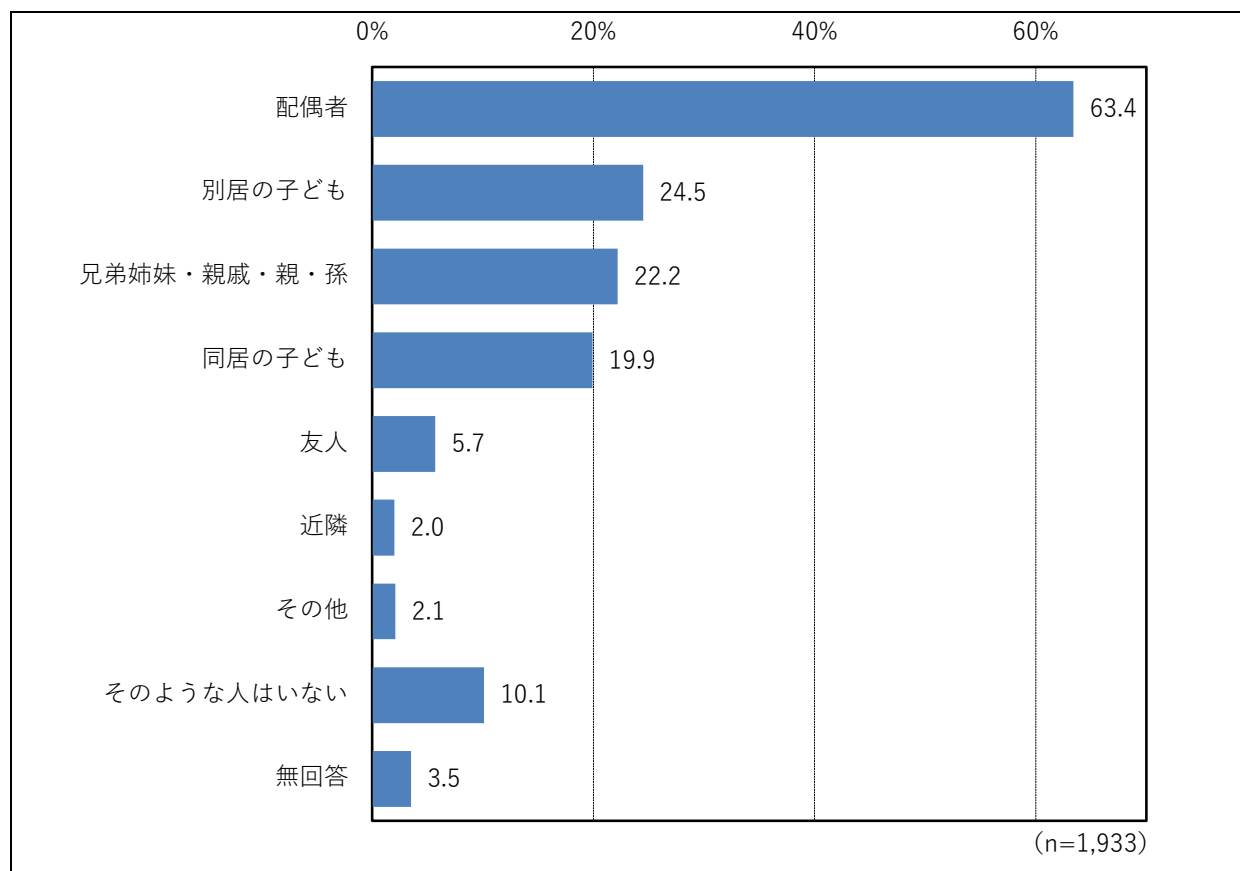
図表 61 看病や世話をしてくれる人(全体／複数回答)



●看病や世話をしてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、59.0%となっています。次いで、「別居の子ども」(34.2%)、「同居の子ども」(23.4%)と続いています。

問 46 反対に、あなたが看病や世話をしあける人はどなたですか。【〇はいくつでも】

図表 62 看病や世話をしあける人(全体／複数回答)



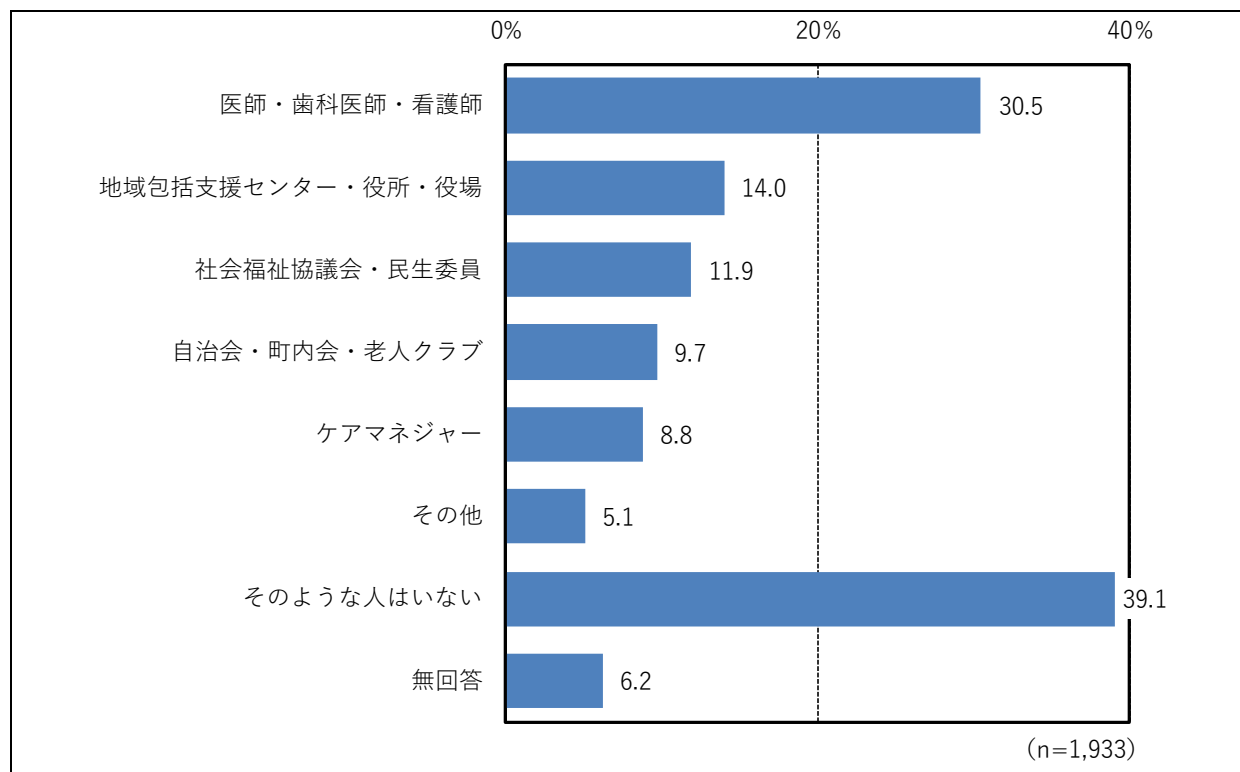
●反対に、あなたが看病や世話をしあける人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、63.4%となっています。次いで、「別居の子ども」(24.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(22.2%)と続いています。

(2)地域の相談窓口の活用状況

問 47 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

【○はいくつでも】

図表 63 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手(全体／複数回答)

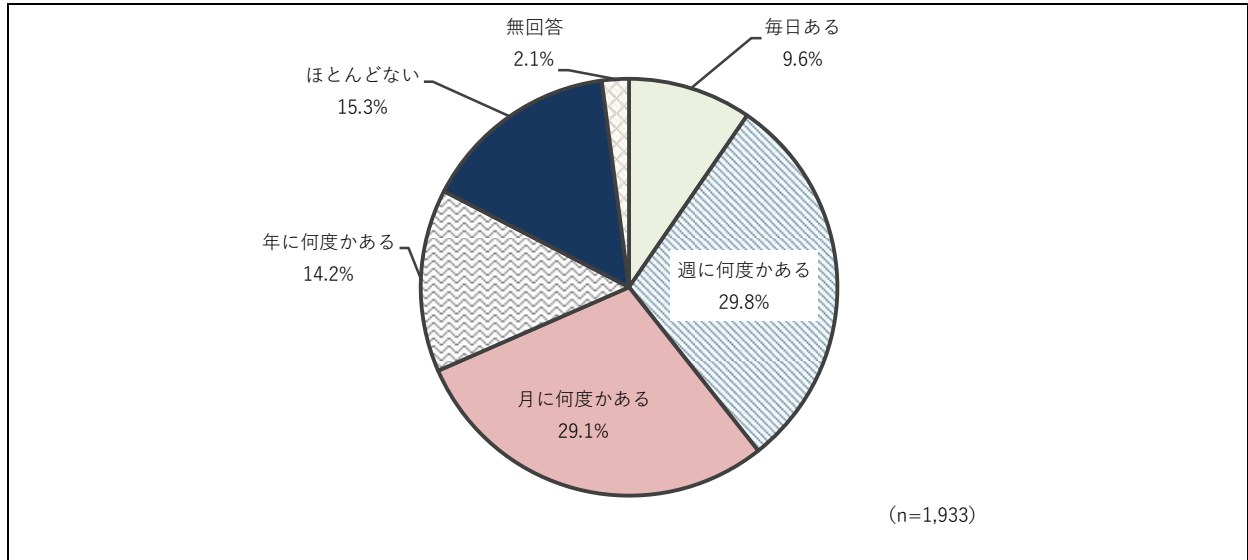


●家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をたずねたところ、「そのような人はいない」と回答した人の割合は 39.1%となっています。一方、「そのような人はいない」(39.1%)、「無回答」(6.2%)を差し引いた 54.7%は、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手がいると回答しています。その相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」と回答した人の割合が最も高く、30.5%となっています。次いで、「地域包括支援センター・役所・役場」(14.0%)、「社会福祉協議会・民生委員」(11.9%)と続いています。

(3)友人関係について

問 48 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【○は1つ】

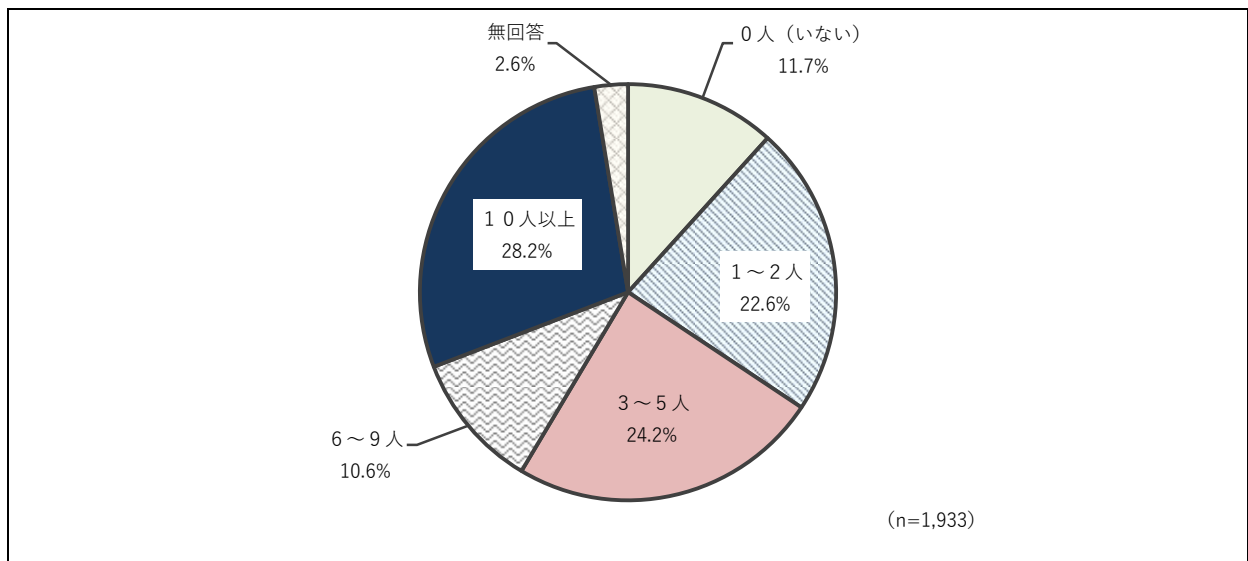
図表 64 友人・知人と会う頻度(全体)



●友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「週に何度かある」と回答した人の割合が最も高く、29.8%となっています。次いで、「月に何度かある」(29.1%)、「ほとんどない」(15.3%)と続いています。

問 49 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。【○は1つ】

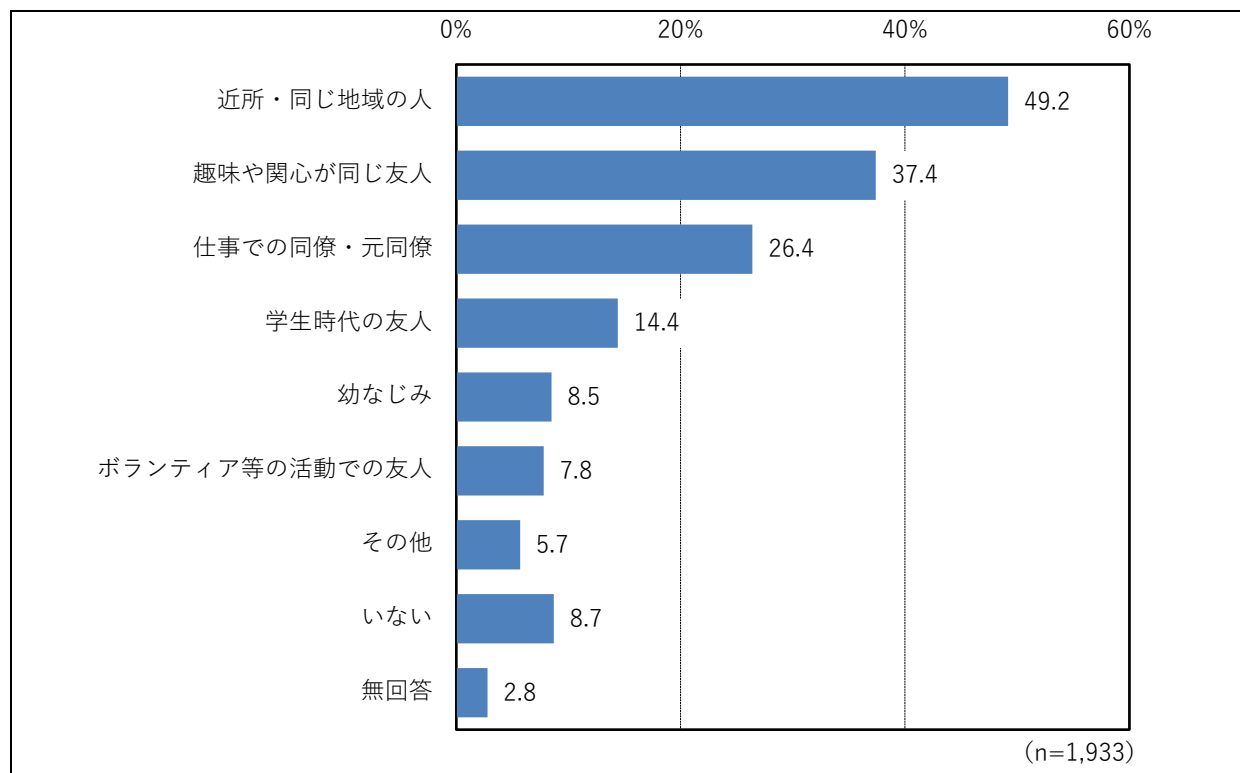
図表 65 1か月間に会った友人・知人の人数(全体)



●この1か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「10人以上」と回答した人の割合が最も高く、28.2%となっています。次いで、「3～5人」(24.2%)、「1～2人」(22.6%)と続いています。

問 50 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。【○はいくつでも】

図表 66 よく会う友人・知人との間柄について(全体／複数回答)



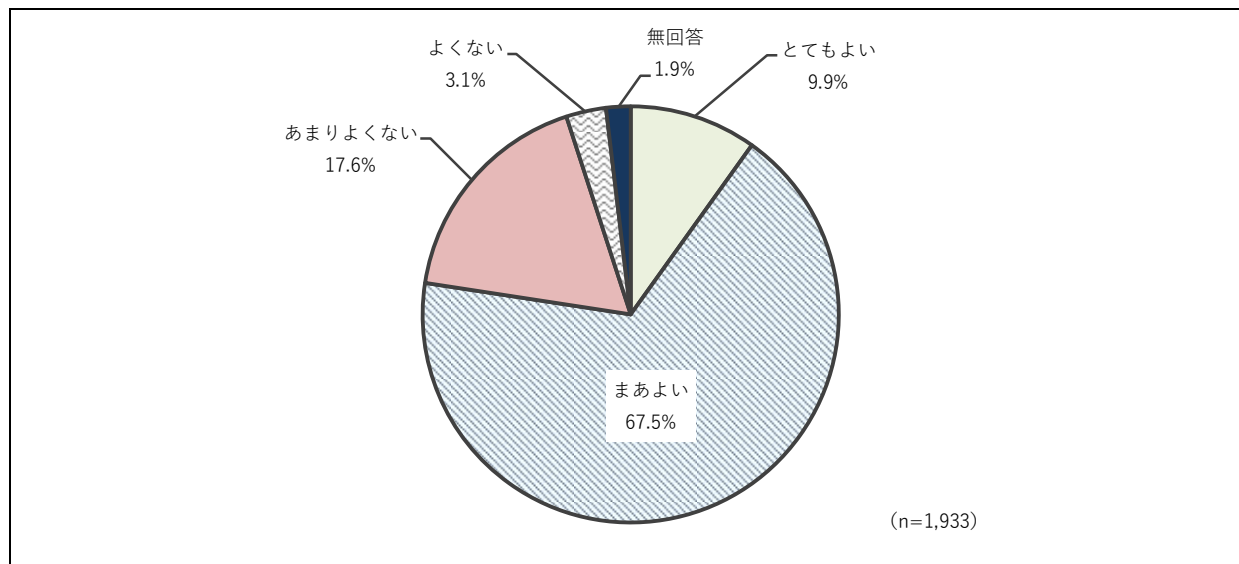
●よく会う友人・知人との間柄についてたずねたところ、「近所・同じ地域の人」と回答した人の割合が最も高く、49.2%となっています。次いで、「趣味や関心が同じ友人」(37.4%)、「仕事での同僚・元同僚」(26.4%)と続いています。

8. 健康について

(1) 主観的健康感

問 51 現在のあなたの健康状態はいかがですか。【○は1つ】

図表 67 主観的健康感(全体)

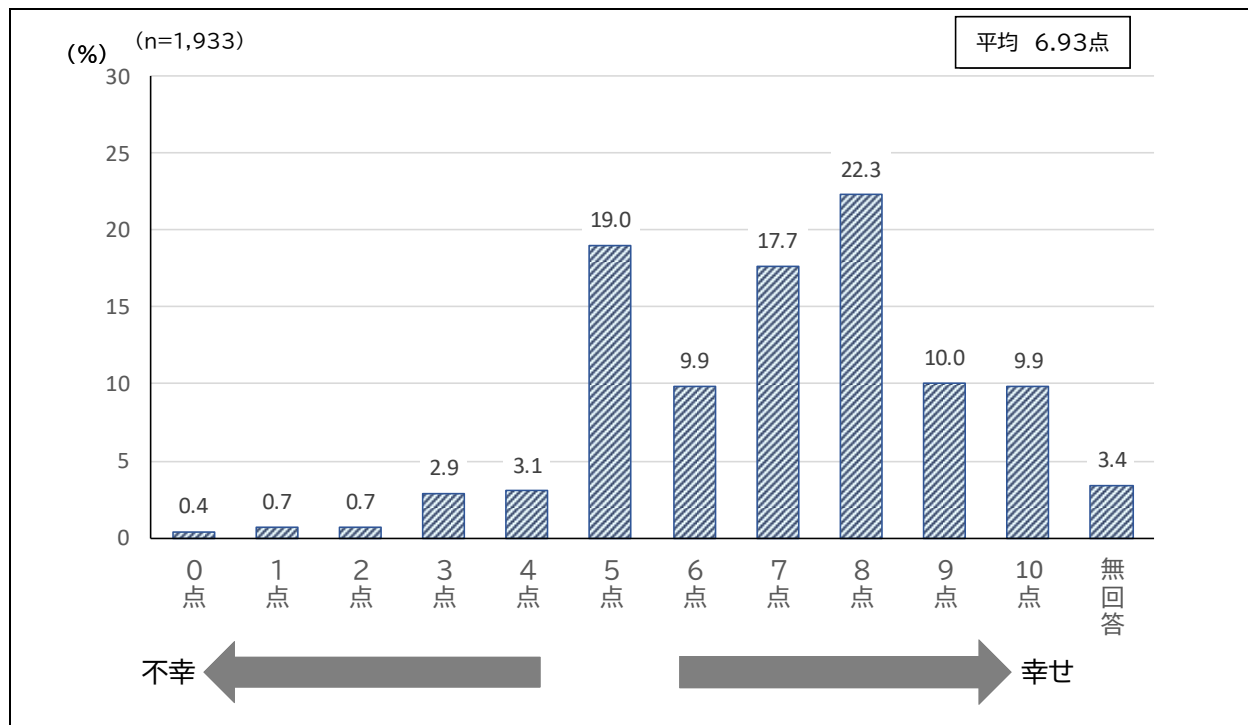


●主観的健康感をたずねたところ、「まあよい」と回答した人の割合が最も高く、67.5%となっています。次いで、「あまりよくない」(17.6%)、「とてもよい」(9.9%)と続いています。

(2)主観的幸福感

問 52 あなたは、現在どの程度幸せですか。【○は1つ】

図表 68 主観的幸福感(全体、平均点)



●主観的幸福感について点数で評価したところ、「7点」が22.3%と最も高くなっています。次いで、「4点」(19.0%)、「6点」(17.7%)と続いています。平均は6.93点となっています。

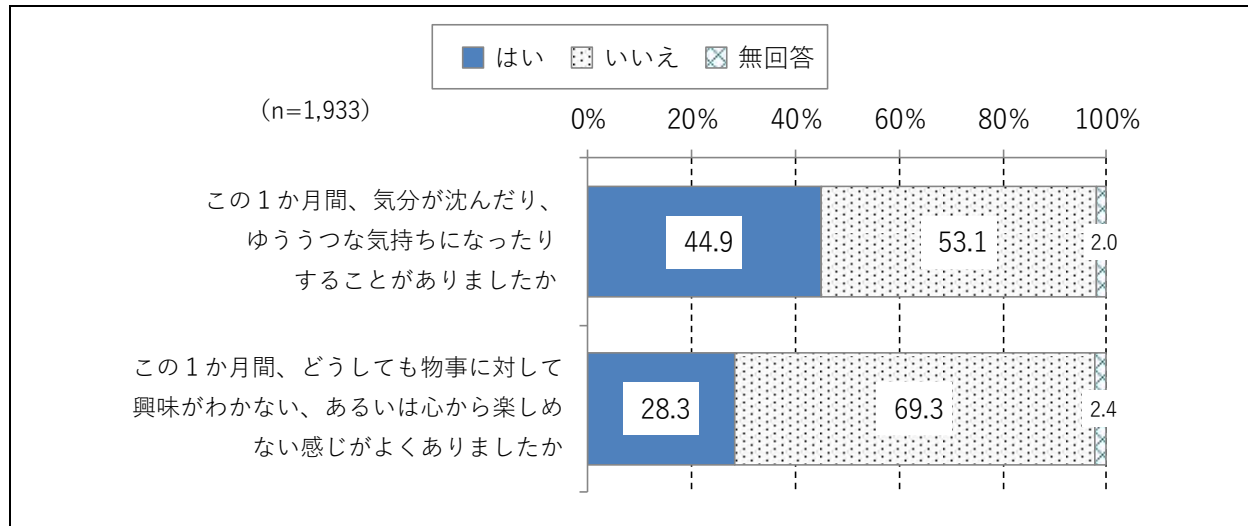
(3)うつ傾向について

問 53 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

【○は1つ】

問 54 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。【○は1つ】

図表 69 うつ傾向について(全体)

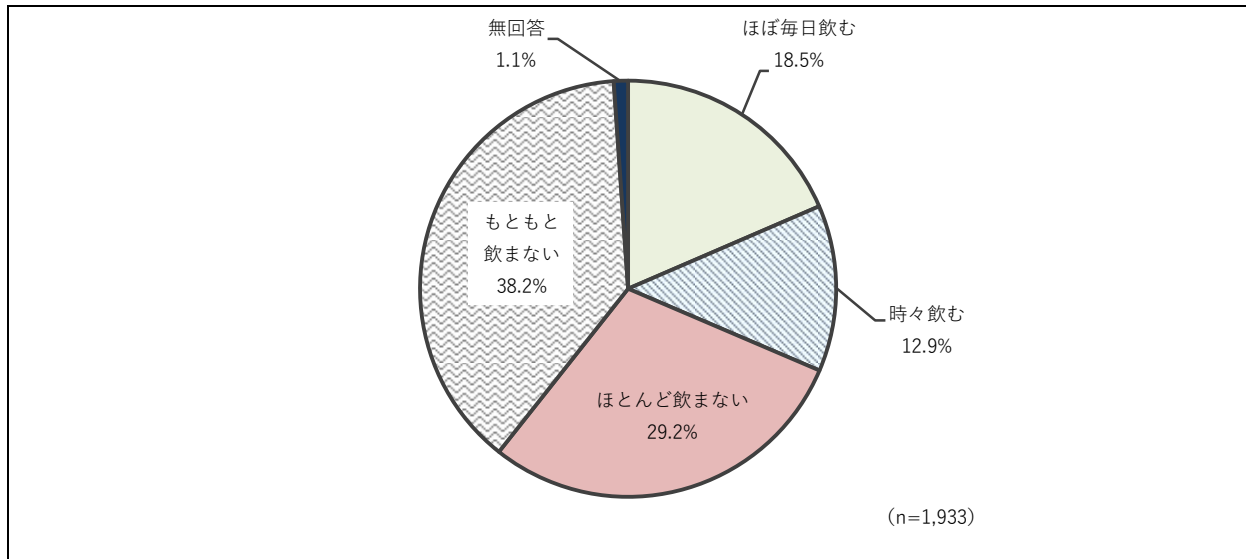


●この1か月のうつ傾向についてたずねたところ、「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」については「はい」と回答した人の割合が44.9%、「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」については「はい」と回答した人の割合が28.3%となっています。

(4) 飲酒、喫煙の習慣

問 55 お酒は飲みますか。【○は1つ】

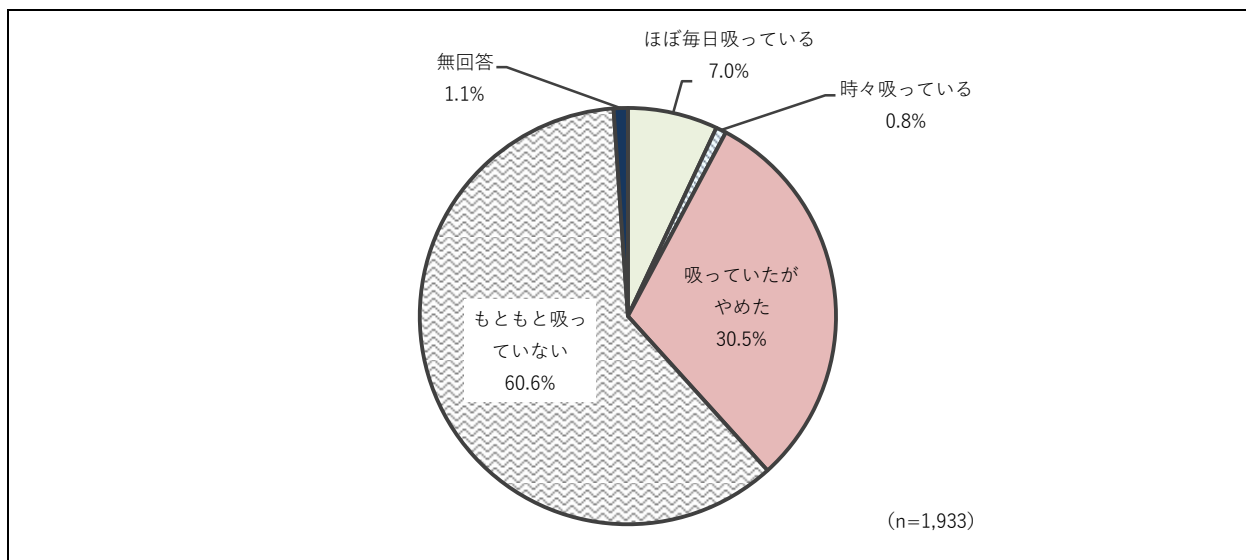
図表 70 飲酒の習慣(全体)



●飲酒の習慣をたずねたところ、「もともと飲まない」と回答した人の割合が最も高く、38.2%となっています。次いで、「ほとんど飲まない」(29.2%)、「ほぼ毎日飲む」(18.5%)と続いています。

問 56 タバコは吸っていますか。【○は1つ】

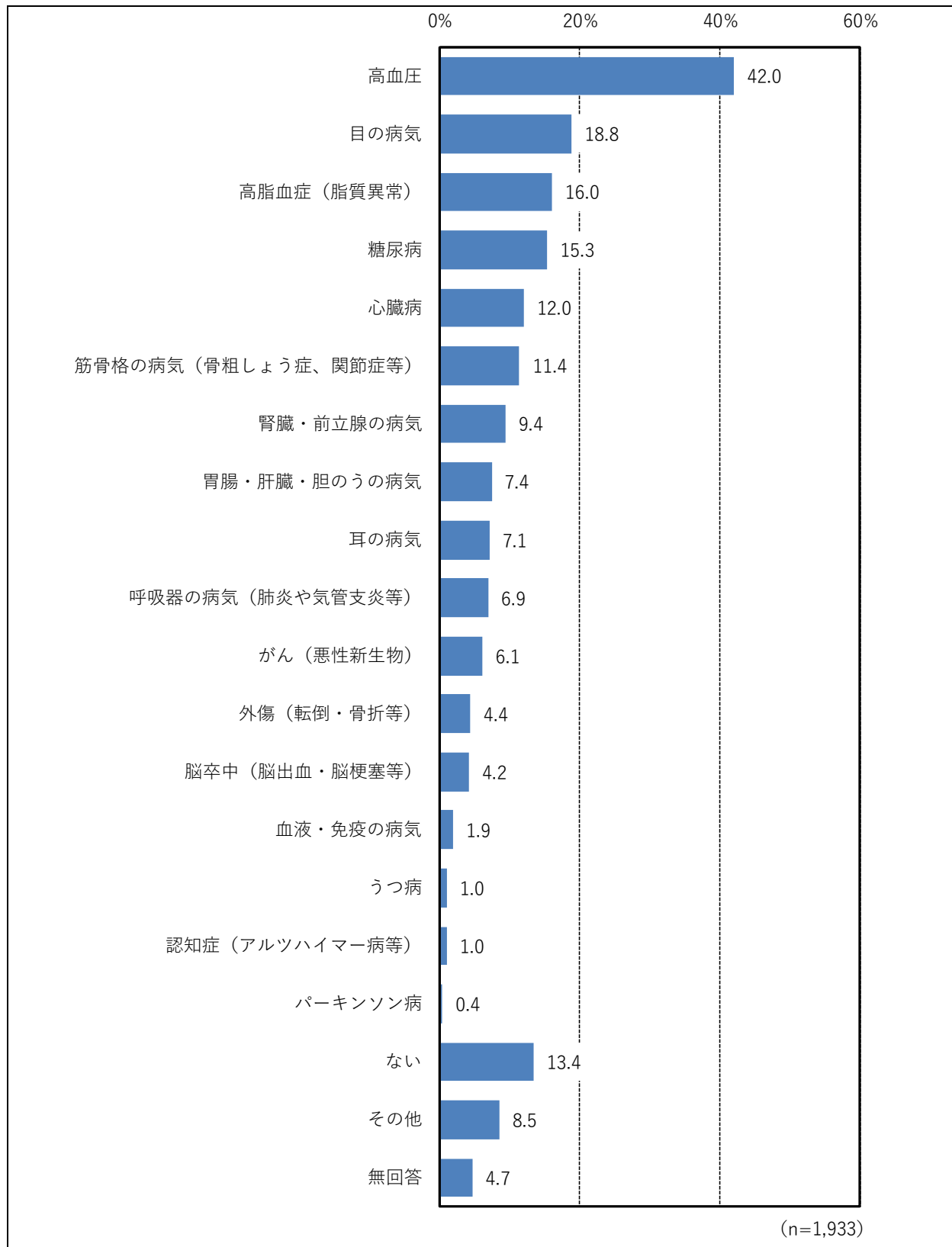
図表 71 喫煙の習慣(全体)



●喫煙の習慣をたずねたところ、「もともと吸っていない」と回答した人の割合が最も高く、60.6%となっています。次いで、「吸っていたがやめた」(30.5%)、「ほぼ毎日吸っている」(7.0%)と続いています。

問 57 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【○はいくつでも】

図表 72 現在治療中、後遺症のある病気(全体／複数回答)



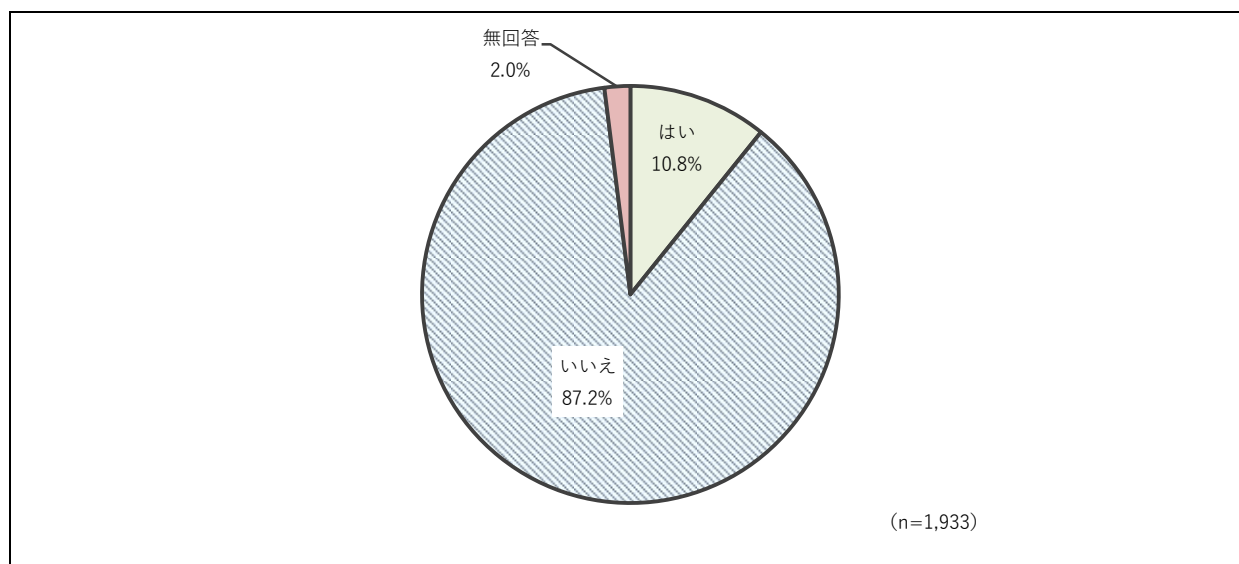
●現在治療中、または後遺症のある病気をたずねたところ、「高血圧」と回答した人の割合が最も高く、42.0%となっています。次いで、「目の病気」(18.8%)、「高脂血症」(16.0%)と続いています。

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 本人または家族の認知症の症状について

問 58 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。【○は1つ】

図表 73 本人又は家族に認知症の症状がある人の有無について(全体)

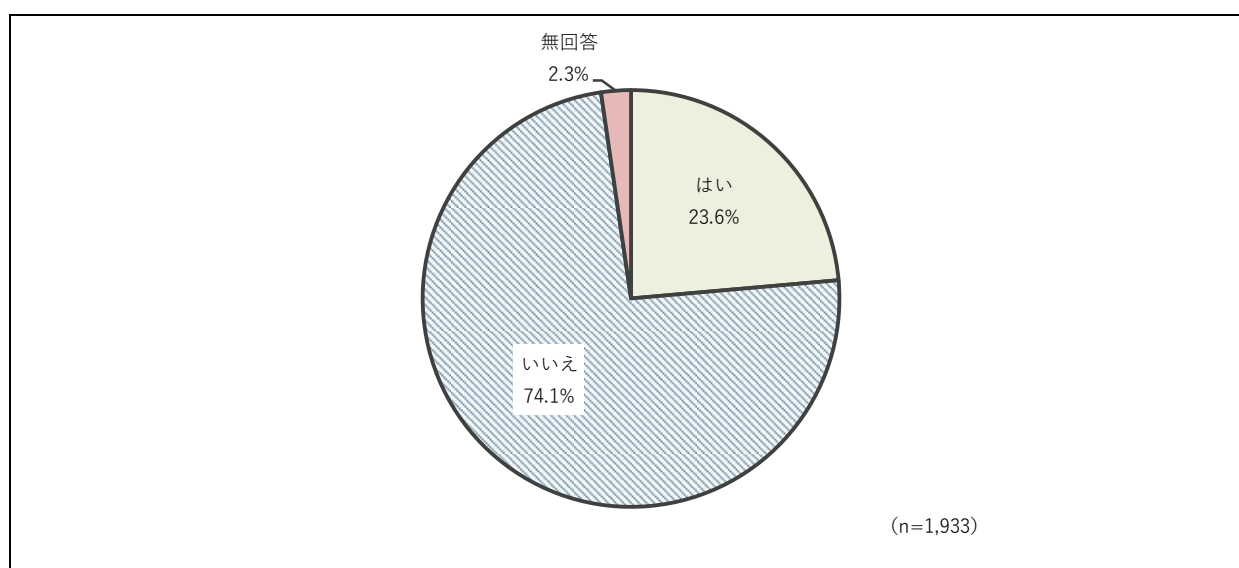


●本人又は家族に認知症の症状がある人の有無をたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 10.8%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 87.2%となっています。

(2) 認知症の相談窓口

問 59 認知症に関する相談窓口を知っていますか。【○は1つ】

図表 74 認知症相談窓口の認知度(全体)



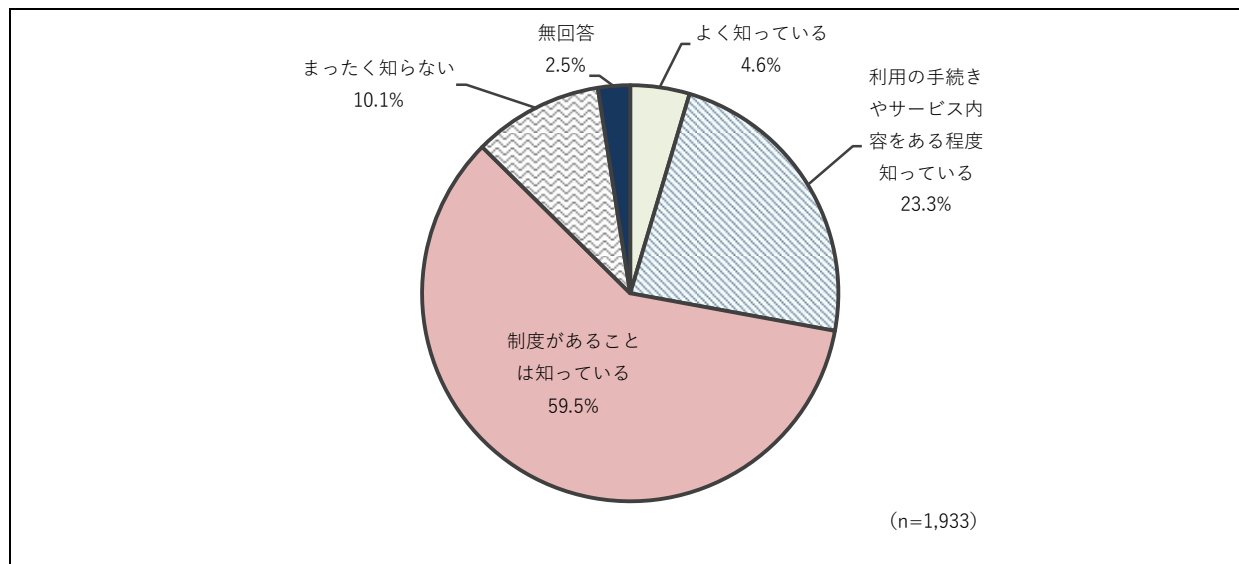
●認知症相談窓口の認知度をたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 23.6%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 74.1%となっています。

10. 介護保険サービスについて

(1) 介護保険制度の理解度

問 60 介護保険制度について、どの程度知っていますか。【○は1つ】

図表 75 介護保険制度の理解度(全体)



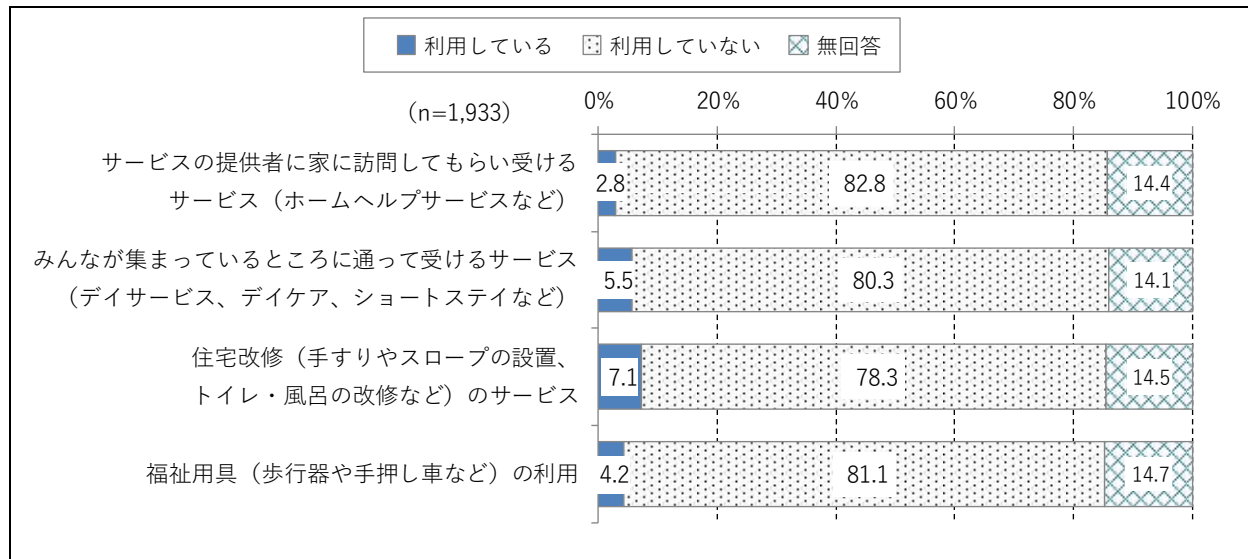
●介護保険制度の理解度をたずねたところ、「制度があることは知っている」と回答した人の割合が最も高く、59.5%となっています。次いで、「利用の手続きやサービス内容をある程度知っている」(23.3%)、「まったく知らない」(10.1%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

(2)介護保険サービスの利用状況、認知度と今後の利用意向

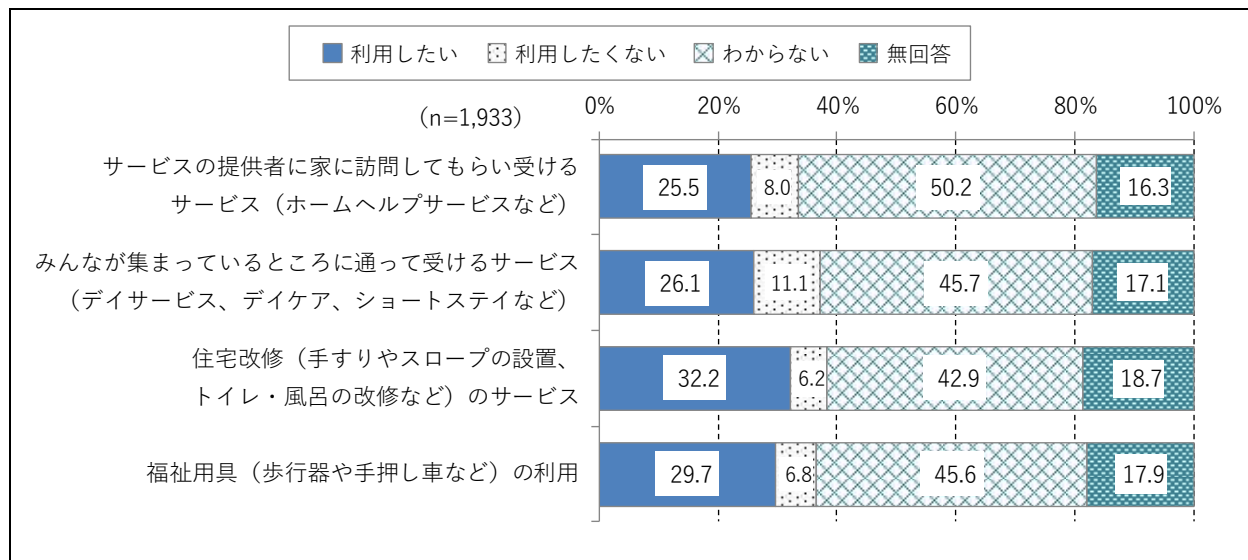
問 61 次の介護保険サービス(平成 31 年4月1日現在)について、それぞれに当てはまるものを選んでください。【○は1つずつ】

図表 76 介護保険サービスの現在の利用状況(全体)



●介護保険サービスの利用状況をたずねたところ、「利用している」と回答した人の割合が最も高かったサービスは「住宅改修」(7.1%)でした。次いで、「みんなが集まっているところに通って受けるサービス」(5.5%)、「福祉用具」(4.2%)と続いています。

図表 77 介護保険サービスの今後の利用意向(全体)



●介護保険サービスの今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合が最も高かったサービスは「住宅改修」(32.2%)でした。次いで、「福祉用具」(29.7%)、「みんなが集まっているところに通って受けるサービス」(26.1%)と続いています。

問 62 次の地域密着型の介護保険サービス(平成 31 年4月1日現在)について、それぞれに当てはまるものを選んでください。【○は1つずつ】

図表 78 地域密着型の介護保険サービスの認知度(全体)



●地域密着型の介護保険サービスの認知度をたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合が最も高かったサービスは「認知症対応型通所介護」(18.0%)でした。次いで、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(17.3%)、「認知症対応型共同生活介護」(16.1%)と続いています。

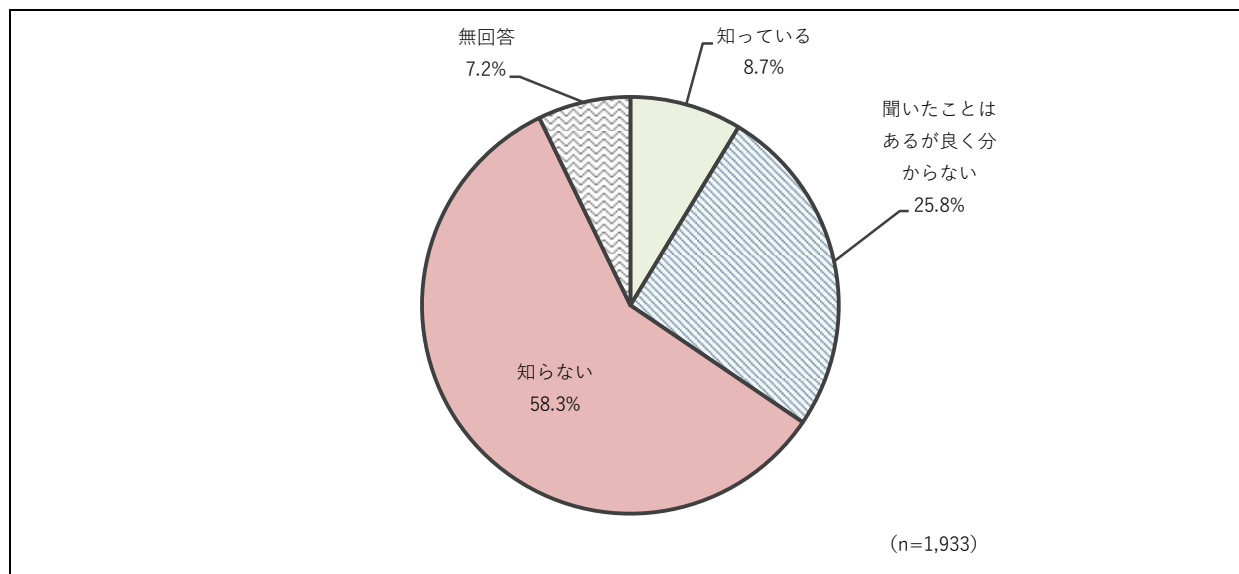
図表 79 地域密着型の介護保険サービスの今後の利用意向(全体)



●地域密着型の介護保険サービスの今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合が最も高かったサービスは「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(26.5%)でした。次いで、「認知症対応型通所介護」(19.6%)、「小規模多機能型居宅介護」(17.8%)と続いています。

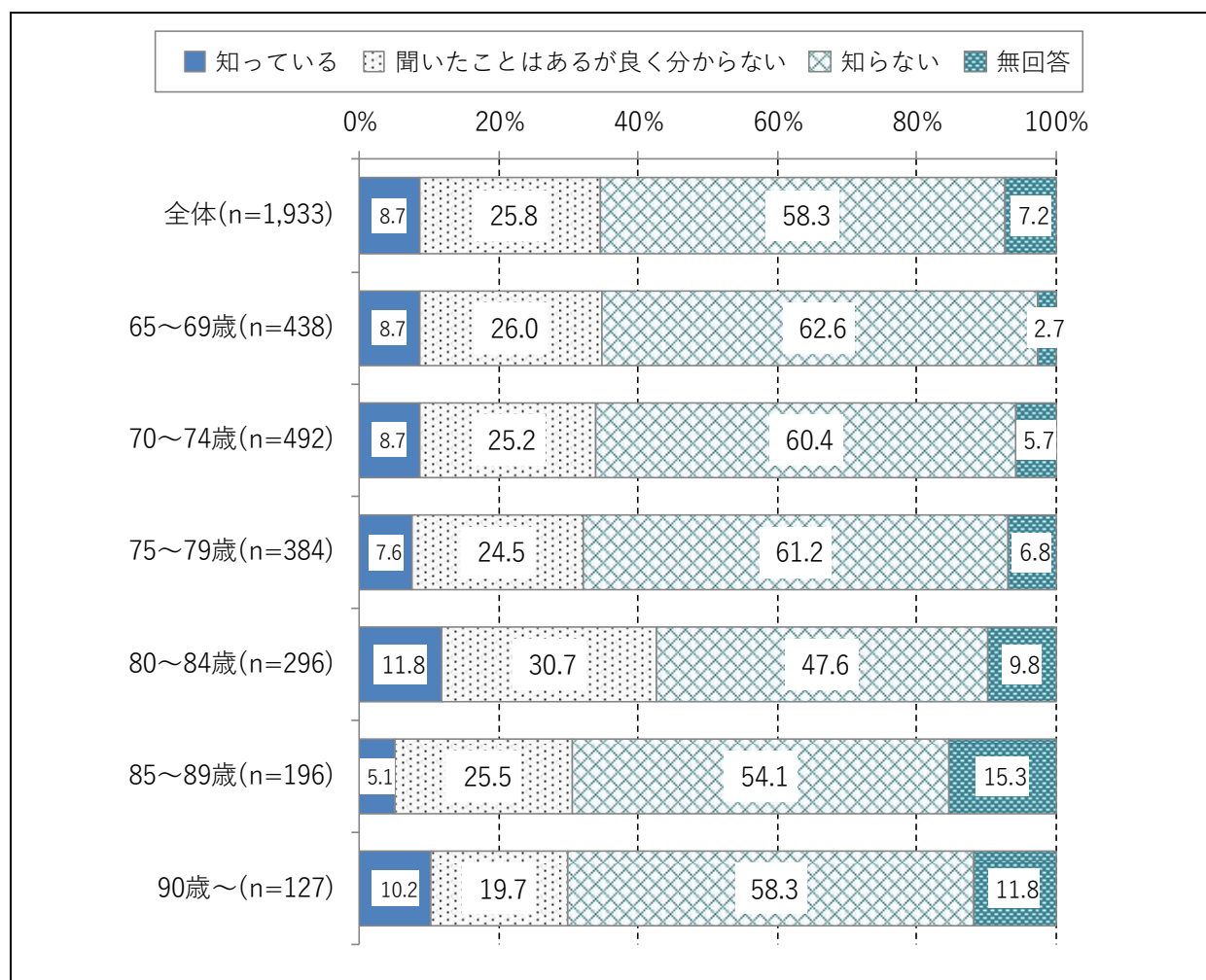
問 63 介護認定を受けなくても、基本チェックリストで生活機能の低下が認められ事業対象者となった場合は、介護保険サービスの一部を利用できることを知っていますか。【○は1つ】

図表 80 介護認定を受けなくてもサービスの一部を利用できることの認知度(全体)



●介護認定を受けなくてもサービスの一部を利用できることの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、58.3%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(25.8%)、「知っている」(8.7%)と続いています。

図表 81 介護認定を受けなくてもサービスの一部を利用できることの認知度(年齢階層別)



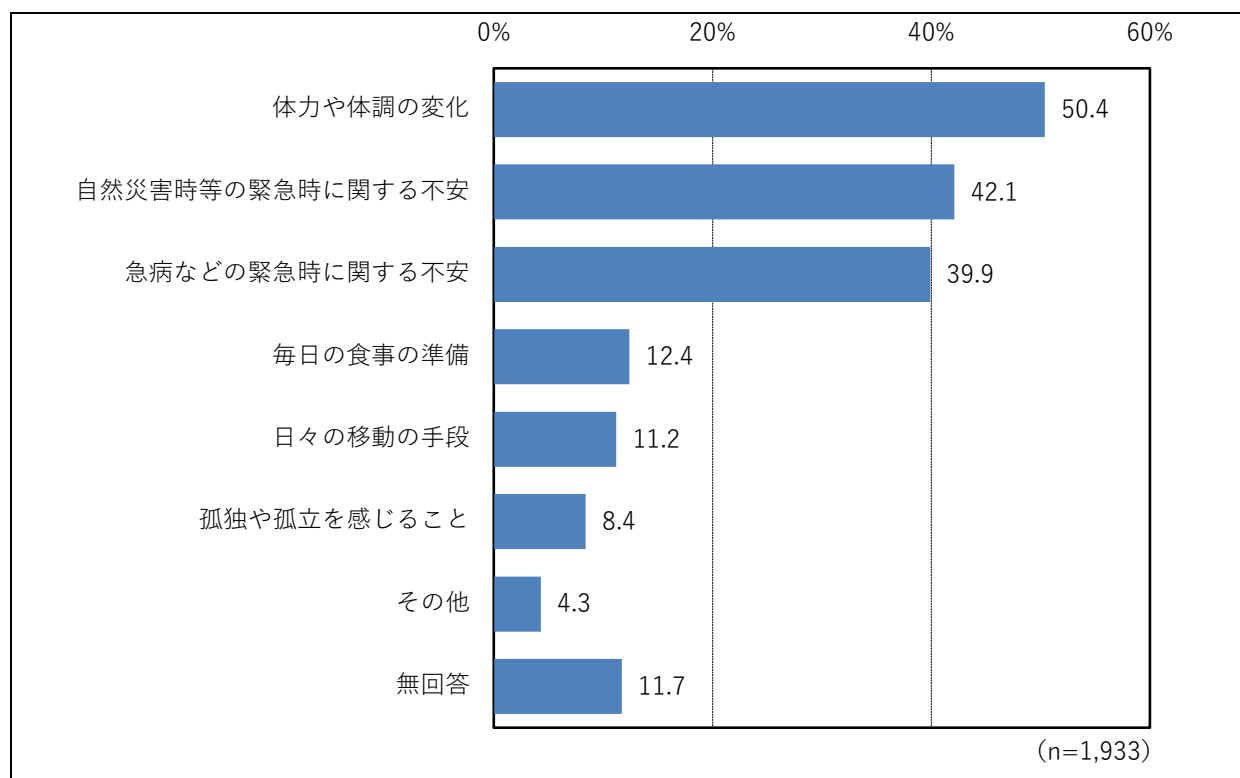
●介護認定を受けなくてもサービスの一部を利用できることの認知度を、年齢階層別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、「80～84 歳」が最も高く 11.8%、次いで、「90 歳～」(10.2%)となっています。また、「聞いたことはあるが良く分からない」と回答した人の割合は、「80～84 歳」がその他の年齢階層に比べて高くなっています。

11. 高齢者に必要な生活支援について

(1) 高齢者の生活について

問 64 生活の中での不安や困りごとはありませんか。【〇はいくつでも】

図表 82 生活の中の不安や困りごと(全体／複数回答)



●生活の中の不安や困りごとをたずねたところ、「体力や体調の変化」と回答した人の割合が最も高く、50.4%となっています。次いで、「自然災害時等の緊急時に関する不安」(42.1%)、「急病などの緊急時に関する不安」(39.9%)と続いています。

図表 83 生活の中の不安や困りごと(年齢階層別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		体力や体調の変化 50.4	自然災害時等の緊急 時に関する不安 42.1	急病などの緊急時に 関する不安 39.9
年 齢 階 層 別	65～69 歳 (n=438)	体力や体調の変化 50.5	自然災害時等の緊急 時に関する不安 37.4	急病などの緊急時に 関する不安 35.4
	70～74 歳 (n=492)	体力や体調の変化 50.2	自然災害時等の緊急 時に関する不安 41.5	急病などの緊急時に 関する不安 34.8
	75～79 歳 (n=384)	体力や体調の変化 49.0	自然災害時等の緊急 時に関する不安 46.6	急病などの緊急時に 関する不安 43.2
	80～84 歳 (n=296)	体力や体調の変化 49.0	急病などの緊急時に 関する不安 44.9	自然災害時等の緊急 時に関する不安 42.2
	85～89 歳 (n=196)	体力や体調の変化 49.0	急病などの緊急時に 関する不安 47.4	自然災害時等の緊急 時に関する不安 44.9
	90 歳～ (n=127)	体力や体調の変化 60.6	急病などの緊急時に 関する不安／自然災害 時等の緊急時に 関する不安 42.5	

- 生活の中の不安や困りごとを年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「体力や体調の変化」と回答した人の割合が最も高くなっています。次いで、「65～79 歳」の3つの年齢階層は「自然災害時等の緊急時に関する不安」、「80～89 歳」の2つの年齢階層は「急病などの緊急時に関する不安」、「90 歳～」では、同じ割合で「急病などの緊急時に関する不安」と「自然災害時等の緊急時に関する不安」となっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 84 生活の中の不安や困りごと(日常生活圏域別)

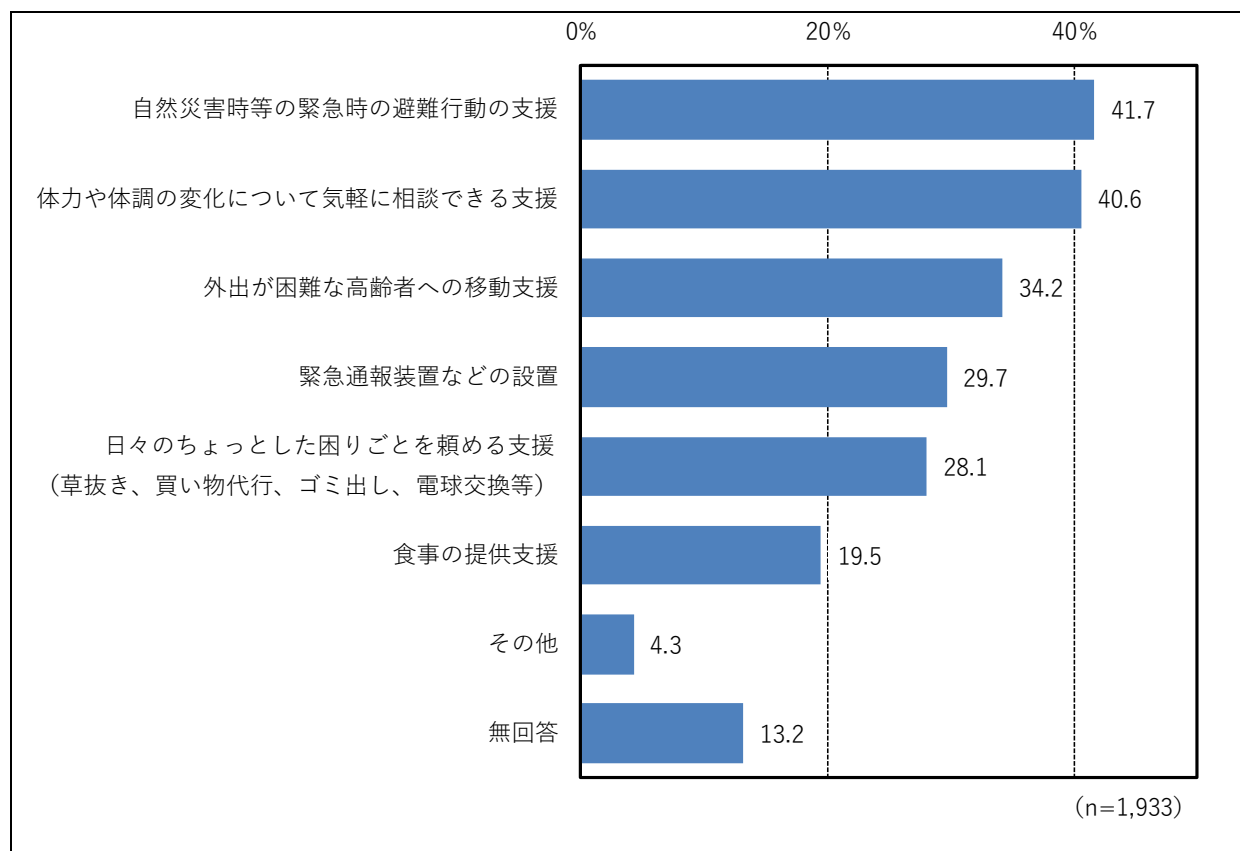
(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		体力や体調の変化 50.4	自然災害時等の緊急時に関する不安 42.1	急病などの緊急時に関する不安 39.9
日常生活圏域	中央西 (n=151)	体力や体調の変化 51.7	急病などの緊急時に関する不安 45.7	自然災害時等の緊急時に関する不安 42.4
	中央東 (n=188)	体力や体調の変化 48.4	自然災害時等の緊急時に関する不安 40.4	急病などの緊急時に関する不安 39.4
	鶴尾 (n=63)	体力や体調の変化 55.6	自然災害時等の緊急時に関する不安 42.9	急病などの緊急時に関する不安 41.3
	太田 (n=134)	体力や体調の変化 49.3	自然災害時等の緊急時に関する不安 41.0	急病などの緊急時に関する不安 37.3
	一宮 (n=82)	急病などの緊急時に関する不安 47.6	自然災害時等の緊急時に関する不安 41.5	体力や体調の変化 39.0
	香東 (n=103)	体力や体調の変化 54.4	自然災害時等の緊急時に関する不安 36.9	急病などの緊急時に関する不安 35.0
	木太 (n=124)	自然災害時等の緊急時に関する不安 51.6	体力や体調の変化 44.4	急病などの緊急時に関する不安 37.9
	古高松 (n=108)	体力や体調の変化／急病などの緊急時に関する不安 42.6		自然災害時等の緊急時に関する不安 36.1
	屋島 (n=92)	体力や体調の変化／自然災害時等の緊急時に関する不安 45.7		急病などの緊急時に関する不安 38.0
	協和 (n=115)	体力や体調の変化 53.9	自然災害時等の緊急時に関する不安 47.8	急病などの緊急時に関する不安 42.6
	龍雲 (n=96)	体力や体調の変化 51.0	自然災害時等の緊急時に関する不安 39.6	急病などの緊急時に関する不安 37.5
	山田 (n=109)	体力や体調の変化 48.6	急病などの緊急時に関する不安 46.8	自然災害時等の緊急時に関する不安 44.0
	勝賀・下笠居 (n=158)	体力や体調の変化／自然災害時等の緊急時に関する不安 47.5		急病などの緊急時に関する不安 32.3
	塩江 (n=16)	体力や体調の変化 62.5	急病などの緊急時に関する不安 50.0	自然災害時等の緊急時に関する不安 25.0
	香川 (n=128)	体力や体調の変化 49.2	急病などの緊急時に関する不安 43.0	自然災害時等の緊急時に関する不安 40.6
	香南 (n=39)	体力や体調の変化 64.1	急病などの緊急時に関する不安 33.3	自然災害時等の緊急時に関する不安 28.2
	牟礼 (n=81)	体力や体調の変化 63.0	自然災害時等の緊急時に関する不安 37.0	急病などの緊急時に関する不安 34.6
	庵治 (n=28)	体力や体調の変化／自然災害時等の緊急時に関する不安 46.4		急病などの緊急時に関する不安 25.0
	国分寺 (n=118)	体力や体調の変化 61.0	急病などの緊急時に関する不安 44.1	自然災害時等の緊急時に関する不安 41.5

●生活の中の不安や困りごとを日常生活圏域別にみると、「体力や体調の変化」、「自然災害時等の緊急時に関する不安」、「急病などの緊急時に関する不安」という回答項目が、すべての圏域で3位以内にはっています。特に、「体力や体調の変化」は多くの圏域で第1位となっています。

問 65 どのような生活支援があればいいと思いますか。【〇はいくつでも】

図表 85 必要な生活支援(全体／複数回答)



●必要な生活支援をたずねたところ、「自然災害時等の緊急時の避難行動の支援」と回答した人の割合が最も高く、41.7%となっています。次いで、「体力や体調の変化について相談できる支援」(40.6%)、「外出が困難な高齢者への移動支援」(34.2%)と続いています。

図表 86 必要な生活支援(年齢階層別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 41.7	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 40.6	外出が困難な高齢者へ の移動支援 34.2
年 齢 階 層 別	65～69 歳 (n=438)	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 42.0	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 40.6	外出が困難な高齢者へ の移動支援 32.2
	70～74 歳 (n=492)	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 41.7	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 40.7	外出が困難な高齢者へ の移動支援 33.1
	75～79 歳 (n=384)	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 45.8	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 38.5	外出が困難な高齢者へ の移動支援 34.9
	80～84 歳 (n=296)	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 43.2	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 40.5	外出が困難な高齢者へ の移動支援 36.8
	85～89 歳 (n=196)	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 41.8	外出が困難な高齢者へ の移動支援 40.8	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 39.3
	90 歳～ (n=127)	体力や体調の変化につ いて気軽に相談できる 支援 38.6	自然災害時等の緊急 時の避難行動の支援 34.6	外出が困難な高齢者へ の移動支援 27.6

- 必要な生活支援を年齢階層別にみると、「65～79 歳」の 3 つの年齢階層については、「自然災害時等の緊急時の避難行動の支援」、「80 歳～」の 3 つの年齢階層については、「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」が第 1 位となっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 87 必要な生活支援(日常生活圏域別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 41.7	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 40.6	外出が困難な高齢者への移動支援 34.2
日常生活圏域	中央西 (n=151)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 47.0	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 45.7	緊急通報装置などの設置 30.5
	中央東 (n=188)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 41.5	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 39.4	緊急通報装置などの設置 33.5
	鶴尾 (n=63)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 36.5	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 31.7	緊急通報装置などの設置 27.0
	太田 (n=134)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 41.8	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 41.0	緊急通報装置などの設置 27.6
	一宮 (n=82)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 40.2	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 37.8	緊急通報装置などの設置 30.5
	香東 (n=103)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 40.8	外出が困難な高齢者への移動支援 38.8	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 34.0
	木太 (n=124)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 53.2	外出が困難な高齢者への移動支援 39.5	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 35.5
	古高松 (n=108)	外出が困難な高齢者への移動支援 38.9	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 33.3	日々のちょっとした困りごとを頼める支援 32.4
	屋島 (n=92)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 50.0	外出が困難な高齢者への移動支援／自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 46.7	
	協和 (n=115)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 49.6	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 44.3	外出が困難な高齢者への移動支援 30.4
	龍雲 (n=96)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 41.7	外出が困難な高齢者への移動支援 39.6	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 37.5
	山田 (n=109)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援／自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 41.3		外出が困難な高齢者への移動支援 40.4
	勝賀・下笠居 (n=158)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 40.5	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 39.2	外出が困難な高齢者への移動支援 29.7
	塩江 (n=16)	外出が困難な高齢者への移動支援 43.8	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 31.3	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 25.0
	香川 (n=128)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援／自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 40.6		外出が困難な高齢者への移動支援 39.8
	香南 (n=39)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 48.7	外出が困難な高齢者への移動支援 41.0	食事の提供支援 28.2
	牟礼 (n=81)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 45.7	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 42.0	外出が困難な高齢者への移動支援 33.3
	庵治 (n=28)	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 57.1	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援／外出が困難な高齢者への移動支援 39.3	
	国分寺 (n=118)	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援 44.1	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援 39.8	外出が困難な高齢者への移動支援 36.4

● 第 2 章 調査結果 高齢者（65 歳以上） ●

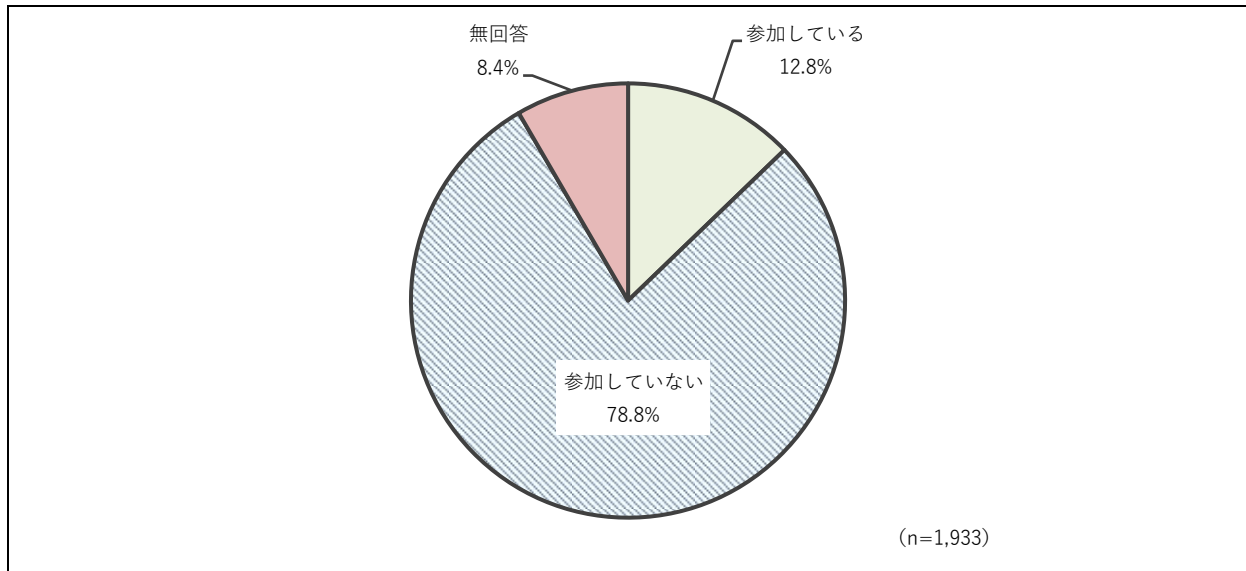
- 必要な生活支援を日常生活圏域別にみると、「自然災害時等の緊急時の避難行動の支援」と回答した人の割合が最も高かった圏域は 11 圏域、「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」と回答した人の割合が最も高かった圏域は 8 圏域、「外出が困難な高齢者への移動支援」と回答した人の割合が最も高かった圏域は 2 圏域となっています。第 3 位には、「緊急通報装置などの設置」、「日々のちょっとした困りごとを頼める支援」、「食事の提供支援」といった回答項目も入っており、求められる必要な生活支援は圏域によって違うことがみてとれます。

12. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

(1) 高齢者の居場所づくり

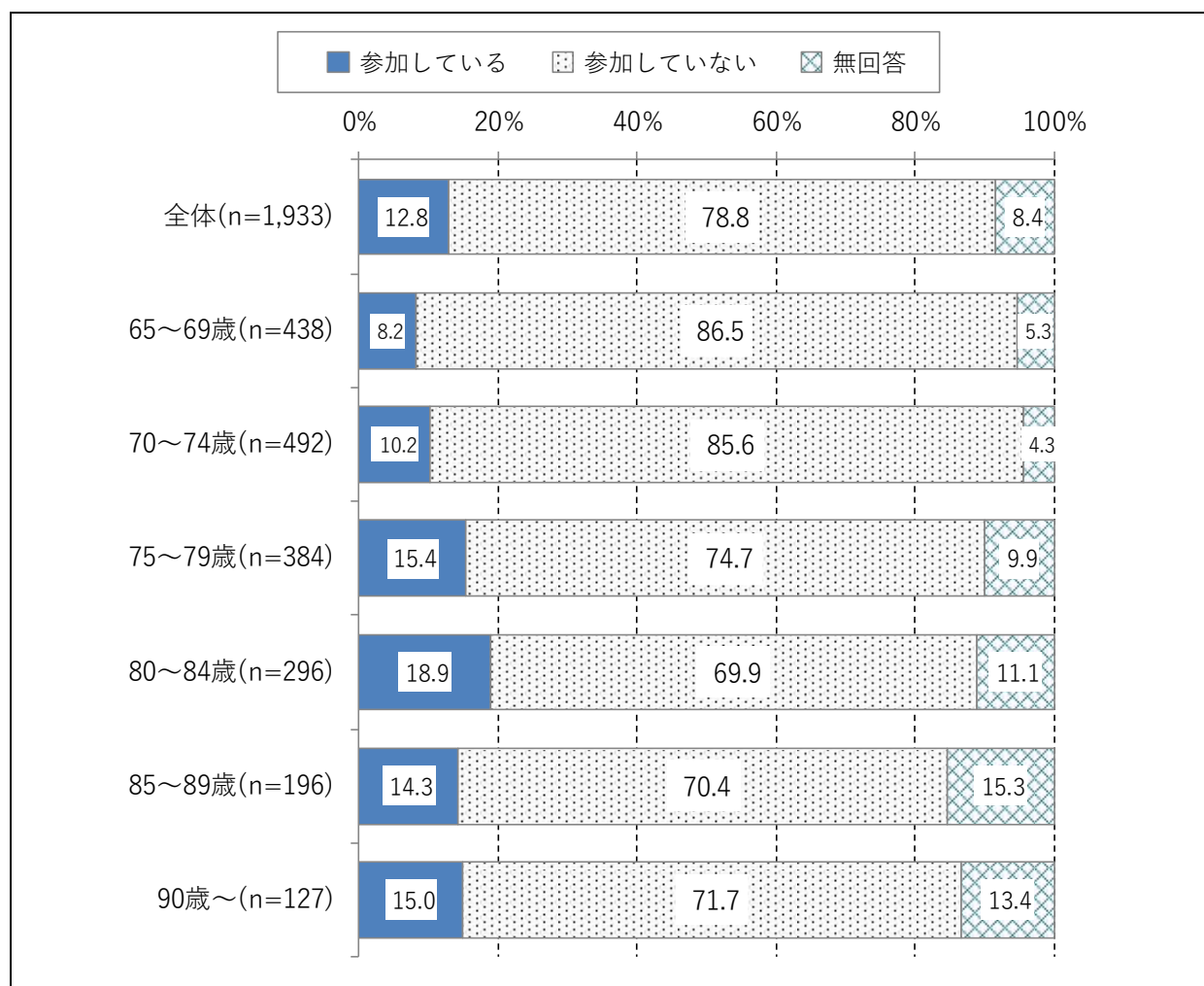
問 66 高齢者が気軽に集える場所に参加していますか。【○は1つ】

図表 88 高齢者が集える場所の参加状況(全体)



● 高齢者が集える場所の参加状況をたずねたところ、「参加している」と回答した人の割合は12.8%となっています。一方、「参加していない」と回答した人の割合は78.8%となっています。

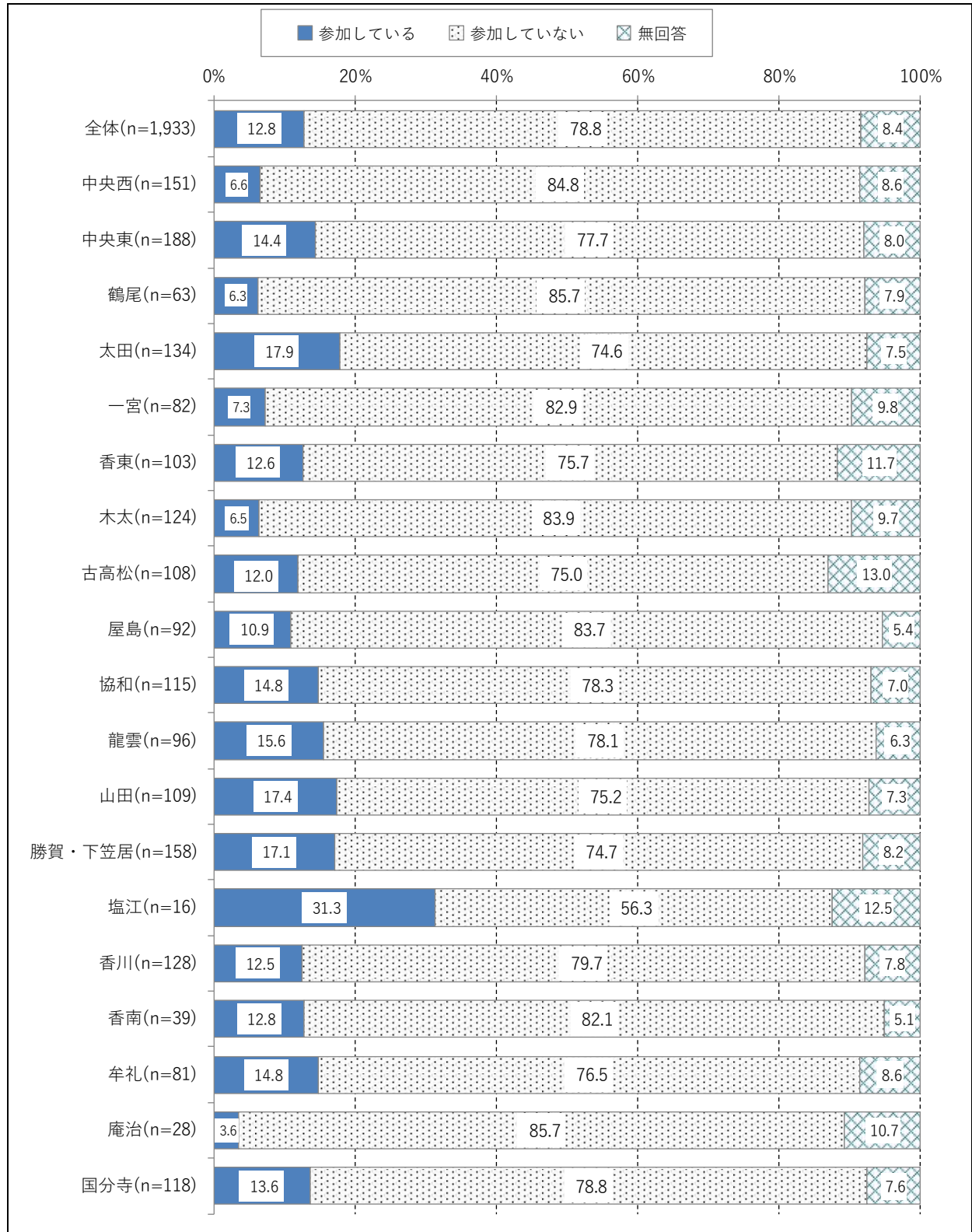
図表 89 高齢者が集える場所の参加状況(年齢階層別)



●高齢者が集える場所の参加状況を年齢階層別にみると、「参加している」と回答した人の割合は、「80～84 歳」が最も高く 18.9%となっています。次いで、「75～79 歳」(15.4%)、「90 歳～」(15.0%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

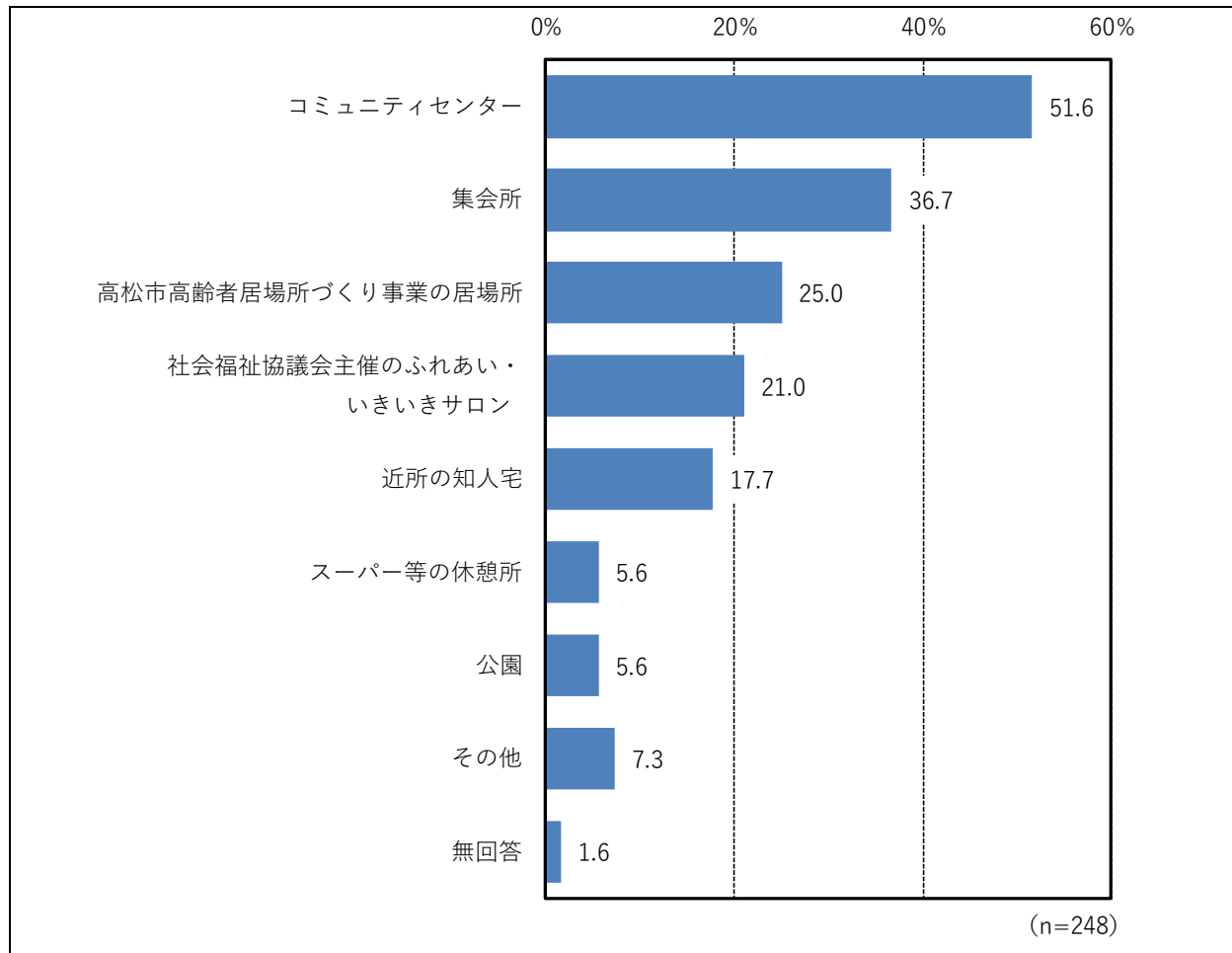
図表 90 高齢者が集える場所の参加状況(日常生活圏域別)



●高齢者が集える場所の参加状況を日常生活圏域別にみると、「参加している」と回答した人の割合は、「塩江」が最も高く 31.3%となっています。次いで、「太田」(17.9%)、「山田」(17.4%)と続いています。

問 66 で「1参加している」と回答した方
 問 66-1 気軽に集える場所は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

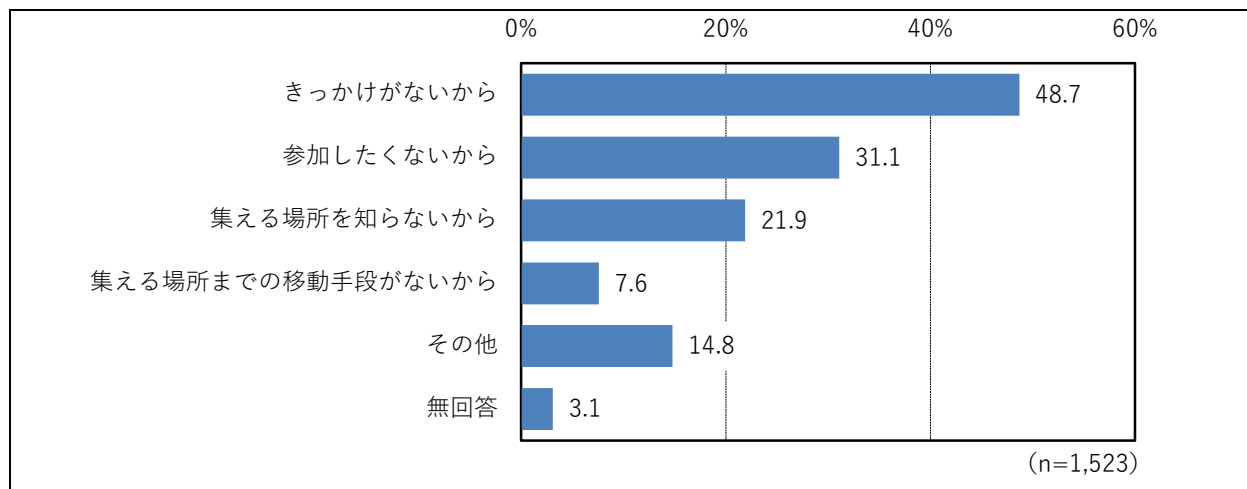
図表 91 高齢者が気軽に集える場所(全体／複数回答)



●高齢者が気軽に集える場所をたずねたところ、「コミュニティセンター」と回答した人の割合が最も高く、51.6%となっています。次いで、「集会所」(36.7%)、「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」(25.0%)と続いています。

問66で「2参加していない」と回答した方
問66-2 参加しない理由は何ですか。【○はいくつでも】

図表 92 集える場所に参加しない理由(全体／複数回答)



●集える場所に参加しない理由をたずねたところ、「きっかけがないから」と回答した人の割合が最も高く、48.7%となっています。次いで、「参加したくないから」(31.1%)、「集える場所を知らないから」(21.9%)と続いています。

図表 93 集える場所に参加しない理由(年齢階層別)

(単位: %)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,523)		きっかけがないから 48.7	参加したくないから 31.1	集える場所を知らないから 21.9
年齢階層別	65～69歳 (n=379)	きっかけがないから 47.8	参加したくないから 29.6	集える場所を知らないから 22.7
	70～74歳 (n=421)	きっかけがないから 52.5	参加したくないから 31.6	集える場所を知らないから 21.1
	75～79歳 (n=287)	きっかけがないから 49.5	参加したくないから 29.6	集える場所を知らないから 23.3
	80～84歳 (n=207)	きっかけがないから 53.1	参加したくないから 27.1	集える場所を知らないから 23.2
	85～89歳 (n=138)	きっかけがないから 41.3	参加したくないから 35.5	集える場所までの移動手段がないから 21.7
	90歳～ (n=91)	参加したくないから 41.8	きっかけがないから 34.1	集える場所を知らないから 19.8

●集える場所に参加しない理由を年齢階層別にみると、「65～89歳」の5つの年齢階層では、「きっかけがないから」と回答した人の割合が最も高くなっています。また、「90歳～」は、「参加したくないから」と回答した人の割合が最も高くなっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 94 集える場所に参加しない理由(日常生活圏域別)

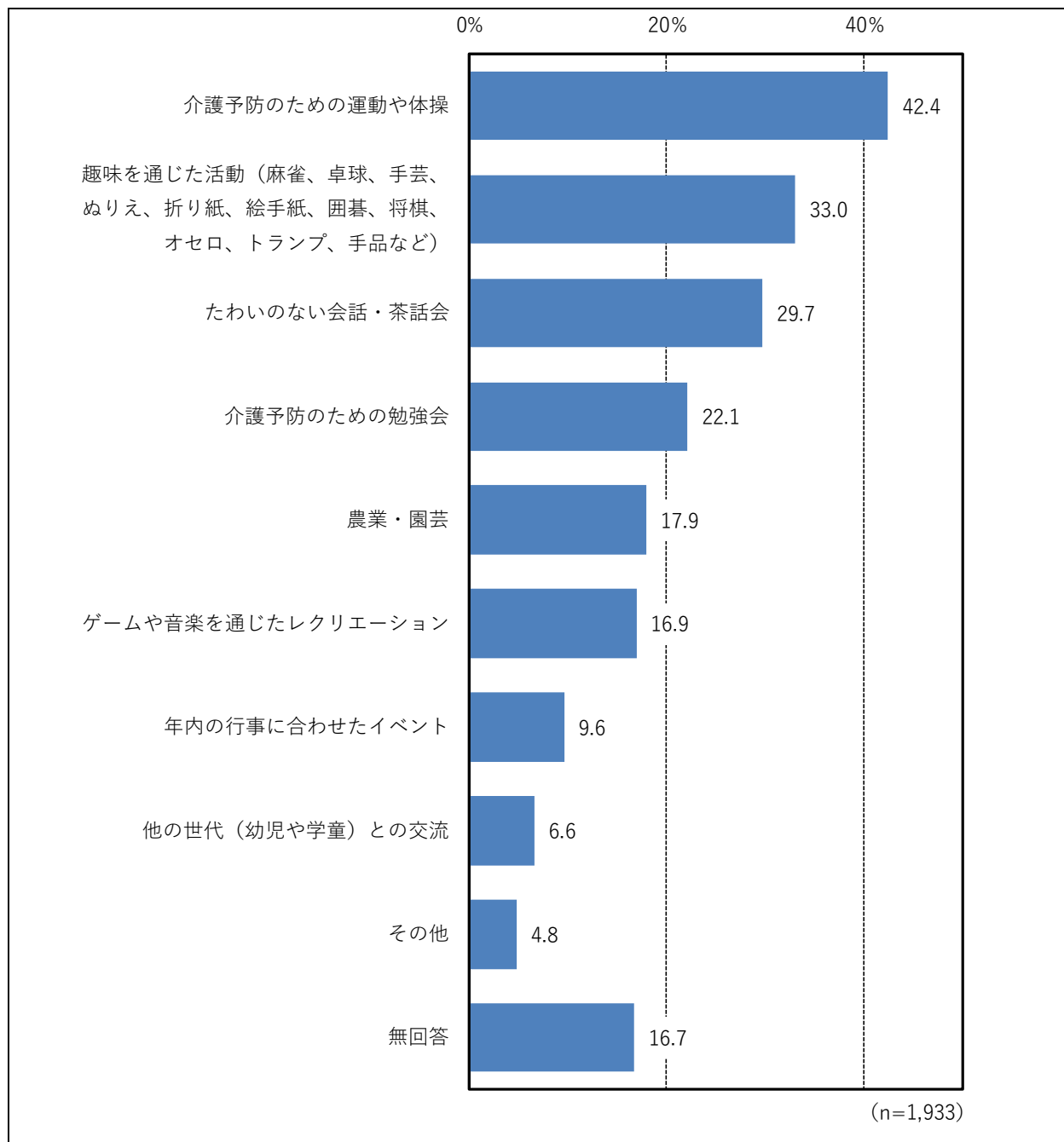
(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,523)		きっかけがないから 48.7	参加したくないから 31.1	集える場所を知らないから 21.9
日常生活圏域	中央西 (n=128)	きっかけがないから 53.9	集える場所を知らないから 26.6	参加したくないから 23.4
	中央東 (n=146)	きっかけがないから 47.3	参加したくないから 28.8	集える場所を知らないから 21.2
	鶴尾 (n=54)	きっかけがないから 42.6	参加したくないから 37.0	集える場所を知らないから 27.8
	太田 (n=100)	きっかけがないから 47.0	参加したくないから 33.0	集える場所を知らないから 21.0
	一宮 (n=68)	きっかけがないから 57.4	参加したくないから 35.3	集える場所を知らないから 26.5
	香東 (n=78)	きっかけがないから 44.9	参加したくないから 26.9	集える場所を知らないから 19.2
	木太 (n=104)	きっかけがないから 56.7	集える場所を知らないから 27.9	参加したくないから 26.0
	古高松 (n=81)	きっかけがないから 44.4	参加したくないから 33.3	集える場所を知らないから 22.2
	屋島 (n=77)	きっかけがないから 48.1	参加したくないから 29.9	集える場所を知らないから 27.3
	協和 (n=90)	きっかけがないから 46.7	参加したくないから 36.7	集える場所を知らないから 13.3
	龍雲 (n=75)	きっかけがないから 45.3	参加したくないから 36.0	集える場所を知らないから 16.0
	山田 (n=82)	きっかけがないから 53.7	参加したくないから 26.8	集える場所を知らないから 19.5
	勝賀・下笠居 (n=118)	きっかけがないから 50.8	参加したくないから 32.2	集える場所を知らないから 11.9
	塩江 (n=9)	きっかけがないから／集える場所までの移動手段がないから 44.4		参加したくないから 33.3
	香川 (n=102)	きっかけがないから 47.1	参加したくないから 31.4	集える場所を知らないから 21.6
	香南 (n=32)	参加したくないから 46.9	きっかけがないから 40.6	集える場所を知らないから 15.6
	牟礼 (n=62)	きっかけがないから 43.5	参加したくないから 32.3	集える場所を知らないから 29.0
	庵治 (n=24)	きっかけがないから／参加したくないから 41.7		集える場所を知らないから 16.7
	国分寺 (n=93)	きっかけがないから 49.5	集える場所を知らないから 30.1	参加したくないから 28.0

●集える場所に参加しない理由を日常生活圏域別にみると、概ね全体と同様の傾向にありますが、「香南」、「庵治」では「参加したくないから」、「塩江」では「集える場所までの移動手段がないから」といった回答の割合も高くなっています。

問 67 集える場所ではどのような活動がしたいですか。【○はいくつでも】

図表 95 集える場所で行いたい活動内容(全体／複数回答)



●集える場所で行いたい活動内容をたずねたところ、「介護予防のための運動や体操」と回答した人の割合が最も高く、42.4%となっています。次いで、「趣味を通じた活動」(33.0%)、「たわいのない会話・茶話会」(29.7%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 96 集える場所で行いたい活動内容(年齢階層別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		介護予防のための運動や 体操 42.4	趣味を通じた活動 33.0	たわいのない会話・茶話 会 29.7
年 齢 階 層 別	65～69 歳 (n=438)	介護予防のための運動や 体操 46.3	趣味を通じた活動 39.5	たわいのない会話・茶話 会 28.1
	70～74 歳 (n=492)	介護予防のための運動や 体操 41.7	趣味を通じた活動 35.4	たわいのない会話・茶話 会 29.1
	75～79 歳 (n=384)	介護予防のための運動や 体操 40.9	趣味を通じた活動 32.6	たわいのない会話・茶話 会 31.8
	80～84 歳 (n=296)	介護予防のための運動や 体操 45.6	たわいのない会話・茶話 会 32.8	趣味を通じた活動 31.1
	85～89 歳 (n=196)	介護予防のための運動や 体操 37.8	たわいのない会話・茶話 会 26.5	趣味を通じた活動 24.5
	90 歳～ (n=127)	介護予防のための運動や 体操 36.2	たわいのない会話・茶話 会 29.1	介護予防のための勉強会 22.8

- 集える場所で行いたい活動内容を、年齢階層別にみると、すべての年齢階層で、「介護予防のための運動や体操」と回答した人の割合が最も高くなっています。
- 第2位をみると、「65～79 歳」の3つの年齢階層では、「趣味を通じた活動」、「80 歳～」の3つの年齢階層では、「たわいのない会話・茶話会」と回答した人の割合が高くなっています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 97 集える場所で行いたい活動内容(日常生活圏域別)

(単位:%)

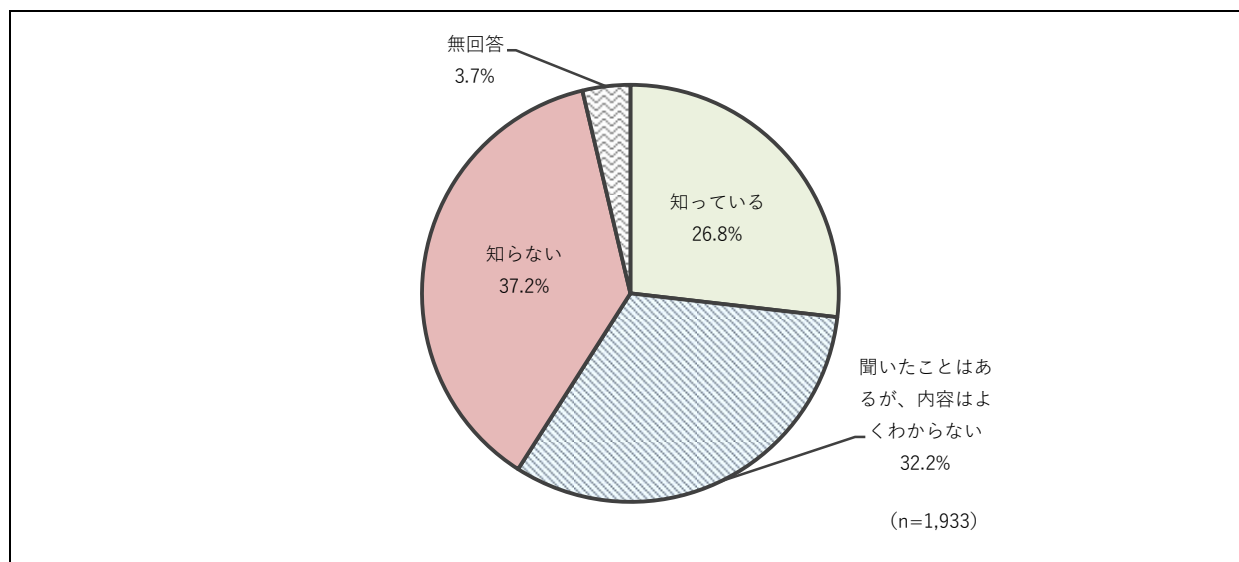
		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		介護予防のための運動や体操 42.4	趣味を通じた活動 33.0	たわいのない会話・茶話会 29.7
日常生活圏域	中央西 (n=151)	介護予防のための運動や体操 42.4	介護予防のための勉強会 27.2	趣味を通じた活動 25.8
	中央東 (n=188)	介護予防のための運動や体操 43.1	趣味を通じた活動 34.0	介護予防のための勉強会 24.5
	鶴尾 (n=63)	介護予防のための運動や体操 36.5	たわいのない会話・茶話会 27.0	趣味を通じた活動 23.8
	太田 (n=134)	介護予防のための運動や体操 45.5	趣味を通じた活動 34.3	たわいのない会話・茶話会 32.1
	一宮 (n=82)	趣味を通じた活動 40.2	介護予防のための運動や体操 37.8	たわいのない会話・茶話会 32.9
	香東 (n=103)	介護予防のための運動や体操 44.7	趣味を通じた活動 33.0	たわいのない会話・茶話会 30.1
	木太 (n=124)	介護予防のための運動や体操 41.9	趣味を通じた活動 38.7	たわいのない会話・茶話会 24.2
	古高松 (n=108)	介護予防のための運動や体操 46.3	たわいのない会話・茶話会 32.4	趣味を通じた活動 31.5
	屋島 (n=92)	介護予防のための運動や体操 45.7	趣味を通じた活動 32.6	たわいのない会話・茶話会 23.9
	協和 (n=115)	介護予防のための運動や体操 38.3	たわいのない会話・茶話会 35.7	趣味を通じた活動 33.0
	龍雲 (n=96)	介護予防のための運動や体操 46.9	趣味を通じた活動 35.4	たわいのない会話・茶話会 30.2
	山田 (n=109)	介護予防のための運動や体操 39.4	たわいのない会話・茶話会 35.8	趣味を通じた活動 27.5
	勝賀・下笠居 (n=158)	介護予防のための運動や体操 45.6	趣味を通じた活動 34.2	たわいのない会話・茶話会 29.1
	塩江 (n=16)	介護予防のための運動や体操 62.5	たわいのない会話・茶話会 43.8	ゲームや音楽を通じたレクリエーション 31.3
	香川 (n=128)	介護予防のための運動や体操 42.2	たわいのない会話・茶話会 32.8	趣味を通じた活動 29.7
	香南 (n=39)	たわいのない会話・茶話会 43.6	介護予防のための運動や体操 35.9	趣味を通じた活動 30.8
	牟礼 (n=81)	趣味を通じた活動 42.0	介護予防のための運動や体操 35.8	たわいのない会話・茶話会 33.3
	庵治 (n=28)	介護予防のための運動や体操 39.3	たわいのない会話・茶話会 25.0	農業・園芸 14.3
	国分寺 (n=118)	介護予防のための運動や体操／趣味を通じた活動 40.7		たわいのない会話・茶話会 32.2

●集える場所で行いたい活動内容を日常生活圏域別にみると、多くの圏域で「介護予防のための運動や体操」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、「一宮」、「牟礼」、「国分寺」では「趣味を通じた活動」、「香南」では「たわいのない会話・茶話会」と回答した人の割合が高くなっています。

(2)高松市地域包括支援センターについて

問 68 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は1つ】

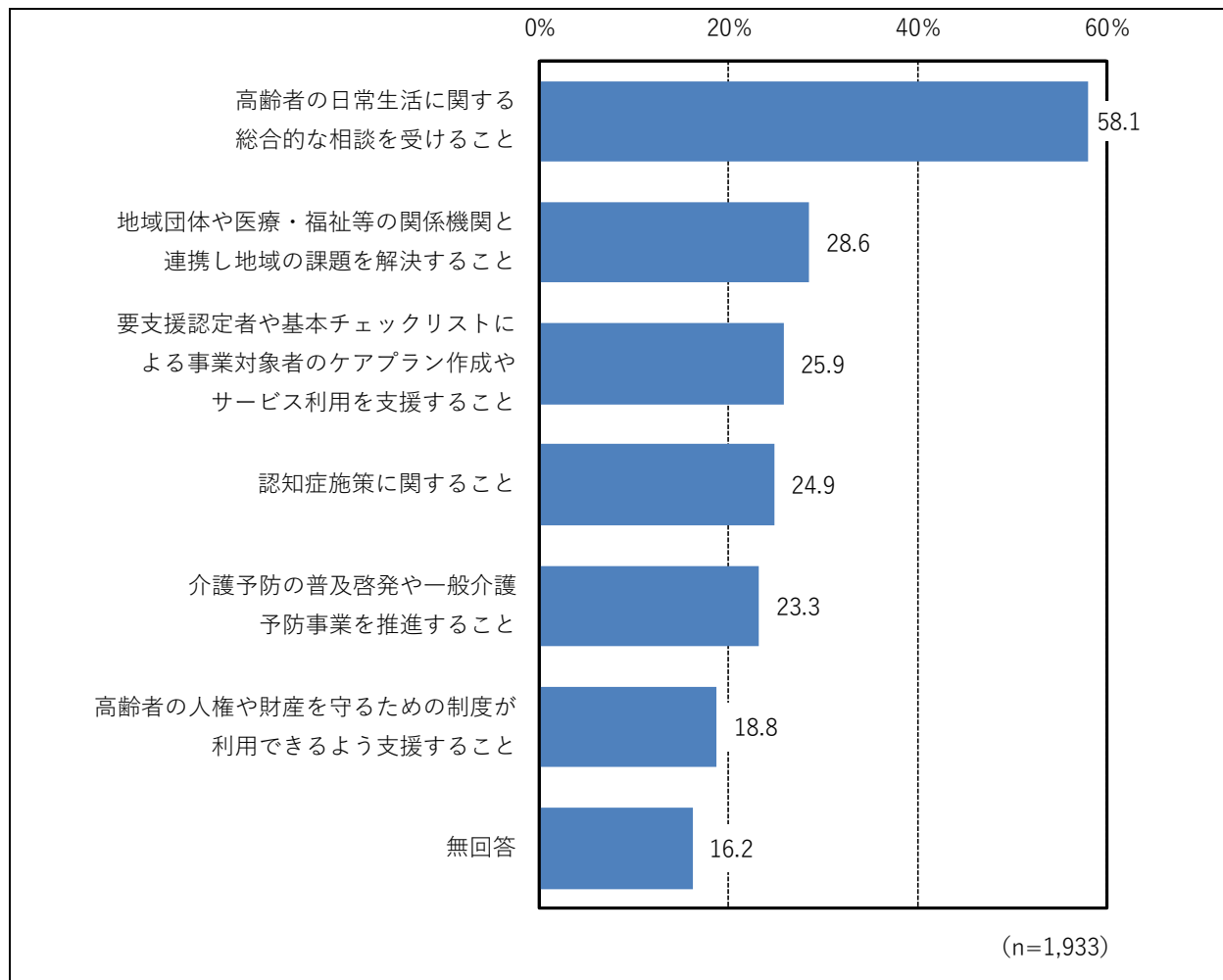
図表 98 高松市地域包括支援センターの認知度(全体)



●高松市地域包括支援センターの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、37.2%となっています。次いで、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(32.2%)、「知っている」(26.8%)と続いています。

問 69 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。
【〇はいくつでも】

図表 99 地域包括支援センターが充実すべき業務(全体／複数回答)



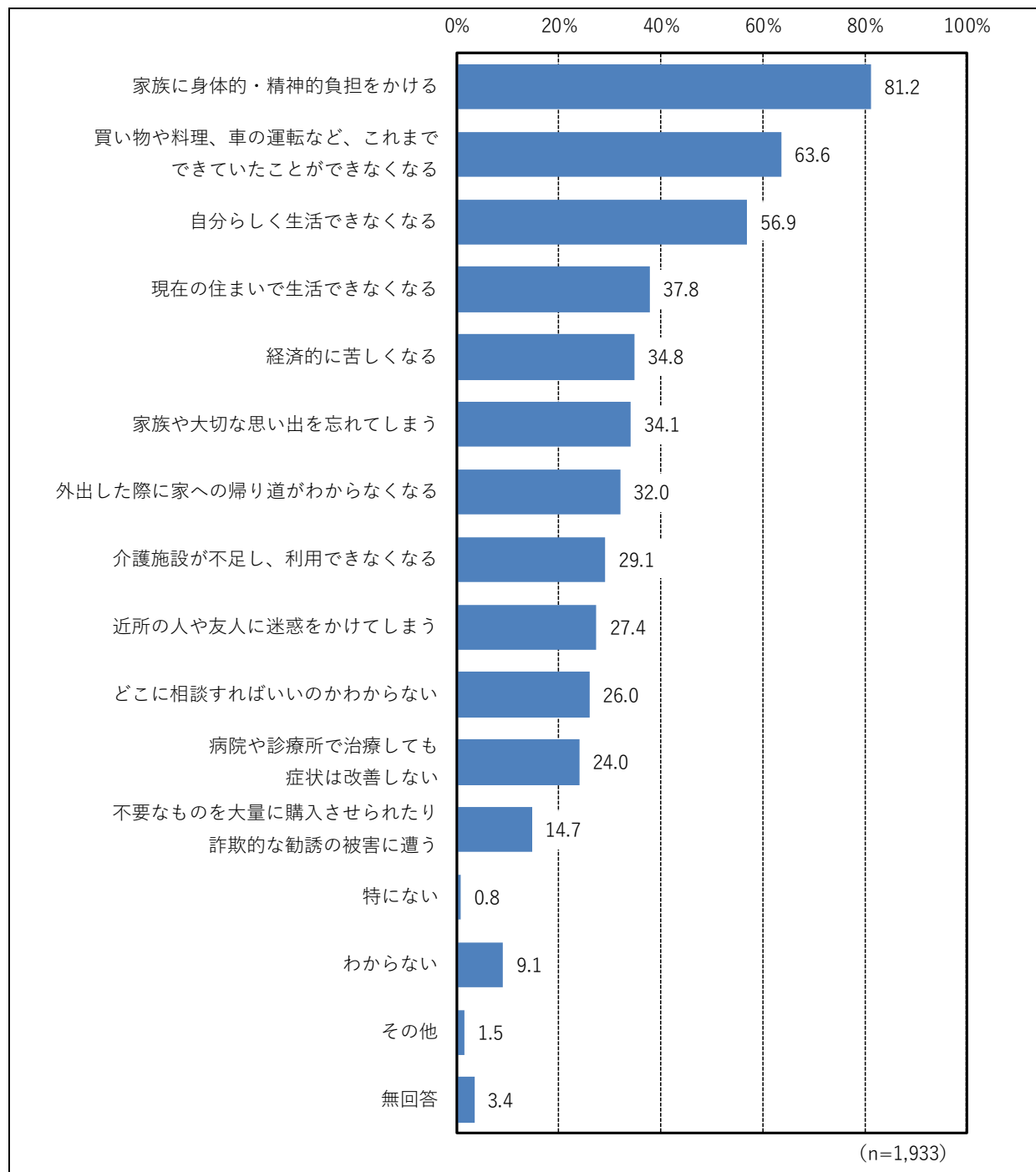
●地域包括支援センターが充実すべき業務をたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」と回答した人の割合が最も高く、58.1%となっています。次いで、「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し地域の課題を解決すること」(28.6%)、「要支援認定者や基本チェックリストによる事業対象者のケアプラン作成やサービス利用を支援すること」(25.9%)と続いています。

13. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

(1) 認知症に対する不安

問 70 もし、あなたが認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

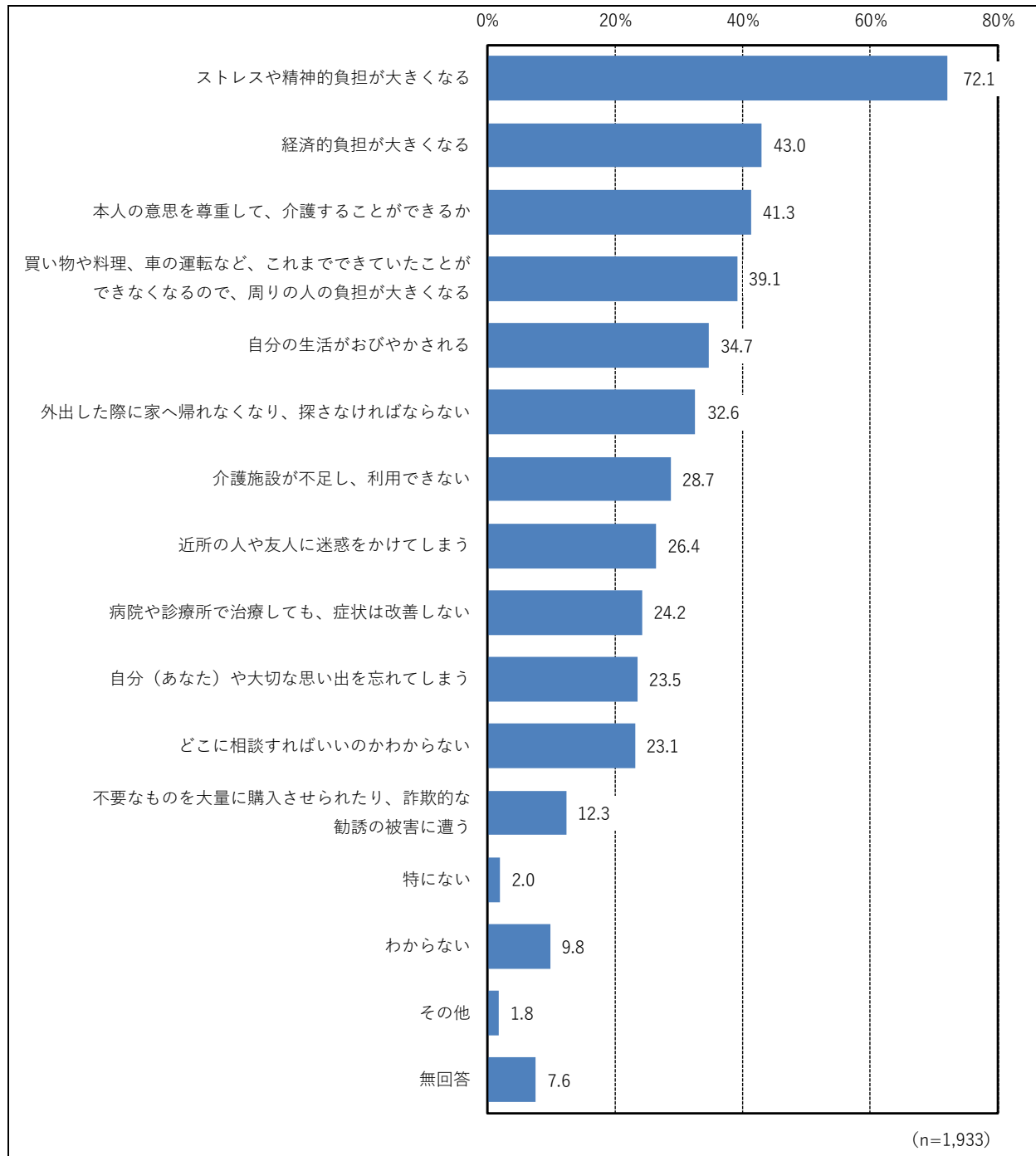
図表 100 自分が認知症になった時の不安(全体／複数回答)



●自分が認知症になった時の不安をたずねたところ、「家族に身体的・精神的負担をかける」と回答した人の割合が最も高く、81.2%となっています。次いで、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなる」(63.6%)、「自分らしく生活できなくなる」(56.9%)と続いています。

問 71 もし、家族が認知症になったとしたら、また、現在認知症の家族がいる場合どのようなことに困りますか。【〇はいくつでも】

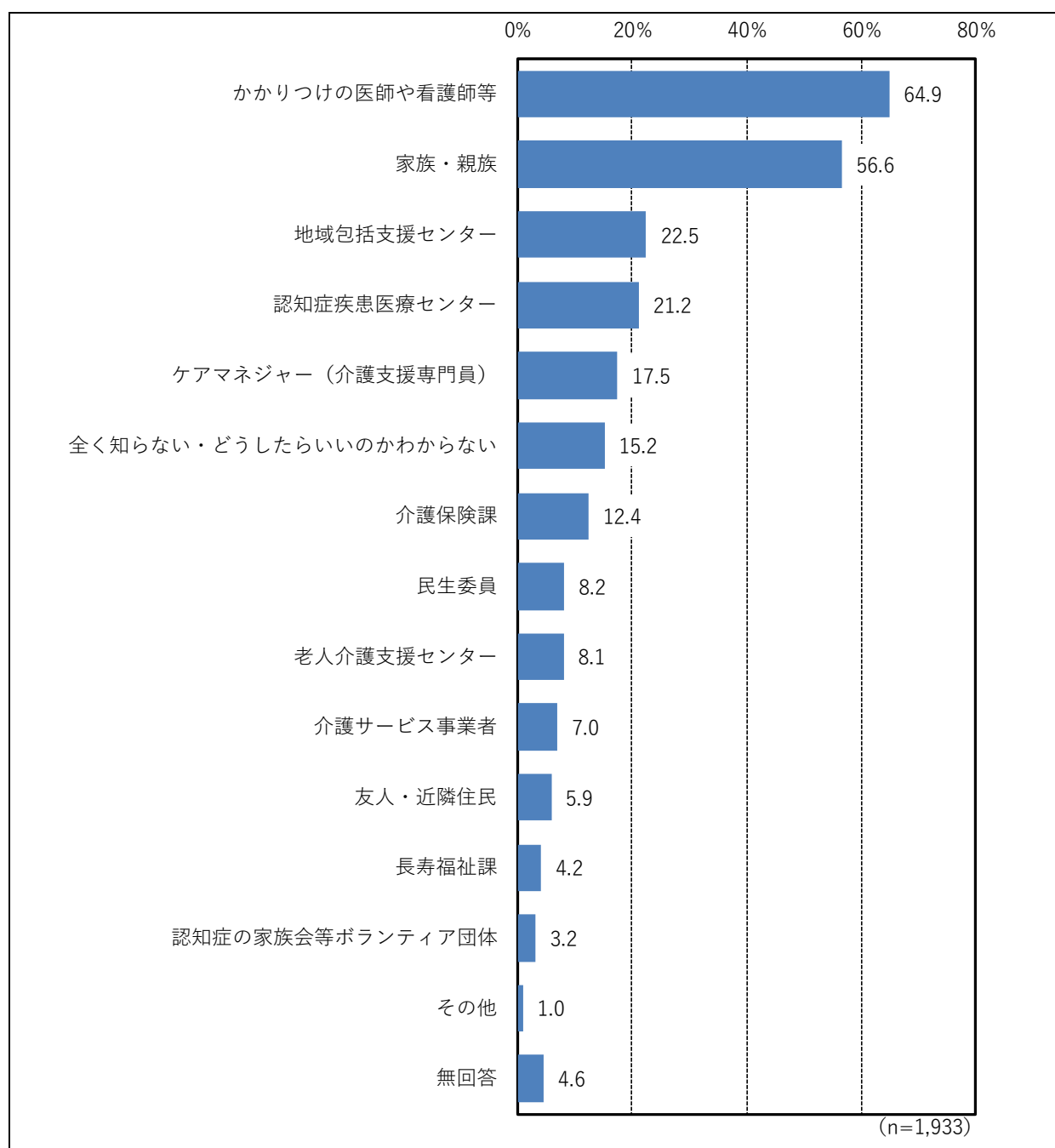
図表 101 家族が認知症になった時の不安(全体／複数回答)



●家族が認知症になった時の不安をたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きくなる」と回答した人の割合が最も高く、72.1%となっています。次いで、「経済的負担が大きくなる」(43.0%)、「本人の意思を尊重して、介護することができるか」(41.3%)と続いています。

問 72 もし、あなたや家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

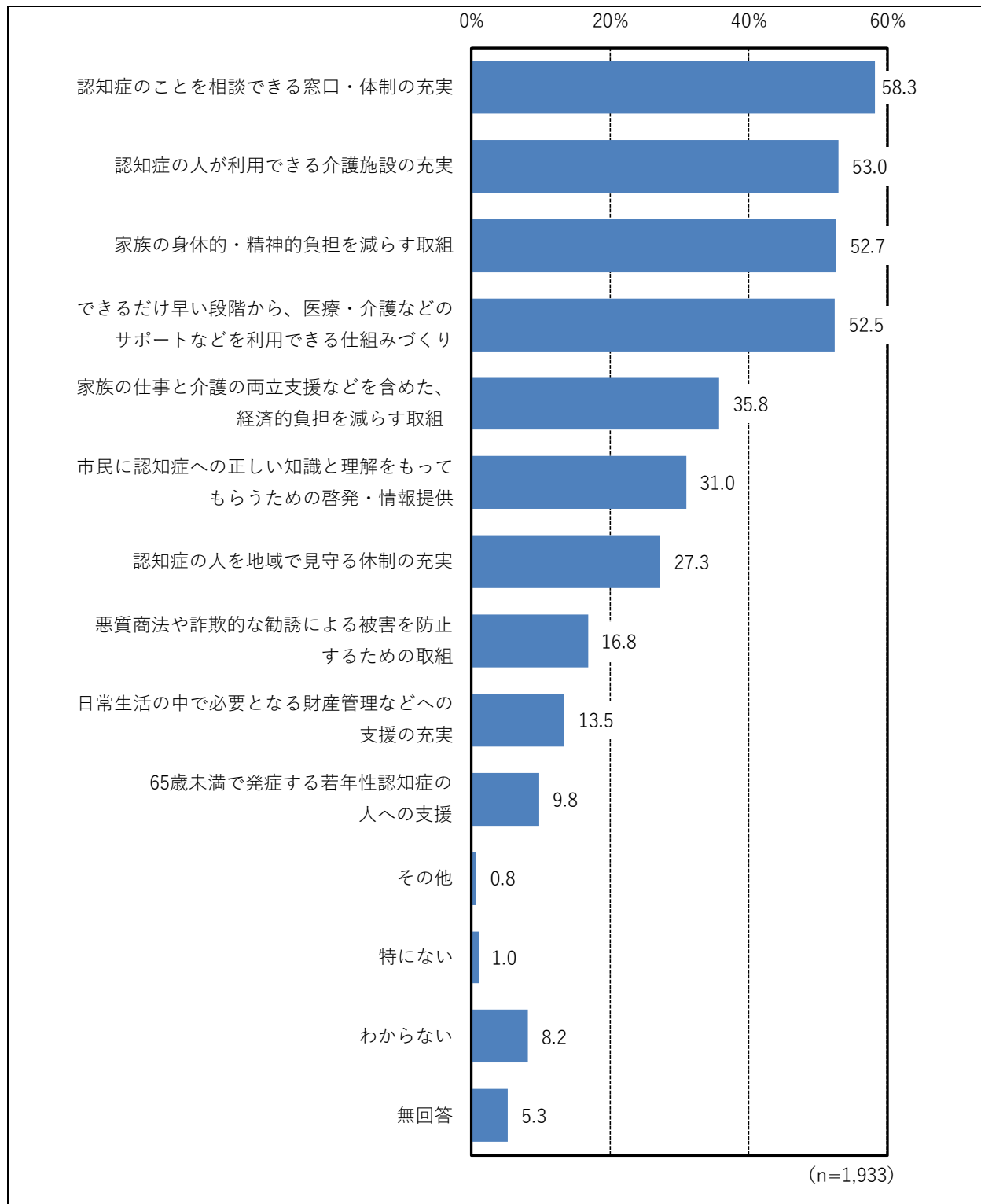
図表 102 認知症の疑いが生じた際の相談先(全体／複数回答)



●認知症の疑いが生じた際の相談先をたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」と回答した人の割合が最も高く、64.9%となっています。次いで、「家族・親族」(56.6%)、「地域包括支援センター」(22.5%)と続いています。

問 73 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

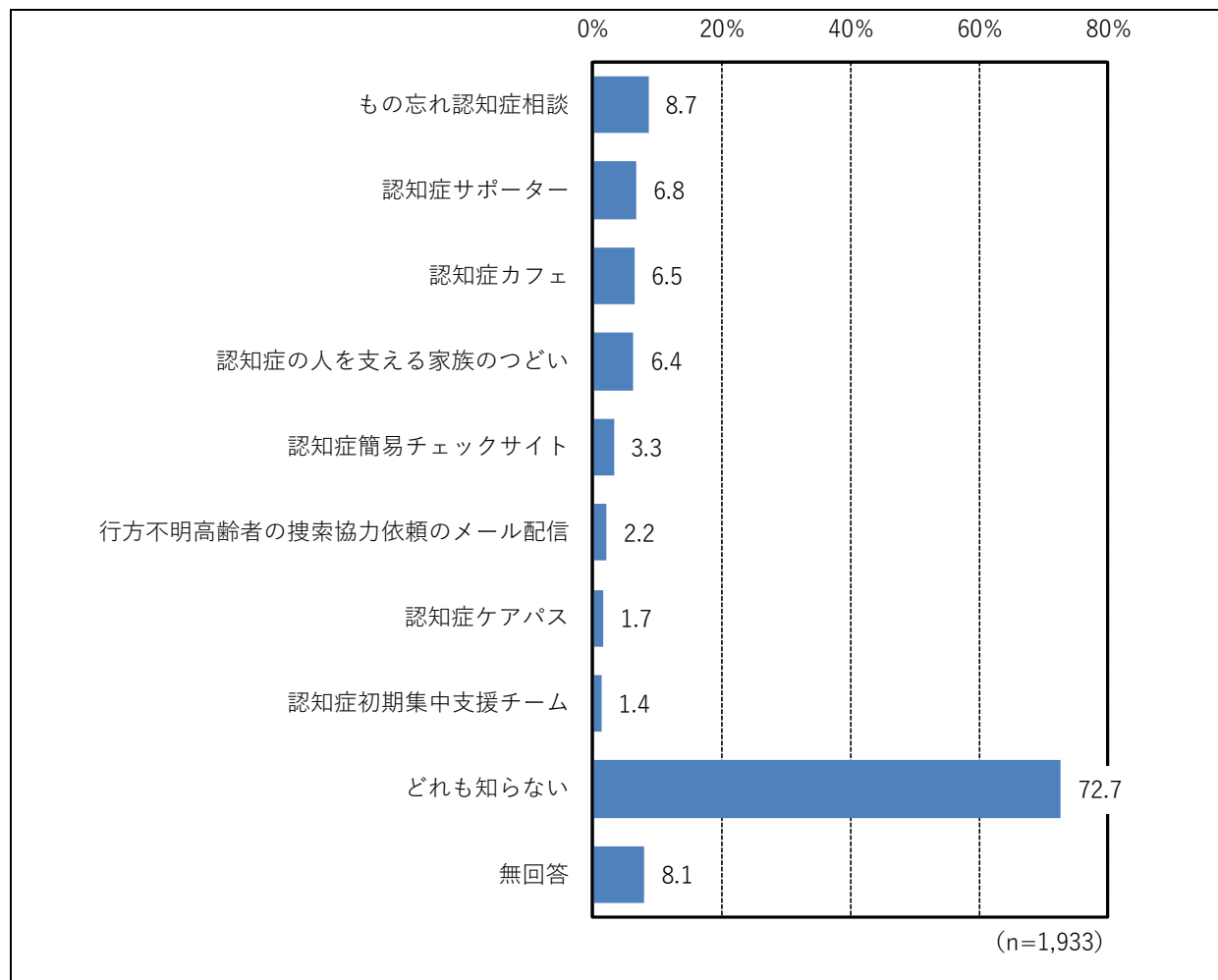
図表 103 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと(全体／複数回答)



●認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきことをたずねたところ、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」と回答した人の割合が最も高く、58.3%となっています。次いで、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」(53.0%)、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」(52.7%)と続いています。

問 74 高松市の認知症に関する取組について、知っていることはありますか。【○はいくつでも】

図表 104 高松市の認知症に関する取組への認知度(全体／複数回答)

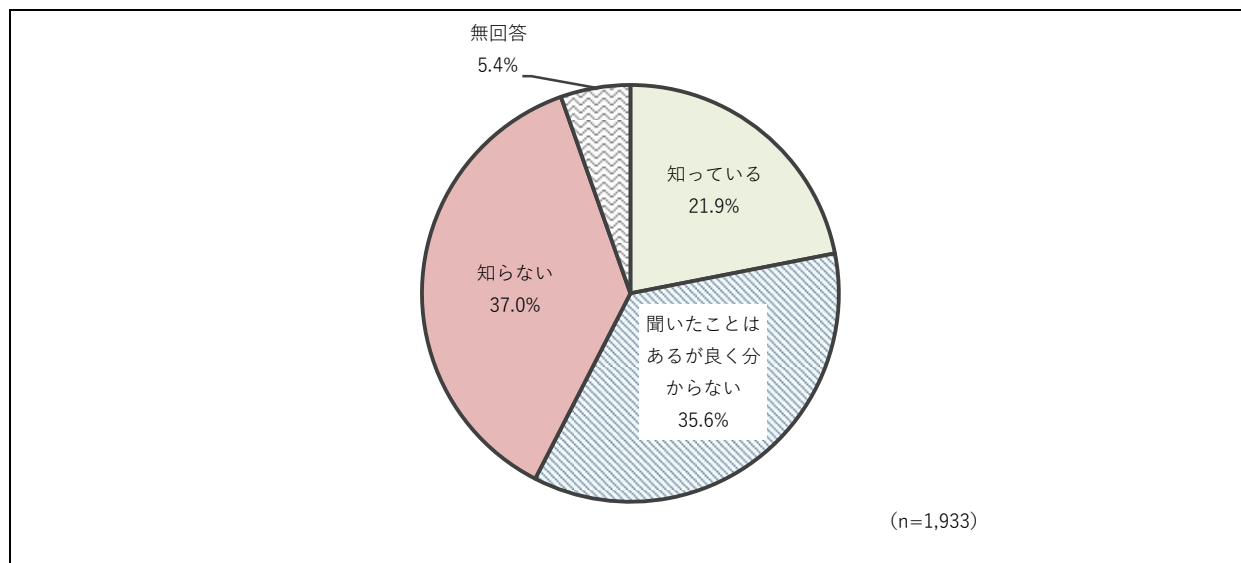


●高松市の認知症に関する取組への認知度をたずねたところ、「もの忘れ認知症相談」と回答した人の割合が最も高く、8.7%となっています。次いで、「認知症サポーター」(6.8%)、「認知症カフェ」(6.5%)と続いています。

●「どれも知らない」と回答した人の割合は、72.7%となっています。

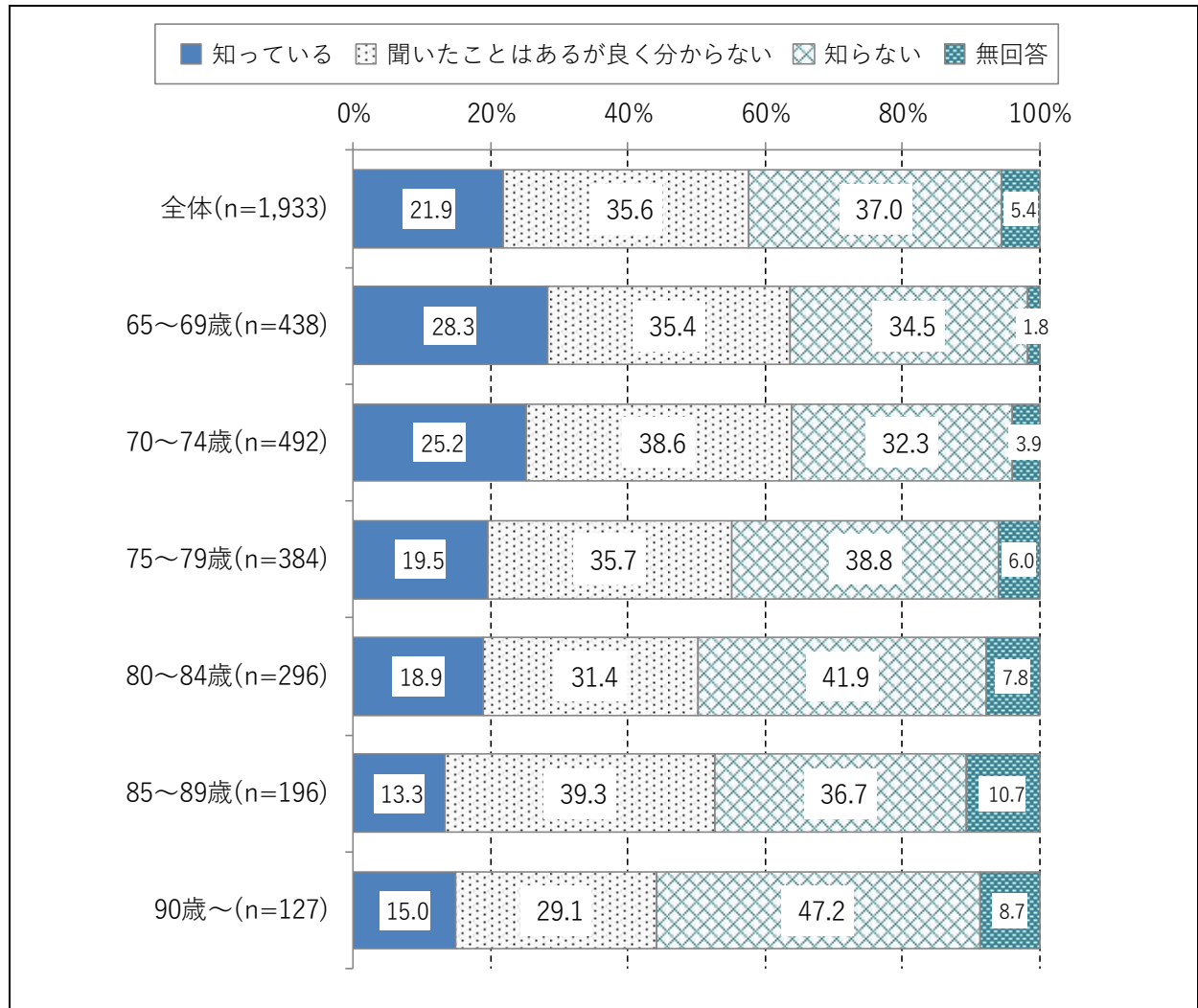
問 75 認知症等で判断能力が十分でない方に、本人に代わって法的に支援できる成年後見制度を知っていますか。【○は1つ】

図表 105 成年後見制度の認知度(全体)



●成年後見制度の認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、37.0%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(35.6%)、「知っている」(21.9%)と続いています。

図表 106 成年後見制度の認知度(年齢階層別)

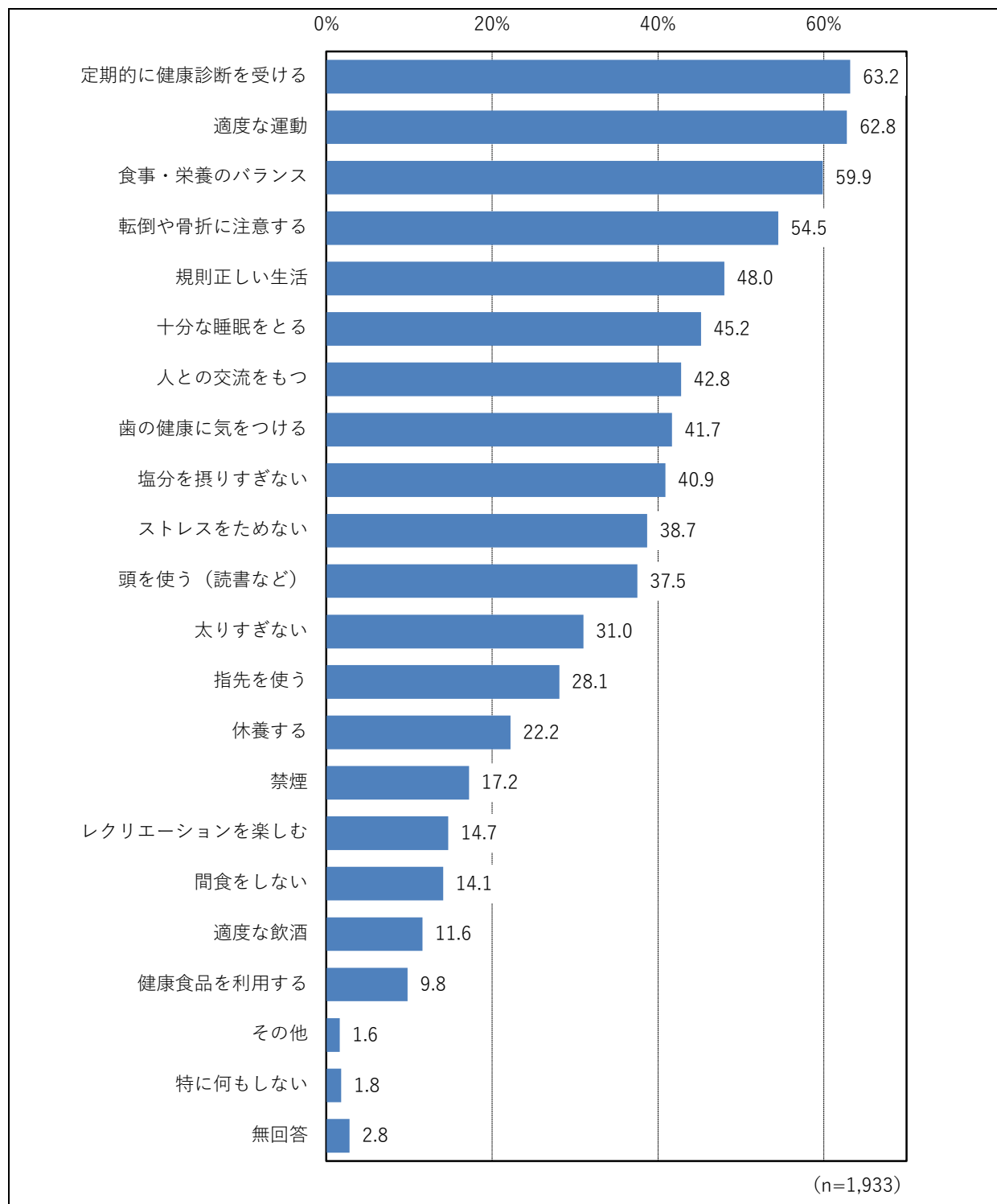


●成年後見制度の認知度を年齢階層別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、年齢階層が上がるにつれて低下していくことがわかります。

14. 自分の健康について

問 76 あなたは健康を守るために、どのようなことに気をつけていますか。【〇はいくつでも】

図表 107 健康を守るために気をつけていること(全体／複数回答)



●健康を守るために気をつけていることをたずねたところ、「定期的健康診断」と回答した人の割合が最も高く、63.2%となっています。次いで、「適度な運動」(62.8%)、「食事・栄養のバランス」(59.9%)と続いています。

● 第2章 調査結果 高齢者（65歳以上） ●

図表 108 健康を守るために気をつけていること(年齢階層別)

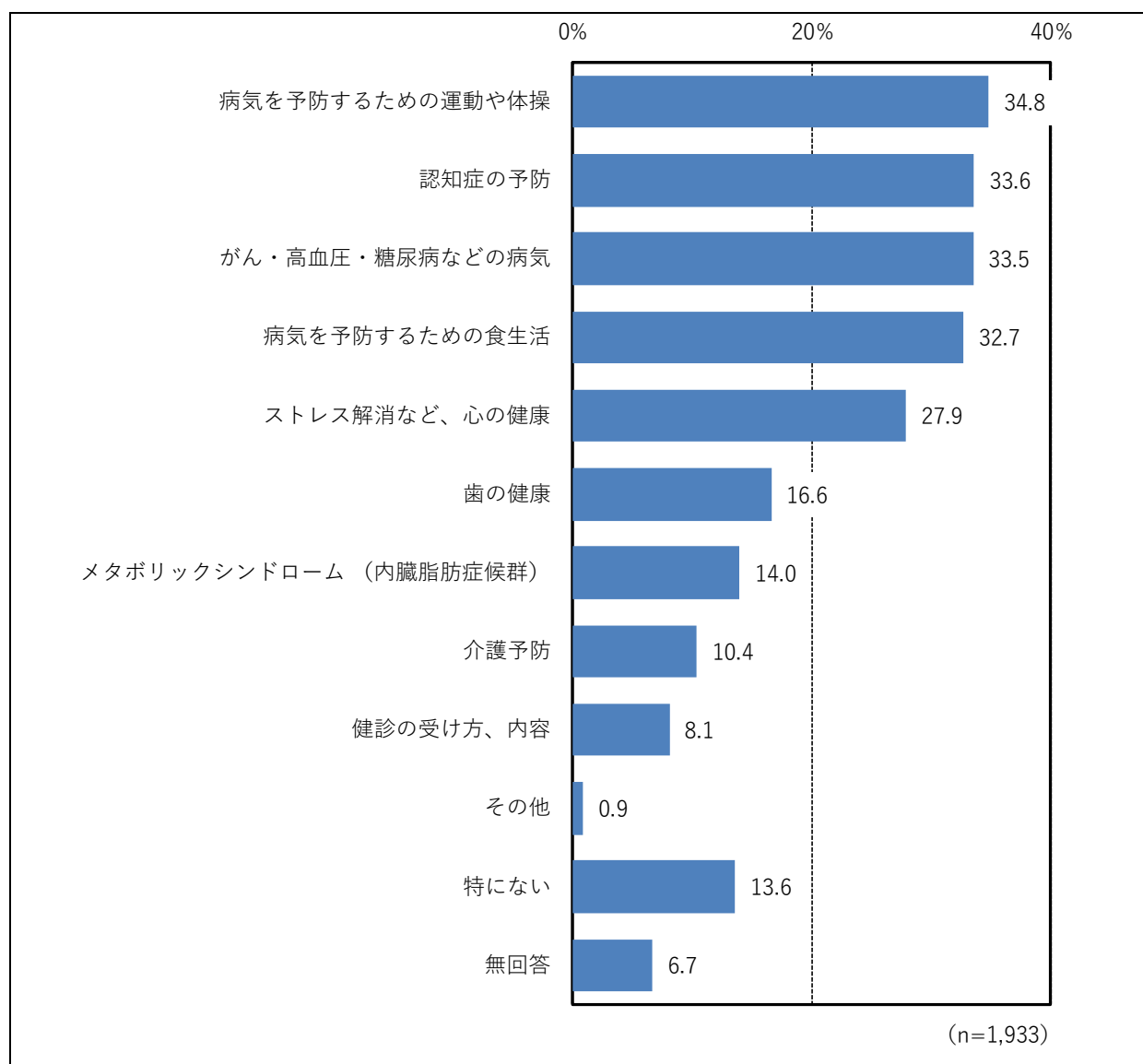
(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		定期的に健康診断を受ける 63.2	適度な運動 62.8	食事・栄養のバランス 59.9
年 齢 階 層 別	65～69歳 (n=438)	適度な運動 63.5	定期的に健康診断を受ける 62.1	食事・栄養のバランス 59.6
	70～74歳 (n=492)	定期的に健康診断を受ける 64.0	適度な運動 63.4	食事・栄養のバランス 61.2
	75～79歳 (n=384)	定期的に健康診断を受ける 66.7	適度な運動 65.1	食事・栄養のバランス 62.5
	80～84歳 (n=296)	定期的に健康診断を受ける 66.6	適度な運動 65.5	転倒や骨折に注意する 65.2
	85～89歳 (n=196)	転倒や骨折に注意する 72.4	定期的に健康診断を受ける 58.7	食事・栄養のバランス 58.2
	90歳～ (n=127)	転倒や骨折に注意する 63.0	適度な運動 57.5	定期的に健康診断を受ける 52.8

- 健康を守るために気をつけていることを年齢階層別にみると、「65～69歳」では「適度な運動」、「70～84歳」の3つの年齢階層では「定期的に健康診断を受ける」、「85歳～」の2つの年齢階層では「転倒や骨折に注意する」と回答した人の割合が最も高くなっています。

問 77 健康について知りたいことは何ですか。【○はいくつでも】

図表 109 健康に関して知りたい情報(全体／複数回答)



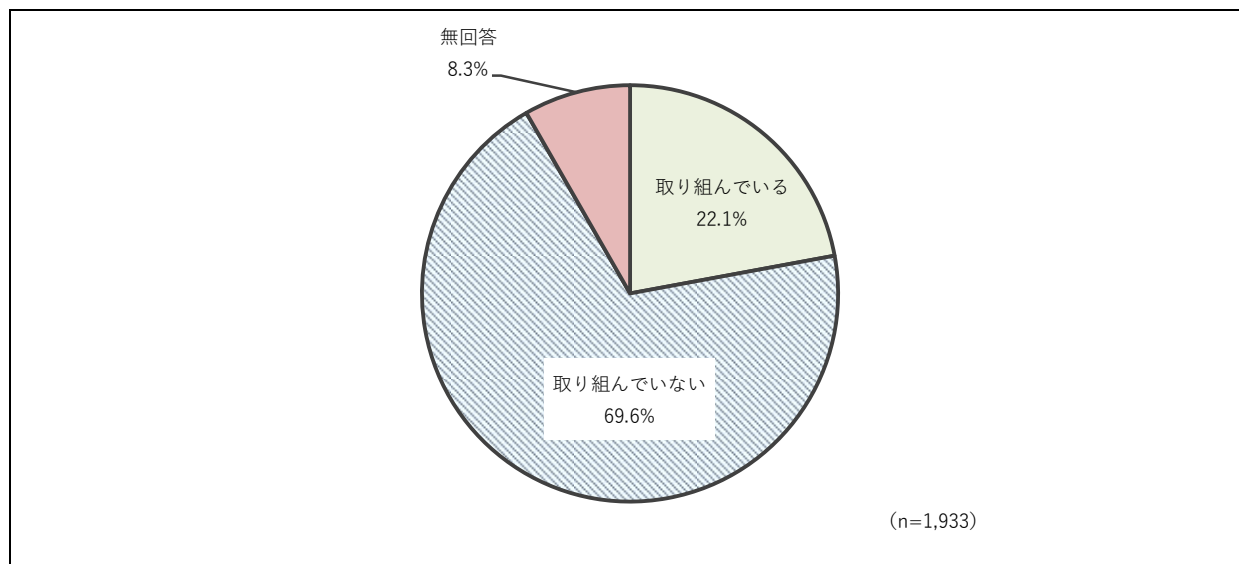
●健康に関して知りたい情報をたずねたところ、「病気を予防するための運動や体操」と回答した人の割合が最も高く、34.8%となっています。次いで、「認知症の予防」(33.6%)、「がん・高血圧・糖尿病などの病気」(33.5%)と続いています。

15. 一般介護予防事業について

(1) 介護予防への取組について

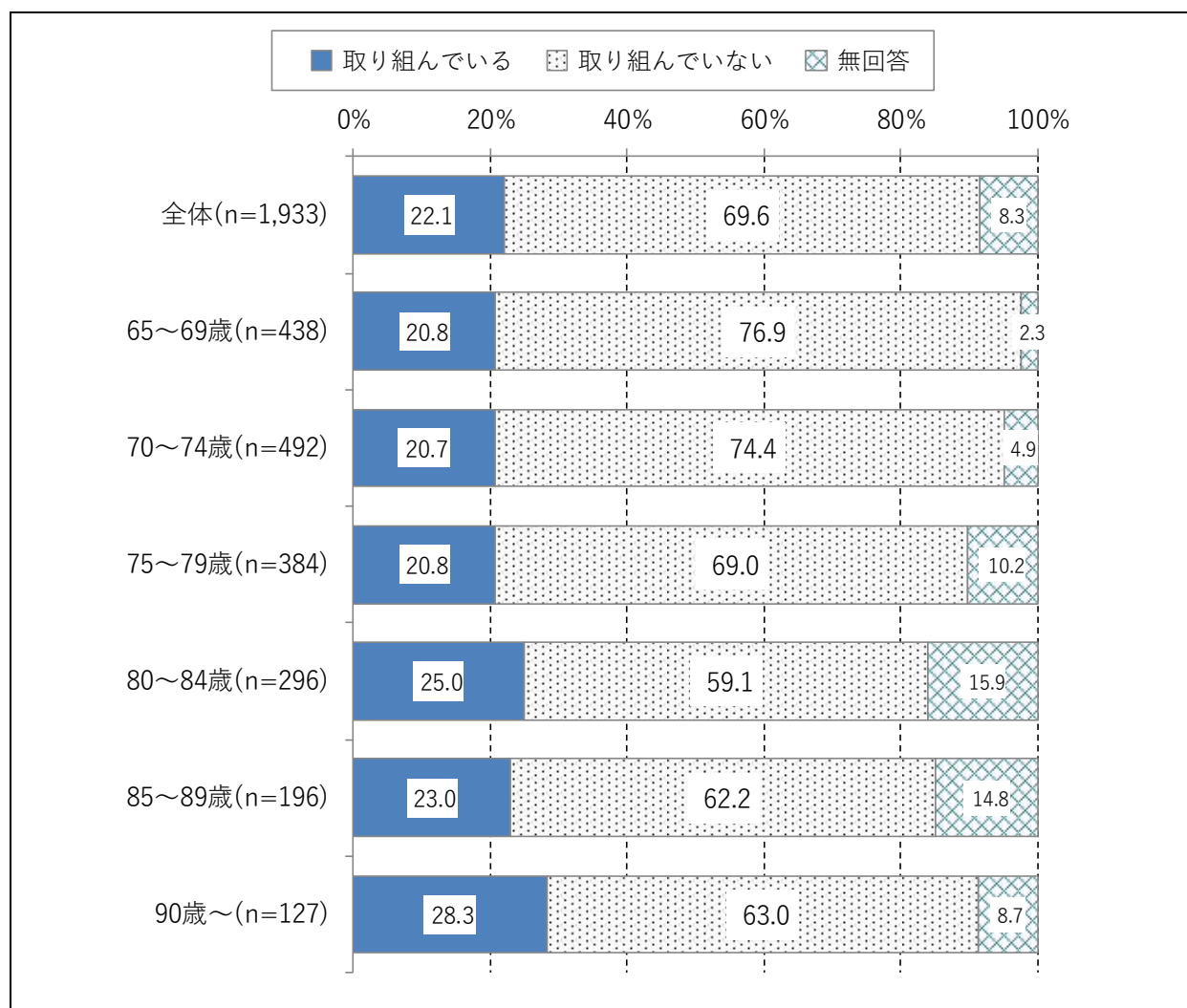
問 78 現在あなたは介護予防に取り組んでいますか。【○は1つ】

図表 110 介護予防の取組状況(全体)



●介護予防の取組状況をたずねたところ、「取り組んでいる」と回答した人の割合は 22.1%となっています。一方、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 69.6%となっています。

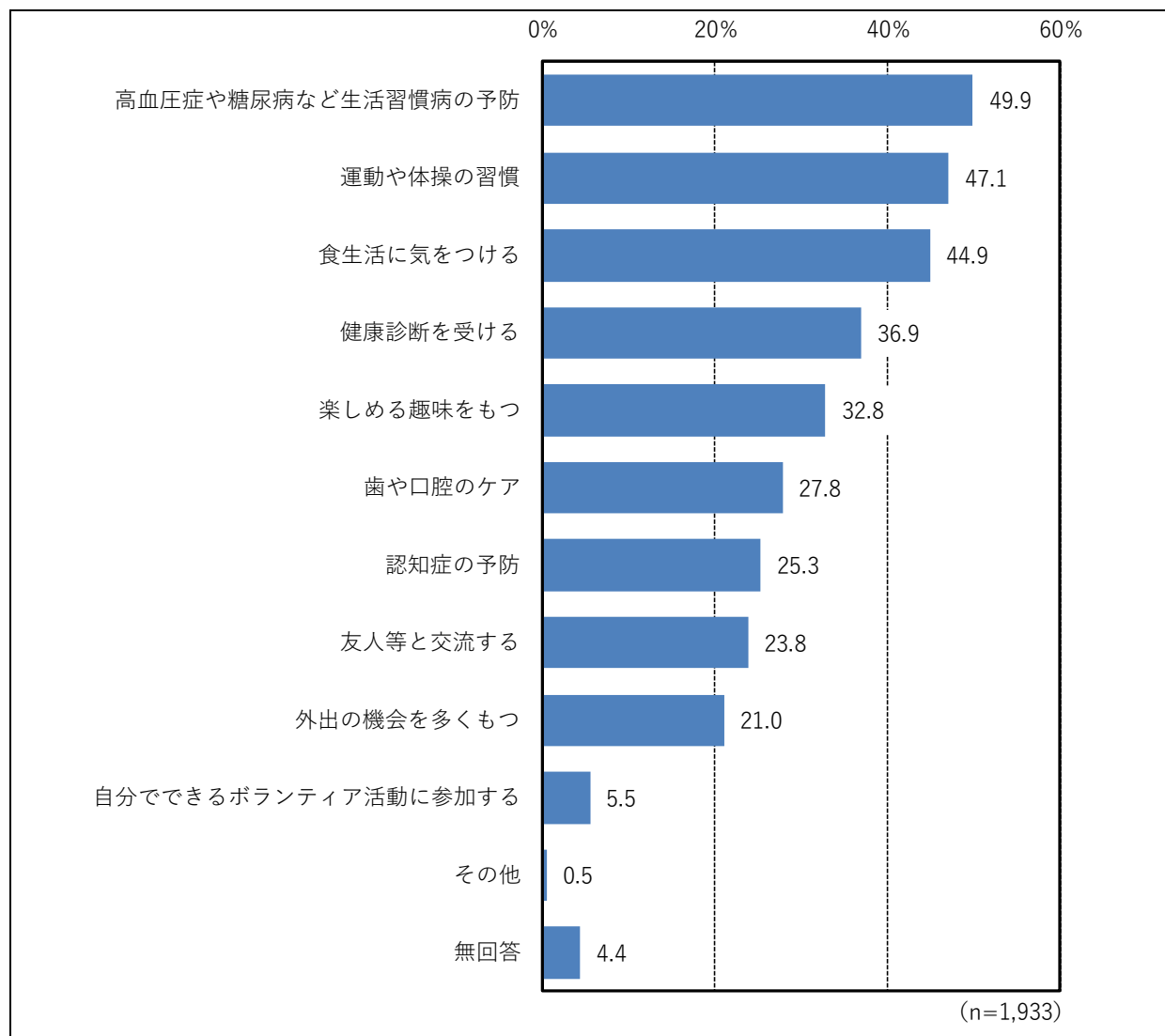
図表 111 介護予防の取組状況(年齢階層別)



●介護予防の取組状況を年齢階層別にみると、「取組んでいる」と回答した人の割合は、「90 歳～」が最も高く、28.3%となっています。次いで、「80～84 歳」(25.0%)、「85～89 歳」(23.0%)と続いています。

問 79 介護予防の上で重要と思われるものに○をつけてください。【○は3つまで】

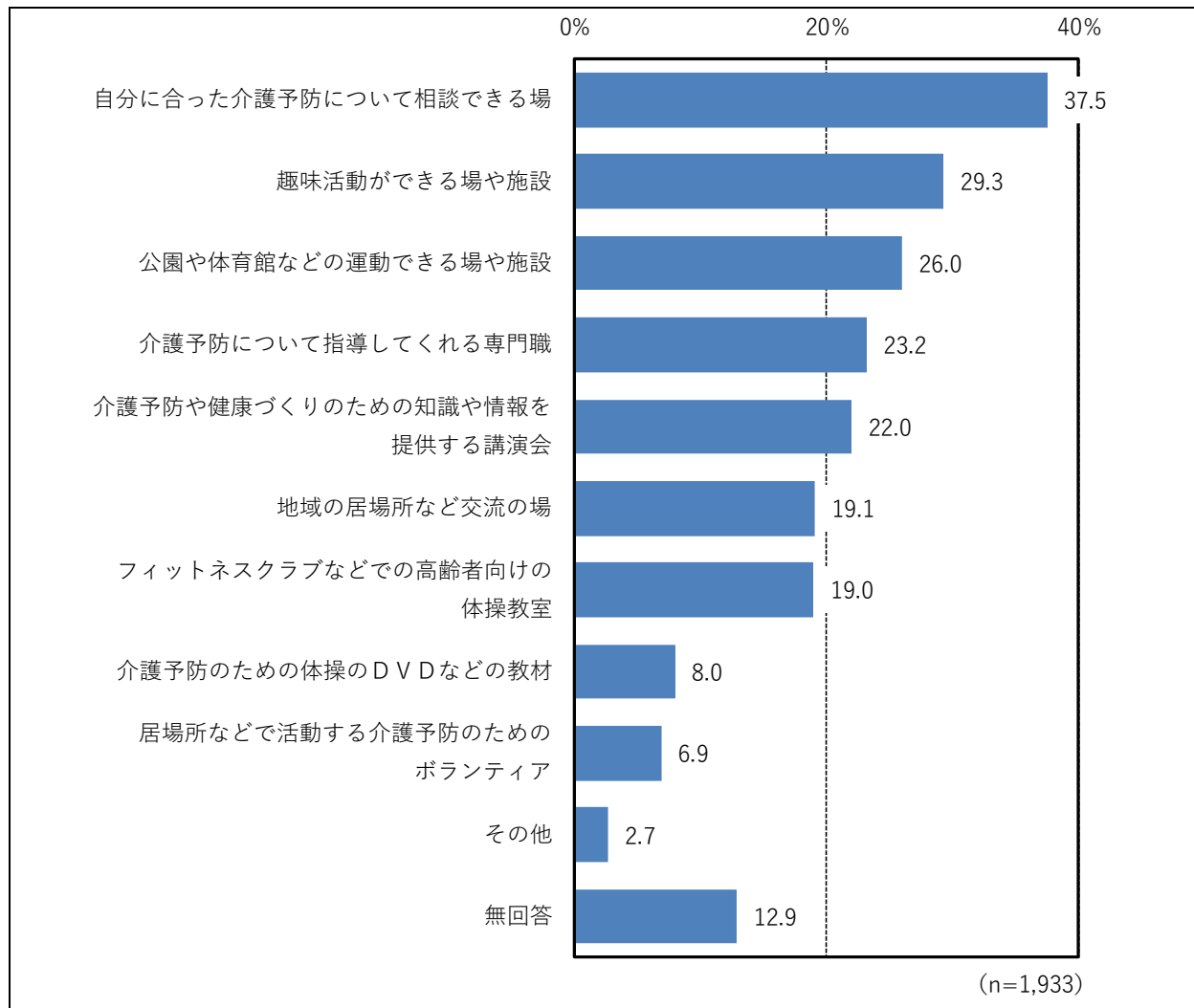
図表 112 介護予防の上で重要な事(全体／複数回答)



●介護予防の上で重要なことについてたずねたところ、「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」と回答した人の割合が最も高く、49.9%となっています。次いで、「運動や体操の習慣」(47.1%)、「食生活に気をつける」(44.9%)と続いています。

問 80 自分で介護予防に取り組むためにどのようなものがあればよいと思いますか。
【〇は3つまで】

図表 113 自分で介護予防に取り組む上で必要なもの(全体／複数回答)

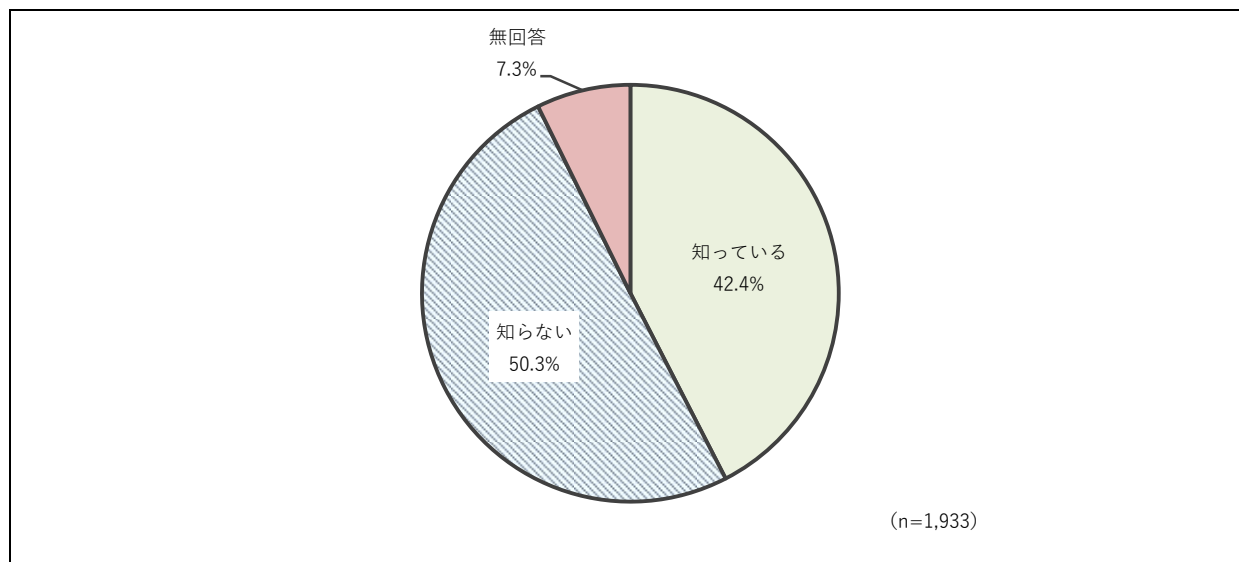


●自分で介護予防に取り組む上で必要なものをたずねたところ、「自分に合った介護予防について相談できる場」と回答した人の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「趣味活動ができる場や施設」(29.3%)、「公園や体育館などの運動できる場や施設」(26.0%)と続いています。

(2)介護予防とボランティア活動について

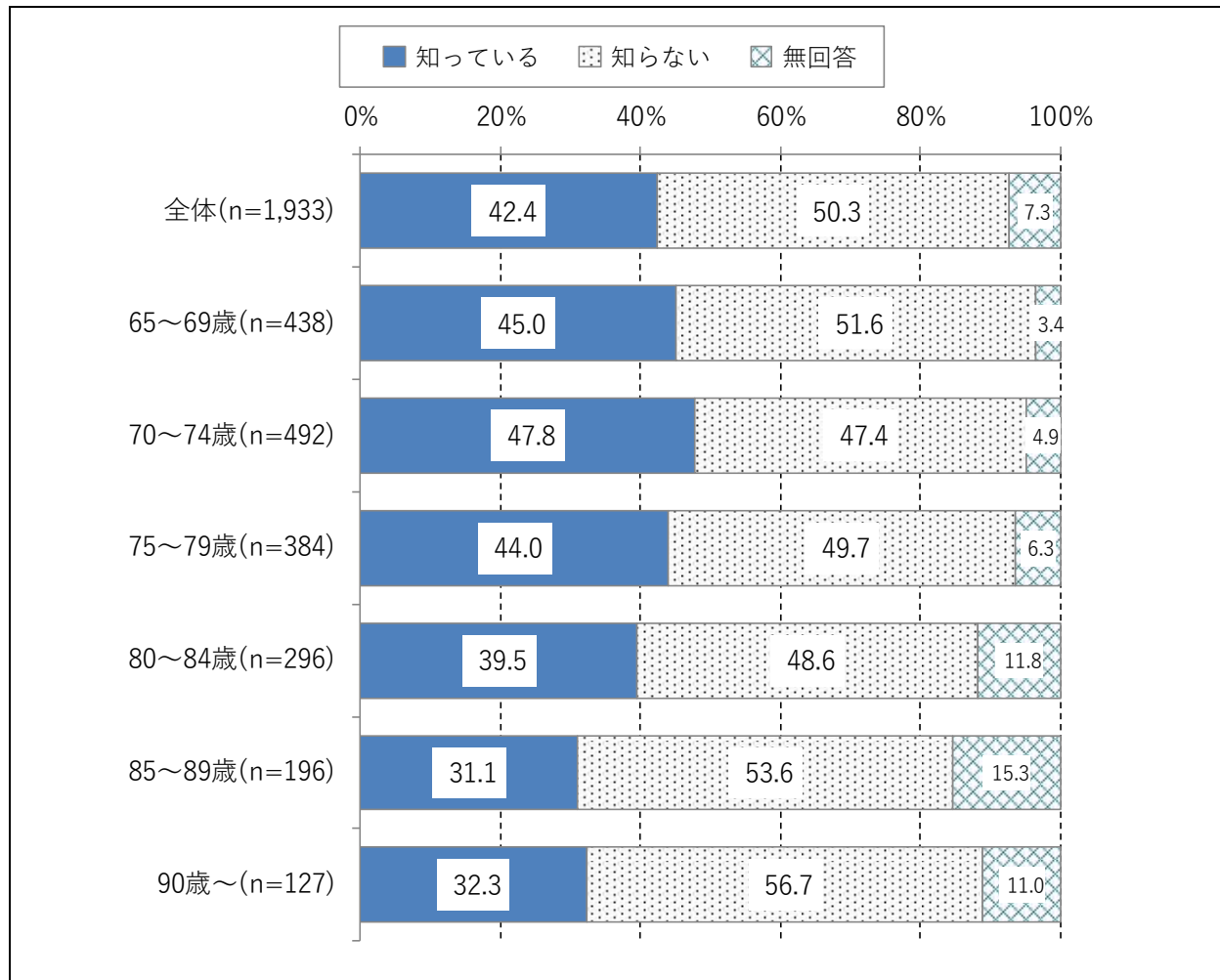
問 81 ボランティア活動などの社会参加が介護予防に効果があることは、知っていますか。
【○は1つ】

図表 114 社会参加の介護予防への効果について(全体)



●社会参加の介護予防への効果についてたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合は42.4%となっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は50.3%となっています。

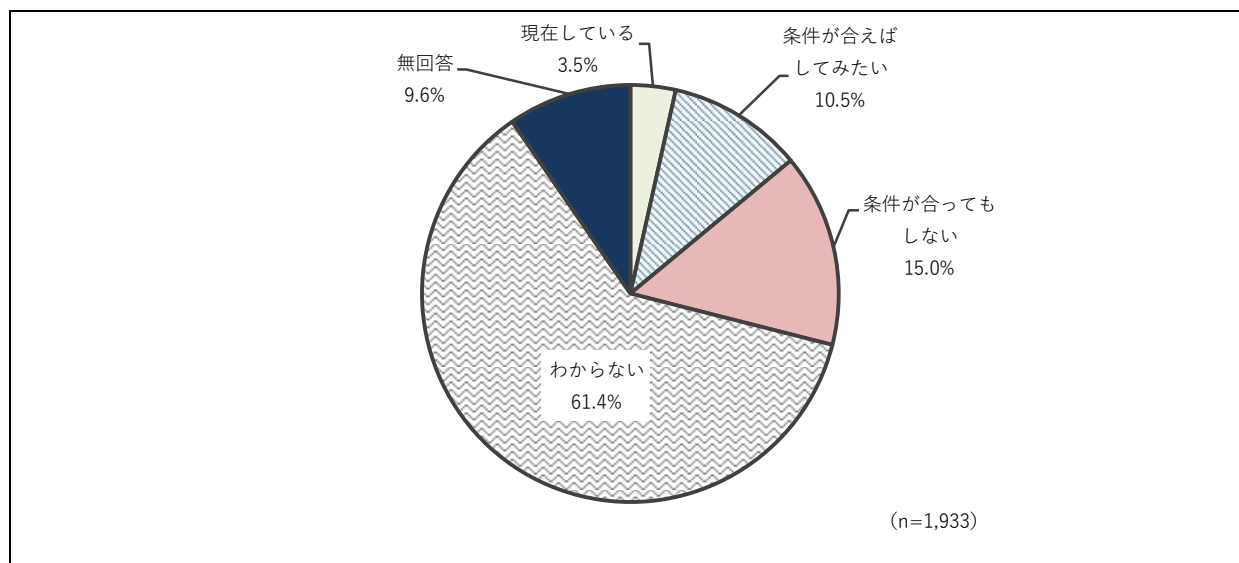
図表 115 社会参加の介護予防への効果について(年齢階層別)



- 社会参加の介護予防への効果について年齢階層別にみると、「70～74 歳」を除くすべての年齢階層で、「知っている」と回答した人の割合に比べて、「知らない」と回答した人の割合が上回っています。
- 「知っている」と回答した人の割合は、「70～74 歳」が最も高く 47.8%となっています。次いで、「65～69 歳」(45.0%)、「75～79 歳」(44.0%)となっています。

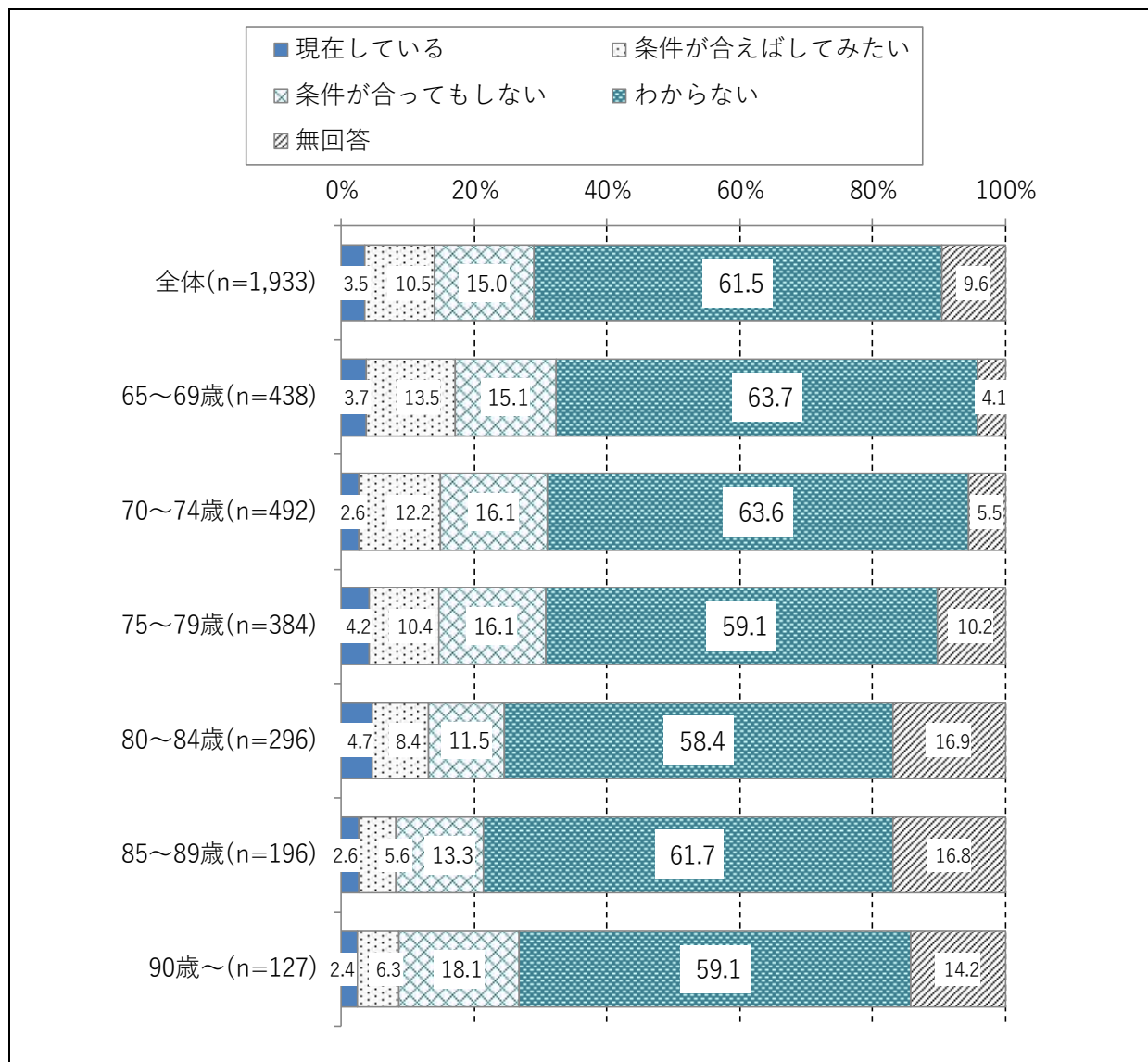
問 82 様々なボランティア活動の種類がありますが、中でも、介護予防ボランティアの活動をしてみたいですか。【○は1つ】

図表 116 介護予防ボランティアへの参加意向(全体)



●介護予防ボランティアへの参加意向をたずねたところ、「わからない」と回答した人の割合が最も高く、61.4%となっています。次いで、「条件が合ってもしない」(15.0%)、「条件が合えばしてみたい」(10.5%)と続いています。

図表 117 介護予防ボランティアへの参加意向(年齢階層別)

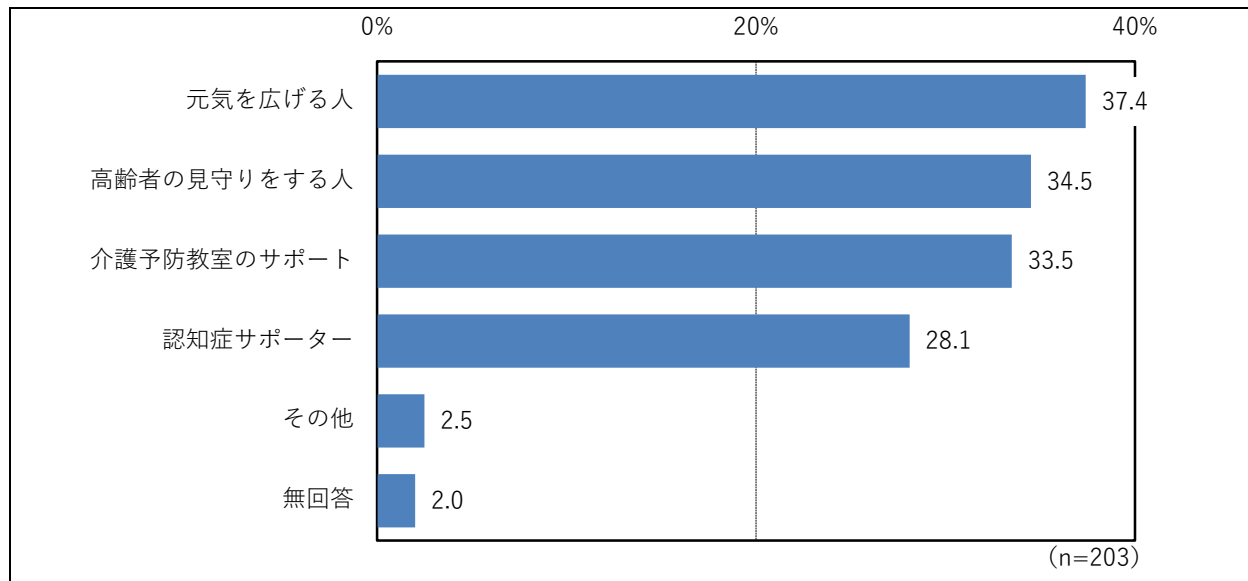


●介護予防ボランティアへの参加意向を年齢階層別にみると、「現在している」と回答した人の割合については、大きな差はみられません。「条件が合えばしてみたい」と回答した人の割合については、「65～79歳」の3つの年齢階層が、その他の年齢階層に比べて比較的高くなっています。

問82で「2条件が合えばしてみたい」と回答した方

問82-1 どのような介護予防ボランティア活動をしてみたいですか。【○はいくつでも】

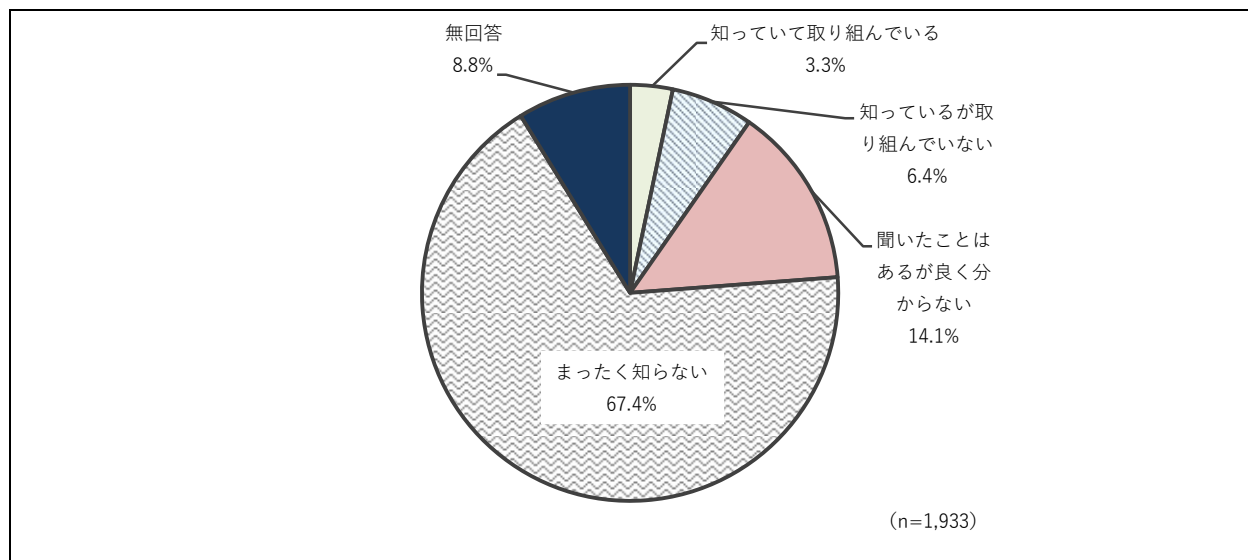
図表 118 してみたい介護予防ボランティア活動の内容(全体/複数回答)



●してみたい介護予防ボランティア活動の内容をたずねたところ、「元気を広げる人」と回答した人の割合が最も高く、37.4%となっています。次いで、「高齢者の見守りをする人」(34.5%)、「介護予防教室のサポート」(33.5%)と続いています。

問83 高松市の「のびのび元気体操」を知っていますか。【○は1つ】

図表 119 「のびのび元気体操」の認知度(全体)



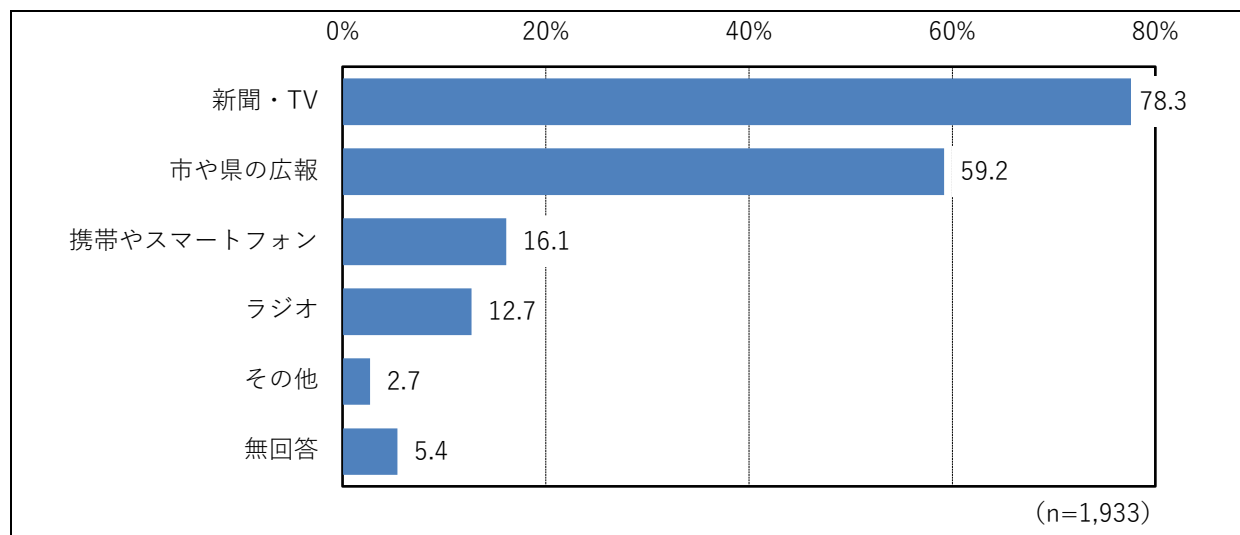
●「のびのび元気体操」の認知度をたずねたところ、「まったく知らない」と回答した人の割合が最も高く、67.4%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(14.1%)、「知っているが取り組んでいない」(6.4%)と続いています。

16. 高齢者の保健福祉について

(1) 情報収集手段

問 84 日常の情報収集手段は何ですか。【○はいくつでも】

図表 120 日常の情報収集手段(全体／複数回答)



● 日常の情報収集手段をたずねたところ、「新聞・TV」と回答した人の割合が最も高く、78.3%となっています。次いで、「市や県の広報」(59.2%)、「携帯やスマートフォン」(16.1%)と続いています。

図表 121 日常の情報収集手段(年齢階層別)

(単位: %)

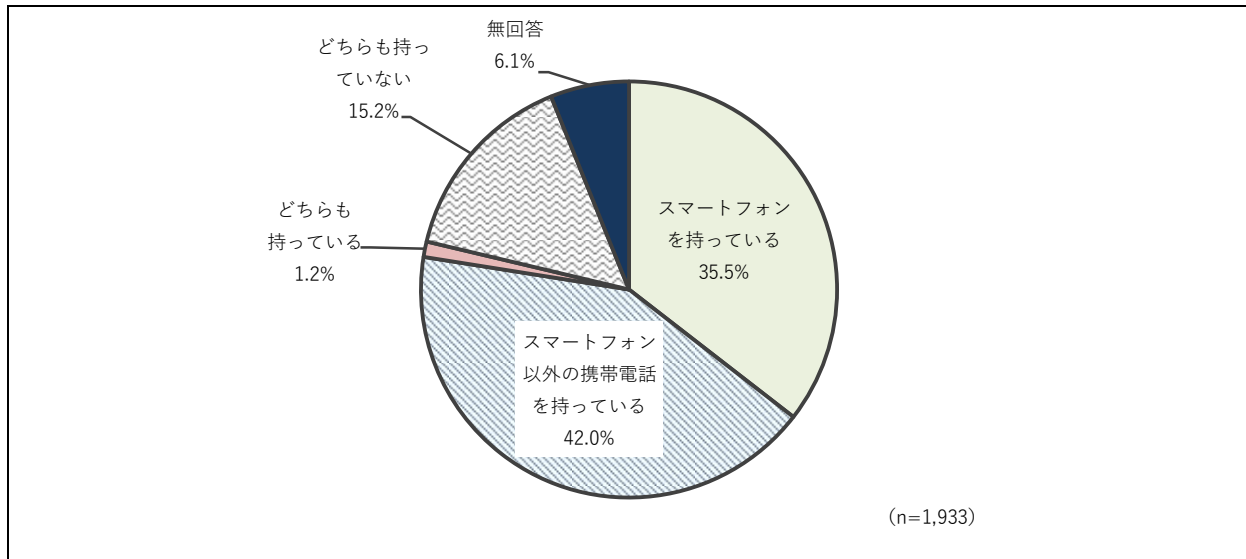
		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,933)		新聞・TV 78.3	市や県の広報 59.2	携帯やスマートフォン 16.1
年齢階層別	65～69歳 (n=438)	新聞・TV 80.4	市や県の広報 59.6	携帯やスマートフォン 35.4
	70～74歳 (n=492)	新聞・TV 80.7	市や県の広報 58.5	携帯やスマートフォン 18.3
	75～79歳 (n=384)	新聞・TV 77.3	市や県の広報 62.2	ラジオ 13.8
	80～84歳 (n=296)	新聞・TV 74.3	市や県の広報 59.8	ラジオ 11.8
	85～89歳 (n=196)	新聞・TV 77.0	市や県の広報 53.6	ラジオ 12.2
	90歳～ (n=127)	新聞・TV 76.4	市や県の広報 58.3	ラジオ 7.1

● 日常の情報収集手段を年齢階層別にみると、すべての年齢階層で第1位「新聞・TV」、第2位「市や県の広報」となっています。第3位については、「65～74歳」の2つの年齢階層は「携帯やスマートフォン」、「75歳～」は「ラジオ」となっています。

(2)携帯電話

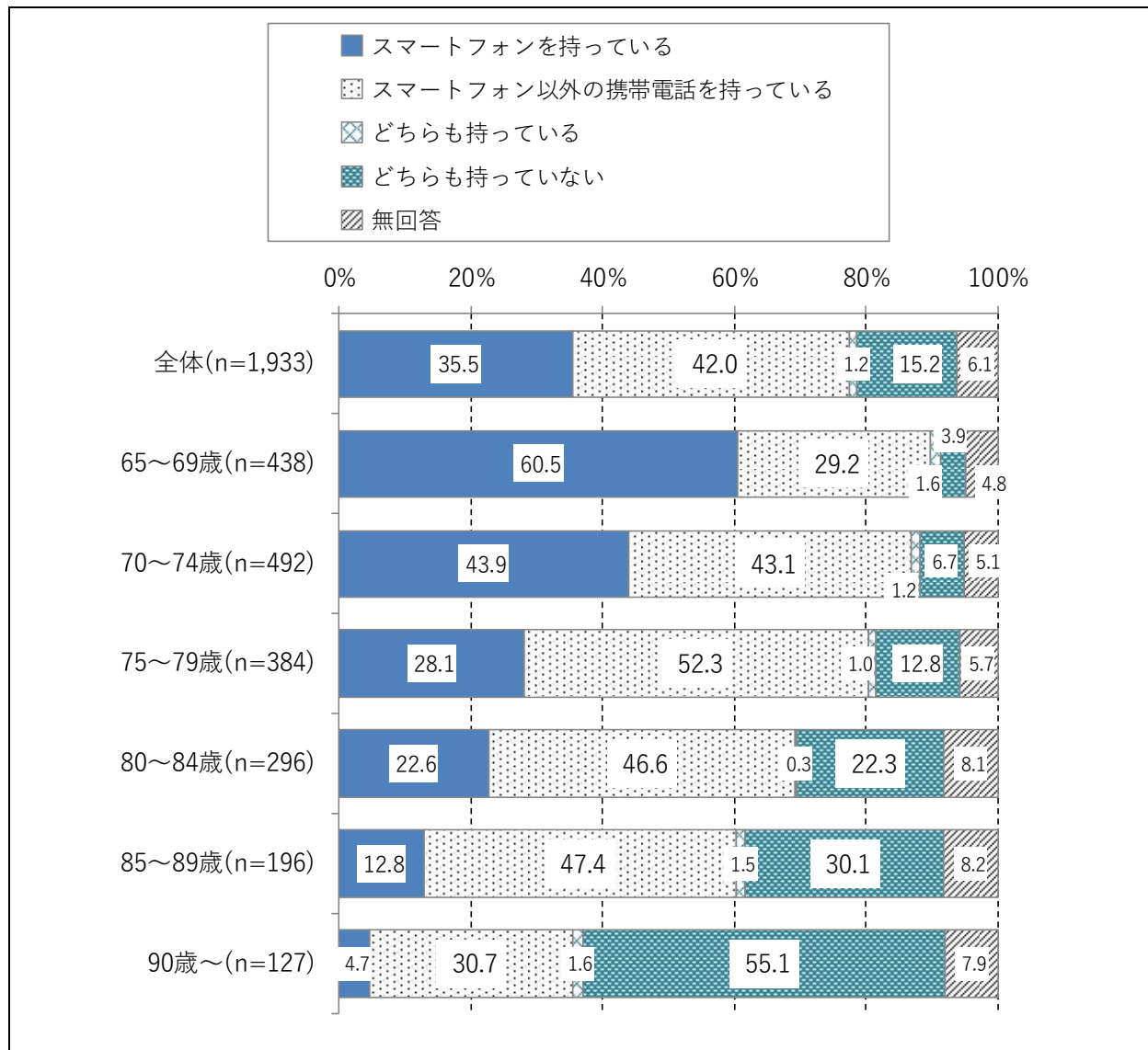
問 85 現在、携帯電話を持っていますか。【○は1つ】

図表 122 携帯電話の所持状況(全体)



●携帯電話の所持状況をたずねたところ、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」と回答した人の割合が最も高く、42.0%となっています。次いで、「スマートフォンを持っている」(35.5%)、「どちらも持っていない」(15.2%)と続いています。

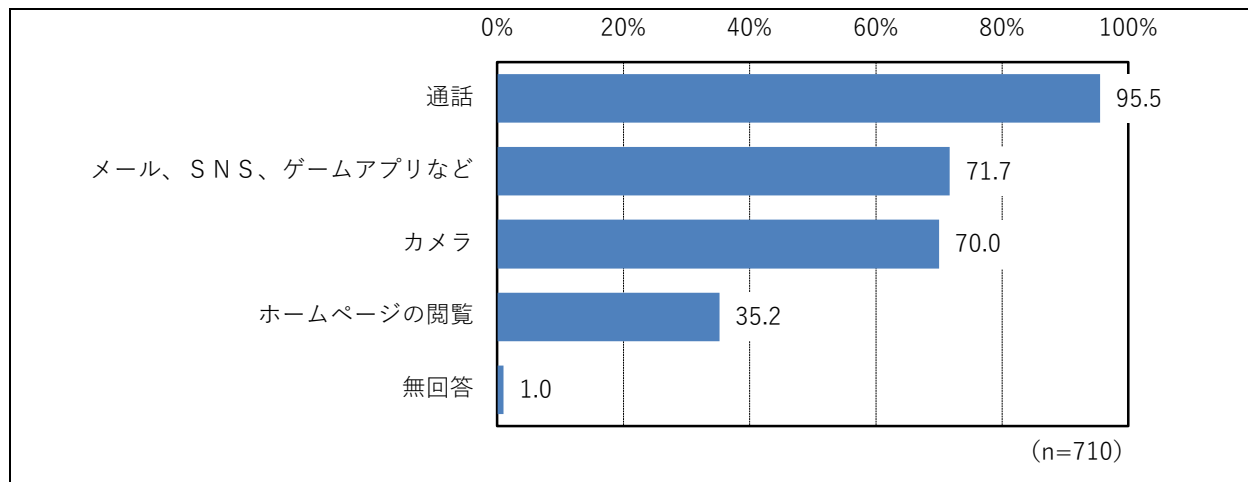
図表 123 携帯電話の所持状況(年齢階層別)



●携帯電話の所持状況を年齢階層別にみると、「スマートフォンを持っている」、「どちらも持っている」と回答した人を合算したスマートフォンの所持率は、「65～69 歳」が最も高く 62.1%となっています。次いで、「70～74 歳」(45.1%)、「75～79 歳」(29.1%)となっており年齢階層が下がるにつれて所持率は上昇していくことがみてとれます。

問85で「1スマートフォンを持っている」「3どちらも持っている」と回答した方
問85-1 スマートフォンをどのような用途に使っていますか。【○はいくつでも】

図表 124 スマートフォンの利用用途(全体／複数回答)

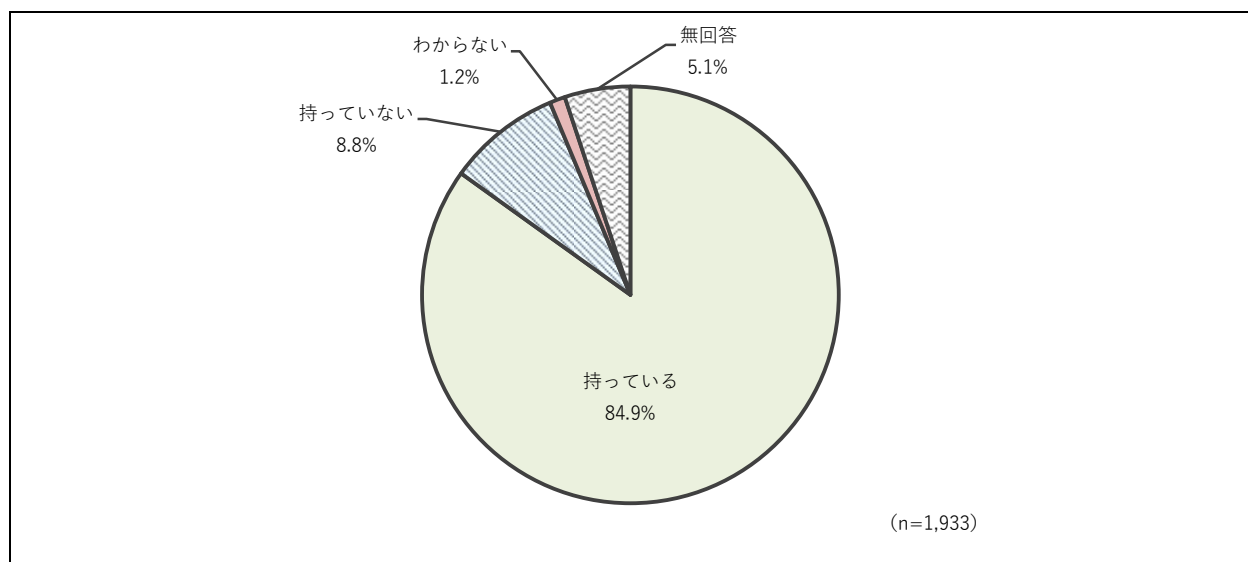


●スマートフォンの利用用途をたずねたところ、「通話」と回答した人の割合が最も高く、95.5%となっています。次いで、「メール、SNS、ゲームアプリなど」(71.7%)、「カメラ」(70.0%)と続いています。

(3) かかりつけ医の有無について

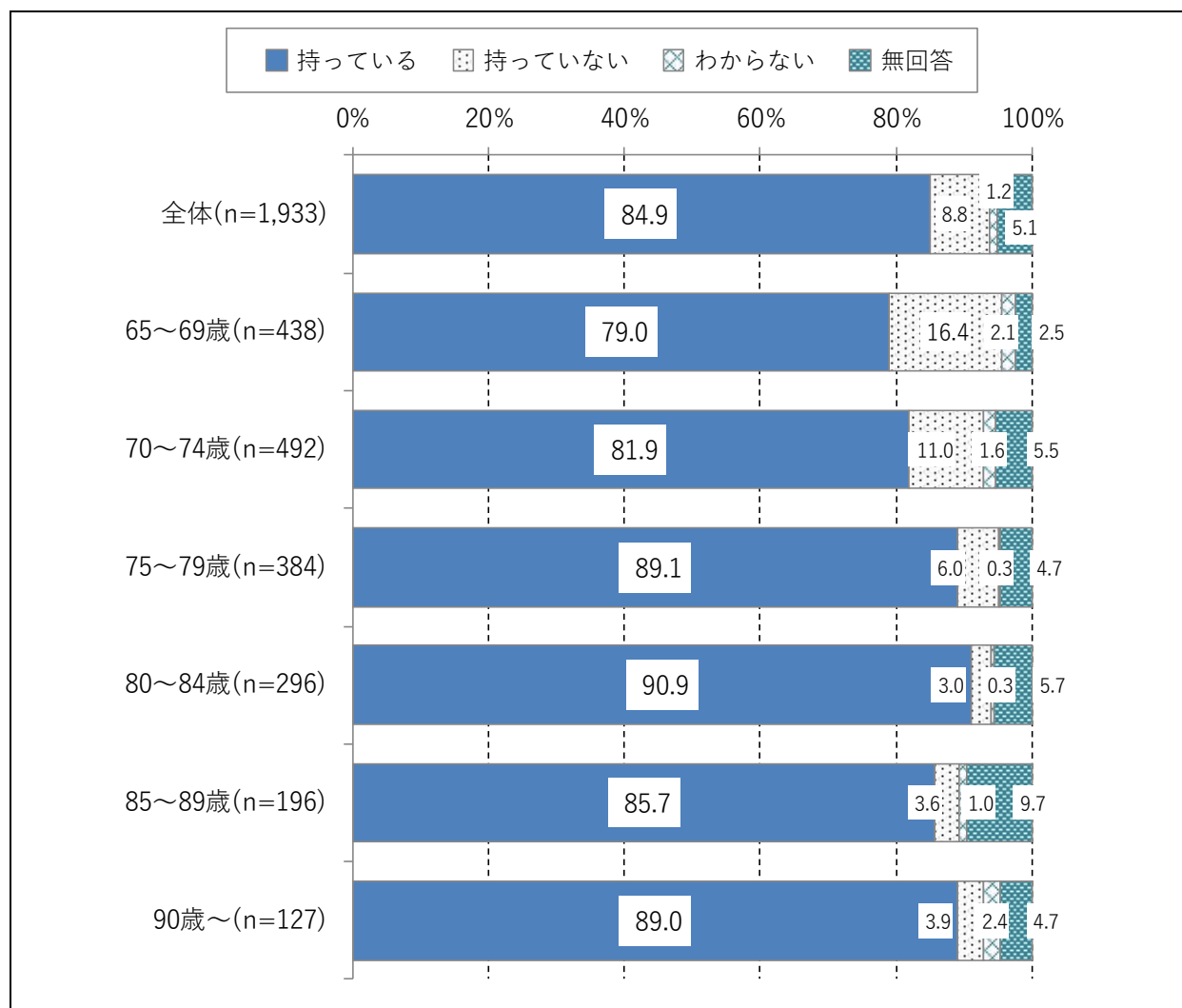
問86 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【○は1つ】

図表 125 かかりつけ医の有無(全体)



●かかりつけ医の有無をたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合が最も高く、84.9%となっています。次いで、「持っていない」(8.8%)、「わからない」(1.2%)と続いています。

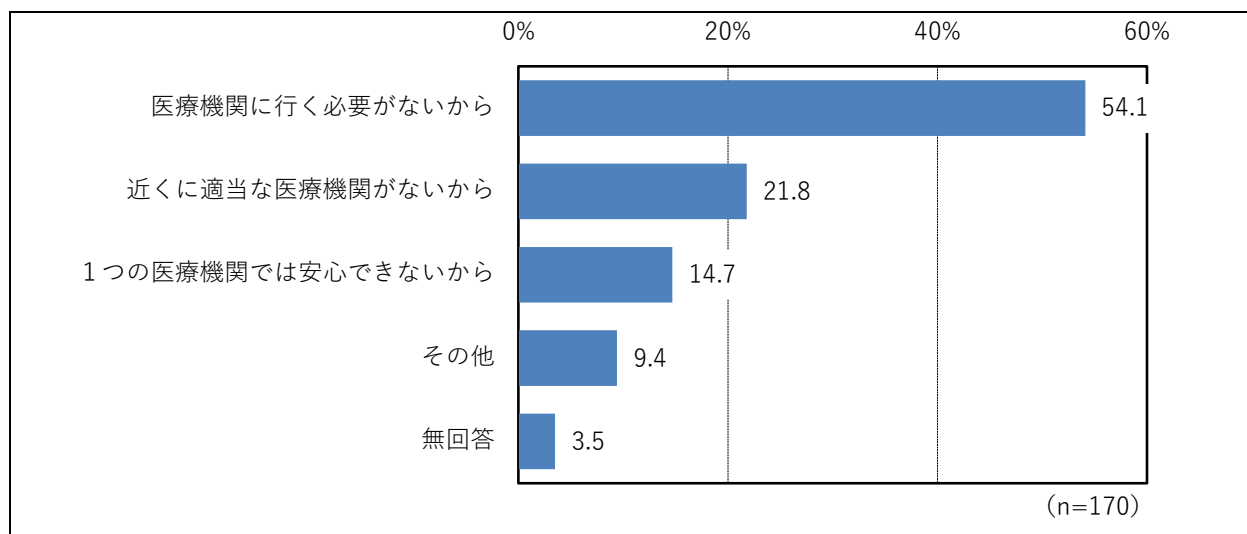
図表 126 かかりつけ医の有無(年齢階層別)



●かかりつけ医の有無を年齢階層別にみると、「75 歳～」の 4 つの年齢階層では「持っている」と回答した人の割合が、約 9 割となっています。それに比べ、「65～74 歳」の2つの年齢階層では「持っている」と回答した人の割合は若干低くなっています。

問86で「2持っていない」と回答した方
問86-1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

図表 127 かかりつけ医を持っていない理由(全体／複数回答)

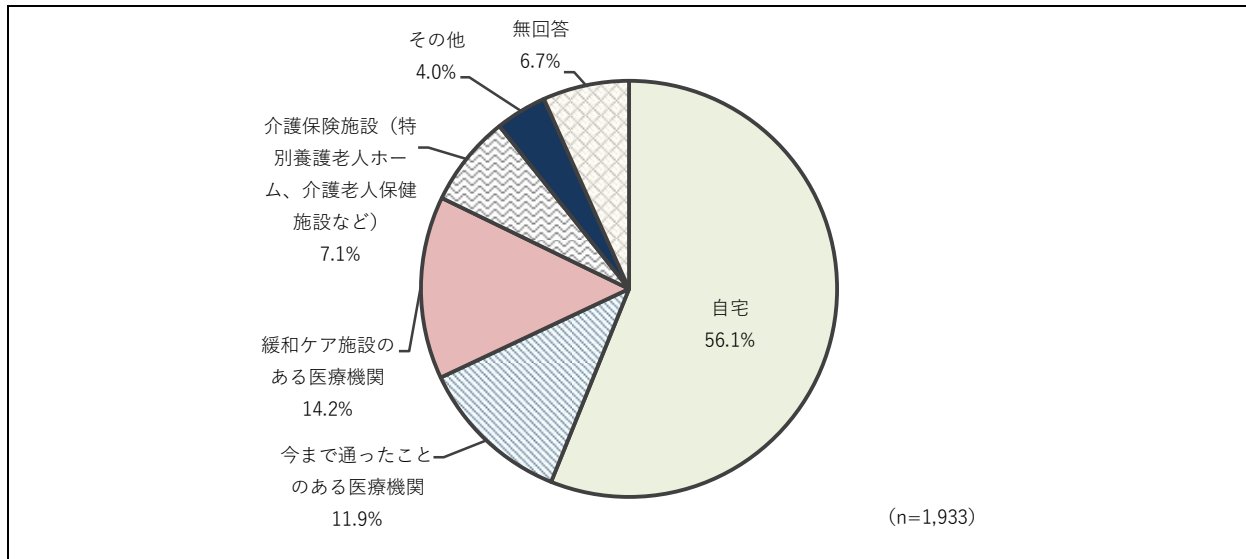


●かかりつけ医を持っていない理由をたずねたところ、「医療機関に行く必要がないから」と回答した人の割合が最も高く、54.1%となっています。次いで、「近くに適切な医療機関がないから」(21.8%)、「1つの医療機関では安心できないから」(14.7%)と続いています。

(4)自分の最期について

問 87 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【○は1つ】

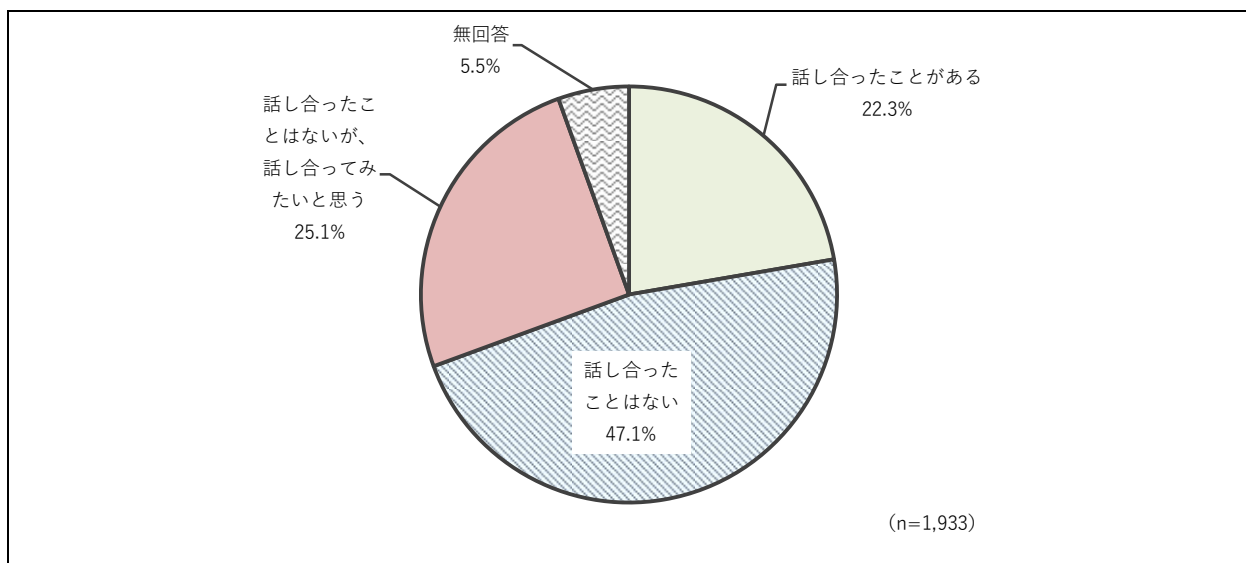
図表 128 自分の最期を迎えたい場所(全体／複数回答)



●自分の最期を迎えたい場所をたずねたところ、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、56.1%となっています。次いで、「緩和ケア施設のある医療機関」(14.2%)、「今まで通ったことのある医療機関」(11.9%)と続いています。

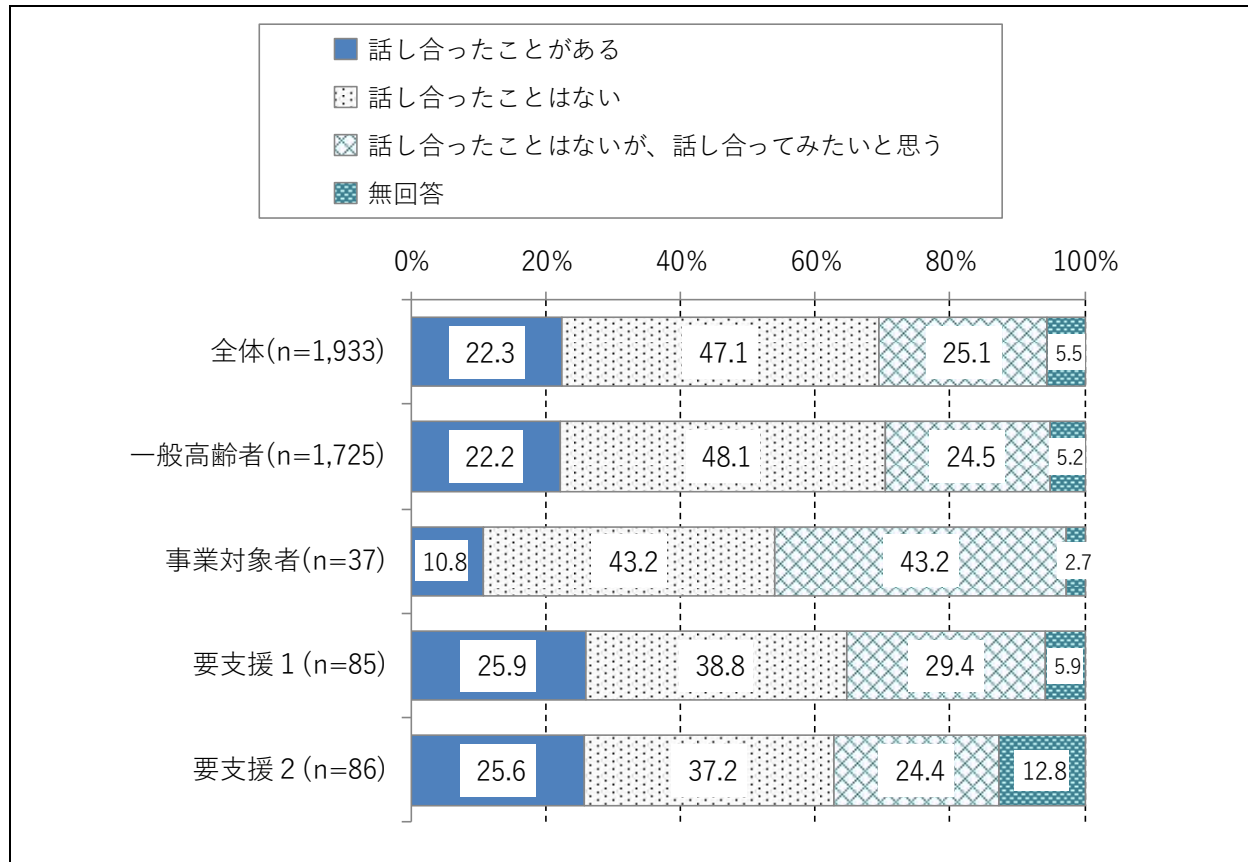
問 88 自分の最期の時に希望する医療や介護について、家族や医療・介護関係者と話し合ったことはありますか。【○は1つ】

図表 129 自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験(全体)



●自分の最期の時について、家族や医療・介護関係者と話し合った経験をたずねたところ、「話し合ったことはない」と回答した人の割合が最も高く、47.1%となっています。次いで、「話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う」(25.1%)、「話し合ったことがある」(22.3%)と続いています。

図表 130 自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験
(要支援度／事業対象者別)

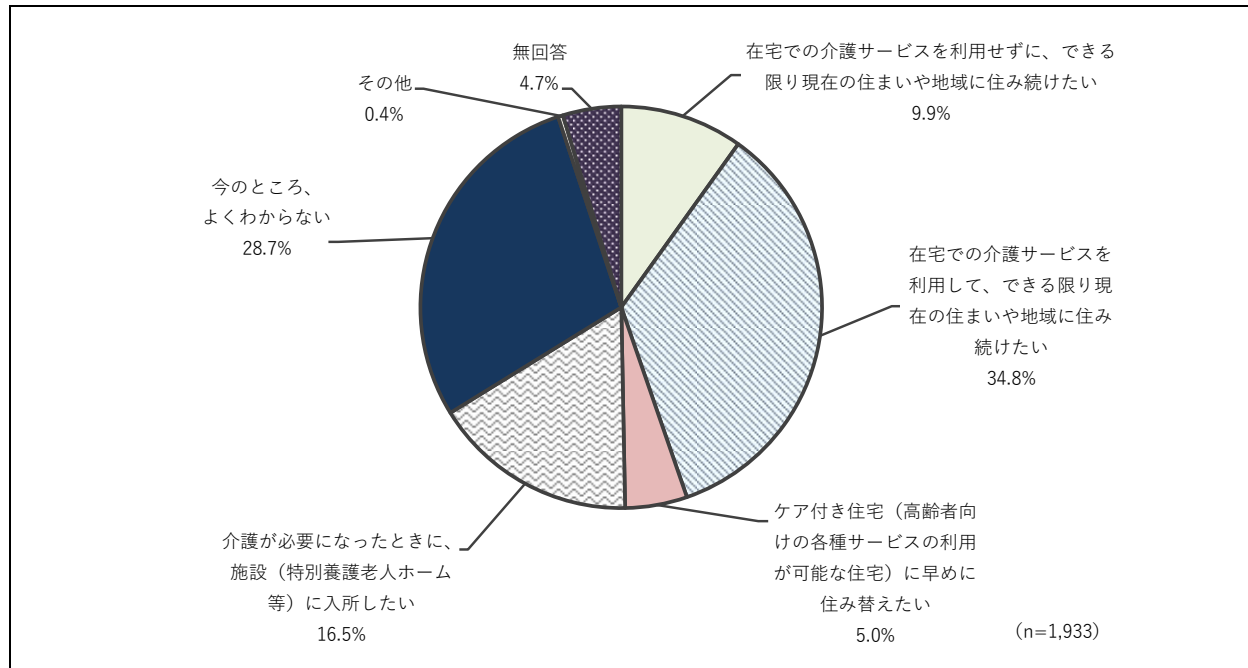


●自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験を、要支援度・事業対象者別にみると、「話し合ったことがある」と回答した人の割合が、「事業対象者」は 10.8%となっており、「要支援1」、「要支援2」に比べて低くなっています。一方、「話し合ったことはないが、話し合いたいと思う」と回答した人の割合は、「事業対象者」は 43.2%となっており、「要支援1」、「要支援2」に比べて高くなっています。

(5)住まいと介護サービスの利用について

問 89 あなたが介護が必要になった場合に、将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【○は1つ】

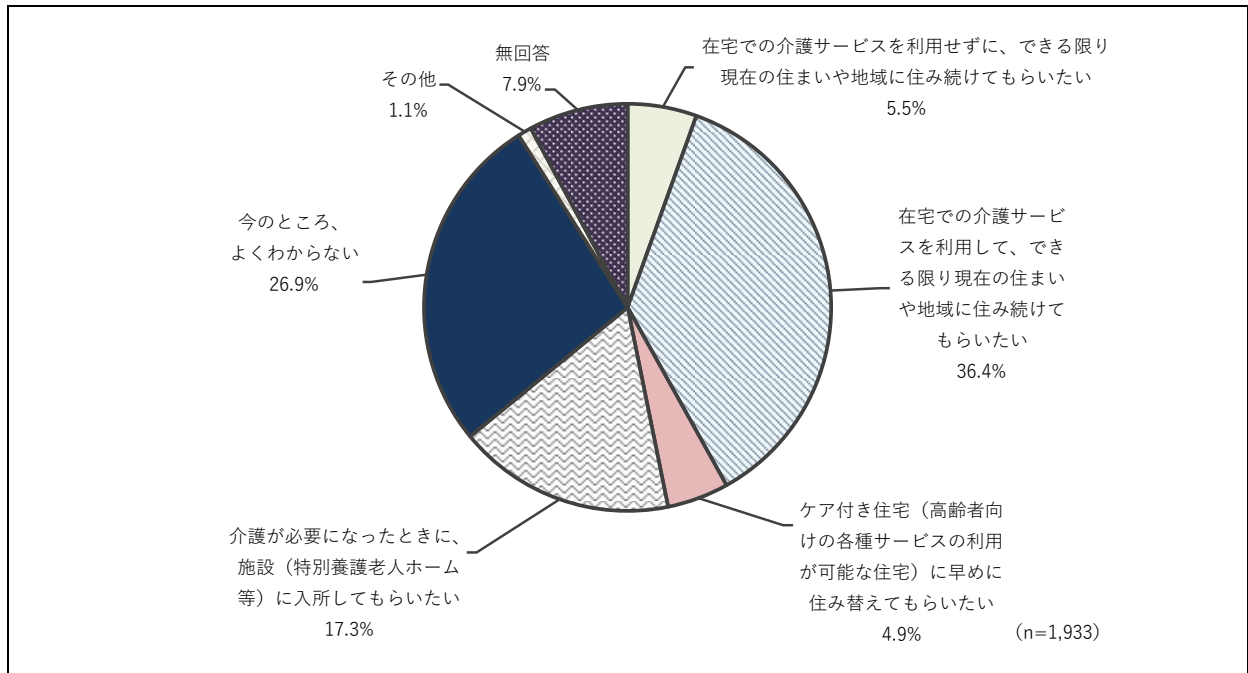
図表 131 自身の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)



●自身の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合が最も高く、34.8%となっています。次いで、「今のところ、よくわからない」(28.7%)、「介護が必要になったときに、施設に入所したい」(16.5%)と続いています。

問 90 あなたの家族が介護が必要になった場合、住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【○は1つ】

図表 132 家族の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)

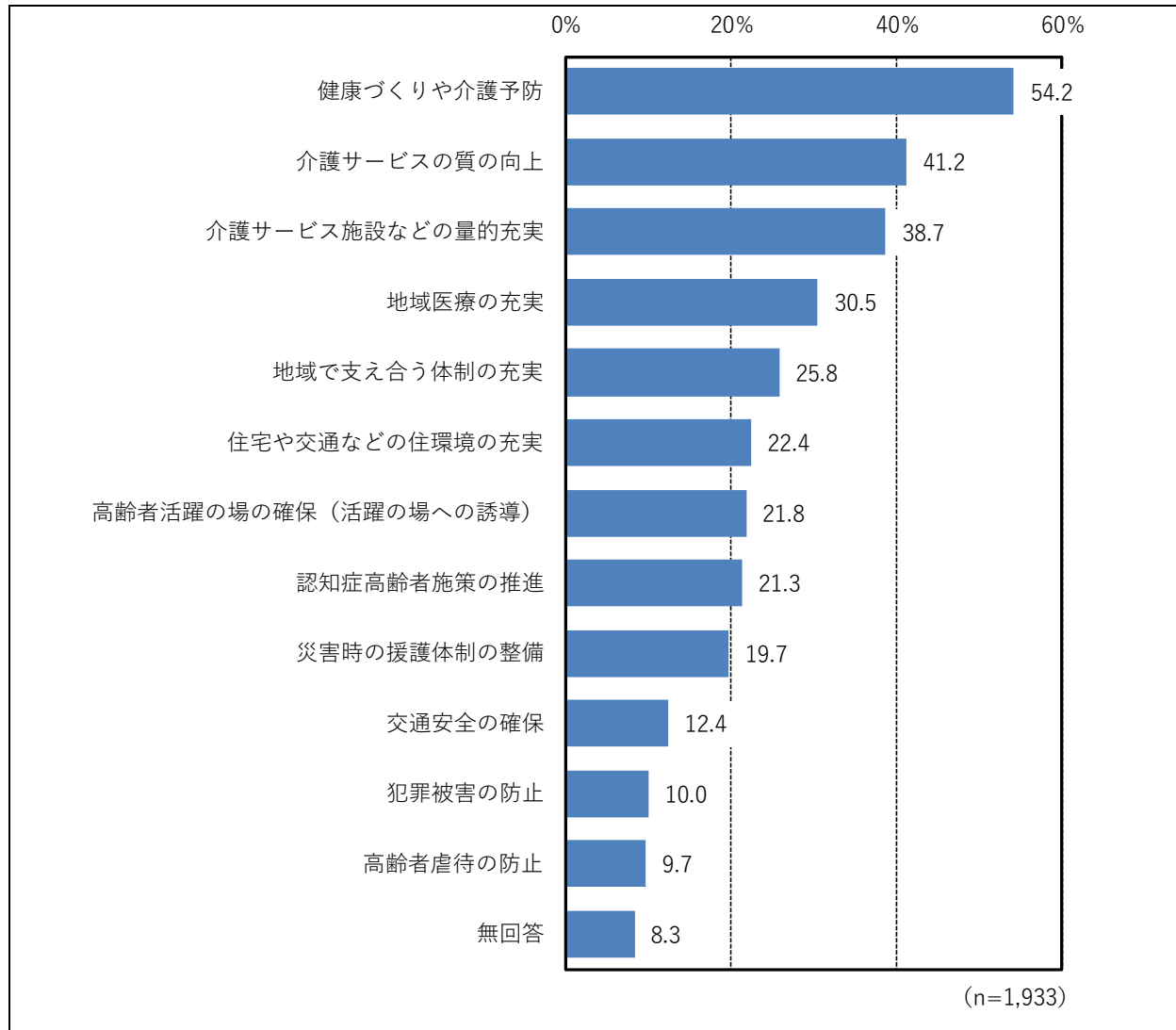


●家族の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けてもらいたい」と回答した人の割合が最も高く、36.4%となっています。次いで、「今のところ、よくわからない」(26.9%)、「介護が必要になったときに、施設に入所してもらいたい」(17.3%)と続いています。

(6)超高齢社会において重要な方策

問 91 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

図表 133 超高齢社会において重要な方策(全体／複数回答)

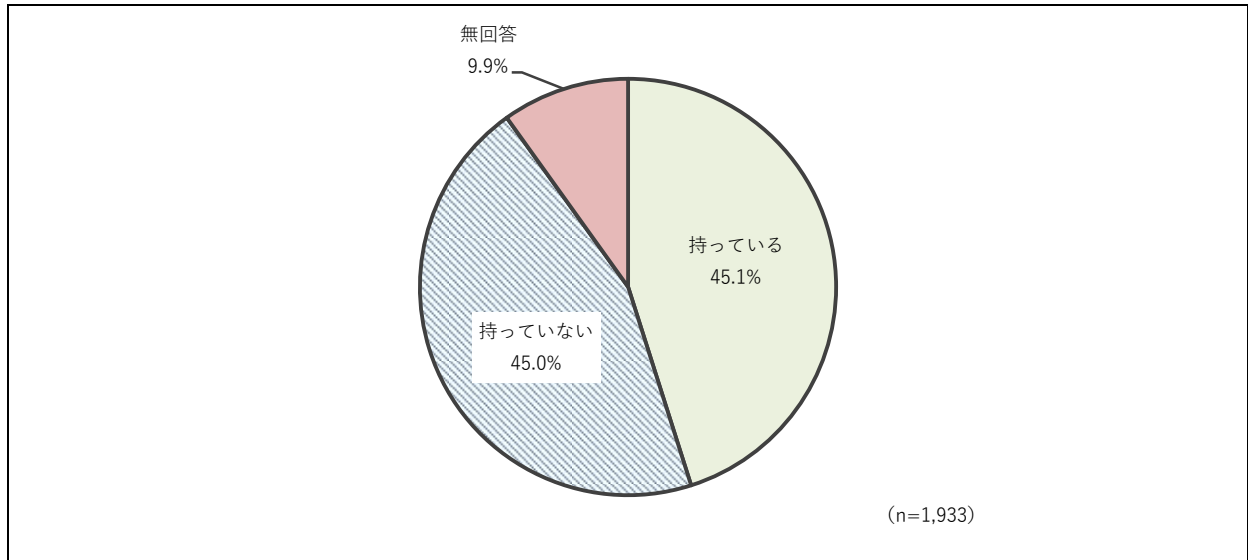


●超高齢社会において重要な方策についてたずねたところ、「健康づくりや介護予防」と回答した人の割合が最も高く、54.2%となっています。次いで、「介護サービスの質の向上」(41.2%)、「介護サービス施設などの量的充実」(38.7%)と続いています。

(7)マイナンバーカードについて

問 92 マイナンバーカードを持っていますか。【○は1つ】

図表 134 マイナンバーカードの所持状況(全体)

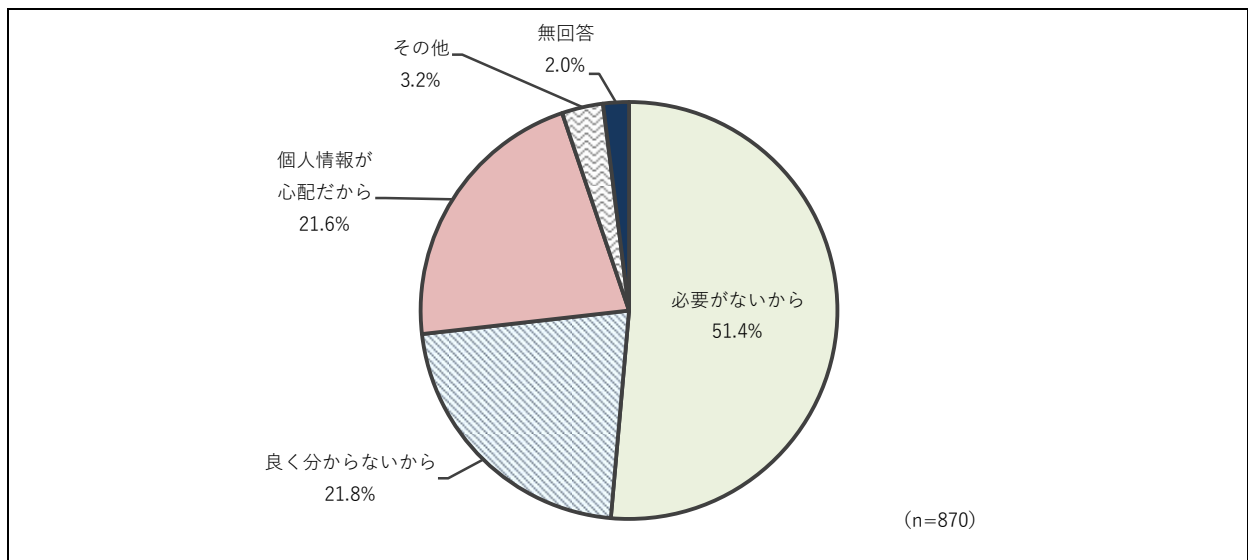


●マイナンバーカードの所持状況をたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合は 45.1%となっています。一方、「持っていない」と回答した人の割合は 45.0%となっています。

問 92 で「2持っていない」と回答した方

問 92-1 マイナンバーカードを持っていない理由は何ですか。【○は1つ】

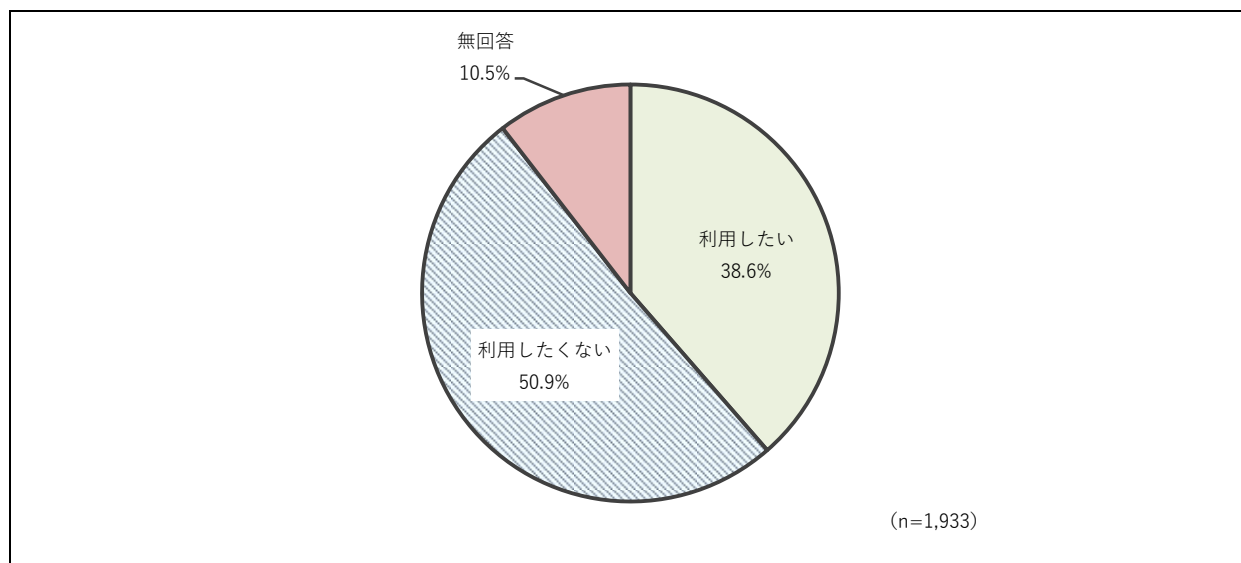
図表 135 マイナンバーカードを持っていない理由(全体)



●マイナンバーカードを持っていない理由をたずねたところ、「必要がないから」と回答した人の割合が最も高く、51.4%となっています。次いで、「良く分からないから」(21.8%)、「個人情報が心配だから」(21.6%)と続いています。

問 93 自宅から自分や家族の認定申請等の手続きがパソコン等でできた場合、利用したいですか。【○は1つ】

図表 136 電子による認定申請等の利用希望(全体)

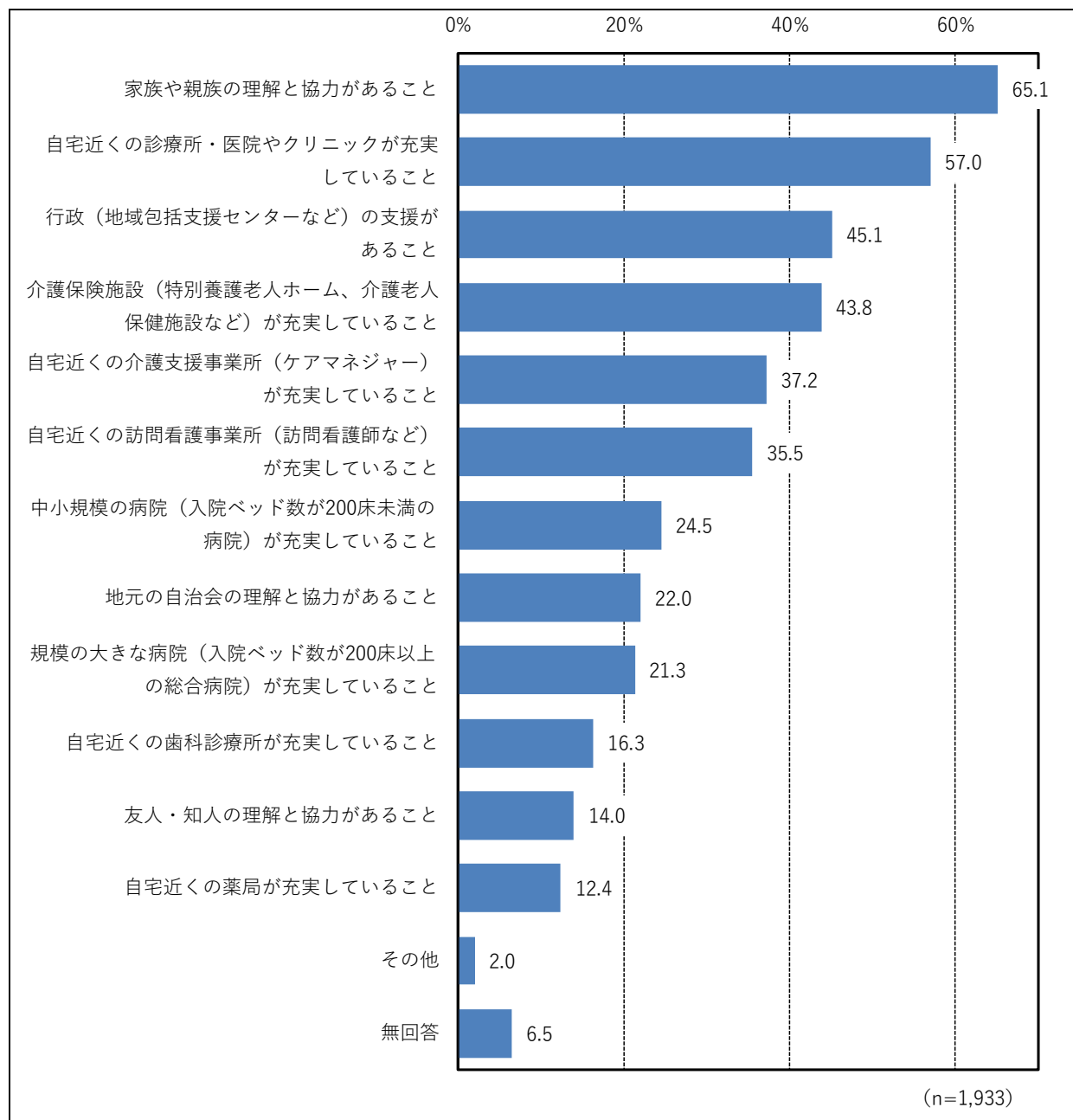


●電子による認定申請等の利用希望についてたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合は 38.6%となっています。一方、「利用したくない」と回答した人の割合は 50.9%となっています。

(8)地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

問 94 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

図表 137 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと(全体／複数回答)



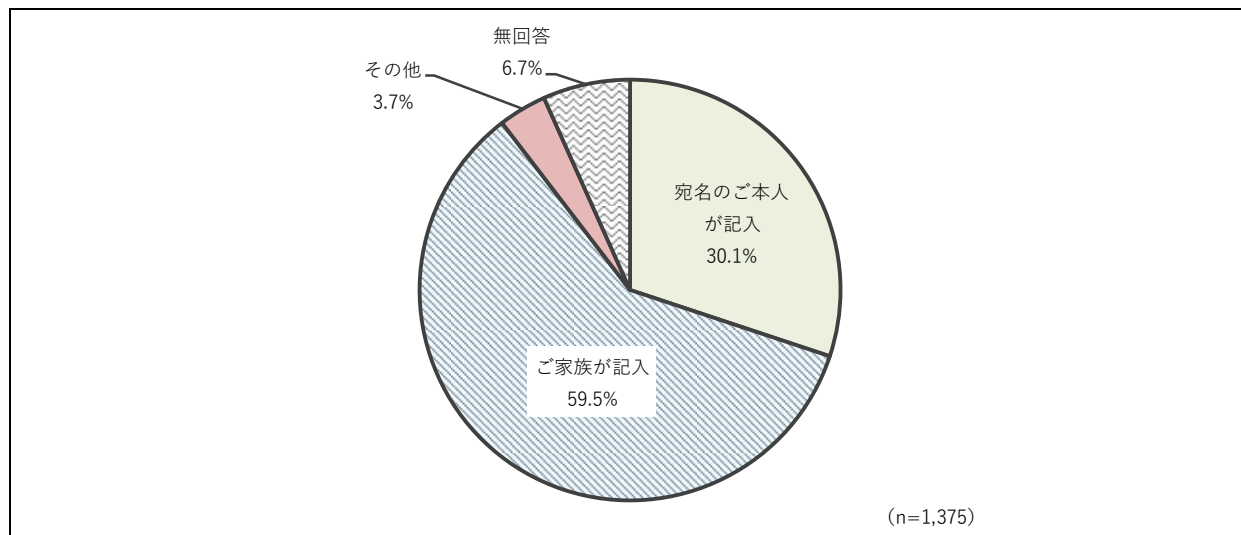
●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」と回答した人の割合が最も高く、65.1%となっています。次いで、「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」(57.0%)、「行政の支援があること」(45.1%)と続いています。

第3章 調査結果 要介護認定者(65歳以上)

1. 回答者の属性

(1) 調査票を記入した方

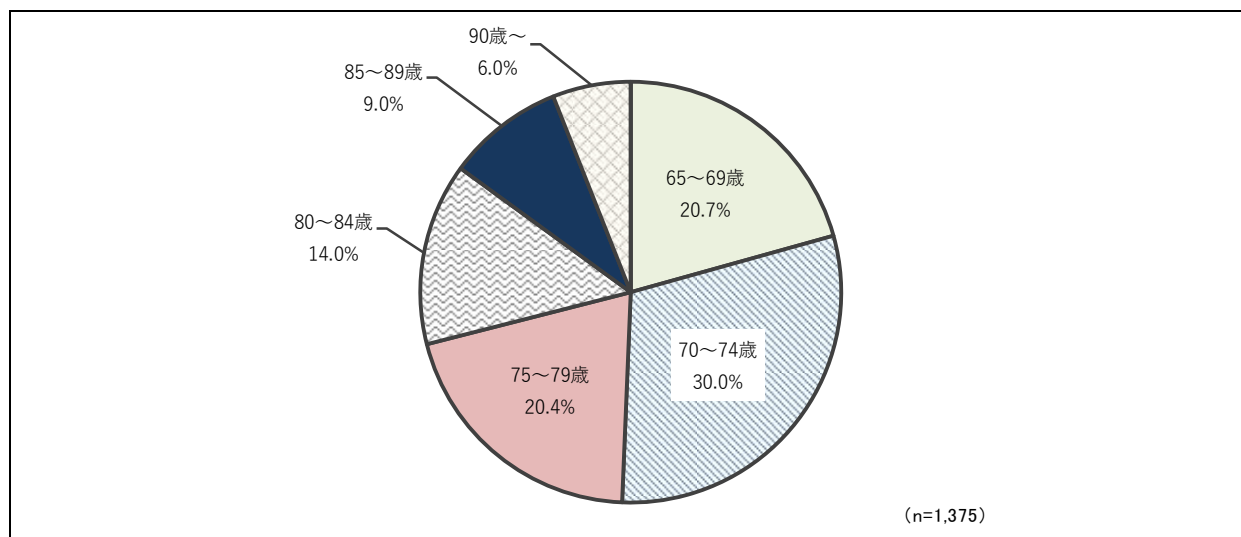
図表 138 調査票記入者(全体)



●調査票の記入者をたずねたところ、「宛名のご本人が記入」と回答した人の割合は 30.1%となっています。一方、「ご家族が記入」と回答した人の割合は 59.5%となっています。

(2) 年齢

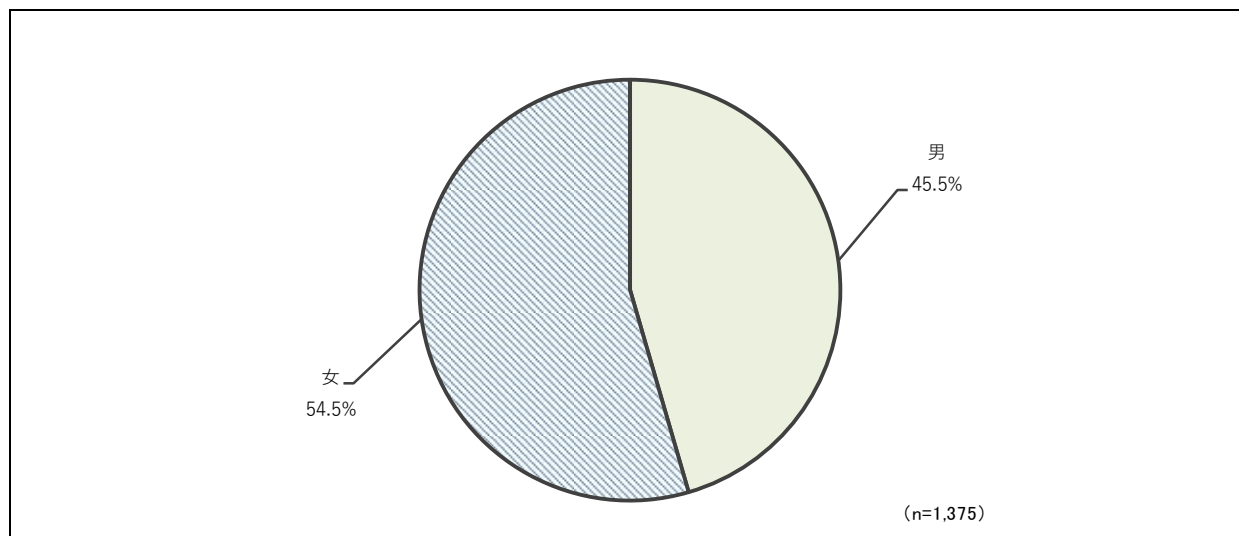
図表 139 年齢(全体)



●年齢をたずねたところ、「70～74歳」と回答した人の割合が最も高く、30.0%となっています。次いで、「65～69歳」(20.7%)、「75～79歳」(20.4%)と続いています。

(3) 性別

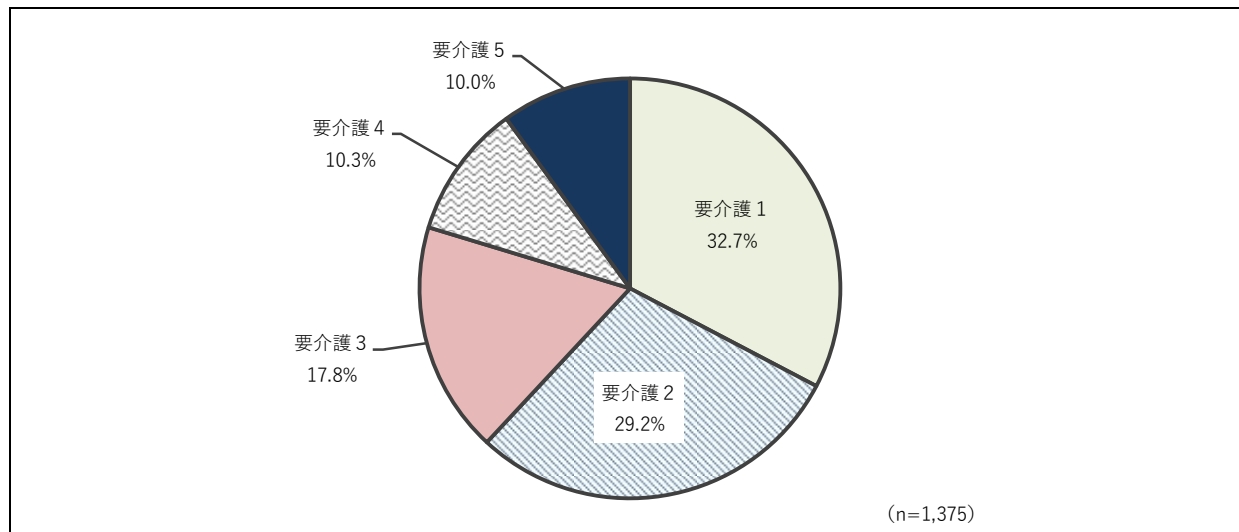
図表 140 性別(全体)



●性別をたずねたところ、「男」と回答した人の割合は 45.5%となっています。一方、「女」と回答した人の割合は 54.5%となっています。

(4) 要介護認定状況

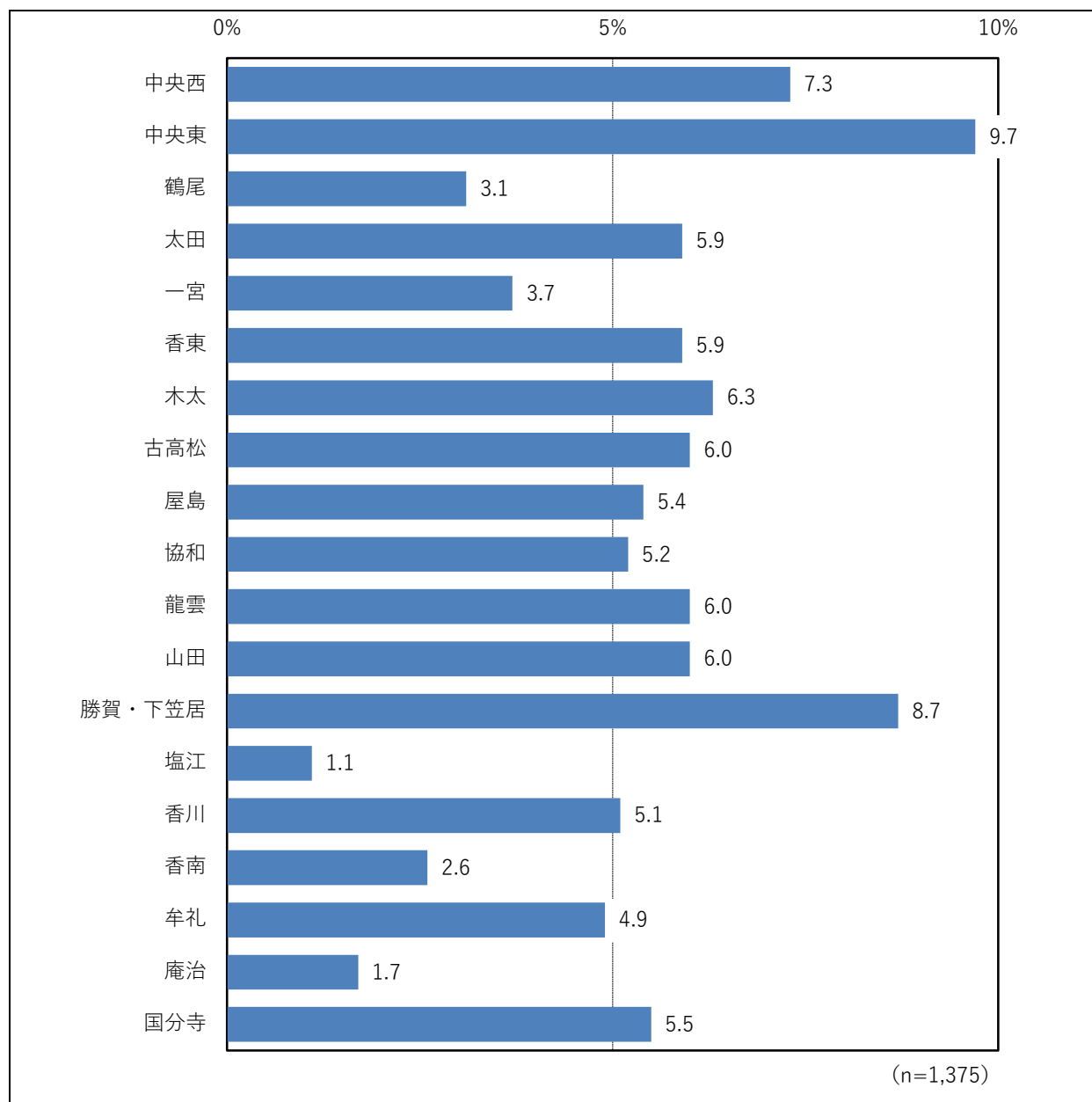
図表 141 要介護認定状況(全体)



●要介護認定状況をたずねたところ、「要介護1」と回答した人の割合が最も高く、32.7%となっています。次いで、「要介護2」(29.2%)、「要介護3」(17.8%)と続いています。

(5) 日常生活圏域

図表 142 日常生活圏域(全体)

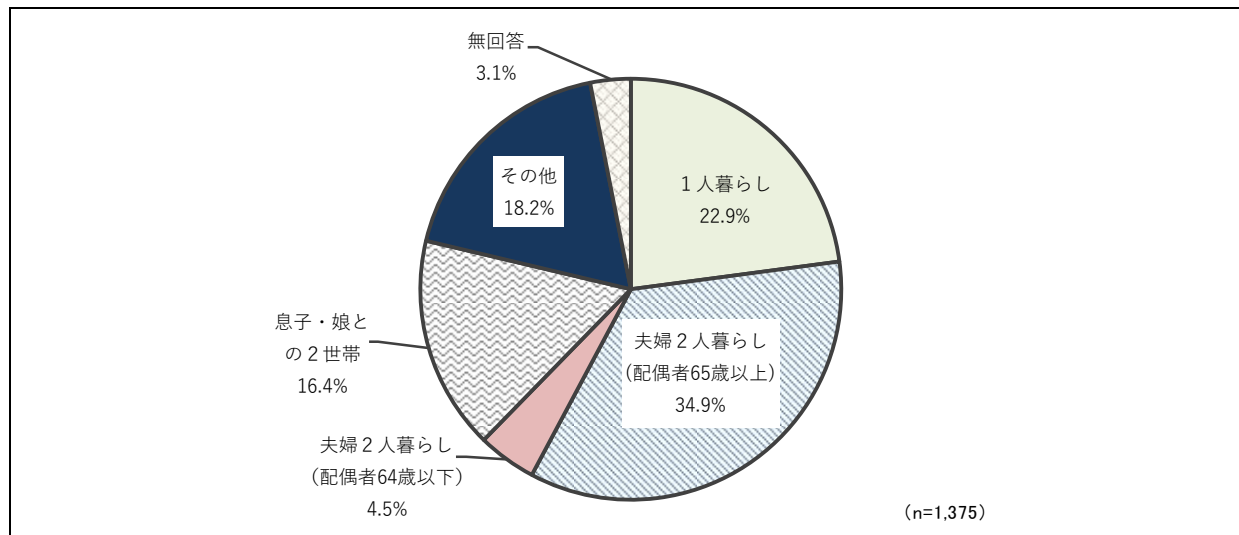


●お住まいの地域(日常生活圏域)をたずねたところ、「中央東」と回答した人の割合が最も高く、9.7%となっています。次いで、「勝賀・下笠居」(8.7%)、「中央西」(7.3%)と続いています。

2. 家族や生活状況について

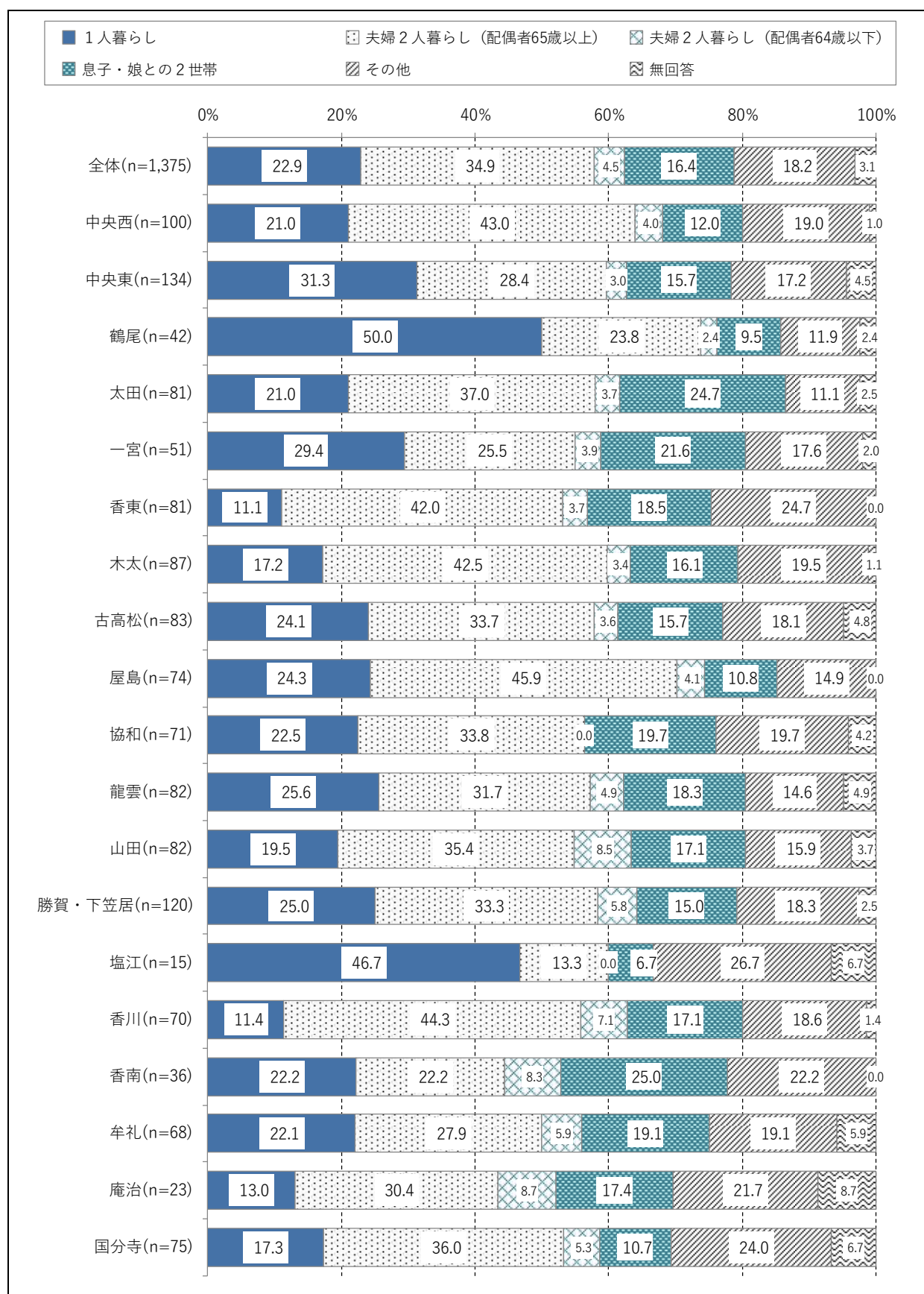
問1 家族構成をお教えてください。【○は1つ】

図表 143 家族構成(全体)



●家族構成をたずねたところ、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」と回答した人の割合が最も高く、34.9%となっています。次いで、「1人暮らし」(22.9%)、「息子・娘との2世帯」(16.4%)と続いています。

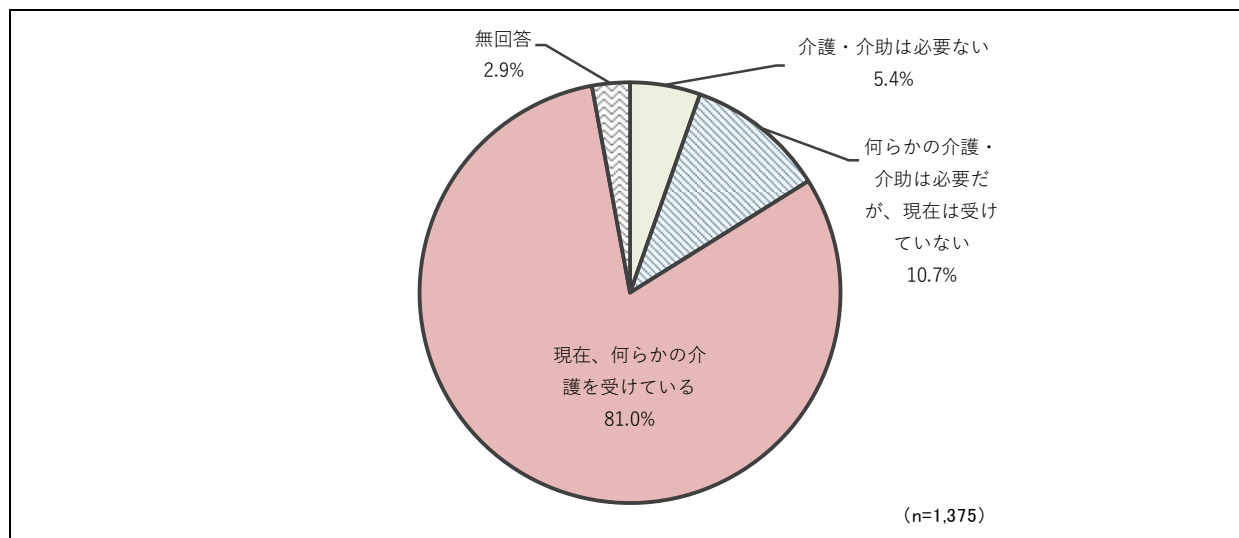
図表 144 家族構成(日常生活圏域別)



●家族構成を日常生活圏域別にみると、大部分の圏域で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」と回答した人の割合が最も高くなっています。一方、「鶴尾」、「塩江」では「一人暮らし」と回答した人の割合がその他の圏域に比べて高くなっています。

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。【○は1つ】

図表 145 介護・介助の必要性(全体)

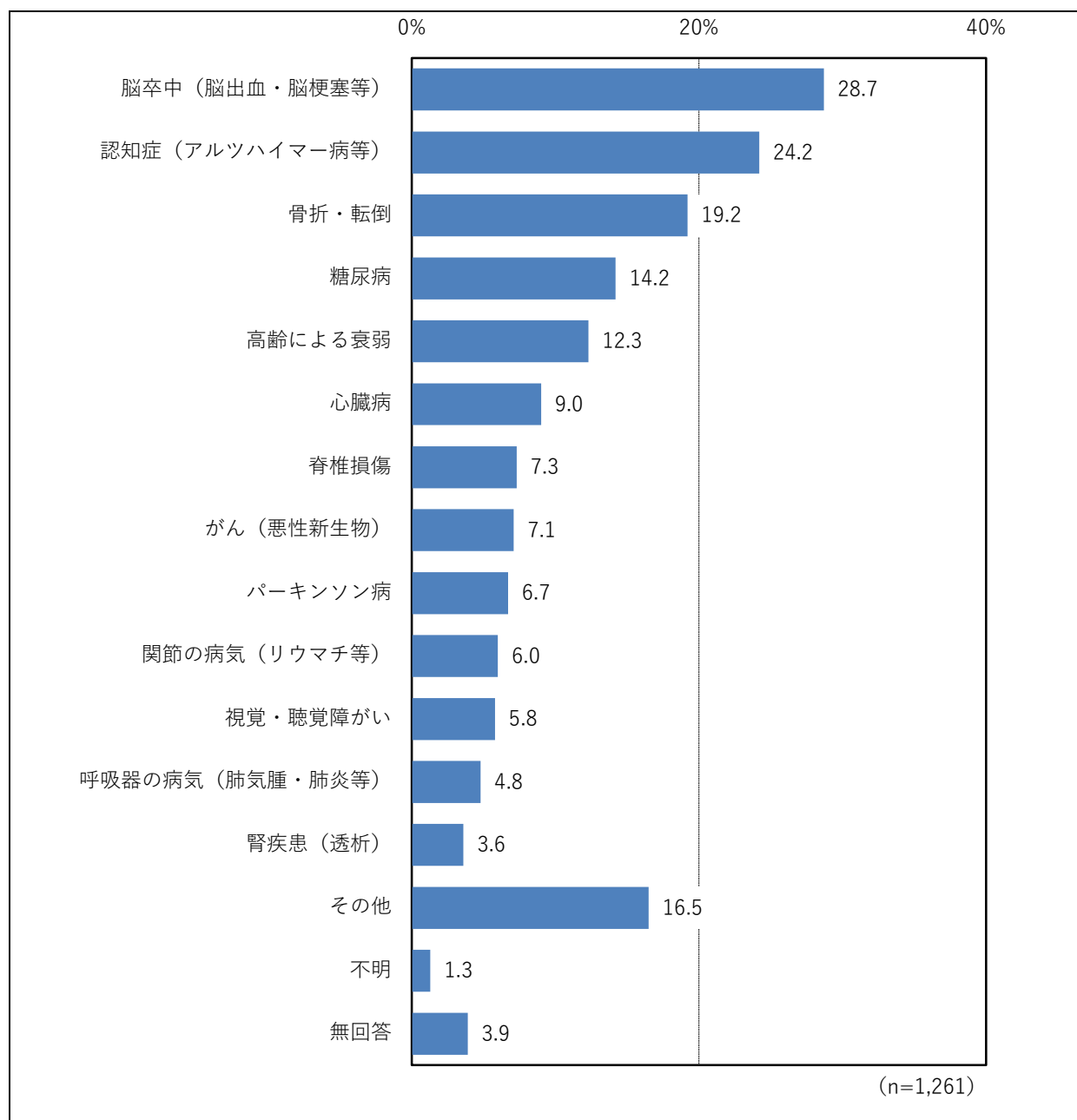


- 介護・介助の必要性をたずねたところ、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の割合が最も高く、81.0%となっています。次いで、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(10.7%)、「介護・介助は必要ない」(5.4%)と続いています。

問2において「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方

問2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。【〇はいくつでも】

図表 146 介護・介助が必要になった主な原因(全体／複数回答)



●介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「脳卒中」と回答した人の割合が最も高く、28.7%となっています。次いで、「認知症」(24.2%)、「骨折・転倒」(19.2%)と続いています。

図表 147 介護・介助が必要になった主な原因(年齢階層別)

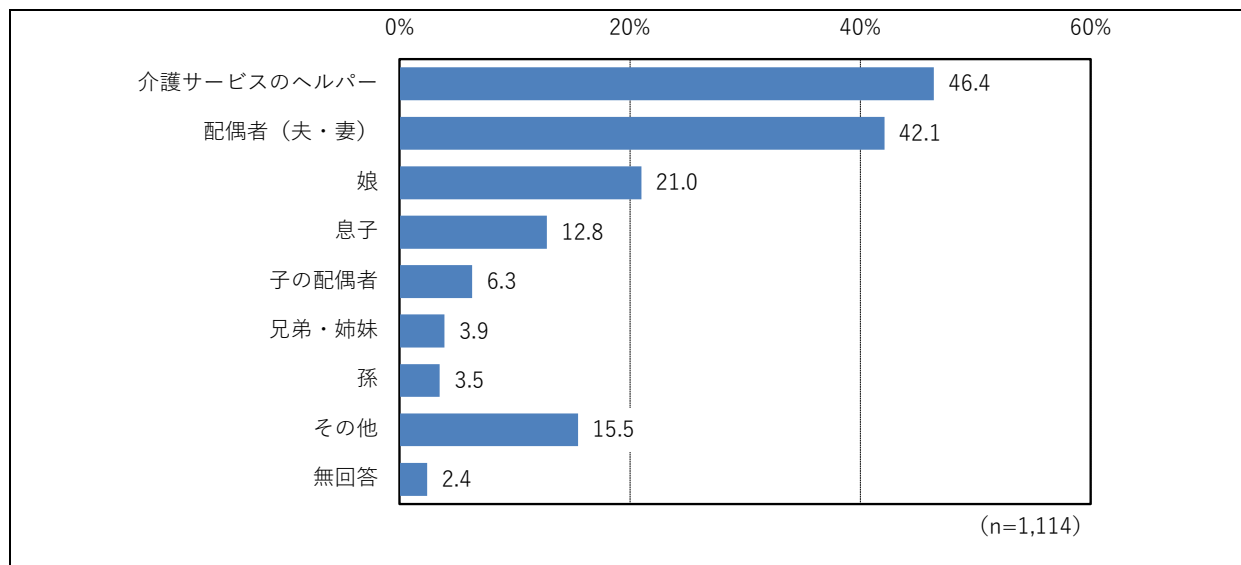
(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,261)		脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 28.7	認知症(アルツハイマー病等) 24.2	骨折・転倒 19.2
年齢階層別	65～69歳 (n=265)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 40.4	認知症(アルツハイマー病等) 17.0	糖尿病 12.8
	70～74歳 (n=382)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 33.0	認知症(アルツハイマー病等) 19.9	骨折・転倒 17.5
	75～79歳 (n=248)	認知症(アルツハイマー病等) 27.4	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 25.8	骨折・転倒 23.4
	80～84歳 (n=177)	認知症(アルツハイマー病等) 29.4	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 21.5	高齢による衰弱 19.8
	85～89歳 (n=115)	認知症(アルツハイマー病等) 28.7	骨折・転倒 26.1	高齢による衰弱 24.3
	90歳～ (n=74)	高齢による衰弱 50.0	認知症(アルツハイマー病等) 41.9	骨折・転倒 31.1

●介護・介助が必要になった主な原因を年齢階層別にみると、「65歳～74歳」までの2つ年齢階層は「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が第1位となっています。また、「75歳～89歳」までの3つの年齢階層は「認知症(アルツハイマー病等)」が第1位、「90歳～」は「高齢による衰弱」が第1位となっており、それぞれの年齢階層で介護・介助が必要になった主な原因に違いがみられます。

問2において「3現在、何らかの介護を受けている」と回答した方
問2-2 主にどなたの介護・介助を受けていますか。【○はいくつでも】

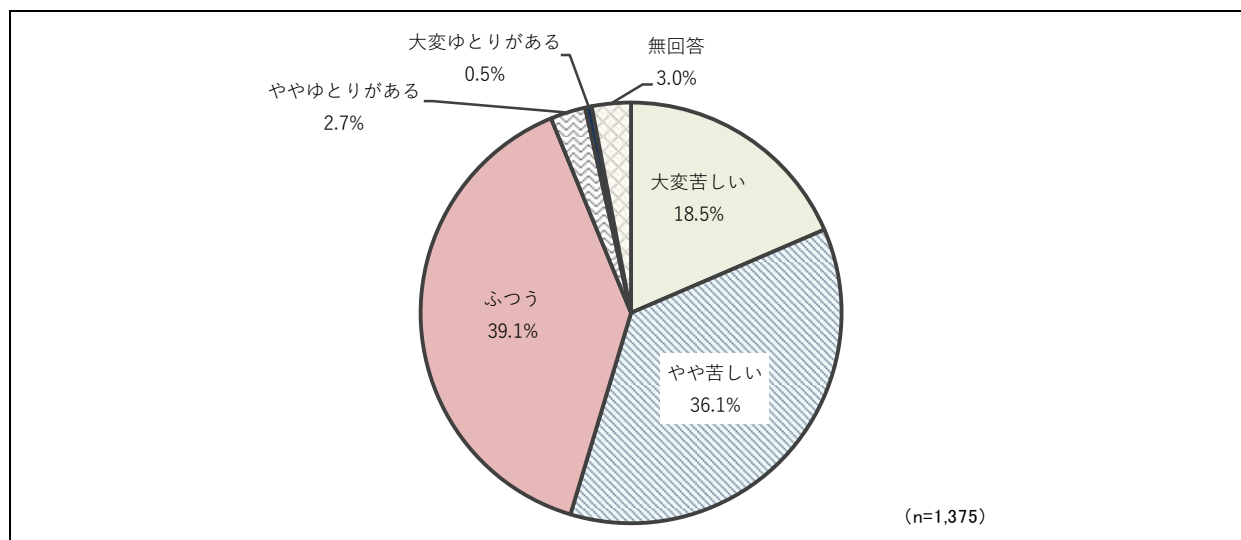
図表 148 主な介護・介助者(全体／複数回答)



●主な介護・介助者をたずねたところ、「介護サービスのヘルパー」と回答した人の割合が最も高く、46.4%となっています。次いで、「配偶者」(42.1%)、「娘」(21.0%)と続いています。

問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。【○は1つ】

図表 149 現在の経済的状況(全体)

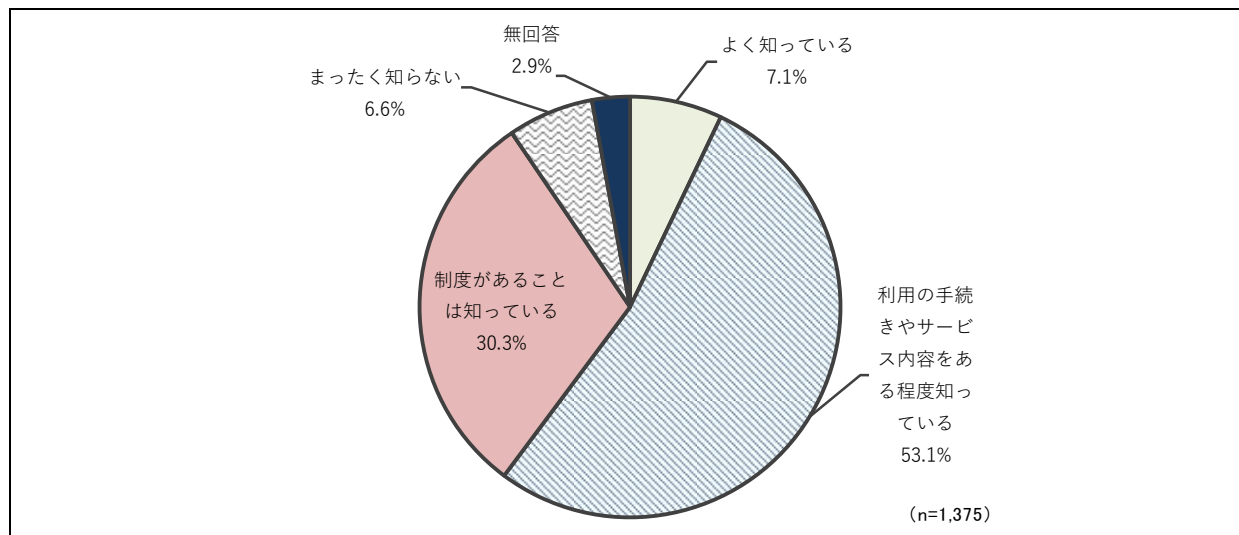


●現在の暮らしの経済的な状況をたずねたところ、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、39.1%となっています。次いで、「やや苦しい」(36.1%)、「大変苦しい」(18.5%)と続いています。

3. 介護保険サービスについて

問4 介護保険制度について、どの程度知っていますか。【○は1つ】

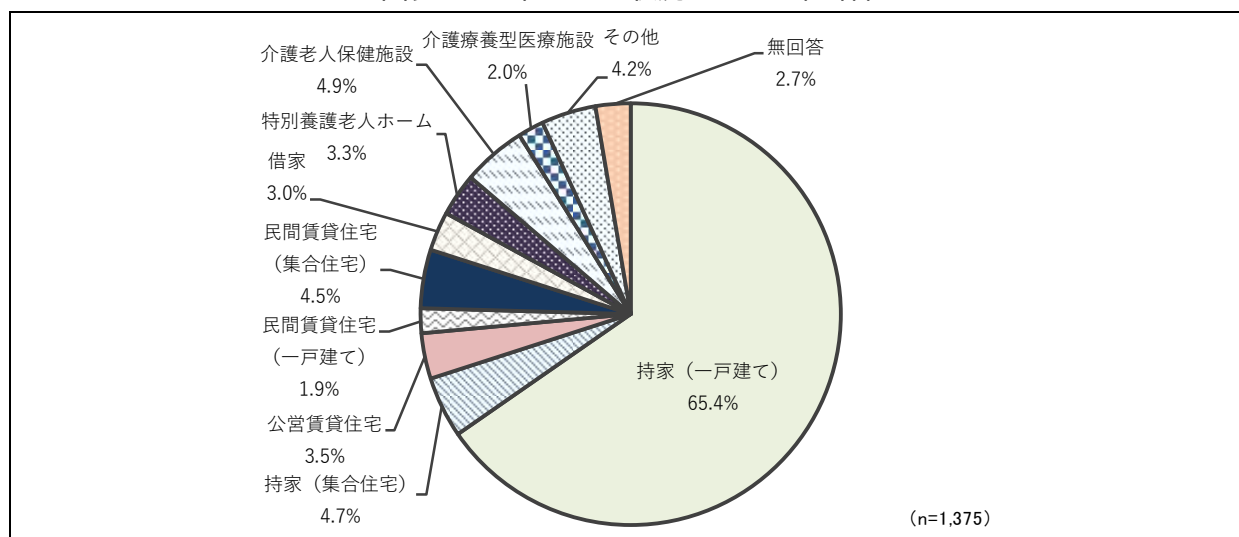
図表 150 介護保険制度の認知度(全体)



●介護保険制度の認知度をたずねたところ、「利用の手続きやサービス内容をある程度知っている」と回答した人の割合が最も高く、53.1%となっています。次いで、「制度があることは知っている」(30.3%)、「よく知っている」(7.1%)と続いています。

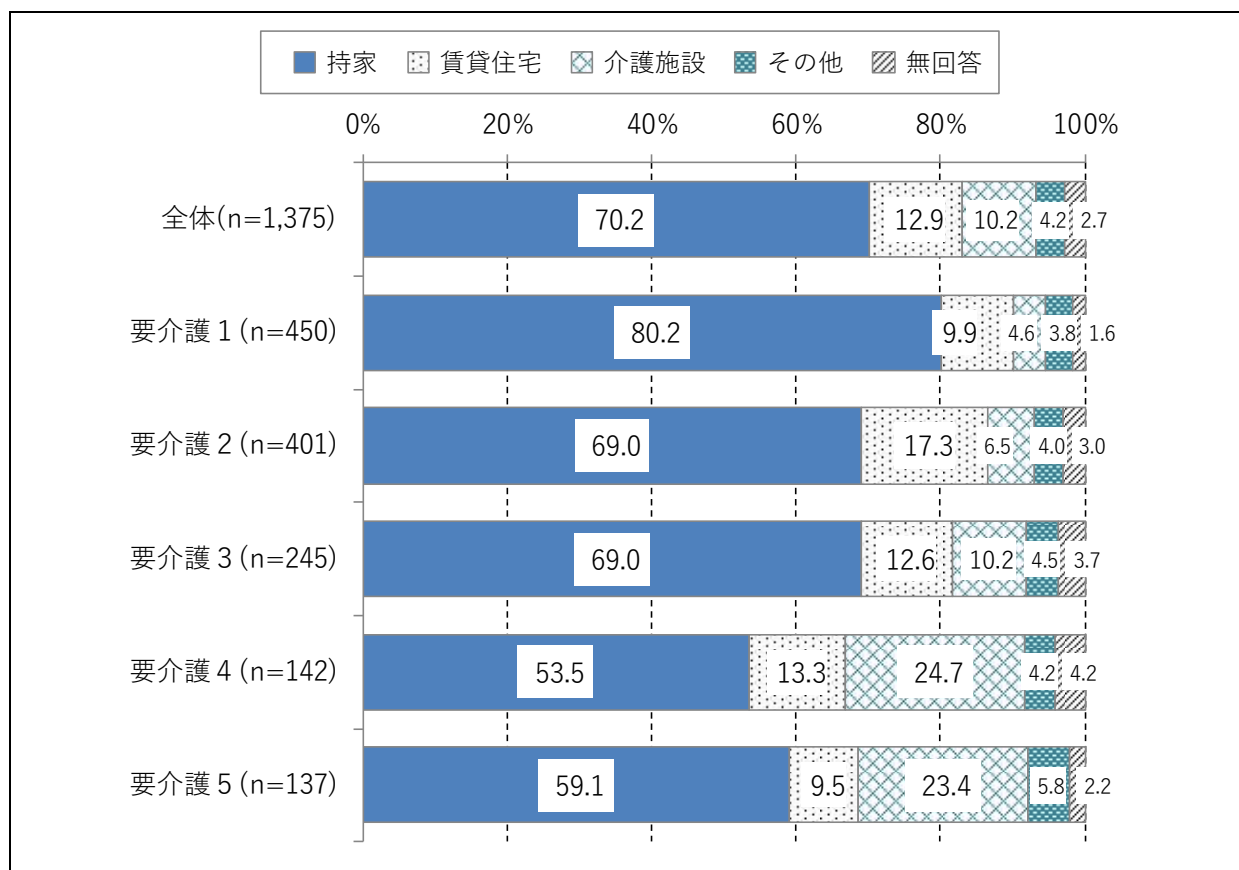
問5 お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらですか。【○は1つ】

図表 151 住まいの状況について(全体)



●住まいの状況をたずねたところ、「持家（戸建て）」と回答した人の割合が最も高く、65.4%となっています。次いで、「介護老人保健施設」(4.9%)、「持家（集合住宅）」(4.7%)と続いています。

図表 152 住まいの状況について(要介護度別)



●住まいの状況を要介護度別にみると、要介護4及び要介護5は、他の要介護度に比べ介護施設の割合が増加しています。

持家…持家（一戸建て）、持家（集合住宅）の割合を合算。

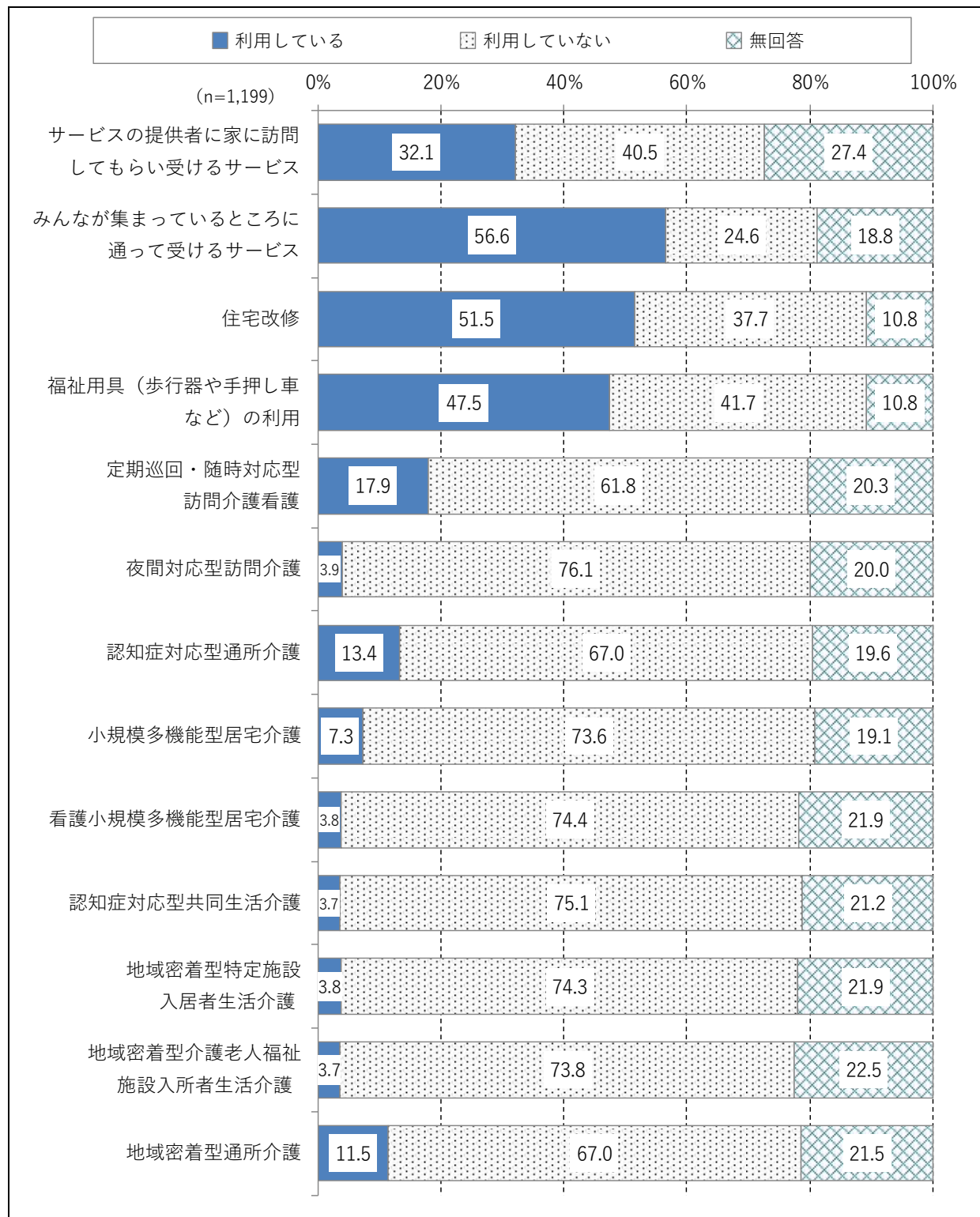
賃貸住宅…公営賃貸住宅、民間賃貸住宅（一戸建て）、民間賃貸住宅（集合住宅）、借家の割合を合算。

介護施設…特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の割合を合算。

問5で住まいとして「1持家(一戸建て)」「2持家(集合住宅)」「3公営賃貸住宅」「4民間賃貸住宅(一戸建て)」「5民間賃貸住宅(集合住宅)」「6借家」「7その他」と回答した方

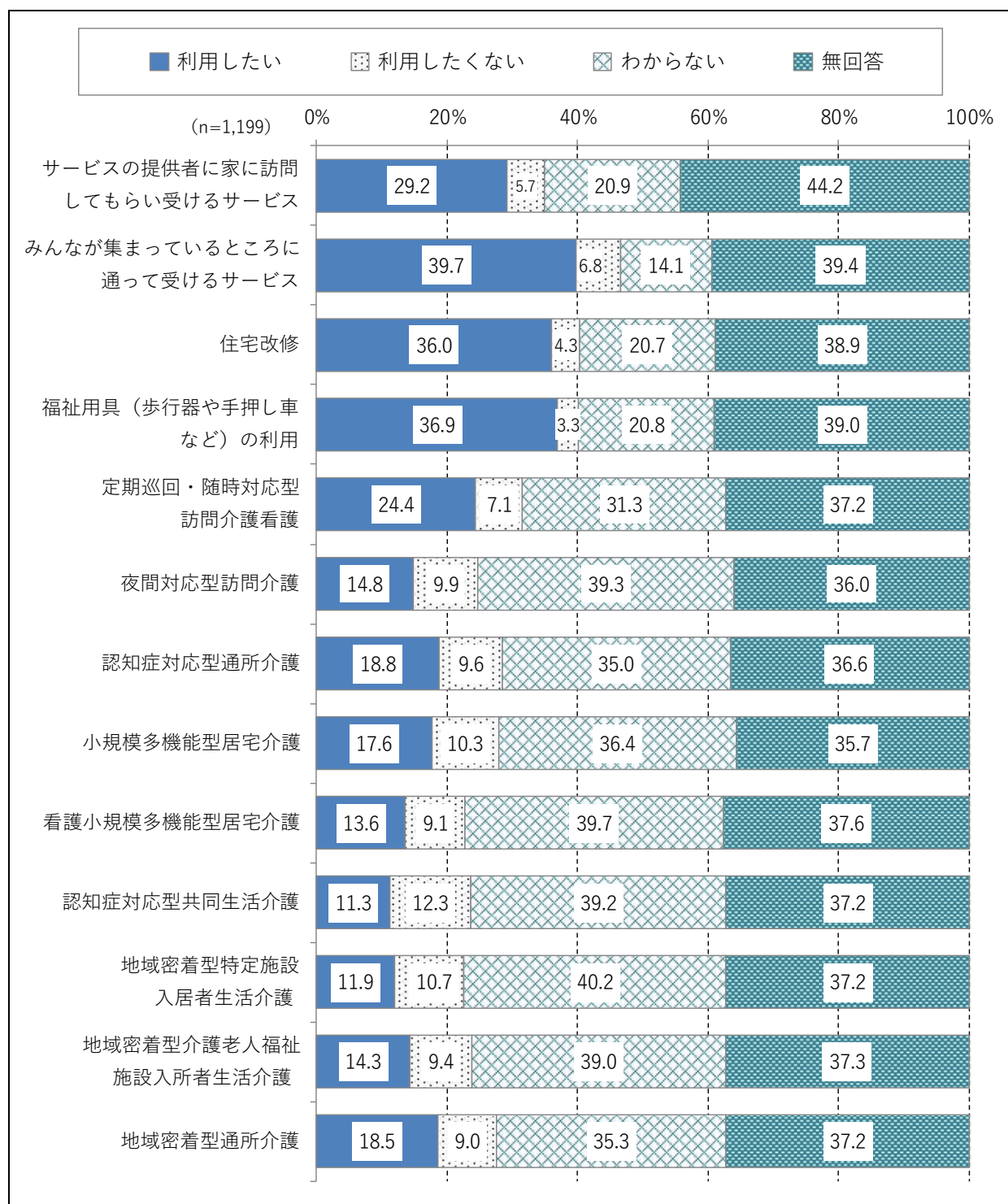
問5-1 次の介護保険サービス(平成31年4月1日現在)について、それぞれに当てはまるものを選んでください。【〇は1つずつ】

図表 153 介護保険サービスの現在の利用状況(全体)



●介護保険サービスの現在の利用状況をたずねたところ、「利用している」と回答した割合が最も高かったサービスは、「みんなが集まっているところに通って受けるサービス」で 56.6%となっています。次いで、「住宅改修」(51.5%)、「福祉用具の利用」(47.5%)と続いています。

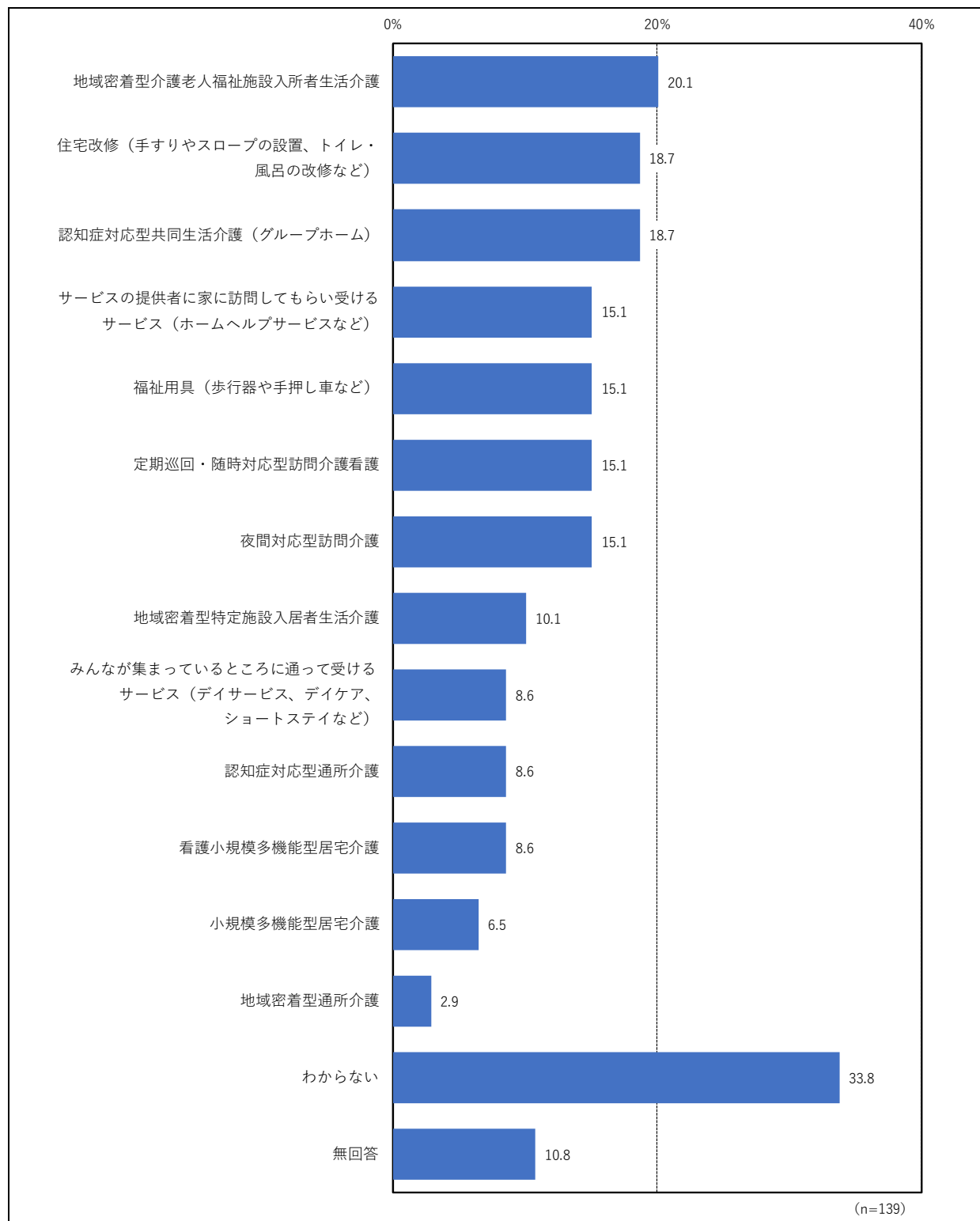
図表 154 介護保険サービスの今後の利用意向(全体)



●介護保険サービスの今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」と回答した割合が最も高かったサービスは、「みんなが集まっているところに通って受けるサービス」で 39.7%となっています。次いで、「福祉用具の利用」(36.9%)、「住宅改修」(36.0%)と続いています。

問5で住まいとして「8特別養護老人ホーム」「9介護老人保健施設」「10介護療養型医療施設」と回答した方
問5-2 どのような介護保険在宅サービスが充実していれば、居宅で生活できると思いますか。
【〇はいくつでも】

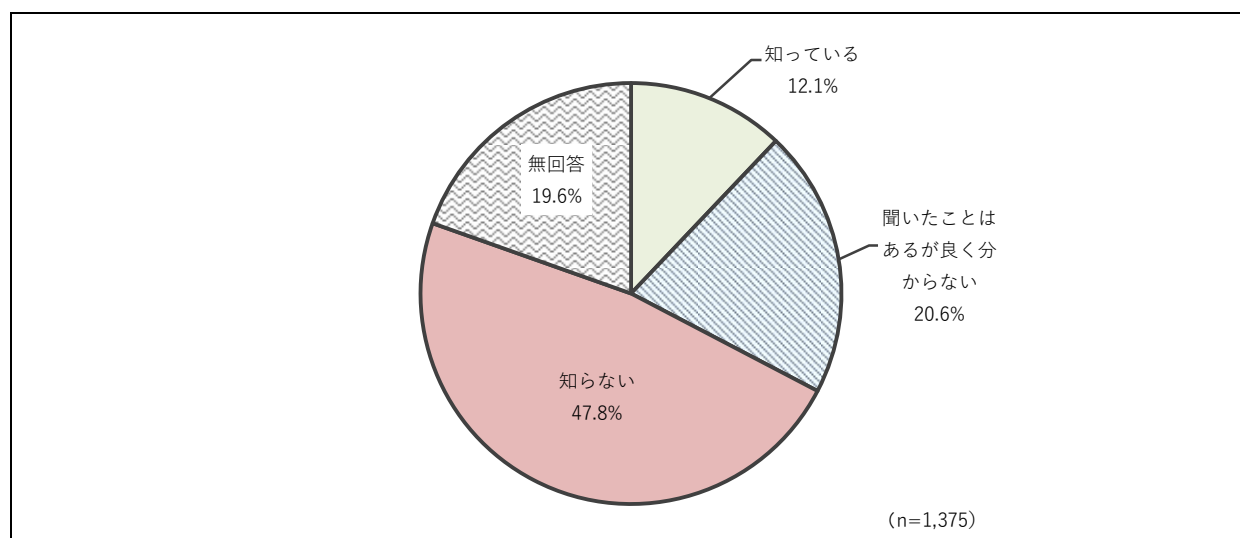
図表155 居宅で生活するために必要な介護保険在宅サービス(全体／複数回答)



●居宅で生活するために必要な介護保険在宅サービスをたずねたところ、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」と回答した人の割合が最も高く、20.1%となっています。次いで、「住宅改修」(18.7%)、「認知症対応型共同生活介護」(18.7%)と続いています。

問6 介護認定を受けなくても、基本チェックリストで生活機能の低下が認められ事業対象者となった場合は、介護保険サービスの一部を利用できることを知っていますか。【○は1つ】

図表 156 介護認定を受けなくてもサービスの一部を利用できることの認知度(全体)



●介護認定を受けなくても、サービスの一部を利用できることの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、47.8%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(20.6%)、「知っている」(12.1%)と続いています。

4. からだを動かすことについて

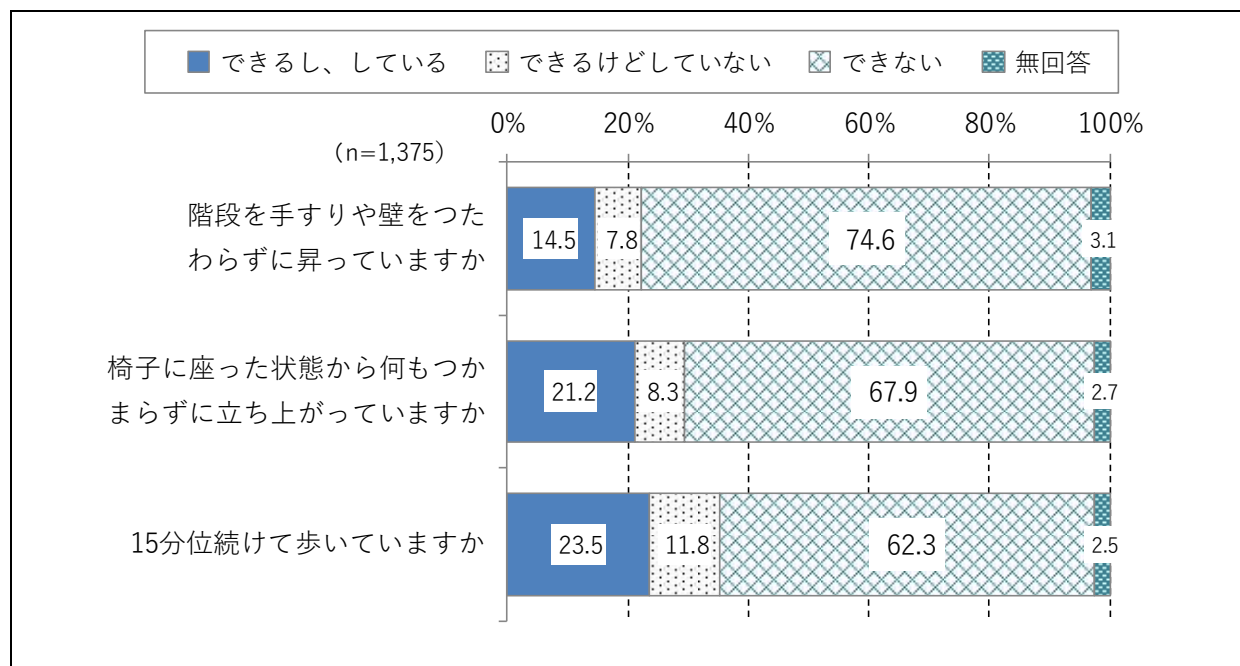
(1)運動器の機能について

問7 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。【○は1つ】

問8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。【○は1つ】

問9 15分位続けて歩いていますか。【○は1つ】

図表 157 運動器の機能について(全体)

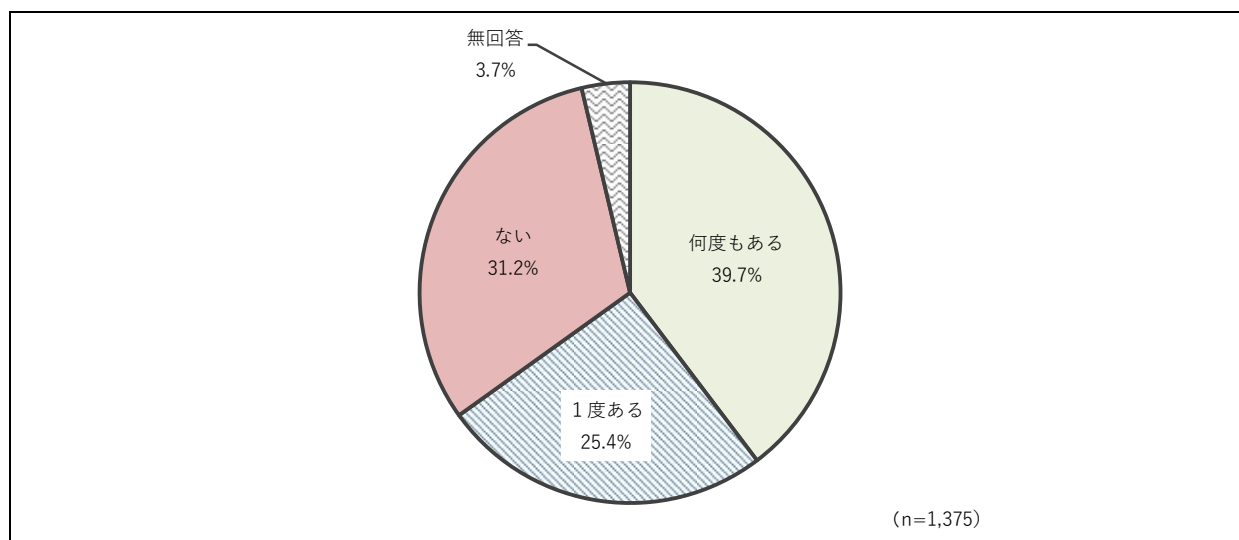


●運動器の機能についてたずねたところ、全ての設問で「できない」と回答している人の割合が6割を超えています。特に、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」という設問では、「できない」と回答した人の割合が74.6%と、他の設問に比べて高くなっています。一方、「できるし、している」と回答した人の割合については、「15分位続けて歩いていますか」が最も高く、23.5%となっています。

(2) 転倒について

問 10 過去1年間に転んだ経験がありますか。【○は1つ】

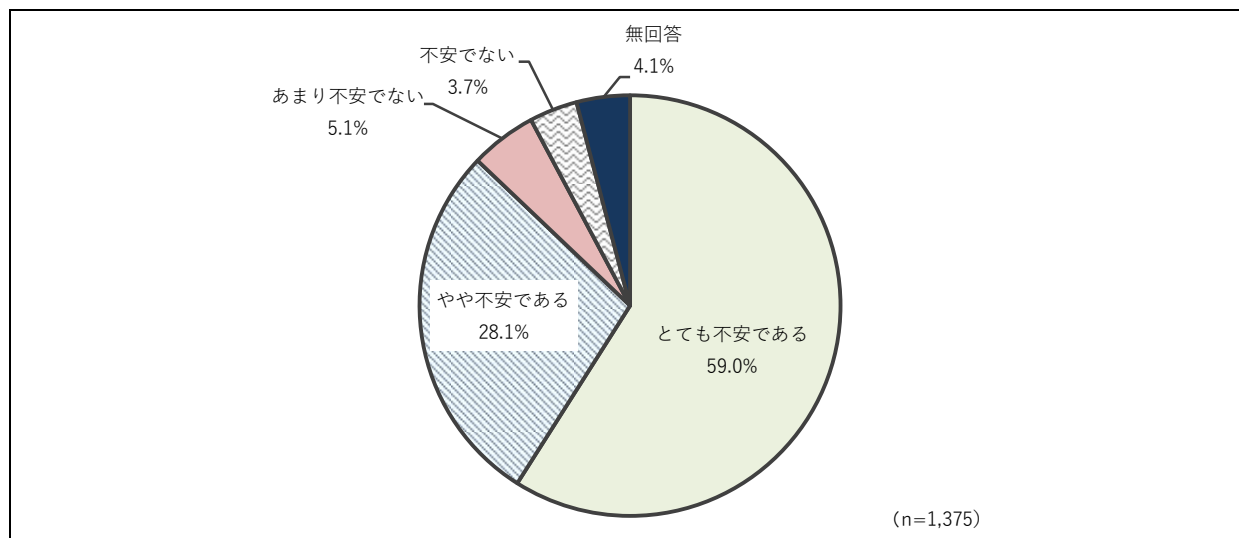
図表 158 転倒の経験(全体)



●過去1年間の転倒の経験をたずねたところ、「何度もある」と回答した人の割合が最も高く、39.7%となっています。次いで、「ない」(31.2%)、「1度ある」(25.4%)と続いています。

問 11 転倒に対する不安は大きいですか。【○は1つ】

図表 159 転倒に対する不安(全体)

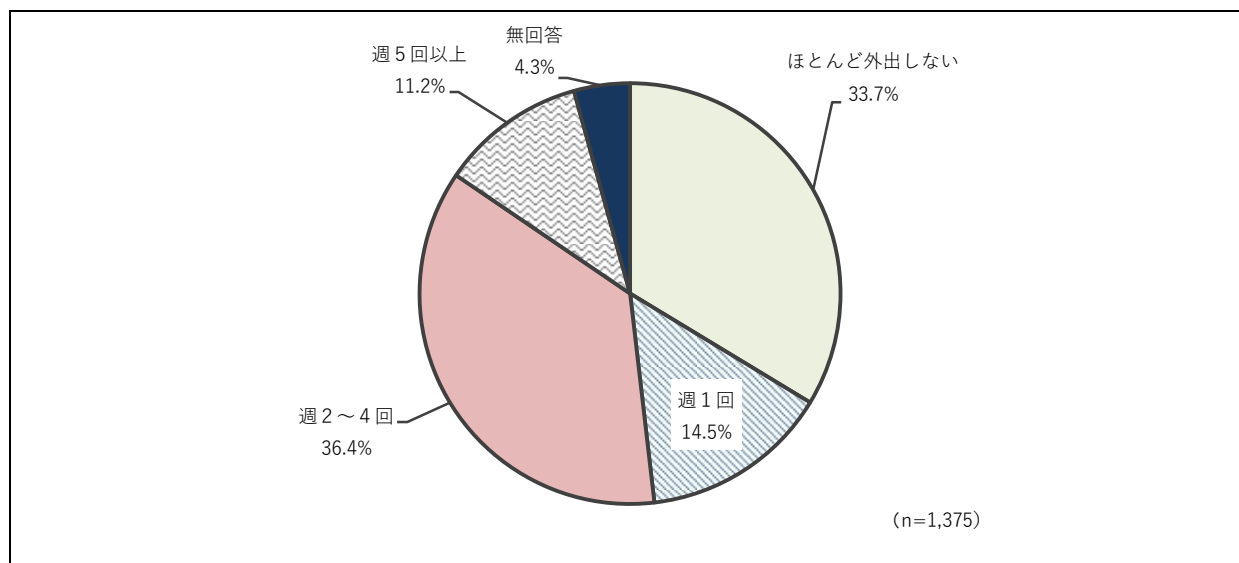


●転倒に対する不安をたずねたところ、「とても不安である」と回答した人の割合が最も高く、59.0%となっています。次いで、「やや不安である」(28.1%)、「あまり不安でない」(5.1%)と続いています。

(3)閉じこもり傾向について

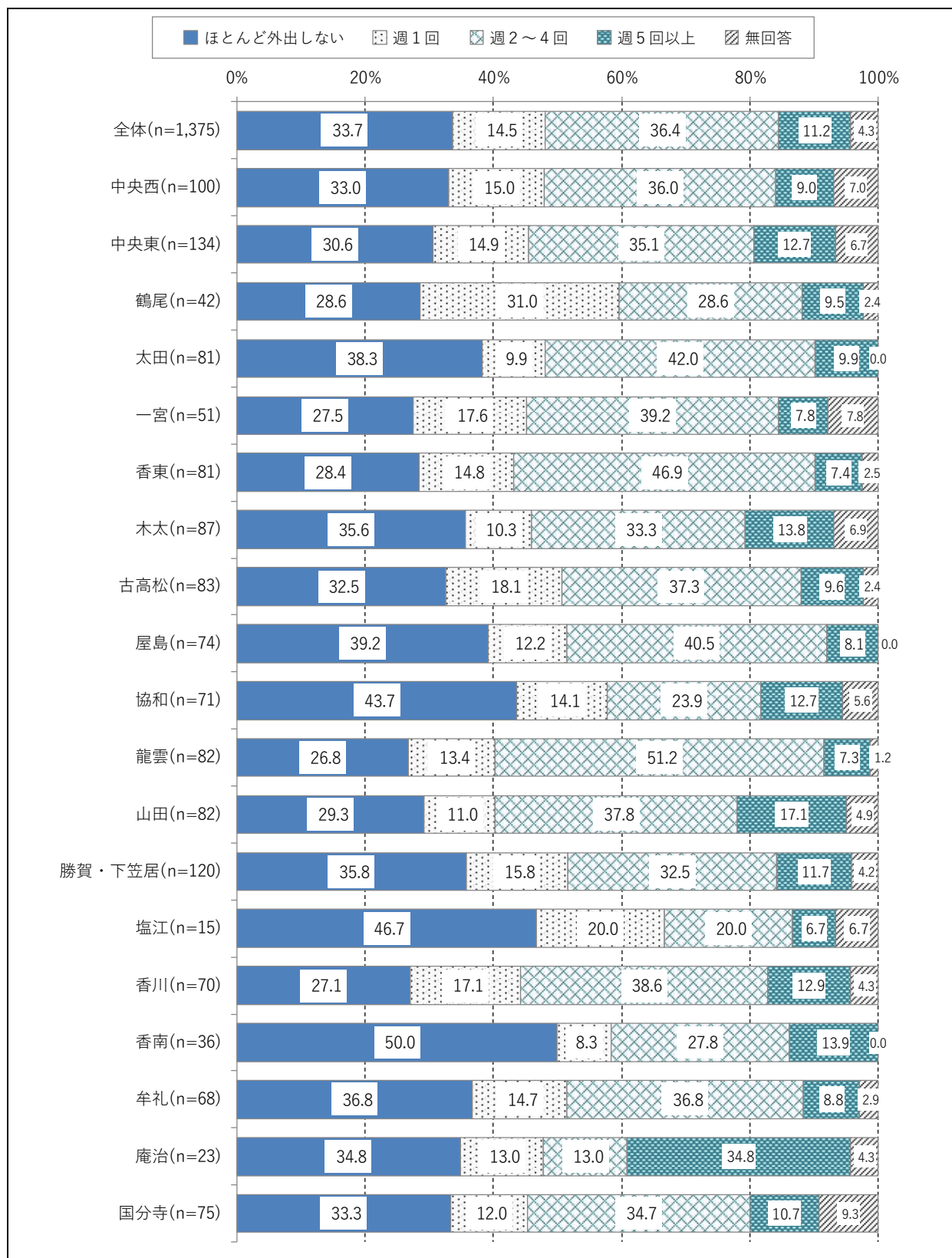
問12 週に1回以上は外出していますか。【○は1つ】

図表160 1週間当たりの外出回数について(全体)



- 1 週間当たりの外出回数をたずねたところ、「週2～4回」と回答した人の割合が最も高く、36.4%となっています。次いで、「ほとんど外出しない」(33.7%)、「週1回」(14.5%)と続いています。

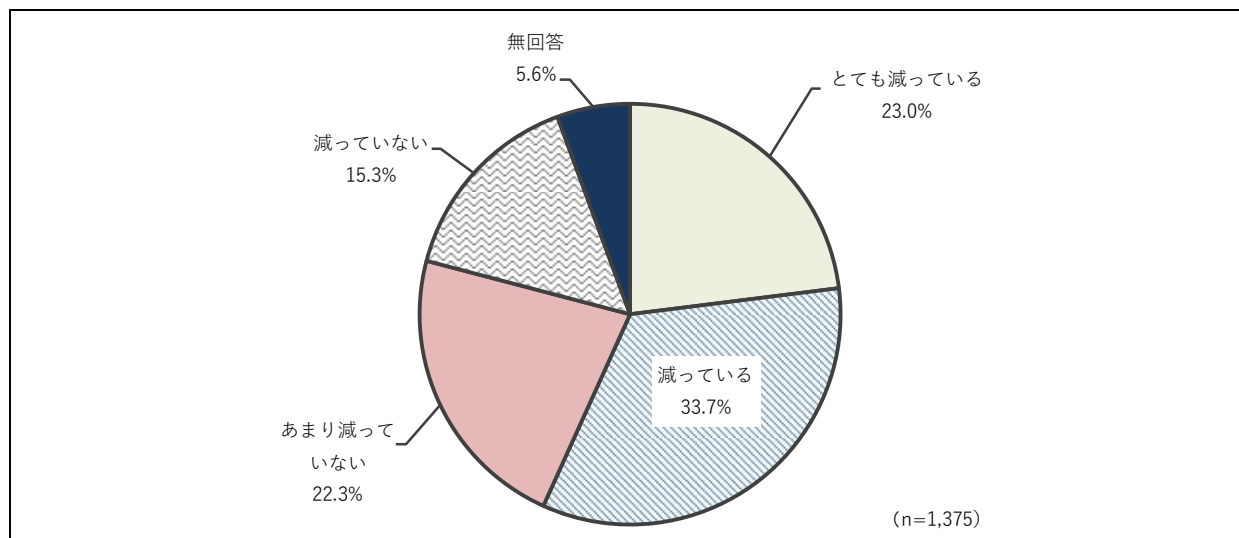
図表 161 1週間当たりの外出回数について(日常生活圏域別)



●1週間当たりの外出回数について日常生活圏域別にみると、「週2～4回」と回答した人の割合が最も高い圏域が13圏域あり、半数以上を占めており、特に、「龍雲」では51.2%と高い割合となっています。「庵治」では「週5回以上」も34.8%と高い割合となっています。一方、「ほとんど外出しない」と回答した人の割合が最も高い圏域は7圏域、「週1回」と回答した人の割合が最も高い圏域は「鶴尾」のみとなっています。

問13 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。【○は1つ】

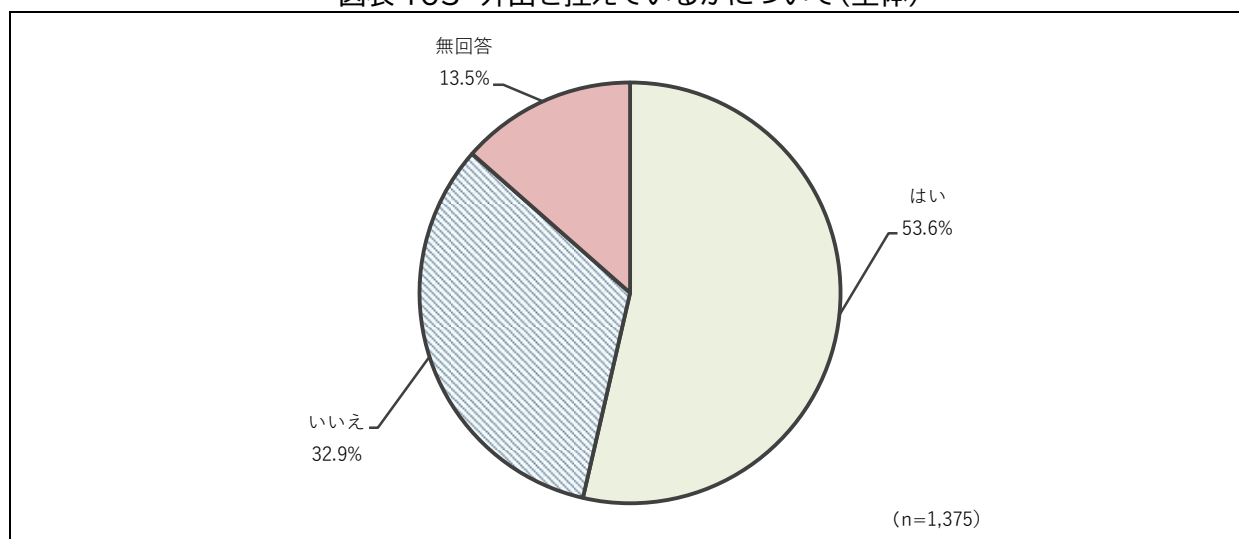
図表162 外出回数について(全体)



●昨年と比較した外出回数についてたずねたところ、「減っている」と回答した人の割合が最も高く、33.7%となっています。次いで、「とても減っている」(23.0%)、「あまり減っていない」(22.3%)と続いています。

問14 外出を控えていますか。【○は1つ】

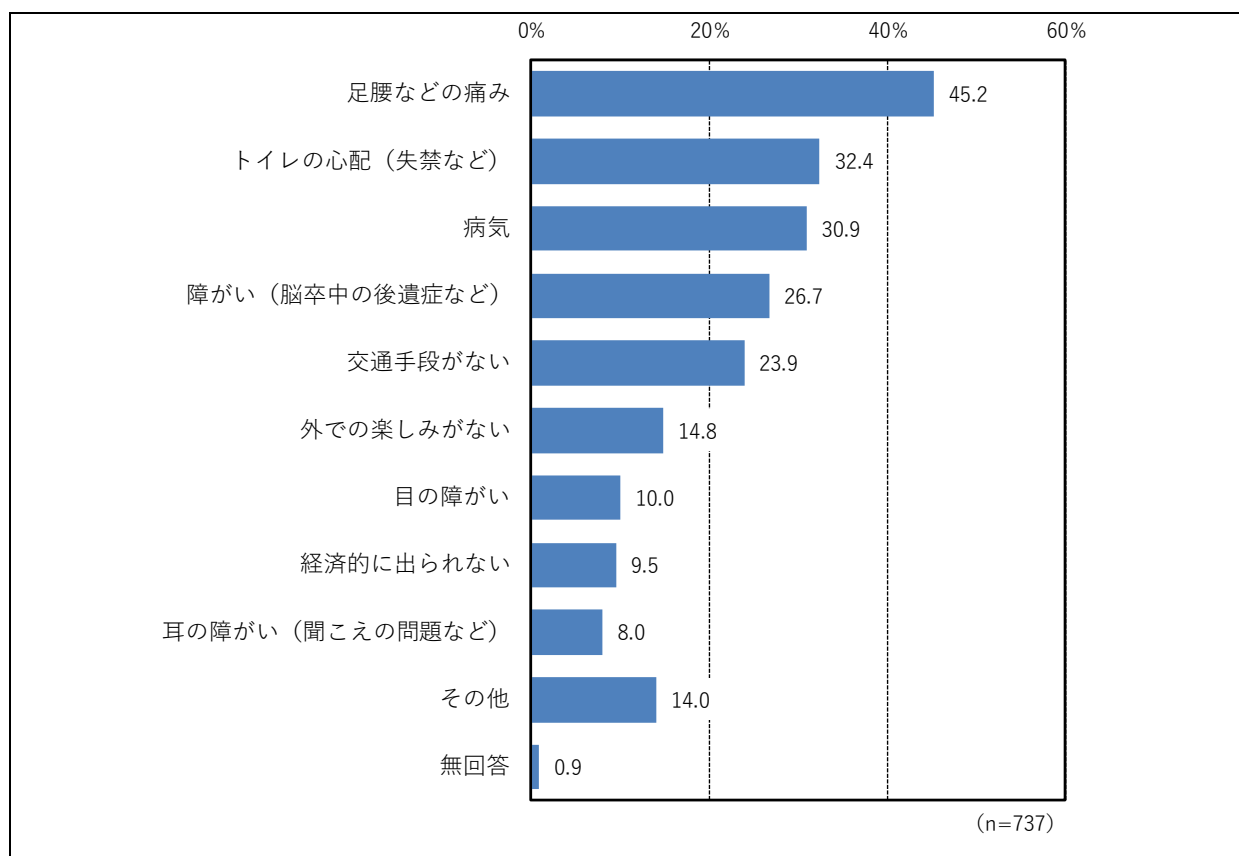
図表163 外出を控えているかについて(全体)



●外出を控えていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 53.6%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 32.9%となっています。

問14で「1はい(外出を控えている)」と回答した方
問14-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。【○はいくつでも】

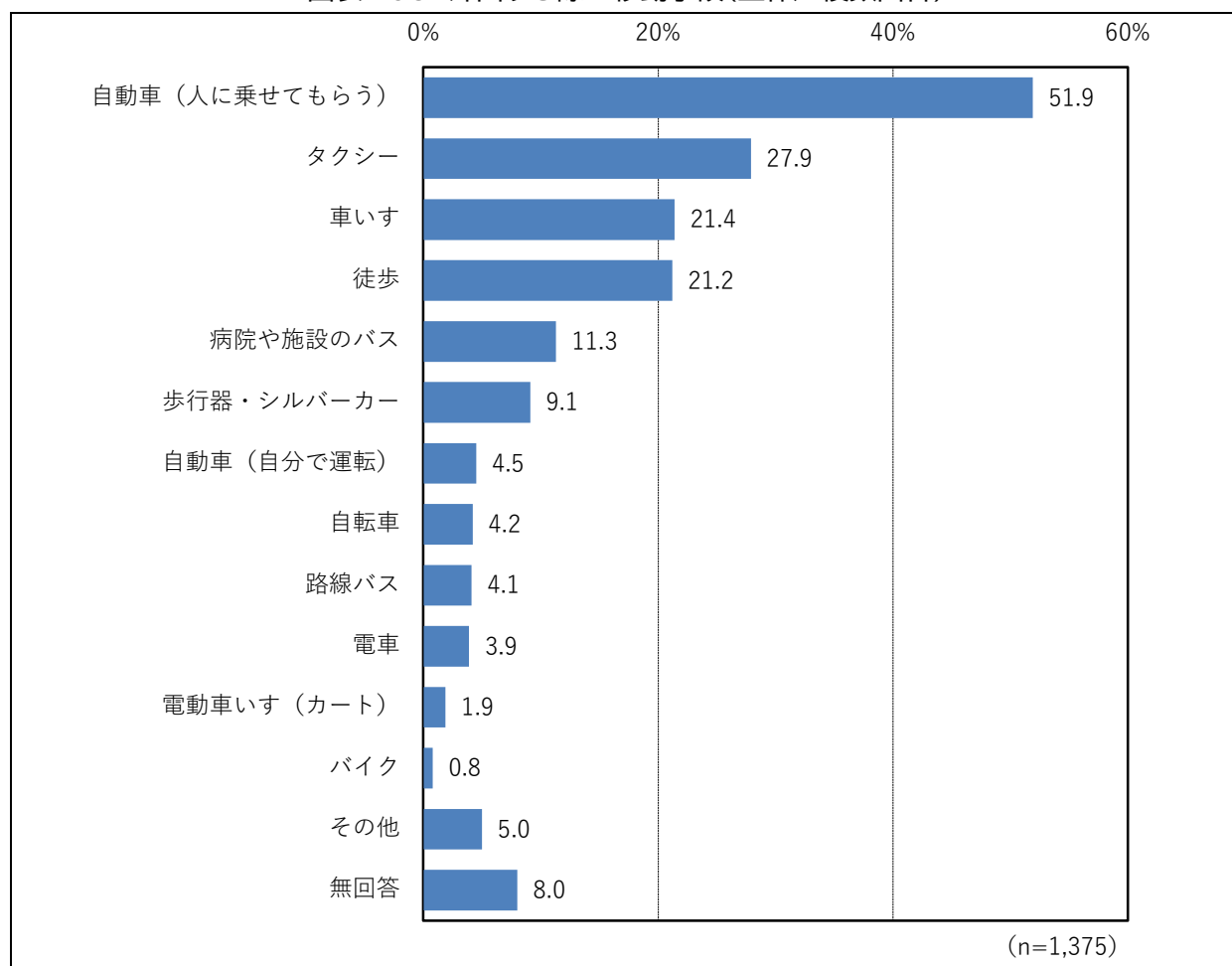
図表164 外出を控えている理由(全体／複数回答)



●外出を控えている理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」と回答した人の割合が最も高く、45.2%となっています。次いで、「トイレの心配」(32.4%)、「病気」(30.9%)と続いています。

問15 外出する際の移動手段は何ですか。【〇はいくつでも】

図表 165 外出する際の移動手段(全体／複数回答)



●外出する際の移動手段をたずねたところ、「自動車（人に乗せてもらう）」と回答した人の割合が最も高く、51.9%となっています。次いで、「タクシー」（27.9%）、「車いす」（21.4%）と続いています。

図表 166 外出する際の移動手段(日常生活圏域別)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,375)		自動車(人に乗せてもらう) 51.9	タクシー 27.9	車いす 21.4
日常生活圏域	中央西 (n=100)	自動車(人に乗せてもらう) 44.0	タクシー 39.0	徒歩 25.0
	中央東 (n=134)	自動車(人に乗せてもらう) 41.0	タクシー 30.6	徒歩 26.9
	鶴尾 (n=42)	タクシー 40.5	自動車(人に乗せてもらう) 33.3	徒歩 28.6
	太田 (n=81)	自動車(人に乗せてもらう) 56.8	タクシー 39.5	徒歩 24.7
	一宮 (n=51)	自動車(人に乗せてもらう) 54.9	タクシー 31.4	車いす 17.6
	香東 (n=81)	自動車(人に乗せてもらう) 58.0	車いす 28.4	タクシー 18.5
	木太 (n=87)	自動車(人に乗せてもらう) 56.3	タクシー 29.9	徒歩 23.0
	古高松 (n=83)	自動車(人に乗せてもらう) 48.2	タクシー 36.1	徒歩 19.3
	屋島 (n=74)	自動車(人に乗せてもらう) 56.8	タクシー 31.1	車いす 21.6
	協和 (n=71)	自動車(人に乗せてもらう) 52.1	車いす 26.8	徒歩 21.1
	龍雲 (n=82)	自動車(人に乗せてもらう) 45.1	タクシー 36.6	徒歩 24.4
	山田 (n=82)	自動車(人に乗せてもらう) 61.0	病院や施設のバス 20.7	徒歩 19.5
	勝賀・下笠居 (n=120)	自動車(人に乗せてもらう) 52.5	タクシー 26.7	車いす 20.0
	塩江 (n=15)	徒歩 33.3	自動車(人に乗せてもらう) 26.7	歩行器・シルバーカー 20.0
	香川 (n=70)	自動車(人に乗せてもらう) 64.3	車いす 27.1	徒歩 17.1
	香南 (n=36)	自動車(人に乗せてもらう) 66.7	車いす 25.0	病院や施設のバス 22.2
	牟礼 (n=68)	自動車(人に乗せてもらう) 57.4	タクシー 30.9	徒歩 20.6
	庵治 (n=23)	自動車(人に乗せてもらう) 56.5	徒歩 34.8	タクシー 21.7
	国分寺 (n=75)	自動車(人に乗せてもらう) 48.0	車いす 25.3	タクシー 20.0

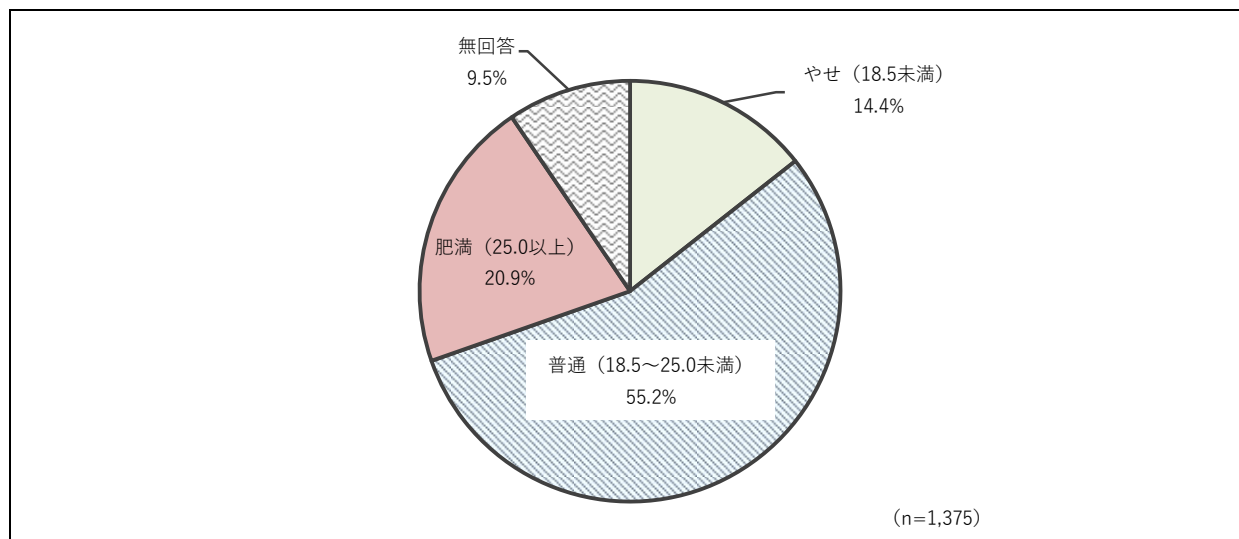
●外出する際の移動手段を日常生活圏域別にみると、「鶴尾」では「タクシー」(40.5%)、「塩江」では「徒歩」(33.3%)が第1位となっていますが、その他の圏域では「自動車(人に乗せてもらう)」が第1位となっています。

5. 食べることについて

(1) BMI算出

問 16 あなたの身長と体重をお書きください。【数字で記入】

図表 167 BMI値(全体)



●身長と体重をたずね BMI 値を算出したところ、「普通(18.5～25.0 未満)」の割合が最も高く、55.2%となっています。次いで、「肥満(25.0 以上)」(20.9%)、「やせ(18.5 未満)」(14.4%)と続いています。

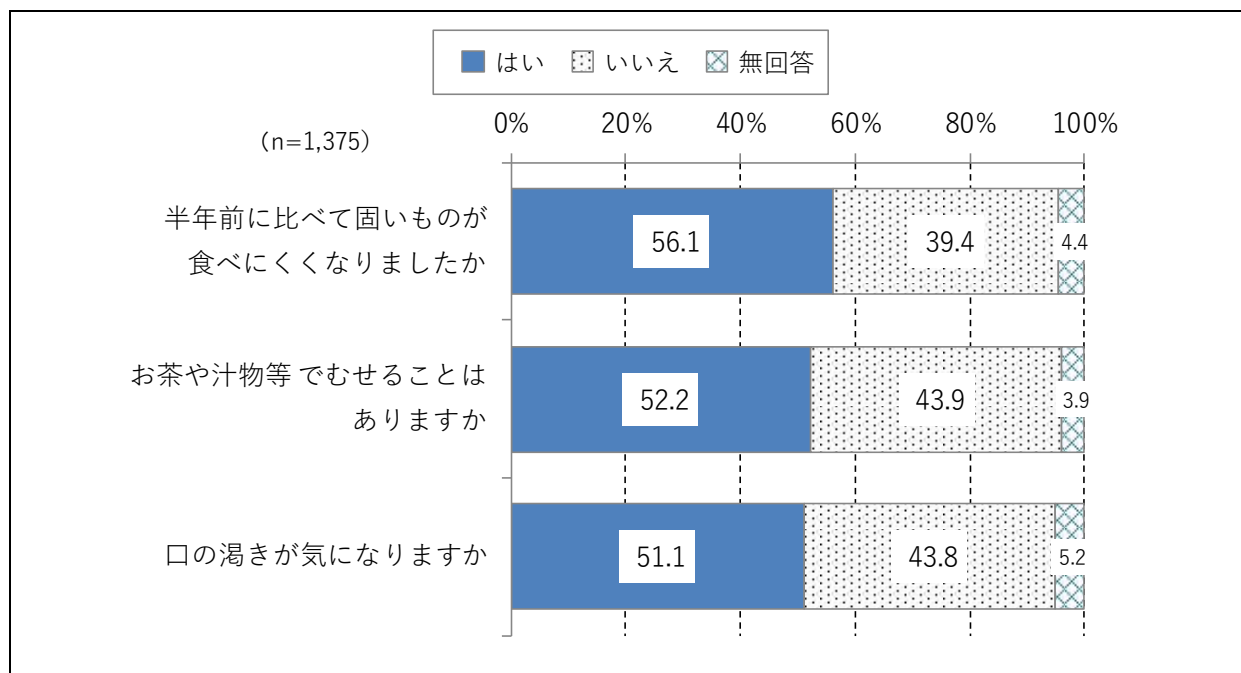
(2)口腔機能について

問 17 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。【○は1つ】

問 18 お茶や汁物等でむせることはありますか。【○は1つ】

問 19 口の渇きが気になりますか。【○は1つ】

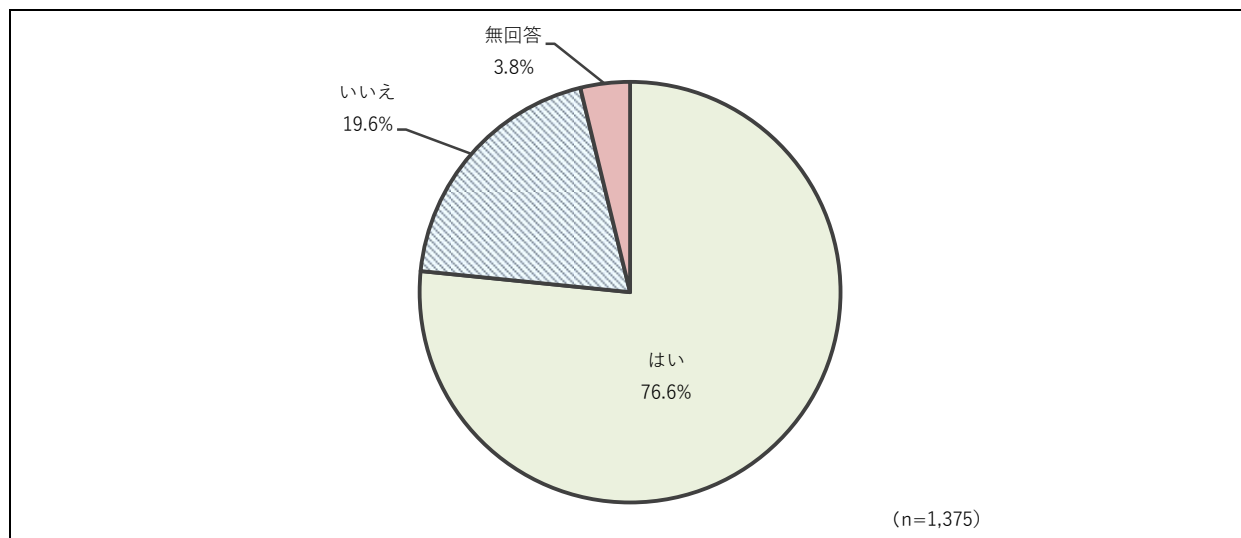
図表 168 口腔機能について(全体)



●口腔機能についてたずねたところ、どの設問においても「はい」と回答した人の割合が5割を超え、「いいえ」と回答した人の割合を上回っており、口腔機能の低下を感じている人の方が多くなっています。

問 20 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。【○は1つ】

図表 169 歯磨きの習慣について(全体)

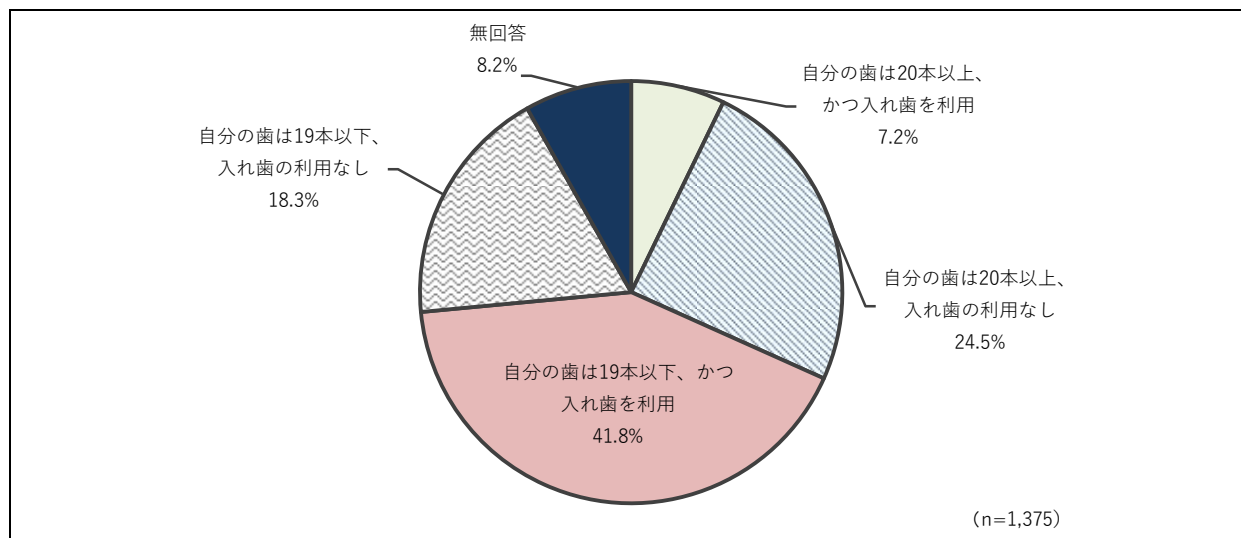


●歯磨きを毎日していますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 76.6%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 19.6%となっています。

問 21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。【○は1つ】

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です。)

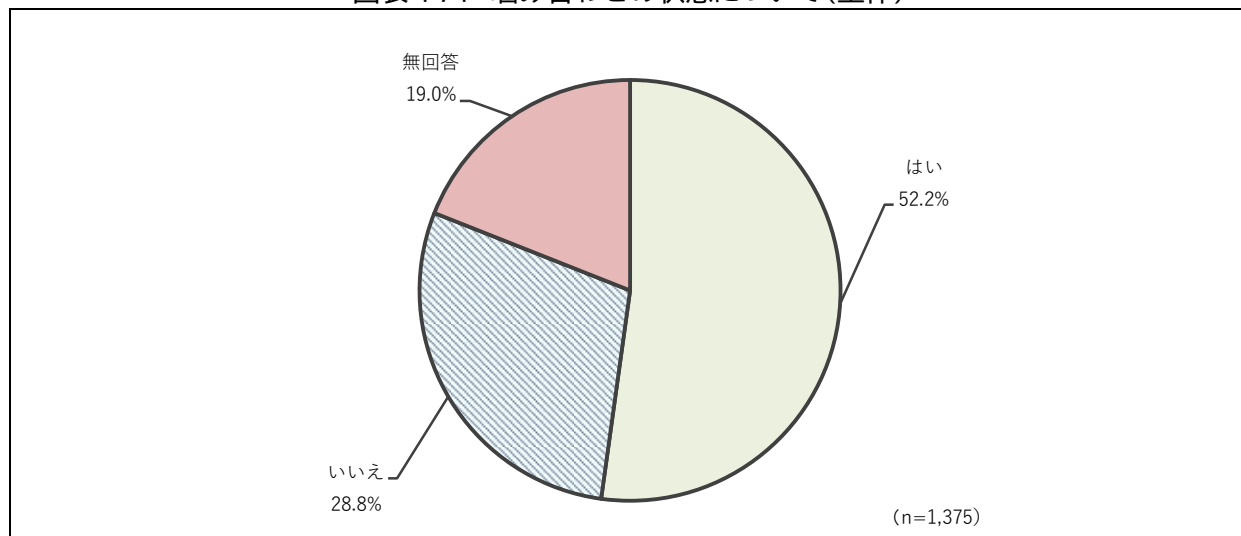
図表 170 歯の数と入れ歯の利用状況(全体)



●歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した人の割合が最も高く、41.8%となっています。「自分の歯は19本以下」と回答した人は全体の 60.1%、「入れ歯を利用」と回答した人は全体の 49.0%となっています。

問 21-1 噛み合わせは良いですか。【○は1つ】

図表 171 噛み合わせの状態について(全体)

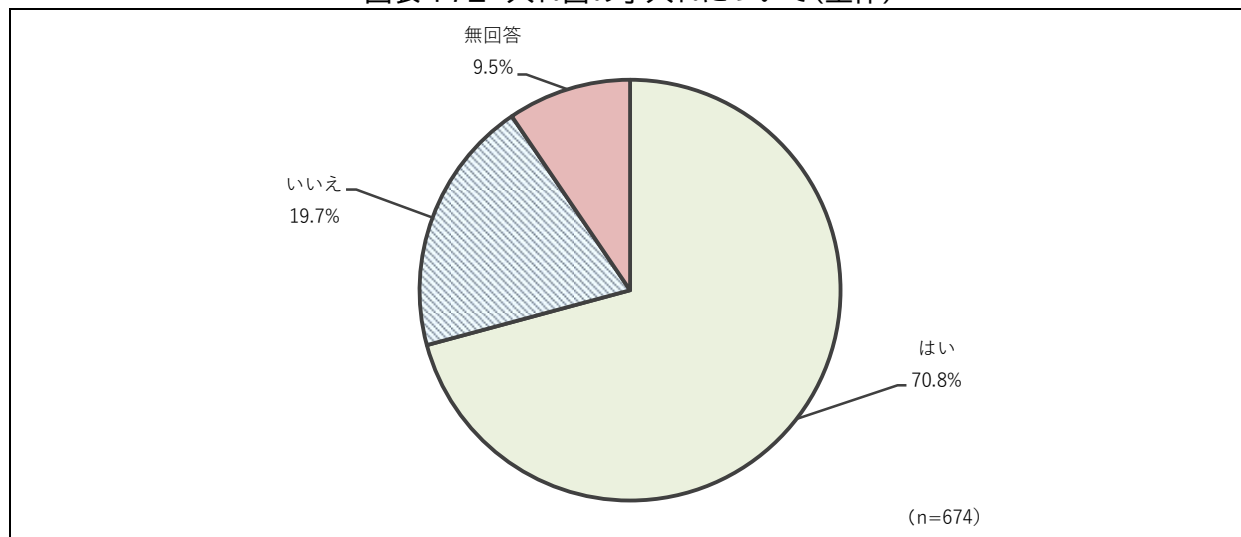


●噛み合わせは良いですかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 52.2%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 28.8%となっています。

問 21 で「1自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方

問 21-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか。【○は1つ】

図表 172 入れ歯の手入れについて(全体)

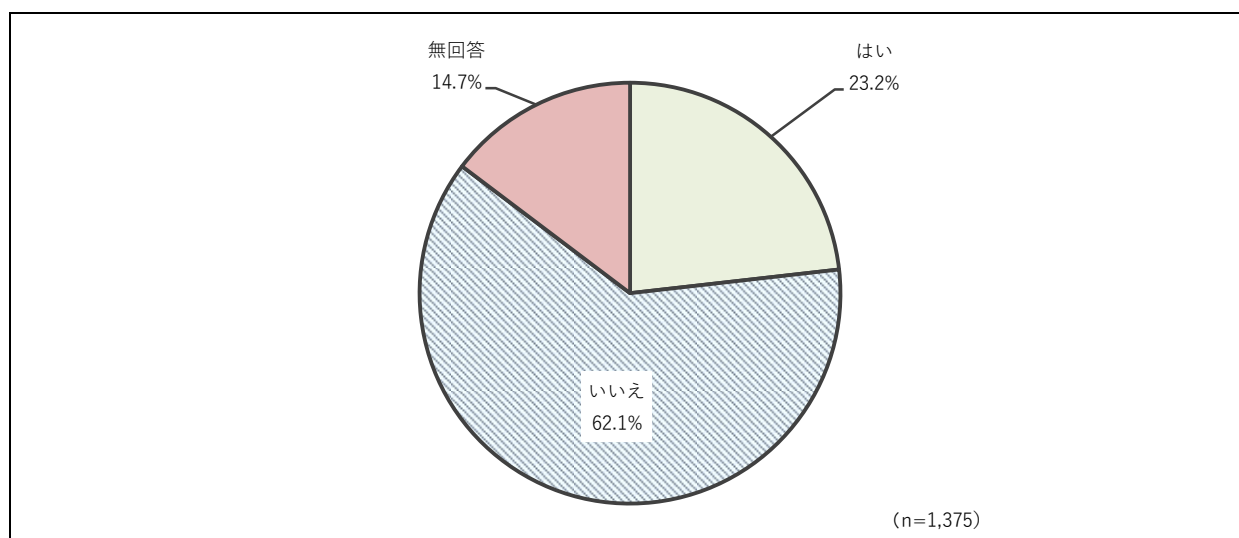


●毎日、入れ歯の手入れをしていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 70.8%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 19.7%となっています。

(3)体重減少の有無について

問 22 6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか。【○は1つ】

図表 173 体重減少の有無について(全体)

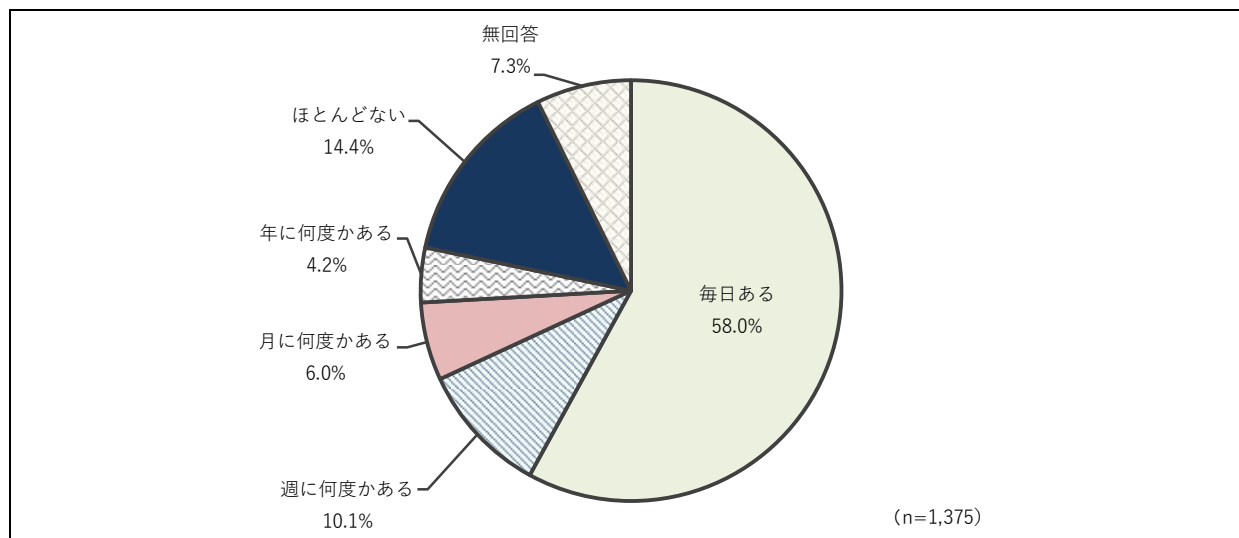


●6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 23.2%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 62.1%となっています。

(4) 孤食の状況について

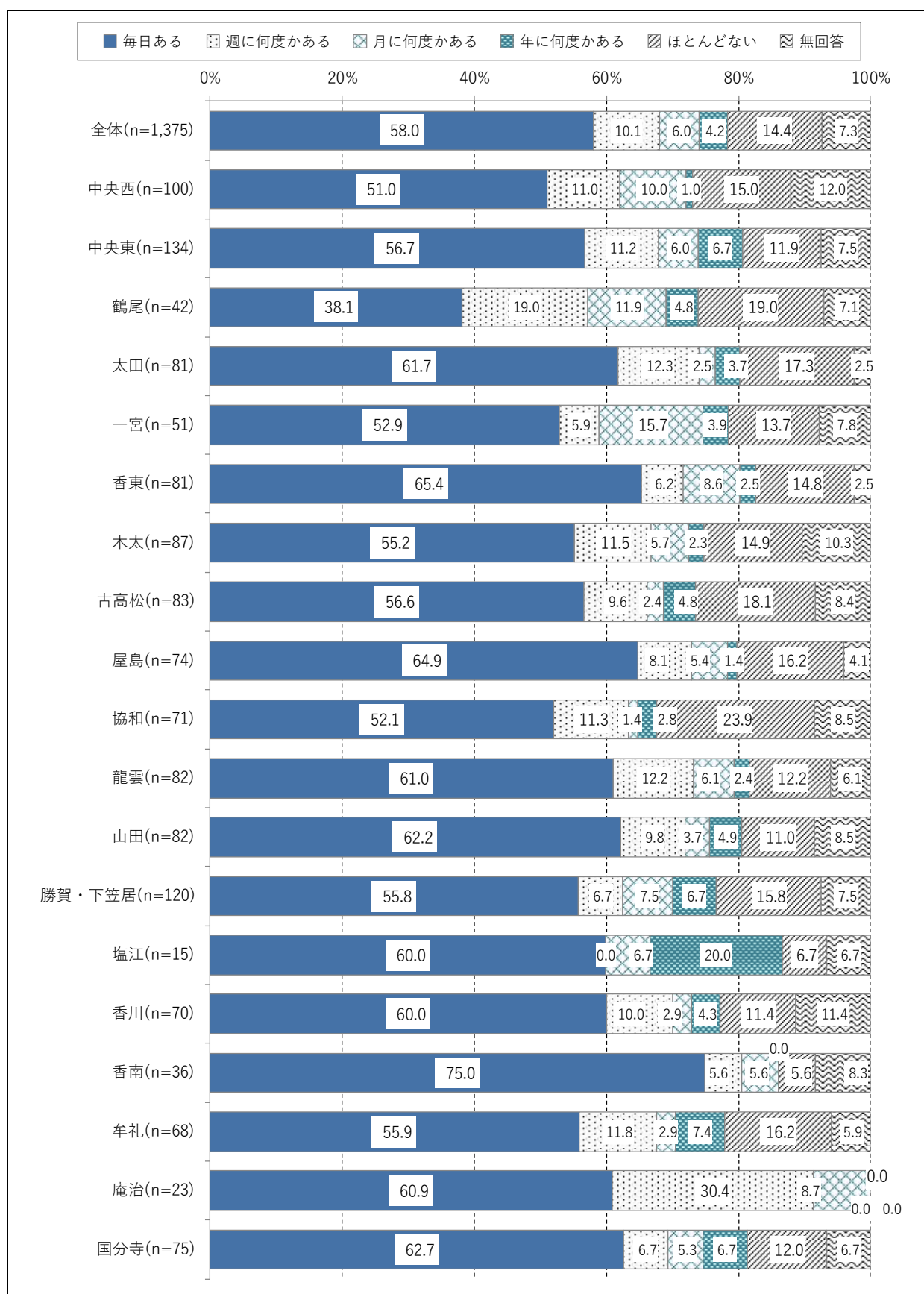
問 23 どなたかと食事をともにする機会がありますか。【○は1つ】

図表 174 誰かと食事をともにする機会の有無について(全体)



●誰かと食事をともにする機会の有無をたずねたところ、「毎日ある」と回答した人の割合が最も高く、58.0%となっています。次いで、「ほとんどない」(14.4%)、「週に何度かある」(10.1%)と続いています。

図表 175 誰かと食事をともしめる機会の有無について(日常生活圏域別)



●誰かと食事をともしめる機会の有無について日常生活圏域別にみると、全ての圏域で「毎日ある」と回答した人の割合が最も高くなっています。一方、「ほとんどない」と回答した人の割合が「協和」では 23.9%、「鶴尾」では 19.0%となっており、その他の圏域に比べて割合が高くなっています。

6. 毎日の生活について

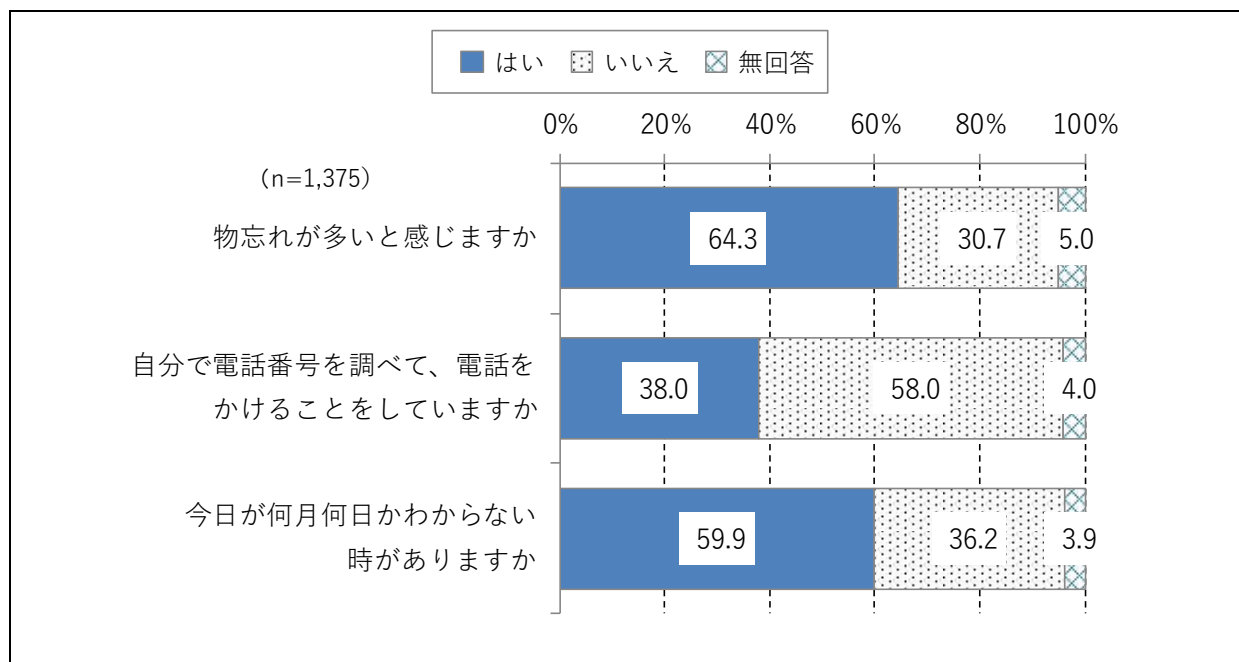
(1) 認知機能について

問 24 物忘れが多いと感じますか。【○は1つ】

問 25 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。【○は1つ】

問 26 今日が何月何日かわからない時がありますか。【○は1つ】

図表 176 認知機能の低下について(全体)

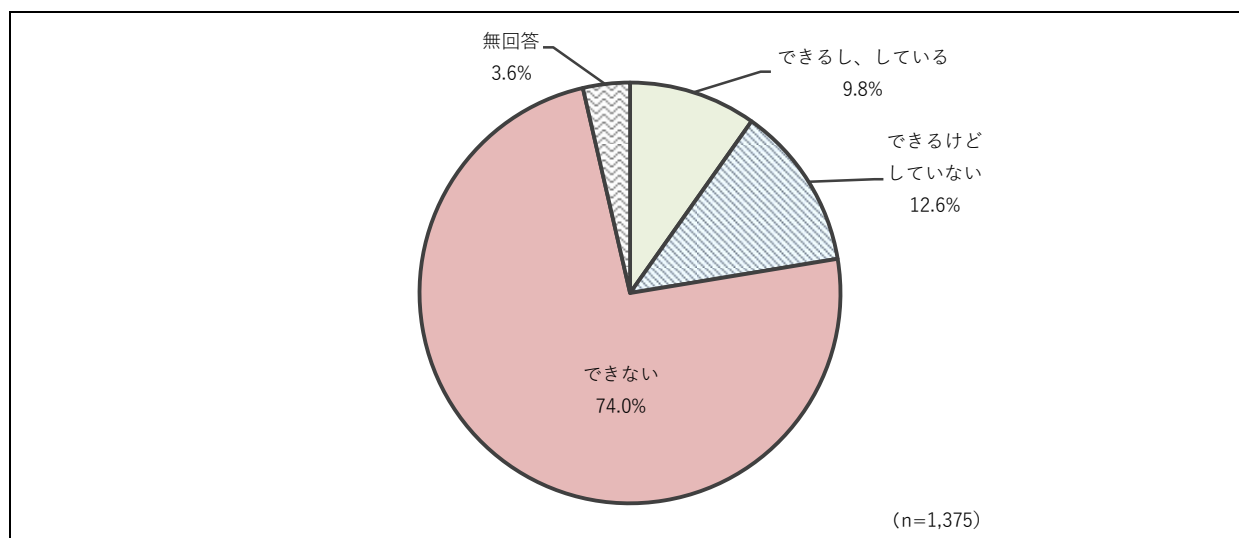


- 物忘れが多いと感じますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は64.3%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は30.7%となっています。
- 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は38.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は58.0%となっています。
- 今日が何月何日かわからない時がありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は59.9%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は36.2%となっています。

(2)IADL<手段的日常生活動作>について(老研式活動能力指標)

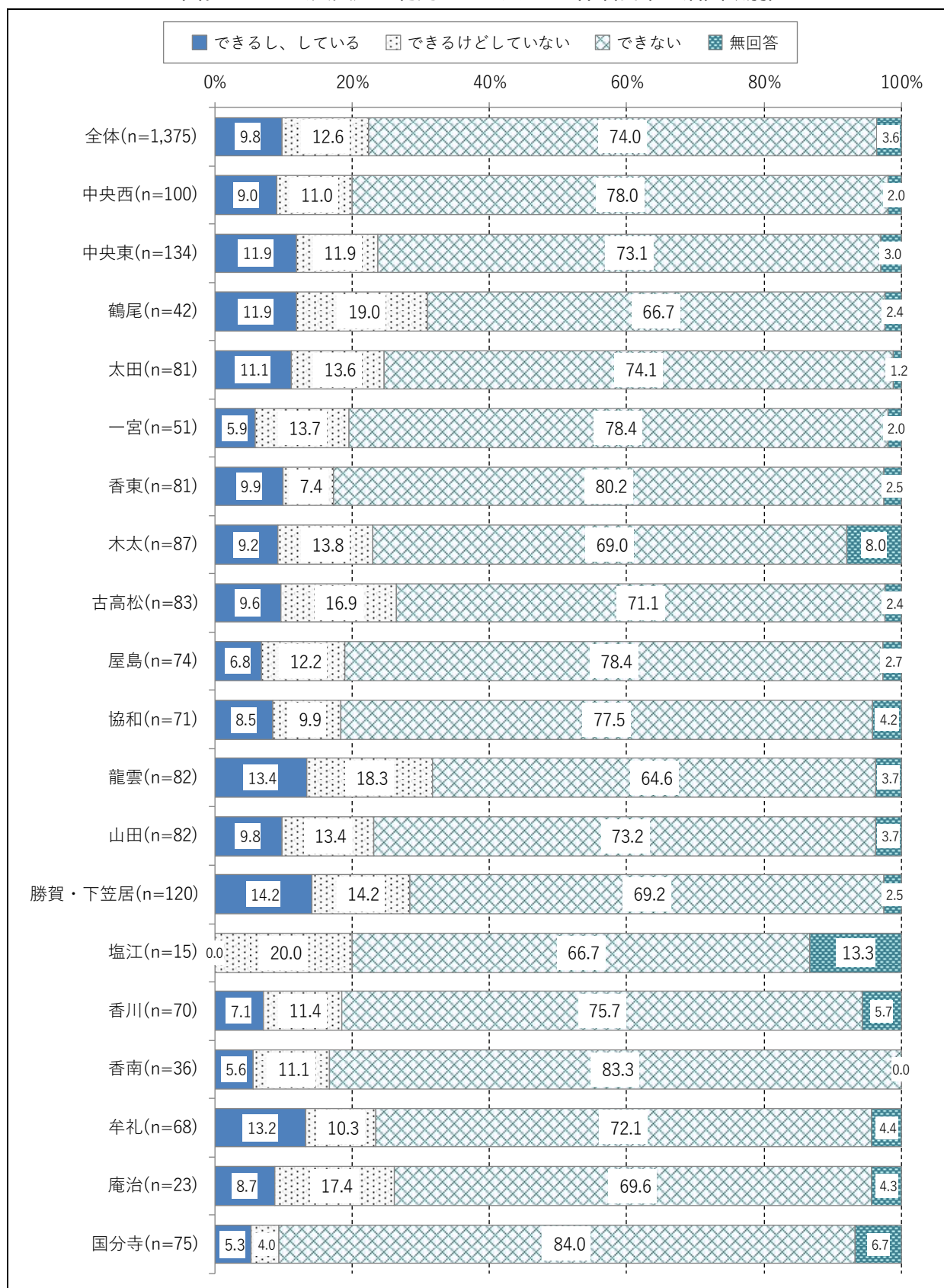
問 27 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)【○は1つ】

図表 177 公共交通を利用した1人での外出(全体)



●公共交通を利用した1人での外出についてたずねたところ、「できない」と回答した人の割合が最も高く、74.0%となっています。次いで、「できるけどしていない」(12.6%)、「できるし、している」(9.8%)と続いています。

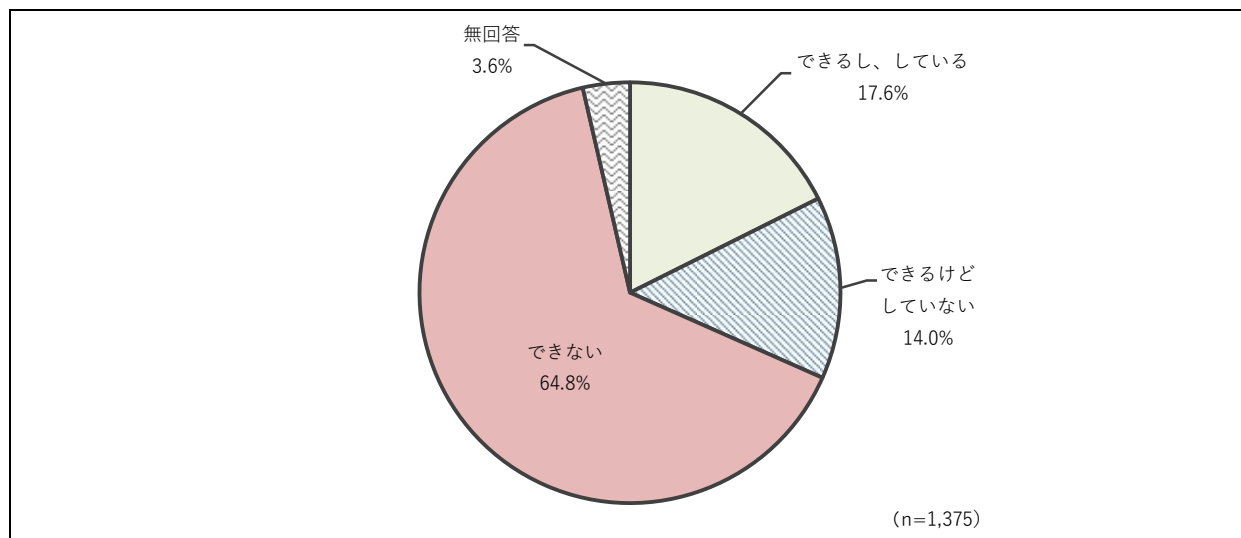
図表 178 公共交通を利用した1人での外出(日常生活圏域別)



●公共交通を利用した1人での外出を日常生活圏域別にみると、概ね全体の割合と同様の傾向にあります。しかし、「できない」と回答した人の割合が国分寺圏域は84.0%、香南圏域は83.3%、香東圏域は80.2%とその他の圏域に比べて高い割合となっています。

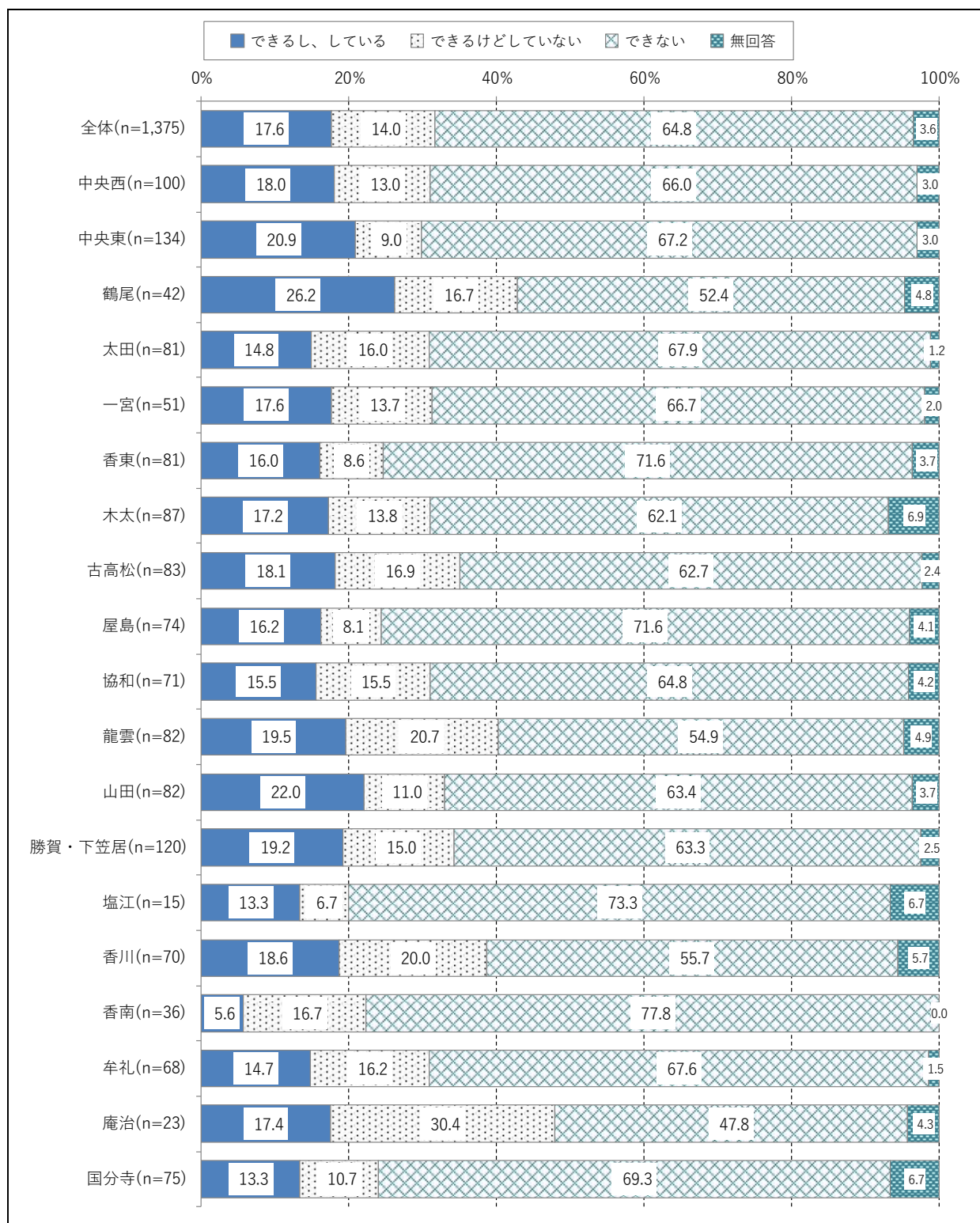
問 28 自分で食品・日用品の買物をしていますか。【○は1つ】

図表 179 自分で食品・日用品の買物をしているかについて(全体)



- 自分で食品・日用品の買物をしていますかとたずねたところ、「できない」と回答した人の割合が最も高く、64.8%となっています。次いで、「できるし、している」(17.6%)、「できるけどしていない」(14.0%)と続いています。

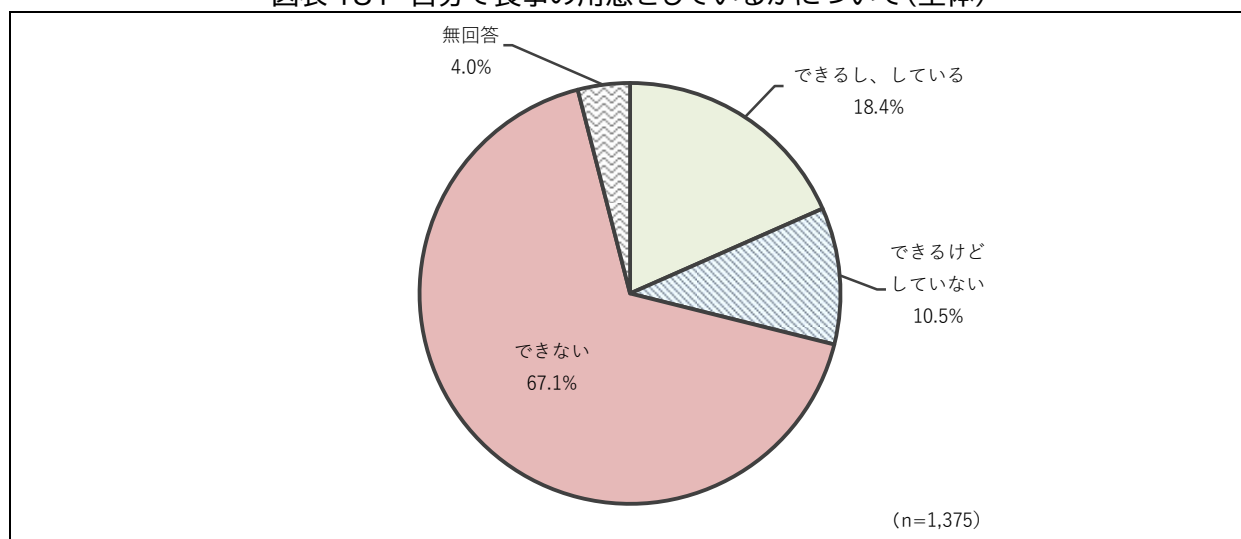
図表 180 自分で食品・日用品の買物をしているかについて(日常生活圏域別)



●自分で食品・日用品の買物をしているかについて日常生活圏域別にみると、概ね全体の割合と同様の傾向にあります。しかし、「できない」と回答した人の割合が「香南」は 77.8%、「塩江」は 73.3%、「香東」、「屋島」は 71.6%と 7 割を超えており、その他の圏域に比べて高い割合となっています。一方、「鶴尾」では、「できるし、している」と回答した人の割合が、その他の圏域に比べて高くなっています。

問 29 自分で食事の用意をしていますか。【○は1つ】

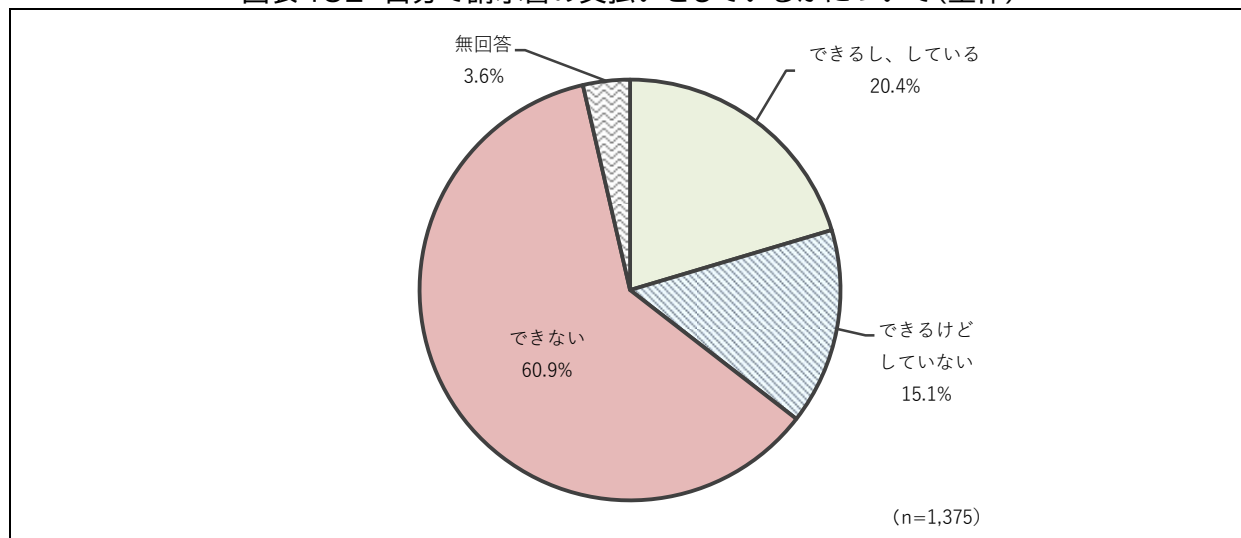
図表 181 自分で食事の用意をしているかについて(全体)



●自分で食事の用意をしていますかとたずねたところ、「できない」と回答した人の割合が最も高く、67.1%となっています。次いで、「できるし、している」(18.4%)、「できるけどしていない」(10.5%)と続いています。

問 30 自分で請求書の支払いをしていますか。【○は1つ】

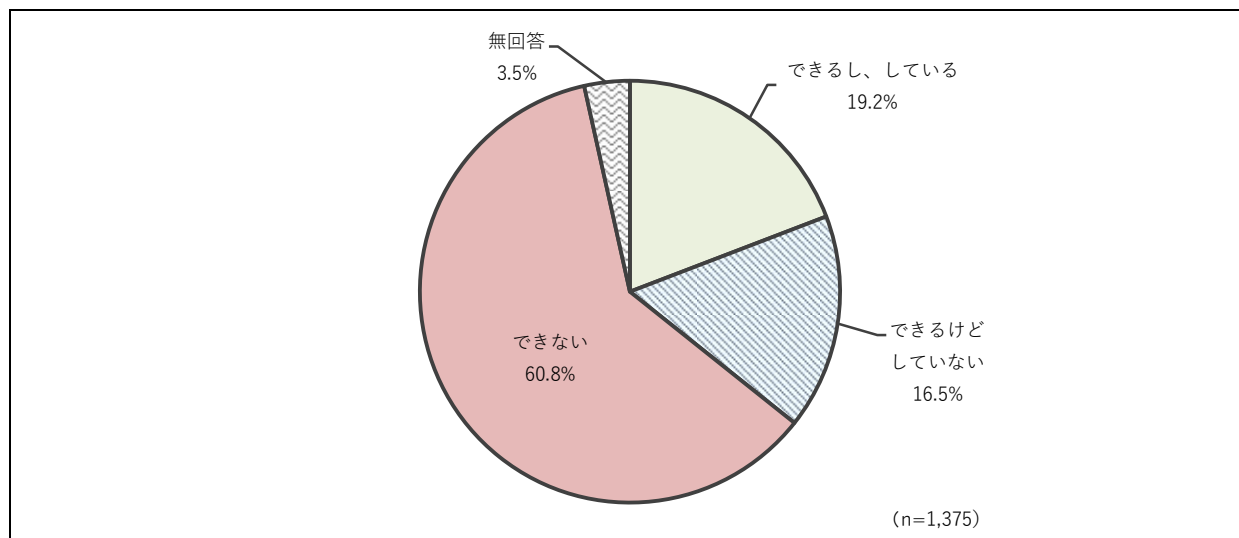
図表 182 自分で請求書の支払いをしているかについて(全体)



●自分で請求書の支払いをしていますかとたずねたところ、「できない」と回答した人の割合が最も高く、60.9%となっています。次いで、「できるし、している」(20.4%)、「できるけどしていない」(15.1%)と続いています。

問 31 自分で預貯金の出し入れをしていますか。【○は1つ】

図表 183 自分で預貯金の管理をしているかについて(全体)



- 自分で預貯金の管理をしていますかとたずねたところ、「できない」と回答した人の割合が最も高く、60.8%となっています。次いで、「できるし、している」(19.2%)、「できるけどしていない」(16.5%)と続いています。

(3)社会参加－知的能動性(老研式活動能力指標)

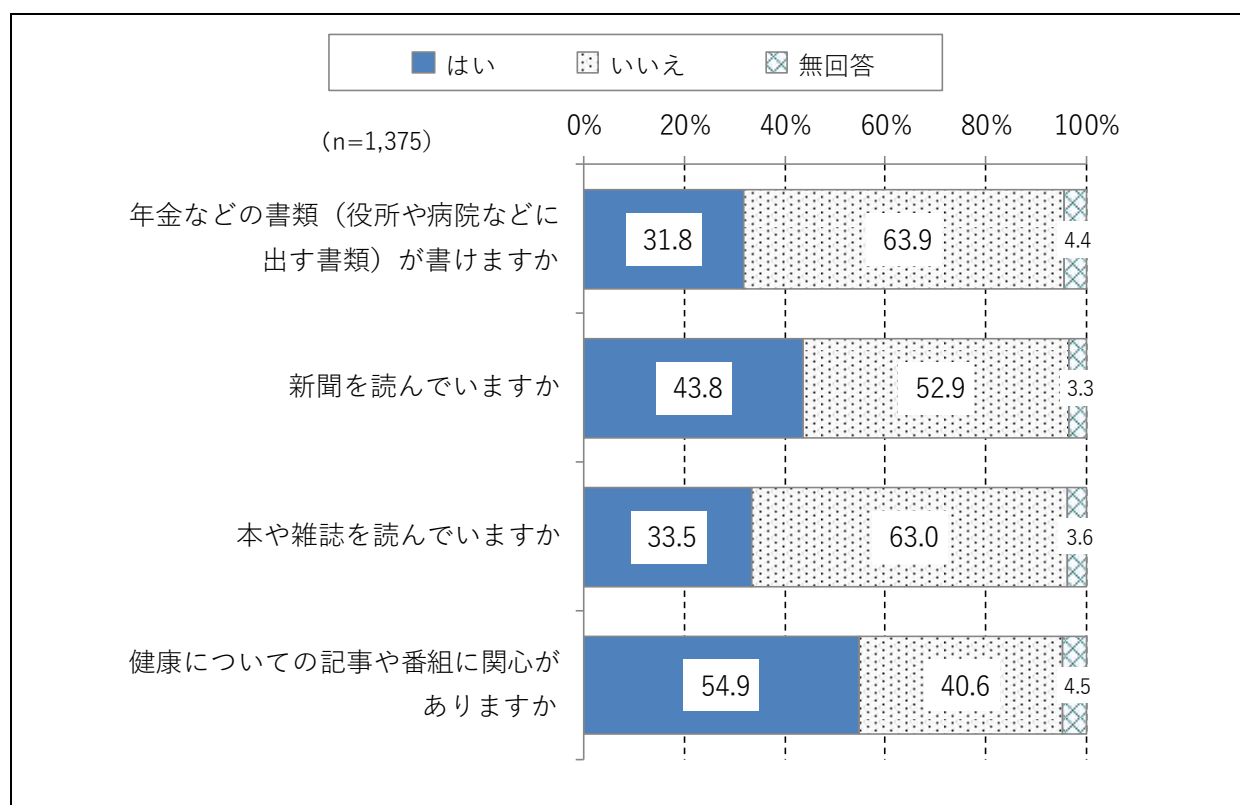
問 32 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。【○は1つ】

問 33 新聞を読んでいますか。【○は1つ】

問 34 本や雑誌を読んでいますか。【○は1つ】

問 35 健康についての記事や番組に関心がありますか。【○は1つ】

図表 184 書類の記入や読書等について(全体)

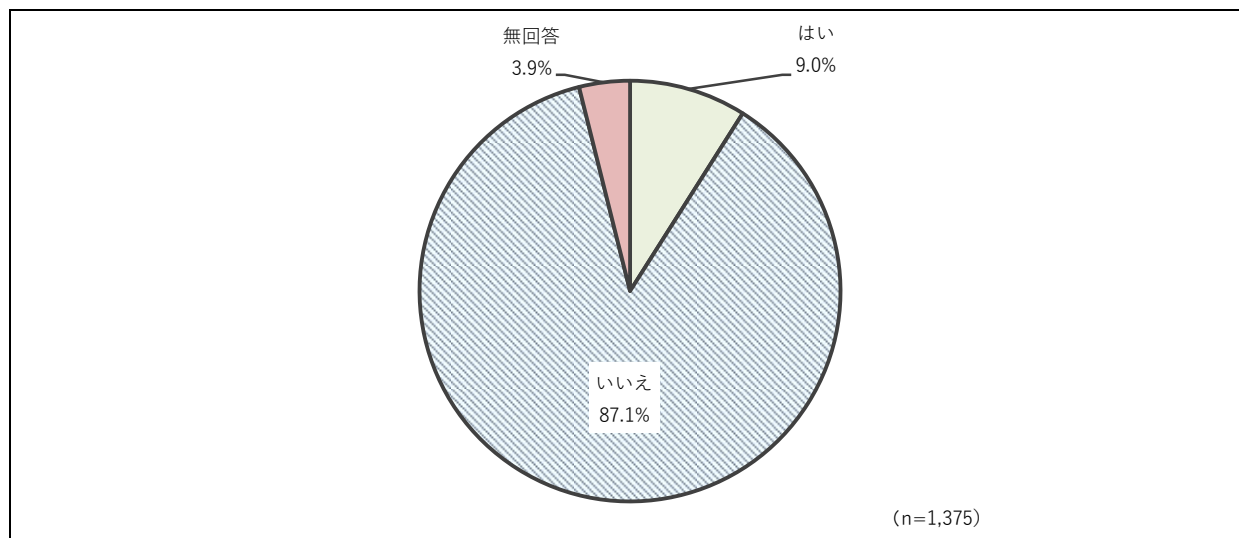


●知的能動性に関する項目についてたずねたところ、「健康についての記事や番組に関心がありますか」という設問については「はい」と回答した人が 54.9%と5割を超え、「いいえ」(40.6%)と回答した人を 14.3 ポイント上回っています。一方、それ以外の設問については、「はい」と回答した人は5割を下回っており、低い割合となっています。

(4)社会参加－社会的役割(老研式活動能力指標)

問 36 友人の家を訪ねていますか。【○は1つ】

図表 185 友人宅への訪問について(全体)



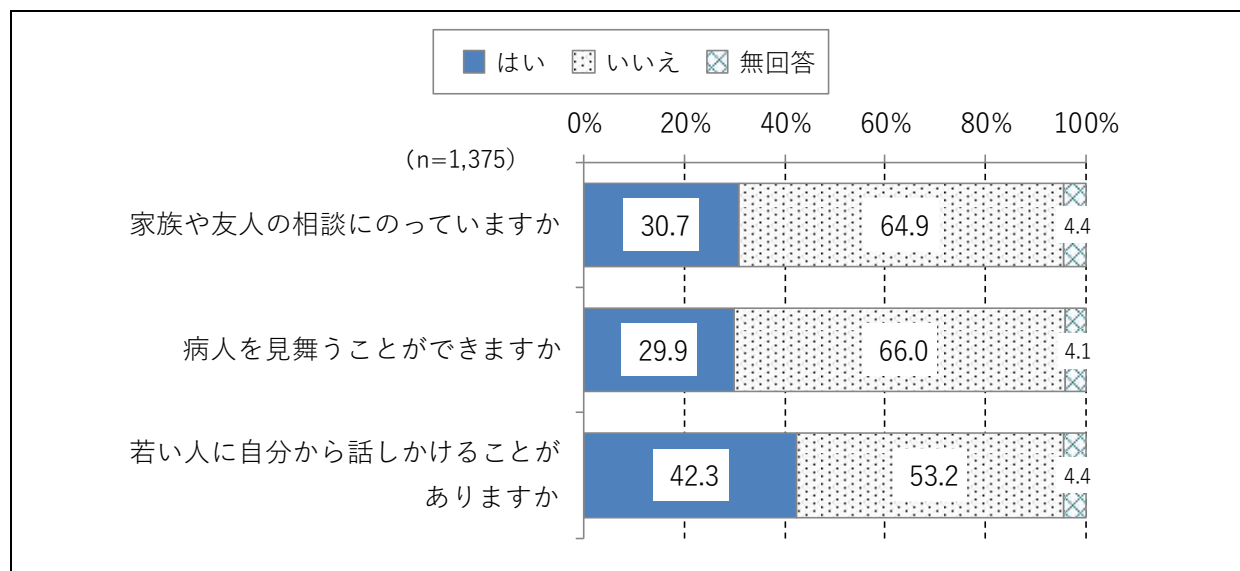
●友人宅への訪問についてたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 9.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 87.1%となっています。

問 37 家族や友人の相談にのっていますか。【○は1つ】

問 38 病人を見舞うことができますか。【○は1つ】

問 39 若い人に自分から話しかけることがありますか。【○は1つ】

図表 186 社会的役割について(全体)

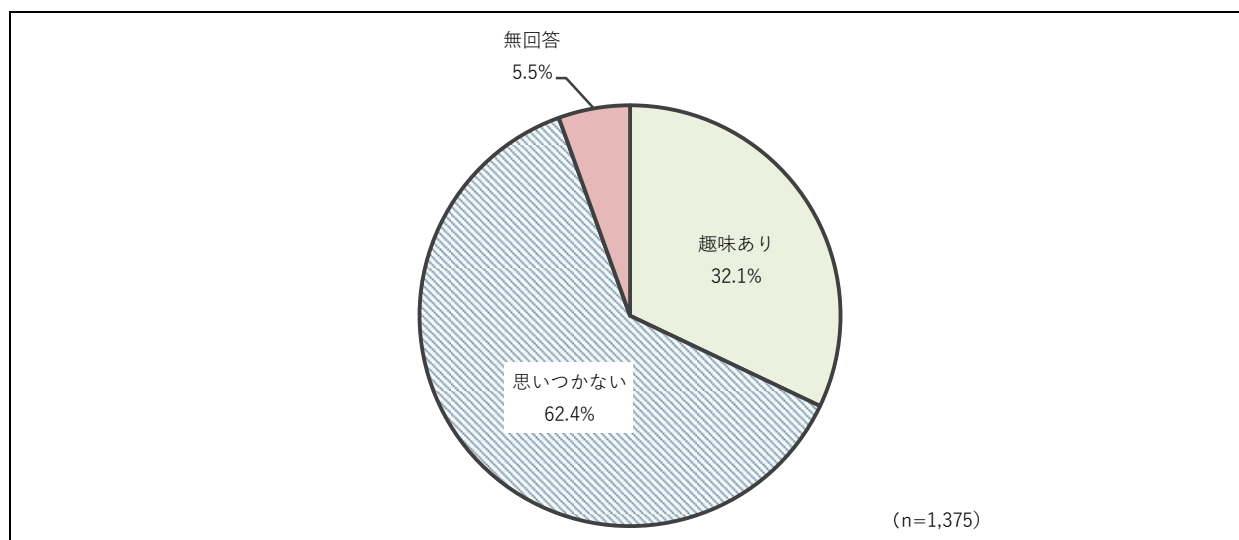


●社会的役割に関する項目についてたずねたところ、全ての設問で「はい」と回答した人が半数を切る割合となっており、概ね同様の傾向にあります。しかし、「若い人に自分から話しかけることがありますか」という設問については、その他の設問に比べて「はい」と回答した人の割合が高くなっています。

(5)趣味・生きがいの有無

問 40 趣味はありますか。【○は1つ】

図表 187 趣味の有無と内容(全体)

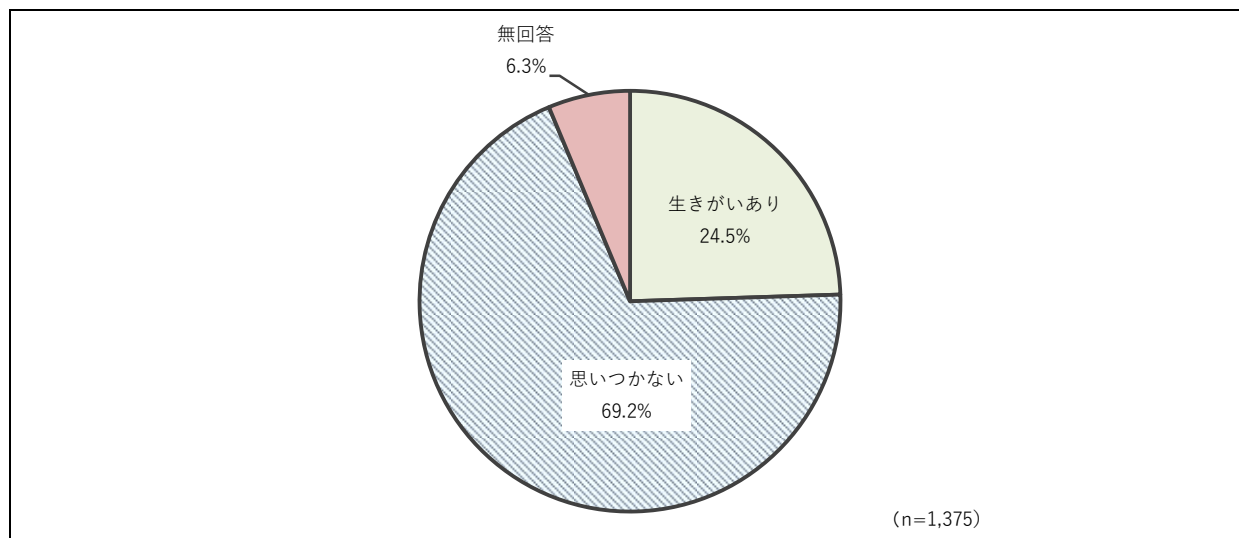


趣味の主な内容	件数
音楽、歌、カラオケ	70
読書	40
TV、DVD、ビデオ鑑賞(スポーツ、時代劇等、映画)	31
囲碁、将棋	24
畑仕事、ガーデニング、草花の世話	20
手芸、物づくり(編み物、パッチワーク、陶芸、折り紙、プラモデル)	18
スポーツ(ゴルフ、ゲートボール、卓球、釣り等)	12
ギャンブル(競輪、パチンコ、マージャンなど)	8
俳句、川柳、和歌、詩吟	7
旅行	7
書道、絵画	6
インターネット、パソコン、ゲーム	6
料理	6
カメラ、写真	4
その他(ナンプレ、拳法など)	4
出来ない(昔はあったが、今はできない、あるが病気でできないなど)	9

- 趣味の有無をたずねたところ、「趣味あり」と回答した人の割合は 32.1%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は 62.4%となっています。
- 趣味の内容は、「音楽、歌、カラオケ」、「読書」などが多くなっています。

問 41 生きがいがありますか。【○は1つ】

図表 188 生きがいの有無と内容(全体)



生きがいの主な内容	件数
子や孫の成長、交流	210
趣味(旅行、カラオケ、釣り、ドライブ、スポーツ、手芸、テレビ、貯金など)	39
家族との生活や交流	14
デイサービス、施設へ通うこと	8
農作業、畑仕事、草花の手入れ	8
健康に元気よく暮らす	7
長生きしたい	7
友人との交流	5
宗教、信仰	5
ペットとの交流	3
人の役に立ちたい	2
仕事	2

- 生きがいの有無をたずねたところ、「生きがいあり」と回答した人の割合は 24.5%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は 69.2%となっています。
- 生きがいの内容は、「子や孫の成長、交流」が多くなっています。

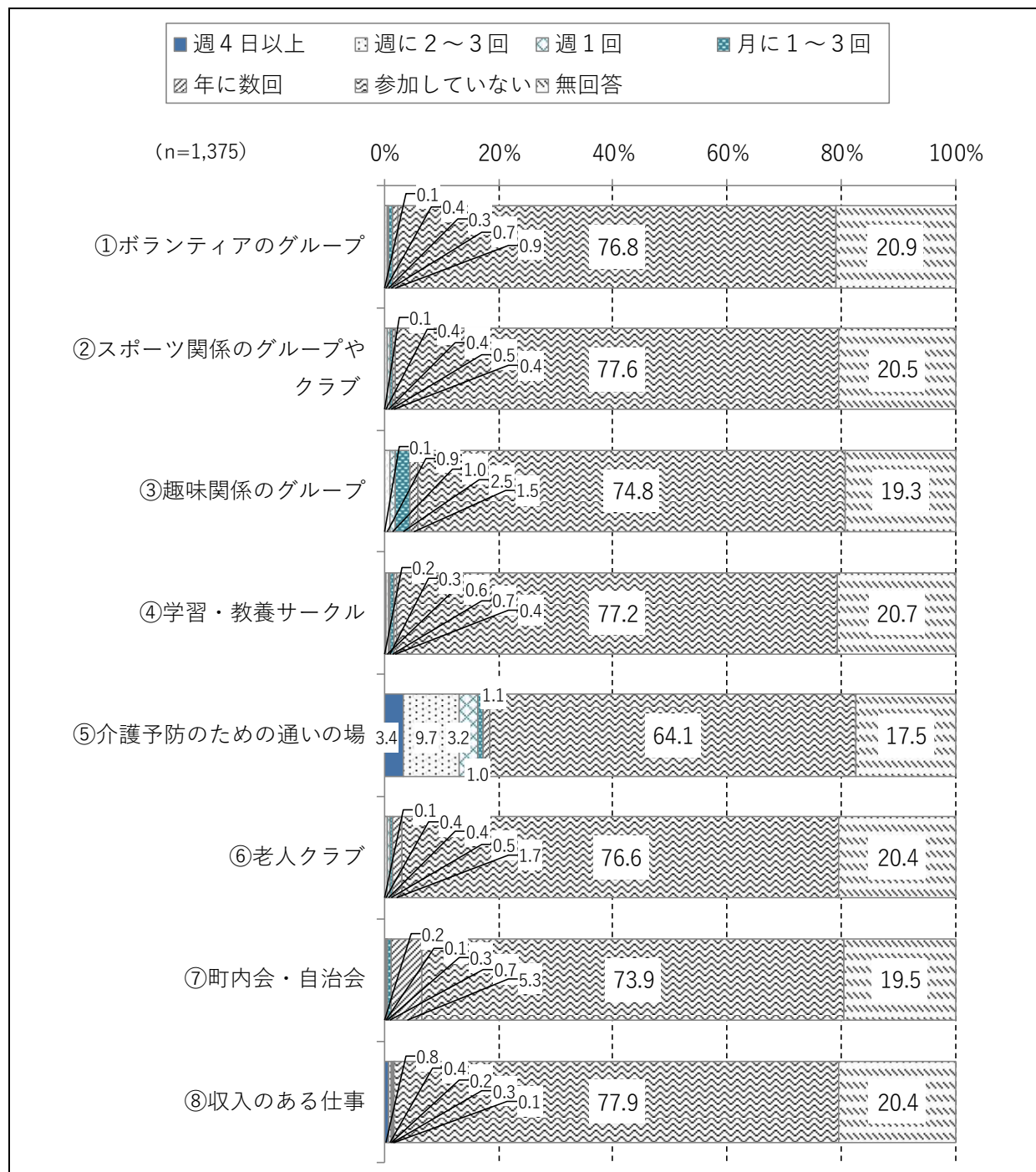
7. 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

問 42 以下のような①～⑧の会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

【①～⑧それぞれに○は1つずつ】

図表 189 社会参加の状況(全体)

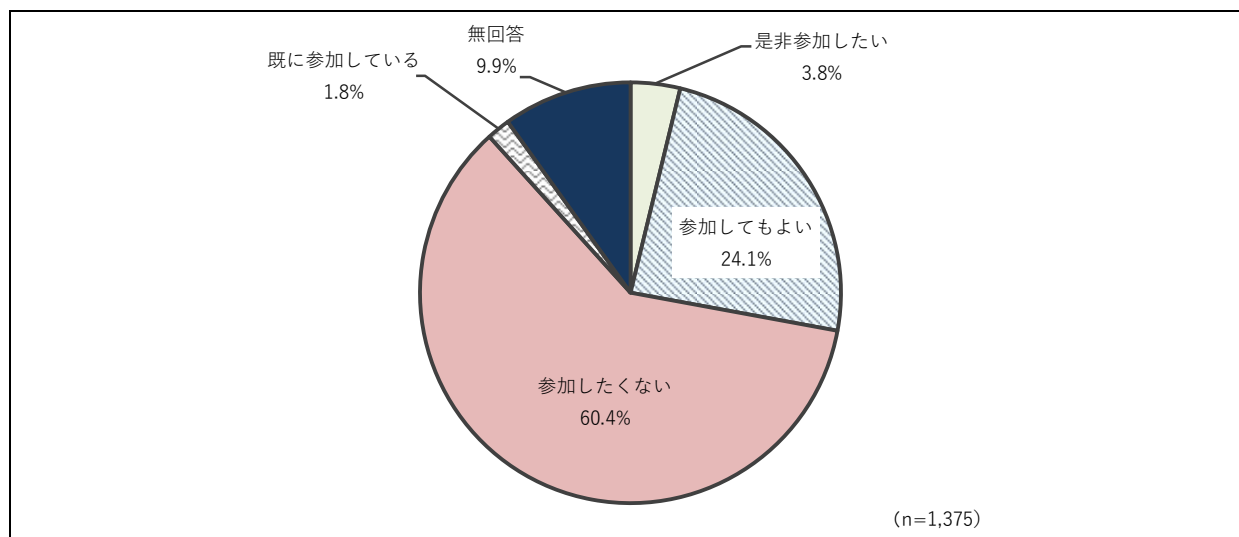


●社会参加の状況についてみるとすべての会、グループにおいて「参加していない」が6割～8割程度を占めています。「⑤介護予防のための通いの場」については、「週4日以上」(3.4%)、「週に2～3回」(9.7%)、「週1回」(3.2%)と回答した人の割合がその他の会、グループに比べて高くなっています。

(2)地域づくりへの参加意向(参加者)

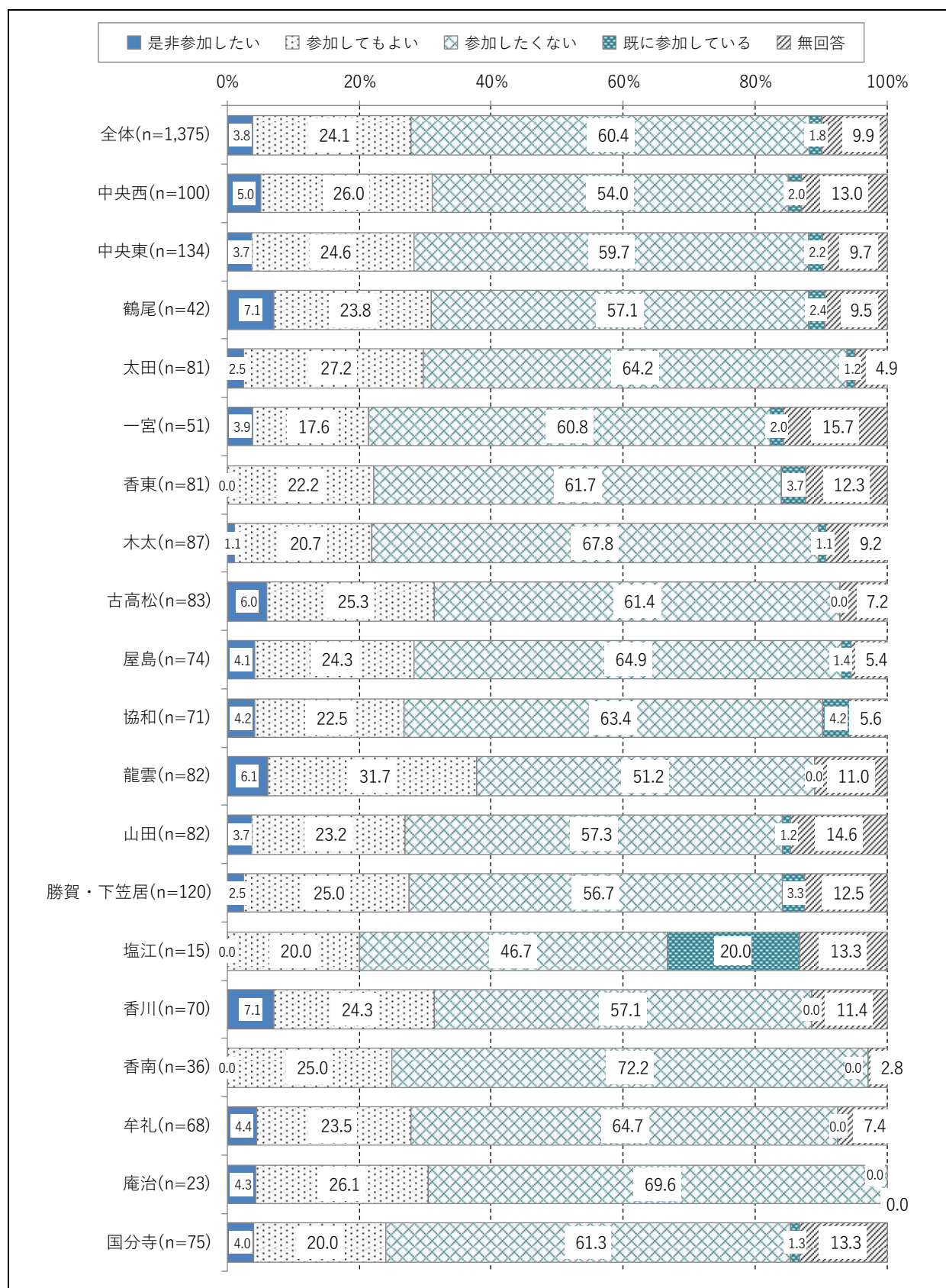
問 43 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

図表 190 地域づくりへの参加意向(参加者)(全体)



●地域づくりへの参加意向についてたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、60.4%となっています。次いで、「参加してもよい」(24.1%)、「是非参加したい」(3.8%)と続いています。

図表 191 地域づくりへの参加意向(参加者)(日常生活圏域別)

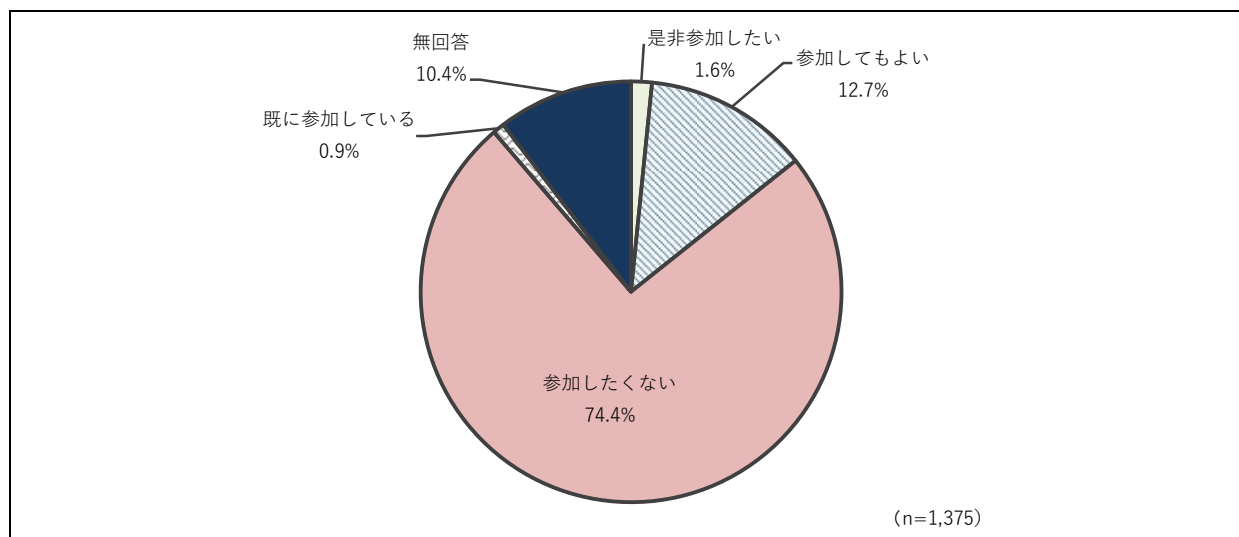


●地域づくりへの参加意向について日常生活圏域別にみると、「参加したくない」と回答した人の割合が、全ての圏域で最も高くなっています。一方、「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した人の割合が「龍雲」では 37.8%、「香川」では 31.4%、「古高松」では 31.3%、「中央西」では 31.0%、「鶴尾」では 30.9%となっており、その他の圏域に比べ高くなっています。

(2)地域づくりへの参加意向(企画・運営)

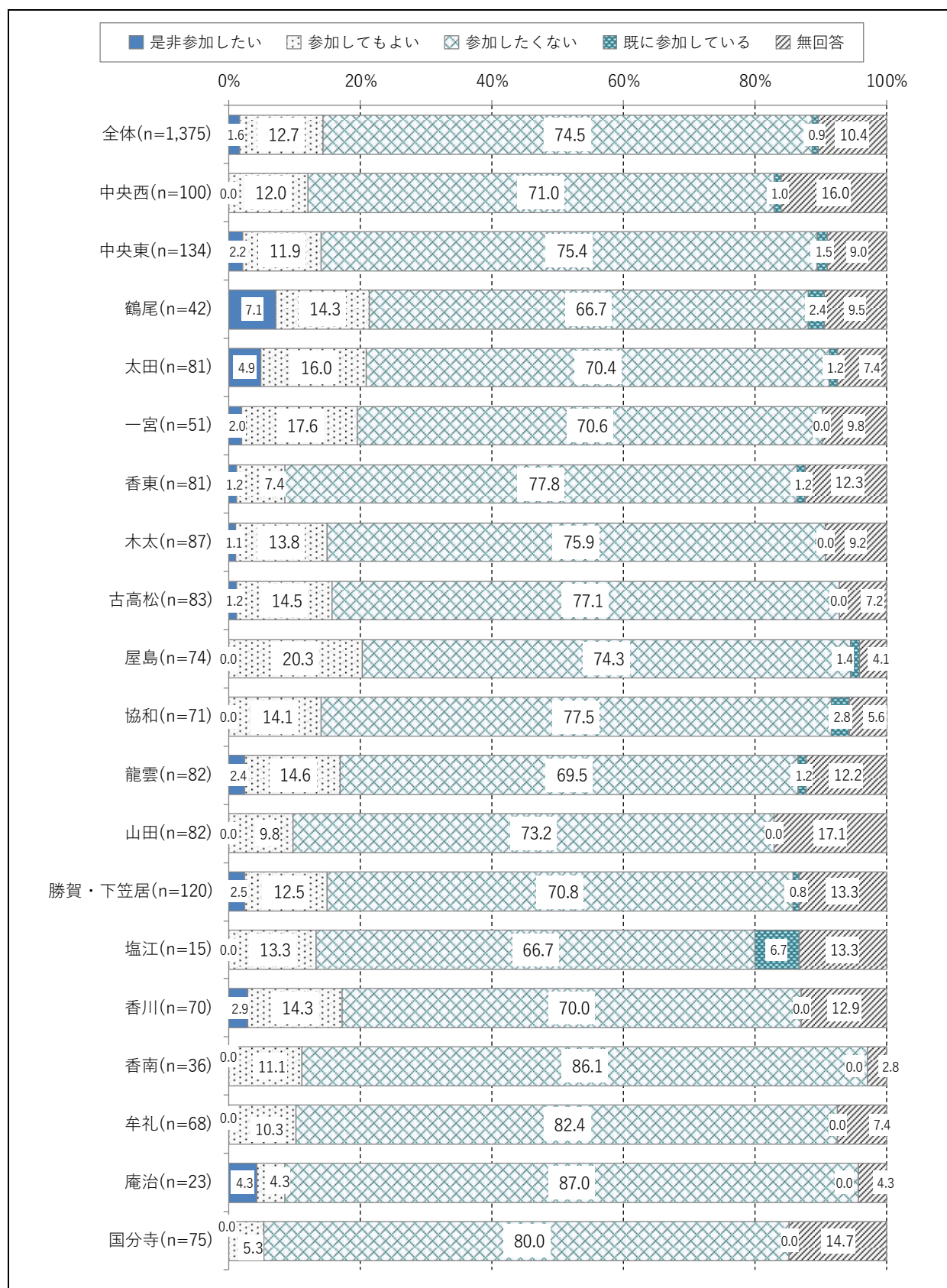
問 44 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

図表 192 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(全体)



●地域づくりへの参加意向(企画・運営)についてたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、74.4%となっています。次いで、「参加してもよい」(12.7%)、「是非参加したい」(1.6%)と続いています。

図表 193 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(日常生活圏域別)



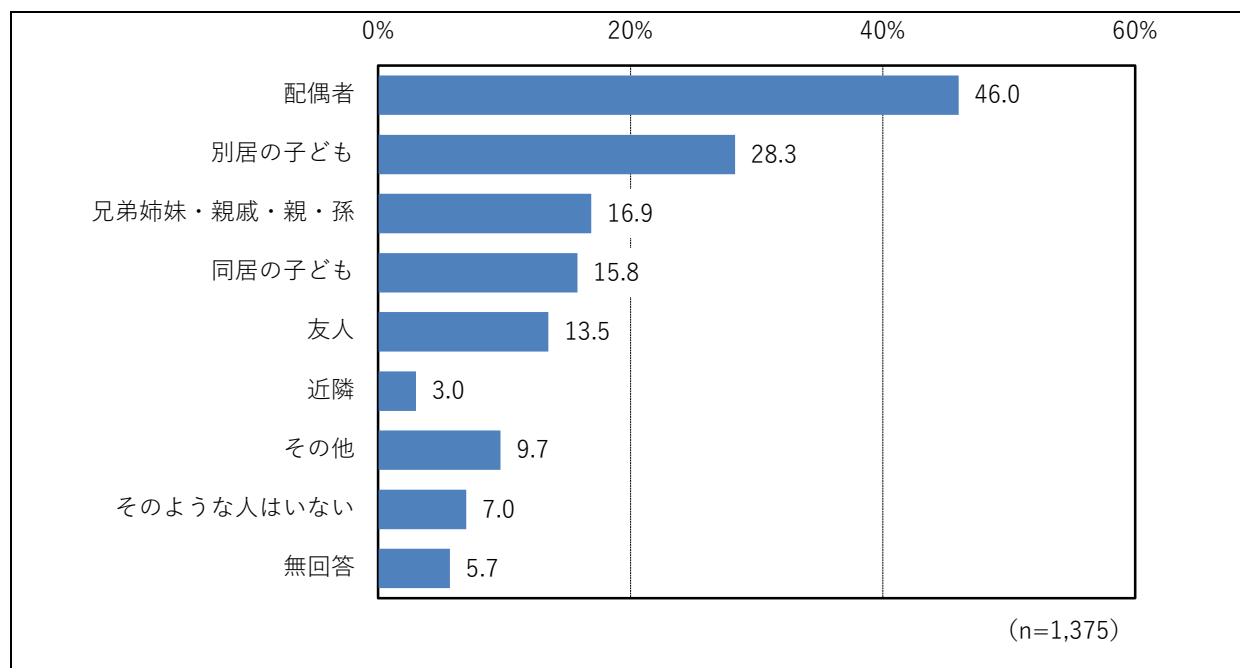
●地域づくりへの参加意向(企画・運営)について日常生活圏域別にみると、「参加したくない」と回答した人の割合が、全ての圏域で最も高くなっています。「鶴尾」では「是非参加したい」と回答した人の割合が7.1%、塩江圏域では「既に参加している」と回答した人の割合が6.7%となっており、それぞれその他の圏域に比べて高くなっています。

8.「たすけあい」について

(1)たすけあいの状況

問 45 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

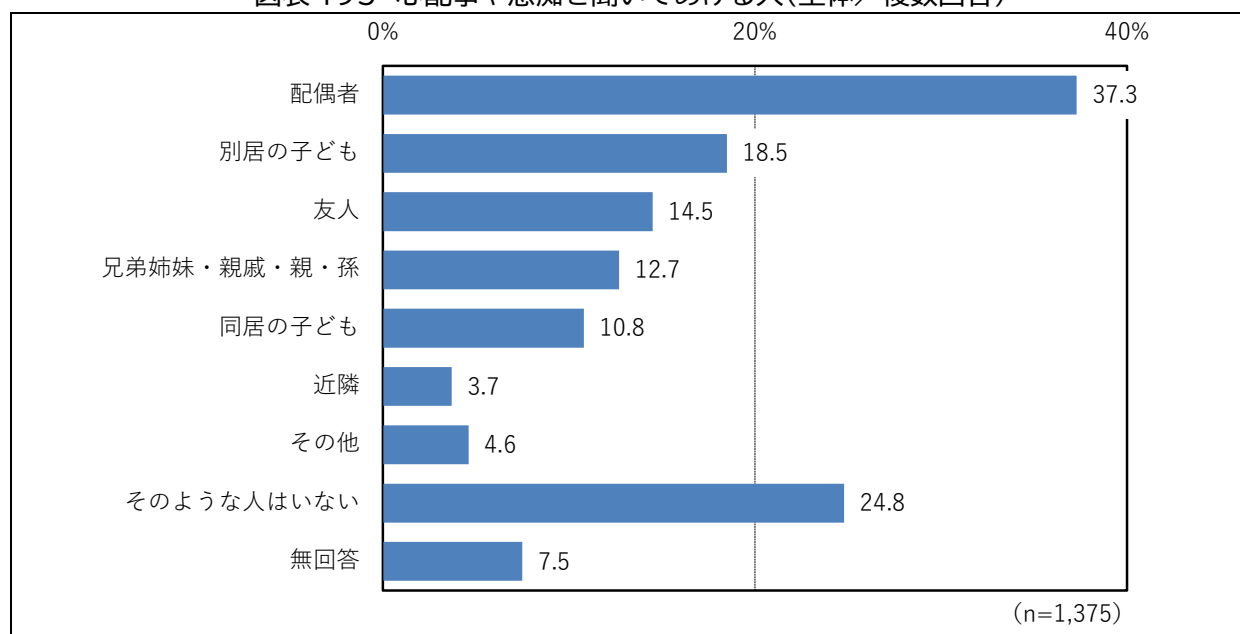
図表 194 心配事や愚痴を聞いてくれる人(全体／複数回答)



●心配事や愚痴を聞いてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、46.0%となっています。次いで、「別居の子ども」(28.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.9%)と続いています。

問 46 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

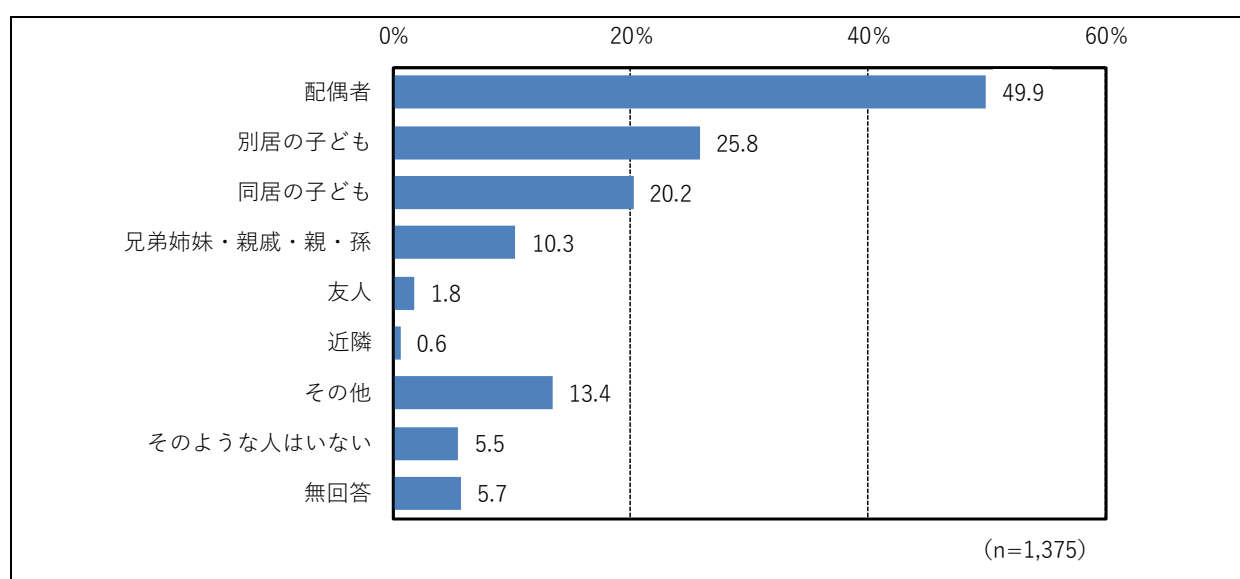
図表 195 心配事や愚痴を聞いてあげる人(全体／複数回答)



●心配事や愚痴を聞いてあげる人をたずねたところ、「そのような人はいない」(24.8%)、「無回答」(7.5%)を差し引いた 67.7%は、心配事や愚痴を聞いてあげる相手がいると回答しています。その相手は、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、37.3%となっています。次いで、「別居の子ども」(18.5%)、「友人」(14.5%)と続いています。

問 47 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

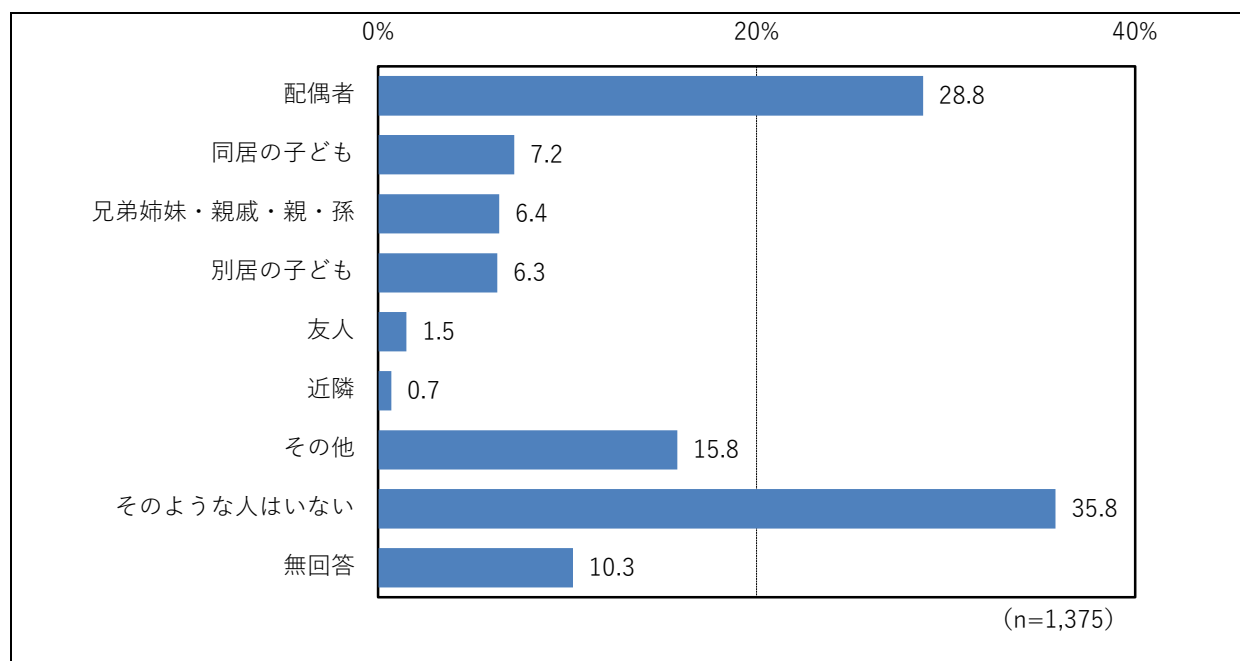
図表 196 看病や世話をしてくれる人(全体／複数回答)



●看病や世話をしてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、49.9%となっています。次いで、「別居の子ども」(25.8%)、「同居の子ども」(20.2%)と続いています。

問 48 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

図表 197 看病や世話をしてあげる人(全体／複数回答)



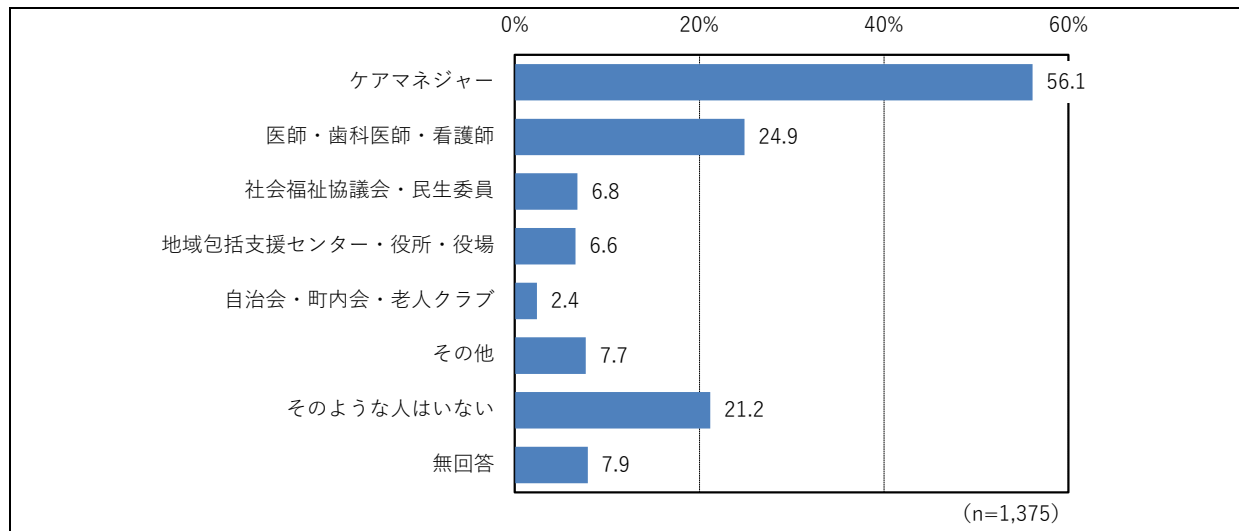
●看病や世話をしてあげる人をたずねたところ、「そのような人はいない」(35.8%)、「無回答」(10.3%)を差し引いた 53.9%は、看病や世話をしてあげる人がいると回答しています。看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」と回答した人の割合が最も高く、28.8%となっています。次いで、「同居の子ども」(7.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(6.4%)と続いています。

(2)地域の相談窓口の活用状況

問 49 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

【○はいくつでも】

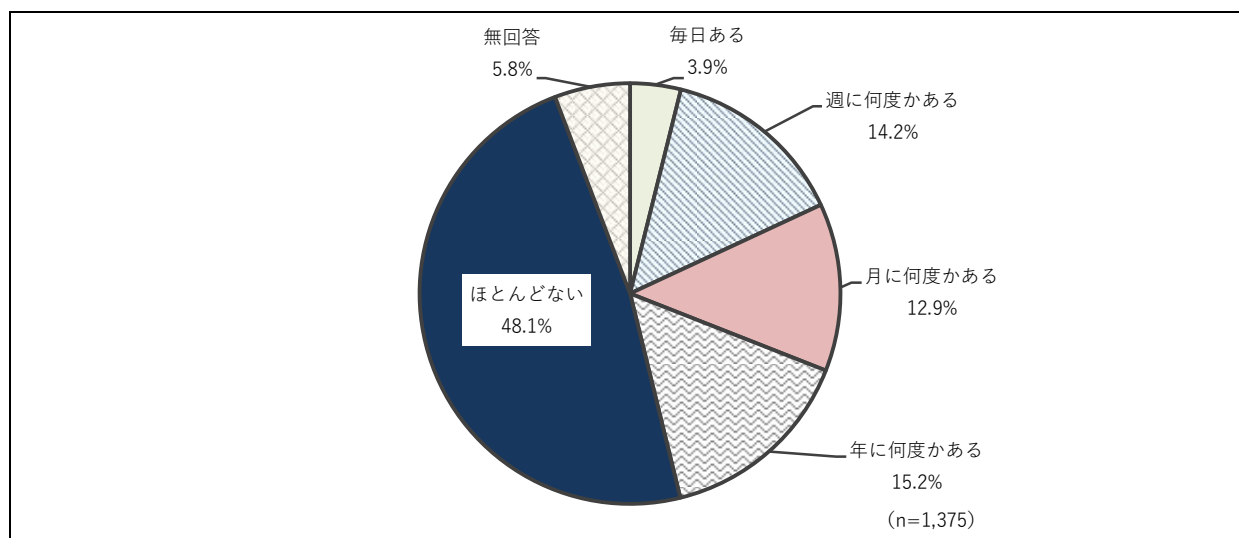
図表 198 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手(全体／複数回答)



●家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をたずねたところ、「そのような人はいない」(21.2%)、「無回答」(7.9%)を差し引いた 70.9%は、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手がいると回答しています。その相手は、「ケアマネジャー」と回答した人の割合が最も高く、56.1%となっています。次いで、「医師・歯科医師・看護師」(24.9%)、「社会福祉協議会・民生委員」(6.8%)と続いています。

問 50 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【○は1つ】

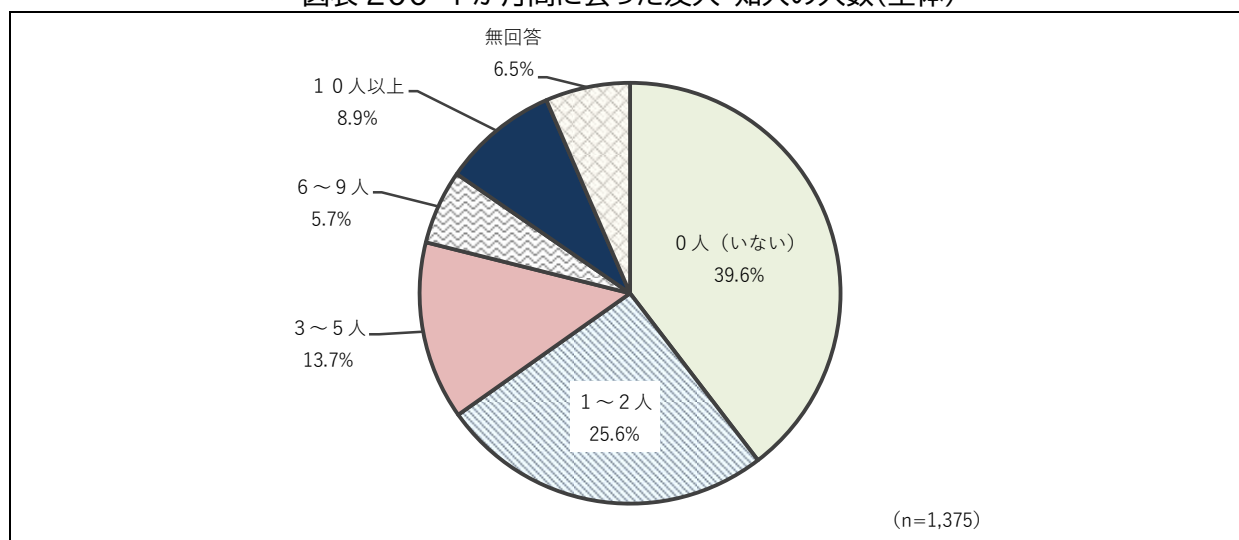
図表 199 友人・知人と会う頻度(全体)



●友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「ほとんどない」と回答した人の割合が最も高く、48.1%となっています。次いで、「年に何度かある」(15.2%)、「週に何度かある」(14.2%)と続いています。

問 51 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。【○は1つ】

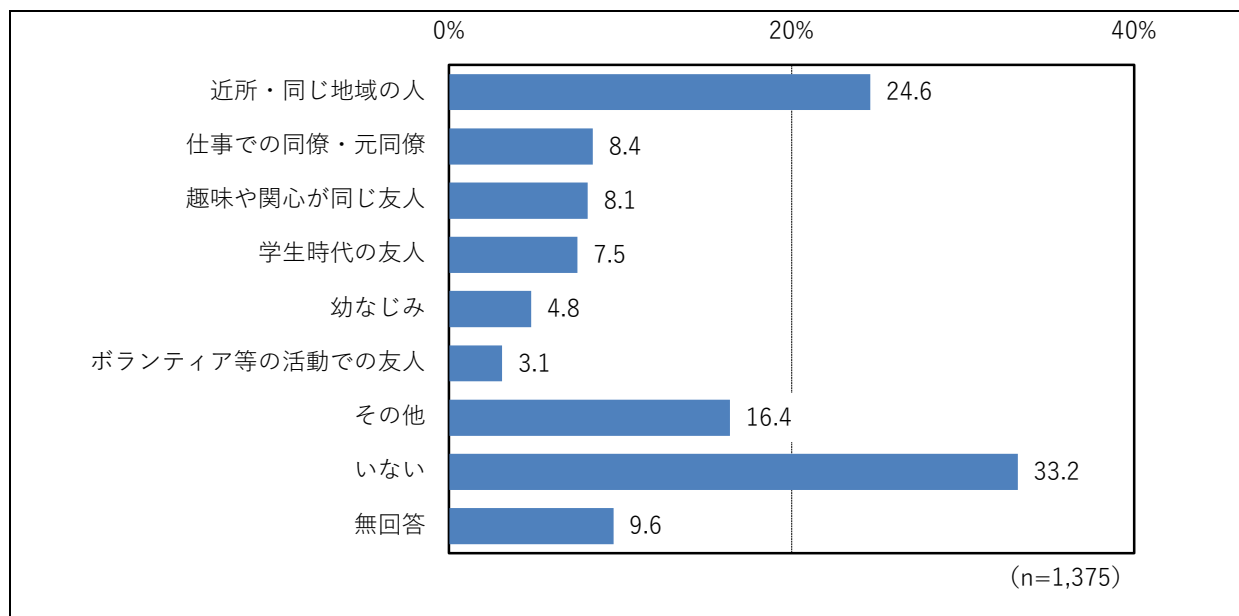
図表 200 1か月間に会った友人・知人の人数(全体)



●1か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「0人」と回答した人の割合が最も高く、39.6%となっています。次いで、「1～2人」(25.6%)、「3～5人」(13.7%)と続いています。

問 52 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。【○はいくつでも】

図表 201 よく会う友人・知人との間柄について(全体／複数回答)



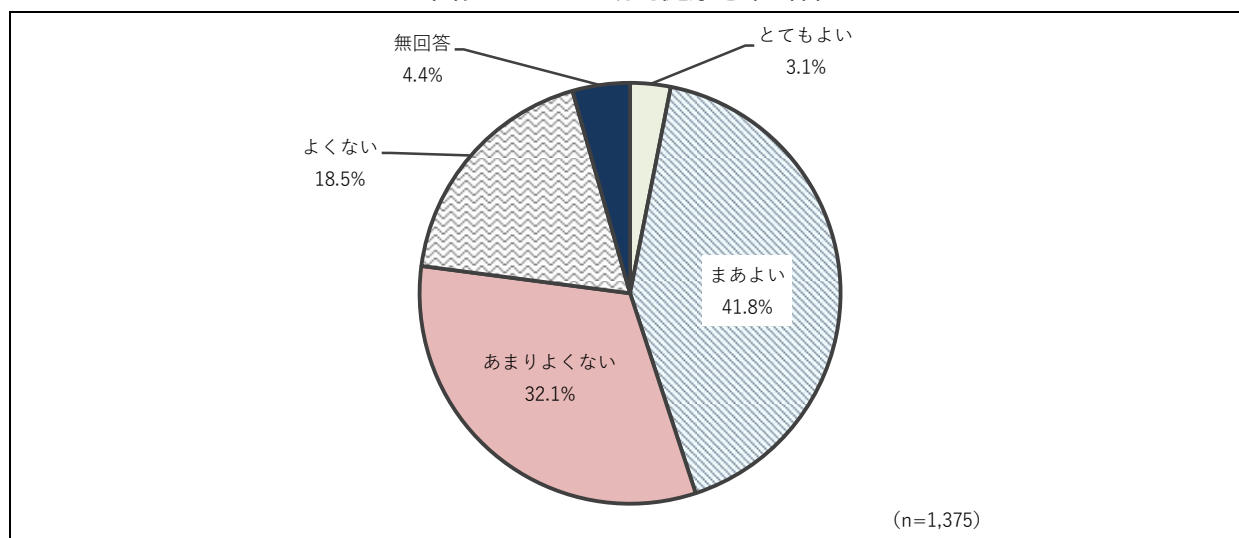
●よく会う友人・知人との間柄をたずねたところ、「いない」(33.2%)、「無回答」(9.6%)を差し引いた 57.2%は、よく会う友人・知人がいると回答しています。その相手は、「近所・同じ地域の人」と回答した人の割合が最も高く、24.6%となっています。次いで、「仕事での同僚・元同僚」(8.4%)、「趣味や関心が同じ友人」(8.1%)と続いています。

9. 健康について

(1) 主観的健康感

問 53 現在のあなたの健康状態はいかがですか。【○は1つ】

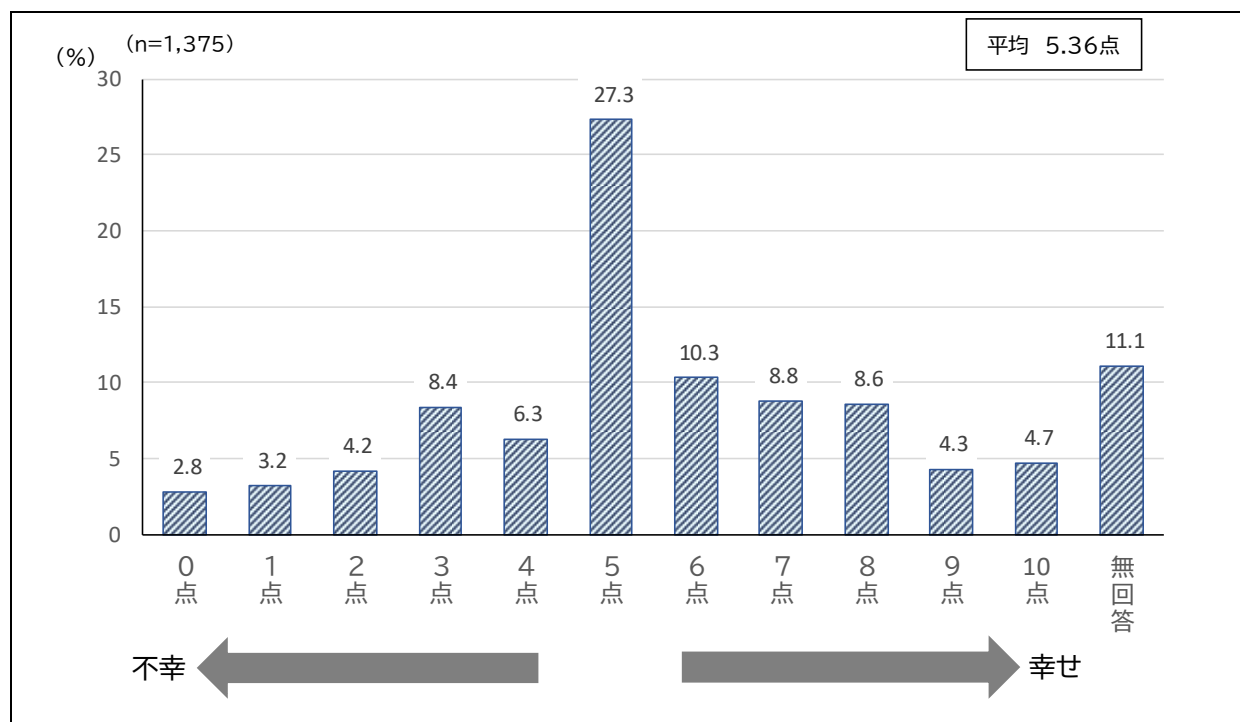
図表 202 主観的健康感(全体)



●主観的健康感をたずねたところ、「まあよい」と回答した人の割合が最も高く、41.8%となっています。次いで、「あまりよくない」(32.1%)、「よくない」(18.5%)と続いています。

問 54 あなたは、現在どの程度幸せですか。【○は1つ】

図表 203 主観的幸福感(全体、平均点)



●主観的幸福感について点数で評価したところ、「5点」が27.3%と最も高くなっています。次いで、「6点」(10.3%)、「7点」(8.8%)と続いています。平均は5.36点となっています。

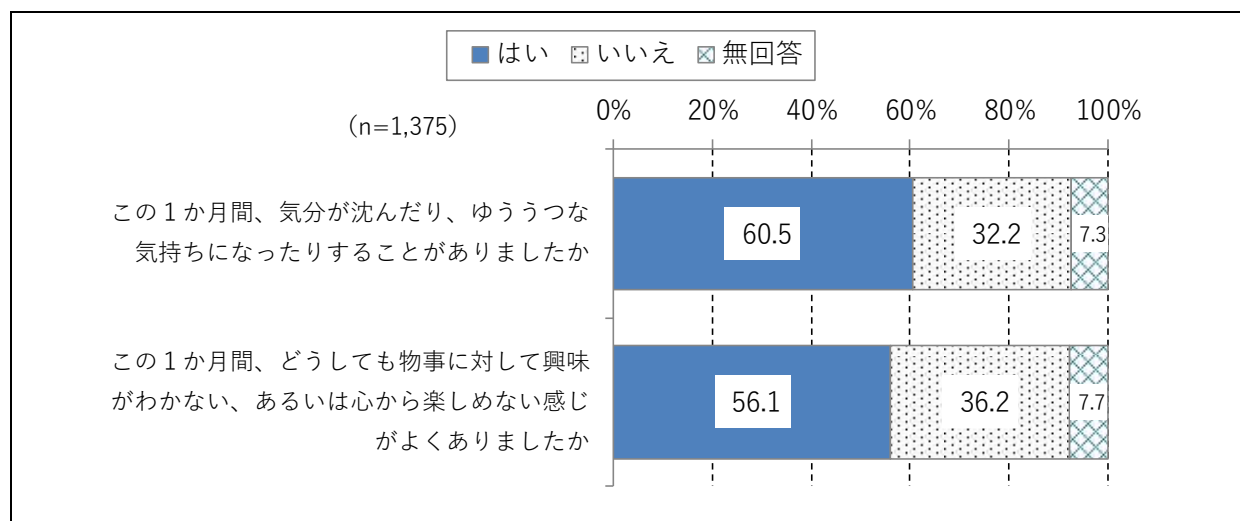
(3)うつ傾向について

問 55 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

【○は1つ】

問 56 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。【○は1つ】

図表 204 うつ傾向について(全体)

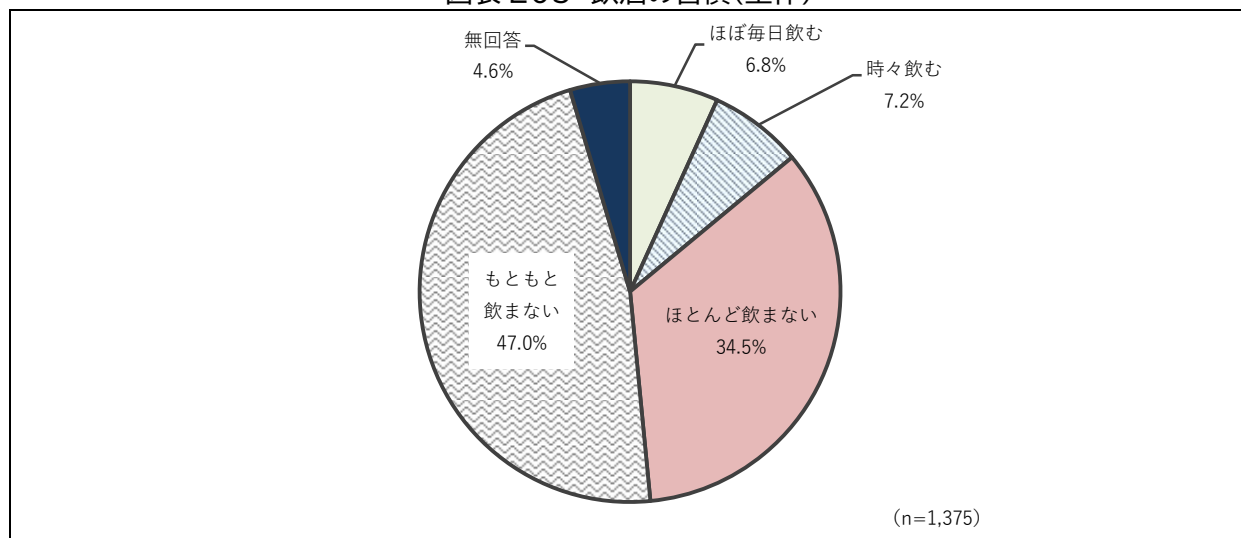


●この1か月のうつ傾向についてたずねたところ、「はい」と回答した人の割合が「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」は60.5%、「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」は56.1%となっており、約6割をしめています。

(4) 飲酒、喫煙の習慣

問 57 お酒は飲みますか。【○は1つ】

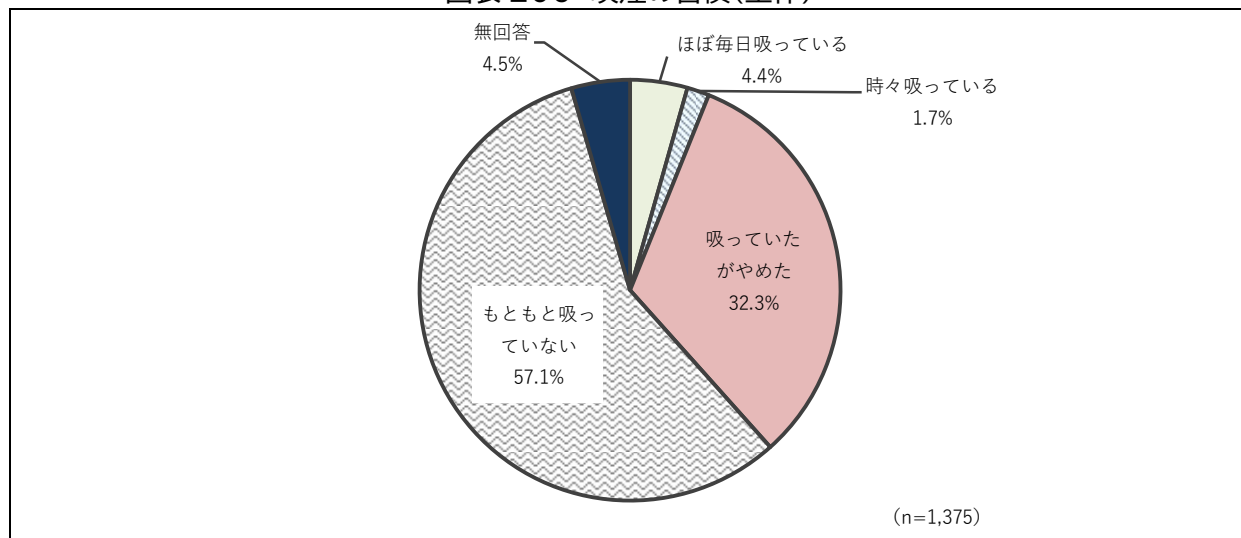
図表 205 飲酒の習慣(全体)



●飲酒の習慣をたずねたところ、「もともと飲まない」と回答した人の割合が最も高く、47.0%となっています。次いで、「ほとんど飲まない」(34.5%)、「時々飲む」(7.2%)と続いています。

問 58 タバコは吸っていますか。【○は1つ】

図表 206 喫煙の習慣(全体)

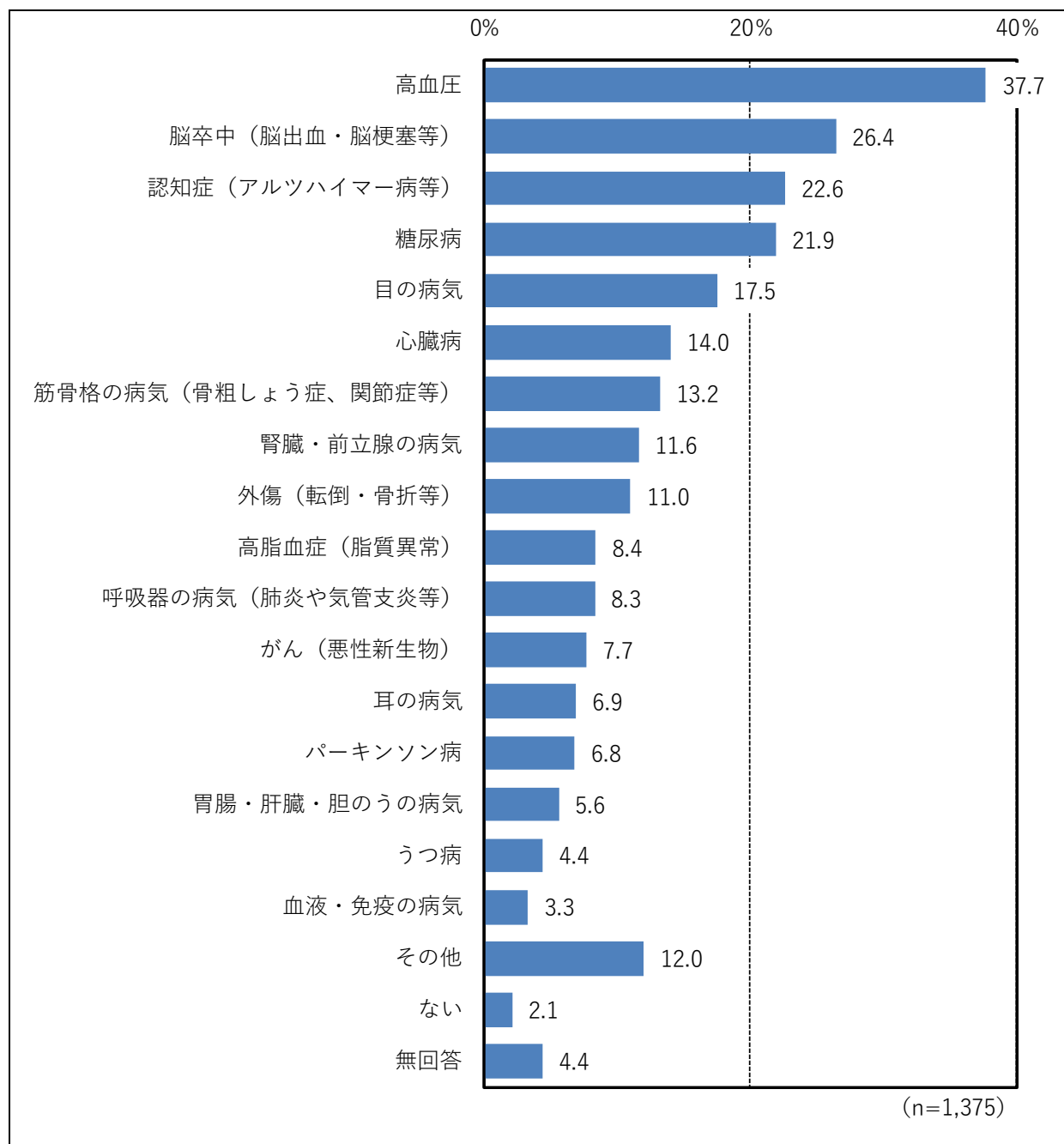


●喫煙の習慣をたずねたところ、「もともと吸っていない」と回答した人の割合が最も高く、57.1%となっています。次いで、「吸っていたがやめた」(32.3%)、「ほぼ毎日吸っている」(4.4%)と続いています。

(6)現在治療中、後遺症のある病気について

問 59 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【○はいくつでも】

図表 207 現在治療中、後遺症のある病気(全体／複数回答)



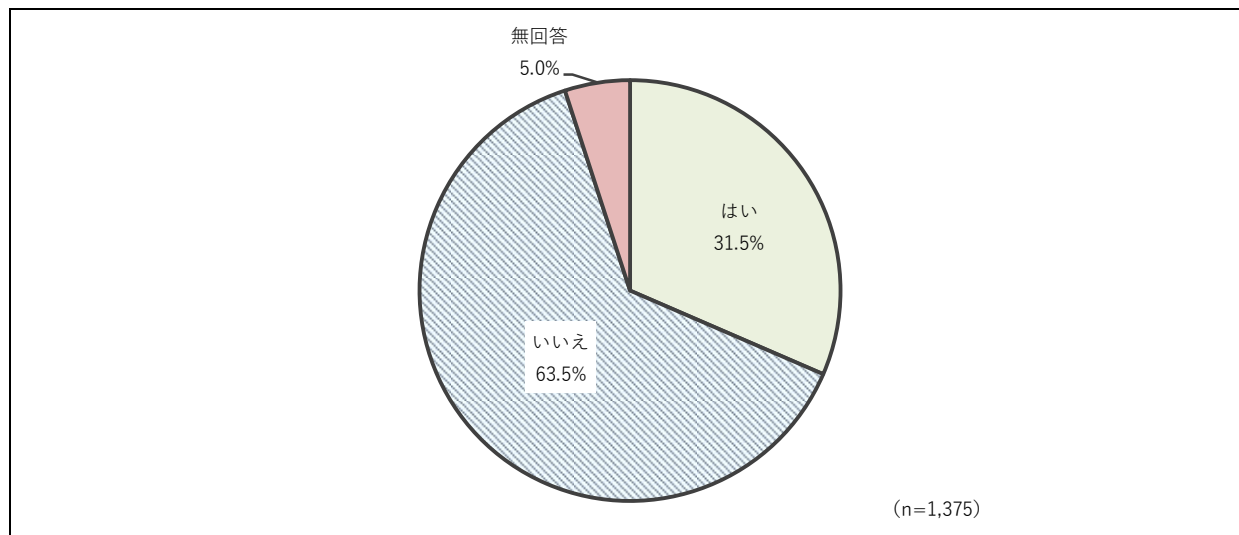
- 現在治療中、または後遺症のある病気をたずねたところ、「ない」と回答した人の割合が 2.1%となっており、これと無回答(4.4%)を除いた 93.5%の人が何らかの現在治療中、または後遺症のある病気があると回答しています。
- 現在治療中、または後遺症のある病気として「高血圧」と回答した人の割合が最も高く、37.7%となっています。次いで、「脳卒中」(26.4%)、「認知症」(22.6%)と続いています。

10. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

(1) 家族に認知症の症状のある人について

問 60 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。【○は1つ】

図表 208 本人又は家族に認知症の症状がある人の有無(全体)

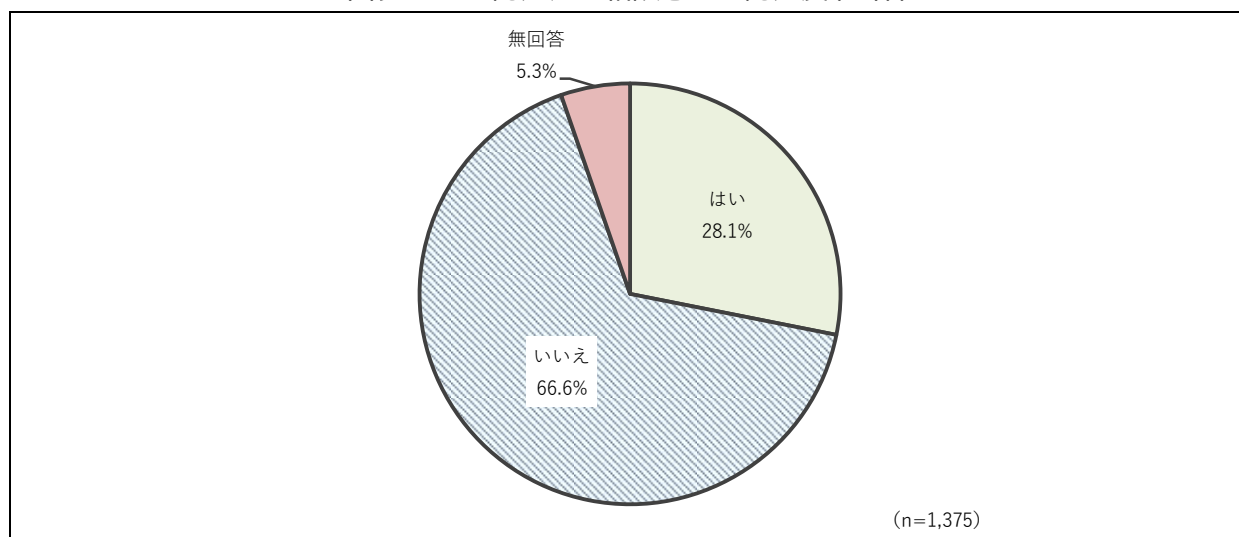


●本人又は家族に認知症の症状がある人の有無をたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 31.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 63.5%となっています。

(2) 認知症の相談窓口

問 61 認知症に関する相談窓口を知っていますか。【○は1つ】

図表 209 認知症の相談窓口の認知度(全体)

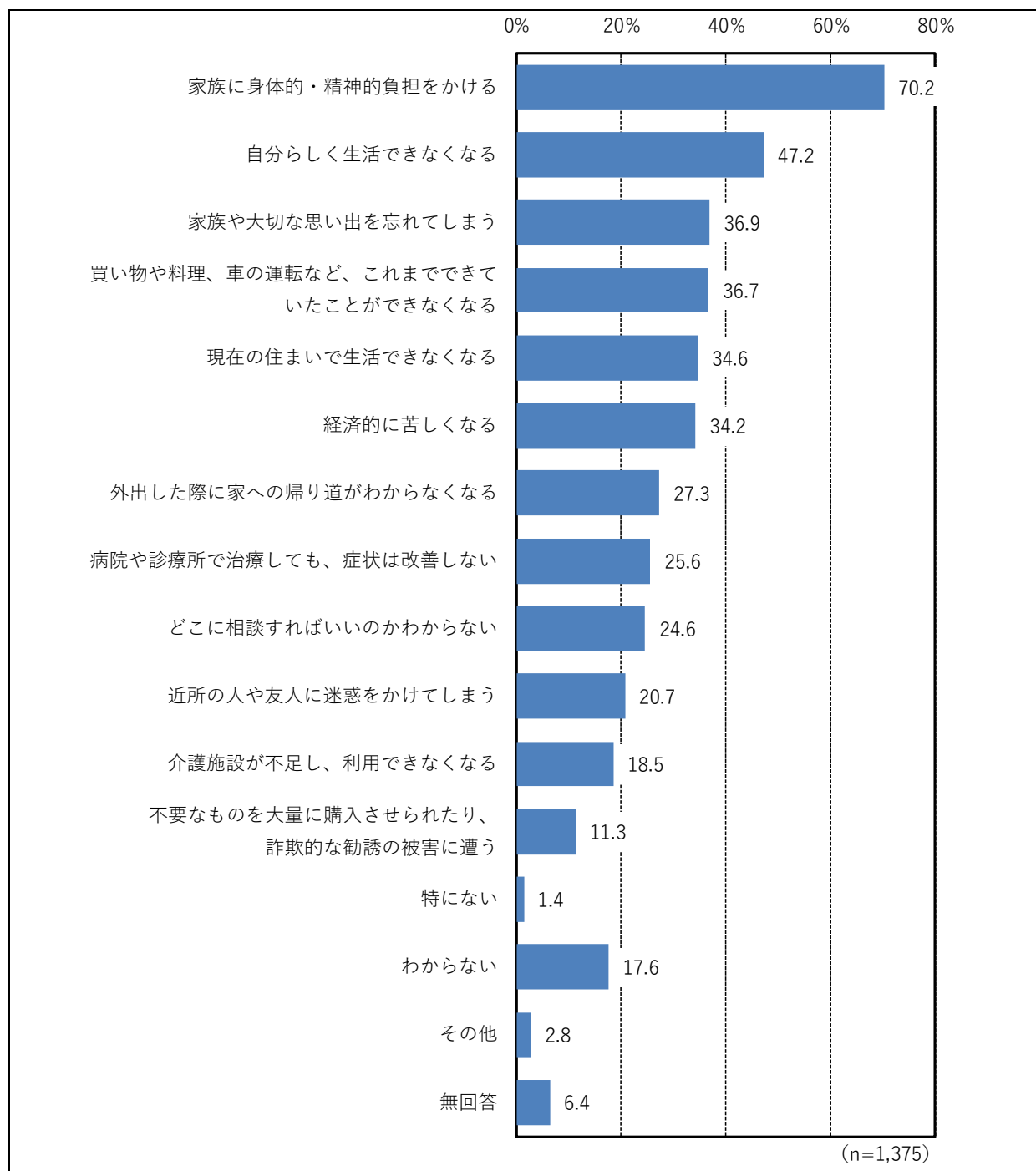


●認知症の相談窓口の認知度をたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 28.1%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 66.6%となっています。

(3)認知症に対する不安

問 62 もし、あなたが認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

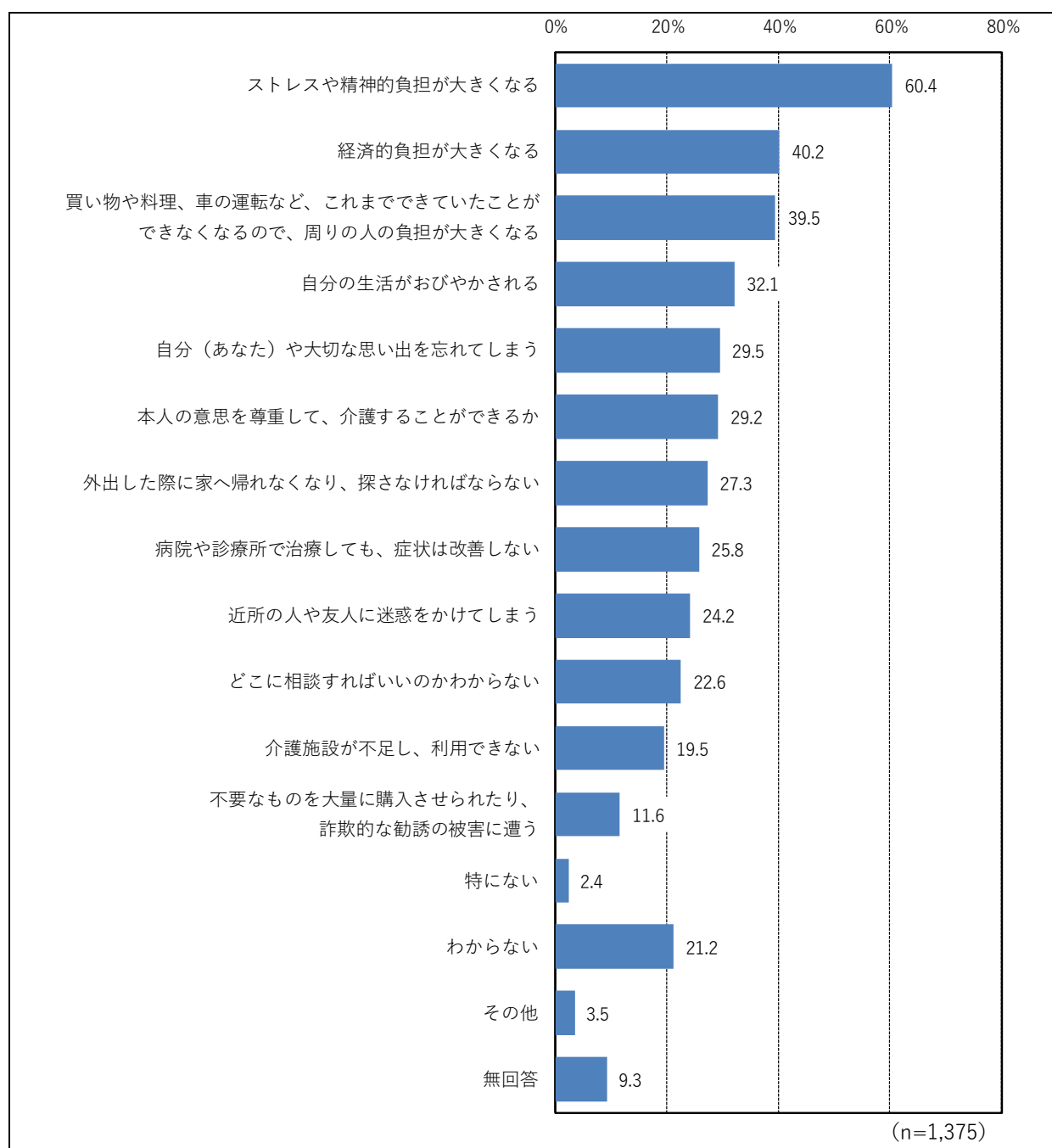
図表 210 自分が認知症になった時の不安(全体／複数回答)



- 自分が認知症になった時の不安をたずねたところ、「特にない」と回答した人の割合が 1.4%となっており、これと「わからない」(17.6%)と無回答(6.4%)を除いた 74.6%の人が認知症になったとしたら何らかの不安を感じるという回答をしています。
- 不安を感じるものとして「家族に身体的・精神的負担をかける」と回答した人の割合が最も高く、70.2%となっています。次いで、「自分らしく生活できなくなる」(47.2%)、「家族や大切な思い出を忘れてしまう」(36.9%)と続いています。

問 63 もし、家族が認知症になったとしたら、また、現在認知症の家族がいる場合どのようなことに困りますか。【〇はいくつでも】

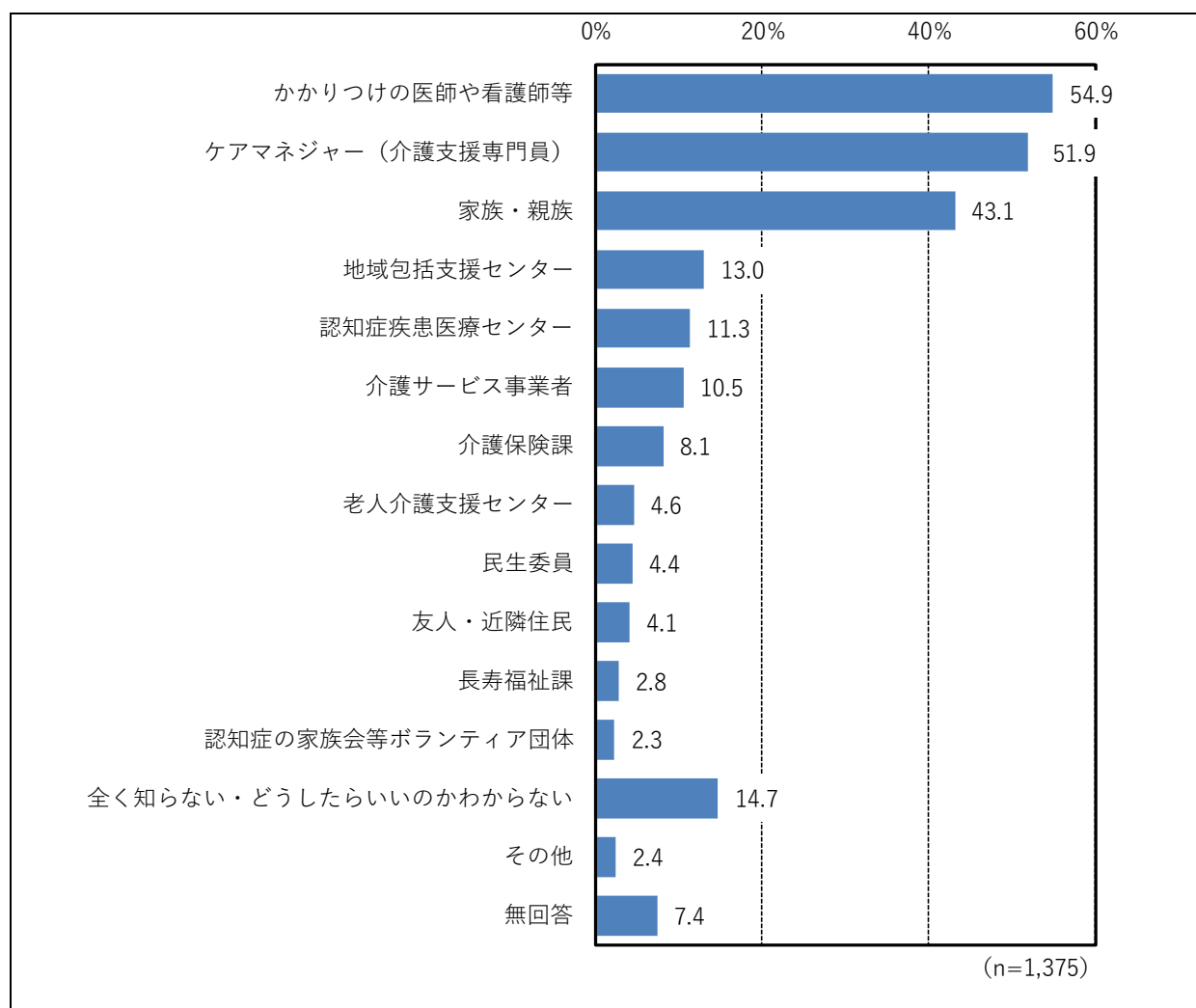
図表 211 家族が認知症になった時の不安(全体／複数回答)



- 家族が認知症になった時の不安をたずねたところ、「特にない」と回答した人の割合が 2.4%となっており、これと「わからない」(21.2%)と「無回答」(9.3%)を除いた 67.1%の人が家族が認知症になったとしたら、また、現在認知症の家族がいる場合困りごとがあると回答しています。
- 不安を感じることにして、「ストレスや精神的負担が大きくなる」と回答した人の割合が最も高く、60.4%となっています。次いで、「経済的負担が大きくなる」(40.2%)、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなるので、周りの人の負担が大きくなる」(39.5%)と続いています。

問 64 もし、あなたや家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

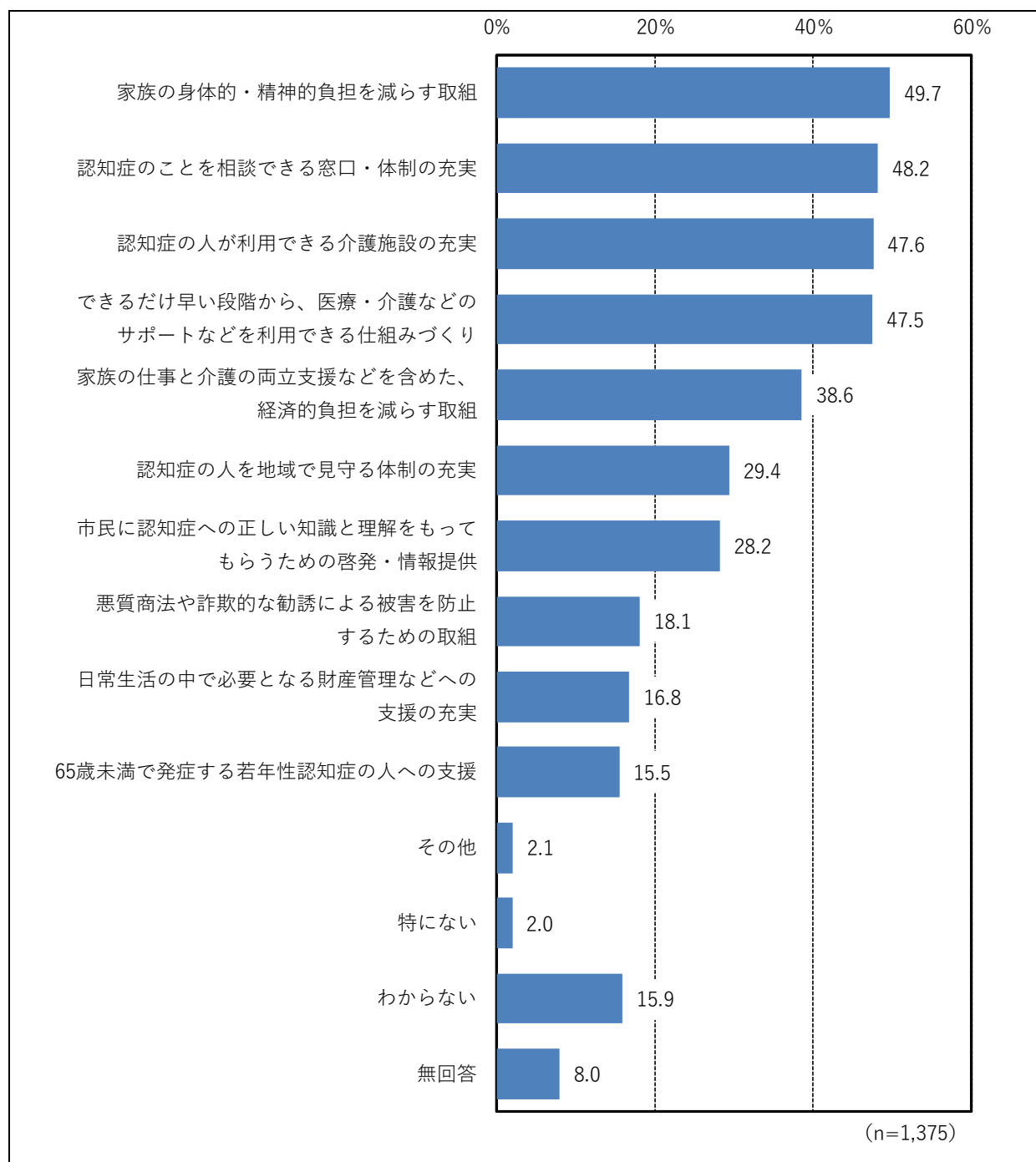
図表 212 認知症の疑いが生じた際の相談先(全体／複数回答)



●認知症の疑いが生じた際の相談先についてたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」と回答した人の割合が最も高く、54.9%となっています。次いで、「ケアマネジャー」(51.9%)、「家族・親族」(43.1%)と続いています。

問 65 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

図表 213 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと(全体／複数回答)

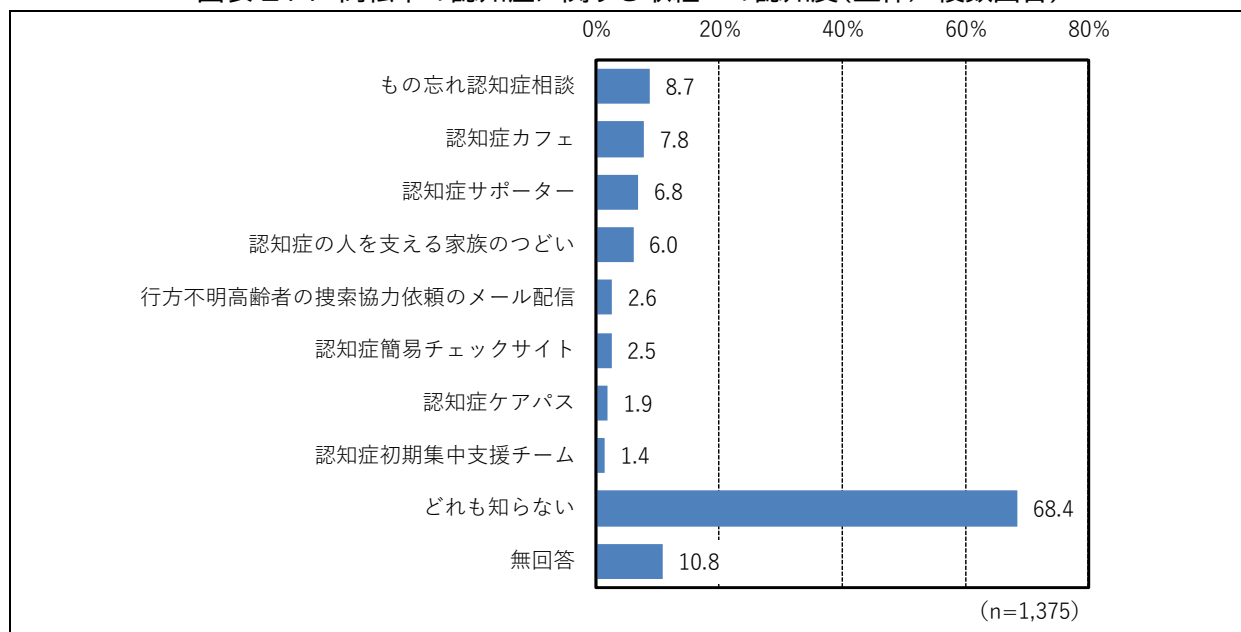


●認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきことについてたずねたところ、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」と回答した人の割合が最も高く、49.7%となっています。次いで、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」(48.2%)、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」(47.6%)と続いています。

(4) 認知症に対する取組について

問 66 高松市の認知症についての取組について知っていることはありますか。【○はいくつでも】

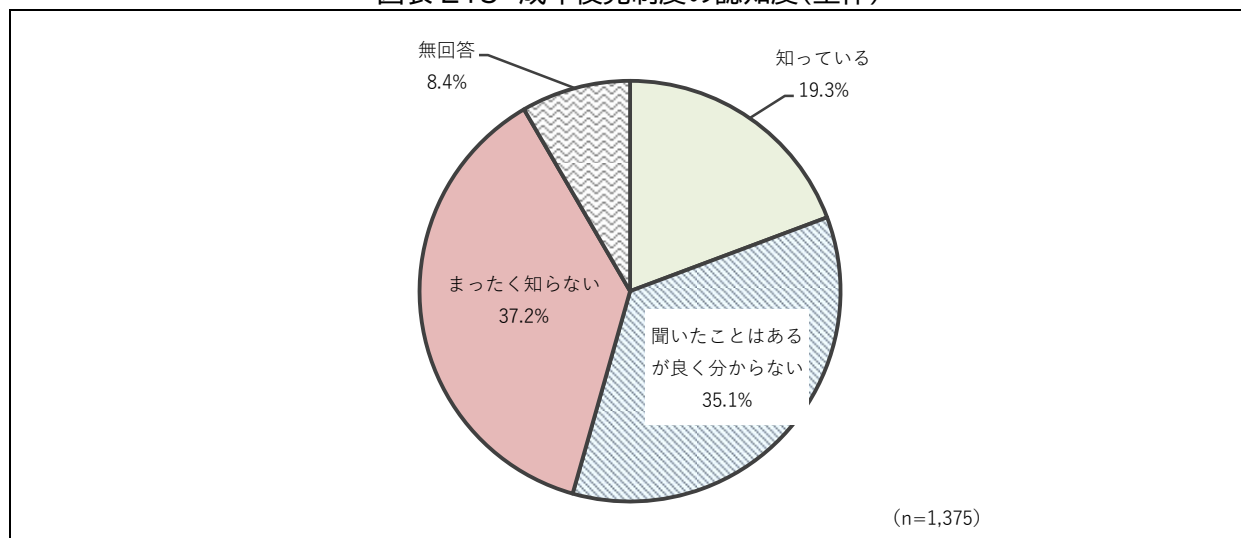
図表 214 高松市の認知症に関する取組への認知度(全体／複数回答)



●高松市の認知症に関する取組への認知度をたずねたところ、「どれも知らない」と回答した人の割合は、68.4%となっています。一方、「どれも知らない」(68.4%)、「無回答」(10.8%)を差し引いた 20.8%は、高松市の認知症に関する取組を知っていると回答しています。知っている取組は、「もの忘れ認知症相談」と回答した人の割合が最も高く、8.7%となっています。次いで、「認知症カフェ」(7.8%)、「認知症サポーター」(6.8%)と続いています。

問 67 認知症等で判断能力が十分でない方に、本人に代わって法的に支援できる成年後見制度を知っていますか。【○は1つ】

図表 215 成年後見制度の認知度(全体)



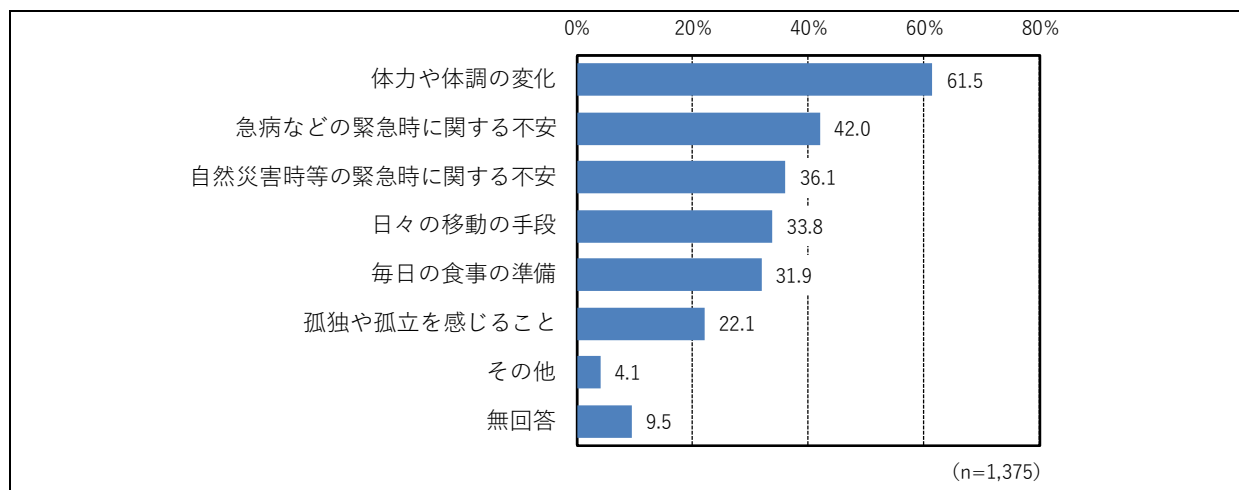
●成年後見制度の認知度をたずねたところ、「まったく知らない」と回答した人の割合が最も高く、37.2%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(35.1%)、「知っている」(19.3%)と続いています。

11. 高齢者に必要な生活支援について

(1) 高齢者の生活について

問 68 生活の中で不安や困りごとは何ですか。【○はいくつでも】

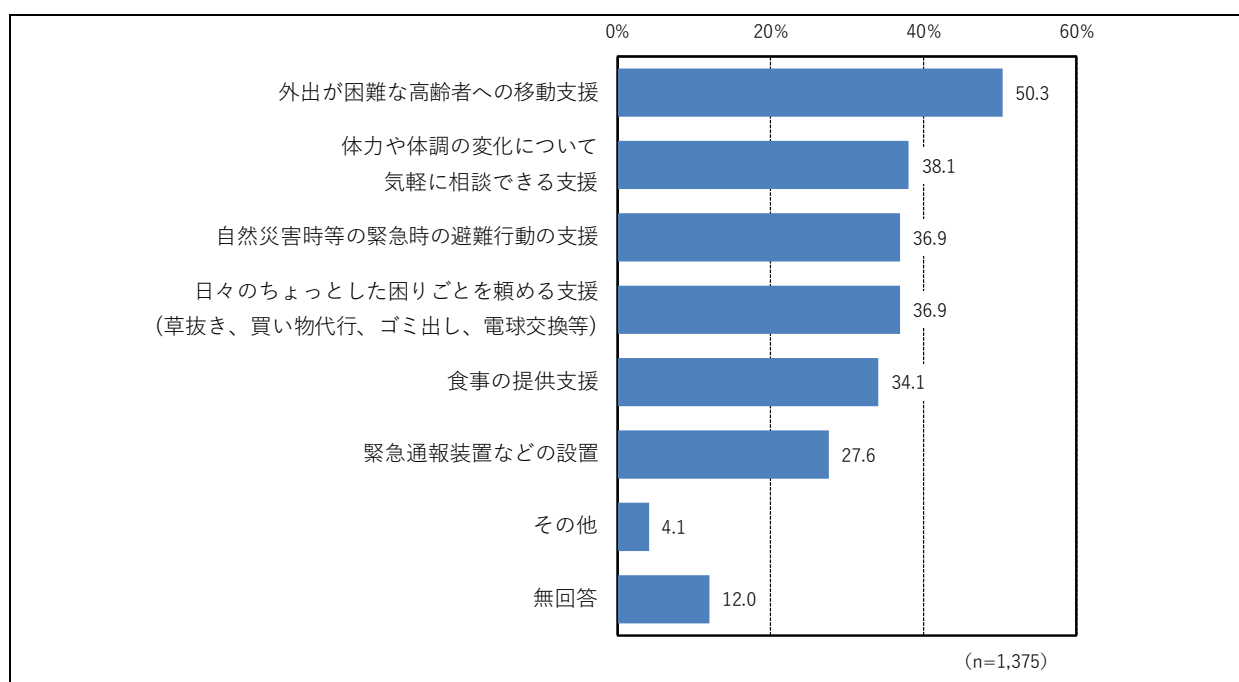
図表 216 生活の中の不安や困りごと(全体／複数回答)



●生活の中の不安や困りごとをたずねたところ、「体力や体調の変化」と回答した人の割合が最も高く、61.5%となっています。次いで、「急病などの緊急時に関する不安」(42.0%)、「自然災害時等の緊急時に関する不安」(36.1%)と続いています。

問 69 どんな生活支援があればいいと思いますか。【○はいくつでも】

図表 217 必要な生活支援(全体／複数回答)



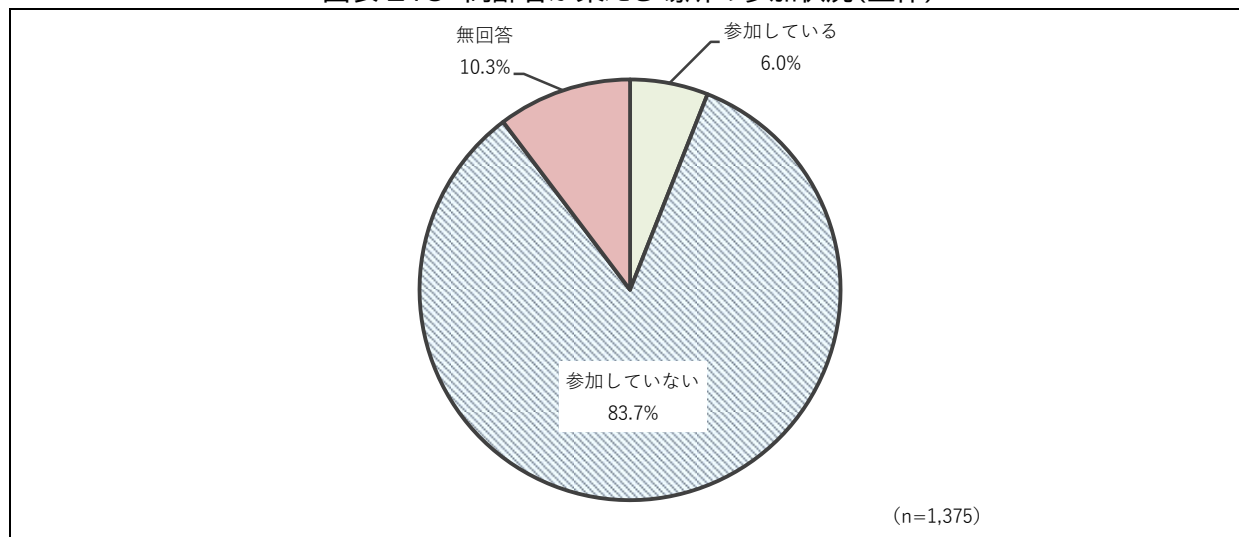
●必要な生活支援をたずねたところ、「外出が困難な高齢者への移動支援」と回答した人の割合が最も高く、50.3%となっています。次いで、「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」(38.1%)、「自然災害時等の緊急時の避難行動の支援」(36.9%)と続いています。

12. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

(1) 高齢者の居場所づくり

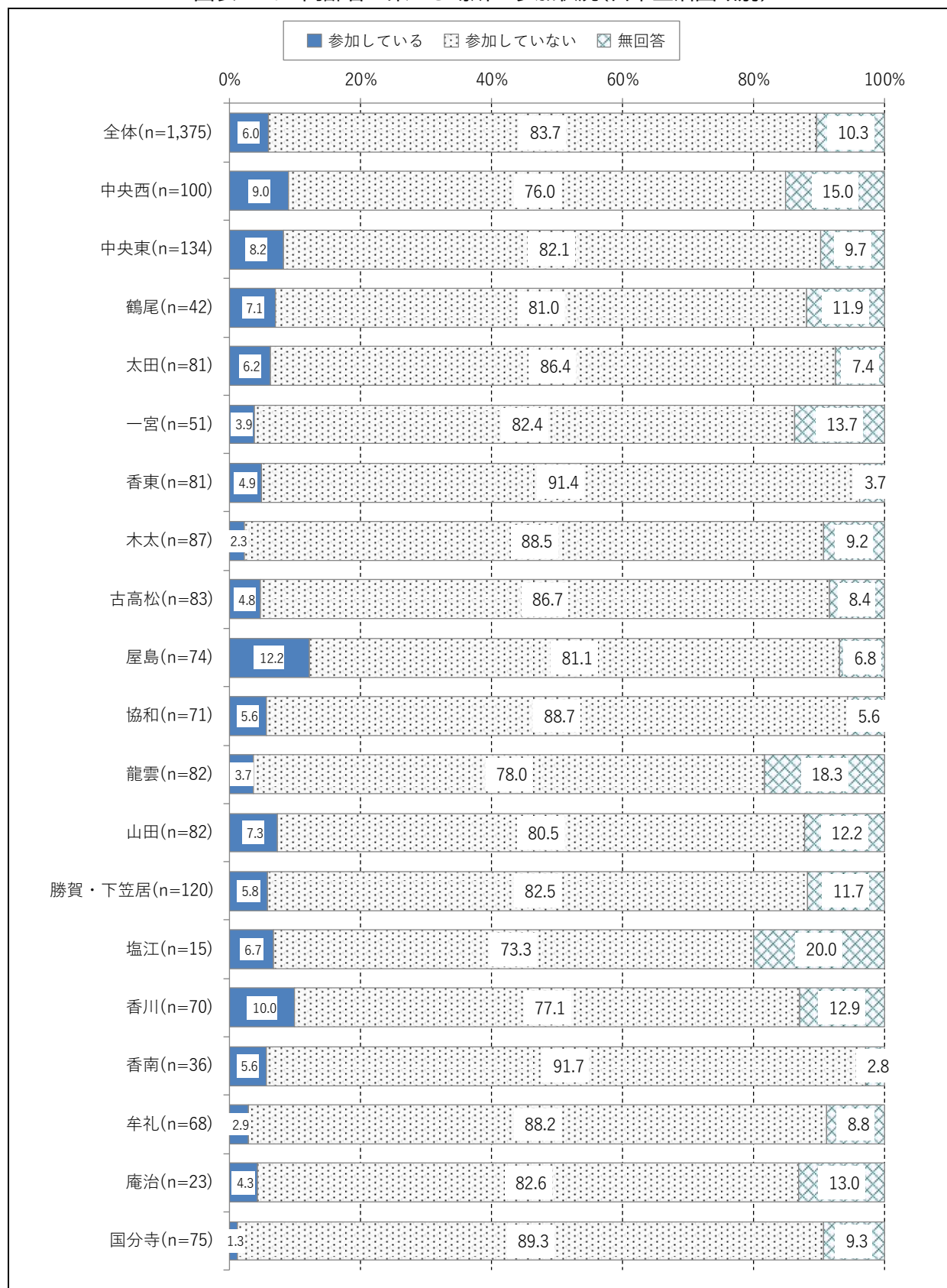
問 70 高齢者が気軽に集える場所に参加していますか。【○は1つ】

図表 218 高齢者が集える場所の参加状況(全体)



● 高齢者が集える場所の参加状況をたずねたところ、「参加している」と回答した人の割合は6.0%となっています。一方、「参加していない」と回答した人の割合は83.7%となっています。

図表 219 高齢者が集える場所の参加状況(日常生活圏域別)

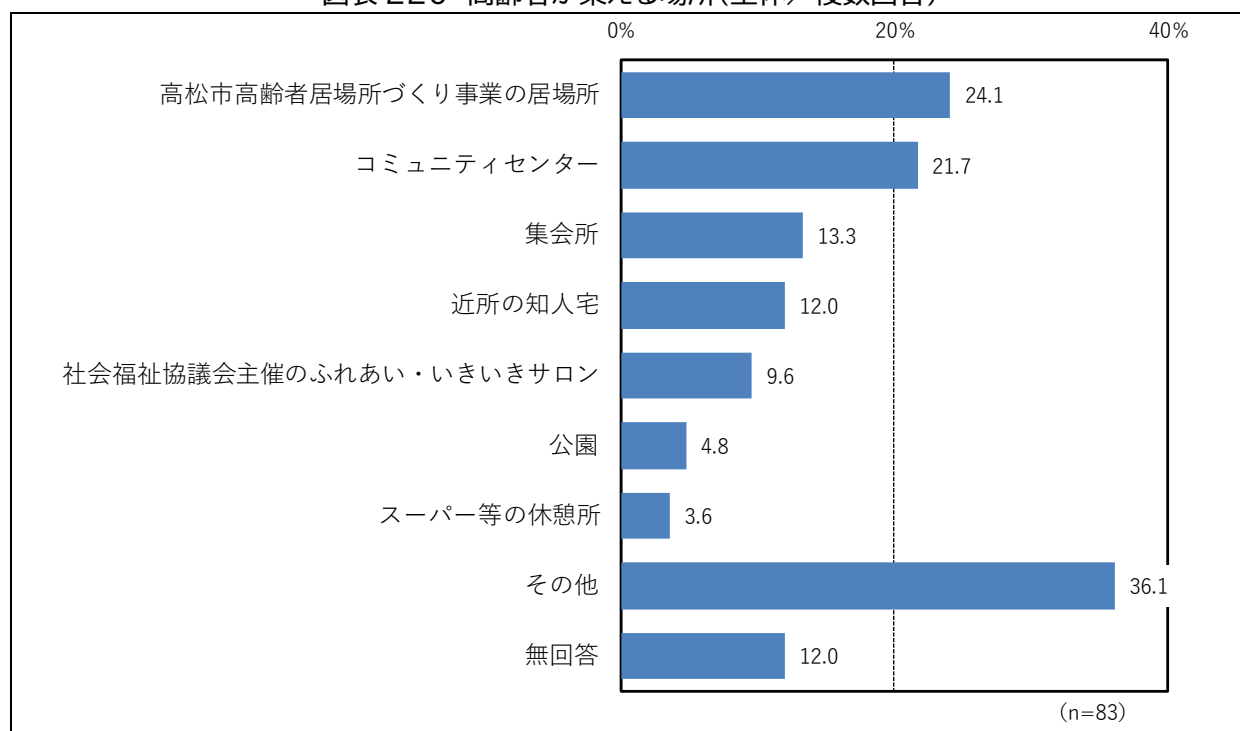


●高齢者が集える場所の参加状況を日常生活圏域別にみると、全ての圏域で「参加していない」と回答した人の割合が、「参加している」と回答した人の割合に比べて高くなっています。

●「参加している」と回答した人の割合が「屋島」で 12.2%、「香川」で 10.0%となっており、その他の圏域より比較的高い割合となっています。

問 70 で「1参加している」と回答した方
問 70-1 気軽に集える場所は、次のどれですか。【○はいくつでも】

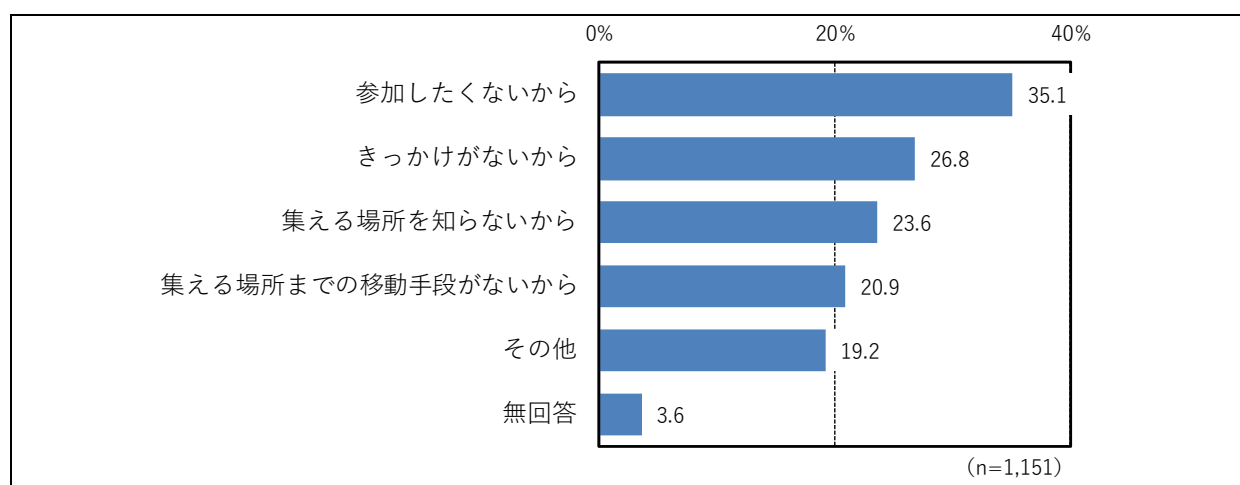
図表 220 高齢者が集える場所(全体／複数回答)



●高齢者が集える場所をたずねたところ、「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」と回答した人の割合が最も高く、24.1%となっています。次いで、「コミュニティセンター」(21.7%)、「集会所」(13.3%)と続いています。

問 70 で「2参加していない」と回答した方
問 70-2 参加しない理由は何ですか。【○はいくつでも】

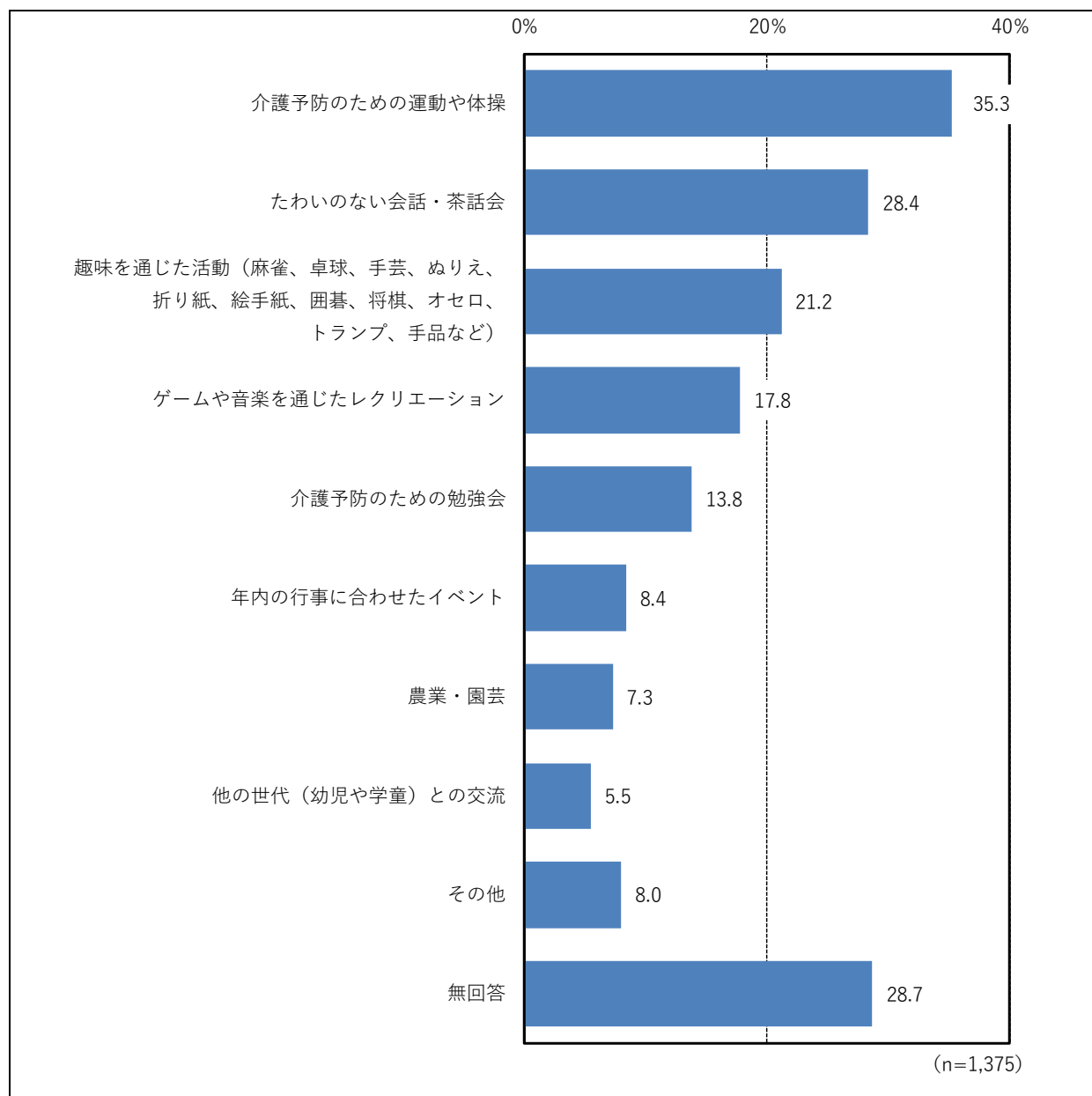
図表 221 集える場所に参加しない理由(全体／複数回答)



●集える場所に参加しない理由をたずねたところ、「参加したくないから」と回答した人の割合が最も高く、35.1%となっています。次いで、「きっかけがないから」(26.8%)、「集える場所を知らないから」(23.6%)と続いています。

問 71 集える場所ではどのような活動がしたいですか。【○はいくつでも】

図表 222 集える場所で行いたい活動内容(全体／複数回答)

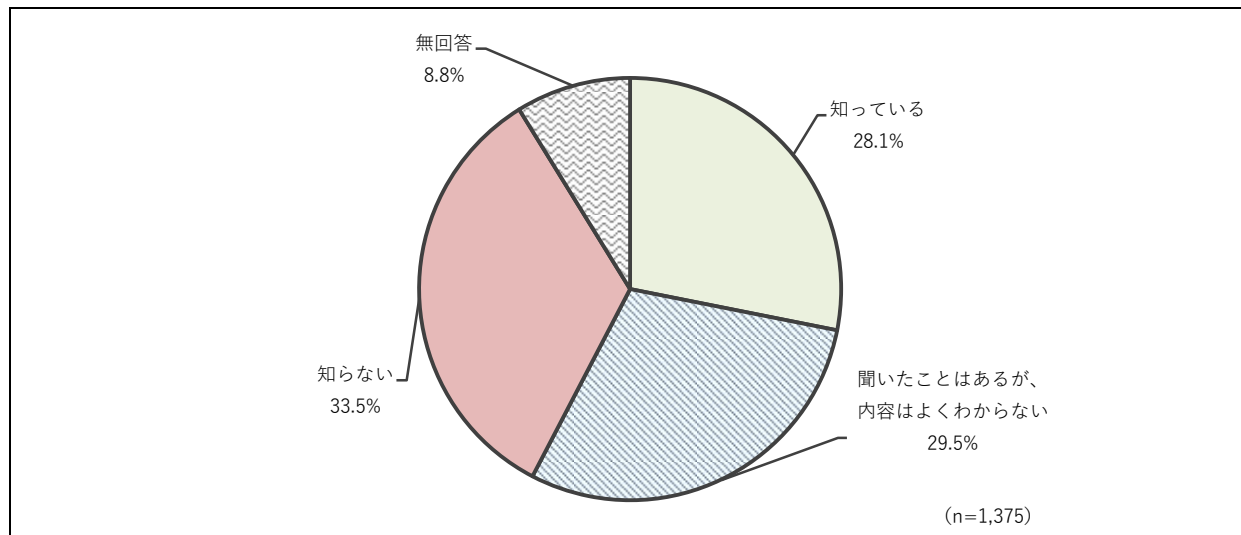


●集える場所で行いたい活動内容をたずねたところ、「介護予防のための運動や体操」と回答した人の割合が最も高く、35.3%となっています。次いで、「たわいのない会話・茶話会」(28.4%)、「趣味を通じた活動」(21.2%)と続いています。

(2)高松市地域包括支援センターについて

問 72 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は1つ】

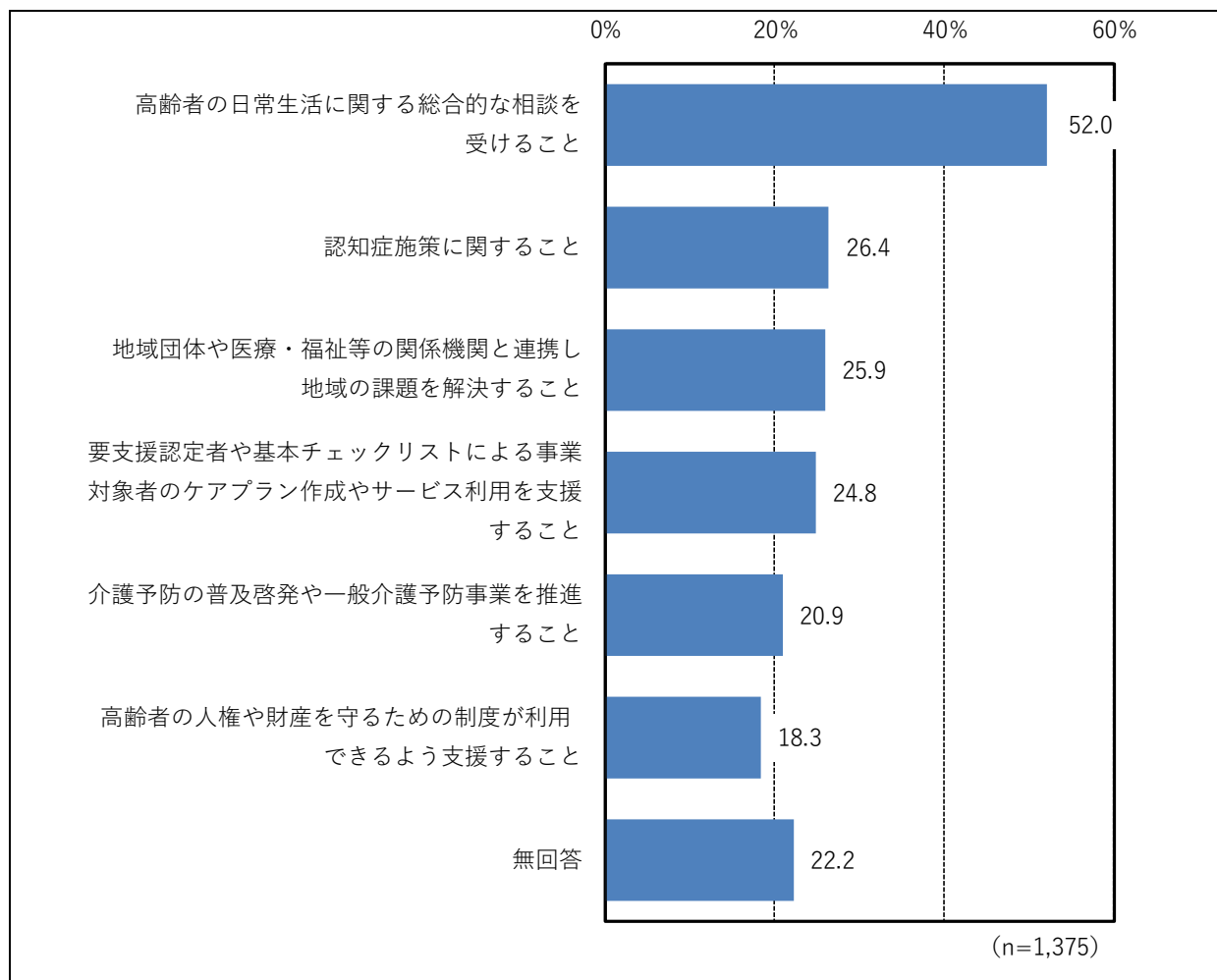
図表 223 高松市地域包括支援センターの認知度(全体)



●高松市地域包括支援センターの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、33.5%となっています。次いで、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(29.5%)、「知っている」(28.1%)と続いています。

問 73 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。
【〇はいくつでも】

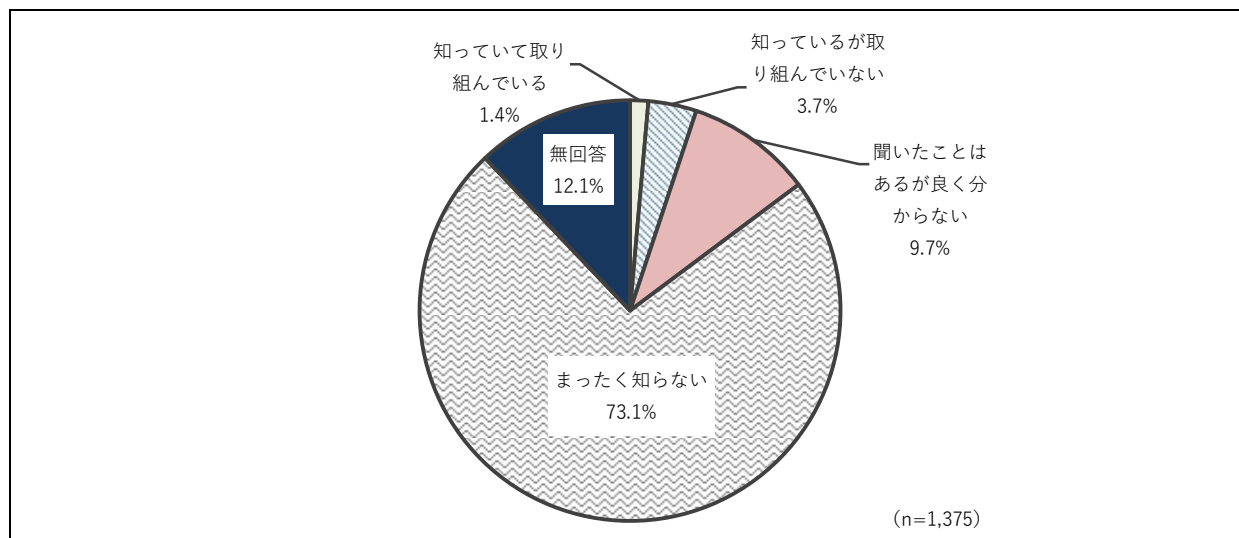
図表 224 地域包括支援センターが充実すべき業務(全体／複数回答)



●地域包括支援センターが充実すべき業務をたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」と回答した人の割合が最も高く、52.0%となっています。次いで、「認知症施策に関すること」(26.4%)、「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し地域の課題を解決すること」(25.9%)と続いています。

問 74 高松市の「のびのび元気体操」を知っていますか。【○は1つ】

図表 225 「のびのび元気体操」の認知度(全体)



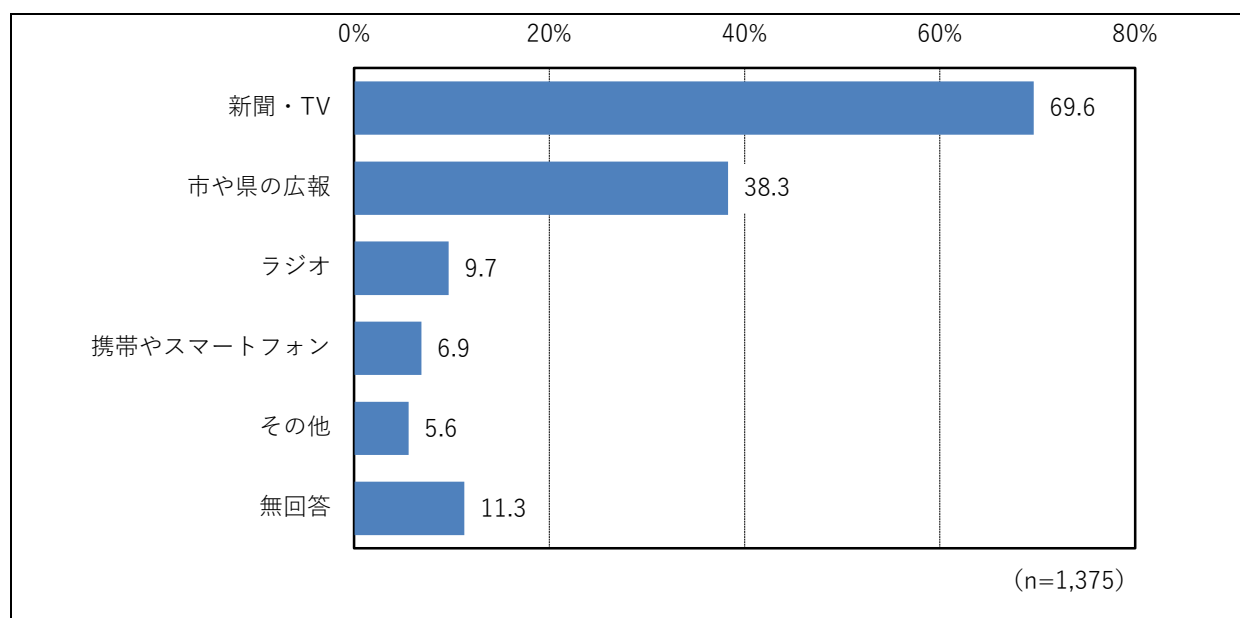
- 「のびのび元気体操」の認知度をたずねたところ、「まったく知らない」と回答した人の割合が最も高く、73.1%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(9.7%)、「知っているが取り組んでいない」(3.7%)と続いています。

13. 高齢者の保健福祉について

(1) 情報収集手段

問 75 日常の情報収集手段は何ですか。【〇はいくつでも】

図表 226 日常の情報収集手段(全体／複数回答)



● 日常の情報収集手段をたずねたところ、「新聞・TV」と回答した人の割合が最も高く、69.6%となっています。次いで、「市や県の広報」(38.3%)、「ラジオ」(9.7%)と続いています。

図表 227 日常の情報収集手段(年齢階層別)

(単位:%)

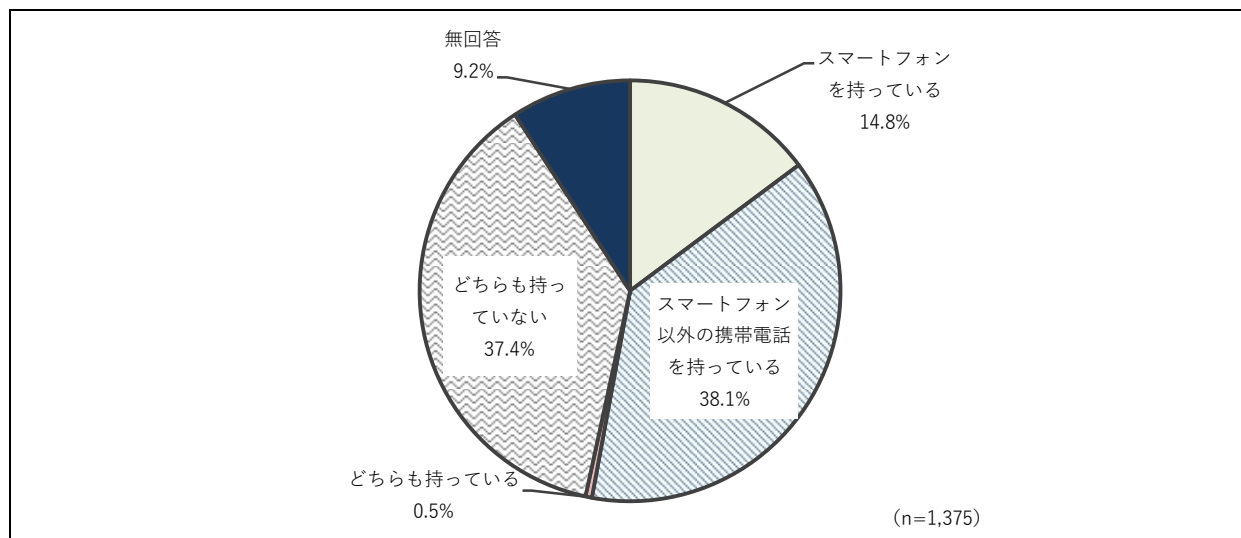
		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,375)		新聞・TV 69.6	市や県の広報 38.3	ラジオ 9.7
年 齢 階 層 別	65～69歳 (n=285)	新聞・TV 66.7	市や県の広報 36.5	携帯やスマートフォン 13.3
	70～74歳 (n=412)	新聞・TV 67.0	市や県の広報 36.9	ラジオ 10.4
	75～79歳 (n=280)	新聞・TV 71.1	市や県の広報 40.4	ラジオ 11.4
	80～84歳 (n=192)	新聞・TV 75.5	市や県の広報 42.2	ラジオ 10.4
	85～89歳 (n=124)	新聞・TV 70.2	市や県の広報 37.9	ラジオ 8.1
	90歳～ (n=82)	新聞・TV 73.2	市や県の広報 36.6	ラジオ 2.4

●日常の情報収集手段を年齢階層別にみると、全体と概ね同様の傾向にありますが、「65～69歳」で第3位が「携帯やスマートフォン」となっています。

(2)携帯電話

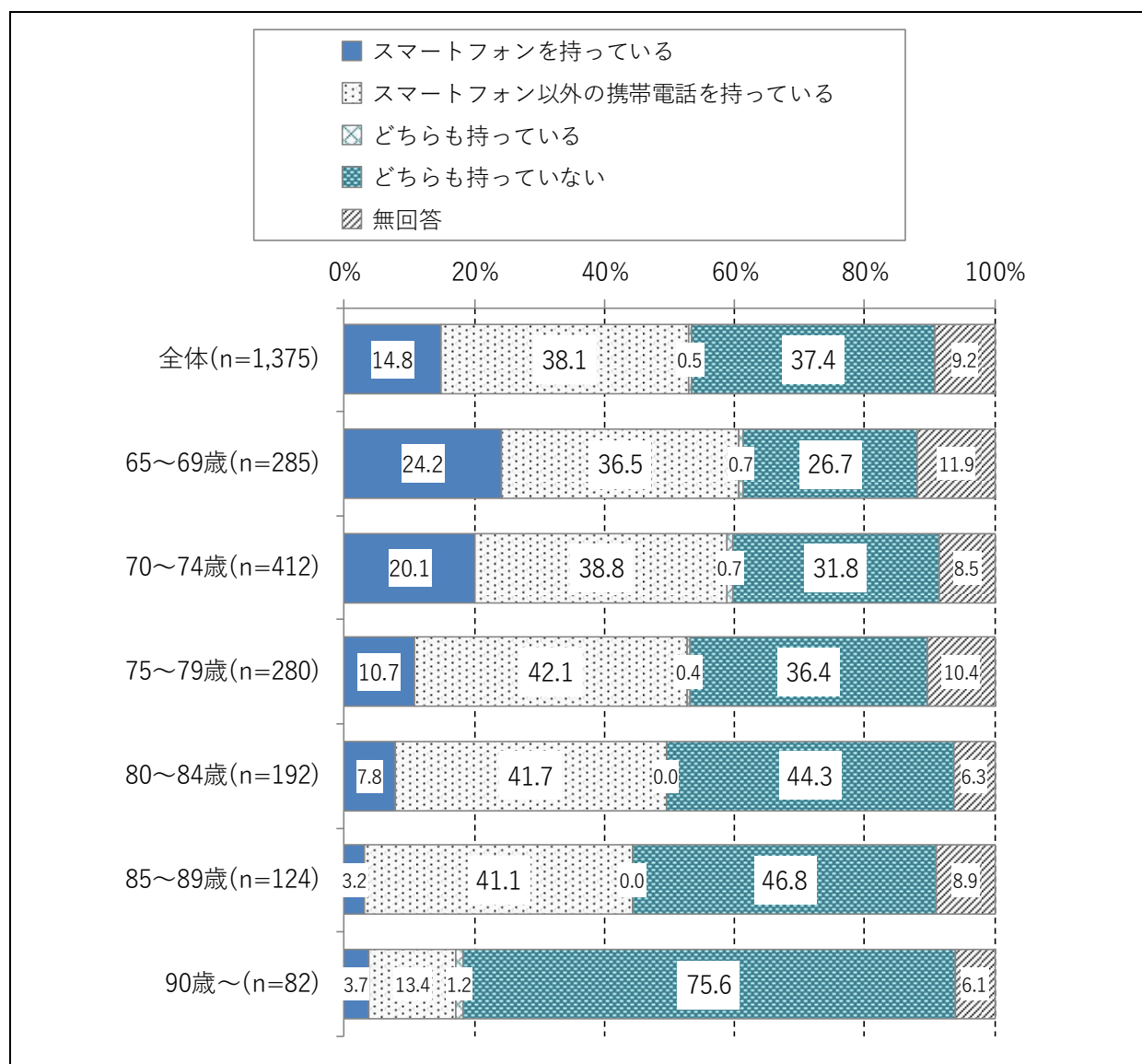
問 76 現在、携帯電話を持っていますか。【○は1つ】

図表 228 携帯電話の所持状況(全体)



●携帯電話の所持状況をたずねたところ、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」と回答した人の割合が最も高く、38.1%となっています。次いで、「どちらも持っていない」(37.4%)、「スマートフォンを持っている」(14.8%)と続いています。

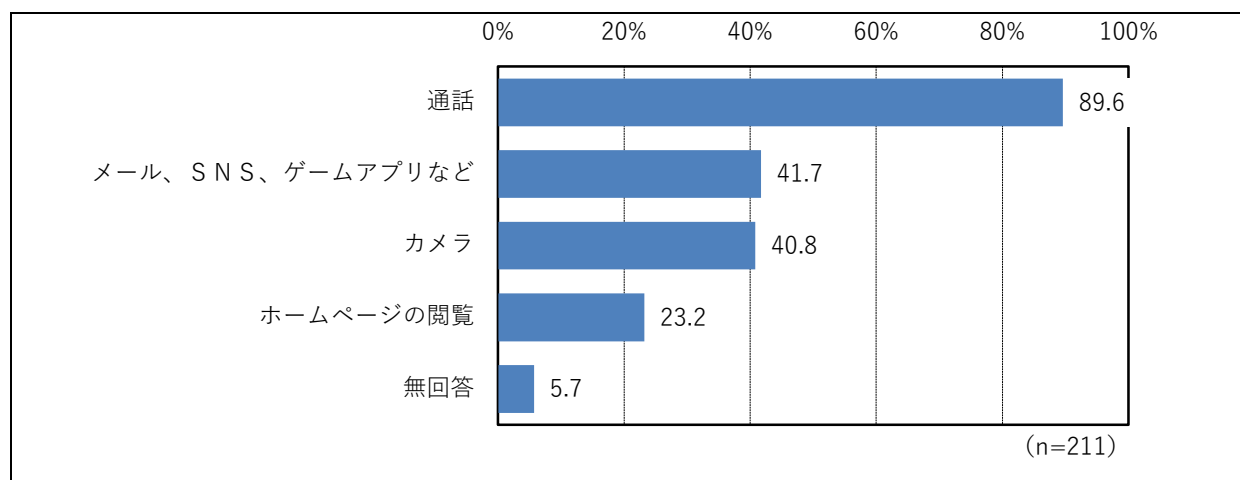
図表 229 携帯電話の所持状況(年齢階層別)



●携帯電話の所持状況を年齢階層別にみると、「スマートフォンを持っている」、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」、「どちらも持っている」と回答した携帯電話所持者の割合は、年齢階層が下がるにつれて上昇しています。

問76で「1スマートフォンを持っている」「3どちらも持っている」と回答した方
問76-1 スマートフォンをどのような用途に使っていますか。【〇はいくつでも】

図表 230 スマートフォンの利用用途(全体／複数回答)

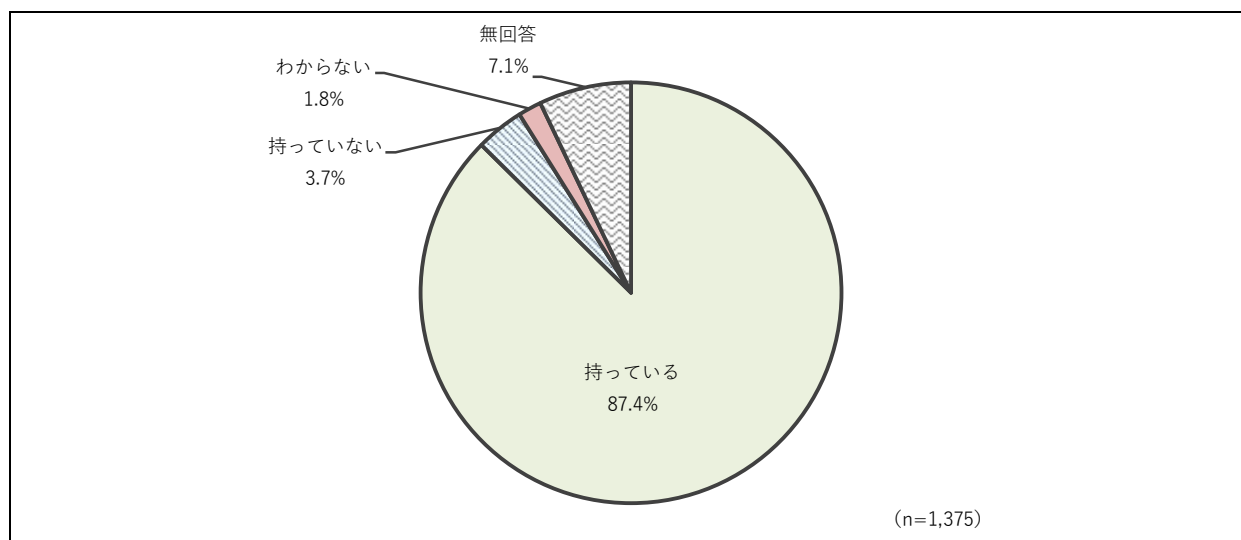


- スマートフォンの利用用途をたずねたところ、「通話」と回答した人の割合が最も高く、89.6%となっています。次いで、「メール、SNS、ゲームアプリなど」(41.7%)、「カメラ」(40.8%)と続いています。

(3) かかりつけ医の有無について

問 77 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【○は1つ】

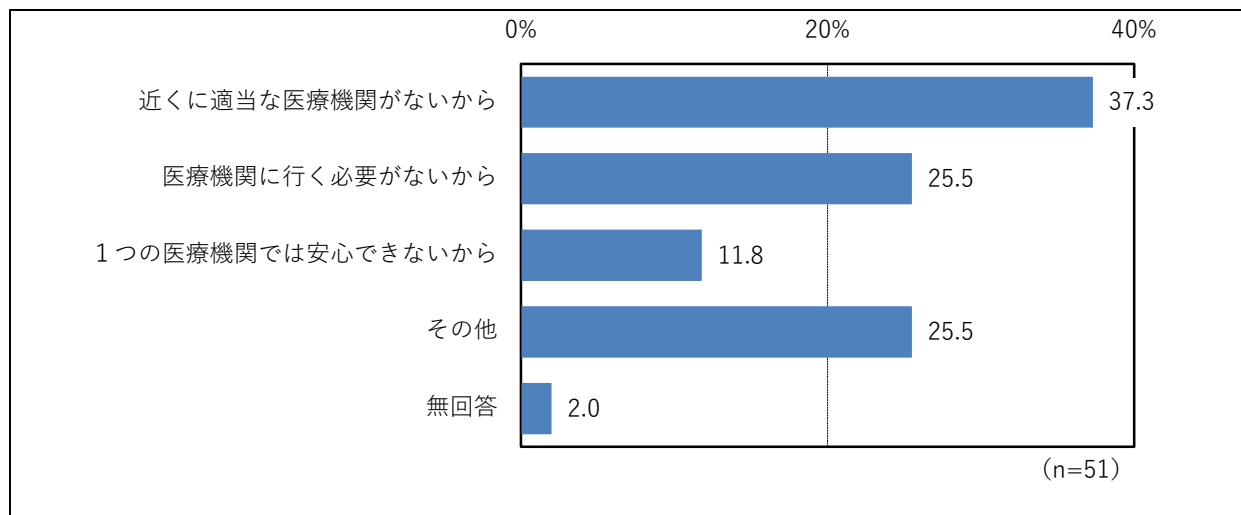
図表 231 かかりつけ医の有無(全体)



● かかりつけ医の有無をたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合が最も高く、87.4%となっています。次いで、「持っていない」(3.7%)、「わからない」(1.8%)と続いています。

問 77 で「2持っていない」と回答した方
問 77-1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【○はいくつでも】

図表 232 かかりつけ医を持っていない理由(全体／複数回答)

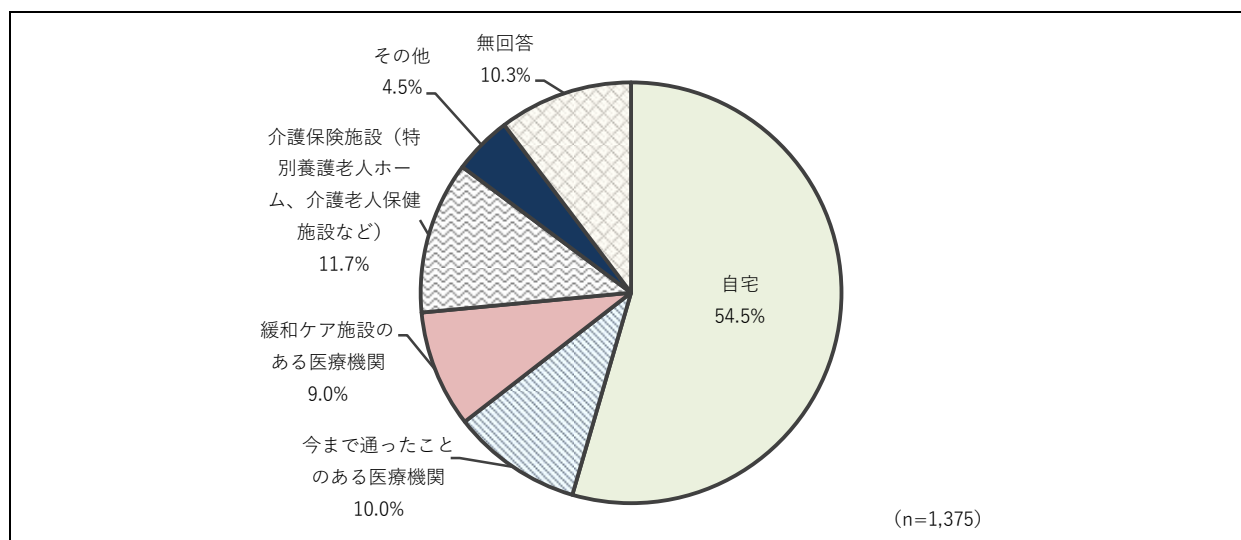


● かかりつけ医を持っていない理由をたずねたところ、「近くに適切な医療機関がないから」と回答した人の割合が最も高く、37.3%となっています。次いで、「医療機関に行く必要がないから」(25.5%)、「1つの医療機関では安心できないから」(11.8%)と続いています。

(4)自分の最期について

問 78 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【○は1つ】

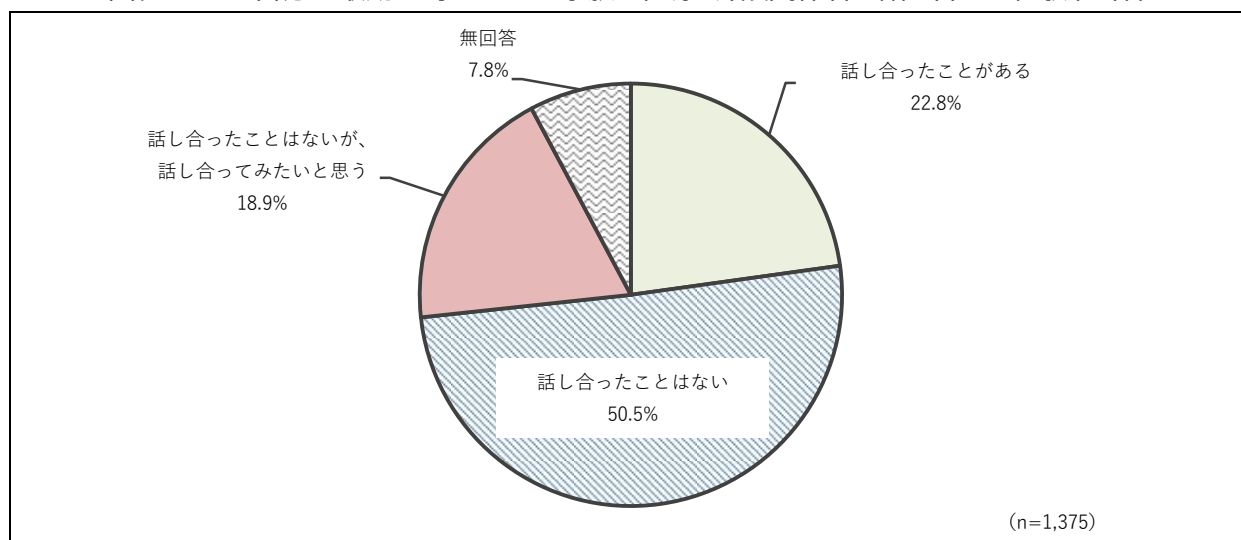
図表 233 自分の最期を迎えたい場所(全体)



●自分の最期を迎えたい場所をたずねたところ、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、54.5%となっています。次いで、「介護保険施設」(11.7%)、「今まで通ったことのある医療機関」(10.0%)と続いています。

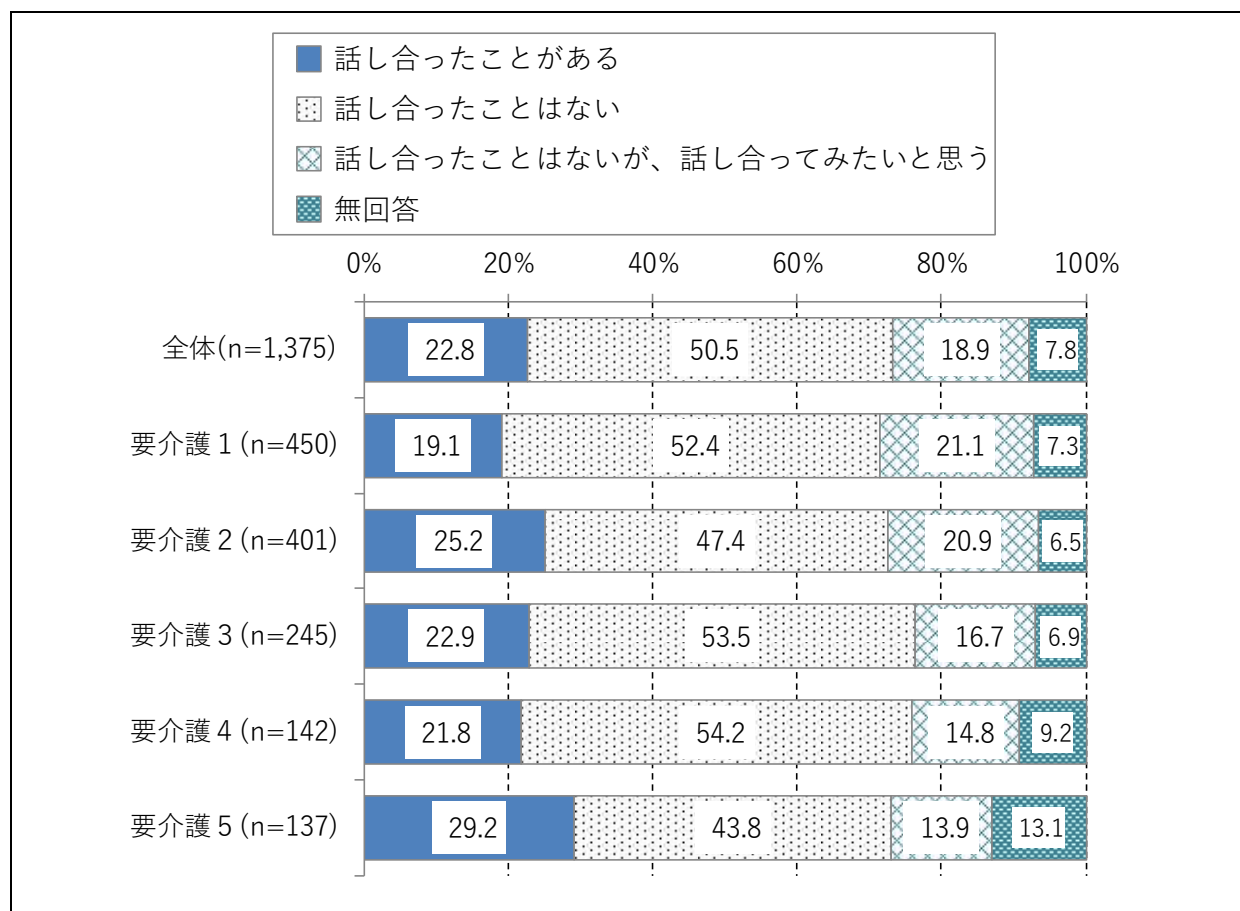
問 79 自分の最期の時に希望する医療や介護について、家族や医療・介護関係者と話し合ったことはありますか。【○は1つ】

図表 234 自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験(全体)



●自分の最期の時について、家族や医療・介護関係者と話し合った経験をたずねたところ、「話し合ったことはない」と回答した人の割合が最も高く、50.5%となっています。次いで、「話し合ったことがある」(22.8%)、「話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う」(18.9%)と続いています。

図表 235 自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験(要介護度別)



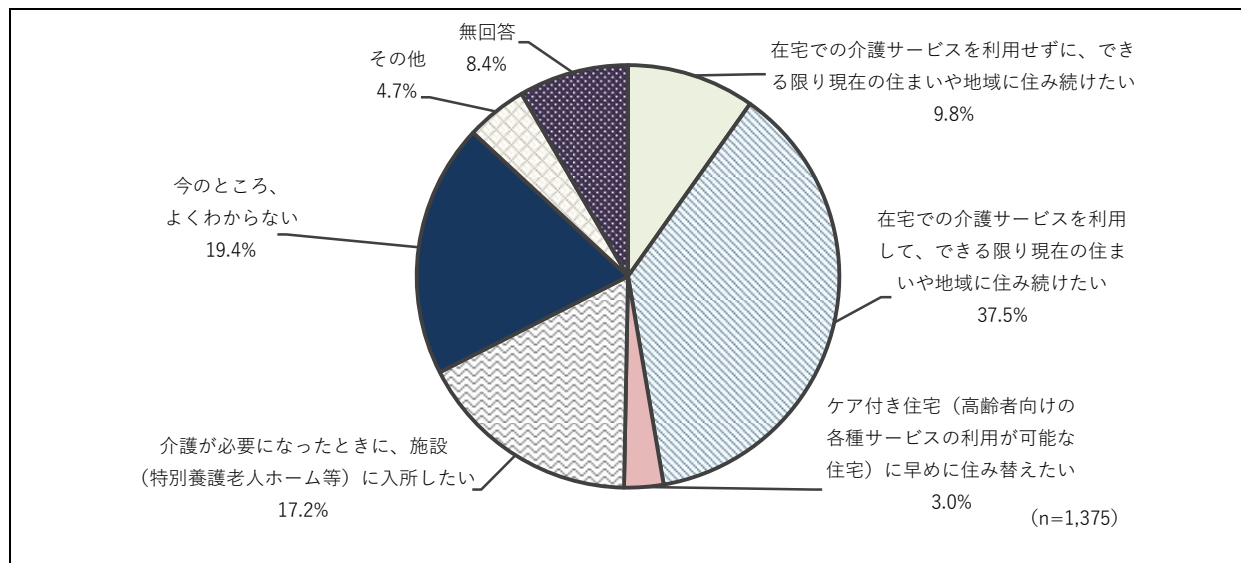
●自分の最期の時について家族や医療・介護関係者と話し合った経験を、要介護度別にみると、「話し合ったことはない」がすべての要介護度で最も高い割合となっています。要介護 5 の「話し合ったことがある」と回答した人の割合が、その他の要介護度と比べて高くなっています。

● 第3章 調査結果 要介護認定者（65歳以上） ●

(5) 住まいと介護サービスの利用について

問 80 住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

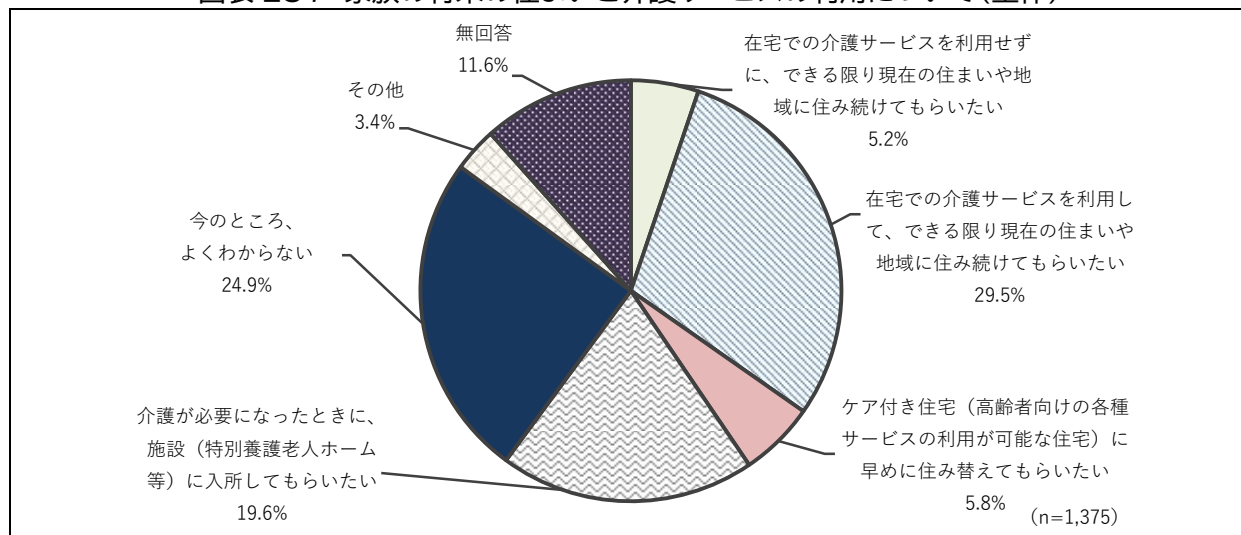
図表 236 自身の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)



●自身の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「今のところ、よくわからない」(19.4%)、「介護が必要になったときに、施設に入所したい」(17.2%)と続いています。

問 81 あなたの家族が介護が必要になった場合、住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

図表 237 家族の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)

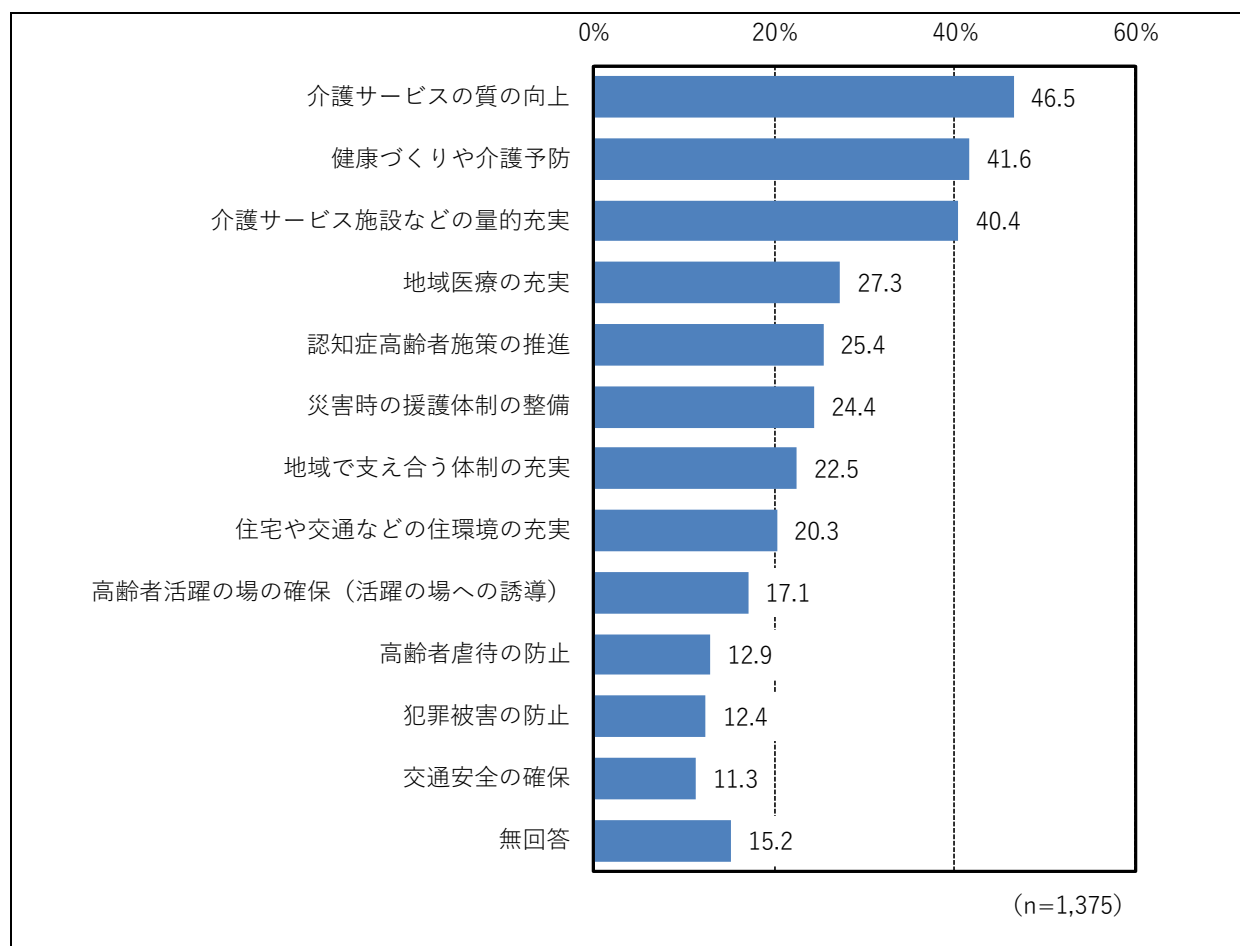


●家族の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けてもらいたい」と回答した人の割合が最も高く、29.5%となっています。次いで、「今のところ、よくわからない」(24.9%)、「介護が必要になったときに、施設に入所してもらいたい」(19.6%)と続いています。

(6)超高齢社会において重要な方策

問 82 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

図表 238 超高齢社会において重要な方策(全体／複数回答)

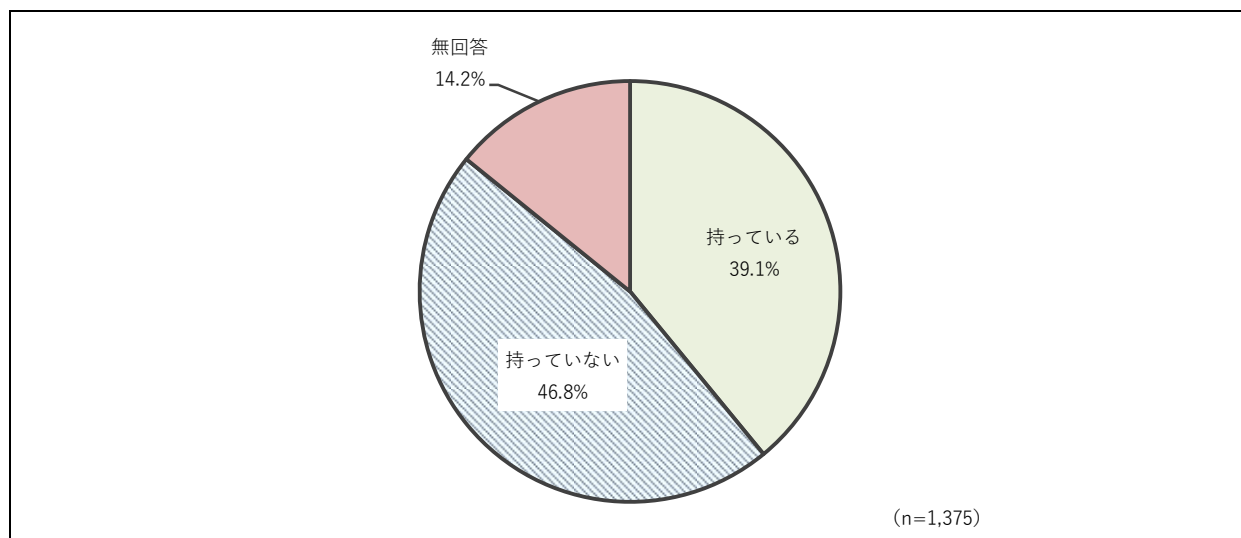


●超高齢社会において重要な方策をたずねたところ、「介護サービスの質の向上」と回答した人の割合が最も高く、46.5%となっています。次いで、「健康づくりや介護予防」(41.6%)、「介護サービス施設などの量的充実」(40.4%)と続いています。

(7)マイナンバーカードについて

問 83 マイナンバーカードを持っていますか。【○は1つ】

図表 239 マイナンバーカードの所持状況(全体)

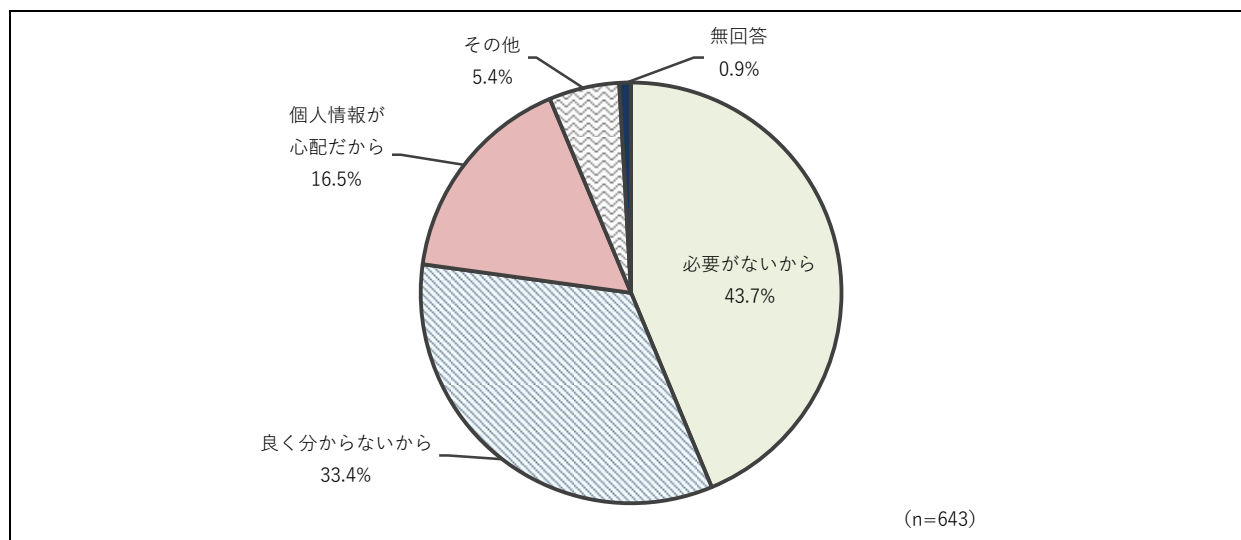


●マイナンバーカードの所持状況についてたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合は39.1%となっています。一方、「持っていない」と回答した人の割合は46.8%となっています。

問 83 で「2持っていない」と回答した方

問 83-1 マイナンバーカードを持っていない理由は何ですか。【○は1つ】

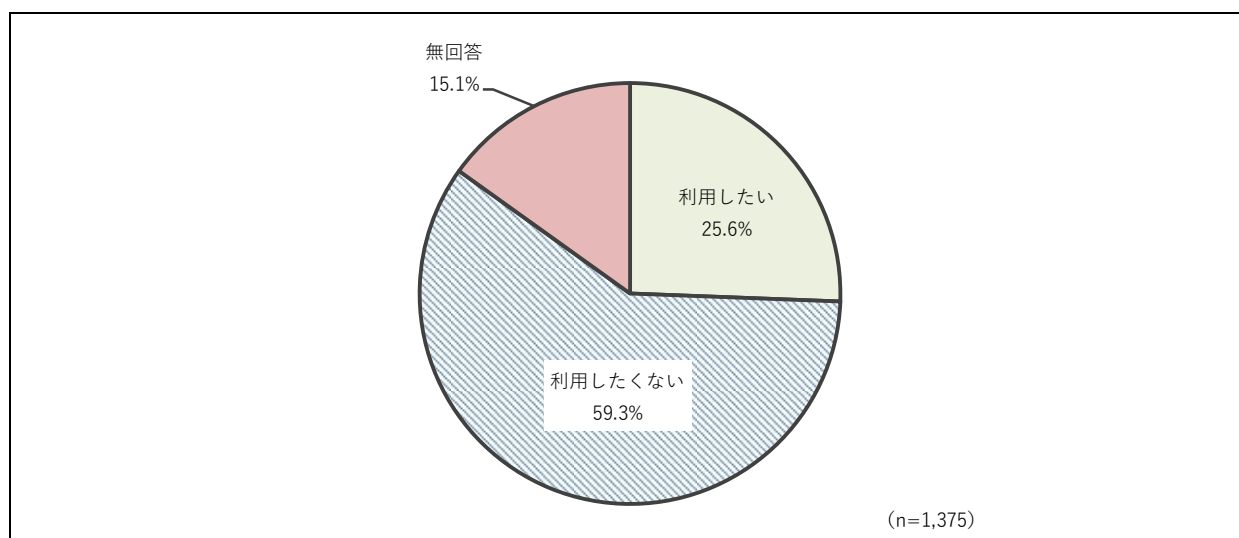
図表 240 マイナンバーカードを持っていない理由(全体)



●マイナンバーカードを持っていない理由をたずねたところ、「必要がないから」と回答した人の割合が最も高く、43.7%となっています。次いで、「良く分からないから」(33.4%)、「個人情報が心配だから」(16.5%)と続いています。

問 84 自宅から自分や家族の認定申請等の手続きがパソコン等でできた場合、利用したいですか。【○は1つ】

図表 241 電子による認定申請等の利用希望(全体)

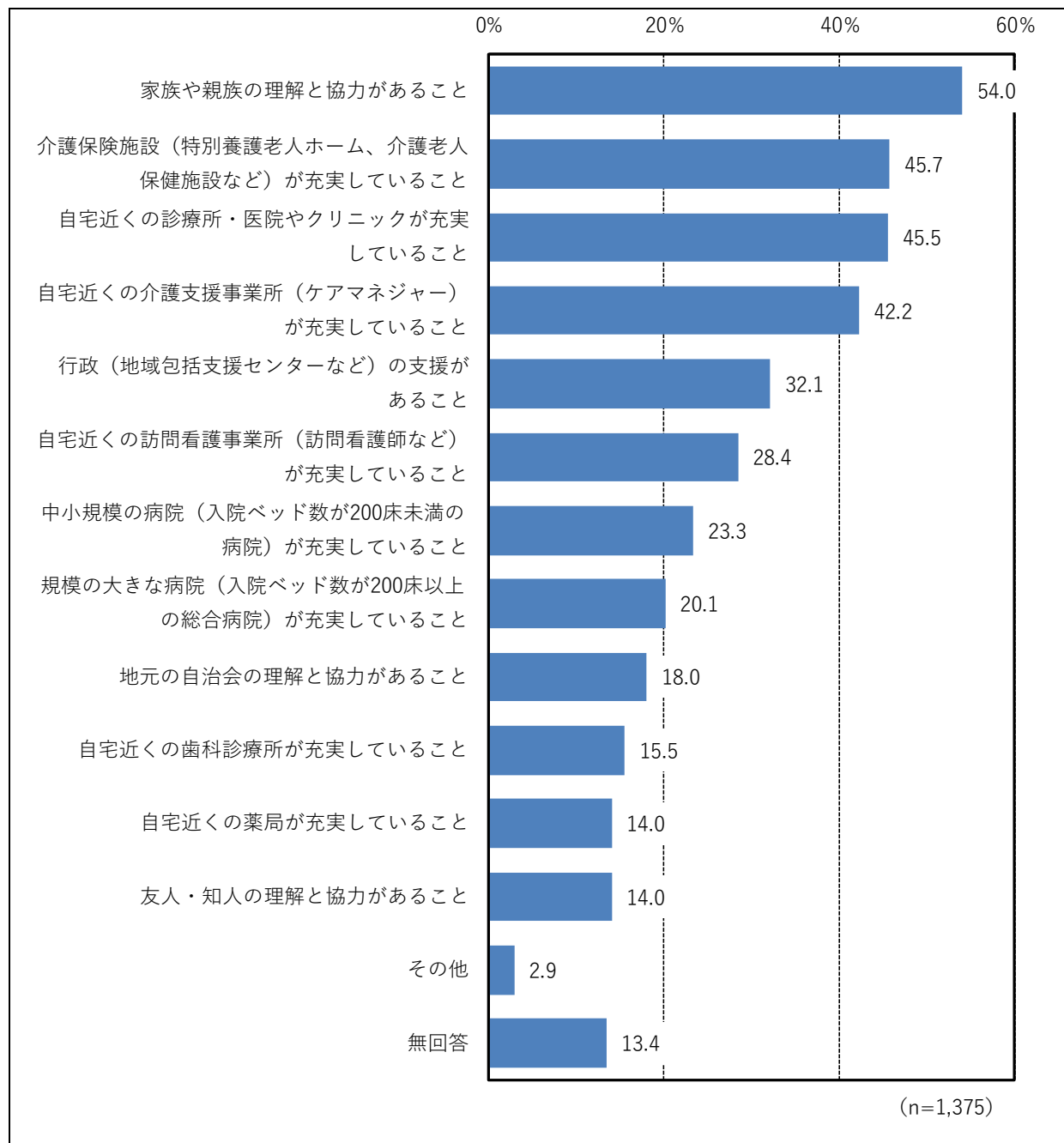


●電子による認定申請等の利用希望についてたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合は 25.6%となっています。一方、「利用したくない」と回答した人の割合は 59.3%となっています。

(8)地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

問 85 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

図表 242 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと(全体／複数回答)



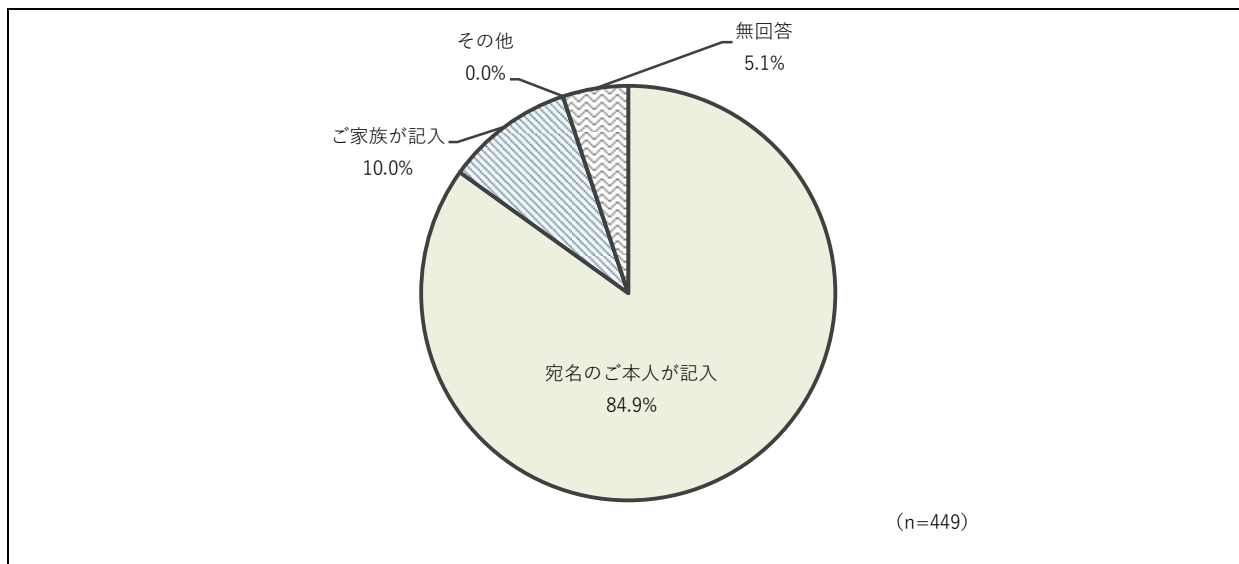
●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」と回答した人の割合が最も高く、54.0%となっています。次いで、「介護保険施設が充実していること」(45.7%)、「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」(45.5%)と続いています。

第4章 調査結果 一般市民(40歳以上65歳未満)

1. 回答者の属性

(1) 調査票を記入した方

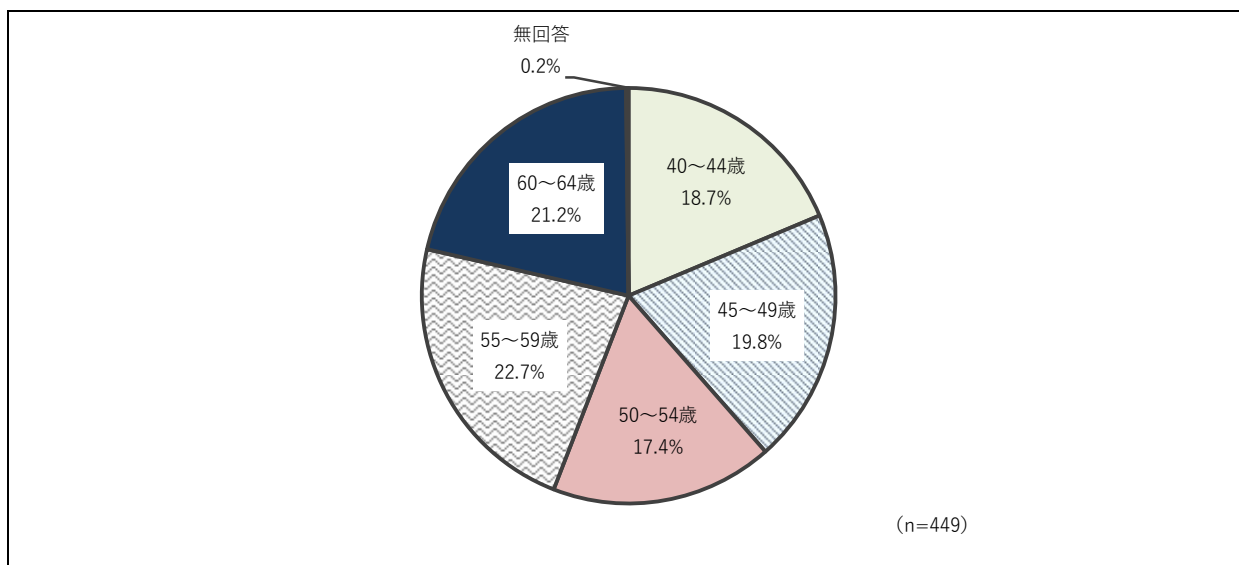
図表 243 調査票記入者(全体)



●調査票の記入者をたずねたところ、「宛名のご本人が記入」と回答した人の割合は 84.9%となっています。一方、「ご家族が記入」と回答した人の割合は 10.0%となっています。

(2) 年齢

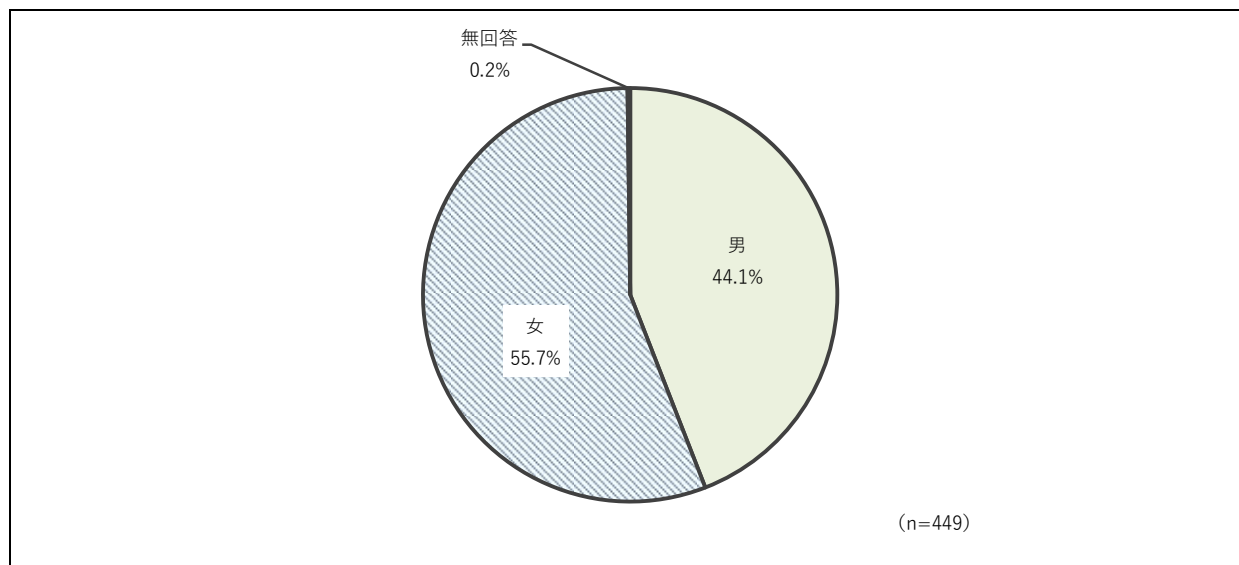
図表 244 年齢(全体)



●年齢をたずねたところ、「55～59 歳」と回答した人の割合が最も高く、22.7%となっています。次いで、「60～64 歳」(21.2%)、「45～49 歳」(19.8%)と続いています。

(3) 性別

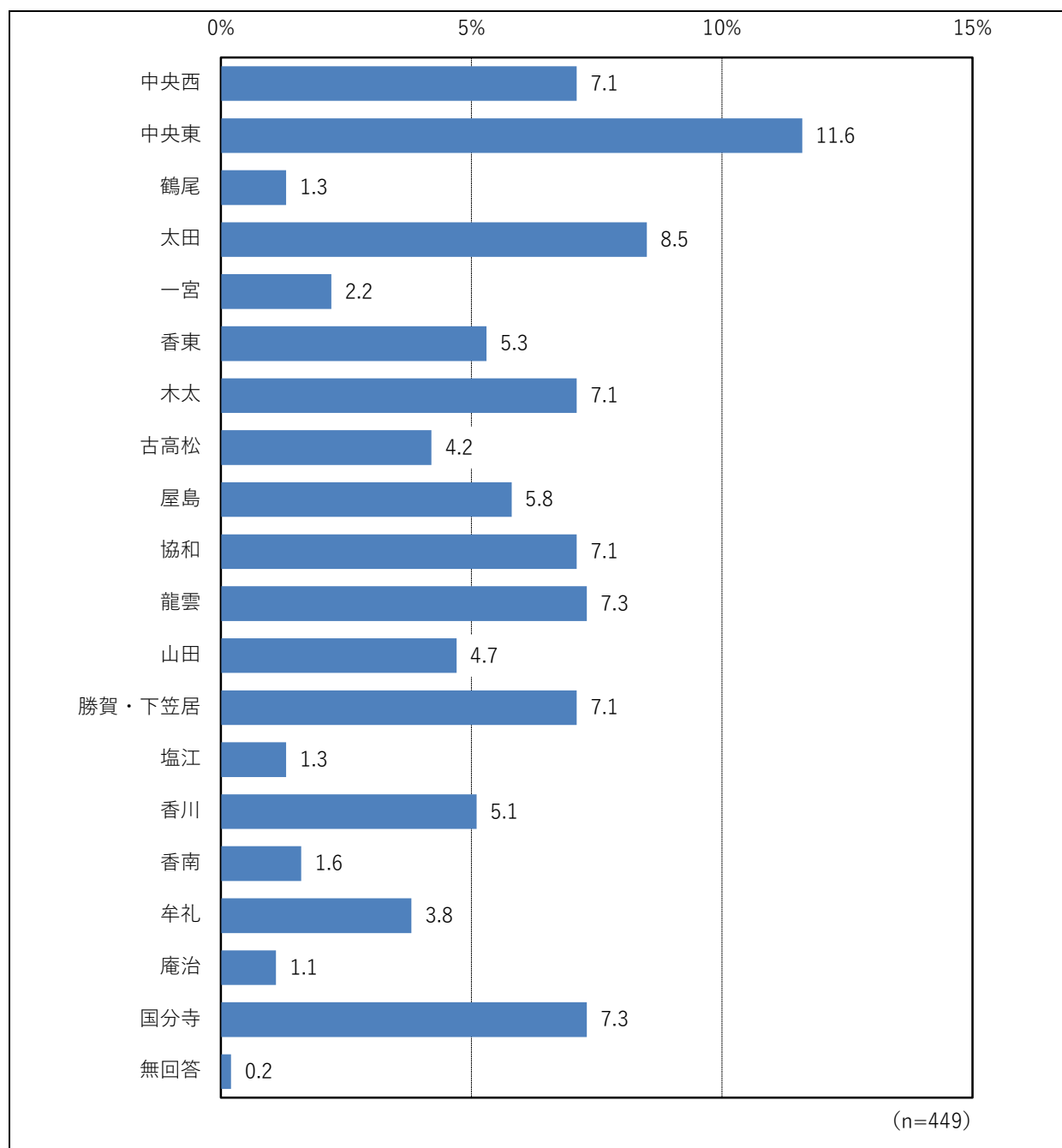
図表 245 性別(全体)



- 性別をたずねたところ、「男」と回答した人の割合は 44.1%となっています。一方、「女」と回答した人の割合は 55.7%となっています。

(4) 日常生活圏域

図表 246 日常生活圏域(全体)

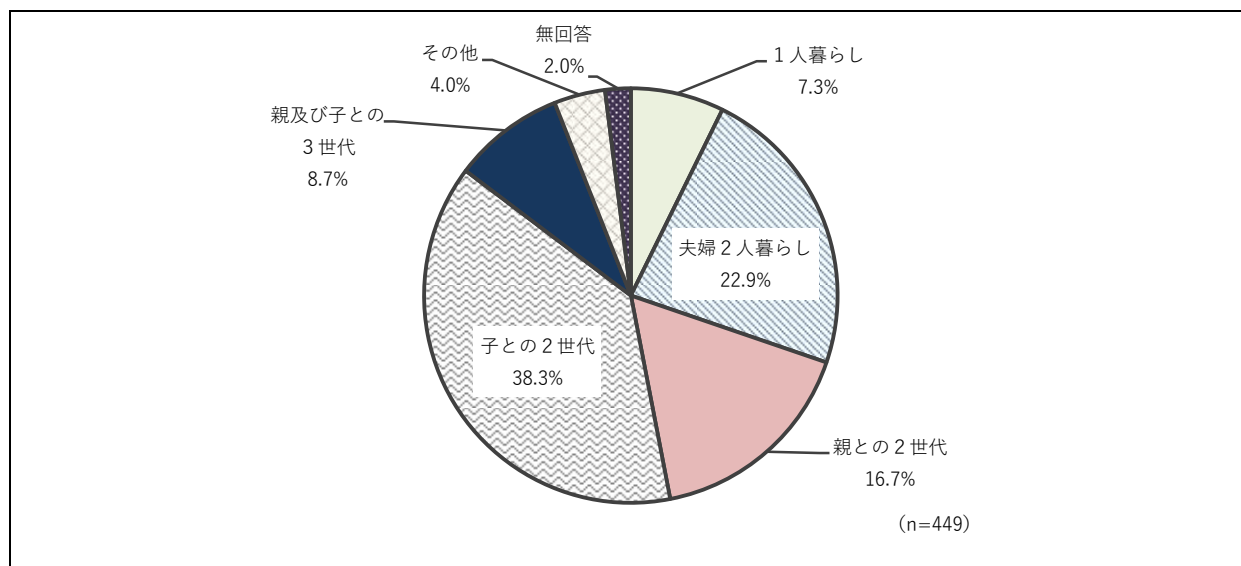


●お住まいの地域(日常生活圏域)をたずねたところ、「中央東」と回答した人の割合が最も高く、11.6%となっています。次いで、「太田」(8.5%)、「龍雲」「国分寺」(7.3%)と続いています。

2. 家族や生活状況について

問1 家族構成をお教えてください。【〇は1つ】

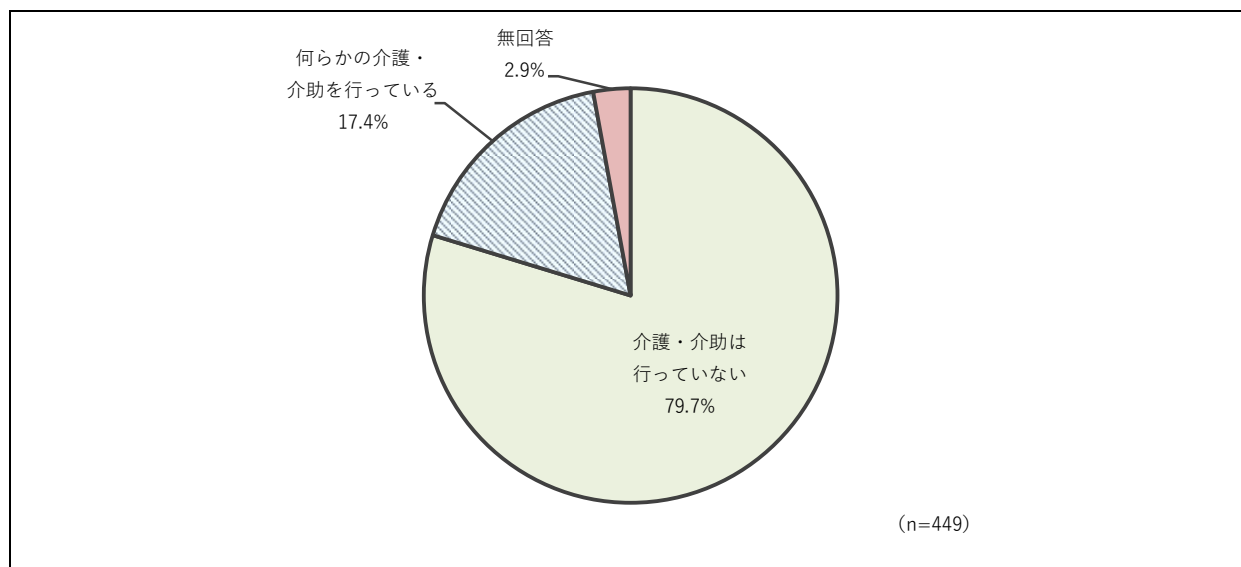
図表 247 家族構成(全体)



●家族構成をたずねたところ、「子との2世代」と回答した人の割合が最も高く、38.3%となっています。次いで、「夫婦2人暮らし」(22.9%)、「親との2世代」(16.7%)と続いています。

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助を行っていますか。【〇は1つ】

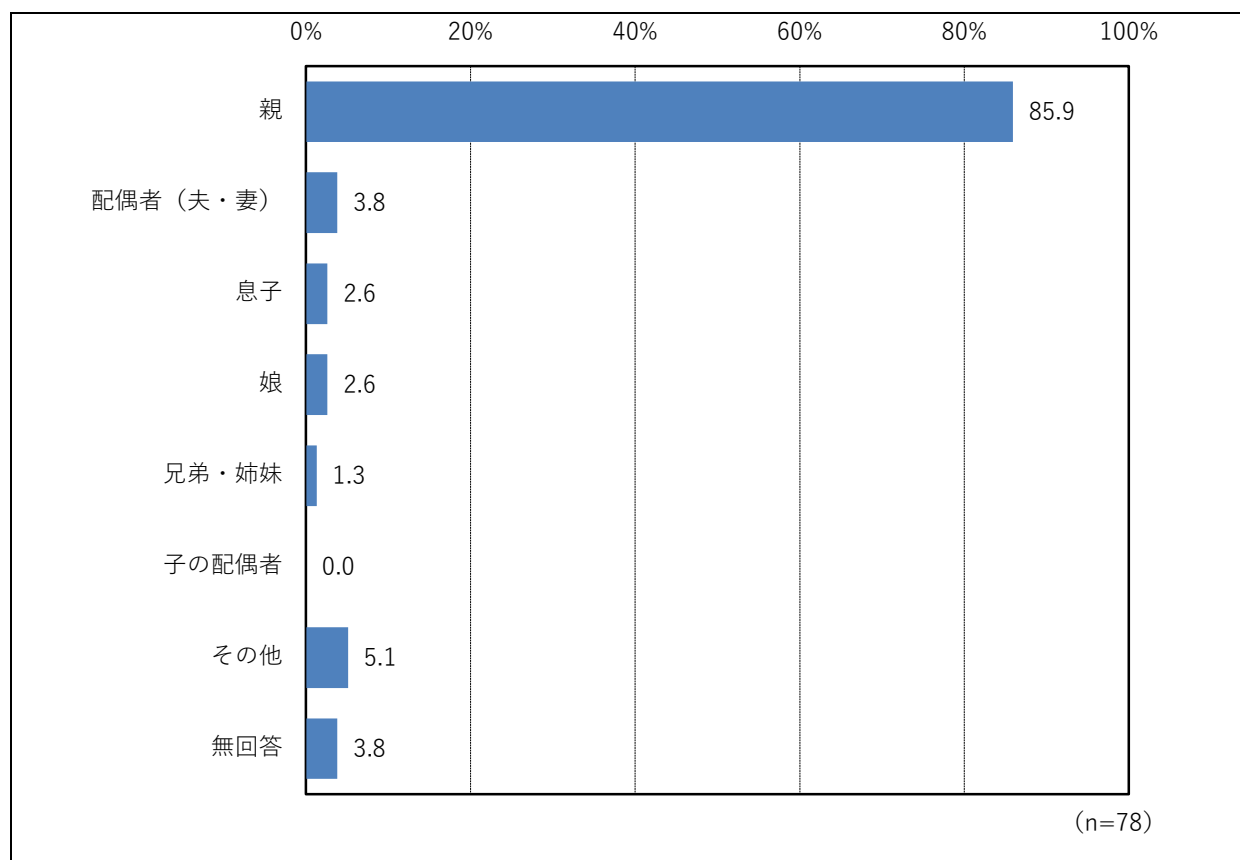
図表 248 誰かの介護・介助を行っているか(全体)



●誰かの介護・介助を行っているかたずねたところ、「介護・介助は行っていない」と回答した人の割合は79.7%となっています。一方、「何らかの介護・介助を行っている」と回答した人の割合は17.4%となっています。

問2において「2. 何らかの介護・介助を行っている」と回答した方
 問2-1 主にどなたの介護・介助を行っていますか。【〇はいくつでも】

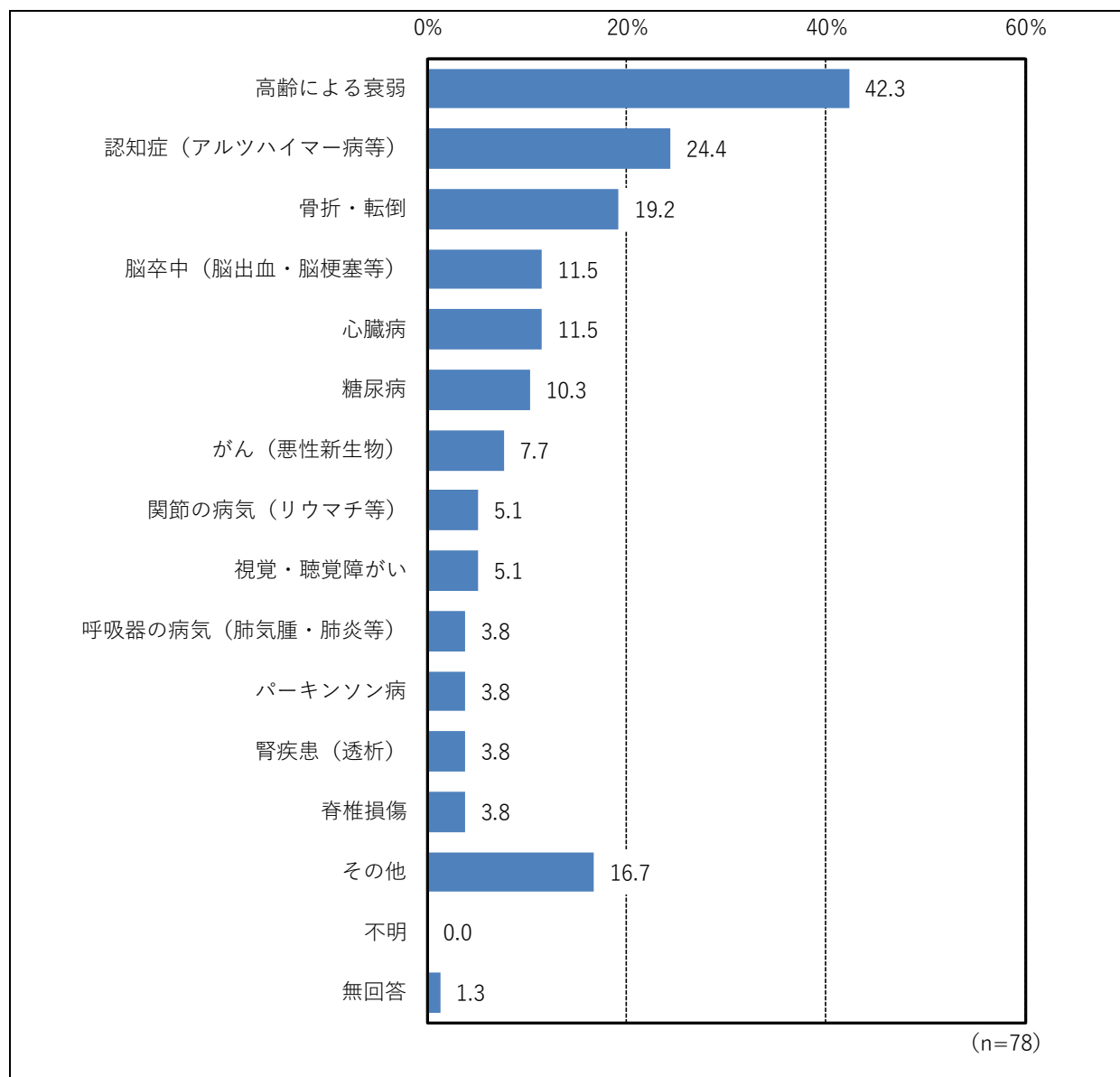
図表 249 介護・介助を行っている相手(全体／複数回答)



●介護・介助を行っている相手をたずねたところ、「親」と回答した人の割合が最も高く、85.9%となっています。次いで、「配偶者(夫・妻)」(3.8%)、「息子」「娘」(2.6%)と続いています。

問2において「2. 何らかの介護・介助を行っている」と回答した方
 問2-2 その方の、介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。【○はいくつでも】

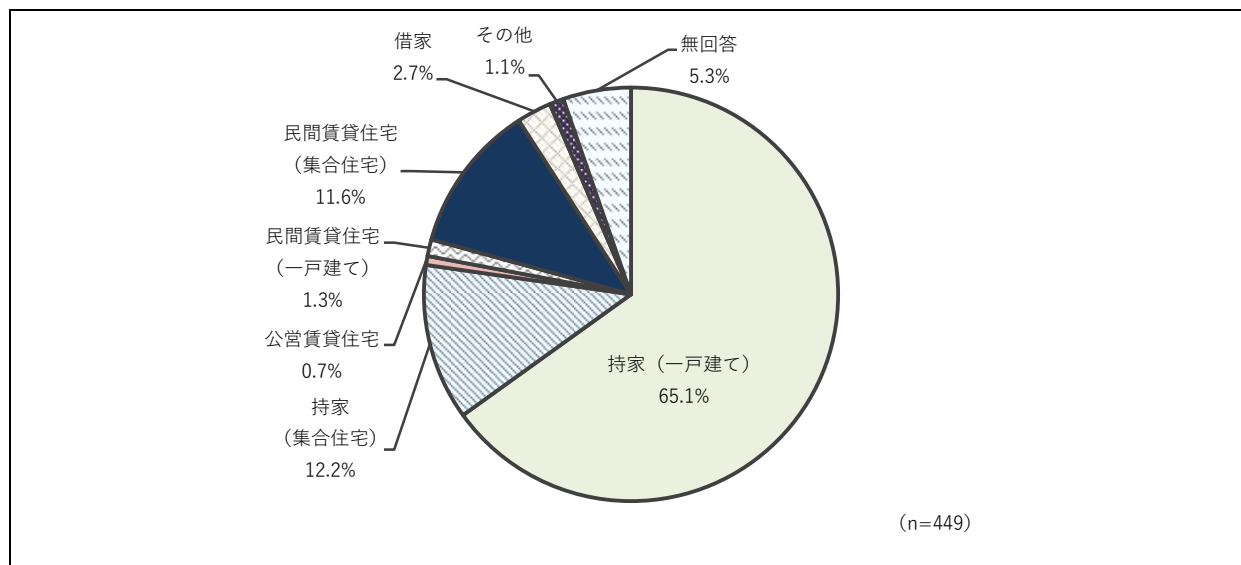
図表 250 介護・介助が必要になった原因(全体／複数回答)



●介護・介助が必要になった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」と回答した人の割合が最も高く、42.3%となっています。次いで、「認知症(アルツハイマー病等)」（24.4%）、「骨折・転倒」（19.2%）と続いています。

問 3 お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらですか。【○は 1 つ】

図表 251 住まいの形態(全体)

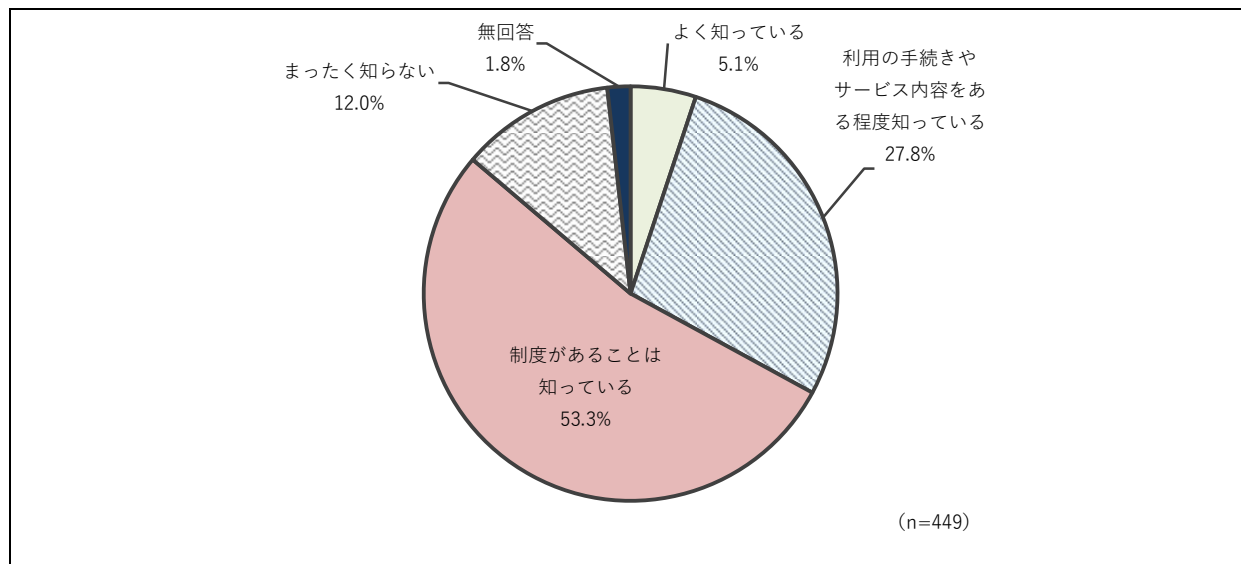


●住まいの形態をたずねたところ、「持家（戸建て）」と回答した人の割合が最も高く、65.1%となっています。次いで、「持家（集合住宅）」(12.2%)、「民間賃貸住宅（集合住宅）」(11.6%)と続いています。

3. 介護保険サービスについて

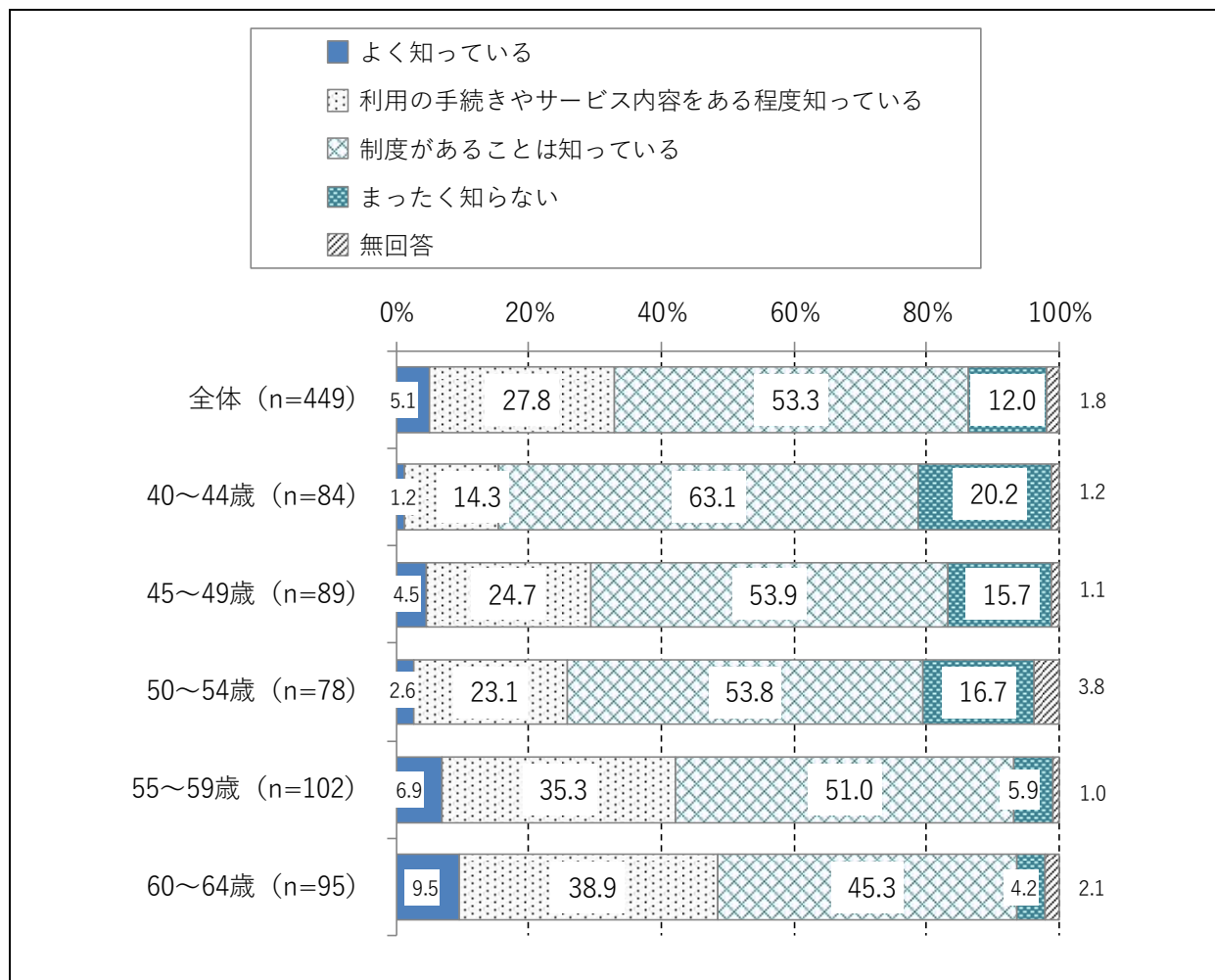
問4 介護保険制度について、どの程度知っていますか。【○は1つ】

図表 252 介護保険制度の認知度(全体)



●介護保険制度の認知度をたずねたところ、「制度があることは知っている」と回答した人の割合が最も高く、53.3%となっています。次いで、「利用の手続きやサービス内容をある程度知っている」(27.8%)、「まったく知らない」(12.0%)と続いています。

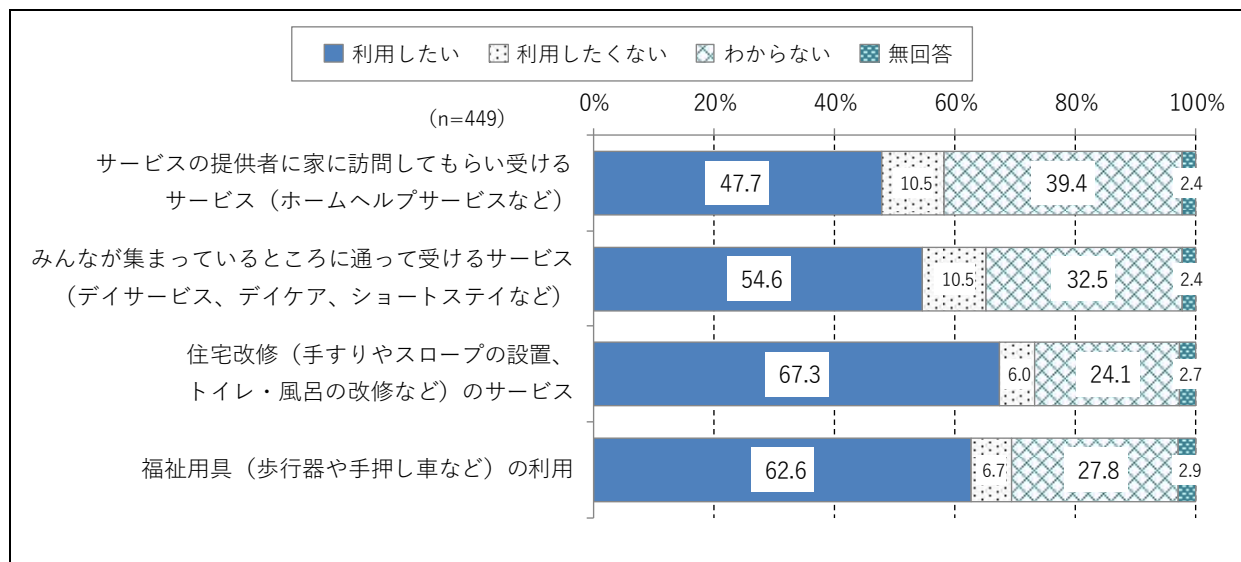
図表 253 介護保険制度の認知度（年齢階層別）



- 介護保険制度の認知度を年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「制度があることは知っている」と回答した人の割合が最も高くなっています。
- 「55～64 歳」の2つの年齢階層では、「よく知っている」、「利用の手続きやサービス内容をある程度知っている」と回答した人の割合が、その他の年齢階層に比べて比較的高くなっています。

問5 次の介護保険サービス(平成31年4月1日現在)について、それぞれに当てはまるものを選んでください。【○は1つ】

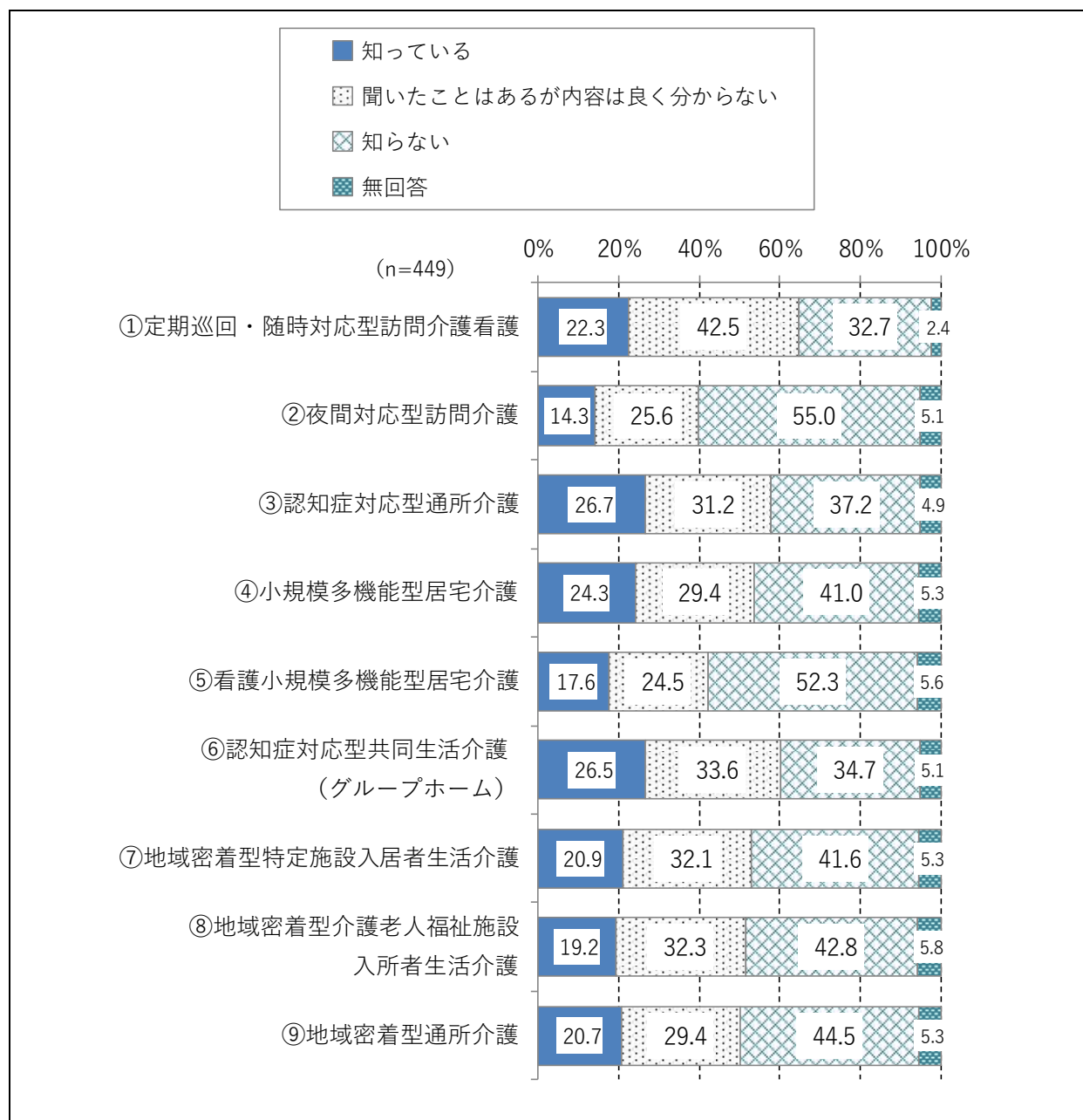
図表 254 介護保険サービスの今後の利用意向(全体)



●介護保険サービスの今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」と回答した割合が最も高かったサービスは、「住宅改修のサービス」で67.3%となっています。次いで、「福祉用具の利用」(62.6%)、「みんなが集まっているところに通って受けるサービス」(54.6%)と続いています。

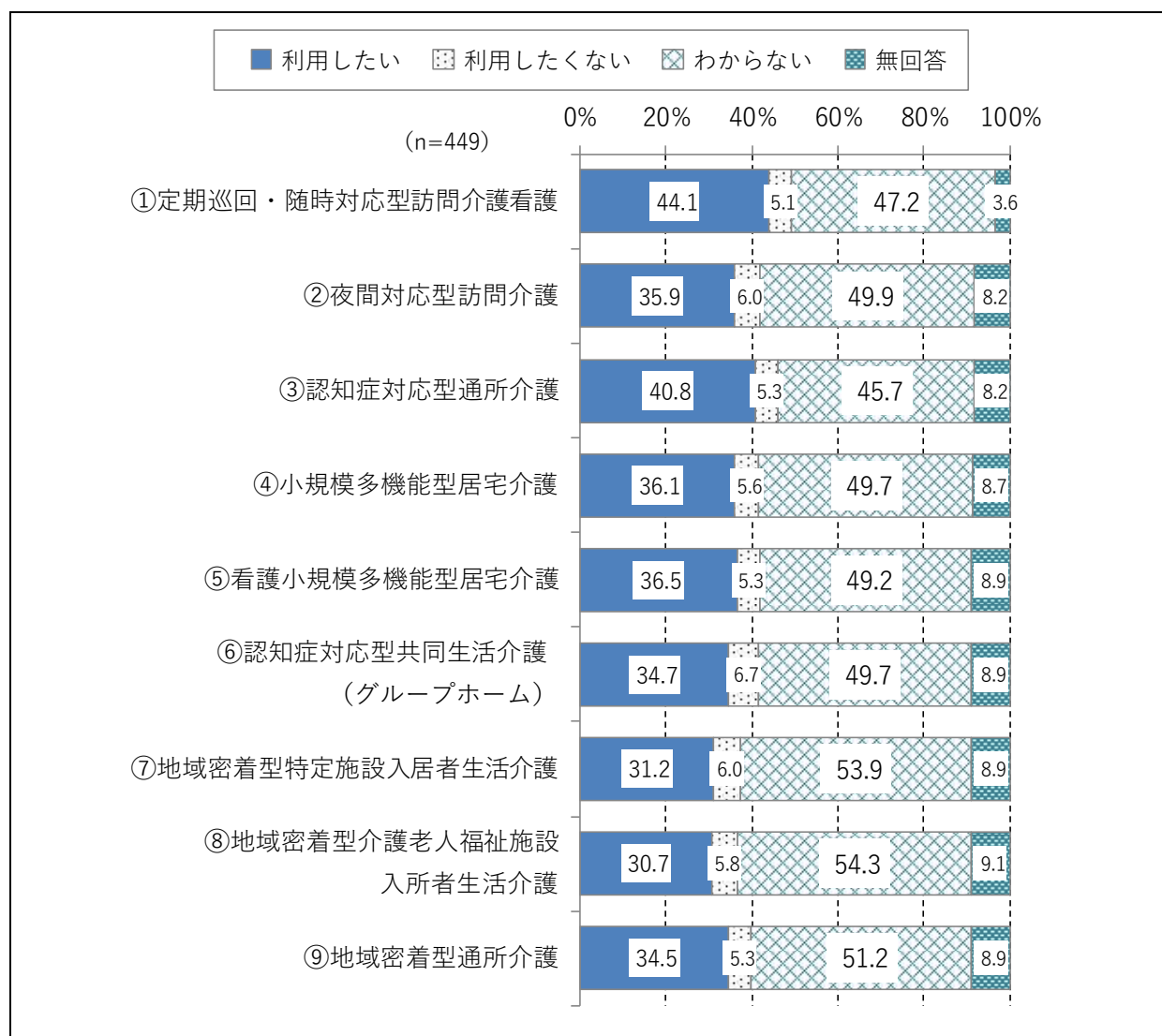
問6 次の地域密着型の介護保険サービス(平成31年4月1日現在)について、それぞれに当てはまるものを選んでください。【○は1つずつ】

図表 255 地域密着型の介護保険サービスの現在の認知度(全体)



●地地域密着型の介護保険サービスの現在の認知度をたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合が最も高かったのは、「認知症対応型通所介護」で、26.7%となっています。次いで、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)」(26.5%)、「小規模多機能型居宅介護」(24.3%)と続いています。一方、「知らない」と回答した人の割合が最も高かったのは、「夜間対応型訪問介護」で 55.0%となっています。次いで、「看護小規模多機能型居宅介護」(52.3%)、「地域密着型通所介護」(44.5%)と続いています。

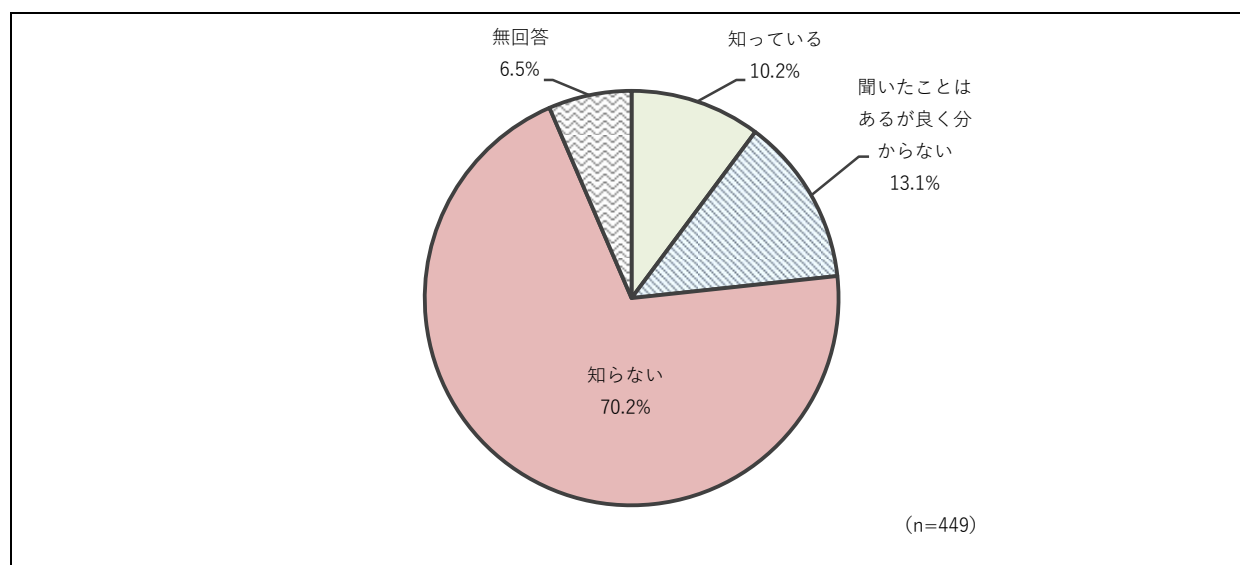
図表 256 地域密着型の介護保険サービスの今後の利用意向(全体)



●地域密着型の介護保険サービスの今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合が最も高かったのは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」で、44.1%となっています。次いで、「認知症対応型通所介護」(40.8%)、「看護小規模多機能型居宅介護」(36.5%)と続いています。

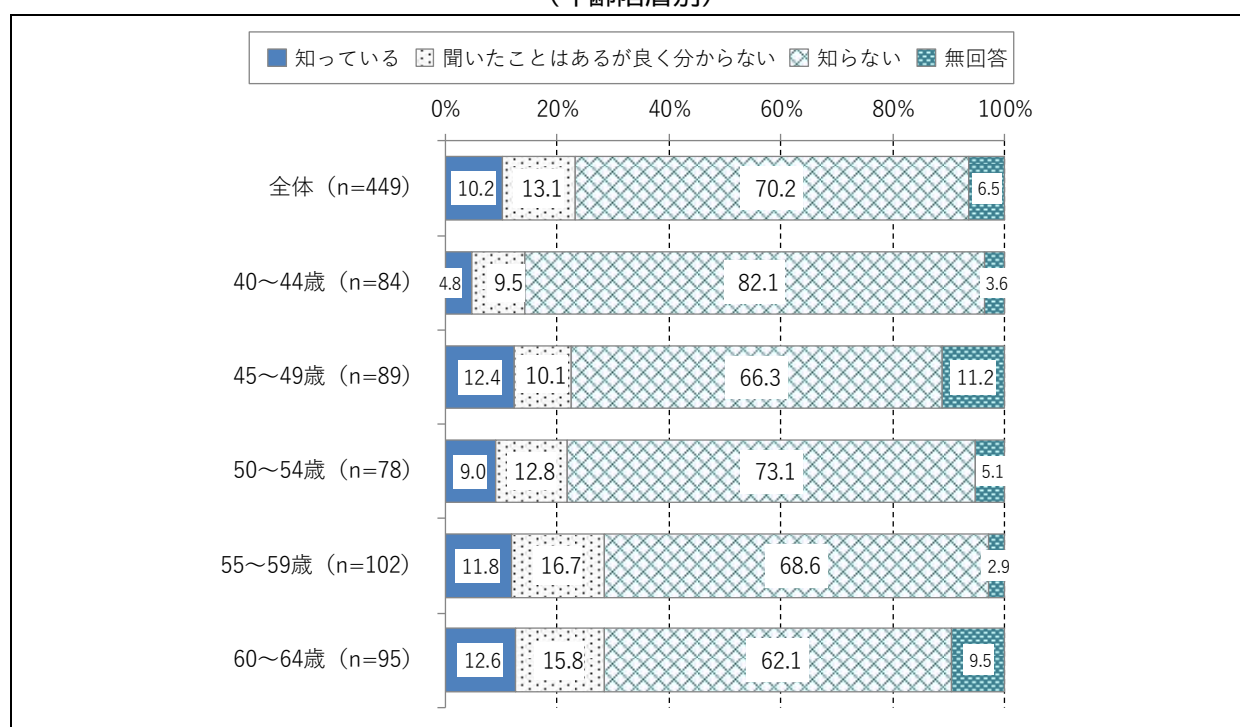
問 7 介護認定を受けなくても、基本チェックリストで生活機能の低下が認められ事業対象者となった場合は、介護保険サービスの一部を利用できることを知っていますか。【○は1つ】

図表 257 介護認定を受けなくても介護保険サービスの一部が利用できることの認知度(全体)



●介護認定を受けなくても介護保険サービスの一部が利用できることの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、70.2%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(13.1%)、「知っている」(10.2%)と続いています。

図表 258 介護認定を受けなくても介護保険サービスの一部が利用できることの認知度(年齢階層別)

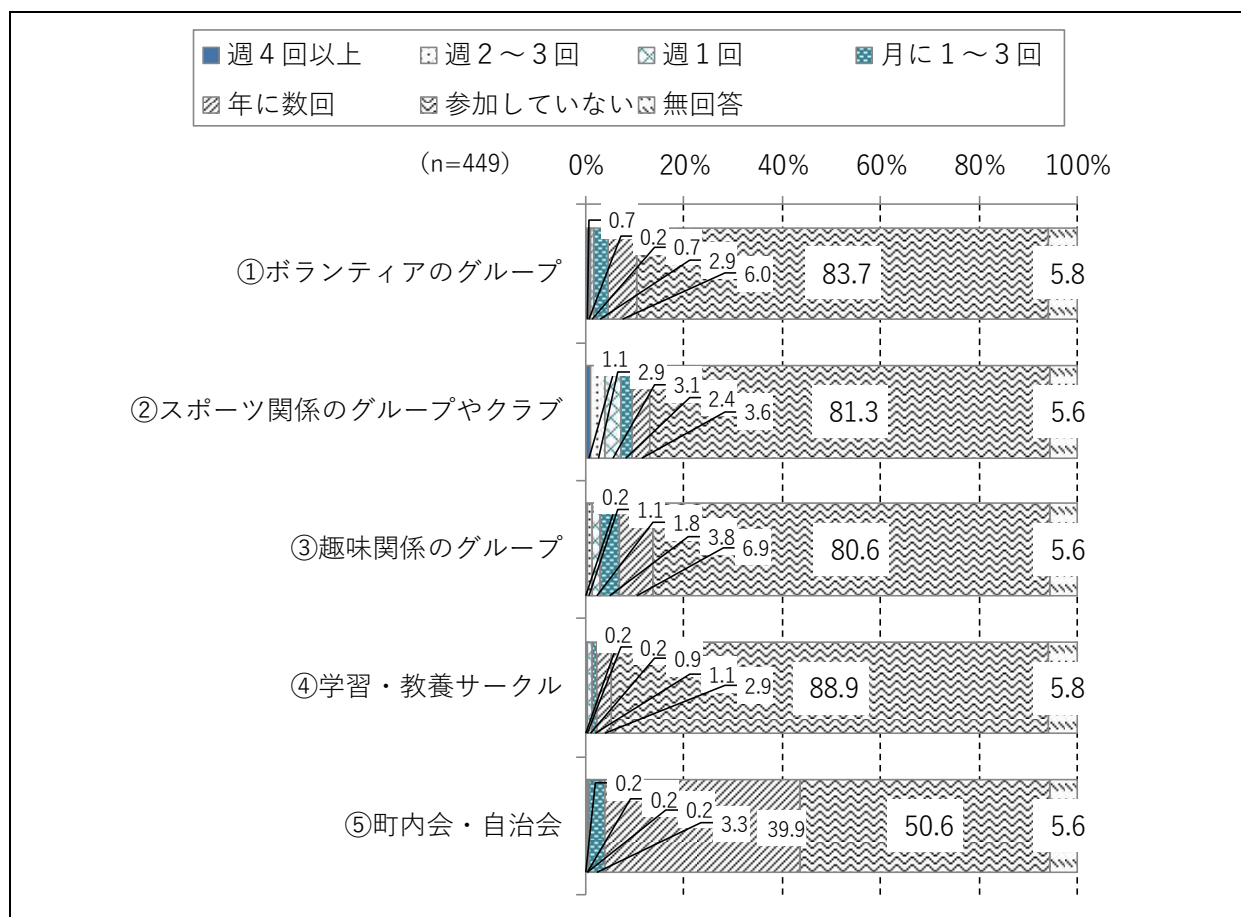


●介護認定を受けなくても介護保険サービスの一部が利用できることの認知度を年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「知らない」と回答した人の割合が最も高くなっており、「40～44歳」で82.1%、「50～54歳」で73.1%と、他の階層より高くなっています。一方、「知っている」と回答した人の割合は「40～44歳」で4.8%、「50～54歳」で9.0%と1割を切っています。

4. 地域での活動について

問8 以下のような①～⑤の会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
【①～⑤それぞれに○は1つずつ】

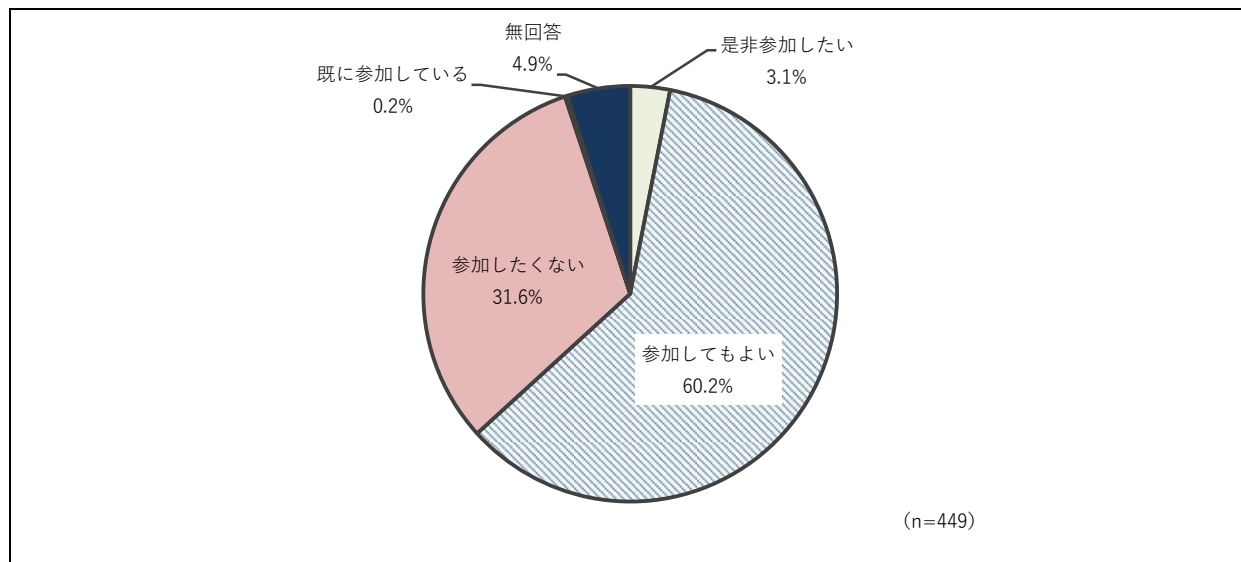
図表 259 地域活動の頻度(全体)



●地域活動の頻度をたずねたところ、「⑤町内会・自治会」には「年に数回」まで合わせると、全体の43.8%の人が参加しています。「⑤町内会・自治会」以外のグループにおいては、「参加していない」が8割～9割程度を占めています。大半の人が「⑤町内会・自治会」以外のどの会・グループにも参加していないことがわかります。

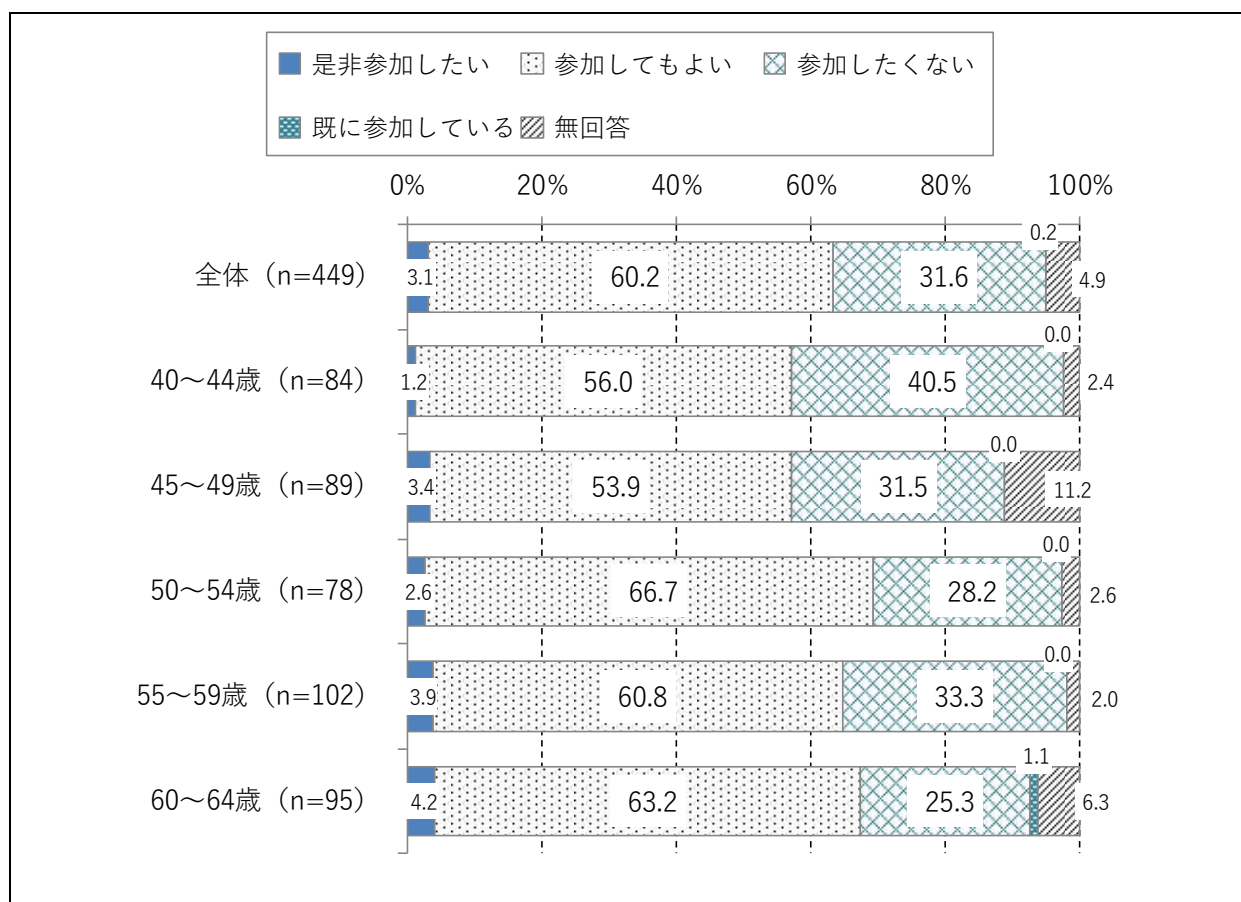
問9 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
【○は1つ】

図表 260 地域づくりへの参加意向(参加者)(全体)



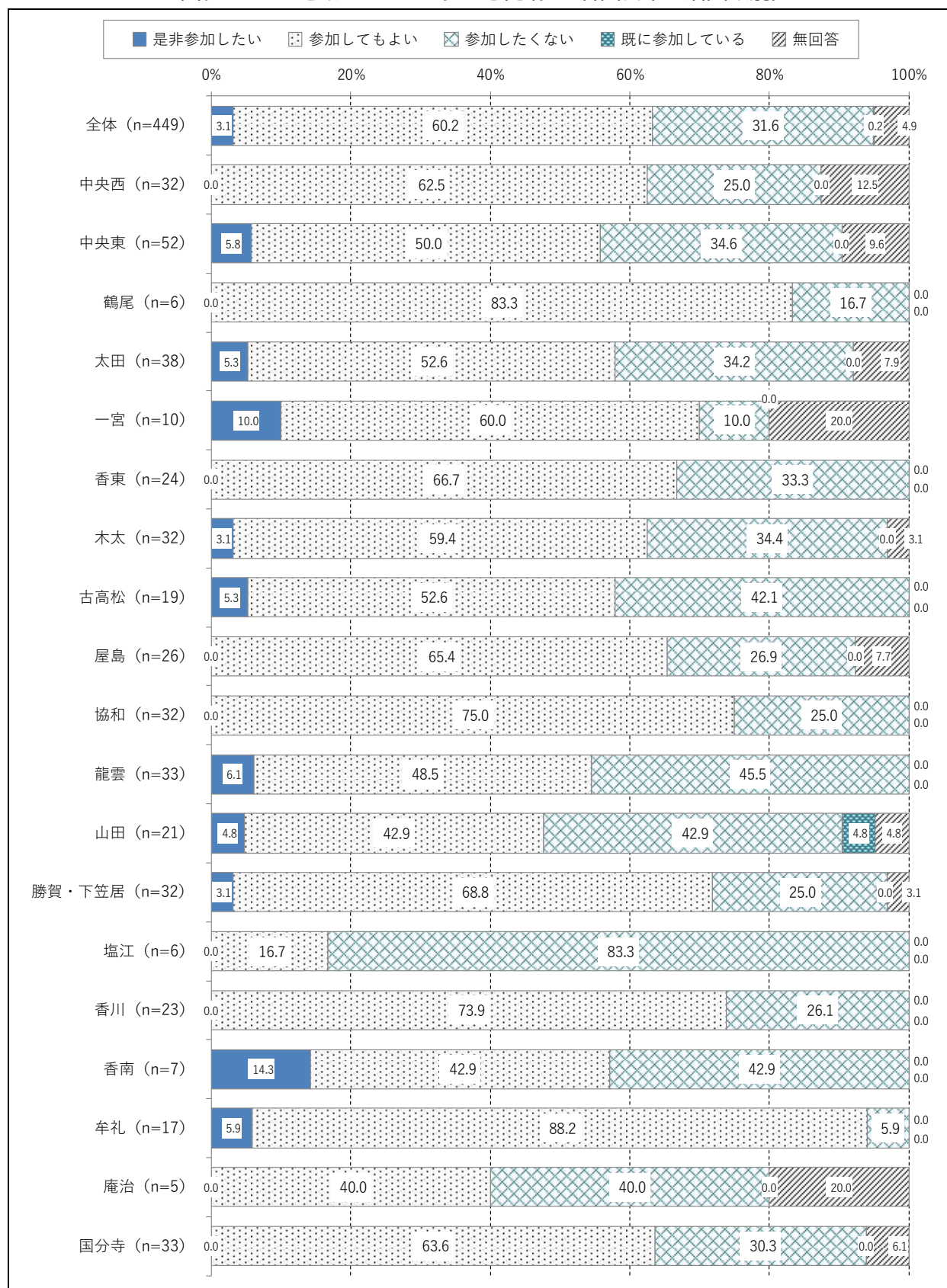
●地域づくりへの参加意向をたずねたところ、「参加してもよい」と回答した人の割合が最も高く、60.2%となっています。次いで、「参加したくない」(31.6%)、「是非参加したい」(3.1%)と続いています。

図表 261 地域づくりへの参加意向(参加者)(年齢階層別)



●地域づくりへの参加意向を年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「参加してもよい」と回答した人の割合が最も高くなっています。中でも、「50～54歳」が66.7%と、最も高くなっています。一方、「参加したくない」と回答した人の割合は「40～44歳」が40.5%と、最も高くなっています。

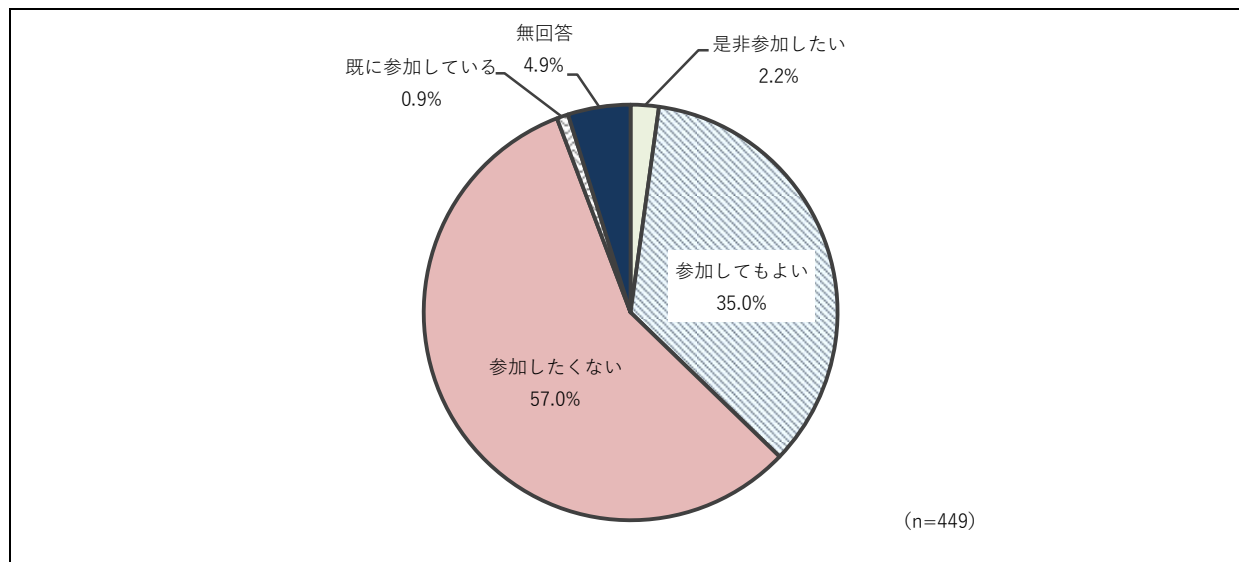
図表 262 地域づくりへの参加意向(参加者)(日常生活圏域別)



●地域づくりへの参加意向を日常生活圏域別にみると、「是非参加したい」および「参加してもよい」の割合が「牟礼」で 94.1%と最も高く、次いで「鶴尾」が 83.3%となっています。一方、「参加したくない」の割合は、「塩江」が 83.3%と最も高く、次いで「龍雲」(45.5%)、「山田」「香南」(42.9%)と続いています。

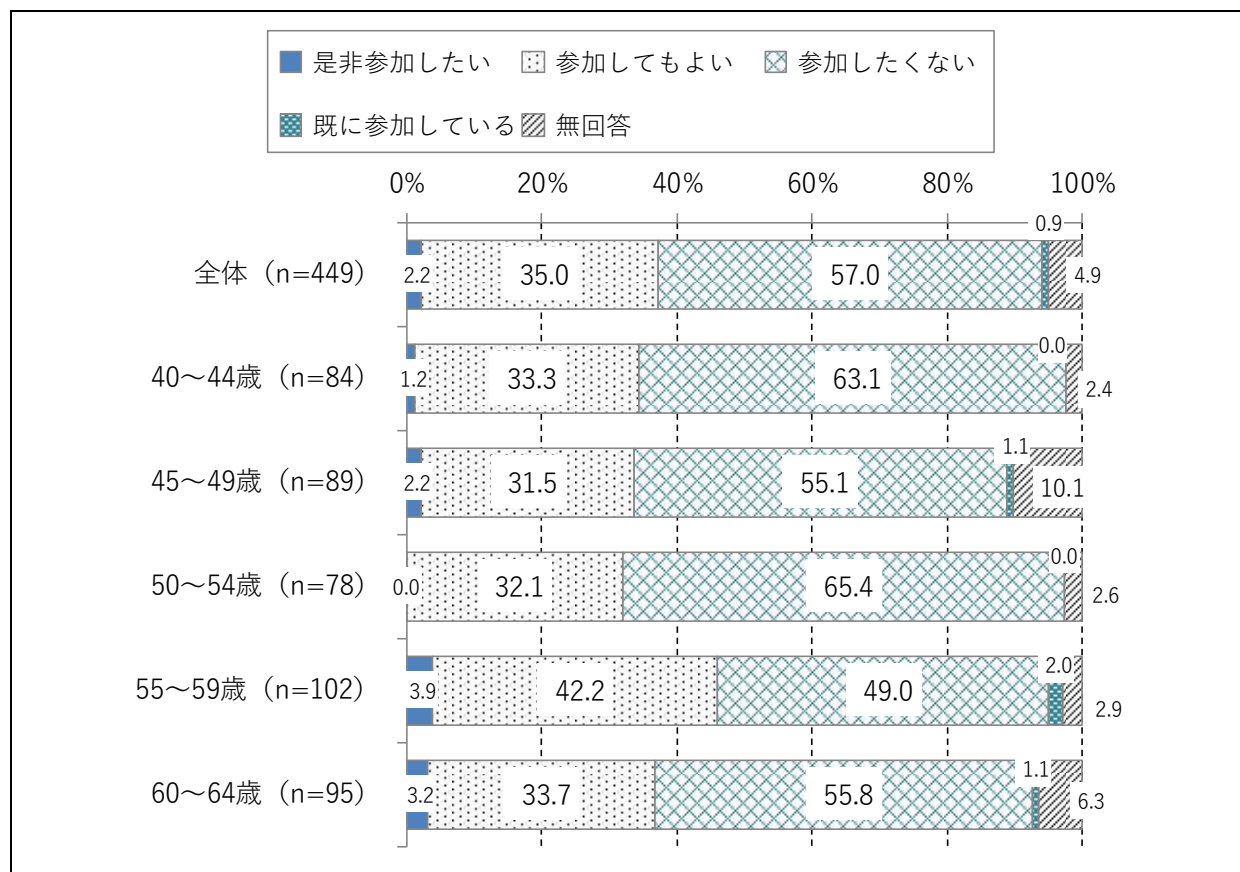
問10 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

図表 263 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体）



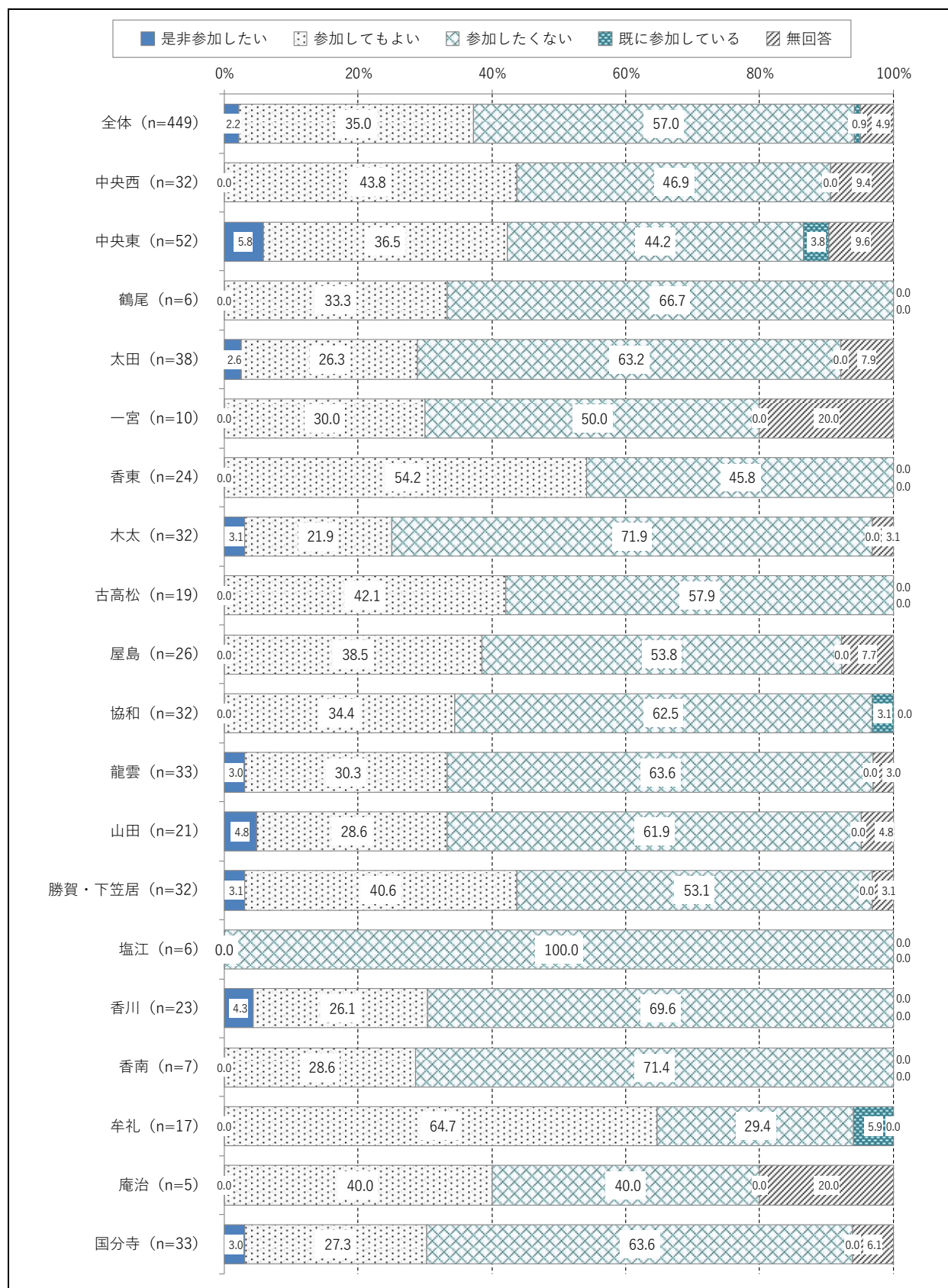
●地域づくりへの参加意向（企画・運営）をたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、57.0%となっています。次いで、「参加してもよい」（35.0%）、「是非参加したい」（2.2%）と続いています。

図表 264 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(年齢階層別)



●地域づくりへの参加意向(企画・運営)について年齢階層別にみると、企画・運営(お世話役)として「参加してもよい」の割合は「55～59歳」で42.2%と、最も高くなっています。次いで、「60～64歳」が33.7%と続いています。一方、「参加したくない」の割合は「50～54歳」が65.4%と最も高く、次いで「40～44歳」が63.1%と続いています。

図表 265 地域づくりへの参加意向(企画・運営)(日常生活圏域別)

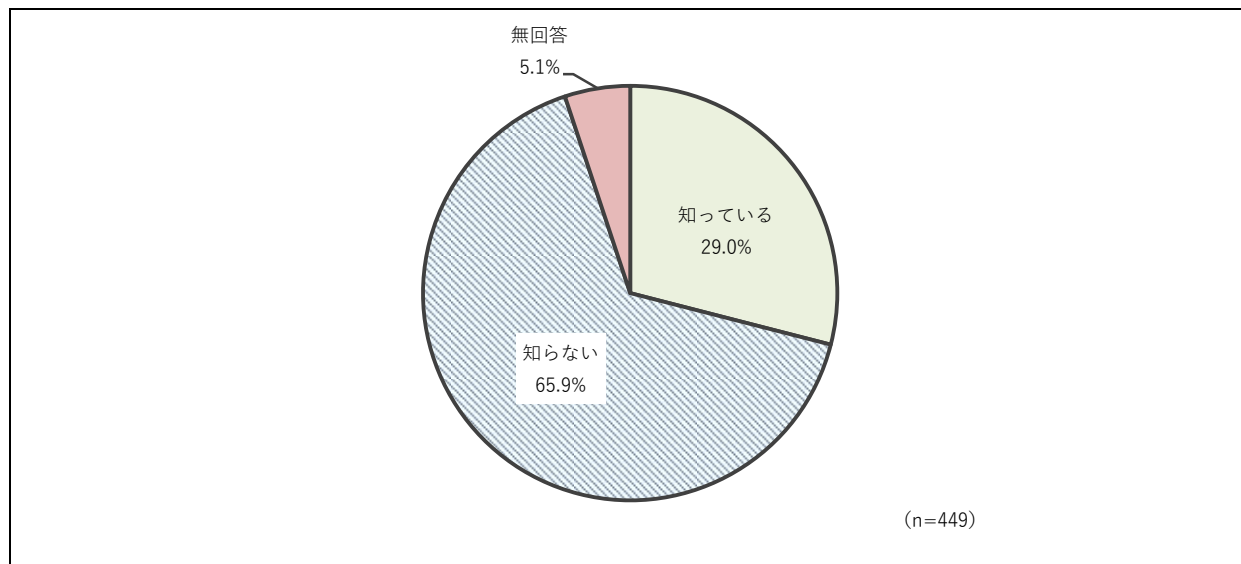


●地域づくりへの参加意向(企画・運営)を日常生活圏域別にみると、企画・運営(お世話役)として「是非参加したい」および「参加してもよい」の割合が最も高いのは「牟礼」で 64.7%、次いで、「香東」が 54.2%と続いています。一方、「参加したくない」の割合は「塩江」が 100.0%と、最も高く、次いで「木太」が 71.9%と続いています。

5. 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

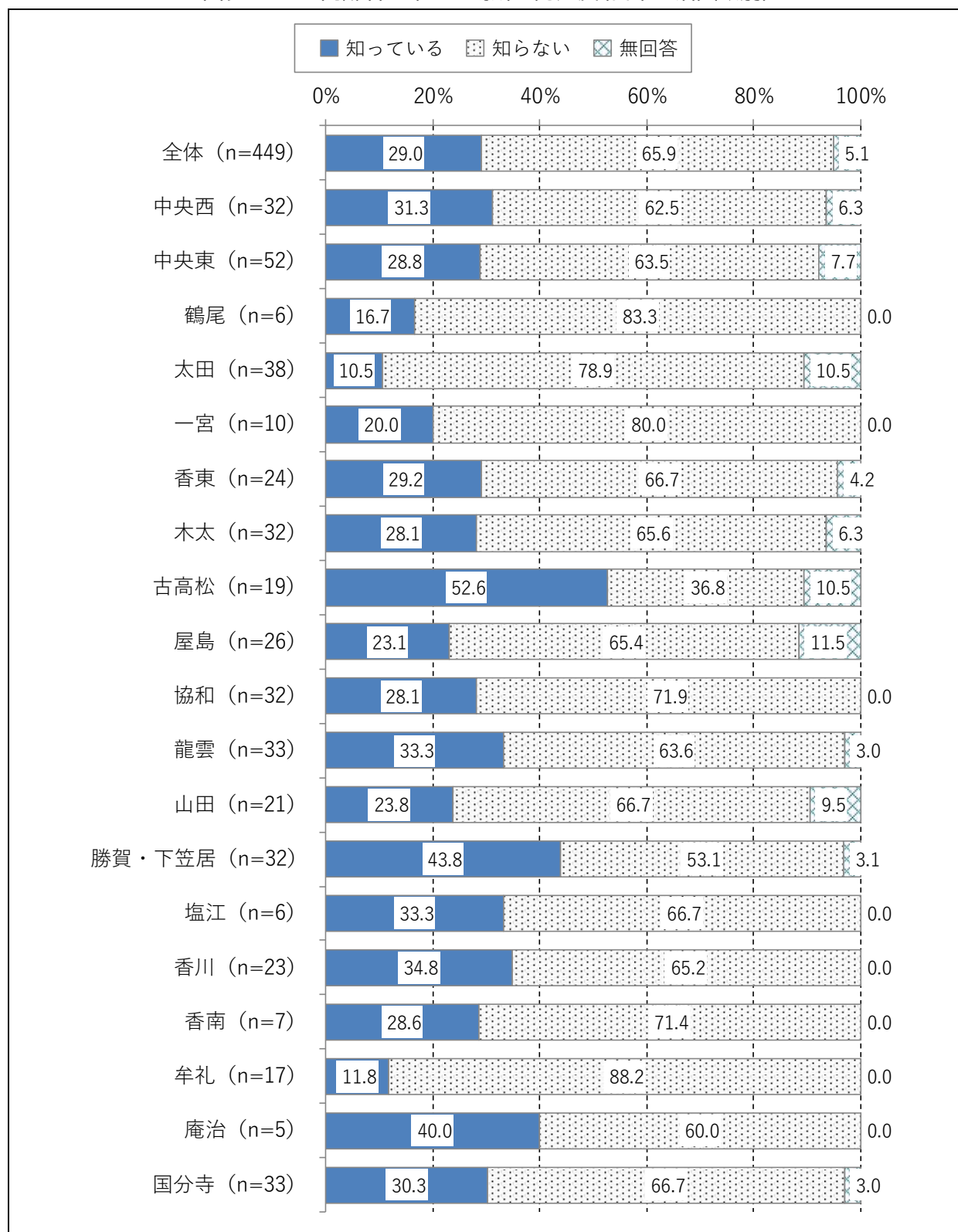
問 11 近所の高齢者が気軽に集える場所を知っていますか。【○は1つ】

図表 266 高齢者が気軽に集える場所の認知度(全体)



●高齢者が気軽に集える場所の認知度をたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合は29.0%となっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は65.9%となっています。

図表 267 高齢者が集える場所の認知度(日常生活圏域別)

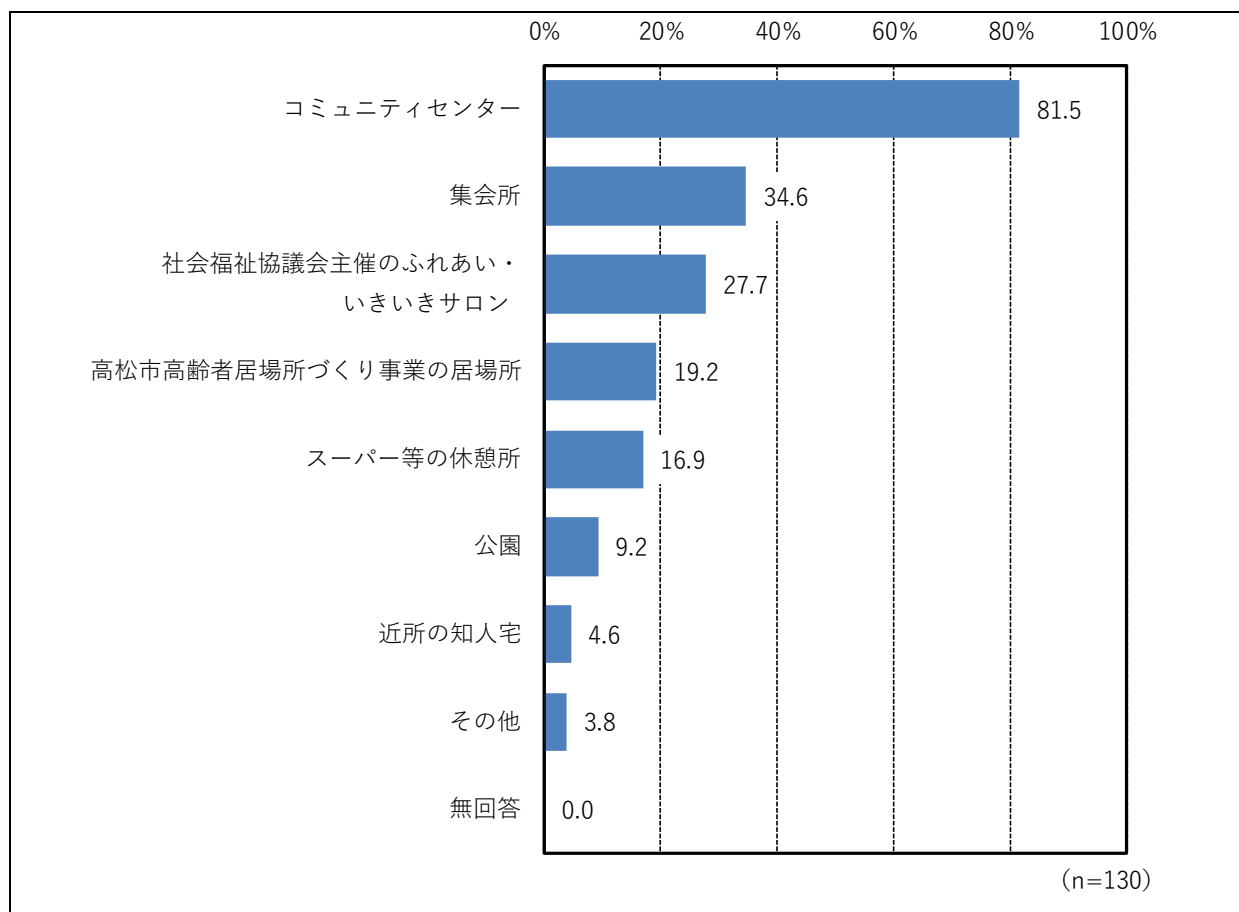


●高齢者が集える場所の認知度を日常生活圏域別にみると、気軽に集える場所を「知っている」割合が最も高いのは「古高松」で 52.6%、次いで、「勝賀・下笠居」43.8%、「庵治」40.0%と続いています。一方、「知らない」の割合は「牟礼」が 88.2%と、最も高く、次いで「鶴尾」が 83.3%、「一宮」80.0%と続いています。

問11で「1.知っている」と回答した方

問11-1 気軽に集える場所は次のどれですか。【〇はいくつでも】

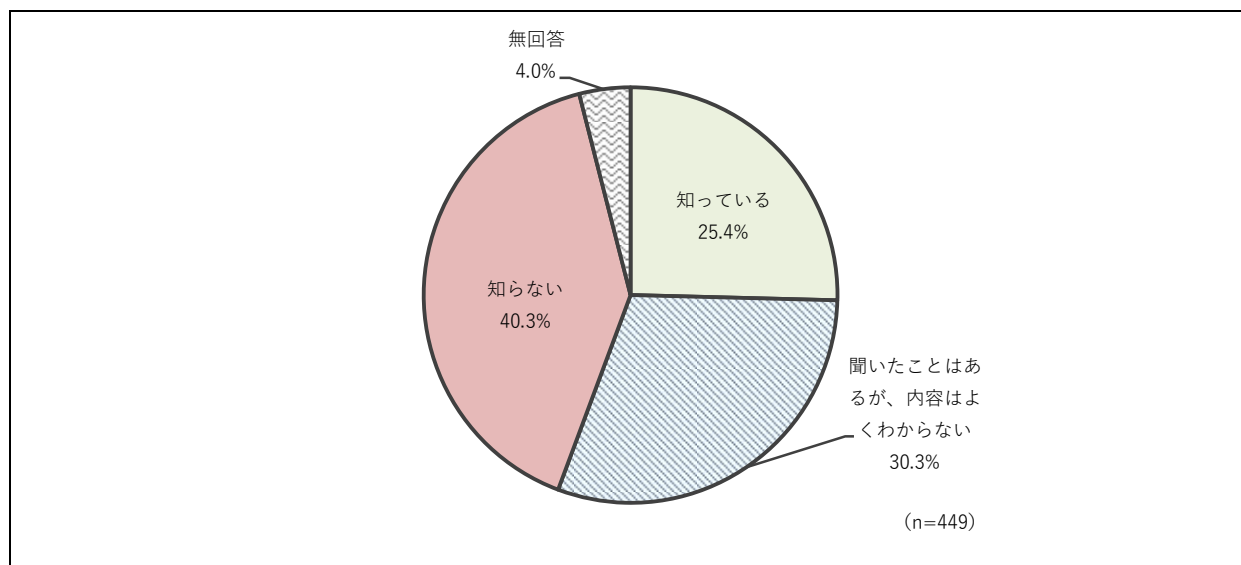
図表 268 高齢者が集える場所(全体／複数回答)



●高齢者が集える場所をたずねたところ、「コミュニティセンター」と回答した人の割合が最も高く、81.5%となっています。次いで、「集会所」(34.6%)、「社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン」(27.7%)と続いています。

問 12 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は1つ】

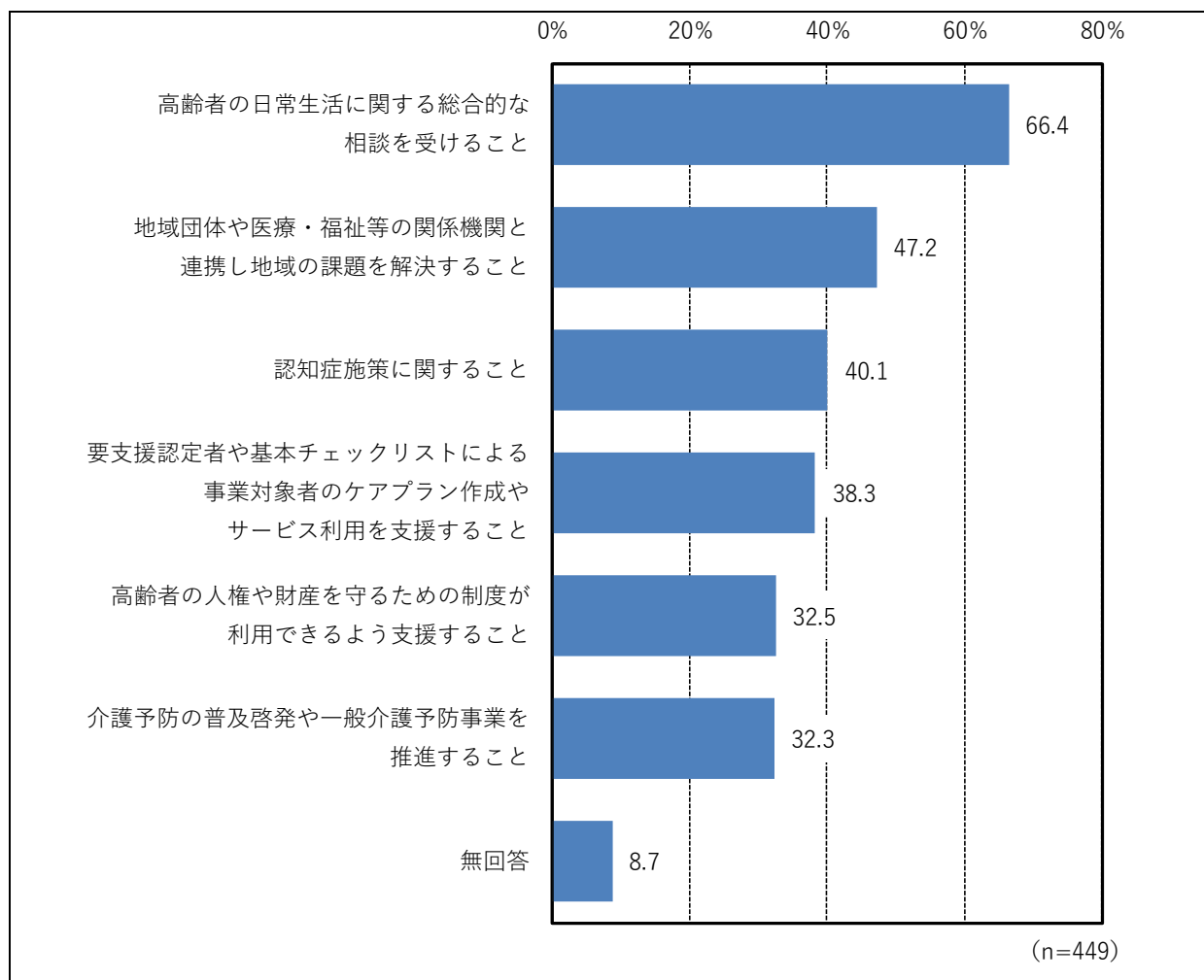
図表 269 高松市地域包括支援センターの認知度(全体)



●高松市地域包括支援センターの認知度をたずねたところ、「知らない」と回答した人の割合が最も高く、40.3%となっています。次いで、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(30.3%)、「知っている」(25.4%)と続いています。

問13 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。
【〇はいくつでも】

図表 270 地域包括支援センターが充実すべき業務(全体／複数回答)

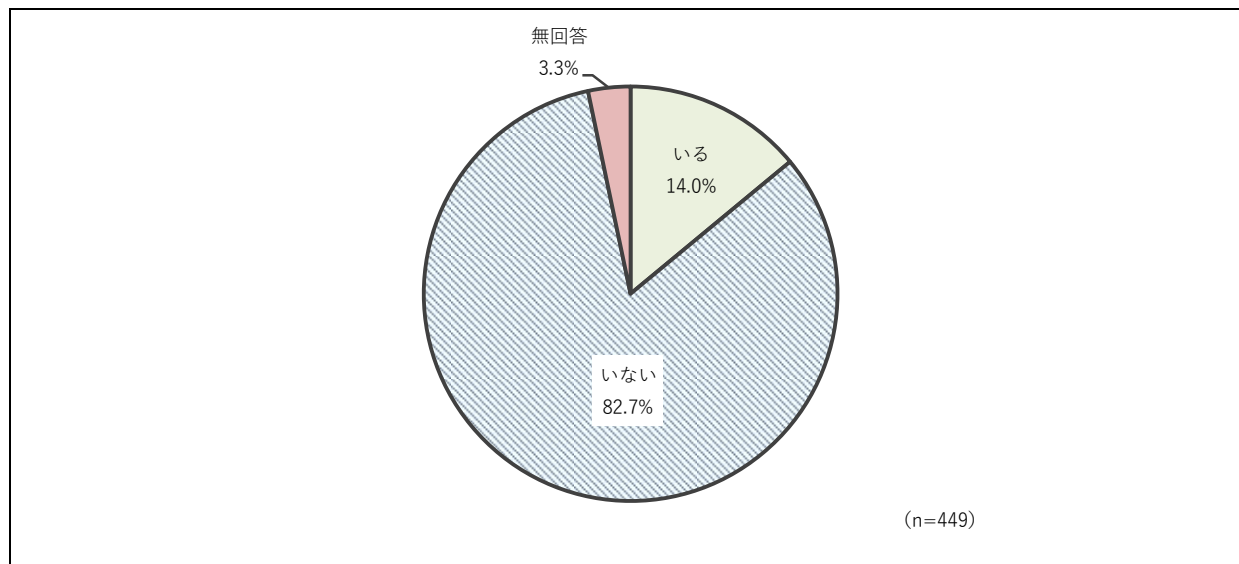


●地域包括支援センターが充実すべき業務をたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」と回答した人の割合が最も高く、66.4%となっています。次いで、「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し地域の課題を解決すること」(47.2%)、「認知症施策に関すること」(40.1%)と続いています。

6. 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

問 14 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。【○は 1 つ】

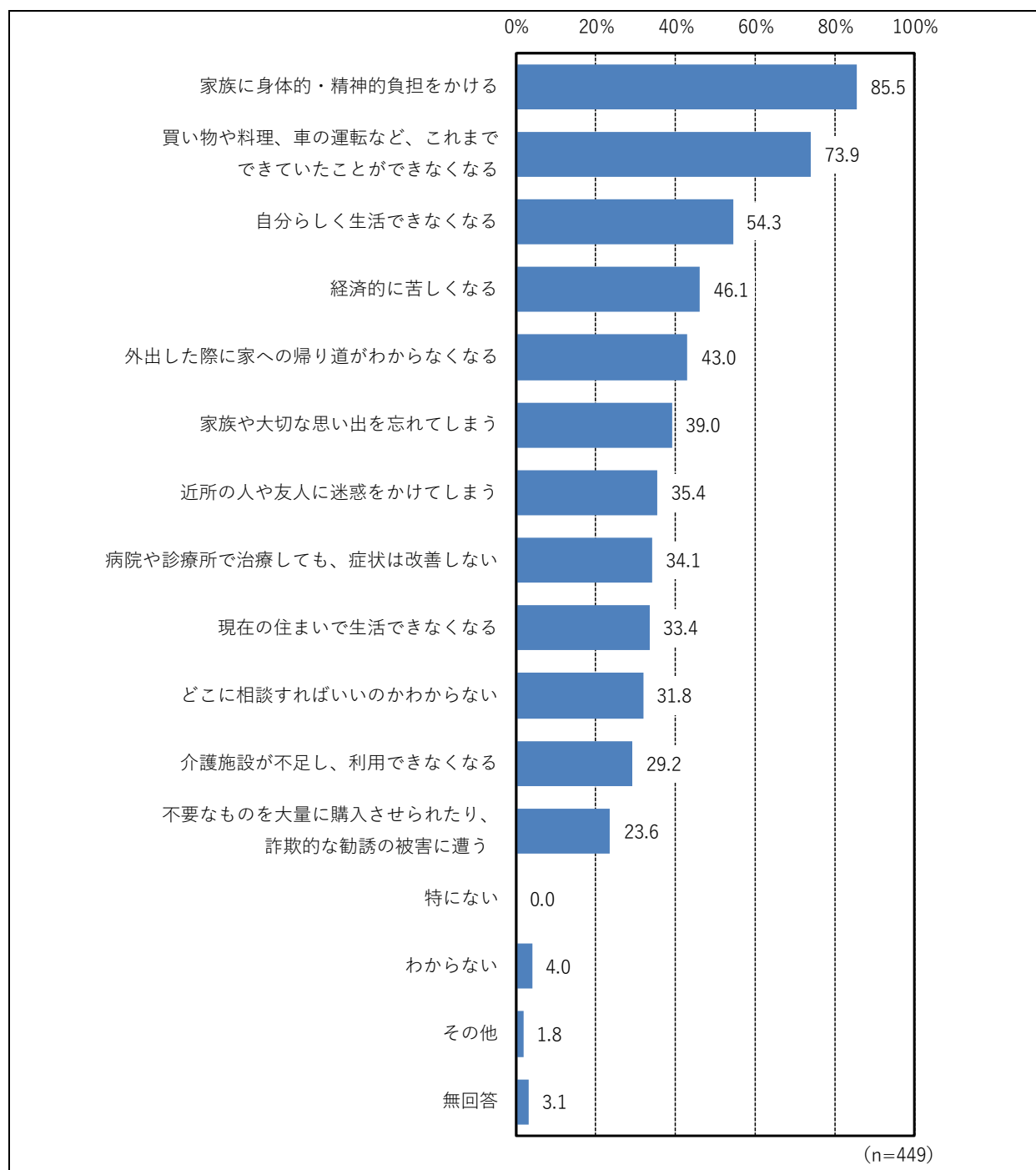
図表 271 本人又は家族に認知症の症状がある人の有無について(全体)



●本人又は家族に認知症の症状がある人の有無をたずねたところ、「いる」と回答した人の割合は 14.0%となっています。一方、「いない」と回答した人の割合は 82.7%となっています。

問15 もし、あなたが認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じますか。
【〇はいくつでも】

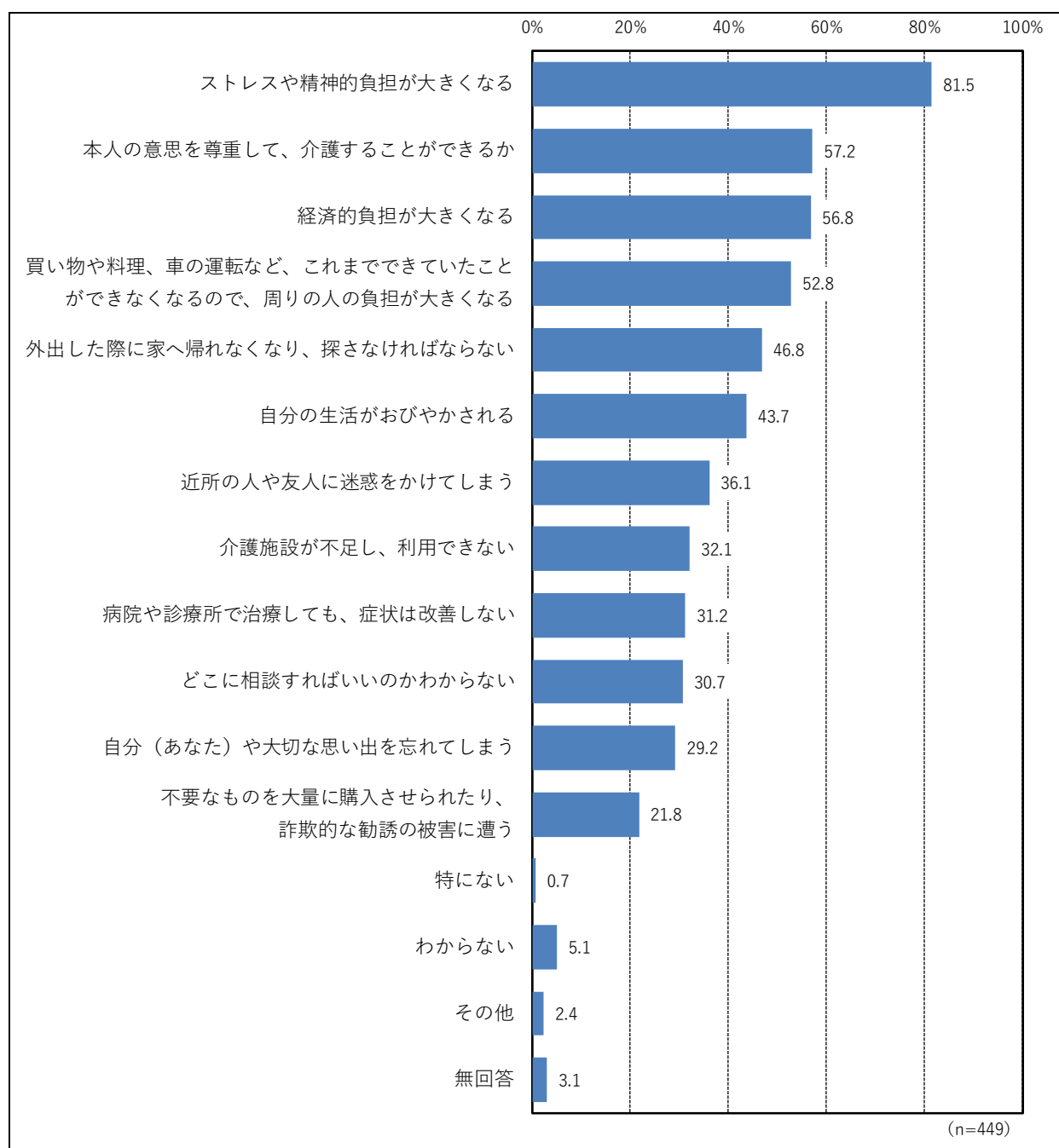
図表 272 自分が認知症になった時の不安(全体／複数回答)



- 自分が認知症になった時の不安をたずねたところ、「特にない」(0.0%)、「わからない」(4.0%)、「無回答」(3.1%)を除いた 92.9%の人が認知症になったとしたら何らかの不安を感じると回答しています。
- 不安を感じることにして、「家族に身体的・精神的負担をかける」と回答した人の割合が最も高く、85.5%となっています。次いで、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなる」(73.9%)、「自分らしく生活できなくなる」(54.3%)と続いています。

問 16 もし、家族が認知症になったとしたら、また、現在認知症の家族がいる場合どのようなことに困りますか。【○はいくつでも】

図表 273 家族が認知症になった時の不安(全体／複数回答)

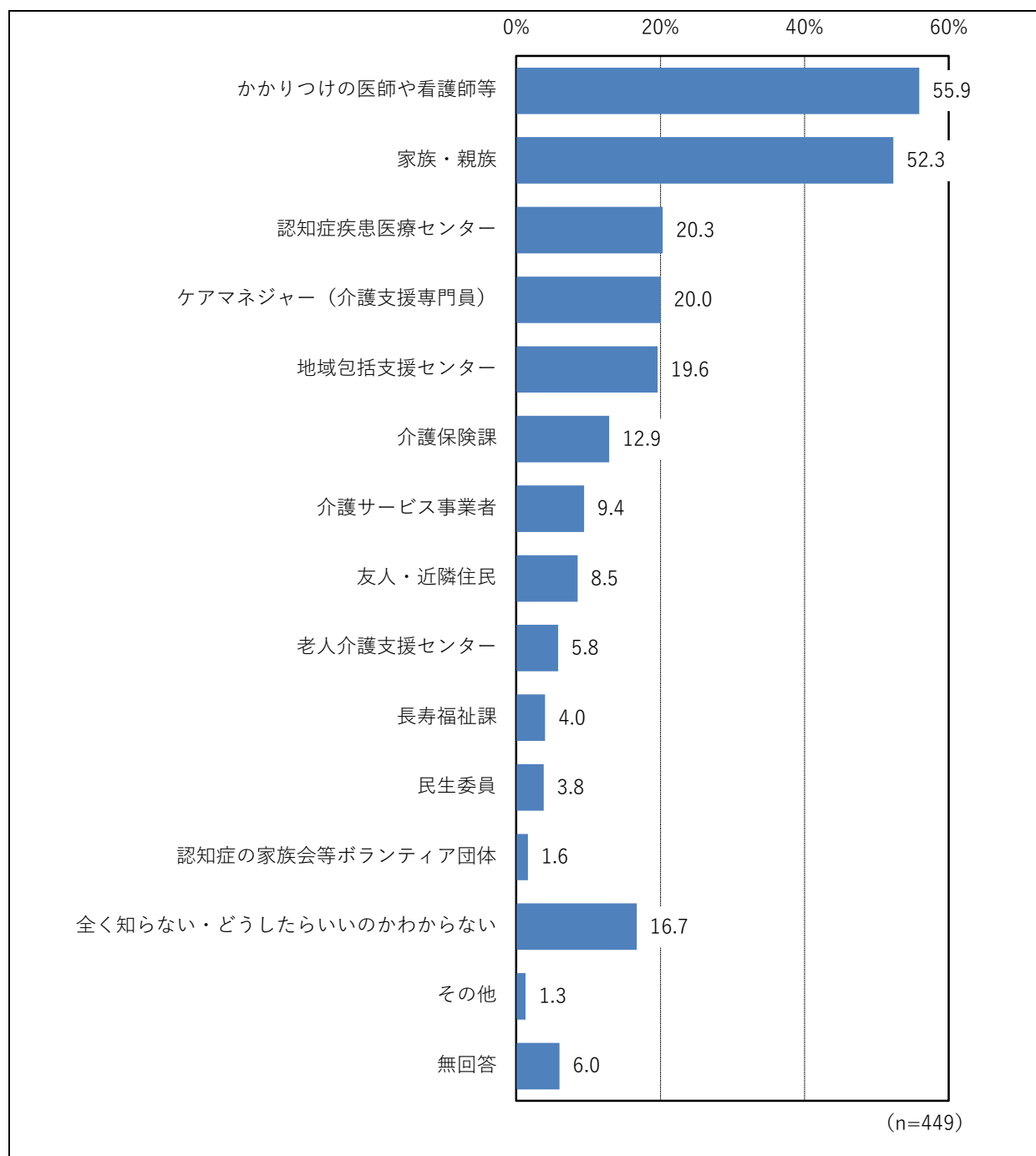


●家族が認知症になった時の不安をたずねたところ、「特にない」と回答した人の割合が 0.7%となっており、これと「わからない」(5.1%)、「無回答」(3.1%)を除いた 91.1%の人が、家族が認知症になったとしたら、また、現在認知症の家族がいる場合、何らかの困りごとがあると回答しています。

●不安を感じることで、「ストレスや精神的負担が大きくなる」と回答した人の割合が最も高く、81.5%となっています。次いで、「本人の意思を尊重して、介護することができるか」(57.2%)、「経済的負担が大きくなる」(56.8%)と続いています。

問 17 もし、あなたや家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

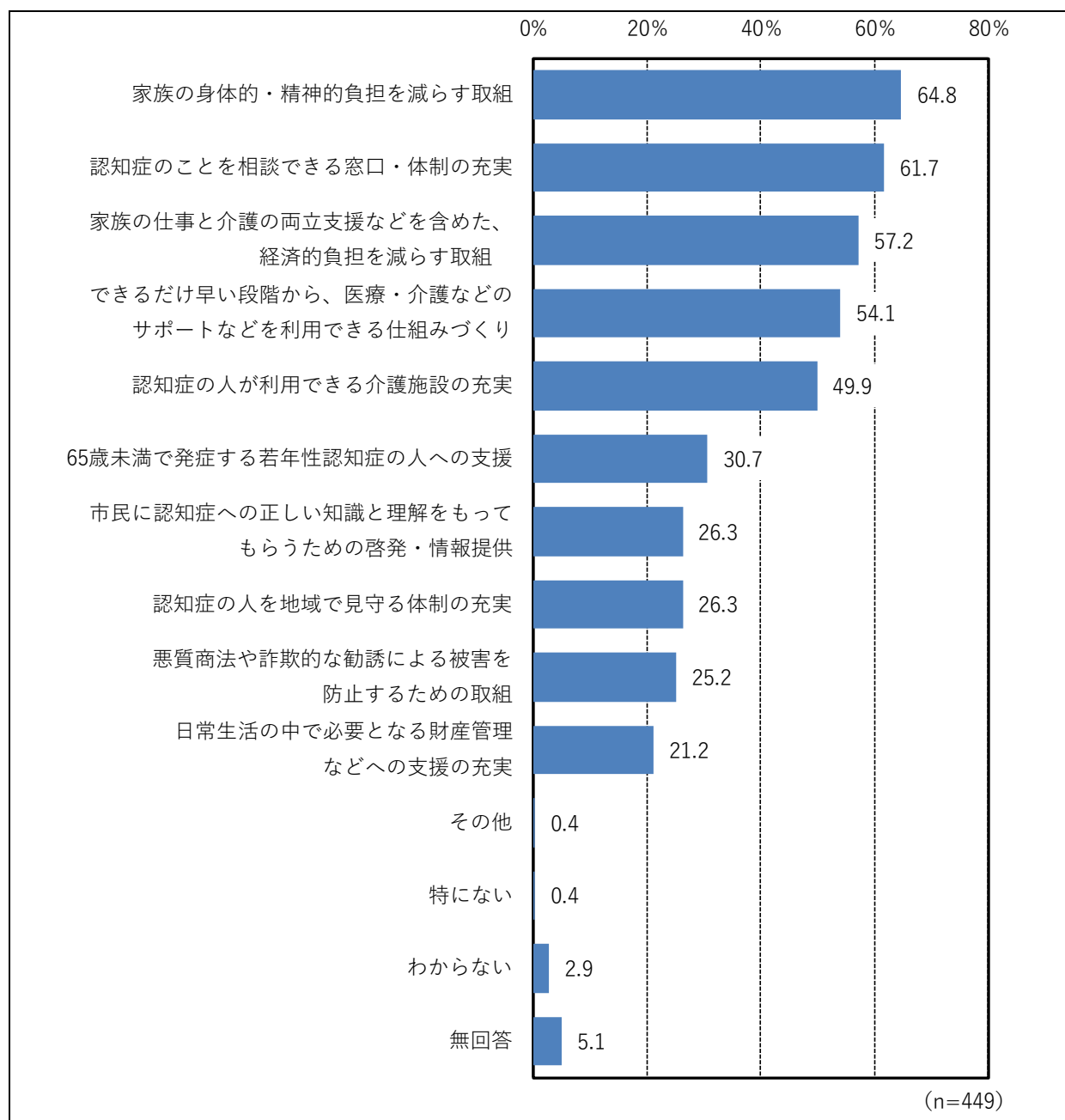
図表 274 認知症の疑いが生じた際の相談先(全体／複数回答)



●認知症の疑いが生じた際の相談先をたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」と回答した人の割合が最も高く、55.9%となっています。次いで、「家族・親族」(52.3%)、「認知症疾患医療センター」(20.3%)と続いています。

問18 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

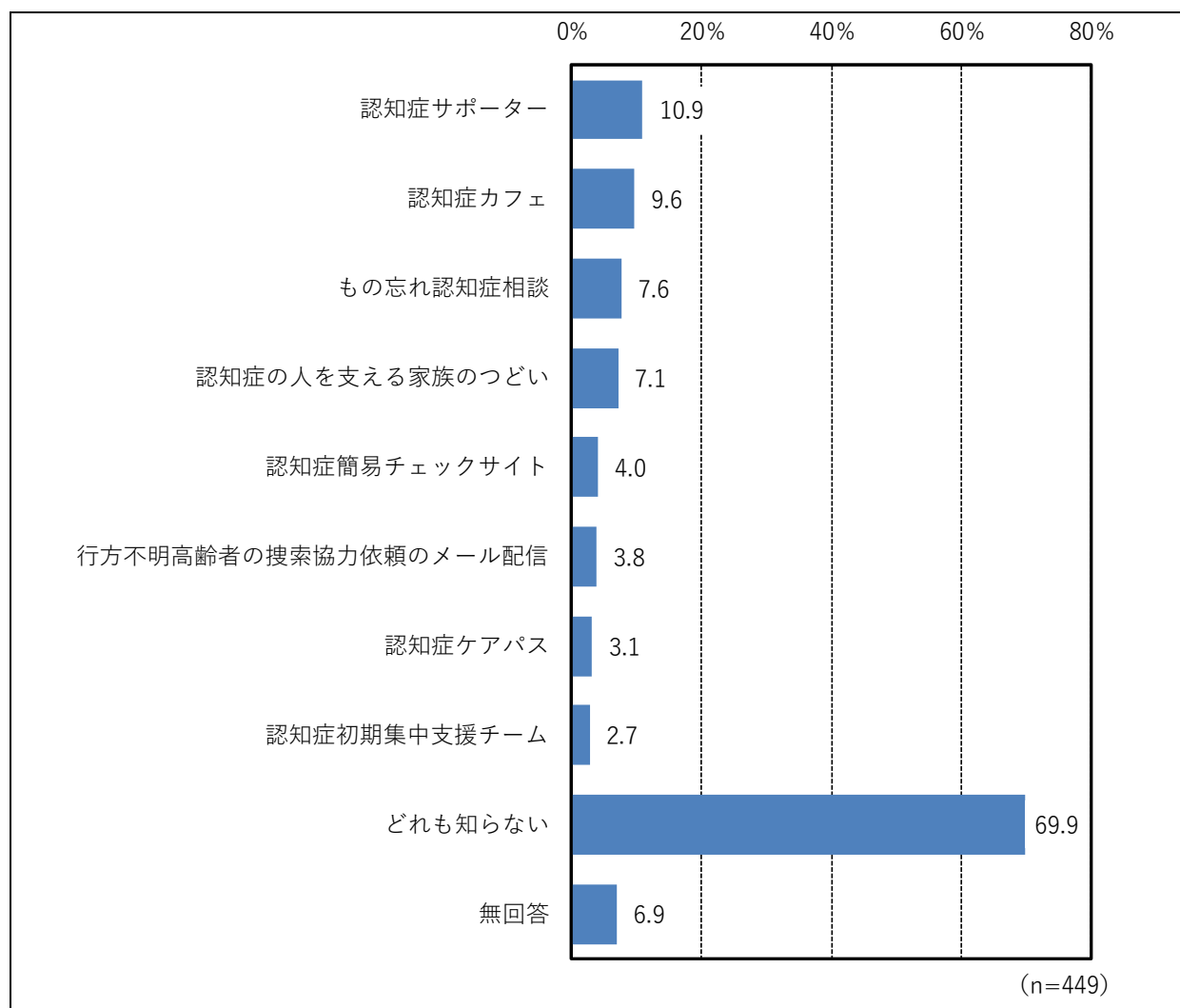
図表 275 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと(全体／複数回答)



●認知症になっても地域で安心して暮らせるために重点を置くべきことをたずねたところ、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」と回答した人の割合が最も高く、64.8%となっています。次いで、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」(61.7%)、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた、経済的負担を減らす取組」(57.2%)と続いています。

問19 高松市の認知症についての取組について知っていることはありますか。【〇はいくつでも】

図表 276 高松市の認知症に関する取組への認知度(全体／複数回答)

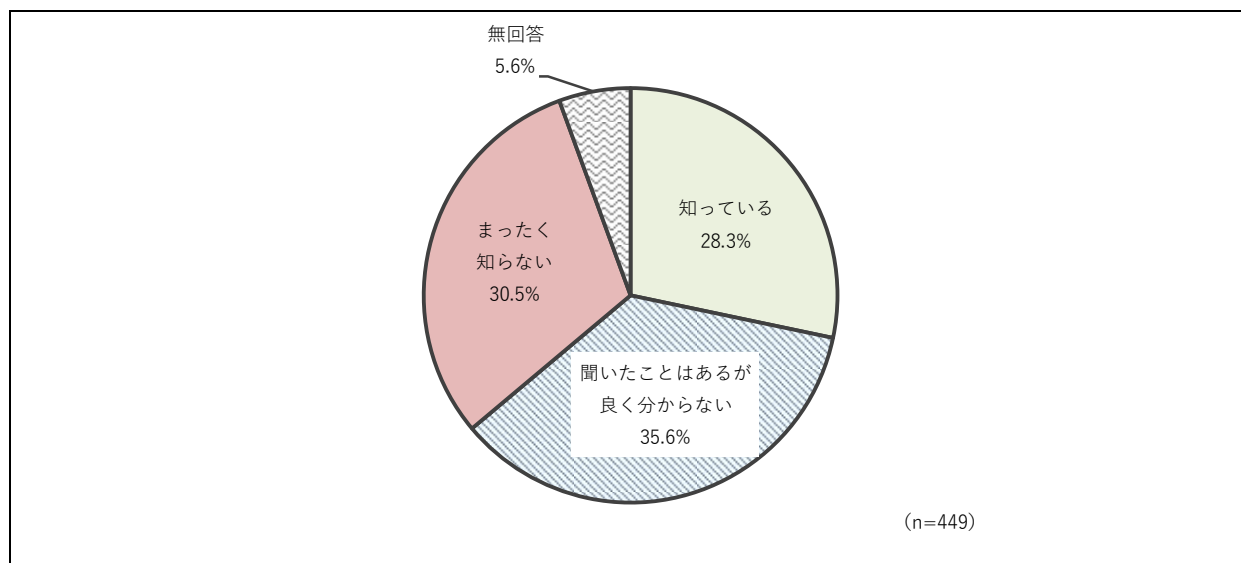


●高松市の認知症に関する取組への認知度をたずねたところ、「認知症サポーター」と回答した人の割合が最も高く、10.9%となっています。次いで、「認知症カフェ」(9.6%)、「もの忘れ認知症相談」(7.6%)と続いています。

●「どれも知らない」と回答した人の割合は、69.9%となっています。

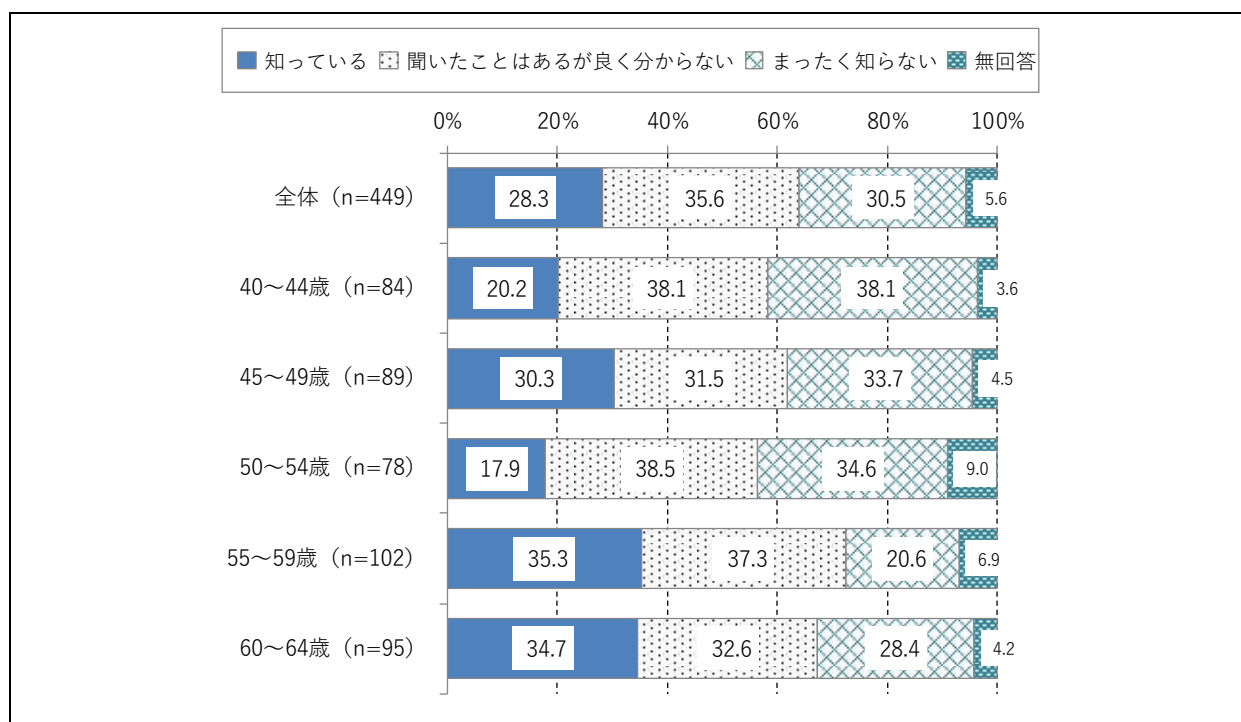
問 20 認知症等で判断能力が十分でない方に、本人に代わって法的に支援できる成年後見制度を知っていますか。【○は1つ】

図表 277 成年後見人制度の認知度(全体)



●成年後見人制度の認知度をたずねたところ、「聞いたことはあるが良く分からない」と回答した人の割合が最も高く、35.6%となっています。次いで、「まったく知らない」(30.5%)、「知っている」(28.3%)と続いています。

図表 278 成年後見人制度の認知度(年齢階層別)

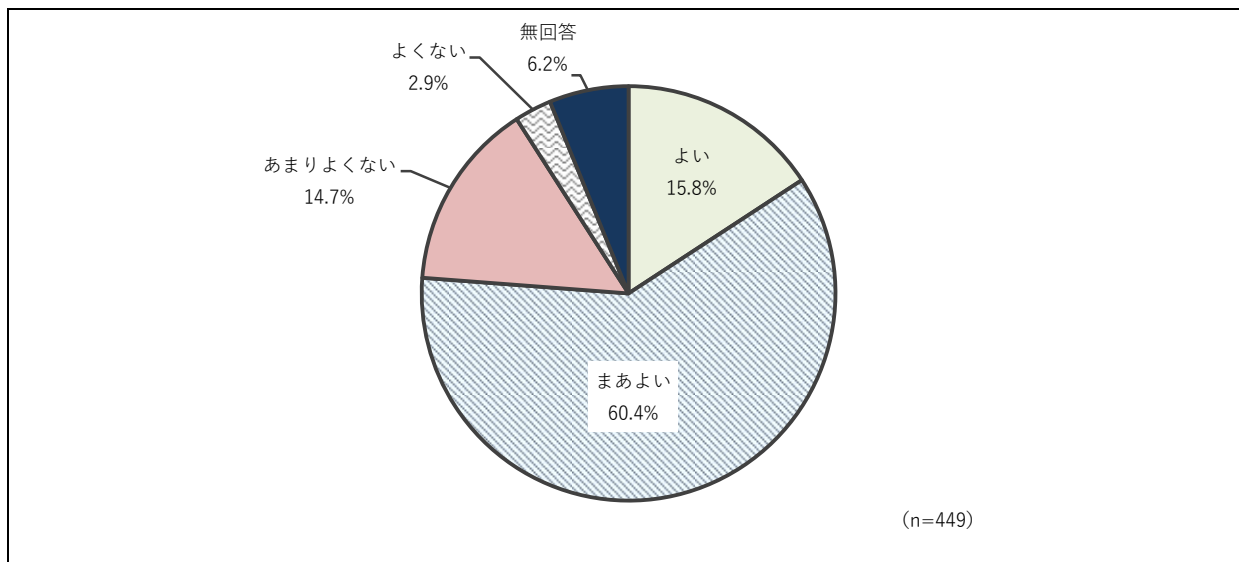


●成年後見人制度の認知度を年齢階層別にみると、「知っている」と回答した人は、「55～59 歳」が 35.3%と最も高く、次いで「60～64 歳」(34.7%)、「45～49 歳」(30.3%)と続いています。「まったく知らない」と回答した人は、「40～44 歳」が 38.1%と最も高く、次いで「50～54 歳」(34.6%)、「45～49 歳」(33.7%)と続いています。

7. 健康づくりについて

問 21 自分の健康をどのように感じていますか。【○は1つ】

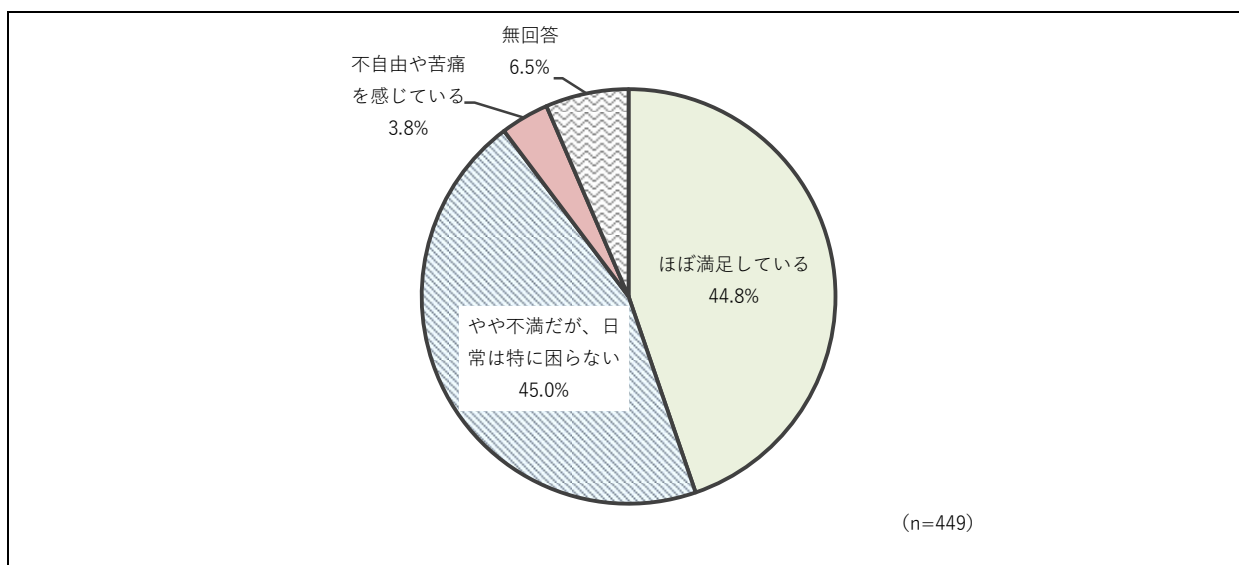
図表 279 主観的健康感(全体)



●主観的健康感をたずねたところ、「まあよい」と回答した人の割合が最も高く、60.4%となっています。次いで、「よい」(15.8%)、「あまりよくない」(14.7%)と続いています。

問 22 現在、あなたの歯や口の中の状態について、どのように感じていますか(入れ歯を入れた状態でもかまいません)。【○は1つ】

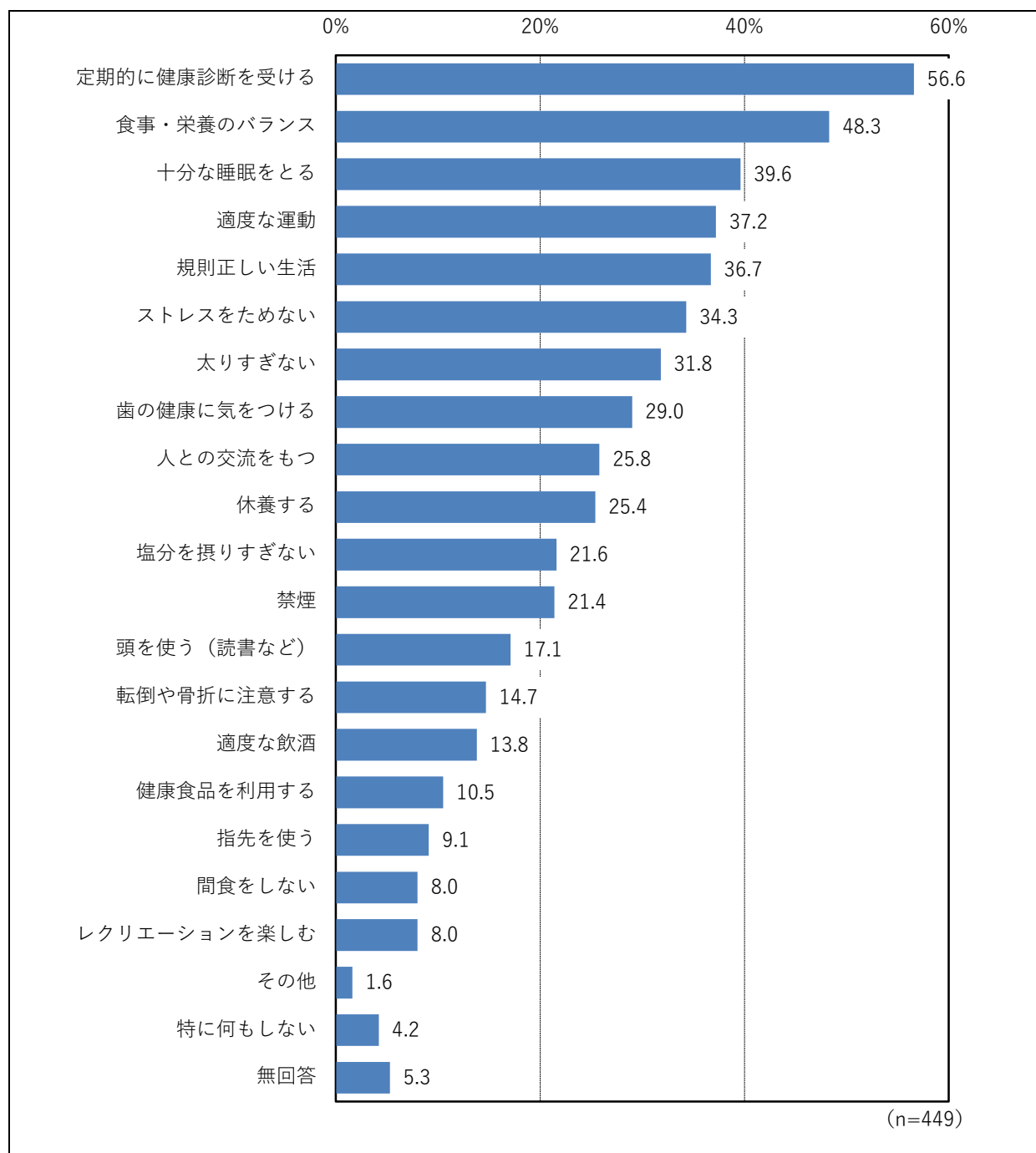
図表 280 歯や口腔内の健康状態について(全体)



●歯や口腔内の健康状態についてたずねたところ、「やや不満だが、日常は特に困らない」と回答した人の割合が最も高く、45.0%となっています。次いで、「ほぼ満足している」(44.8%)、「不自由や苦痛を感じている」(3.8%)と続いています。

問 23 あなたは健康を守るために、どのようなことに気をつけていますか。【〇はいくつでも】

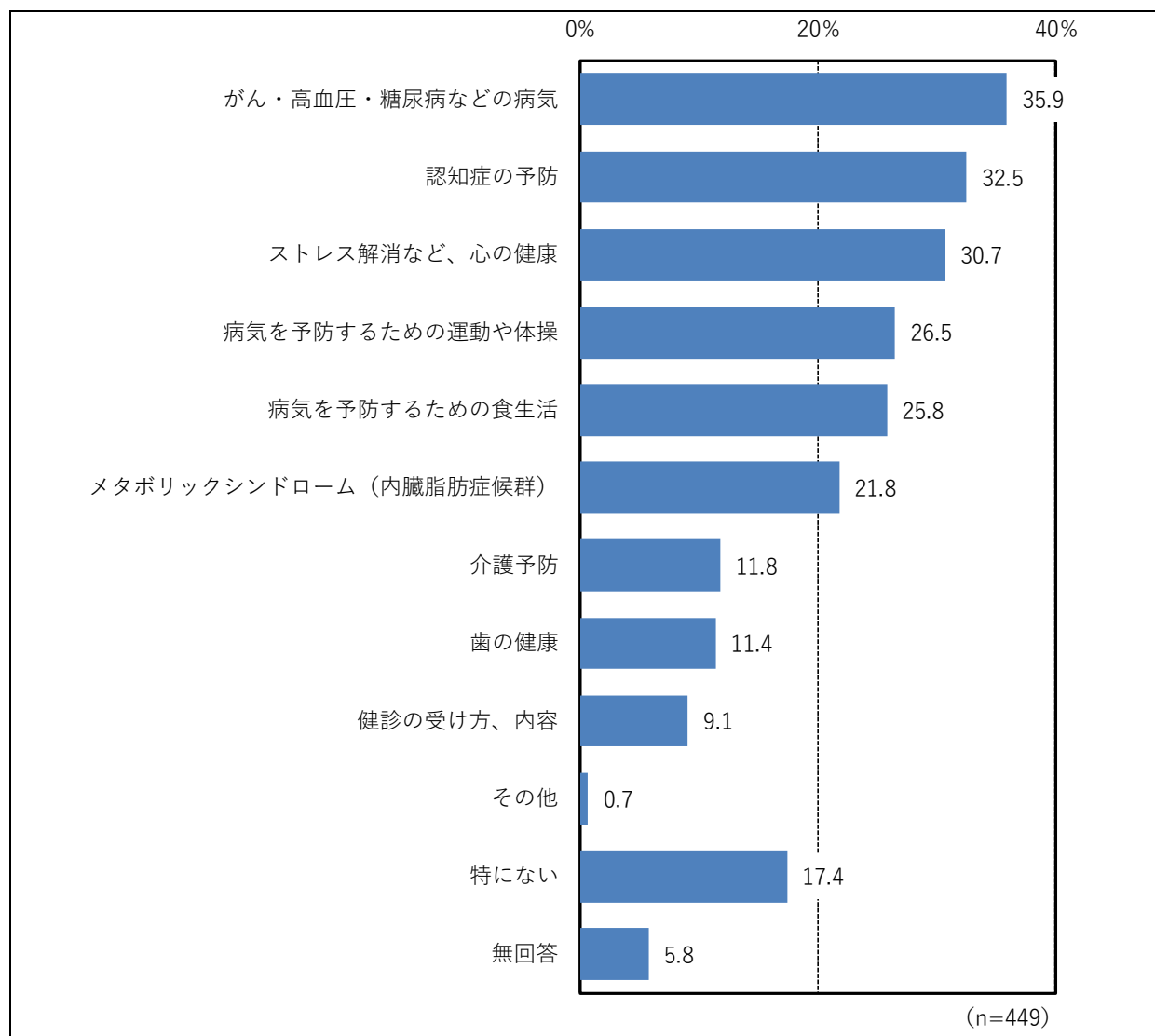
図表 281 健康を守るために気をつけていること(全体／複数回答)



●健康を守るために気をつけていることをたずねたところ、「定期的健康診断を受ける」と回答した人の割合が最も高く、56.6%となっています。次いで、「食事・栄養のバランス」(48.3%)、「十分な睡眠をとる」(39.6%)と続いています。

問24 健康について知りたいことは何ですか。【○はいくつでも】

図表 282 健康について知りたいこと(全体／複数回答)

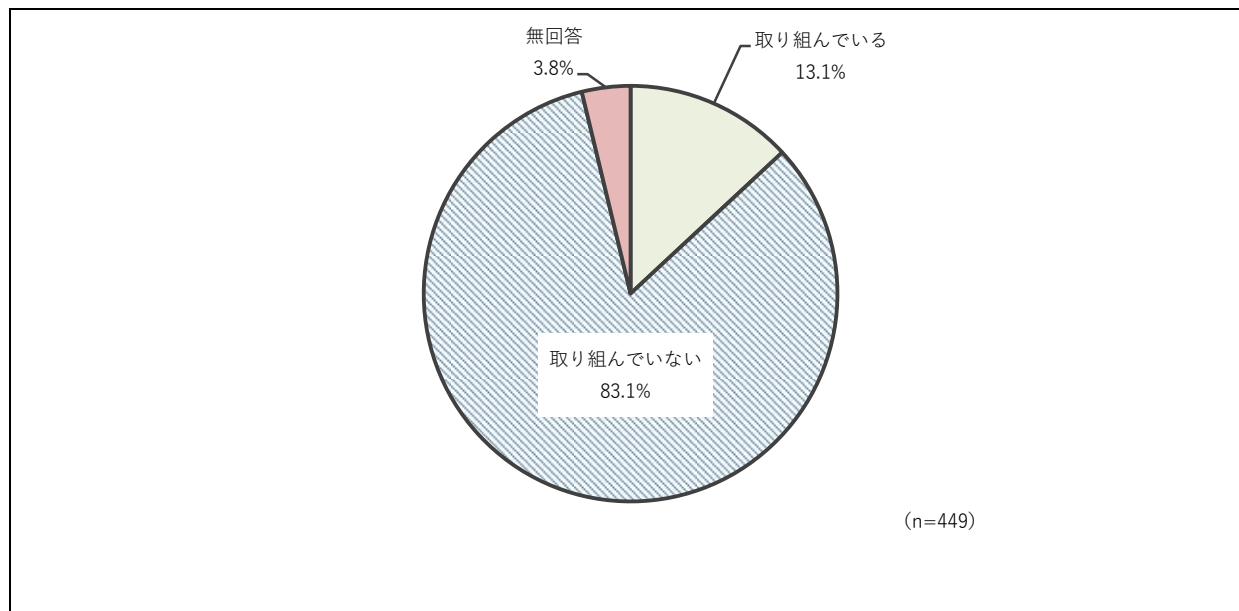


●健康について知りたいことをたずねたところ、「がん・高血圧・糖尿病などの病気」と回答した人の割合が最も高く、35.9%となっています。次いで、「認知症の予防」(32.5%)、「ストレス解消など、心の健康」(30.7%)と続いています。

8. 一般介護予防事業について

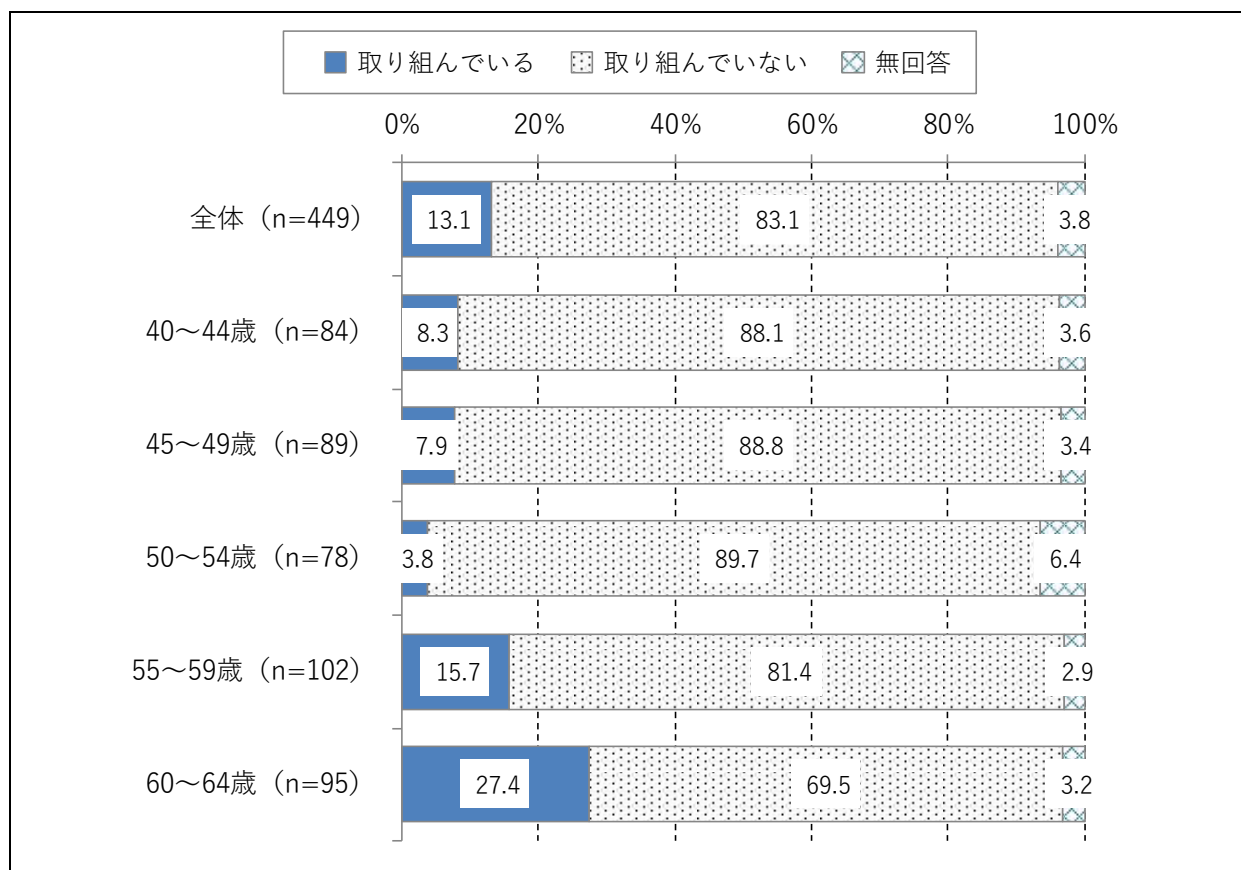
問 25 現在あなたは介護予防に取り組んでいますか。【○は1つ】

図表 283 介護予防への取組の有無(全体)



●介護予防への取組の有無をたずねたところ、「取り組んでいる」と回答した人の割合は 13.1%となっています。一方、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 83.1%となっています。

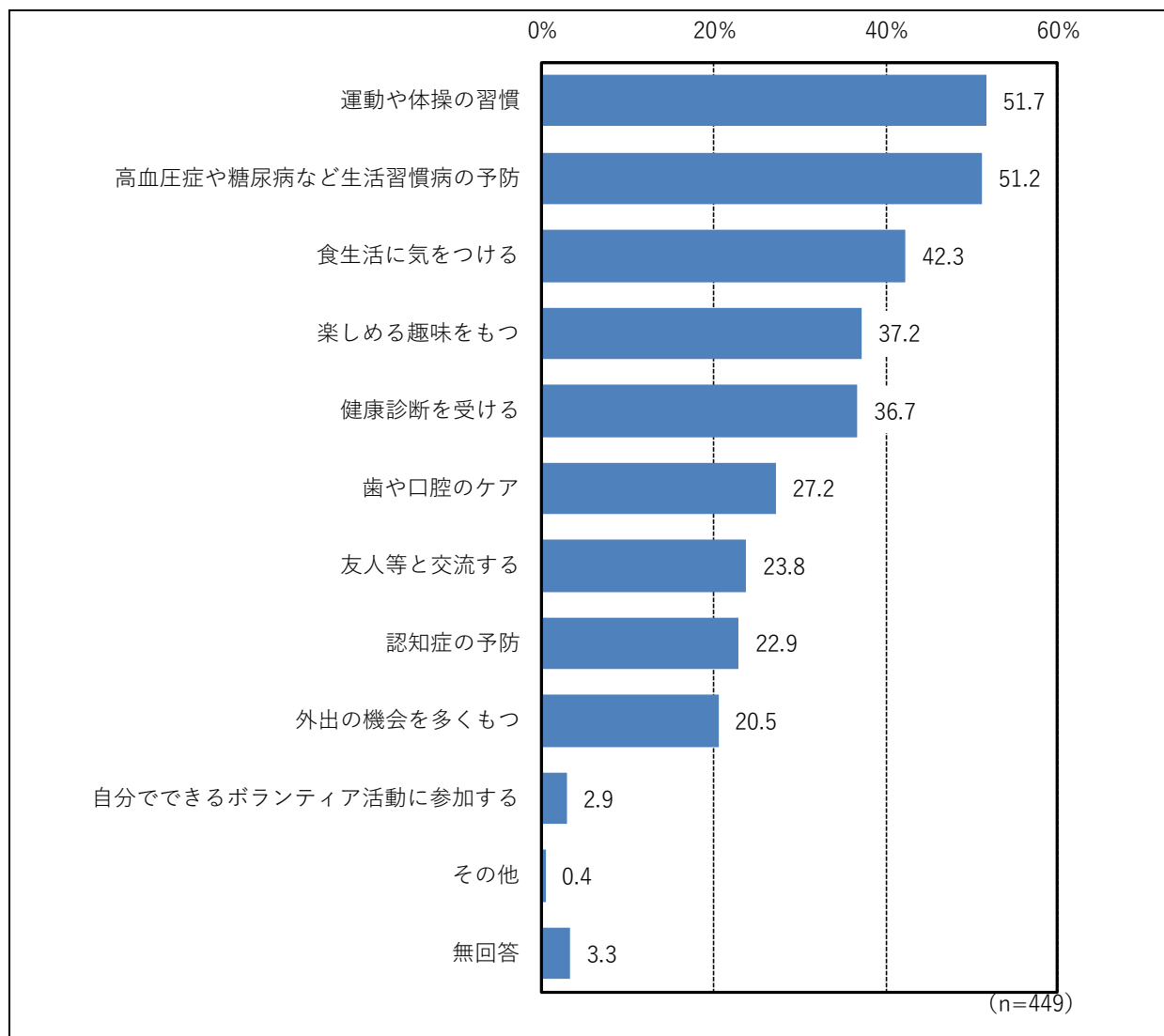
図表 284 介護予防への取組の有無（年齢階層別）



●介護予防への取組の有無を年齢階層別にみると、「参加している」と回答した人の割合は、「60～64歳」が最も高く、27.4%となっています。次いで、「55～59歳」(15.7%)、「40～44歳」(8.3%)と続いています。

問 26 介護予防の上で重要と思われるものに○をつけてください。【○は3つまで】

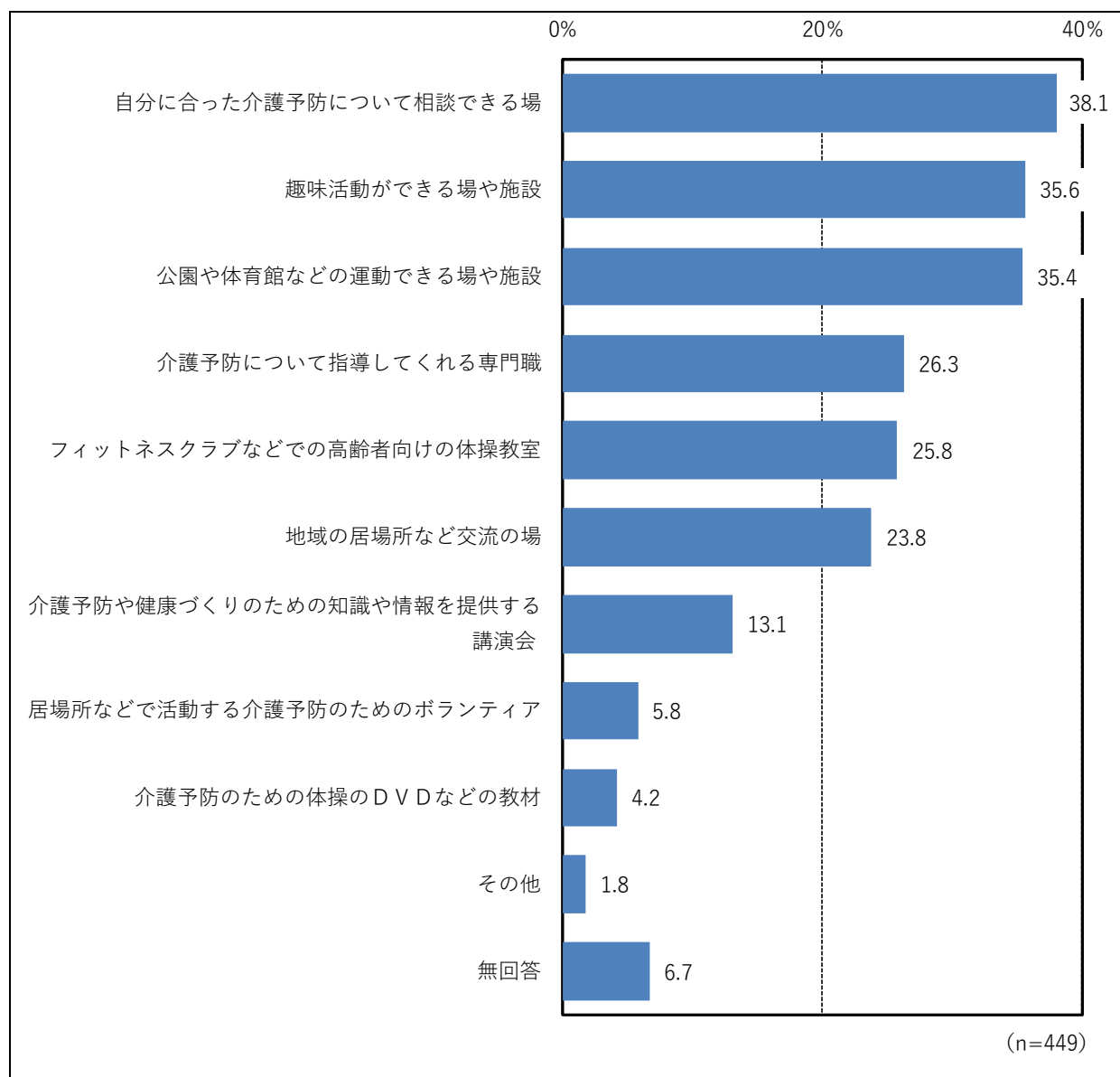
図表 285 介護予防の上で重要なこと(全体／複数回答)



●介護予防の上で重要なことをたずねたところ、「運動や体操の習慣」と回答した人の割合が最も高く、51.7%となっています。次いで、「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」(51.2%)、「食生活に気をつける」(42.3%)と続いています。

問 27 自分で介護予防に取り組むためにどのようなものがあればよいと思いますか。
【〇は3つまで】

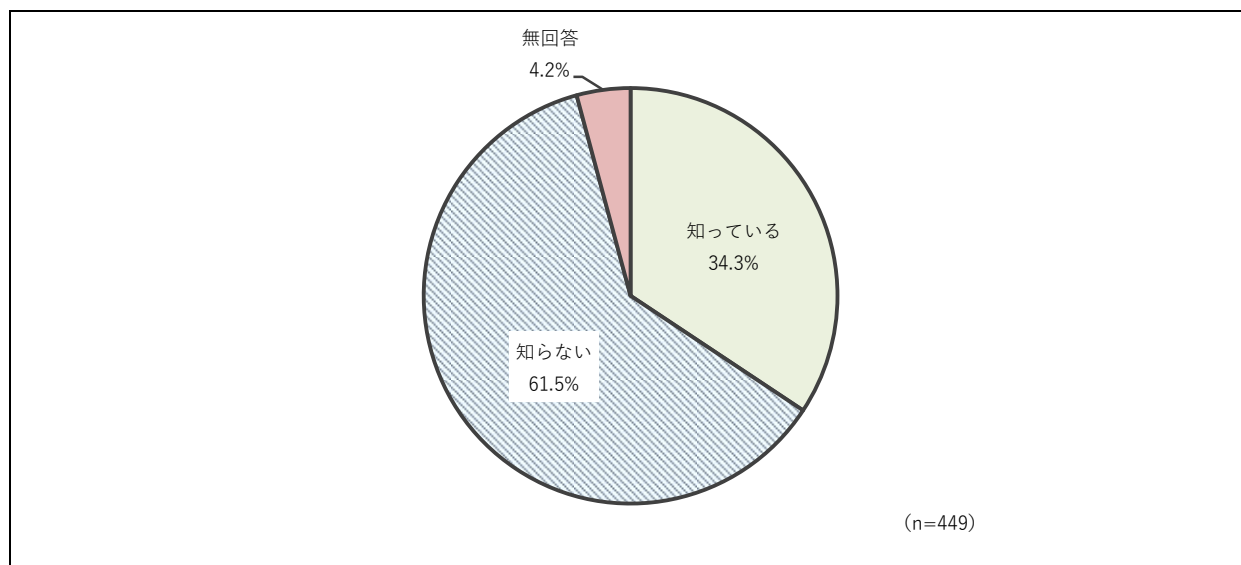
図表 286 自分で介護予防に取り組むために必要なもの(全体／複数回答)



- 自分で介護予防に取り組むために必要なものをたずねたところ、「自分に合った介護予防について相談できる場」と回答した人の割合が最も高く、38.1%となっています。次いで、「趣味活動ができる場や施設」(35.6%)、「公園や体育館などの運動できる場や施設」(35.4%)と続いています。

問 28 ボランティア活動などの社会参加が介護予防に効果があることは、知っていますか。
【○は1つ】

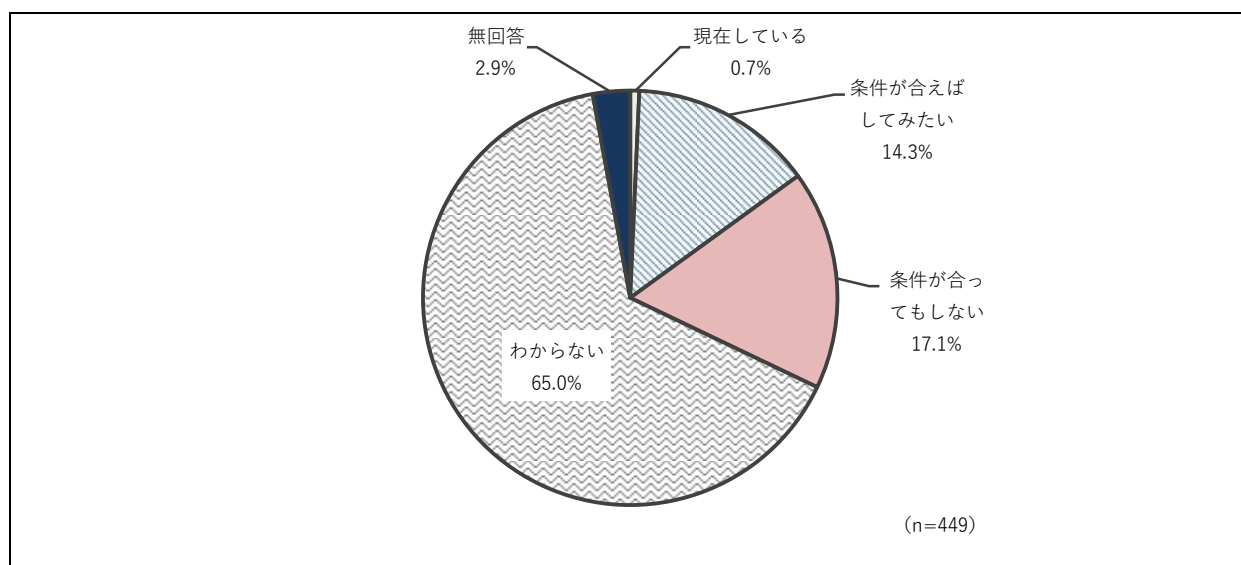
図表 287 社会参加による介護予防効果の認知度(全体)



●社会参加による介護予防効果の認知度をたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合は34.3%となっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は61.5%となっています。

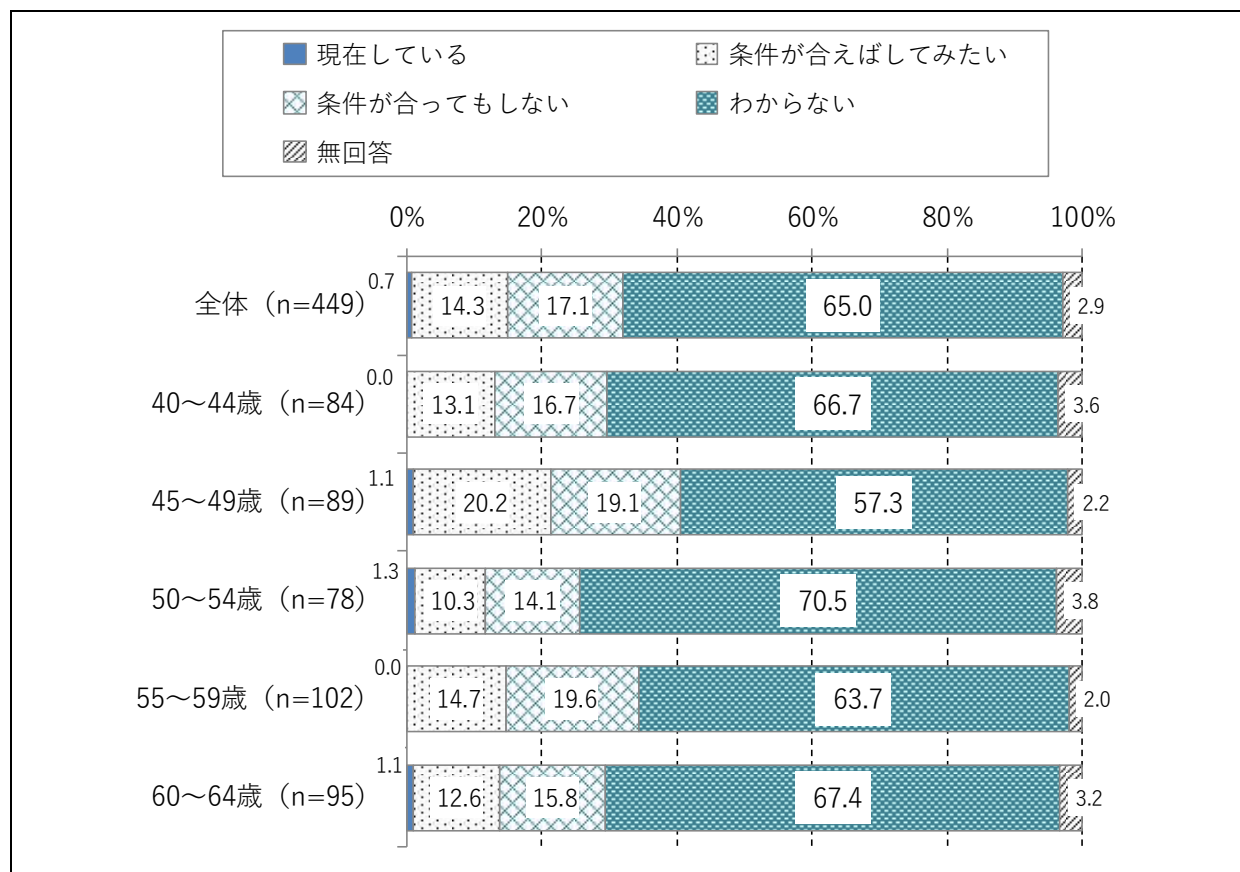
問 29 様々なボランティア活動の種類がありますが、中でも、介護予防ボランティアの活動をしてみたいですか。【○は1つ】

図表 288 介護予防ボランティアへの参加意向(全体)



●介護予防ボランティアへの参加意向をたずねたところ、「条件が合ってもしない」が17.1%、「条件が合えばしてみたい」14.3%となっています。また、全体の65.0%の人が「わからない」と回答しています。

図表 289 介護予防ボランティアへの参加意向(年齢階層別)

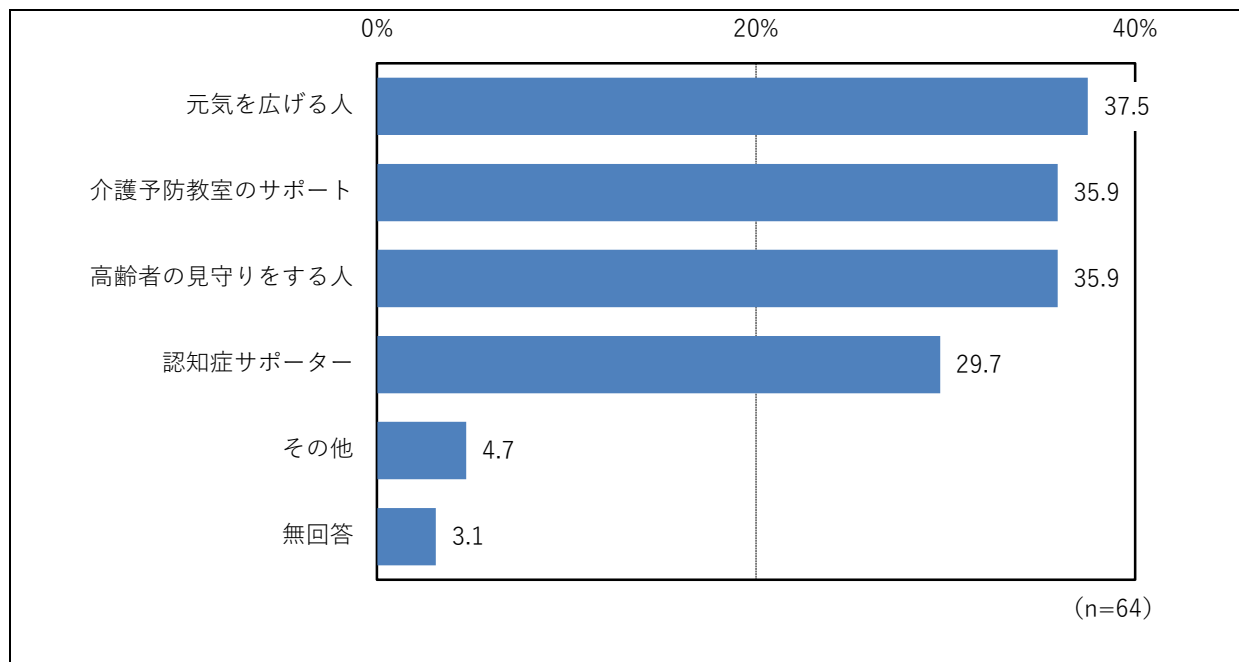


●介護予防ボランティアへの参加意向を年齢階層別にみると、「条件が合えばしてみたい」の割合が、「45～49歳」で 20.2%と最も高く、他の年齢層に比べ参加意欲がやや高い年齢層となっています。次いで、「55～59歳」(14.7%)、「40～44歳」(13.1%)と続いています。

問29において「2. 条件が合えばしてみたい」と回答した方

問29-1 どのような介護予防ボランティア活動をしてみたいですか。【〇はいくつでも】

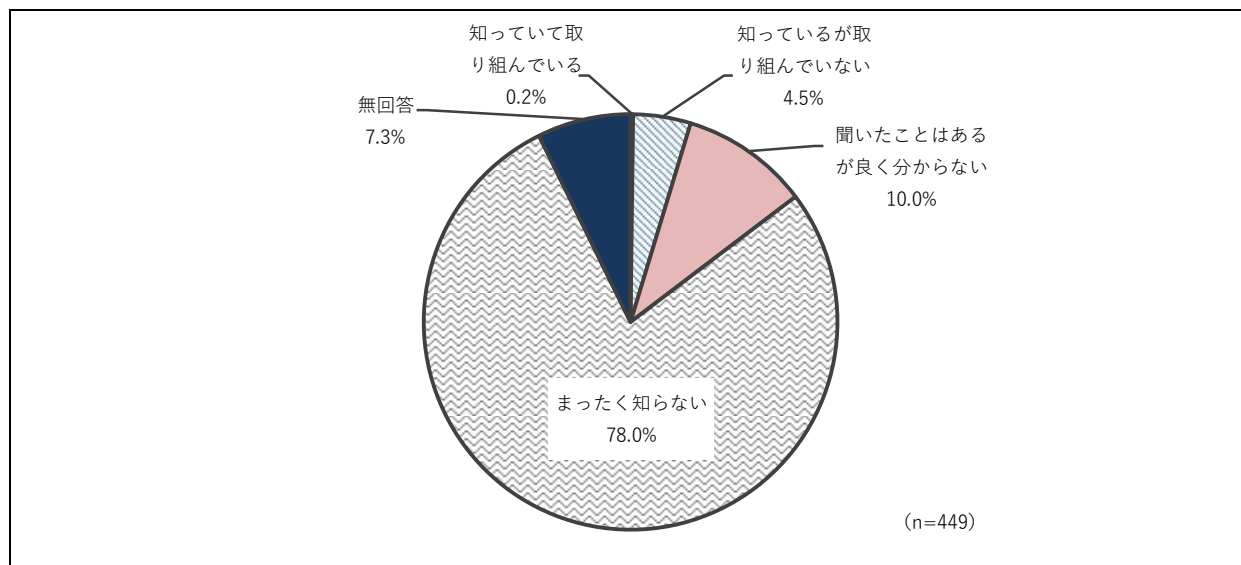
図表 290 してみたい介護予防ボランティア活動の内容(全体／複数回答)



●してみたい介護予防ボランティア活動の内容をたずねたところ、「元気を広げる人」と回答した人の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「介護予防教室のサポート」(35.9%)、「高齢者の見守りをする人」(35.9%)と続いています。

問 30 高松市の「のびのび元気体操」を知っていますか。【○は1つ】

図表 291 「のびのび元気体操」の認知度(全体)



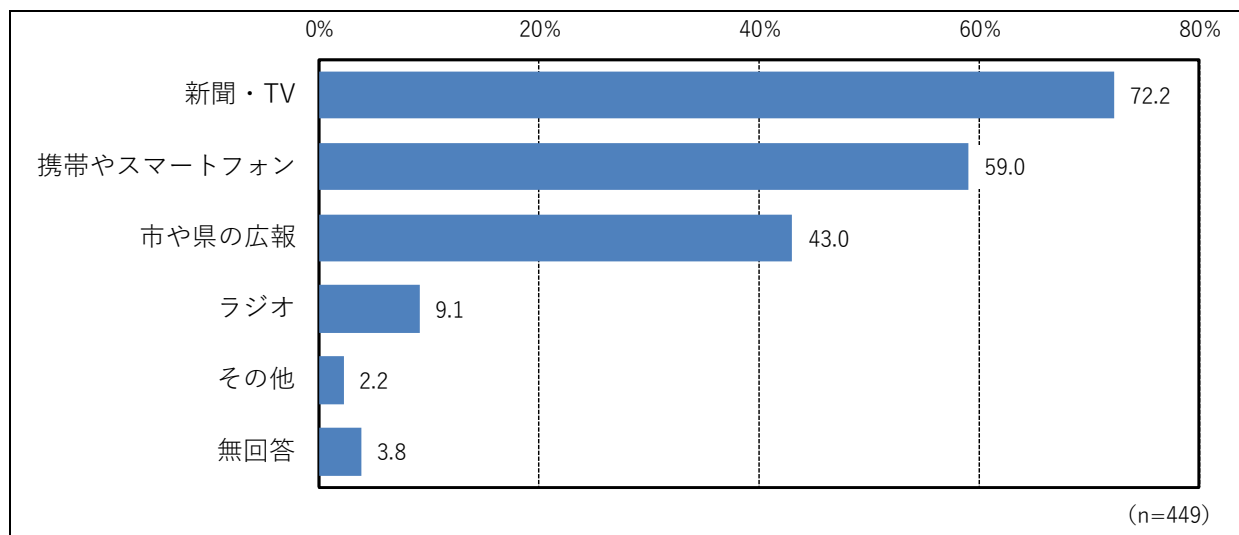
●「のびのび元気体操」の認知度をたずねたところ、「まったく知らない」と回答した人の割合が最も高く、78.0%となっています。次いで、「聞いたことはあるが良く分からない」(10.0%)、「知っているが取り組んでいない」(4.5%)と続いています。

9. 高齢者の保健福祉について

(1) 情報収集手段

問 31 日常の情報収集手段は何ですか。【○はいくつでも】

図表 292 日常の情報収集手段(全体／複数回答)



● 日常の情報収集手段をたずねたところ、「新聞・TV」と回答した人の割合が最も高く、72.2%となっています。次いで、「携帯やスマートフォン」(59.0%)、「市や県の広報」(43.0%)と続いています。

図表 293 日常の情報収集手段(年齢階層別)

(単位%)

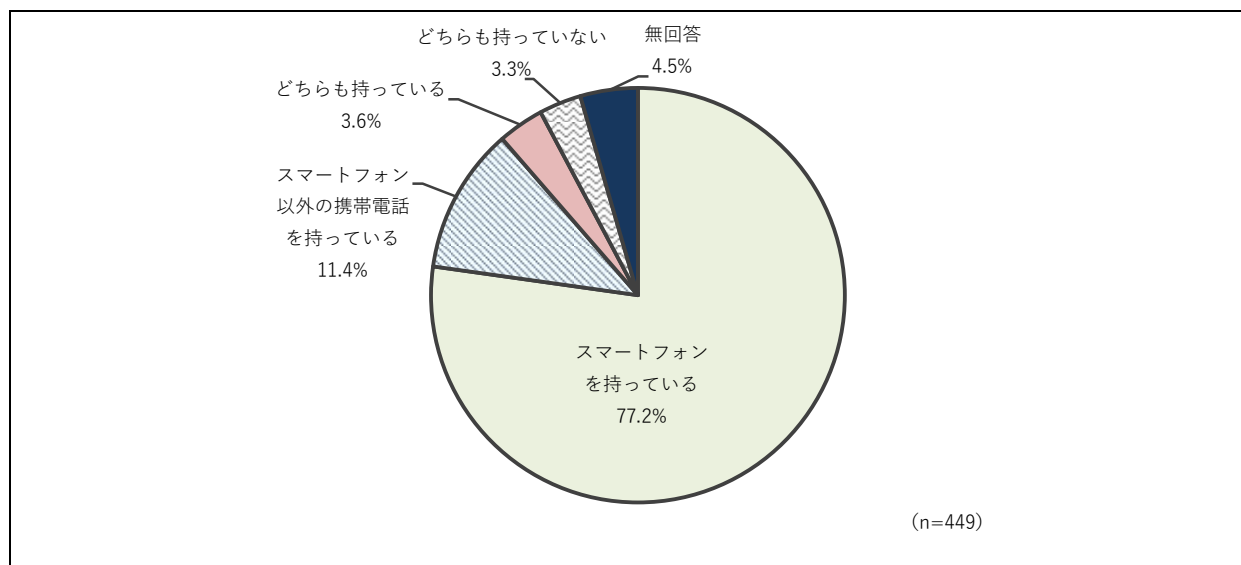
		第1位	第2位	第3位
全体 (n=449)		新聞・TV 72.2	携帯やスマートフォン 59.0	市や県の広報 43.0
年齢階層別	40～44歳 (n=84)	携帯やスマートフォン 76.2	新聞・TV 69.0	市や県の広報 34.5
	45～49歳 (n=89)	新聞・TV 67.4	携帯やスマートフォン 62.9	市や県の広報 33.7
	50～54歳 (n=78)	新聞・TV 80.8	携帯やスマートフォン 64.1	市や県の広報 44.9
	55～59歳 (n=102)	新聞・TV 70.6	市や県の広報 54.9	携帯やスマートフォン 51.0
	60～64歳 (n=95)	新聞・TV 74.7	市や県の広報 45.3	携帯やスマートフォン 44.2

● 日常の情報収集手段を年齢階層別にみると、「携帯やスマートフォン」と回答したのは「40～44歳」が最も高く、76.2%となっています。「45～64歳」までの4つの年齢階層では、「新聞・TV」がいずれも第1位となっています。

(2) 携帯電話

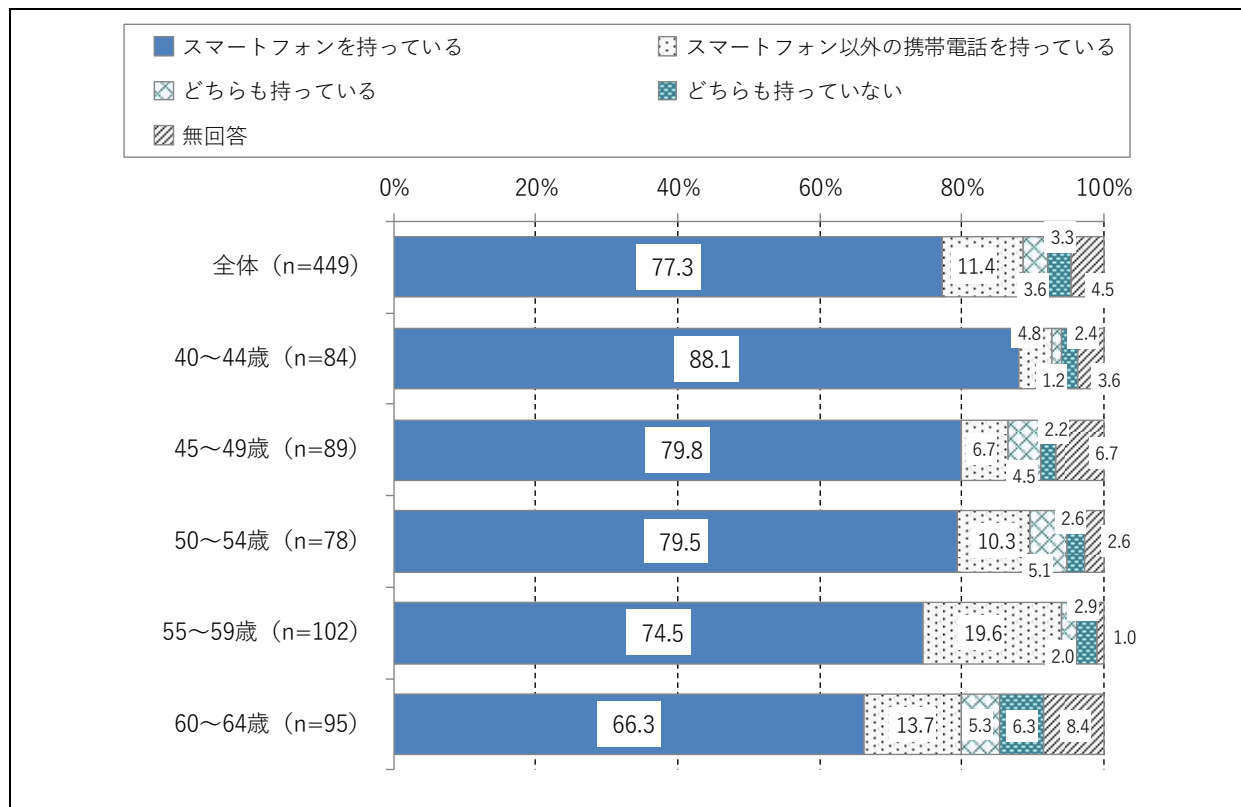
問 32 現在、携帯電話を持っていますか。【○は1つ】

図表 294 携帯電話の所持状況(全体)



●携帯電話の所持状況をたずねたところ、「スマートフォンを持っている」と回答した人の割合が最も高く、77.2%となっています。次いで、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」（11.4%）、「どちらも持っている」（3.6%）と続いています。

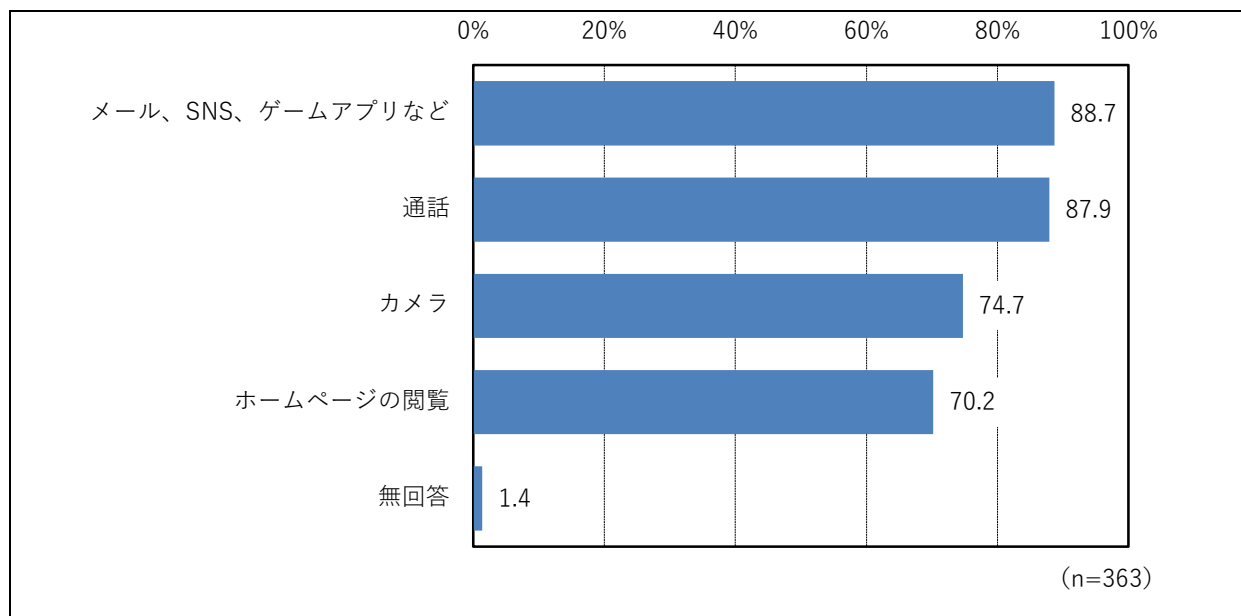
図表 295 携帯電話の所持状況(年齢階層別)



●携帯電話の所持状況を年齢階層別にみると、「スマートフォンを持っている」、「どちらも持っている」と回答したのは、「40～44歳」が最も高く、89.3%となっています。次いで、「50～54歳」（84.6%）、「45～49歳」（84.3%）と続いています。

問32で「1_スマートフォンを持っている」「3_どちらも持っている」と回答した方
 問32-1 スマートフォンをどのような用途に使っていますか。【〇はいくつでも】

図表 296 スマートフォンの使用用途(全体／複数回答)

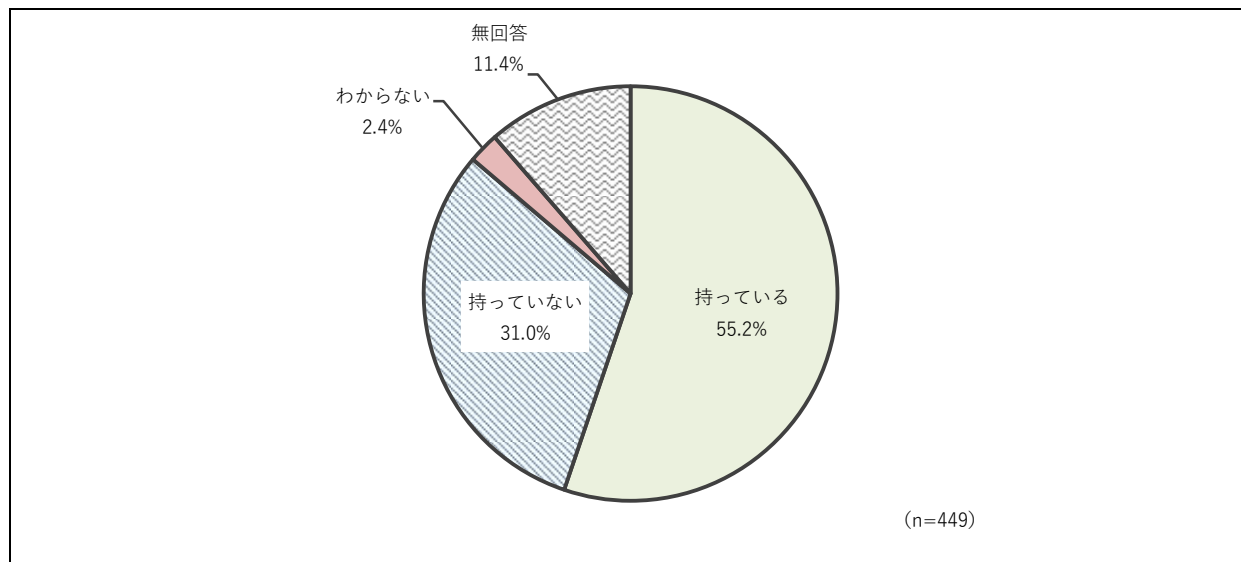


●スマートフォンの使用用途をたずねたところ、「メール、SNS、ゲームアプリなど」と回答した人の割合が最も高く、88.7%となっています。次いで、「通話」(87.9%)、「カメラ」(74.7%)と続いています。

(3) かかりつけ医の有無について

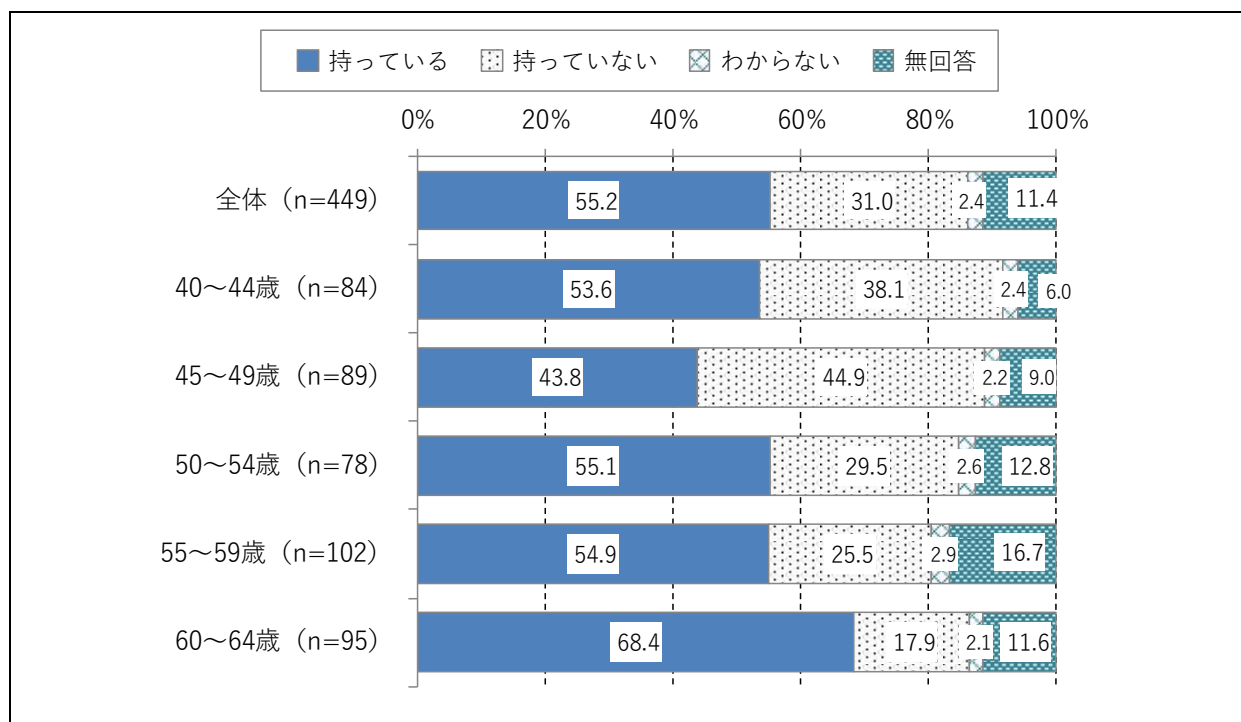
問 33 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【○は1つ】

図表 297 かかりつけ医の有無(全体)



● かかりつけ医の有無をたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合が最も高く、55.2%となっています。次いで、「持っていない」(31.0%)、「わからない」(2.4%)と続いています。

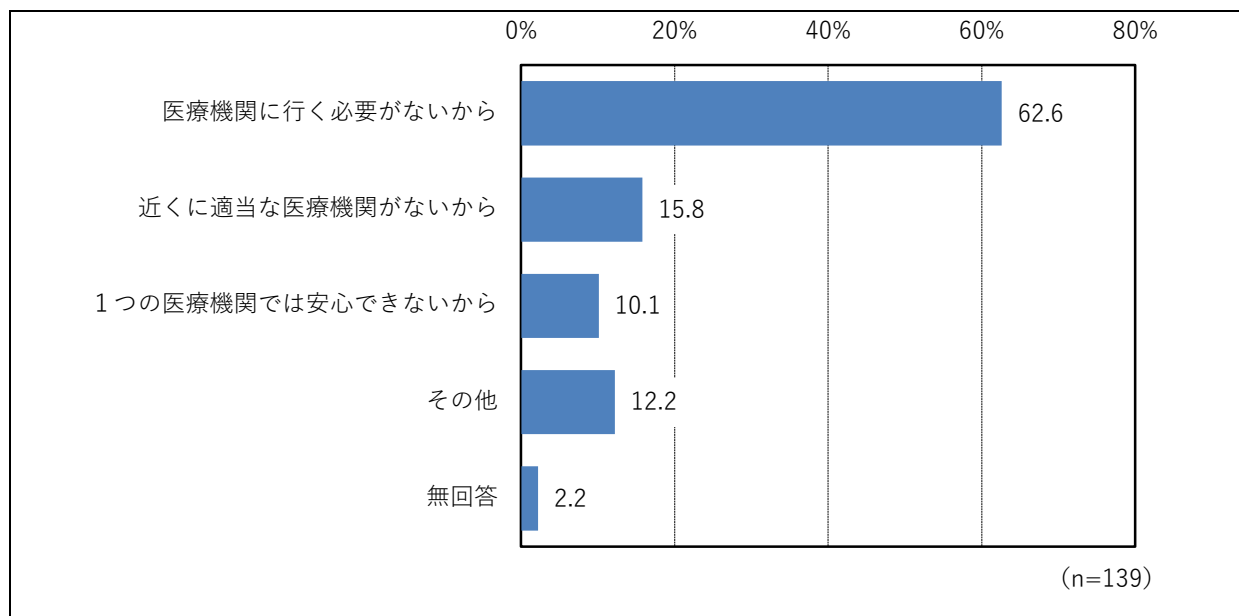
図表 298 かかりつけ医の有無(年齢階層別)



● かかりつけ医の有無を年齢階層別にみると、「持っている」と回答したのは、「60～64 歳」が最も高く、68.4%となっています。次いで、「50～54 歳」(55.1%)、「55～59 歳」(54.9%)と続いています。

問 33 で「2_持っていない」と回答した方
 問 33-1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

図表 299 かかりつけ医を持っていない理由(全体／複数回答)

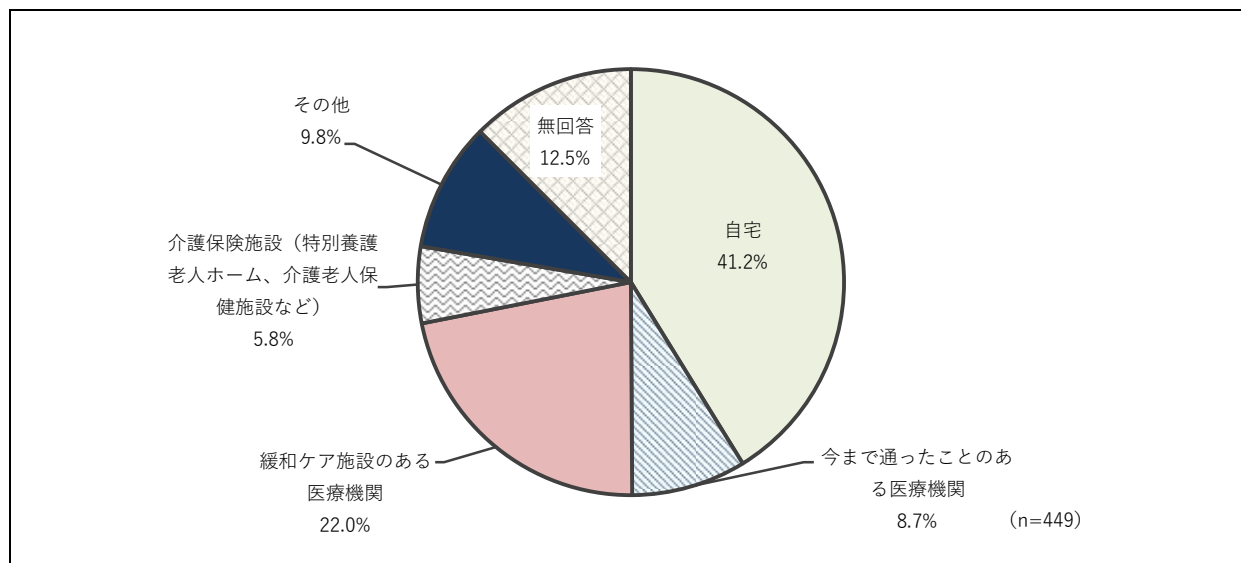


●かかりつけ医を持っていない理由をたずねたところ、「医療機関に行く必要がないから」と回答した人の割合が最も高く、62.6%となっています。次いで、「近くに適当な医療機関がないから」(15.8%)、「1つの医療機関では安心できないから」(10.1%)と続いています。

(4)自分の最期について

問 34 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【○は1つ】

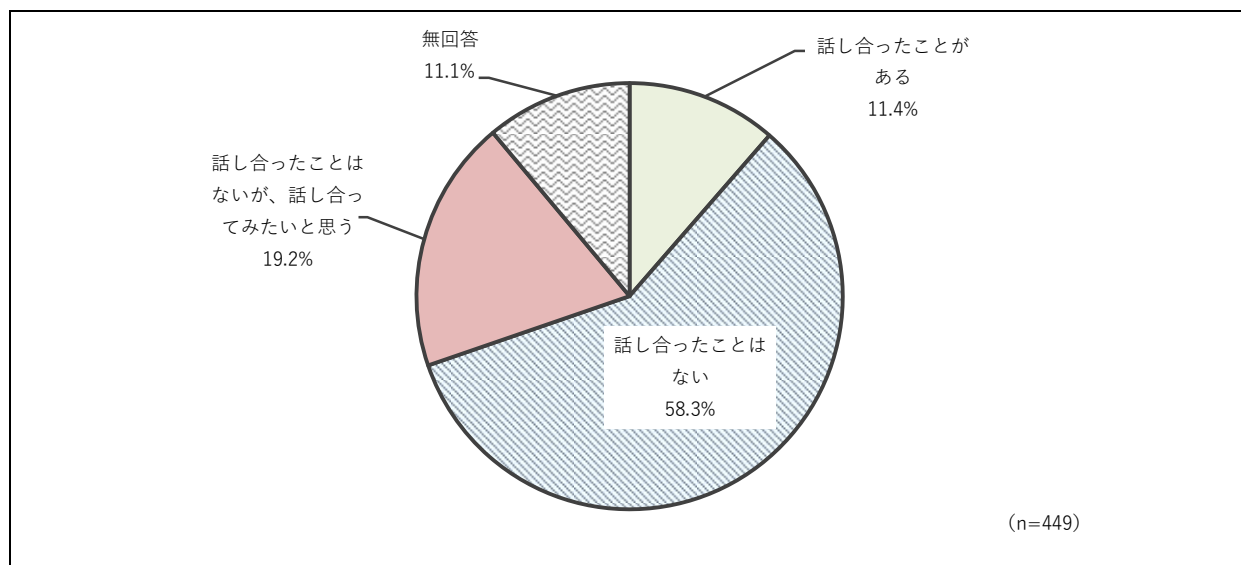
図表 300 自分の最期を迎えたい場所(全体)



- 自分の最期を迎えたい場所をたずねたところ、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、41.2%となっています。次いで、「緩和ケア施設のある医療機関」(22.0%)、「今まで通ったことのある医療機関」(8.7%)と続いています。

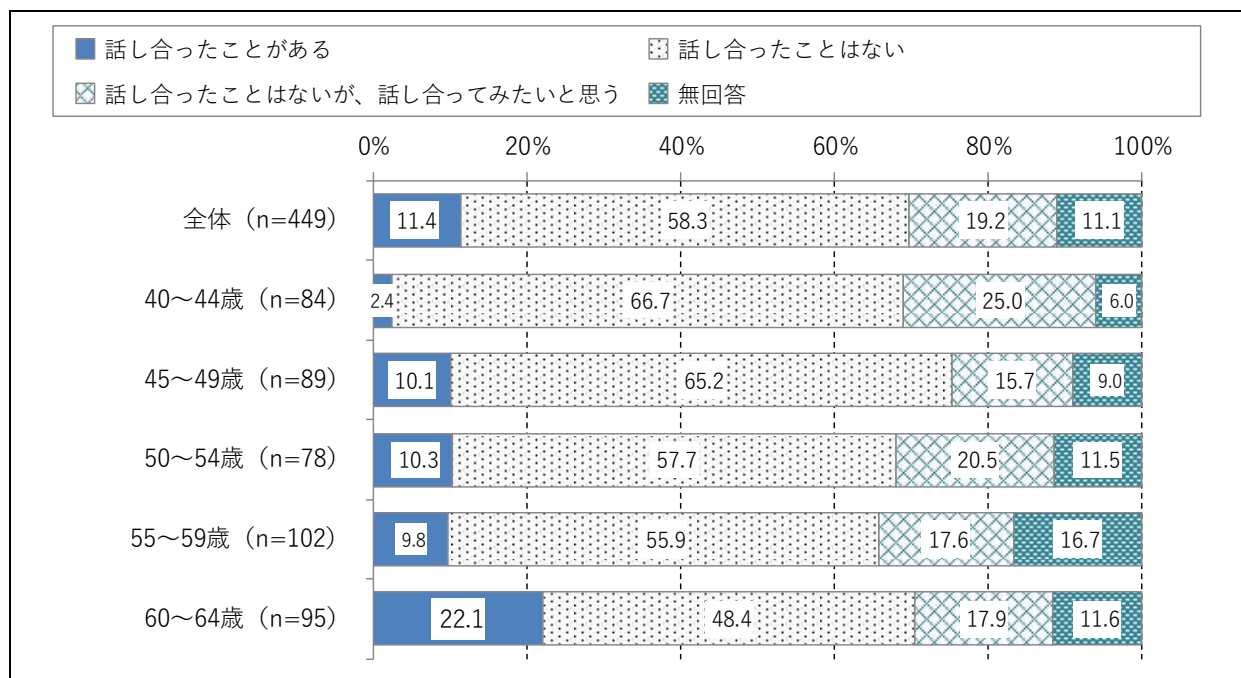
問 35 自分の最期の時に希望する医療や介護について、家族や医療・介護関係者と話し合ったことはありますか。【○は1つ】

図表 301 自分の最期の時について家族や医療関係者と話し合った経験の有無(全体)



●自分の最期の時について、家族や医療関係者と話し合った経験をたずねたところ、「話し合ったことはない」と回答した人の割合が最も高く、58.3%となっています。次いで、「話し合ったことはないが、話し合ってみたいと思う」(19.2%)、「話し合ったことがある」(11.4%)と続いています。

図表 302 自分の最期の時について家族や医療関係者と話し合った経験の有無(年齢階層別)

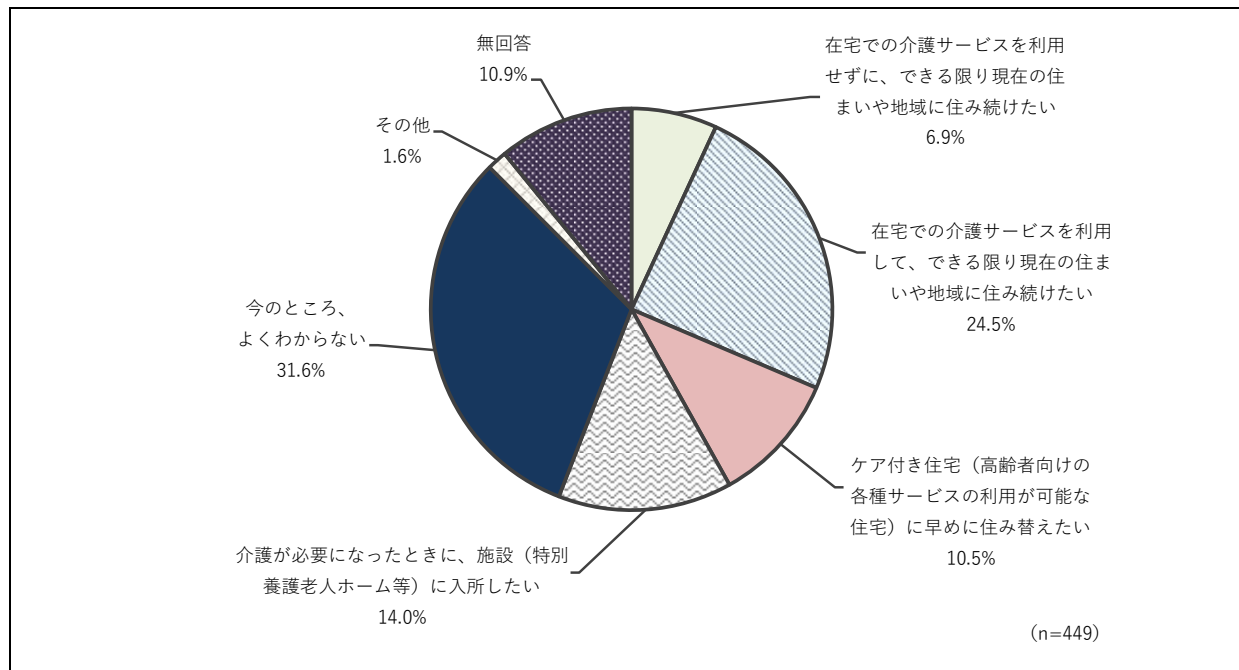


●自分の最期の時について、家族や医療関係者と話し合った経験について、年齢階層別にみると、「話し合ったことがある」と回答した人は、「60～64歳」で最も高く、22.1%となっています。一方、最も低いのは、「40～44歳」で2.4%となっています。また、「話し合ったことはない」と回答したのは、「40～44歳」が最も高く66.7%、次いで、「45～49歳」(65.2%)、「50～54歳」(57.7%)と続いています。

(5)住まいと介護サービスの利用について

問 36 将来、あなたが介護が必要になった場合に住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

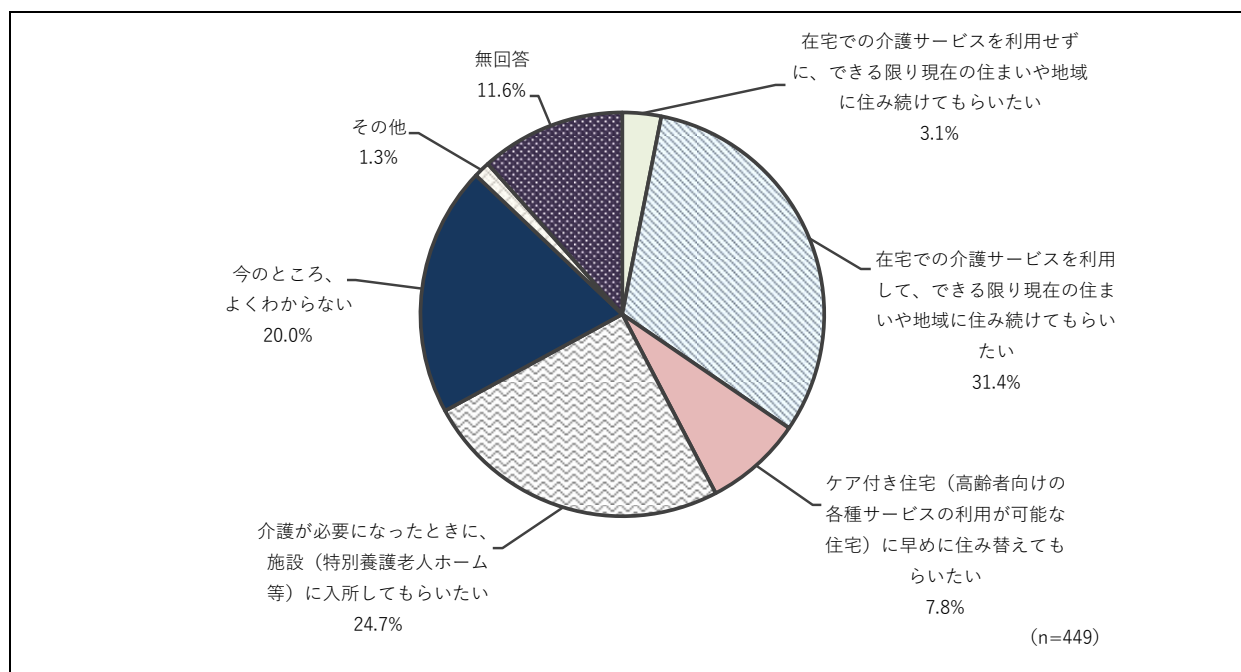
図表 303 自身の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)



●自身の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合は24.5%となっています。次いで、「介護が必要になったときに、施設に入所したい」(14.0%)、「ケア付き住宅に早めに住み替えたい」(10.5%)と続いています。一方、「今のところよくわからない」は 31.6%と、最も高くなっています。

問37 あなたの家族が介護が必要になった場合に、住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

図表 304 家族の将来の住まいと介護サービスの利用について(全体)

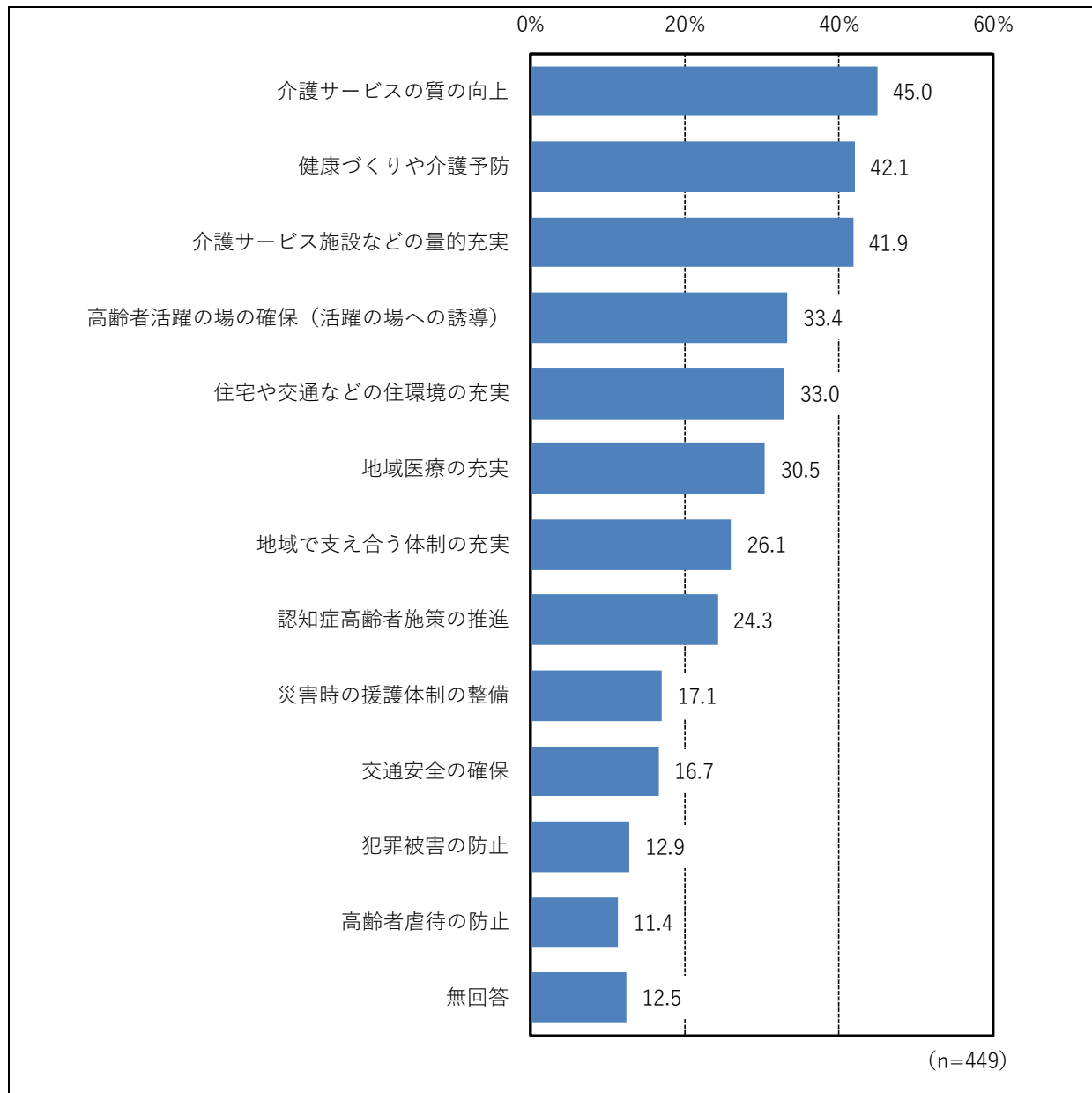


●家族の将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けてもらいたい」と回答した人の割合が最も高く、31.4%となっています。次いで、「介護が必要になったときに、施設に入所してもらいたい」（24.7%）、「今のところ、よくわからない」（20.0%）、「ケア付き住宅に早めに住み替えてもらいたい」（7.8%）と続いています。

(6)超高齢社会において重要な方策

問 38 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

図表 305 超高齢社会において重要な方策(全体／複数回答)

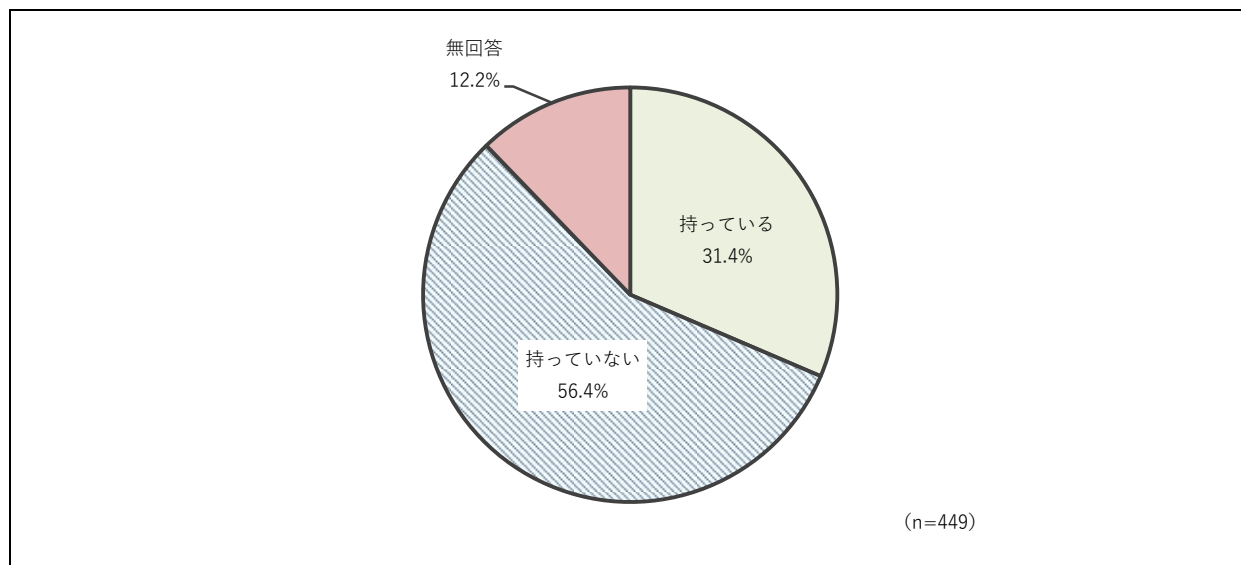


●超高齢社会において重要な方策をたずねたところ、「介護サービスの質の向上」と回答した人の割合が最も高く、45.0%となっています。次いで、「健康づくりや介護予防」(42.1%)、「介護サービス施設などの量的充実」(41.9%)と続いています。

(7)マイナンバーカードについて

問 39 マイナンバーカードを持っていますか。【〇は1つ】

図表 306 マイナンバーカードの所持状況(全体)

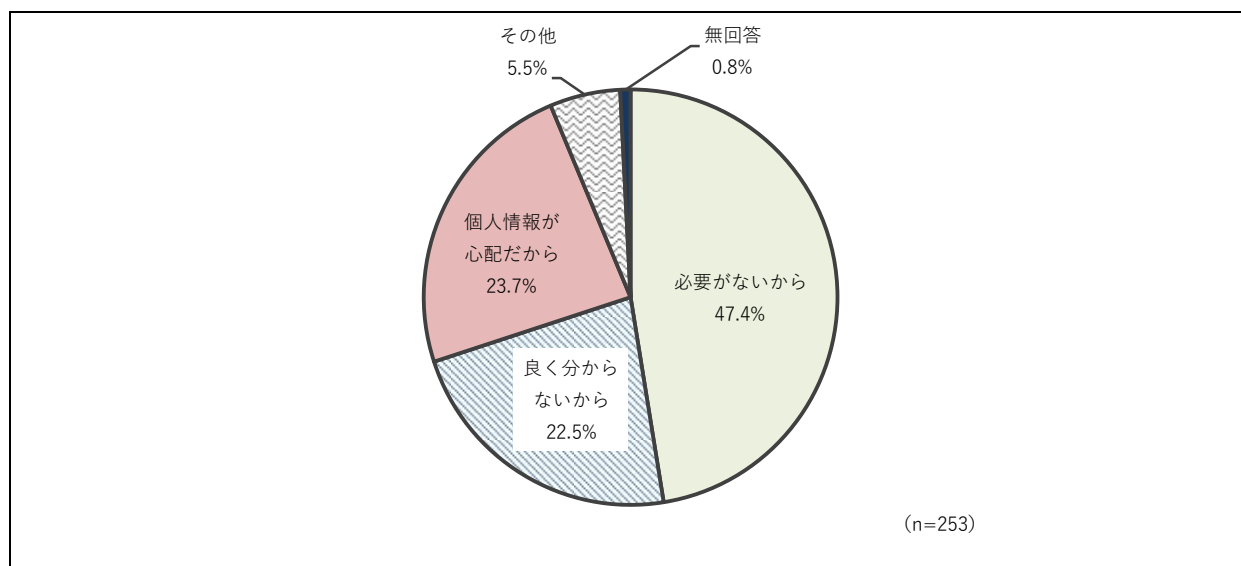


●マイナンバーカードの所持状況をたずねたところ、「持っている」と回答した人の割合は 31.4%となっています。一方、「持っていない」と回答した人の割合は 56.4%となっています。

問 39 で「2_持っていない」と回答した方

問 39-1 マイナンバーカードを持っていない理由は何ですか。【〇は1つ】

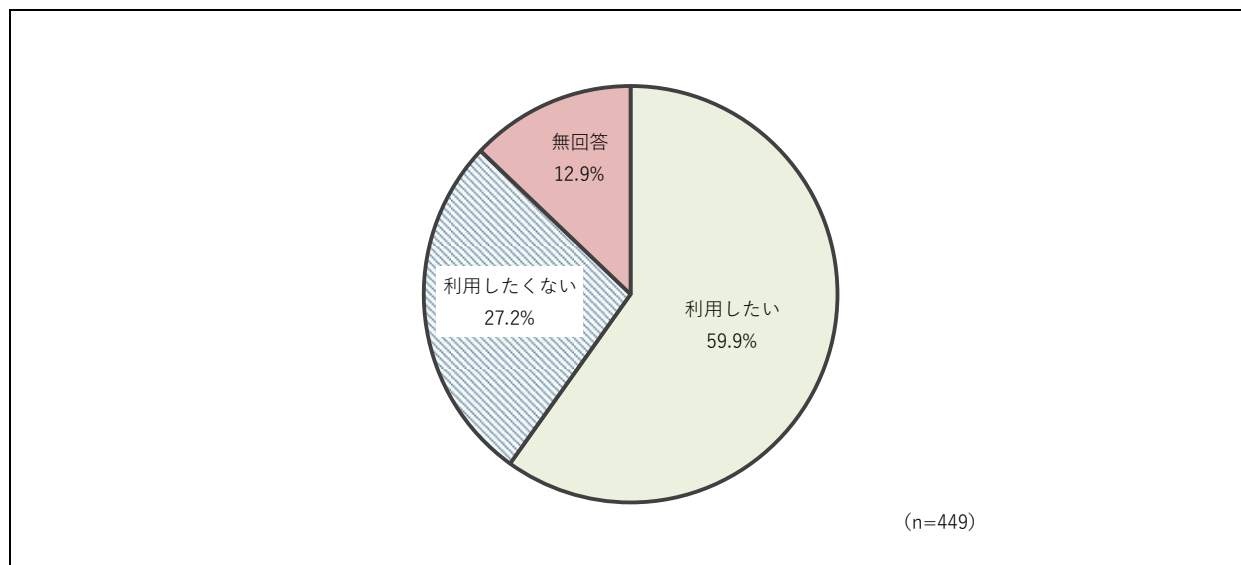
図表 307 マイナンバーカードを持っていない理由(全体)



●マイナンバーカードを持っていない理由をたずねたところ、「必要がないから」と回答した人の割合が最も高く、47.4%となっています。次いで、「個人情報が心配だから」(23.7%)、「良く分からないから」(22.5%)と続いています。

問 40 自宅から自分や家族の認定申請等の手続きがパソコン等でできた場合、用したいですか。
【○は1つ】

図表 308 電子による認定申請等の利用希望(全体)

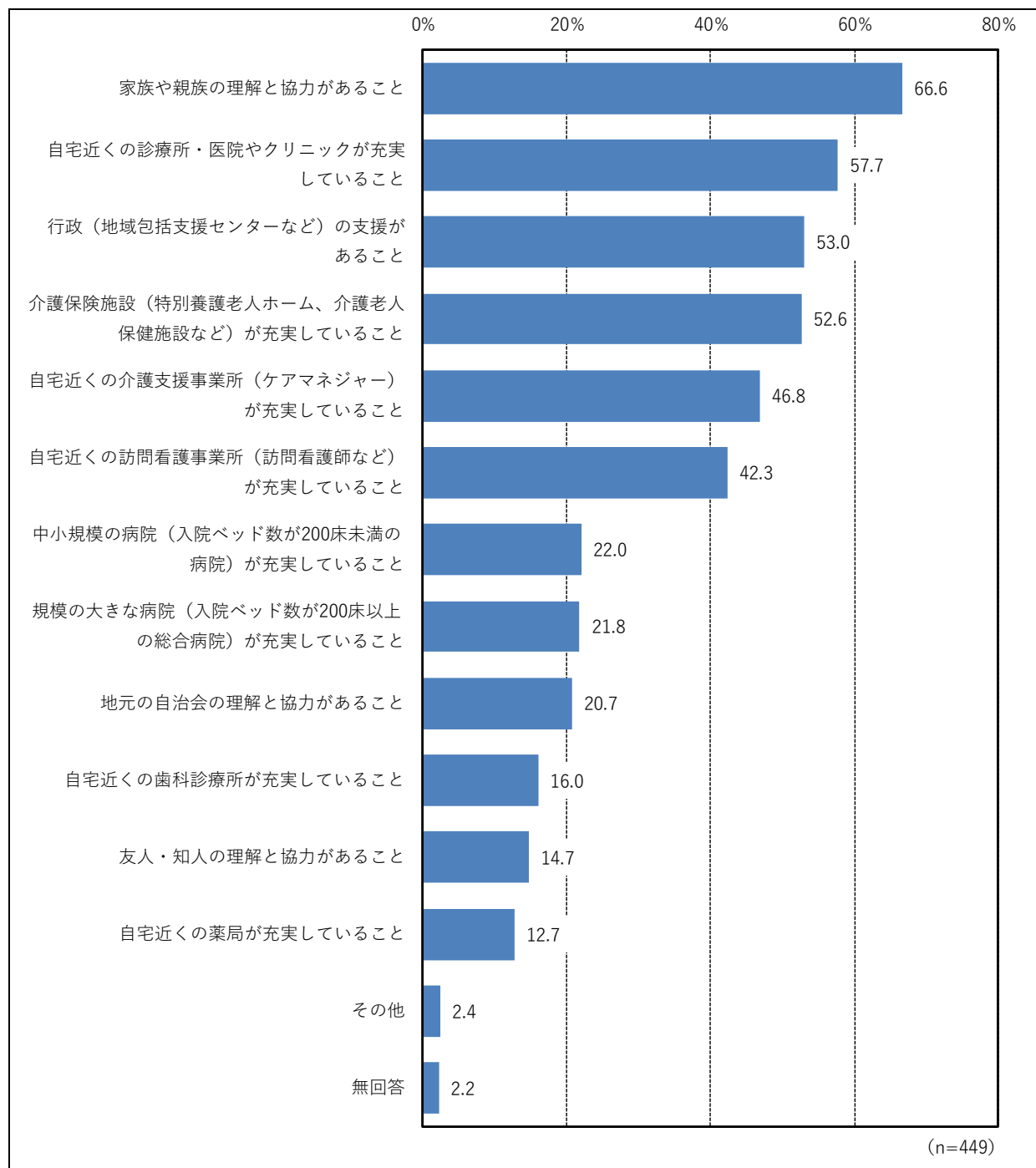


●電子による認定申請等の利用希望についてたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合は 59.9%となっています。一方、「利用したくない」と回答した人の割合は 27.2%となっています。

(8)地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

問 41 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

図表 309 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと(全体／複数回答)



●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」と回答した人の割合が最も高く、66.6%となっています。次いで、「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」(57.7%)、「行政(地域包括支援センターなど)の支援があること」(53.0%)と続いています。

第5章 資料 自由意見集

1. 自由意見 高齢者 65歳以上

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 45 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険制度、高齢者保健福祉施策等、常に有難いと感謝しております。介護施設で働いておられる皆様の待遇が少しでも良くなればと願っております。	女性	70～74 歳
2	まだ仕事をしているので、介護などの話がピンときません。もう少し勉強しないと、と思います。	男性	65～69 歳
3	70を超えた現在も少しずつ50年以上やってきている仕事をしているせいか、まだまだ介護保険など考えておりません。ただ私は主人が、主人は私が、やはり高齢になっていくことに先々の心配はあります。初めて制度を利用する時、できるだけわかりやすい窓口があれば助かります。ともすれば、あっち行って、今度はこっちと振り回されることのないようにお願いしたいです。	女性	70～74 歳
4	介護保険については今まではあまり関心がなかったが、今後色々世話になるためには自分自身の理解が必要であると思っています。	男性	70～74 歳
5	高齢者のためにこれ程準備されているとは、初めて認識しました。有難いと思っています。現在の私は何とか一人で頑張っています。困っていることは家の周りの側溝にたまる土や雑草抜きに苦労しています。膝や腰痛のためしゃがむことが難しいので。	女性	85～89 歳

・介護保険料、医療費など経済的負担について 45 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	今は健康ですが、もしどちらかが要介護になり在宅できない時に施設に入所するには、経済的に不安です。年金生活でゆとりもない上に入所の費用や残った家族の生活費が不足してくる事が否定できません。そのような時はどのようにしたらいいか相談できますか。	男性	85～89 歳
2	介護保険料は利用するようになってから納める。利用するかどうかわからないのに、また利用しないで死亡する人もいるため不公平です。毎回納める金額もったいない。生活費に回したいです。	女性	70～74 歳
3	年金から引かれる介護保険料が高いです。	女性	70～74 歳
4	今後の保険料値上げが心配です。	女性	80～84 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

NO.	意見	性別	年代
5	介護用品(リハビリパンツ、防水シート、尿とりパッド etc.)が高く、なお且つ10%の消費税がかかり、金銭面で大変苦労している。何らかの経済援助があれば、大変助かります。	男性	70～74 歳

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 72 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	介護施設に入所がなかなか出来ないみたいなので、施設の充実をお願いしたいです。	女性	70～74 歳
2	本当に介護サービスが必要な方に、手厚くサービスを提供してあげてほしい。あまり必要ない方も利用しているような感じがしています。よく調べて提供してあげてほしい。	男性	70～74 歳
3	介護施設の充実より、自宅で家族の介護ができる施策の充実。	男性	75～79 歳
4	いろんな施設が充実していると聞きますが、認知症の初期の方が利用できるような場所、気軽に行ける所があればと思います。	女性	80～84 歳
5	私は妹と2人で交替で両親(認知症)の介護をしまりました。私どもが身体的に限界となり、施設に入ってもらいましたが、できるだけ長く住み慣れた家で介護できることが一番です。地域や家庭への厚い支援充実を希望したいです。	男性	65～69 歳

・介護予防について 15 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	フレイル予防の為、自宅で運動しても長続きしません。近くに月一回でも皆で運動する場所があれば運動を続けようと思う刺激に非常になり、高齢者同士のふれあいの場になり良かったですが現在は休止しています。是非再開をよろしくお願いします。公共交通の半額援助は高松市民で良かったと大変助かっています。お礼を申し上げます。	女性	80～84 歳
2	せっかく生まれてきたのだから、最後まで自分の生命の与えられた力を養い育てながら、心豊かな人生になるよう努力できる環境となるよう改善、努力したいと願っています。そのためのサービスが総合的に充実することを夢見ています。	女性	65～69 歳
3	以前、介護保険施設で健康体操等の指導を受けましたが、予算の事もあると思いますが再開して欲しい。	男性	75～79 歳
4	いつも大変御世話様になりありがとうございます。のびのび元気体操は楽しみの一つです。出来ればもっと近くにあったらと思います。年齢と共に車、自転車で出掛けるのは無理だと思います。	女性	80～84 歳
5	卓球台や場所など気軽に使える所がないのが不満。気軽に健康作りができる施設が欲しい。公民館や児童館をもっと利用しやすいものにしてほしいです。	女性	65～69 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

・アンケートについて 24 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	このアンケートのおかげで、介護について話し合う機会を得ることができました。しかしながら、高齢者のみの家庭へのアンケートとしては長すぎるし、理解できないことが多いと思われます。	女性	85～89 歳
2	高齢者に対するアンケートにしては質問事項が多すぎる。体力・集中力が負担になる。このアンケート考案者の見識を問う。	女性	85～89 歳
3	私も後期高齢者となりましたが、今まで何も考えていなかった事が市のアンケートの質問により現実味をあらためて認識させられました。今一度健康に注意し、そして高松市に住んでよかったと思える人生でありたいと思いました。	女性	75～79 歳
4	老人がこたえられる程度の質問にするべき。つかれてねこみそうです。	女性	70～74 歳
5	返信用の封筒が小さい。	女性	75～79 歳

・不安なことや困りごとについて 21 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	免許証の返納を勧められているので、毎日の生活が不安です。	男性	80～84 歳
2	家族二人を介護しましたが、それぞれパターンが違うので、その都度大変だった。わからないことだらけ。時間ばかり必要で、自分は心労ばかり…。自分は迷惑かけたくないけど、考えていたら不安になるので、できるだけ楽しく仕事をしたり、孫にかかわるようにしている。	女性	65～69 歳
3	高齢者のみの家族が多くなっている。その時足が不自由になり買い物がかさむ様になった時が不安です。	男性	75～79 歳
4	我が家の場合、室内犬を飼っていますが、災害などの折に避難所に入れないなどの話をよく聞きますが、対処の仕方がわからない所が不安です。	女性	65～69 歳
5	本当のところ、介護に関わったことも、してもらったこともないので、何が大変で何を準備しておくべきか、わからない。最近ボケてきているのは自分でわかるから不安。	女性	80～84 歳

・行政への要望・意見について 82 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	隣近所(自治会を含む)との付き合いが希薄で、何事か起きた時のことを思うと、どう対処したらよいかわかりません。制度を整えるのも必要かと思いますが、横のつながりを深める方法があれば、制度もうまくいくのでは。	男性	70～74 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

NO.	意見	性別	年代
2	多くの人は高齢者について相談するところを広報等で知っていますが、知らない人もいますのでより一層広報に力を入れて頂きたい。また知っていても相談に行かない人もいます。どうか気軽に相談に来てください、という堅苦しくない広報をお願いします。すべては相談から始まると思います。	男性	65～69 歳
3	老人が地域の人と仲良く健康で過ごせる市。老人になれば高松に住みたいと思える市にしてほしいです。	女性	65～69 歳
4	虫のいい話かもしれませんが、充実した施策と負担が重くならないシステムをお願いします。今、「高齢者の居場所づくり」的施策が、発信元複数で見受けられます。行政の中でシンプル化できないのでしょうか。	女性	70～74 歳
5	高齢者保健福祉施策で、具体的にどんなことを実施しているのか見えない。今後の課題。	男性	70～74 歳
6	将来、介護保険利用施設でお世話になった場合、自分の資産や預貯金額に応じての負担額が決まると聞いておりますが、定年まで働いて節約に心がけても各々の人の自己負担額を決めるのは理解しがたい事と思います。行政に不信と憤りを覚えます。	女性	65～69 歳
7	介護保険制度には私の主人が大変お世話になり、その頃は頭が下がる思いで感謝いたします。でも私自身、地域包括支援センターのことがあまりわかっていません。でも病院・ケアマネージャーの連携機能が行き届き、大変助かりました。	女性	80～84 歳

・その他 68 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	高齢者になると働く所がない。時代の流れ、高齢者がついて行けないほど世の中が進んでいる。	女性	90～94 歳
2	いつまでも体に気をつけて、人に迷惑かけずにいけたらいいと思う。健康にいいことしながら、1日1日大切に生きていこう。お世話になることもあるかもしれませんが、それまで前向きに日々過ごすようにしたい。	男性	65～69 歳
3	認知症や介護について考えたことが無かったので知識不足です。これから意識して知っていこうと思います。	女性	75～79 歳
4	すでに高齢者になっているので、そんなに長生きをしようとは思わないので、できるだけ食事に気をつけて医者にかからない様に生きたい。もし病気になったときには、手術などはしないで自然に自宅療養で終期を迎えたい。	男性	75～79 歳
5	今のところ毎日の生活にそう困ることはありませんが、将来どうなるか明日のことがわかりません。その時になって相談にのっていただけると嬉しいです。	女性	75～79 歳

2. 自由意見 要介護認定者 65歳以上

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 17 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険施設で働いている人の給与、手当をもっと増やして欲しい。待遇を改善しないと制度の改善はできないと思います。	男性	65～69 歳
2	介護保険制度、大変助かりました。手すり、風呂のイス、これから考えているのが、ベッド利用したいです。	男性	70～74 歳
3	理解する前に次々と制度が変わり、本人及び家族も戸惑うばかり。手続きも多く字が書きづらい高齢者は都度に家族を呼んでしてもらう事に負担を感じている。理想論ばかりでなく、しっかり現実を見据えた制度にして欲しい。	男性	80～84 歳
4	認知症の場合、見た目では分からないため、近所から迷惑な人、変な人と思われてしまう。(曜日、時間等分からないため、ゴミ出しをまちがえるなど…)今の介護制度やケアマネさんヘルパーさんのおかげでフルタイムの仕事が続けられています。日々、感謝です。親は子供の負担になるのはイヤだと思います。社会で高齢者を支えられるようになるとうれしいです。	女性	75～79 歳

・介護保険料、医療費など経済的負担について 25 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険料が高額である。	男性	65～69 歳
2	全てお金が高くなり、年金下り、医療費が高くなり生活できなくなるのではと不安である。	男性	80～84 歳
3	デイサービス、通所リハビリに通わせていますが、支払い金額が高く、生活に支障をきたしています。他のご家族さんも、毎月大変だとお話しされていました。無償化等、減額してくれたら、他の人も通所される方が増えると思います。	女性	70～74 歳
4	ここ数年、病院で入院する期間が短くなり自宅で看るようになってきました。介護をする者は働く必要のある年代が多く、会社を休業することになります。その間収入もなく、ただ月々の支払いは発生するため、生活に大変困ります。自宅療養や介護をすすめるのであれば、介護する人たちのことも併せて考えてほしいです。	女性	70～74 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 50 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	もっと在宅介護サービスを充実してほしい。	女性	70～74 歳
2	デイサービスに週2回お世話になっていますが、とっても良い、明るい、皆さん楽しそう。この様な施設をもっと増やしてほしい。	女性	70～74 歳
3	リハビリが主体にできる介護施設の設置を希望します。現在、老健のデイサービスでリハビリを受けていますが、最近、認知症の方が増えています。	女性	65～69 歳
4	毎月ケアマネージャーの方の来訪があり、意見交換や情報を聞くなど心強い限りです。ケアサービスやデイサービスで元気をもらっています。	男性	95～99 歳
5	疾患治療の後、要介護の状態で退院し、これにふさわしい介護提供施設を求めようとする際、医療機関にソーシャルワーカー等の支援制度が設けられてはいるものの、実質的に有効なサービスが提供されているようには思えない。医療機関と介護施設との間の連携のあり方について要介護者の切実なニーズに応えられるよう切望したい。	女性	70～74 歳

・介護予防について 1 件

NO.	意見	性別	年代
1	住んでいる地区において、介護予防のサービスが充実しており、早めのサービスを受けられ助かりました。	女性	85～89 歳

・アンケートについて 41 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	この長いアンケートに 65 歳以上の要介護の本人が答えられたらすごいと思う。もっと簡単に、85問もあるのは負担でしかない。	女性	75～79 歳
2	この度の高松市のアンケートの内容が多岐にわたり、きめ細やかな質問がよかったです。一日も早い取り組みをお願いします。	女性	85～89 歳
3	認知症の人が回答出来ないのでアンケートの仕方を変えたらどうですか。	女性	70～74 歳
4	あまり多すぎて 20 ページあって私達、後期高齢者には読んで理解するのに苦しみました。問題を出された健康・長寿福祉課の方、自分の目線で作成していると思います。我々後期高齢者側の立場にもなって考えてほしいです。書ける方もいらっしゃると思いますが書けない方が多いと思います。問題を少なく、簡単、分かりやすいようにしてほしいです。	男性	80～84 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

・不安なことや困りごとについて 26 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	同居の家族がいるのですが、昼間1人の時があり、外出した場合に帰れなくなったり、目的の所へ行けなくなることが心配です。何か対策があるのでしょうか。不安です。	女性	80～84 歳
2	現在は認知症がそこそこなので、この先、何も分からなくなるようだったら不安です。	女性	75～79 歳
3	家族の介護をしながら仕事を続ける上で、介護者の勤務先の理解を求める事のむつかしさ、競争の激しい世間の中で大変厳しい事なのかと感じます。誰もが向かっていく老化、経済悪化の中で不安はますます広がっていきます。予備知識も必要ですが、行政のサービス等については実際その事に進んで行ってはじめて実感するという、一步一步です。	男性	70～74 歳
4	自分の事が満足にできない状態で、老いて行く程、体が弱くなっていく不安がある。経済的な問題もあり不安は強くなっていくばかりです。	女性	70～74 歳
5	家族から介護を受けて生活しているので、家族が病気などになり介護をすることができなくなると、大変困ったことになる。このことが一番心配事です。	男性	70～74 歳

・行政への要望・意見について 52 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	机の上の判断でなくて現場で判断して欲しい。	男性	65～69 歳
2	親切に対応して下さり窓口に行きやすいです。	男性	75～79 歳
3	大災害が発生した場合に、ヘルパーと2人だけでは避難できない為、避難できる体制を整えて欲しい。	女性	70～74 歳
4	地域包括支援センターへ相談に行きました。その折、担当者は、丁寧に対応してくださり、ありがとうございました。地域包括支援センターの充実をお願いします。認知症の初期相談について、高松広報に掲載してください。	男性	80～84 歳
5	高齢者のタクシー券の枚数を増やしてほしい。病院へ行くことが多いので足がないため、タクシーを利用する事が多く、1年間使用するのでは少なすぎるのでよろしくお願いします。	男性	70～74 歳

・その他 56 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	お世話になっています。老々介護まっしぐらですがまだまだ大丈夫。頑張りたい。	女性	70～74 歳
2	私には何もわかりませんが、少しわかることといえば、これからもっと住みよい高松市になってくれればと思います。そして、若い人たちがこれからずっと長く住み続けてほしいです。	男性	75～79 歳
3	将来何が起こるか分からない。73 才だから、すべて慎重になる。何でも相談できる人を探している。40～50 才の子供たちは、仕事が忙しすぎる傾向にある。いつもさびしい、1人暮らしは。	女性	70～74 歳
4	高齢者の福祉制度のことはよく分からないことが多いので、相談窓口はどこにある等、TVなどでたまに放送してほしい。	女性	75～79 歳
5	介護状態になっても自分らしく生きていける時代であってほしい。今は車がなければ住みにくい。買物、通院、ゴミ出し気兼ねなくお金もありかからなく利用できるサポートがあれば良いですね。	男性	65～69 歳

3. 自由意見 一般市民 40歳以上65歳未満

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 13 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	これから老人が増えるばかりで、介護にお金がかかり、若い人が苦勞するのがかわいそうです。お金をもっている老人からは、きちんとお金を取る制度を確立して、若い人に負担を増やさないでほしい。明るい未来が待っているようにして下さい。	男性	45～49 歳
2	今の高齢者の支援の事だけを考えずに、持続可能な支援策を考えていただきたいです。	女性	40～44 歳
3	介護保険制度を維持していくためには、子供の育成を支援し若い世代が安心してこの町や県、国に住みたいと思うことが、これからの高齢者を支えることに重要になります。若い者が夢を持ち生き生きと生活ができていない今、介護保険を継続していくのは難しいと考えます。子供たちや若い夫婦の生活向上こそが、まず一番の問題となっていると思います。	男性	50～54 歳
4	介護保険の内容をわかりやすくまとめたパンフレット等があれば、置いてほしい。	女性	50～54 歳
5	介護保険制度の財政破綻が心配。自分や家族が必要となったとき、サービスを受けることができるのか。若い世代は更に負担増となるのではないか。気軽に集える場所が、不要な物を大量に購入させられる店とならないような地域となしてほしい。	女性	50～54 歳

・介護保険料、医療費など経済的負担について 6 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	いつかは自分も使用する制度であろうが保険料が高い。	女性	60～64 歳
2	介護保険サービス利用時の費用負担を減らして下さい。	男性	55～59 歳
3	経済的負担が少しでも軽く出来ればと、安く入れる施設の充実を願います。	男性	45～49 歳
4	福祉施設等に行くまでの交通費を援助してほしいです。	男性	50～54 歳
5	介護制度、施設、病院が充実している事も大事だと思いますが、全て費用がかかる事なので、その費用が介護される本人、家族にとって一番の心配であり、軽減や無償化などの改善をしてほしい点だと思う。	女性	45～49 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 11 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	もっとたくさんの介護施設があった方がいい。	女性	55～59 歳
2	なるべく自宅で介護して最後を看取れるように手助けしてもらえたらありがたいので、訪問看護が充実したらいいと思います。	女性	50～54 歳
3	近年、皆さんの価値観の多様性で逆に選択していくのが難しい。こまめに相談にのっていただける場所は絶対必要だと思います。	女性	55～59 歳
4	特別養護老人ホームの施設が少ないため、100 人待ちの状態は異常である。	男性	60～64 歳
5	介護には多くの費用がかかるので簡単には老人ホームには入れません。低価格の老人ホームを増やしてほしい。老後働けなくなったらどうすればいいのか不安です。アンケートの中にボランティアという言葉が多く見られたが、ボランティアで賄おうというのは虫が良すぎるのでは？活動をするなら若い人をきちんと雇う予算を取って活動して下さい。ボランティアをするほど時間とお金に余裕のある人ばかりいません。	男性	40～44 歳

・介護予防について 1 件

NO.	意見	性別	年代
1	できる限り在宅で介護したいと思っていますし、自分も重度にならない限り自宅ですごしたいと思っていますが、現在、信じられる人がどの人なのか難しい時代です。 健診が総合的にできる場所が多くあれば理想的だと思います。 重度になれば、家族に負担がいかに保健康で施設が利用できるような、それまでは多くの人が自宅で頑張って近所の人々と助け合ってすごせるようにしたいです。	女性	60～64 歳

・アンケートについて 4 件

NO.	意見	性別	年代
1	このアンケートに答えさせていただいて、あらためてきちんと考えて、いかなければいけない事だなあと思いました。このようなきっかけをあたえていくことも大切だと思います。ありがとうございます。	女性	40～44 歳
2	問34、自分の最期をどこで迎えたいと思いますか？という質問は、私にとっては、とても、つらい、せつない事でした。でも自分で選んだ人生ですので、前向きにあるがままに進んで行きたいと思います。	女性	60～64 歳
3	子供も小さく自分の生活が精いっぱいのため、老後のことはまだ早いと思い深く考えていなく、母も元気なので、アンケート調査に回答することがむずかしかったです。	男性	40～44 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

NO.	意見	性別	年代
4	介護保険の制度について知識が全くありません。アンケートだけでなく簡単なリーフレット等を添付して欲しかったです。	男性	55～59 歳

・不安なことや困りごとについて 9 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	山間部の住民は色々困る事が多い。医療、役所等。	女性	55～59 歳
2	現在20代の息子は障害福祉のサービスを受けています。障害者が65 才になったら介護保険に変わると聞いたのですが、受け入れてくれる介護施設があるのか不安です。障害者の福祉、高齢者の福祉と分けられていることが無く、年令のことにとらわれない施設やサービスの充実を希望します。	女性	55～59 歳
3	私には、今、夫も息子も同居人としています。誰もいなくなった時、今のまま元気で認知もなくいられるかは自信がありません。人を受け入れ、サービスも利用し、前向きに社会にかかわって一人になってもこの家で一生を終わりたいですネ。私は昭和30年生まれ。20～23 年の人が多くいられるので介護施設もたぶん入所できないだろうナーと思っています。だとすると自分の努力もいりますよね。がんばります。	女性	60～64 歳
4	今は制度について興味があまりないが、いずれお世話になることは承知している。ただ、細かい内容について知らないので不安がある。	男性	55～59 歳
5	考えるほど途方にくれてしんどいです。未来は孤独死しか考えられません。	女性	45～49 歳

・行政への要望・意見について 28 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	手続きが難しいので簡素化して欲しい。書類の内容も分かりにくいと思う。	女性	45～49 歳
2	公共事業に無駄金を使わず、介護施設、介護関係で働く人々の手当て等にあてるべきだと思います。年度末になると同じ道路を毎年のように整備するのではなく、税金を大切に使用するべきです。	男性	40～44 歳
3	情報(専門誌等)配布などして頂きたい。相談員を増員して頂き、対応を充実して頂きたい。ぜひお願い致します。	男性	55～59 歳
4	成年後見人制度は仕事でよく関わることがあるが、指定された弁護士がおざなりに引受けていると思わざるを得ないケースが多い。実態把握は難しいと思うが、行政側は引受人に対し性善説に立ちすぎず、注意喚起していくことが非常に重要であると感じる。	女性	45～49 歳

● 第5章 資料 自由意見集 ●

NO.	意見	性別	年代
5	高齢になり運転免許証を返納する事は大変良い事だと思いますが、その反面、一人暮らしの方は日常生活が不自由になり、生活の楽しみも奪われ行動が制限されてしまいます。健康でまだまだ楽しく明るく生活出来る、支援、サポート等、充実していける街作りをお願い致します。	男性	55～59 歳

・その他 20 件(以下抜粋)

NO.	意見	性別	年代
1	経済が発展しているから福祉が成立する。今後、生産年齢人口減により経済が縮小しおのずから福祉は縮小されるだろう。行政にたよらず自らがなんとかすることが大切。その中で本当に福祉が必要とする人にサービスが行き届くようにすればよいと思う。	男性	40～44 歳
2	お年寄りと子供と一緒に活動できる場を増やしていただきたい。お年寄りを敬う気持ちを育んで欲しい。	女性	55～59 歳
3	明日は我が身。高齢者に優しい社会になることを切に望みます。	女性	55～59 歳
4	職場での理解と協力も必要だと思います。私は母の介護を3年していましたが(現在はホームに入所しています)、職場の理解が得られず退職せざるを得ませんでした。	男性	50～54 歳
5	現在のところ介護とは無縁の生活を送っていますが、遠くない将来には両親が直面することになると思われます。自尊心の尊重と必要な介護とのバランスを取る事が大切ですが、現実として困難であるのも理解しています。自分自身についてはなるようになれば良いくらいの認識ですが、家族には出来る限り幸せな一生を送ってほしい。超高齢化社会、難しい問題です。	男性	45～49 歳
6	子育てや仕事が定年になって時間ができると何かの役に立ちたいと思う。自宅近くの自治会の集会所などで趣味のパン作りや得意なパソコンなど、または近所の子ども達のお世話などでできればいいなと思います。	男性	45～49 歳

第6章 資料 判定結果

1. 評価項目別の判定結果

・判定方法(1)～(7)まで

	問 NO.	質問項目	該当する選択肢
運動器の機能	問5	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問6	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問7	15 分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問8	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1 度ある」
	問9	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問8	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1 度ある」
傾向 こもり 閉じ	問 10	週に 1 回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」or 「2. 週 1 回」
状態 低栄養	問 14	身長、体重	BMI<18.5
	問 20	6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔機能低下	問 15	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問 16	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問 17	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
認知機能 の低下	問 22	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ傾向	問 53	この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問 54	この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法・・・該当する選択肢を回答した場合を 1 点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

(1)運動器の機能低下・・・該当:3点以上

(2)転倒リスク・・・リスクあり:該当選択肢を回答した場合

(3)閉じこもり傾向・・・リスクあり:該当選択肢を回答した場合

(4)低栄養状態・・・該当:2点

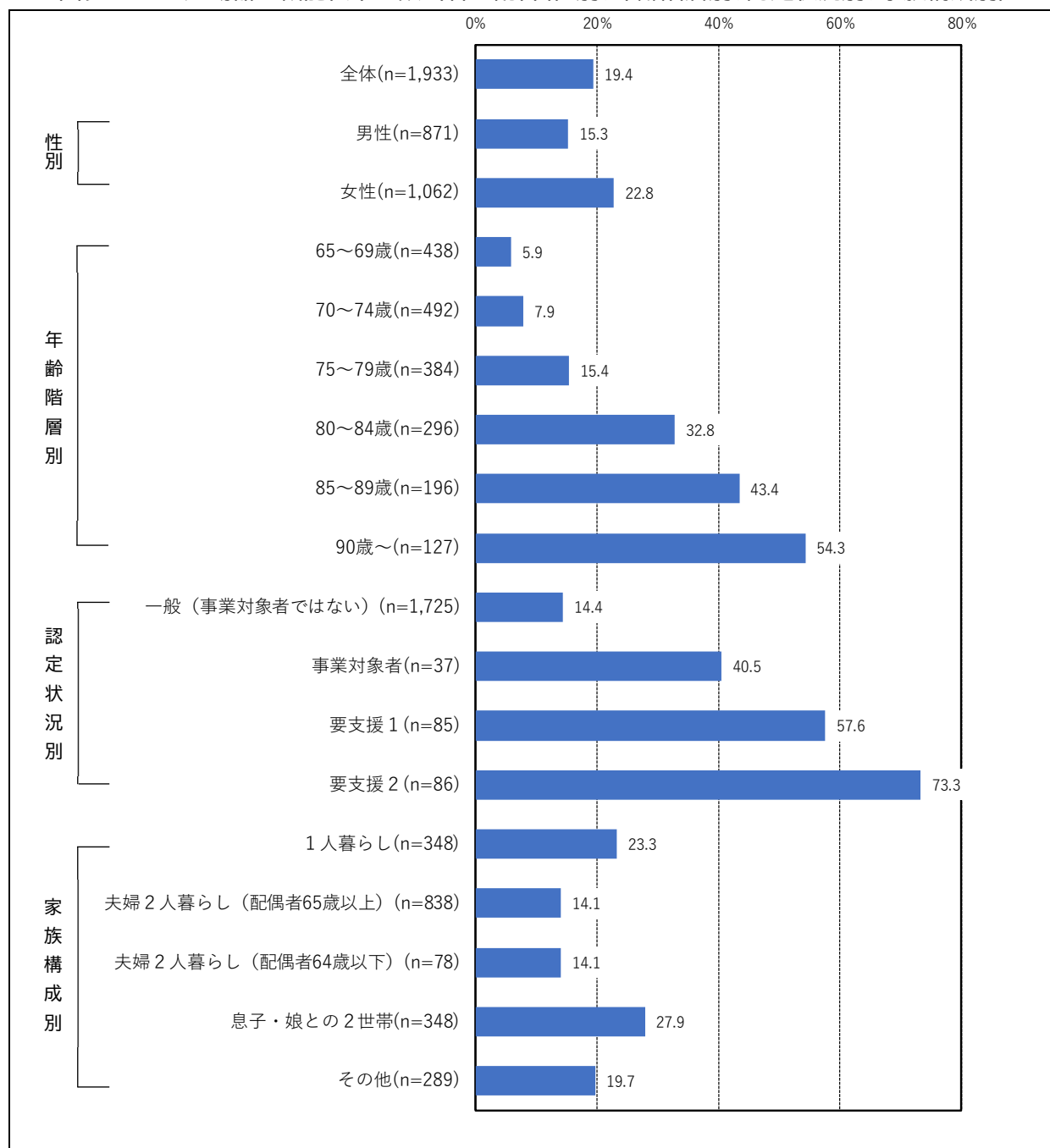
(5)口腔機能低下・・・該当:2点以上

(6)認知機能の低下・・・該当:該当選択肢を回答した場合

(7)うつ傾向・・・リスクあり: 1 点以上

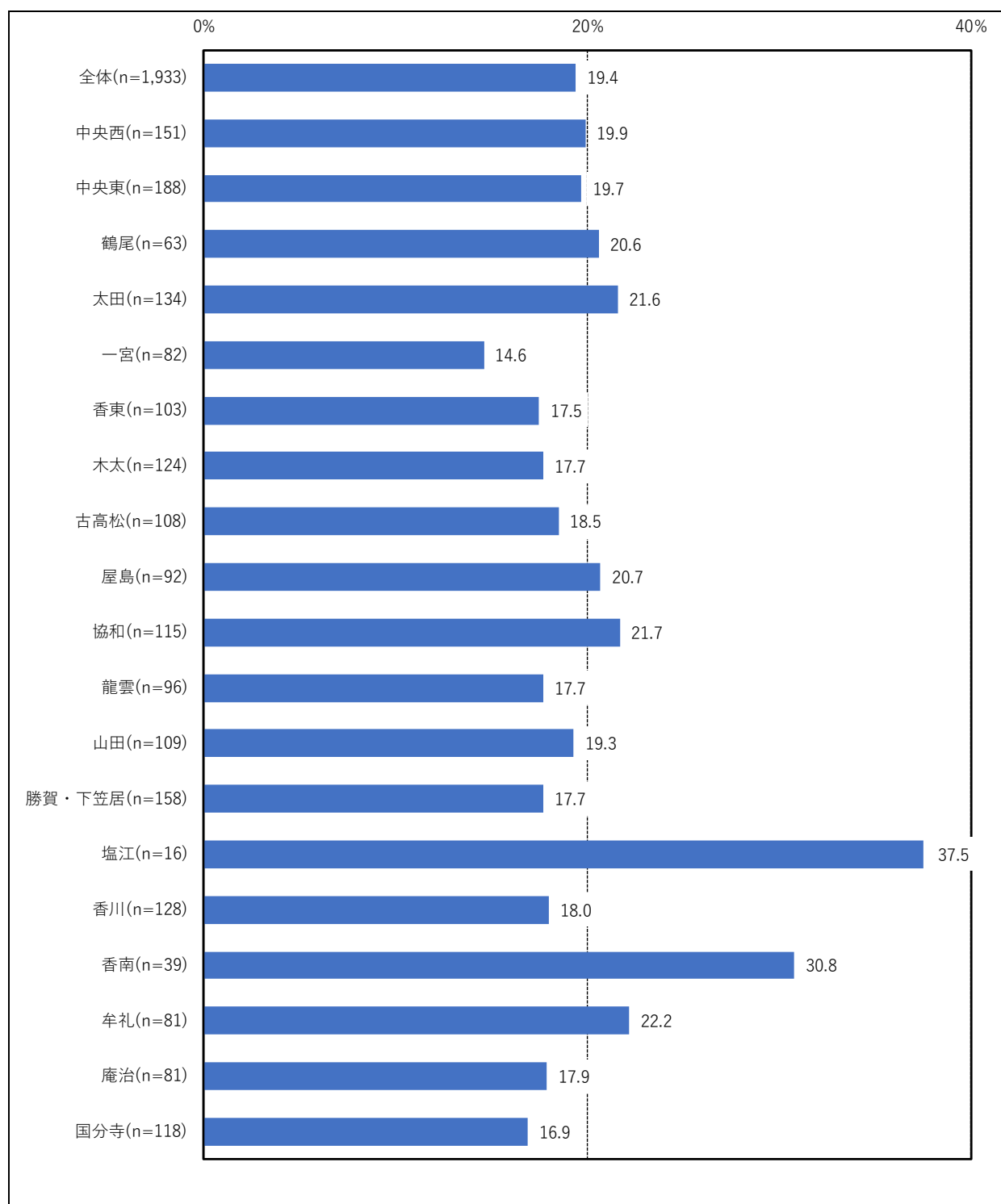
(1)運動器の機能低下

図表 310 運動器の機能低下の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 運動器の機能低下のリスク該当者の割合は、全体では19.4%となっています。
- 性別にみると女性(22.8%)が男性(15.3%)を7.5ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、該当者の割合が上昇していることがわかります。
- 認定状況別にみると、「事業対象者」は40.5%、「要支援1」は57.6%、「要支援2」は73.3%と段階的に該当者の割合が高くなっています。
- 家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下、65歳以上)」（共に14.1%）に比べて、「息子・娘との2世帯」(27.9%)、「1人暮らし」(23.3%)の該当者の割合が高くなっています。

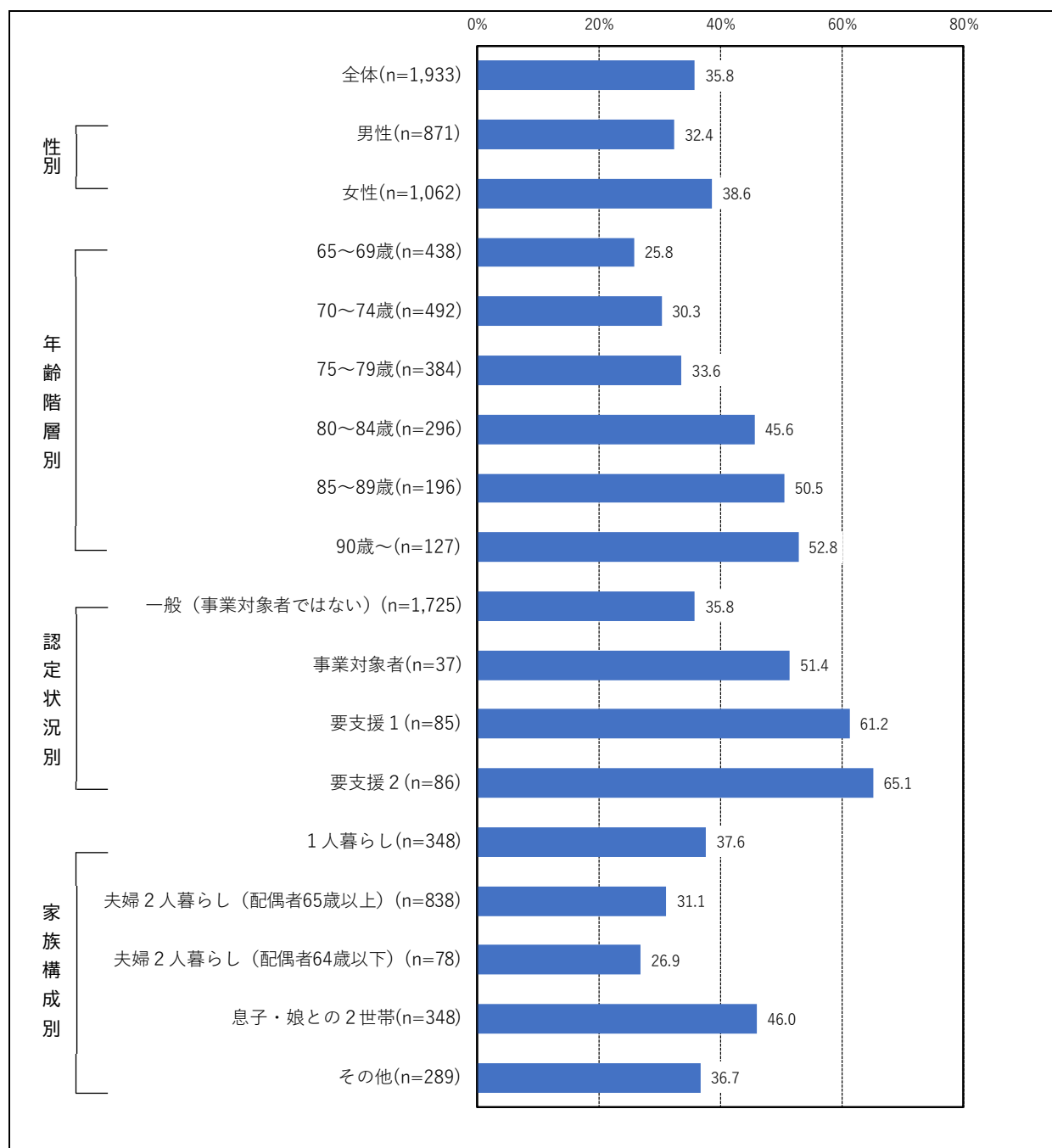
図表 311 運動器の機能の低下の該当者の割合(日常生活圏域別)



●運動器の機能低下の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「塩江」の該当者の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「香南」(30.8%)、「牟礼」(22.2%)と続いています。

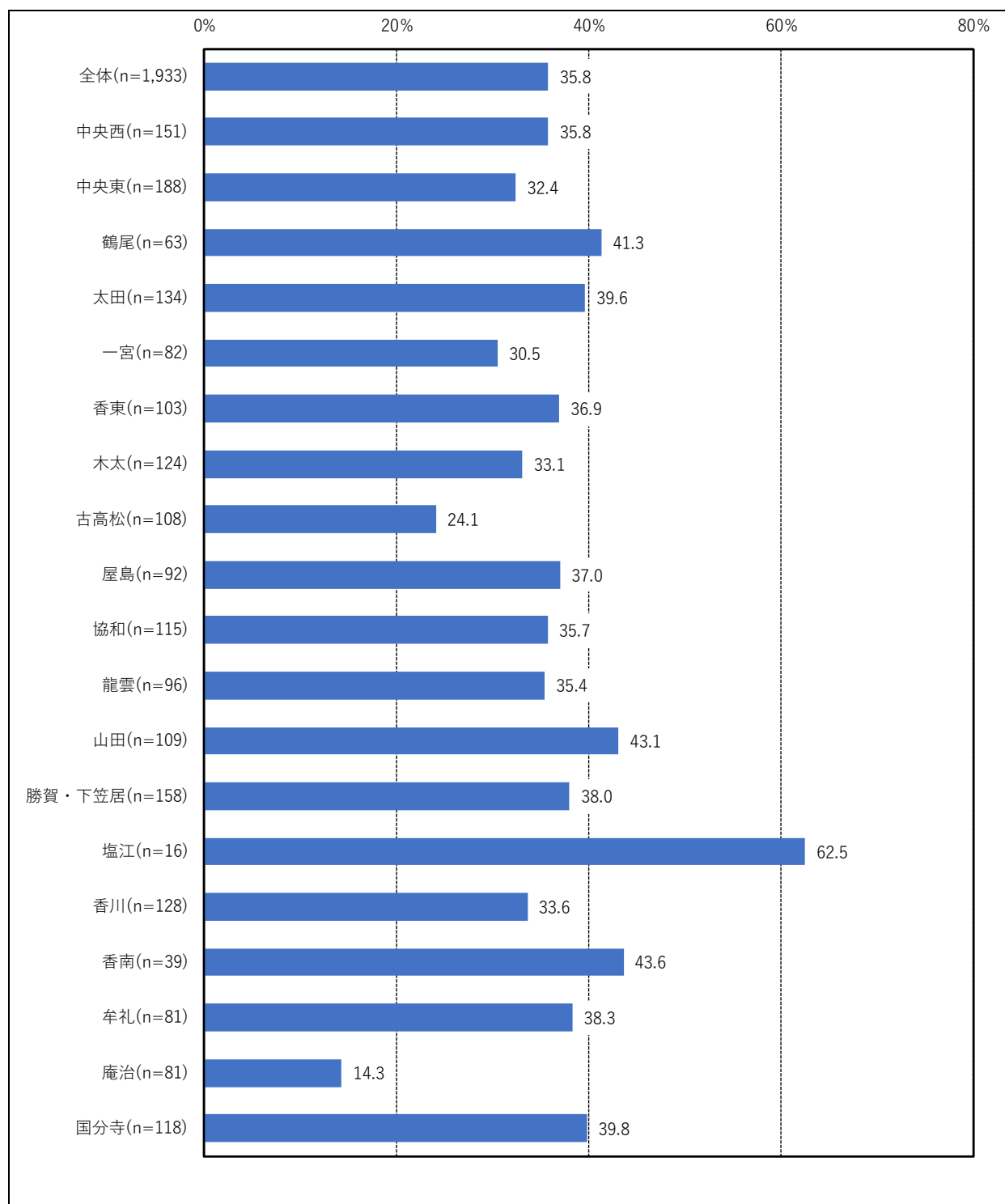
(2) 転倒リスク

図表 312 転倒リスクの該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 転倒リスク該当者の割合は、全体では 35.8%となっています。
- 性別にみると女性(38.6%)が男性(32.4%)を 6.2 ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、該当者の割合が上昇していることがわかります。
- 認定状況別にみると、「事業対象者」は 51.4%、「要支援 1」は 61.2%、「要支援 2」は 65.1%と段階的に該当者の割合が高くなっています。
- 家族構成別にみると、「息子・娘との 2 世帯」の該当者の割合が 46.0%となっており、他の家族構成に比べて高くなっています。

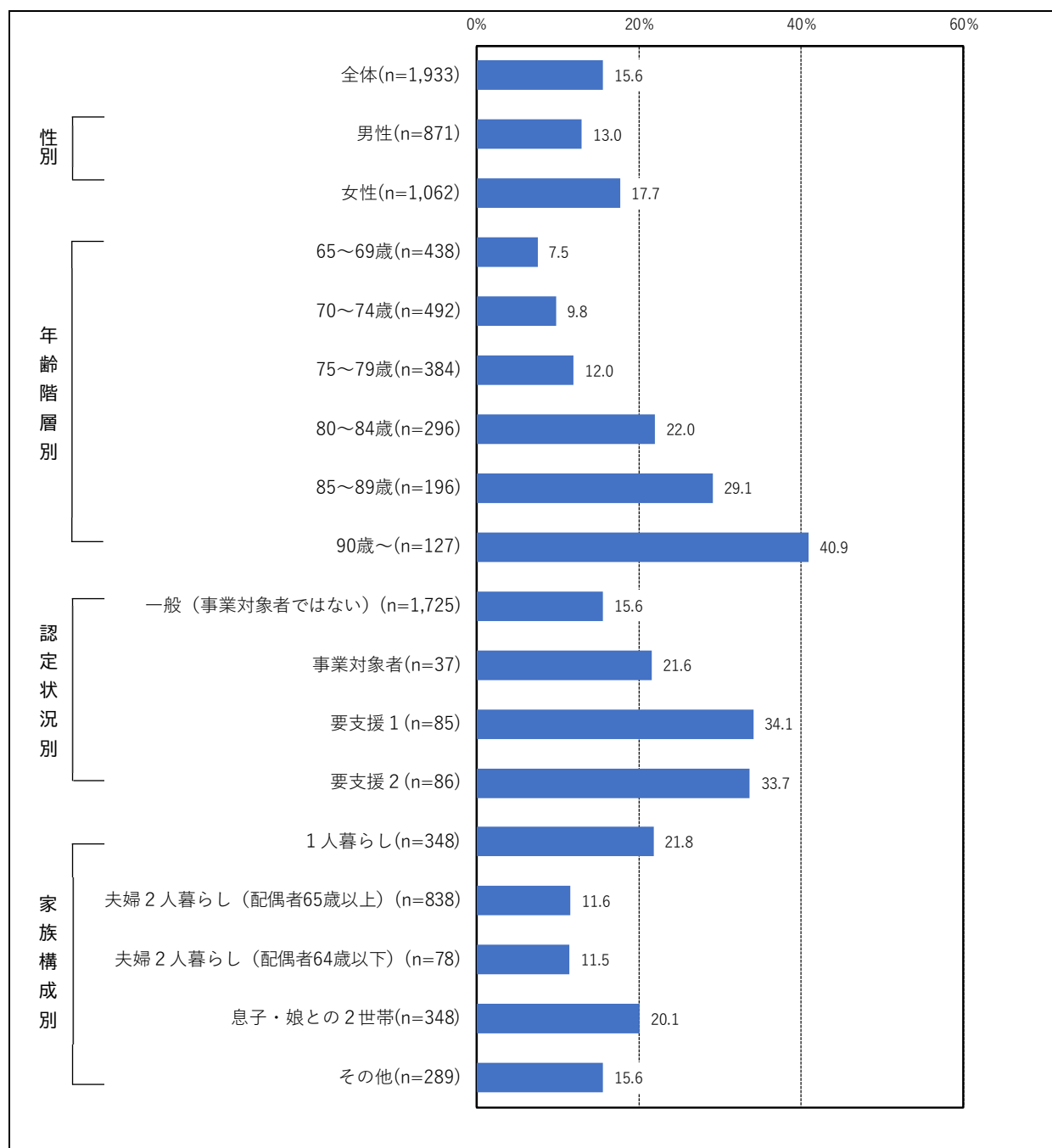
図表 313 転倒リスクの該当者の割合(日常生活圏域別)



●転倒リスクの該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「塩江」の該当者の割合が最も高く、62.5%となっています。次いで、「香南」(43.6%)、「山田」(43.1%)と続いています。

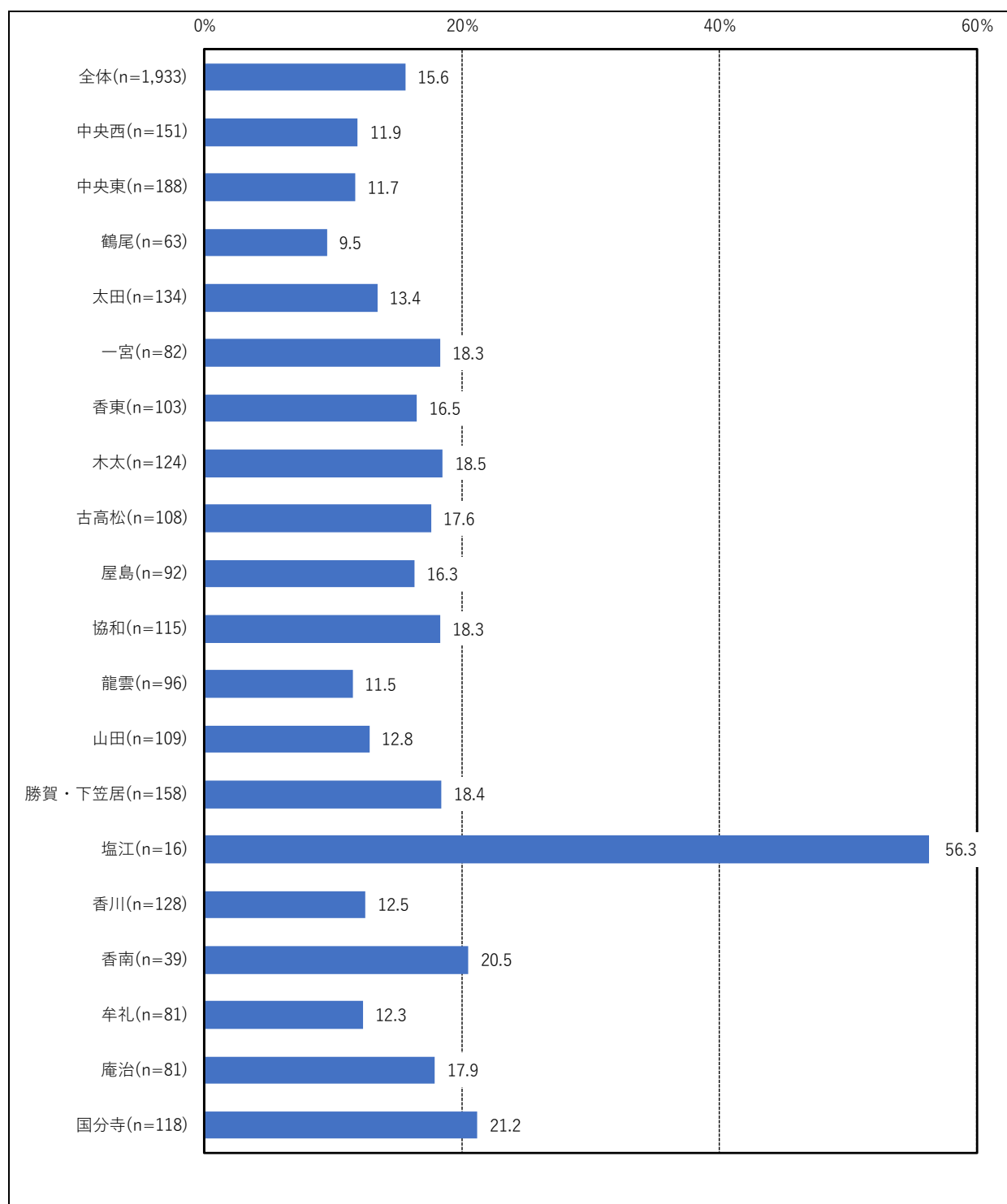
(3)閉じこもり傾向

図表 314 閉じこもり傾向の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 閉じこもり傾向の該当者の割合は、全体では15.6%となっています。
- 性別にみると女性(17.7%)が男性(13.0%)を4.7ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、該当者の割合が上昇していることがわかります。
- 認定状況別にみると、「要支援1」は34.1%、「要支援2」は33.7%となっており、事業対象者(21.6%)に比べて該当者の割合が高くなっています。
- 家族構成別にみると、「1人暮らし」は21.8%、「息子・娘との2世帯」は20.1%となっており、他の家族構成に比べて高くなっています。

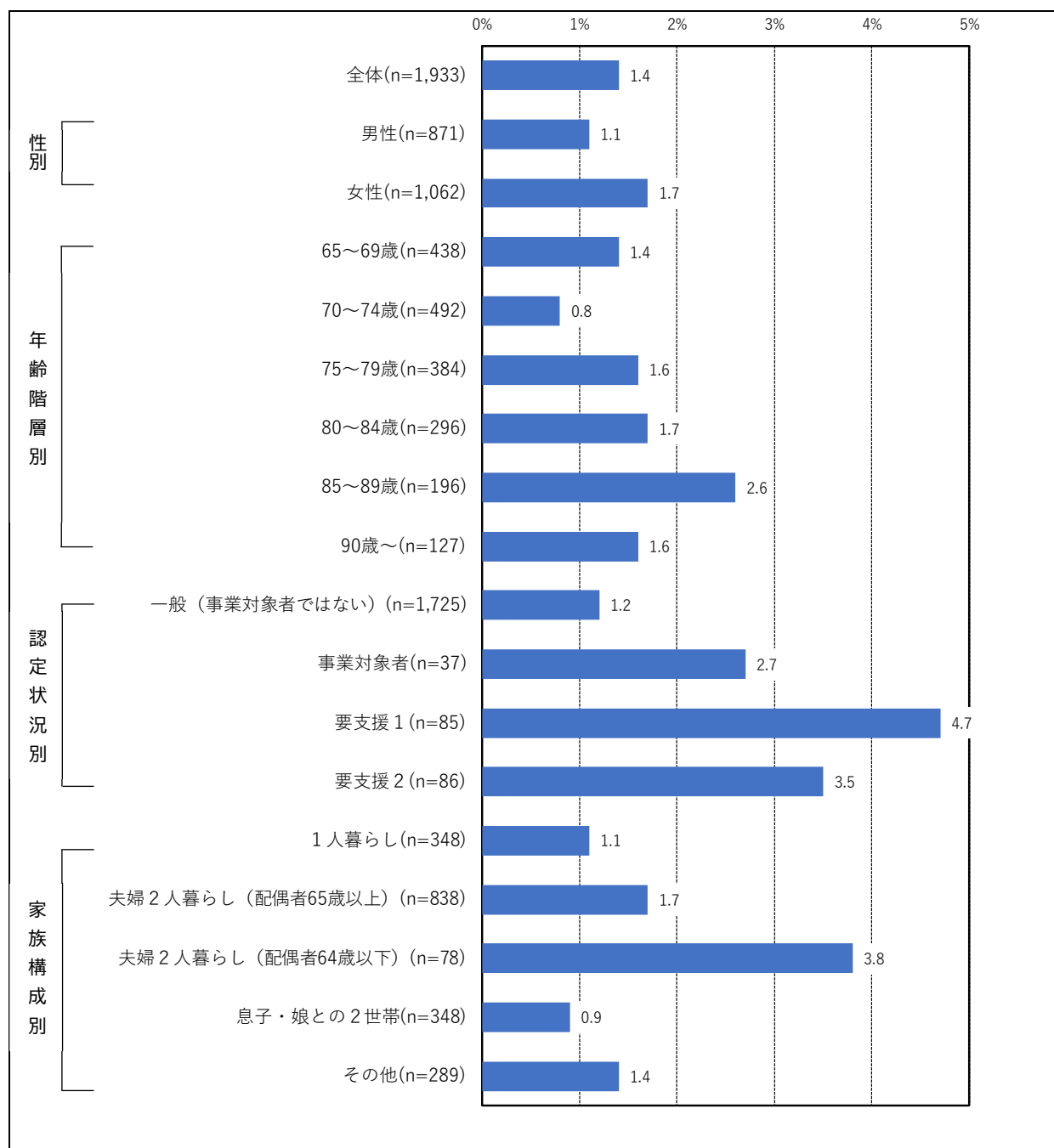
図表 315 閉じこもり傾向の該当者の割合(日常生活圏域別)



●閉じこもり傾向の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「塩江」の該当者の割合が最も高く、56.3%となっています。次いで、「国分寺」(21.2%)、「香南」(20.5%)と続いています。

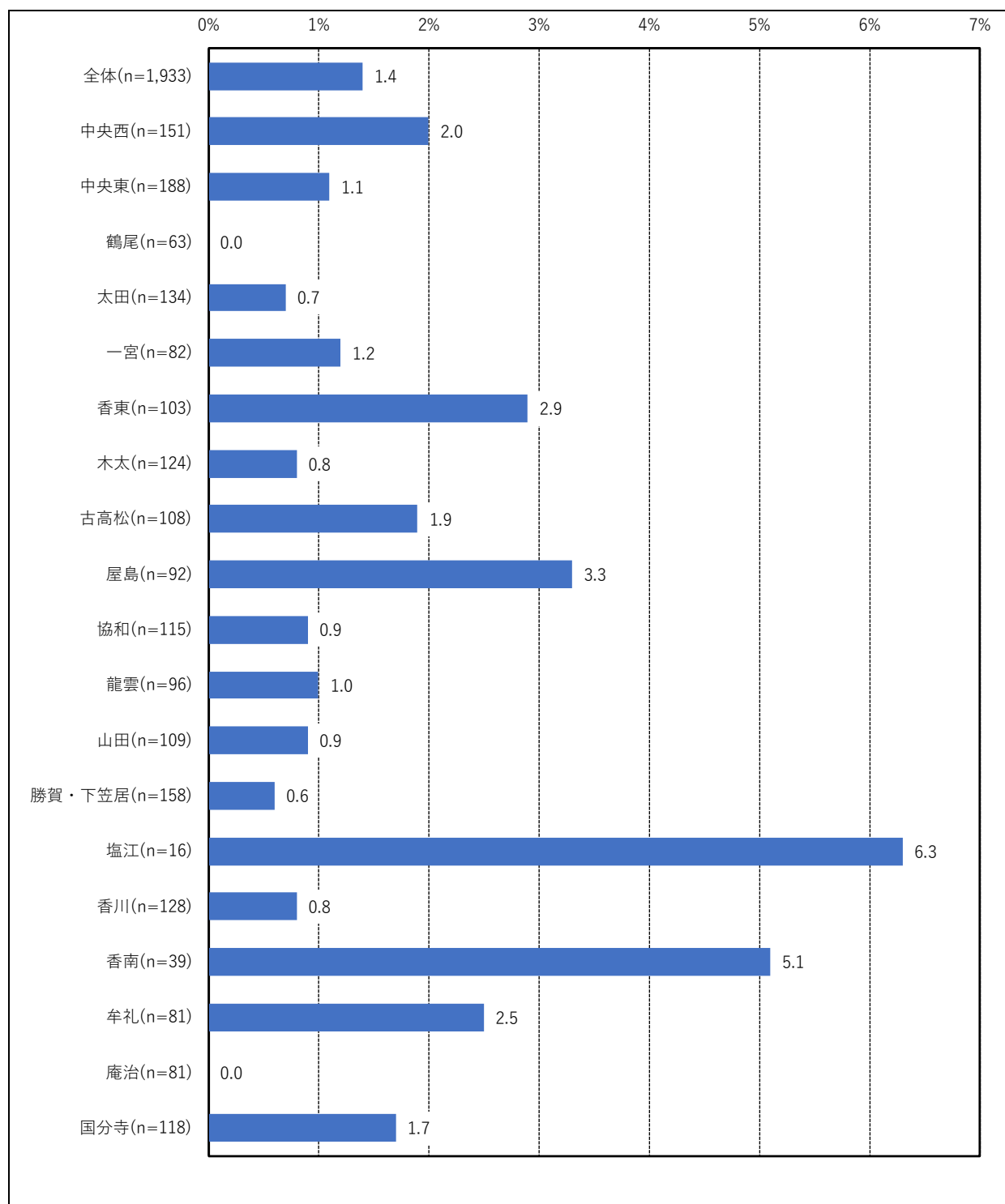
(4)低栄養の傾向

図表 316 低栄養の傾向の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 低栄養の傾向の該当者の割合は、全体では1.4%となっています。
- 性別にみると女性(1.7%)が男性(1.1%)を0.6ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、「85～89歳」の該当者の割合が最も高く、2.6%となっています。
- 認定状況別にみると、「事業対象者」(2.7%)、「要支援 1」(4.7%)及び「要支援 2」(3.5%)の該当者の割合が、相対的に高くなっています。
- 家族構成別にみると、夫婦 2人暮らし(配偶者 64 歳以下)の該当者の割合が最も高く、3.8%となっています。

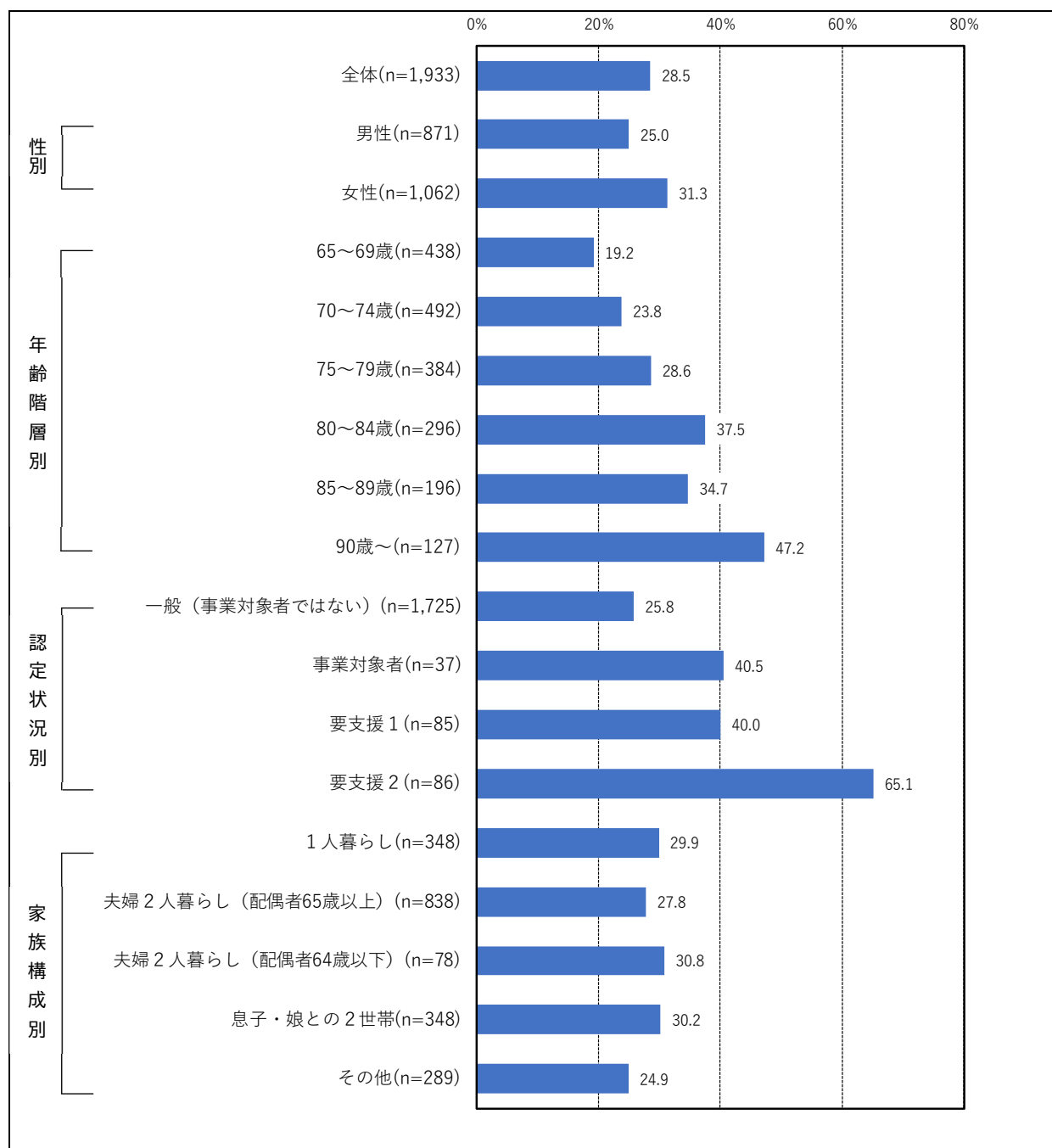
図表 317 低栄養の傾向の該当者の割合(日常生活圏域別)



●低栄養の傾向の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「塩江」の該当者の割合が最も高く、6.3%となっています。次いで、「香南」(5.1%)、「屋島」(3.3%)と続いています。

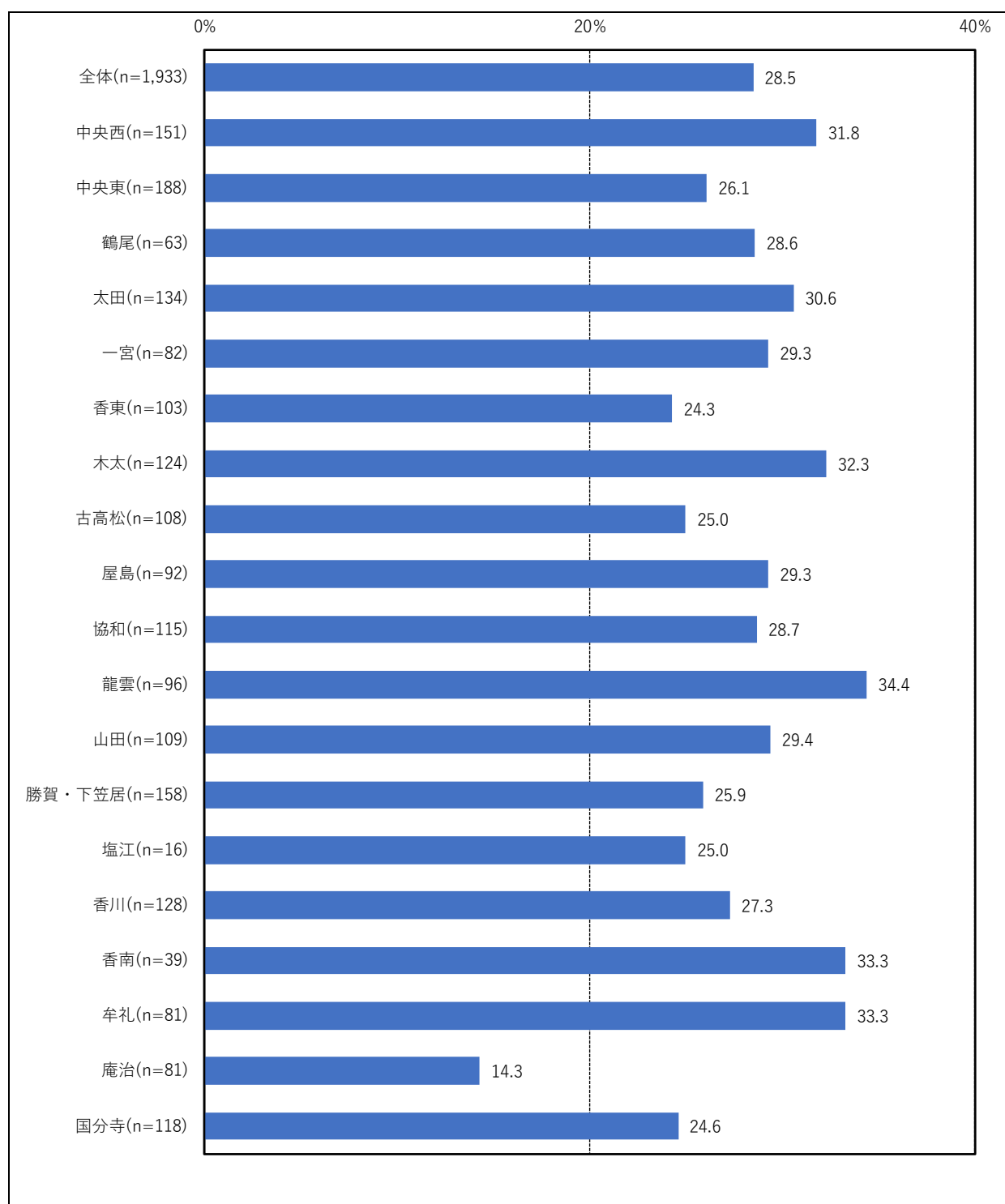
(5)口腔機能の低下

図表 318 口腔機能の低下の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 口腔機能の低下の該当者の割合は、全体では 28.5%となっています。
- 性別にみると女性(31.3%)が男性(25.0%)を 6.3 ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、「90 歳～」の該当者の割合が 47.2%となっており、その他の年齢階層に比べて高くなっています。
- 認定状況別にみると、「要支援 2」の該当者の割合は 65.1%となっており、「事業対象者」(40.5%)、「要支援 1」(40.0%)に比べて高くなっています。
- 家族構成別にみると、概ね同様の傾向にあります。

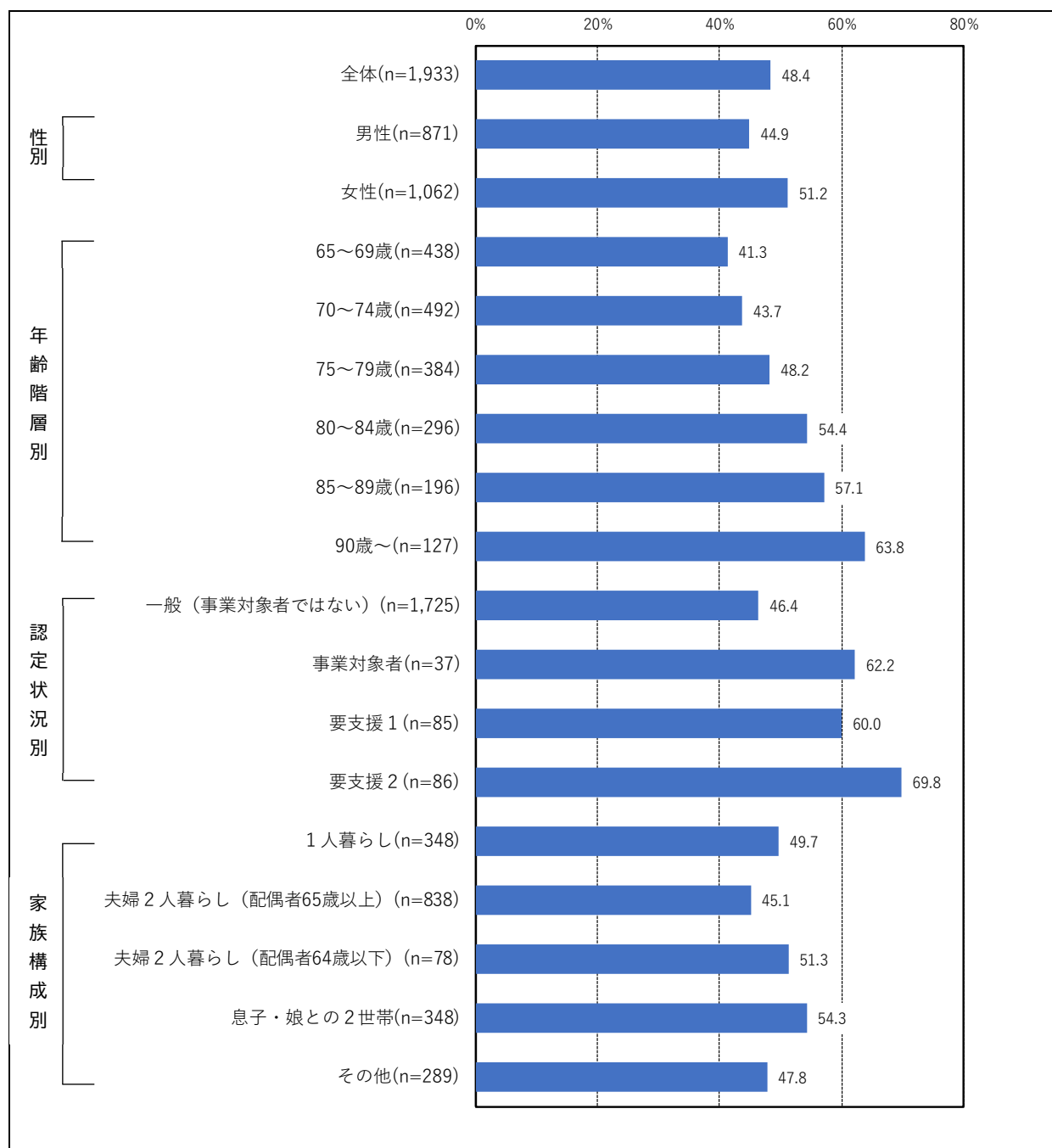
図表 319 口腔機能の低下の該当者の割合(日常生活圏域別)



●口腔機能の低下の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「龍雲」の該当者の割合が最も高く、34.4%となっています。次いで、「香南」、「牟礼」(共に 33.3%)と続いています。

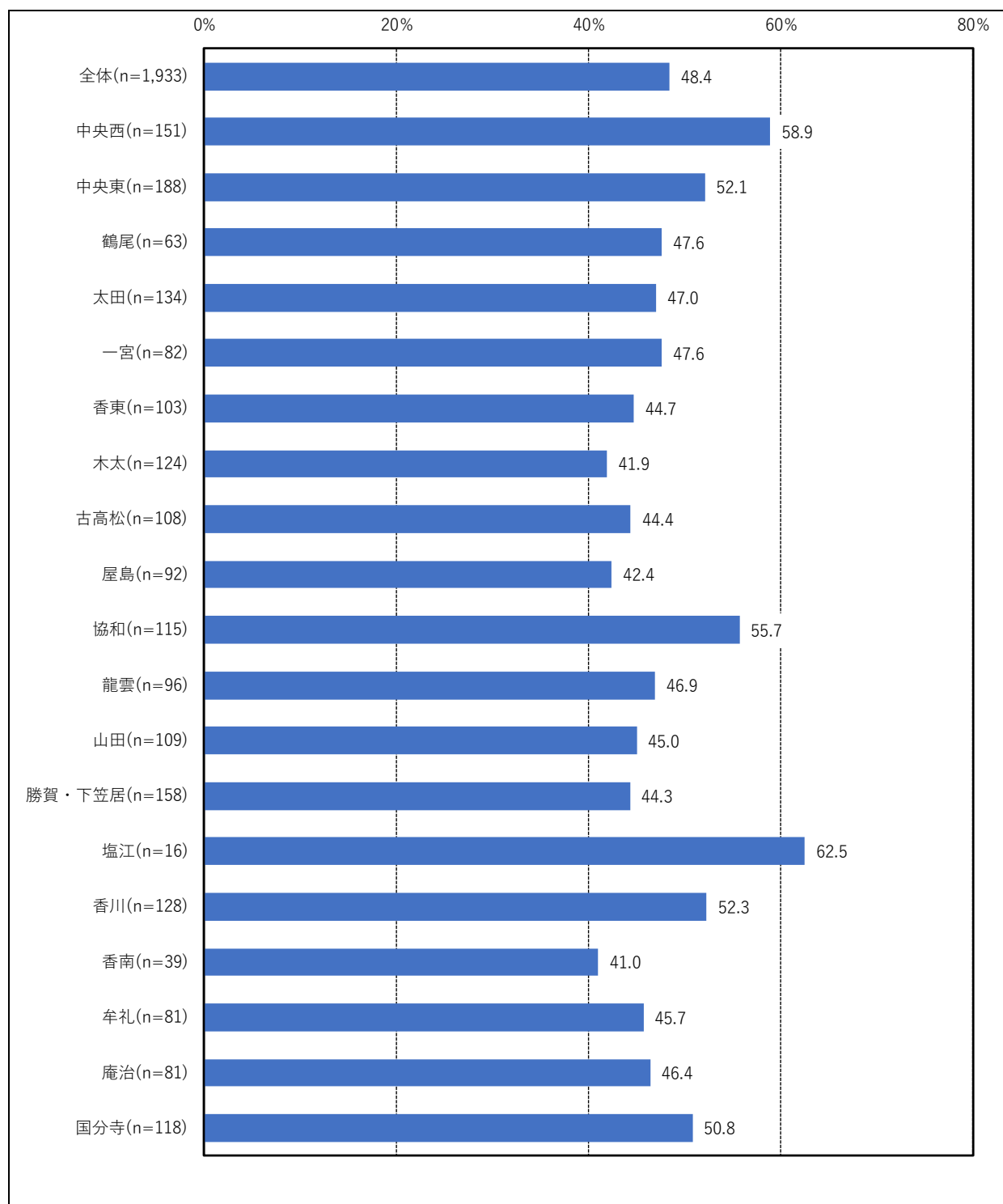
(6)認知機能の低下

図表 320 認知機能の低下の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 認知機能の低下の該当者の割合は、全体では48.4%となっています。
- 性別にみると女性(51.2%)が男性(44.9%)を6.3ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、該当者の割合が上昇していることがわかります。
- 認定状況別にみると、「要支援2」の該当者の割合は69.8%となっており、「事業対象者」(62.2%)、「要支援1」(60.0%)に比べて高くなっています。
- 家族構成別にみると、「息子・娘との2世帯」の該当者の割合が最も高く、54.3%となっています。

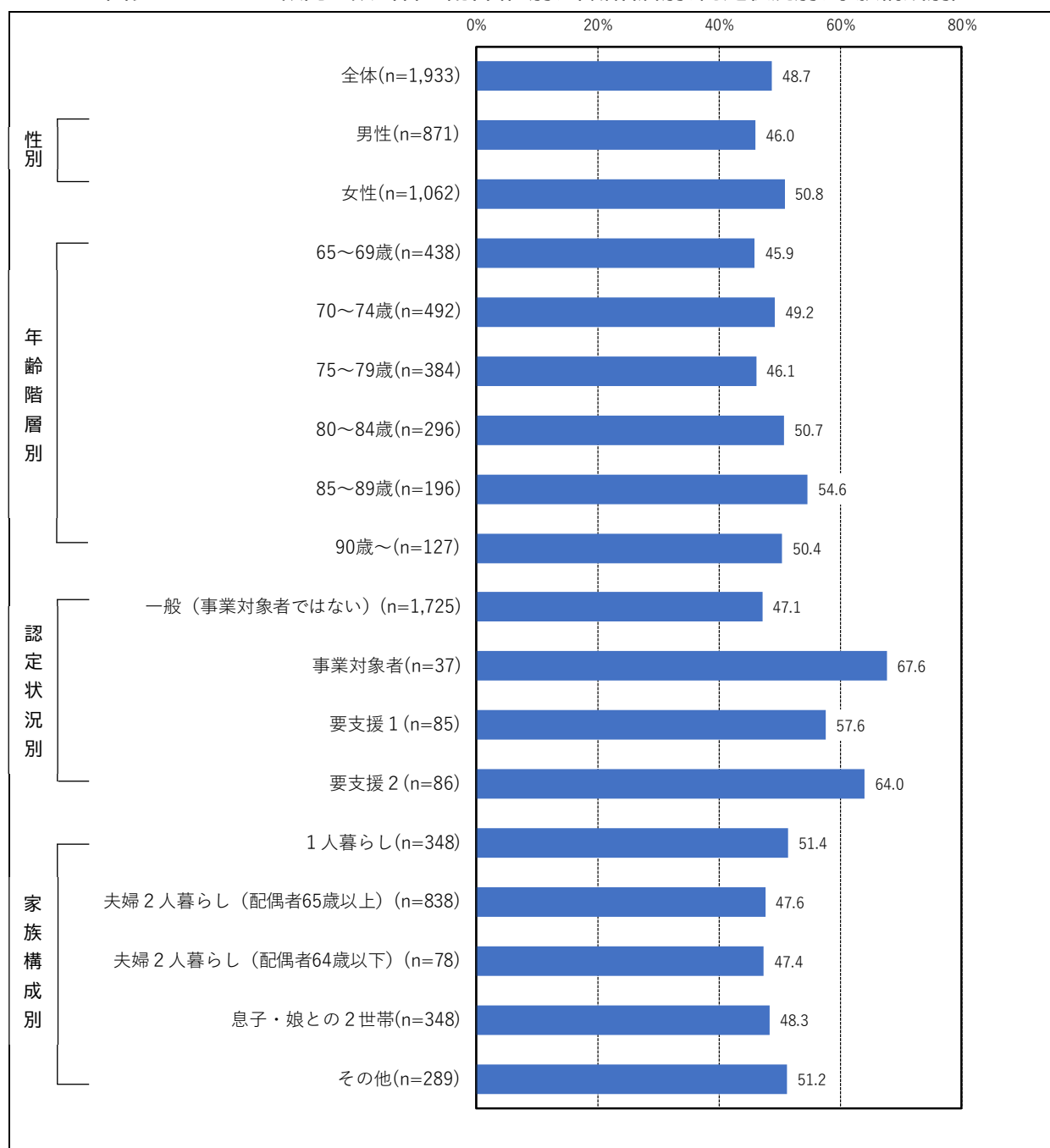
図表 321 認知機能の低下の該当者の割合(日常生活圏域別)



●認知機能の低下の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「塩江」の該当者の割合が最も高く、62.5%となっています。次いで、「中央西」(58.9%)、「協和」(55.7%)と続いています。

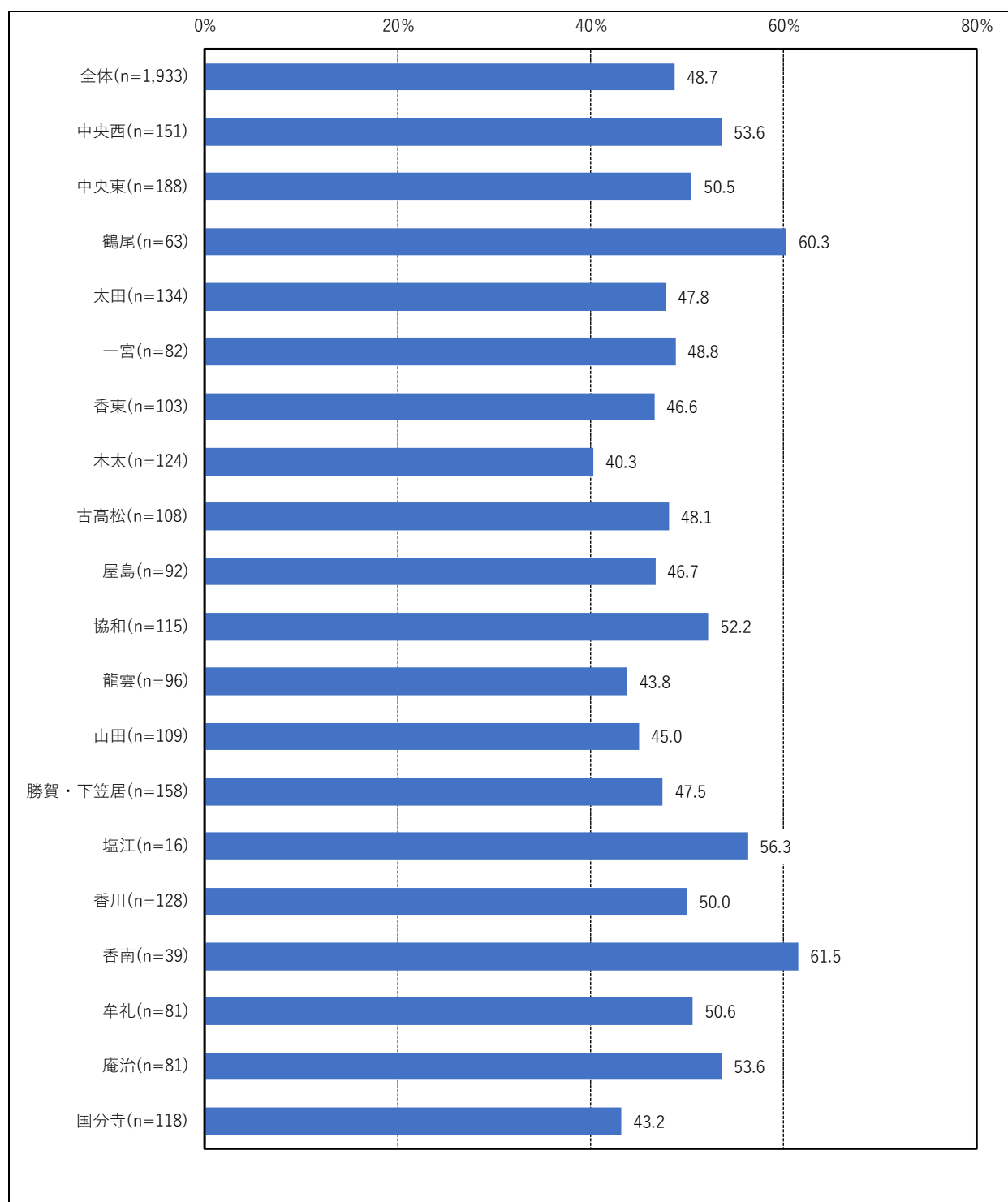
(7)うつ傾向

図表 322 うつ傾向の該当者の割合(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- うつ傾向リスクの該当者の割合は、全体では 48.7%となっています。
- 性別にみると女性(50.8%)が男性(46.0%)を 4.8 ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、「85～89 歳」の該当者の割合が最も高く、54.6%となっています。
- 認定状況別にみると、「事業対象者」の該当者の割合が最も高く、67.6%となっています。次いで「要支援 2」(64.0%)、「要支援 1」(57.6%)と続いています。
- 家族構成別にみると、「1人暮らし」(51.4%)の該当者の割合が、その他の家族構成に比べて比較的高くなっていますが、大きな差はみられません。

図表 323 うつ傾向の該当者の割合(日常生活圏域別)



●うつ傾向の該当者の割合を日常生活圏域別にみると、「香南」の該当者の割合が最も高く、61.5%となっています。次いで、「鶴尾」(60.3%)、「塩江」(56.3%)と続いています。

● 第6章 資料 判定結果 ●

・判定方法(8)～(10)まで 老研式活動能力指標

(8)IADL－手段的日常生活動作

問 NO.	質問項目	該当する選択肢
問 25	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
問 26	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 27	自分で食事の用意をしていますか	
問 28	自分で請求書の支払いをしていますか	
問 29	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

○5点:高い

○4点:やや低い

○0～3点:低い

(9)社会参加－知的能動性

問 NO.	質問項目	該当する選択肢
問 30	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」:1点
問 31	新聞を読んでいますか	
問 32	本や雑誌を読んでいますか	
問 33	健康についての記事や番組に関心がありますか	

○4点:高い

○3点:やや低い

○0～2点:低い

(10)社会参加－社会的役割

問 NO.	質問項目	該当する選択肢
問 34	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」:1点
問 35	家族や友人の相談にのっていますか	
問 36	病人を見舞うことができますか	
問 37	若い人に自分から話しかけることがありますか	

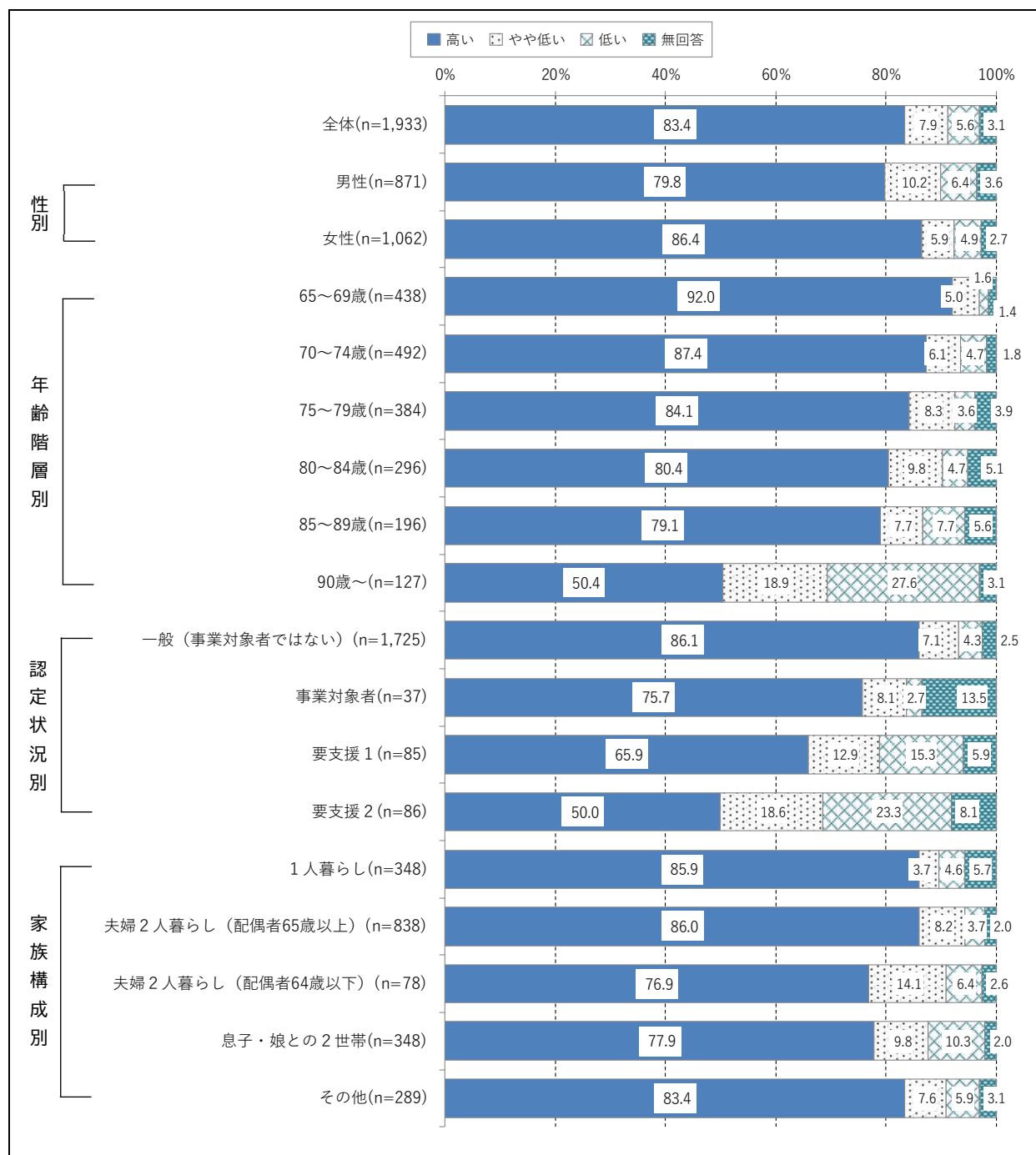
○4点:高い

○3点:やや低い

○0～2点:低い

(8)IADL－手段的日常動作

図表 324 IADL(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



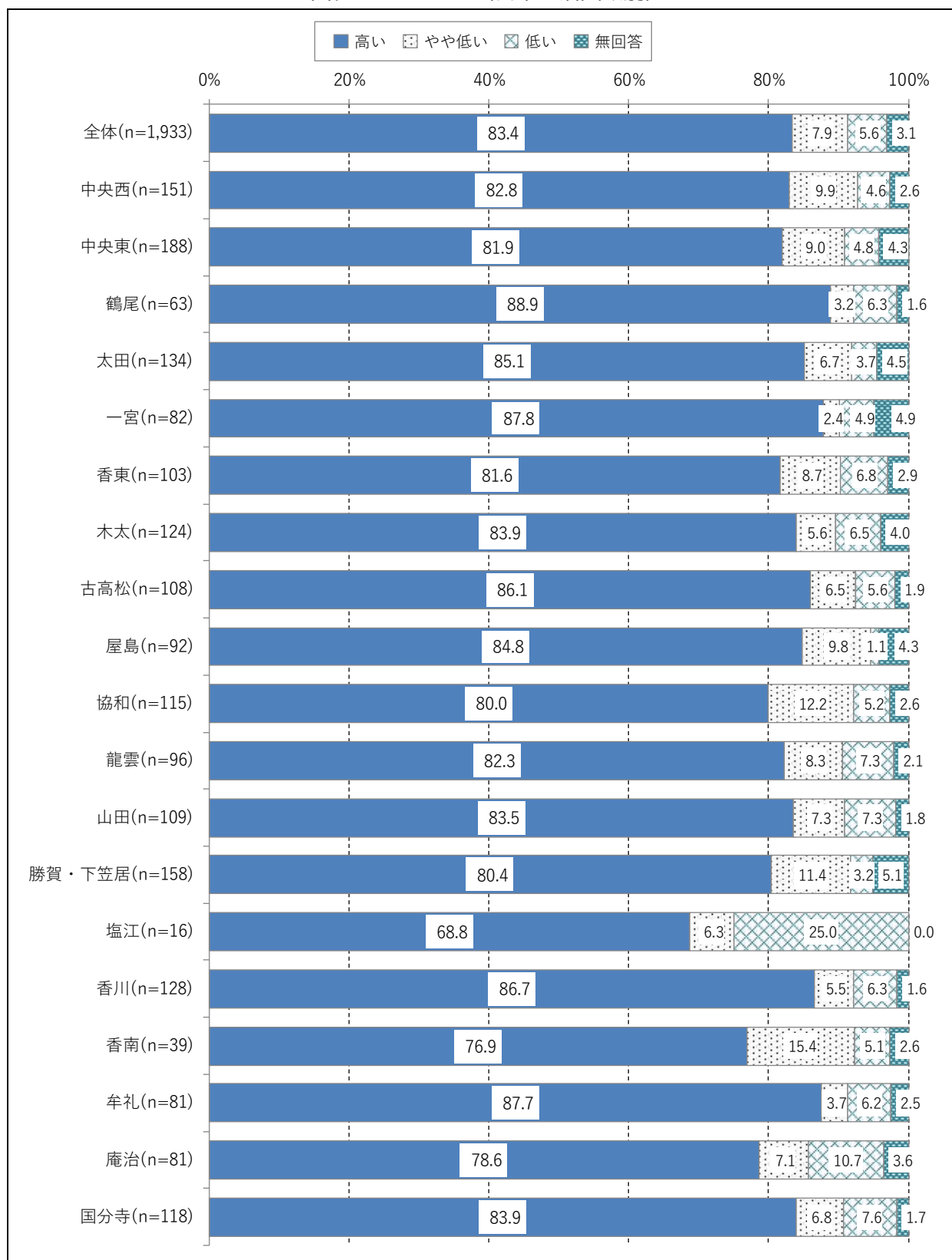
●IADLのスコアについては、全体では「高い」が83.4%となっています。

●年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、「高い」の割合が段階的に低下していることがわかります。

●認定状況別にみると、要支援度が高くなるほど「高い」の割合が低下していることがわかります。

●家族構成別にみると、「高い」の割合が、「夫婦 2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(86.0%)、「1人暮らし」(85.9%)は、その他の家族構成に比べて高くなっています。

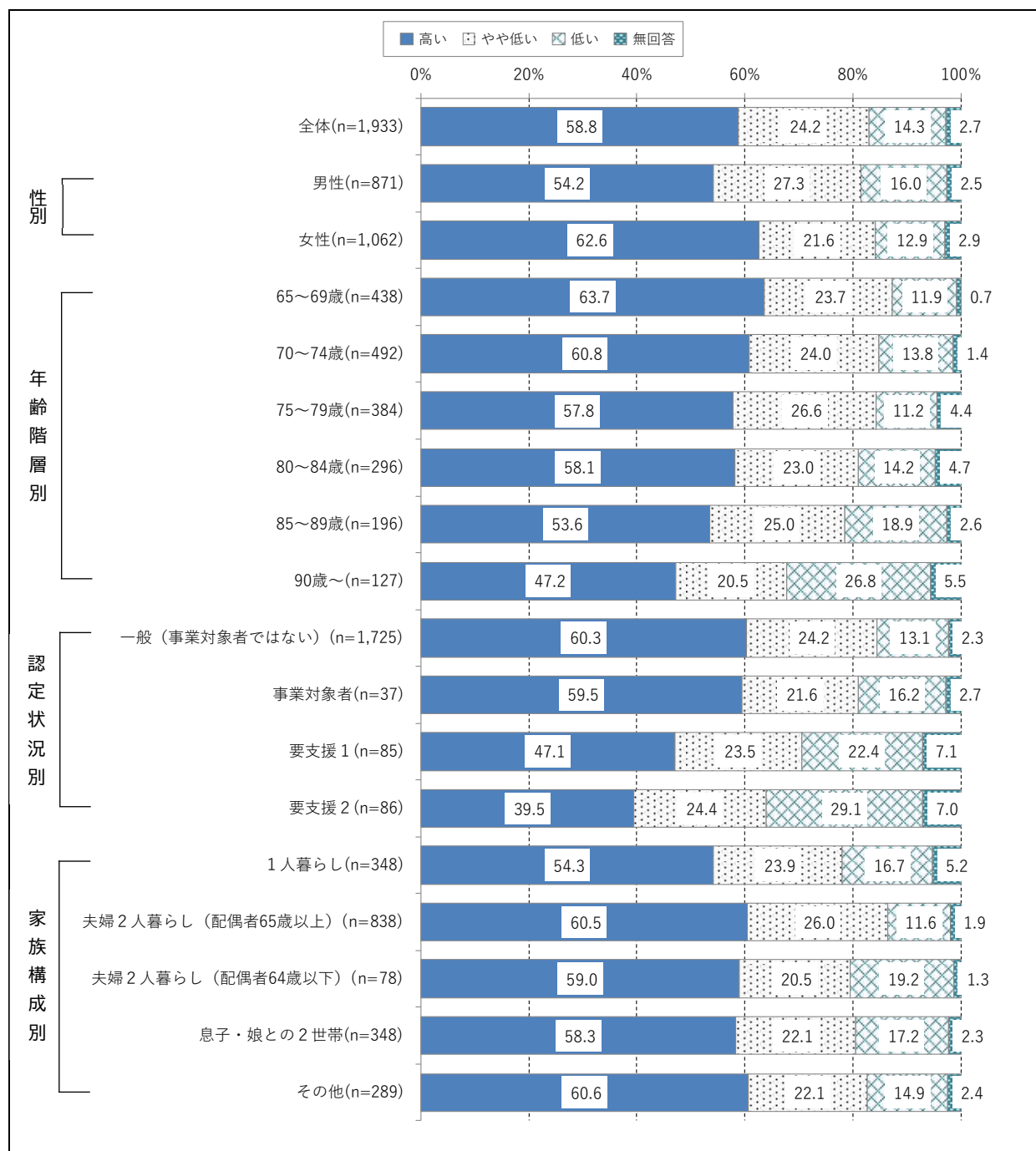
図表 325 IADL(日常生活圏域別)



- IADL を日常生活圏域別にみると、「高い」の割合は「鶴尾」で最も高く 88.9%となっています。次いで、「一宮」(87.8%)、「牟礼」(87.7%)と続いています。
- 「低い」の割合は「塩江」で最も高く、25.0%となっています。次いで、「庵治」(10.7%)、「国分寺」(7.6%)と続いています。

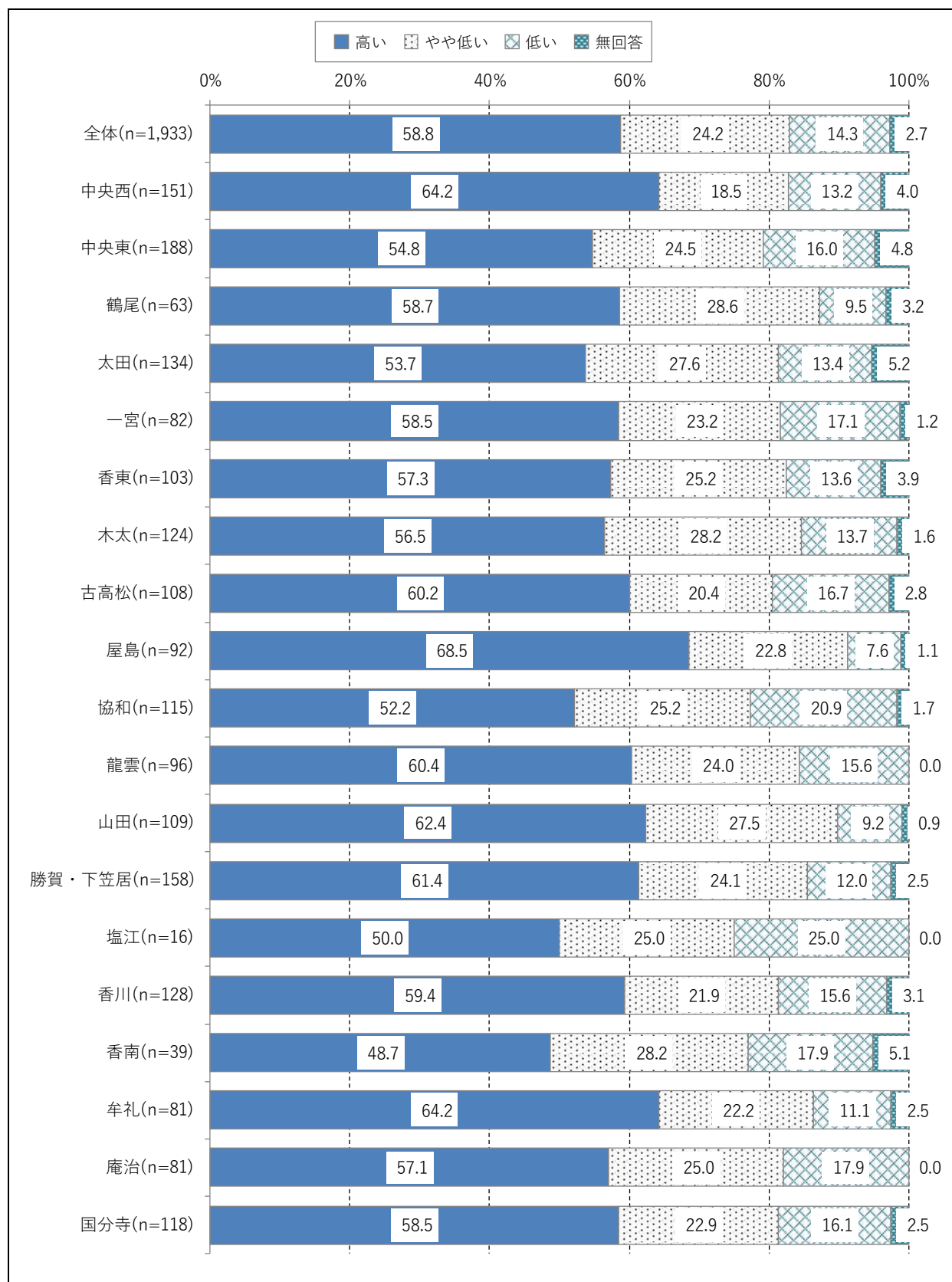
(9)社会参加－知的能動性

図表 326 社会参加-知的能動性(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 知的能動性のスコアについては、全体では「高い」が58.8%となっています。
- 年齢階層別にみると、年齢があがるにつれて、「高い」の割合が段階的に低下していることがわかります。
- 認定状況別にみると、要支援度が高くなるほど「高い」の割合が低下していることがわかります。
- 家族構成別にみると、「高い」の割合が、「1人暮らし」(54.3%)は、その他の家族構成に比べて低くなっています。

図表 327 社会参加-知的能動性(日常生活圏域別)

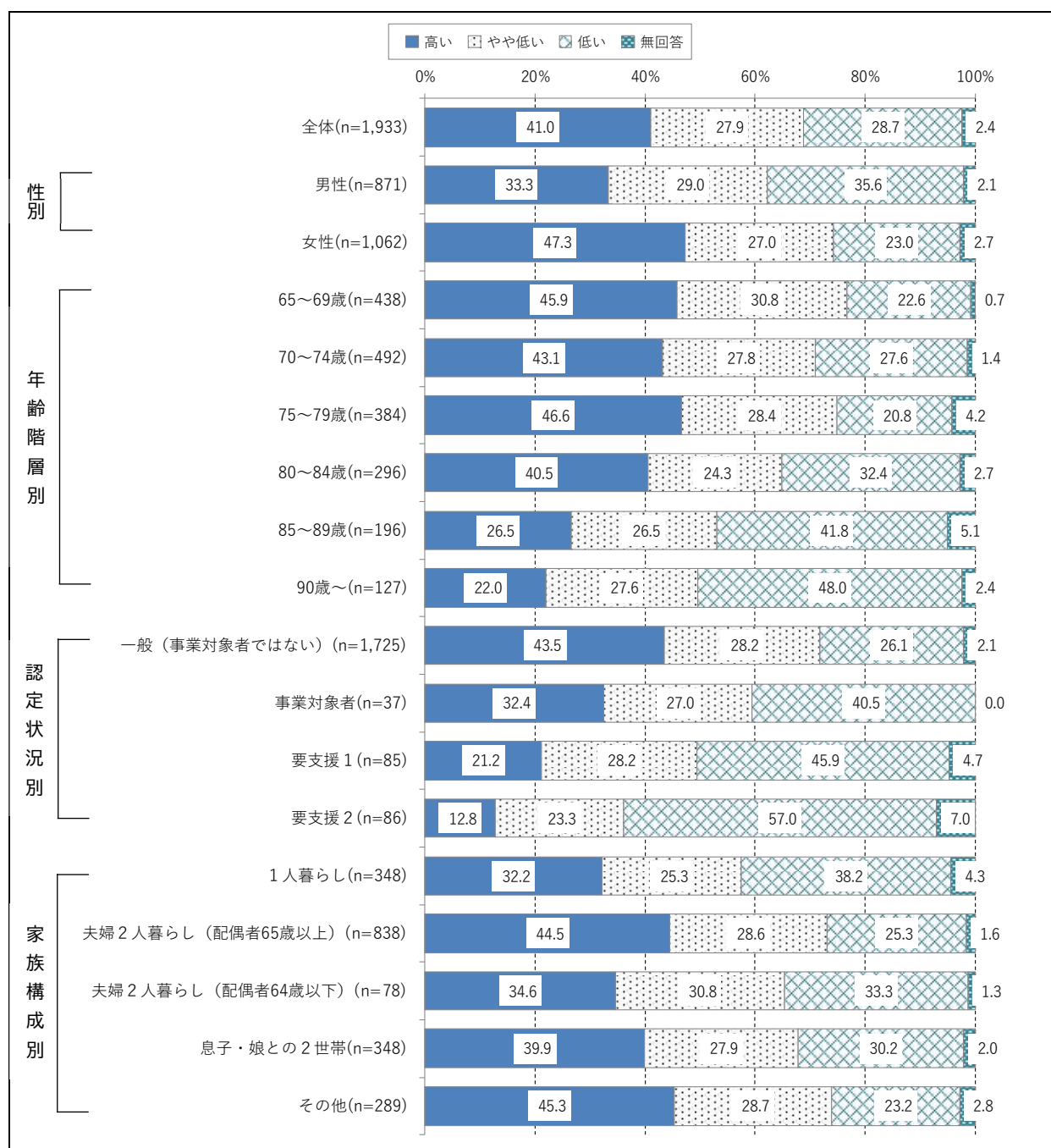


●知的能動性を日常生活圏域別にみると、「高い」の割合は「屋島」で最も高く 68.5%となっています。次いで、「牟礼」、「中央西」(共に 64.2%)と続いています。

●「低い」の割合は「塩江」で最も高く、25.0%となっています。次いで、「協和」(20.9%)、「香南」、「庵治」(共に 17.9%)と続いています。

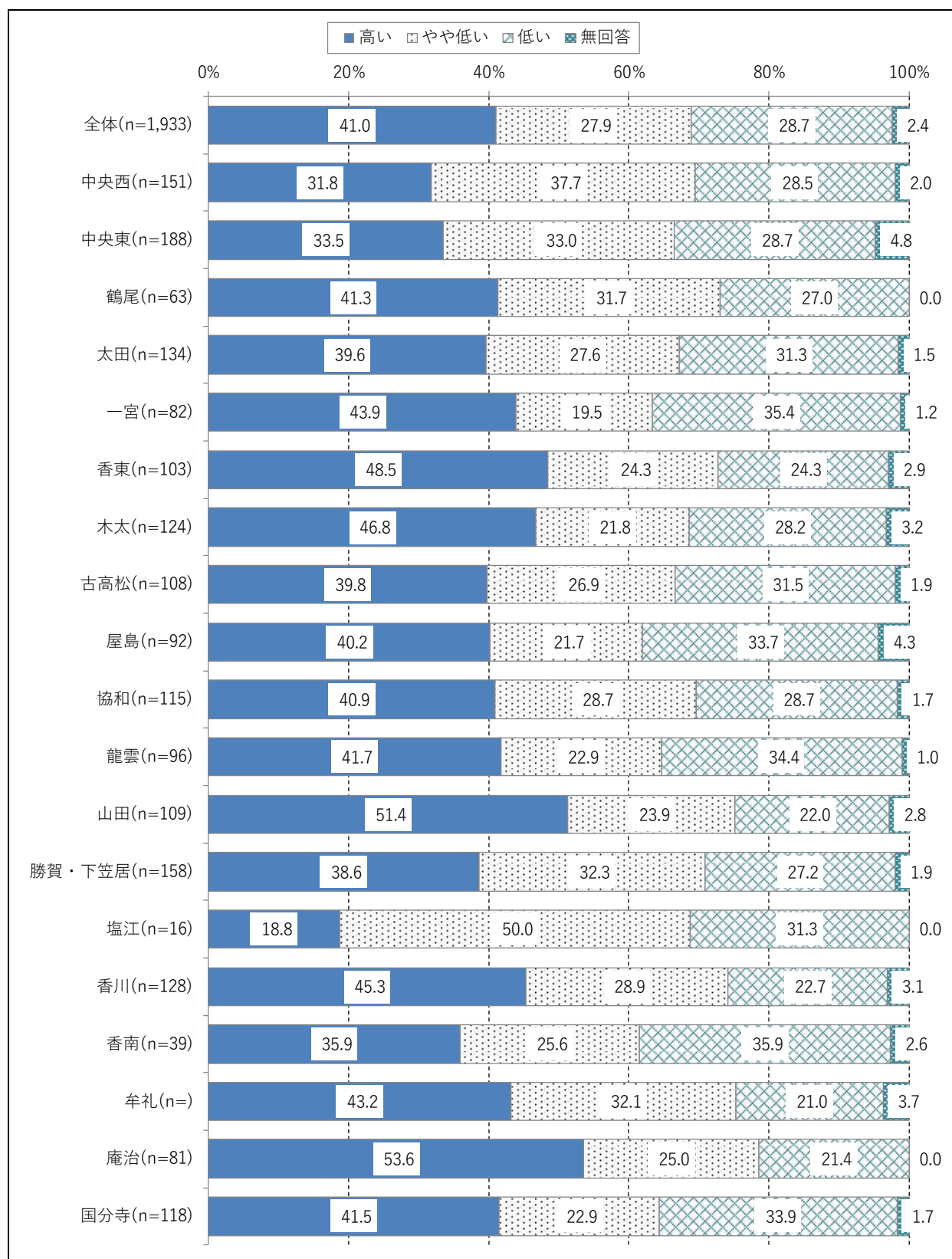
(10)社会参加－社会的役割

図表 328 社会参加-社会的役割(性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



- 社会的役割のスコアについては、全体では「高い」が41.0%となっています。
- 年齢階層別にみると、「65～79 歳」の3つの年齢階層は同様の傾向にありますが、「75～79 歳」から年齢があがるにつれて、「高い」の割合が段階的に低下していることがわかります。
- 認定状況別にみると、要支援度が高くなるほど「高い」の割合が低下していることがわかります。
- 家族構成別にみると、「高い」の割合が、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(44.5%)は、その他の家族構成に比べて高くなっています。

図表 329 社会参加-社会的役割(日常生活圏域別)



●社会的役割を日常生活圏域別にみると、「高い」の割合は「庵治」で最も高く 53.6%となっています。次いで、「山田」(51.4%)、「香東」(48.5%)と続いています。

●「低い」の割合は「香南」で最も高く、35.9%となっています。次いで、「一宮」(35.4%)、「龍雲」(34.4%)と続いています。

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査
結果報告書

令和 2 年 3 月 発行

発行 高松市

編集 高松市健康福祉局長寿福祉部長寿福祉課

〒760-8571 高松市番町一丁目 8 番 15 号

Tel 087-839-2346 / Fax 087-839-2352

ホームページ <https://www.city.takamatsu.kagawa.jp>
